

平成 2 8 年度

学 修 要 覧

東京都市大学

環境学部

環境学部学修要覧 目次

東京都市大学で学ぶこと	
学長 三木千壽	1
大学概要	2
沿革	4
学年暦	6
学則	8
関係規程等	23
環境学部	37
理念・目的	39
環境を学び、人間力の向上を目指そう	
環境学部長 吉崎真司	40
カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	42
履修要綱	44
単位について	44
授業科目について	45
履修について	45
授業時間について	49
休講について	49
ストライキ等により交通機関が運用を停止した場合 及び台風による気象警報発表時の授業措置について	50
試験について	50
成績について	51
単位修得状況や成績に関する指導について	52
3年次進級要件について	52
事例研究着手の条件について	52
卒業研究着手の条件について	52
他学科、他学部、他大学等の履修について	53
修業年限および卒業延期について	54
東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)	55
勉学の指針・教育課程表・科目概要	57
学部共通科目	59
外国語科目	
体育科目	
教養科目	
学部共通科目 教育課程表	64
学部共通科目 科目概要	66
環境創生学科	73
環境創生学科で学ぶにあたって	
環境創生学科主任教授 田中章	75
環境学部における科目区分の考え方	77
環境創生学科専門科目 教育課程表	79
環境創生学科履修モデル	81
環境創生学科履修系統図	83
環境創生学科専門科目 科目概要	85

環境マネジメント学科	105
環境マネジメント学科で学ぶにあたって	
環境マネジメント学科主任教授 小野直樹	107
環境学部における科目区分の考え方	109
環境マネジメント学科専門科目 教育課程表	111
環境マネジメント学科履修モデル	113
環境マネジメント学科履修系統図	115
環境マネジメント学科専門科目 科目概要	117
資格	137
社会調査士	139
測量士補	141
自然再生士補	145

教授要目

環境学部共通科目	147
環境創生学科 1 年次配当科目	207
環境マネジメント学科 1 年次配当科目	231
施設・学生生活・その他	247
図書館	249
情報基盤センター	253
学生生活関連	257
大学院環境情報学研究科	263
環境方針	266
教職員名簿	267
校舎配置図	272

東京都市大学で学ぶこと

学長 三木 千壽

大学で学ぶことの意義は何でしょうか。高校までは生徒と呼ばれていましたが、大学では学生に代わります。生徒と学生の違いは何でしょう。広辞苑によれば生徒は教育を受ける者、学生は大学で学ぶ者、学業を修める者、となっています。すなわち生徒は受動的に学ぶのに対して、学生は能動的に学自ら学ぶことになります。高校までは大学入試を目指して勉強してきたことでしょう。まず最初のステップとして、自分がどのような人間になりたいのか、大学で何を学びたいのか、を考えてください。大学での学習の目標は決してテストのため、良い就職をすることだけではありません。

東京都市大学の理念は「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」です。自分がどのような人材として社会発展に貢献できるのかを考えてください。都市大の前身の一つである武蔵工業大学は工業教育の理想を求める学生が創設した日本においては稀な大学です。この精神を受け継ぎ、皆さんが主体的に学ぶことを期待します。

最近大学のランキングがしばしば話題になります。大学の評価には様々な軸がありますが、都市大としては「入学時から卒業時までどれくらい能力を上げることができたか」その指標でのベストバリュー大学を目指しています。本学の伝統である実践的な専門力に加えて、教養やコミュニケーションなどの人間力のアップにも力を入れています。

都市大が輩出する人材像は、世界のどこででも活躍できるグローバルな人材です。国際人になりましょう。昨年度の入学生から都市大オーストラリアプログラム（TAP）をスタートしました。本年度は約 250 名の学生がオーストラリアのパースにあるエディスコーワン大学に 5 か月の留学をします。第一陣として出発する 120 名のうちの約半数が、留学前の準備教育で TOEIC の成績を 100 点以上アップさせてオーストラリアへ出発しました。現地での学びでどこまで成長するのか楽しみです。

都市大では教職員が一丸となって、大学としての最高レベルの教育を提供します。皆さんそれぞれの能力を最大限に伸ばすことを目標とし、皆さんからの能動により、その教育内容はますます改善されていきます。

卒業時に「よく学んだ」と言わせたいと考えています。



平成28年度 大学概要



理 念

「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」

——建学の精神“公正”“自由”“自治”を活かしながら新たな発展へ

本学は、“工業教育の理想”を求める学生たちが中心となって創設された，日本においてきわめて稀な，学生の熱意が創り上げた大学です。この建学の精神は，独立自主の思い溢れる学生たちが掲げた，夢と希望のシンボルです。東京都市大学は，この優れた精神を継承しながら，“持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究”を理念とし，新しい時代と社会の要請に応える大学へとさらなる進化を遂げていきます。

東京都市大学	TOKYO CITY UNIVERSITY UNDERGRADUATE DIVISION	入学定員	収容定員
■工学部	FACULTY OF ENGINEERING		
機械工学科	DEPARTMENT OF MECHANICAL ENGINEERING	105	420
機械システム工学科	DEPARTMENT OF MECHANICAL SYSTEMS ENGINEERING	90	360
原子力安全工学科	DEPARTMENT OF NUCLEAR SAFETY ENGINEERING	30	120
医用工学科	DEPARTMENT OF MEDICAL ENGINEERING	55	220
電気電子工学科	DEPARTMENT OF ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING	95	380
エネルギー化学科	DEPARTMENT OF CHEMISTRY AND ENERGY ENGINEERING	70	280
建築学科	DEPARTMENT OF ARCHITECTURE	100	400
都市工学科	DEPARTMENT OF URBAN AND CIVIL ENGINEERING	85	340
		630	2,520
■知識工学部	FACULTY OF KNOWLEDGE ENGINEERING		
情報科学科	DEPARTMENT OF COMPUTER SCIENCE	95	380
情報通信工学科	DEPARTMENT OF INFORMATION AND COMMUNICATION ENGINEERING	60	240
経営システム工学科	DEPARTMENT OF INDUSTRIAL AND MANAGEMENT SYSTEMS ENGINEERING	75	300
自然科学科	DEPARTMENT OF NATURAL SCIENCES	25	100
		255	1,020
■環境学部	FACULTY OF ENVIRONMENTAL STUDIES		
環境創生学科	DEPARTMENT OF RESTORATION ECOLOGY AND BUILT ENVIRONMENT	90	360
環境マネジメント学科	DEPARTMENT OF ENVIRONMENTAL MANAGEMENT	70	280
		160	640
■メディア情報学部	FACULTY OF INFORMATICS		
社会メディア学科	DEPARTMENT OF SOCIOLOGY AND MEDIA STUDIES	90	360
情報システム学科	DEPARTMENT OF INFORMATION SYSTEMS	90	360
		180	720
■都市生活学部	FACULTY OF URBAN LIFE STUDIES		
都市生活学科	DEPARTMENT OF URBAN LIFE STUDIES	150	600
■人間科学部	FACULTY OF HUMAN LIFE SCIENCES		
児童学科	DEPARTMENT OF CHILD STUDIES	100	400
		1,475	5,900

■世田谷キャンパス【工学部】【知識工学部】	
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1	
■横浜キャンパス【環境学部】【メディア情報学部】	
〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1	
■等々力キャンパス【都市生活学部】【人間科学部】	■総合研究所〔等々力キャンパス〕
〒158-8586 東京都世田谷区等々力8-9-18	〒158-0082 東京都世田谷区等々力8-15-1
	■原子力研究所〔王禅寺キャンパス〕
	〒215-0013 神奈川県川崎市麻生区王禅寺971

東京都市大学 大学院	TOKYO CITY UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL	課程	修士課程		博士後期課程	
		定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
■工学研究科	GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING		MASTER OF ENGINEERING COURSE		DOCTOR OF ENGINEERING COURSE	
機械工学専攻	MECHANICAL ENGINEERING		36	72	5	15
機械システム工学専攻	MECHANICAL SYSTEMS ENGINEERING		24	48	6	18
電気電子工学専攻	ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING		30	60	2	6
生体医工学専攻	BIOMEDICAL ENGINEERING		20	40	1	3
情報工学専攻	INFORMATION ENGINEERING		38	76	2	6
建築学専攻	ARCHITECTURE		30	60	5	15
都市工学専攻	CIVIL ENGINEERING		24	48	6	18
システム情報工学専攻	SYSTEMS INFORMATION ENGINEERING		28	56	2	6
エネルギー化学専攻	CHEMISTRY AND ENERGY ENGINEERING		16	32	3	9
共同原子力専攻	COOPERATIVE MAJOR IN NUCLEAR ENERGY		15	30	4	12
			261	522	36	108
■環境情報学研究科	GRADUATE SCHOOL OF ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES		MASTER OF ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES COURSE		DOCTOR OF ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES COURSE	
環境情報学専攻	ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES		20	40	2	6
都市生活学専攻	URBAN LIFE STUDIES		6	12		
			26	52	2	6
			287	574	38	114

付属施設等 大学	共通教育部 FACULTY OF LIBERAL ARTS AND SCIENCES	世田谷・横浜・等々力キャンパス
大学	図書館 LIBRARY	世田谷・横浜・等々力キャンパス
大学	総合研究所 ADVANCED RESEARCH LABORATORIES	等々力キャンパス
大学	情報基盤センター INFORMATION TECHNOLOGY CENTER	世田谷・横浜・等々力キャンパス
工学部	原子力研究所 ATOMIC ENERGY RESEARCH LABORATORY	王禅寺キャンパス

沿 革

東京都市大学は、昭和4年に創設された武蔵高等工科学校をその母体として発展してきたもので、その沿革は次の通りである。昭和24年に学制改革により武蔵工業大学に昇格した本学は、公正・自由・自治を建学の精神とし、実学の充実に力点を置いた教育と、実践的かつ先駆的な研究活動で、わが国の工業教育に尽瘁してきた。平成21年には東京都市大学と改称し、「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を理念とした、科学技術から生活福祉までの幅広い領域を網羅する大学として現在に至っている。

- 昭和 4年 9月 □武蔵高等工科学校として創設 □電気工学科、土木工学科、建築工学科の3学科を開設
- 昭和 5年 4月 □建築工学科を建築学科と改称
- 昭和 9年 4月 □機械工学科を増設、計4学科となる
- 昭和17年 4月 □実業学校令、専門学校令による武蔵高等工業学校を開設 □機械工学科、電気工学科、土木工学科、建築工学科の4学科を設置
- 昭和19年 4月 □武蔵工業専門学校と改称 □機械科、電気科、建築科、土木科とし、同時に電気通信科を増設、計5科となる
- 昭和24年 4月 □武蔵工業大学に昇格 □工学部機械工学科、電気工学科、建設工学科の3学科を設置 □学長に赤野正信が就任
- 昭和25年 4月 □短期大学部機械科、電気科、建設科の3科を併設
- 昭和27年 4月 □学長に荒川大太郎が就任
- 昭和29年11月 □理事長に五島慶太が就任
- 昭和30年 5月 □学長に元東京工業大学長・大阪帝国大学総長工学博士八木秀次が就任
- 同 6月 □学校法人東横学園を合併して学校法人名を五島育英会と改称
- 昭和32年 4月 □工学部に電気通信工学科を増設、建設工学科を建築工学科、土木工学科に分離し、工学部は計5学科となる
- 昭和34年 4月 □工学部に生産機械工学科、経営工学科を増設、工学部は計7学科となる
- 同 9月 □理事長に五島昇が就任
- 昭和35年 4月 □原子力研究所発足 □学長に前静岡大学長工学博士山田良之助が就任
- 同 10月 □工学部建築工学科を建築学科と改称
- 昭和39年 9月 □五島育英会々長に五島昇が就任 □理事長に唐沢俊樹が就任
- 昭和40年 4月 □工学部機械工学科と生産機械工学科を合併、新たに機械工学科とし、工学部は計6学科となる
- 昭和41年 4月 □大学院工学研究科修士課程機械工学専攻、生産機械工学専攻、電気工学専攻、建築学専攻の4専攻を開設
- 昭和42年 5月 □理事長に星野直樹が就任
- 昭和43年 3月 □短期大学部を廃止
- 同 4月 □大学院工学研究科博士後期課程機械工学専攻、生産機械工学専攻、電気工学専攻、建築学専攻の4専攻を開設
- 昭和44年 4月 □工学部電気通信工学科を電子通信工学科と改称
- 昭和47年 4月 □大学院工学研究科修士課程に土木工学専攻を増設、大学院工学研究科修士課程は計5専攻となる
- 昭和49年 3月 □理事長に曾禰益が就任
- 昭和53年 3月 □学長に東京大学名誉教授工学博士石川馨が就任
- 昭和54年10月 □創立50周年 □情報処理センター発足
- 昭和55年 6月 □理事長に五島昇が就任
- 昭和56年 4月 □大学院工学研究科博士後期課程に土木工学専攻を増設、大学院工学研究科博士後期課程は計5専攻となる □大学院工学研究科修士課程に経営工学専攻、原子力工学専攻を増設、大学院工学研究科修士課程は計7専攻となる
- 同 6月 □会長に五島昇が就任 □理事長に山田秀介が就任
- 昭和60年 4月 □工学部電気工学科を電気電子工学科と改称
- 平成元年 9月 □学長に本学教授工学博士古浜庄一が就任
- 平成 4年 4月 □水素エネルギー研究センター発足
- 平成 6年 5月 □理事長に堀江音太郎が就任
- 平成 9年 4月 □環境情報学部環境情報学科を開設、大学は計2学部となる □工学部に機械システム工学科、電子情報工学科、エネルギー基礎工学科を増設、工学部は計9学科となる □情報メディアセンター発足
- 平成10年 9月 □学長に東京大学名誉教授・埼玉大学名誉教授工学博士堀川清司が就任
- 同 10月 □環境情報学部が国際規格「環境マネジメントシステムISO 14001」の認証を取得
- 平成11年 4月 □エネルギー環境技術開発センター発足
- 平成12年 4月 □産官学交流センター発足
- 同 5月 □理事長に秋山壽が就任
- 平成13年 4月 □大学院環境情報学研究科修士課程環境情報学専攻を開設、大学院は計2研究科となる □大学院工学研究科修士課程及び博士後期課程生産機械工学専攻を機械システム工学専攻と改称

平成14年 3月	□ 1 4 号館（サクラセンター＃14（新体育館・食堂））完成
同 4月	□大学院工学研究科修士課程及び博士後期課程土木工学専攻を都市基盤工学専攻と改称，大学院工学研究科修士課程原子力工学専攻をエネルギー量子工学専攻と改称 □工学部土木工学科を都市基盤工学科，経営工学科をシステム情報工学科とそれぞれ改称 □環境情報学部情報メディア学科を増設，環境情報学部は計2学科となる □生涯学習センター発足
平成15年 4月	□大学院工学研究科博士後期課程にエネルギー量子工学専攻を増設，大学院工学研究科博士後期課程は計6専攻となる □工学部電気電子工学科を電気電子情報工学科，電子情報工学科をコンピュータ・メディア工学科，エネルギー基礎工学科を環境エネルギー工学科とそれぞれ改称
同 5月	□理事長に山口裕啓が就任
平成16年 4月	□総合研究所発足 □9号館（新図書館）完成
同 9月	□学長に本学教授工学博士中村英夫が就任
同 10月	□創立75周年
平成17年 4月	□大学院環境情報学研究科博士後期課程環境情報学専攻を開設
平成18年 4月	□大学院工学研究科修士課程経営工学専攻の学生募集を停止，修士課程及び博士後期課程にシステム情報工学専攻を開設 □大学院全専攻に博士後期課程が設置されたため修士課程の呼称を博士前期課程に変更，大学院博士後期課程及び博士前期課程は計2研究科・8専攻となる
同 8月	□4号館（新建築学科棟）完成
平成19年 4月	□知識工学部情報科学科，情報ネットワーク工学科，応用情報工学科の3学科を開設，大学は計3学部となる □工学部に生体医工学科を増設，工学部の電子通信工学科，コンピュータ・メディア工学科，システム情報工学科の学生募集を停止，電気電子情報工学科を電気電子工学科，都市基盤工学科を都市工学科とそれぞれ改称，工学部は計7学科となる
同 12月	□室蘭工業大学と包括連携協定を締結
平成20年 3月	□昭和大学，多摩美術大学と包括連携協定を締結
同 4月	□工学部に原子力安全工学科を増設，工学部は計8学科となる □工学部環境エネルギー工学科をエネルギー化学科と改称
平成21年 4月	□同一法人内の東横学園女子短期大学と統合し，大学名称を東京都市大学と改称 □都市生活学部都市生活学科，人間科学部児童学科を開設，大学は計5学部となる □大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程電気工学専攻の学生募集を停止，電気電子工学専攻，生体医工学専攻，情報工学専攻を開設，大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程は計9専攻となる □知識工学部に自然科学科を増設，応用情報工学科を経営システム工学科と改称，知識工学部は計4学科となる
同 6月	□2号館（生体医工学科棟）完成
平成22年 4月	□大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程エネルギー量子工学専攻の学生募集を停止，エネルギー化学専攻を開設，共同原子力専攻を早稲田大学と共同で開設，大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程は計10専攻となる
平成23年 4月	□大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程都市基盤工学専攻を都市工学専攻と改称 □工学部及び知識工学部の情報処理センター，環境情報学部の情報メディアセンターを改編し，情報基盤センター発足
平成23年 5月	□理事長に安達功が就任
平成24年 4月	□共通教育部を設置
平成25年 4月	□大学院環境情報学研究科に修士課程都市生活学専攻を増設，大学院博士前期課程の呼称を修士課程に変更 □環境情報学部環境情報学科及び情報メディア学科の学生募集停止，環境学部環境創生学科，環境マネジメント学科，メディア情報学部社会メディア学科，情報システム学科を新設，大学は計6学部18学科となる □工学部生体医工学科を医用工学科と改称，知識工学部情報ネットワーク工学科を情報通信工学科と改称
同 9月	□学長に東京大学名誉教授・前独立行政法人科学技術振興機構理事長 理工学博士 北澤宏一が就任
同 12月	□1号館完成
平成27年 1月	□学長に本学副学長工学博士三木千壽が就任

平成28年度 学年暦

平成28年度 前期

下表の白抜き部分が授業開講日です。

	月	火	水	木	金	土	日
4月					1	2 入学式	3
	4 オリエンテーション	5	6	7 F キャンプ	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	祝日 授業日	30	1
5月	2 振替休校	3	4	祝日 授業日	6	7	8
	9	10	11 午後:体育祭	12 体育祭	13	木曜 授業日	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	*休校 振替日
	30	31	1	2	3	4	試験 予備日
6月	6	7	8	9	10	11 横浜祭・ オープンキャンパス	12
	片付日 振替休校	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
7月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	祝日 授業日	19	20	21	22	23	*休校 振替日
	25	26	27	28	29	30	試験 予備日
8月	1	2	3	4	5	6 オープンキャンパス	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
9月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18

祝日授業日の注意

祝日だが授業を行う日があり、その振替で休校とする日があります。

祝日だが授業を実施	振替休校日
4/29(金)	5/2(月)
5/5(木)	6/13(月)
7/18(月)	9/20(火)
9/22(木)	10/28(金)
10/10(月)	10/31(月)
10/17(月)	12/24(土)
11/23(水)	1/10(火)

振替授業日の注意

5/14(土)は、木曜日開講の授業を行います。

大学	大学院	主要行事
全学		年度開始 4月1日(金)
全学		入学式 4月2日(土)
全学		前期オリエンテーション 4月4日(月)～4月6日(水)
環・メ 工・知 都・人	院環 院工 ——	学生定例健康診断 4月4日(月)～4月6日(水) 4月5日(火)～4月8日(金) 4月5日(火)～4月6日(水)
全1年	——	フレッシュヤーズ・キャンプ:休講 4月7日(木)～4月8日(金)
——	院環	前期履修登録日 4月11日(月)～4月18日(月) 確認日:履修登録時
環・メ	——	4月15日(金)～4月18日(月) 確認日:4月26日(火)～4月27日(水)
都・人	——	4月18日(月)～4月19日(火) 確認日:4月25日(月)～4月26日(火)
工・知	院工	4月19日(火)～4月21日(木) 確認日:4月28日(木)～4月29日(金)
——	全※	学位論文主題等届出締切日 環境情報学研究科:4月27日(水) 工学研究科:4月30日(土) ※対象:修士2年次・博士後5年次
全学		祝日授業日(祝日だが授業を実施) 4月29日(金) ■5/2を振替休校日とする
全学		祝日授業日(祝日だが授業を実施) 5月5日(木) ■6/13を振替休校日とする
全学		体育祭(5/12(木)は休講) 5月11日(水)午後～5月12日(木)
全学		振替授業(木曜日開講の授業を実施) 5月14日(土)
——	入試	大学院入学試験(A日程:推薦) 工学研究科:5月18日(水) 環境情報学研究科:5月21日(土)
——	入試	大学院入学試験(後学期入試:一般) 環境情報学研究科:5月21日(土) 工学研究科:7月1日(金)～7月2日(土)
全学		前期前半末試験(前期前半でクォーター開講する授業の試験) 6月2日(木)～4日(土) ※5日は試験予備日とする
全学 (横浜キャンパス)		東京都市大学横浜祭 ※6/11(土)は全キャンパス授業実施 6月11日(土)午後～6月12日(日) 6月13日(月)片付日(休校)
全学		オープンキャンパス 6月11日(土)(横浜キャンパス,等々力キャンパス) 6月12日(日)(全キャンパス)
全学		祝日授業日(祝日だが授業を実施) 7月18日(月) ■9/20を振替休校日とする
全学		前期末試験 ※31日は試験予備日とする 7月26日(火)～7月30日(土)
全学		夏期休業 8月1日(月)～9月20日(火)
全学		オープンキャンパス 8月6日(土)～8月7日(日)(全キャンパス)
全	——	転学部・転学科試験(予定) 9月6日(火)
——	入試	大学院入学試験(B日程:一般) 工学研究科:9月6日(火)～9月8日(木) 環境情報学研究科:9月7日(水)

*休校振替日

台風等で休校が発生し振替が必要な場合に、授業を行う予備日です。

人間科学部 実習

人間科学部は、以下の実習期間に応じて、別途補講などが指示されます。

実 習 種 類	学 年	期 間
保育実習(1)	保育園	3年 2016/6/13(月)～6/27(月)
	施設	3年 2016/7/1(金)～9/19(月)
保育実習(2)	保育園	4年 2016/6/20(月)～7/4(月)
保育実習(3)	施設	4年 2016/7/1(金)～9/19(月)
幼稚園:観察実習	幼稚園	2年 2017/2/6(月)～2/10(金)
幼稚園:責任実習	幼稚園	3年 2017/2/6(月)～2/24(金)
幼稚園:責任実習	幼稚園	4年 2016/9/5(月)～9/16(金)

大学	大学院	主要行事
全学		後期オリエンテーション 9月21日(水)
—	全※	学位論文主題仮提出に関するガイダンス ※対象：修士1年次 工学研究科／環境情報学研究科：9月21日(水)
全学		祝日授業日 （祝日だが授業を実施） 9月22日(木) ■10/28を振替休校日とする
—	院環	後期履修登録日 9月26日(月)～10月1日(土) 確認日：履修登録時
都・人	—	10月3日(月)～10月4日(火) 確認日：10月10日(月)～10月11日(火)
環・メ	—	10月4日(火)～10月6日(木) 確認日：10月13日(木)～10月14日(金)
工・知	院工	10月7日(金)～10月10日(月) 確認日：10月17日(月)～10月18日(火)
—	全※	学位論文主題仮提出締切日 工学研究科：10月1日(土) 環境情報学研究科：10月5日(水) ※対象：修士1年次
入試	—	AO型入学試験(2次) 10月8日(土)
全学		祝日授業日 （祝日だが授業を実施） 10月10日(月) ■10/31を振替休校日とする
全学		創立記念日 （創立記念日だが授業を実施） 10月17日(月) ■12/24を振替休校日とする
—	全※	学位請求書・学位論文等の提出に関するガイダンス 工学研究科：11月2日(水) 環境情報学研究科：11月4日(金) ※対象：修士2年次
全学 (世田谷キャンパス) (等々力キャンパス)		東京都市大学世田谷祭／等々力祭 10月28日(金)準備日(休校) 10月29日(土)(休講)～10月30日(日) 10月31日(月)片付日(休校)
入試	—	付属進学制度／編入学試験 11月12日(土)
入試	—	指定校推薦入学考査／公募推薦入学試験 11月13日(日)
全学		後期前半末試験（後期前半でクォーター開講する授業の試験） 11月15日(火)～17日(木) ※20日は試験予備日とする
全学		祝日授業日 （祝日だが授業を実施） 11月23日(水) ■1/10を振替休校日とする
—	全※	学位論文提出締切日 環境情報学研究科：11月28日(月) 工学研究科：11月30日(水) ※対象：博士後5年次
全学		冬期休業 12月26日(月)～1月6日(金)
入試	—	外国人留学生入試 1月7日(土)
入試	—	大学入試センター試験：休講 1月14日(土)～1月15日(日)
全学		学年末試験 1月25日(水)～1月31日(火)
—	全※	学位請求書・学位論文等提出締切日 ※対象：修士2年次・博士後5年次 工学研究科／環境情報学研究科：1月30日(月)
入試	—	全学統一入試／一般入試(前期) 2月1日(水)／2月2日(木)～2月4日(土)
—	入試	大学院入学試験(C日程：一般) 環境情報学研究科：2月16日(木) 工学研究科：2月20日(月)～2月22日(水)
入試	—	一般入試(後期) 2月28日(火)
全学		学位授与(博士・修士・学士)資格認定者発表日 3月11日(土)
全学		学位授与式 3月19日(日)
全学		年度終了 3月31日(金)

平成28年度 後期

下表の白抜き部分が授業開講日です。

	月	火	水	木	金	土	日
9月	19	20 振替休校	21 オリエンテーション	祝日 授業日	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
10月	3	4	5	6	7	8	9
	祝日 授業日	11	12	13	14	15	16
	17 創立記念日	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	準備日 振替休校	世田谷祭 等々力祭	
	片付日 振替休校	1	2	3	4	5	6
11月	7	8	9	10	11	12	*休校 振替日
	14	<u>15</u>	<u>16</u>	<u>17</u>	18	19	試験 予備日
	21	22	祝日 授業日	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
12月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24 振替休校	25
	26	27	28	29	30	31	1
1月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10 振替休校	11	12	13	14 センター試験	15
	16	17	18	19	20	21	*休校 振替日
	23	24	<u>25</u>	<u>26</u>	<u>27</u>	<u>28</u>	29
2月	<u>30</u>	<u>31</u>	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
3月	27	28	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	学位 授与式
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、学校教育法に基づき、豊かな教養を授け、深く専門の学術を教授研究し、もって文化の向上に寄与するとともに、人類福祉の増進に貢献することを目的とする。

(自己点検及び評価)

第1条の2 本大学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は、別に定める。

(名称)

第2条 本大学は、東京都市大学と称する。

(位置)

第3条 本大学は、東京都世田谷区玉堤1丁目28番1号に置く。

第2章 組織

(学部、学科及び収容定員)

第4条 本大学に、工学部、知識工学部、環境学部、メディア情報学部、都市生活学部及び人間科学部を置く。

2 各学部における学科及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
工 学 部	機械工学科	105	420
	機械システム工学科	90	360
	原子力安全工学科	30	120
	医用工学科	55	220
	電気電子工学科	95	380
	エネルギー化学科	70	280
	建築学科	100	400
	都市工学科	85	340
	計	630	2,520
知識工学部	情報科学科	95	380
	情報通信工学科	60	240
	経営システム工学科	75	300
	自然科学科	25	100
	計	255	1,020
環境学部	環境創生学科	90	360
	環境マネジメント学科	70	280
	計	160	640
メディア情報学部	社会メディア学科	90	360
	情報システム学科	90	360
	計	180	720
都市生活学部	都市生活学科	150	600
人間科学部	児童学科	100	400
合 計		1,475	5,900

(人材の養成及び教育研究上の目的)

第4条の2 第1条を実現するため、各学部と学科における人材の養成及び教育研究上の目的を別表6に定める。

(共通教育部)

第4条の3 本大学に、共通教育部を置く。

2 共通教育部に関する規程は、別に定める。

(大学院)

第5条 本大学に、大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

(図書館)

第6条 本大学に、図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

(学生部)

第7条 本大学に、学生部を置く。

2 学生部に関する規程は、別に定める。

(付属施設)

第8条 本大学に、以下の付属施設を置く。

(1) 総合研究所

(2) 情報基盤センター

2 工学部に、原子力研究所を置く。

3 付属施設に関する規程は、別に定める。

(付属学校)

第9条 本大学に、次の付属学校を置く。

(1) 附属高等学校

(2) 附属中学校

(3) 等々力高等学校

(4) 等々力中学校

(5) 塩尻高等学校

(6) 附属小学校

(7) 二子幼稚園

2 付属学校の学則は、別に定める。

第3章 職員

(職員組織)

第10条 本大学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員及び事務職員を置く。

- 2 前項のほか、副学長を置くことができる。
- 3 学長及び副学長に関する規程は、別に定める。
- 4 各学部、各学部に、学部長を置く。
- 5 学部長に関する規程は、別に定める。

(教員資格)

第11条 各学科の主要な学科目は、各専門分野につき資格を有する専任の教授、准教授、講師又は助教が担当する。

- 2 各学科の学科目を担当する教員の資格基準及び資格審査に関し必要な規程は、別に定める。

第4章 大学協議会及び教授会

(大学協議会)

第12条 本大学に、大学協議会を置き、学長の求めに応じ、本大学の運営に関する重要事項を審議する。

- 2 大学協議会に関する規程は、別に定める。

(教授会)

第13条 各学部に、教授会を置く。

- 2 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。
- 3 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べる。
 - (1) 当該学部における学生の入学、卒業及び学位授与に関すること。
 - (2) 当該学部における教育研究に関する重要な事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認めるもの。
- 4 教授会は、前項に規定するもののほか、当該学部の教育研究に関する事項について審議し、学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べるができる。
- 5 教授会には、准教授その他の職員を加えることができる。
- 6 教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第5章 教育課程及び履修方法

(授業科目の区分)

第14条 工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、工学基礎科目、専門科目並びに教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目に区分する。

- 2 知識工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、知識工学基盤科目、専門科目並びに教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目に区分する。
- 3 環境学部にあつては、授業科目を基礎科目(体育科目・外国語科目・教養科目)、専門基礎科目、専門科目(学科基盤科目・学科専門科目)に区分する。
- 4 メディア情報学部にあつては、授業科目を基礎科目(体育科目・外国語科目・教養科目)、専門基礎科目、専門科目(学科基盤科目・学科専門科目)、並びに教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目に区分する。
- 5 都市生活学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、専門基礎科目、専門科目に区分する。
- 6 人間科学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、専門科目並びに教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目に区分する。

(履修単位及び年限)

第15条 学生は、4年以上在学し、次の区分に従って所定の単位数以上を修得しなければならない。

工学部 機械工学科，機械システム工学科，原子力安全工学科，医用工学科，電気電子工学科，エネルギー化学科

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	2単位
外国語科目	8単位
工学基礎科目	30単位
専門科目	60単位
小 計	110単位
自由選択 ※	14単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

工学部 建築学科

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	2単位
外国語科目	8単位
工学基礎科目	30単位
専門科目	67単位
小 計	117単位
自由選択 ※	7単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して7単位以上修得しなければならない。

工学部 都市工学科

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	2単位
外国語科目	8単位
工学基礎科目	30単位
専門科目	69単位
小 計	119単位
自由選択 ※	5単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して5単位以上修得しなければならない。

知識工学部

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	2単位
外国語科目	8単位
知識工学基盤科目	30単位
専門科目	60単位
小 計	110単位
自由選択 ※	14単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

環境学部

区 分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	6 単位
	教養科目	1 0 単位
小 計		1 6 単位
専門基礎科目		3 4 単位
小 計		3 4 単位
専門科目	学科基盤科目	6 0 単位
	学科専門科目	
小 計		6 0 単位
自由選択科目 ※		1 4 単位
合 計		1 2 4 単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

体育科目の単位は、自由選択に含める。

メディア情報学部

区 分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	6 単位
	教養科目	1 0 単位
小 計		1 6 単位
専門基礎科目		2 0 単位
小 計		2 0 単位
専門科目	学科基盤科目	7 4 単位
	学科専門科目	
小 計		7 4 単位
自由選択科目 ※		1 4 単位
合 計		1 2 4 単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

体育科目の単位は、自由選択に含める。

都市生活学部

区 分	卒業要件
教養科目	1 0 単位
外国語科目	6 単位
専門基礎科目	1 6 単位
専門科目	7 8 単位
小 計	1 1 0 単位
自由選択 ※	1 4 単位
合 計	1 2 4 単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

体育科目の単位は、自由選択に含める。

人間科学部

区 分	卒業要件
教養科目	2 0 単位
外国語科目	
体育科目	
専門科目	9 0 単位
小 計	1 1 0 単位
自由選択 ※	1 4 単位
合 計	1 2 4 単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

- 2 学部の定めるところにより、他学部、他学科で開設する指定授業科目を履修したときは、当該授業科目の単位を卒業に必要な単位として認めることができる。
- 3 工学部及び知識工学部の学生は、60単位以上を修得しなければ3年次に進級することができない。
- 4 環境学部の学生は、2年以上在学し、70単位以上を修得しなければ事例研究に着手することができない。
- 5 メディア情報学部の学生は、2年以上在学し、70単位以上を修得しなければ3年次に進級することができない。
- 6 工学部及び知識工学部の学生は、3年以上在学し、100単位以上を修得しなければ4年次に進級し卒業研究に着手することができない。
- 7 都市生活学部及び人間科学部の学生は、3年以上在学し、100単位以上を修得しなければ卒業研究に着手することができない。
- 8 環境学部及びメディア情報学部の学生は、3年以上在学し、事例研究及び1・2年次の全ての必修科目を含む100単位以上を修得しなければ卒業研究に着手することができない。

(在学年数及び在学年限)

第16条 前条における、本大学での在学年数とは、本大学入学後の年数とする。

- 2 編入学、転入学又は再入学した者の在学年数は、前項の規定にかかわらず前項の在学年数に以下の年数を加えたものとする。
 - (1) 2年次入学の場合は1年
 - (2) 3年次入学の場合は2年
- 3 転学部又は転学科の場合は、転学部又は転学科の学年次にかかわらず、第1項による。
- 4 休学期間は在学年数に含めない。
- 5 在学年数は、8年を超えることができない。
- 6 工学部、知識工学部及びメディア情報学部については、2年次までの在学年数は、4年を超えることができない。

(科目の履修届出)

第17条 学生は、履修しようとする科目について、所定の届出をしなければならない。

(教育課程及び単位の計算方法)

第18条 各学部各学科の教育課程、授業科目の単位数及び授業時間数は、別表1のとおりとし、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

- 2 本条に規定する各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせ45時間とし、次の標準により計算するものとする。
 - (1) 講義及び演習は、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習、製図及び実技は、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、45時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 卒業研究は、30時間をもって1単位とするが、内容を考慮して定める。

(各授業科目の授業期間)

第18条の2 各授業科目の授業は、10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

(編入学者等の既修得単位の認定)

第19条 学生が本大学の学部編入又は転入学する前に、大学、短期大学、高等専門学校又は専修学校の専門課程において履修した授業科目について修得した単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が転学部又は転学科する前に所属した学部・学科において履修した授業科目について修得した単位を、転学部又は転学科後の学部・学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前2項の単位認定は当該学部教授会の議を経て行うものとする。

(教育職員の免許状)

第20条 教育職員免許状の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める免許状の種類及び免許教科は次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類	(教科)
工 学 部	機械工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 工業) (数学, 技術)
	機械システム工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 工業) (数学, 技術)
	原子力安全工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(理科, 工業) (理科, 技術)
	医用工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 理科) (数学, 理科)
	電気電子工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 理科, 工業) (数学, 理科, 技術)
	エネルギー化学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(理科, 工業) (理科, 技術)
	建築学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 工業) (数学, 技術)
	都市工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 工業) (数学, 技術)
知識工学部	情報科学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 情報) (数学)
	情報通信工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 情報) (数学)
	経営システム工学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 情報) (数学)
	自然科学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	(数学, 理科) (数学, 理科)
メディア情報学部	社会メディア学科	高等学校教諭一種免許状	(情報)
	情報システム学科	高等学校教諭一種免許状	(情報)
人間科学部	児童学科	幼稚園教諭一種免許状	

3 教職に関する科目, 教科に関する科目, 教科又は教職に関する科目の単位数及び授業時間数は、別表2のとおりとし、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

(学芸員の資格)

第20条の2 学芸員の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、博物館法及び同施行規則に定められている博物館に関する科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の博物館に関する科目の単位を修得するために開講する科目及びその単位数は、別表1の知識工学部自然科学科の専門科目教育課程表に定める。

3 第2項の科目の履修に関する規定は別に定める。

(保育士の資格)

第20条の3 児童学科の学生で保育士の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、児童福祉法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

第6章 学年及び休業

(学年)

第21条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第22条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月20日まで

後学期 9月21日から翌年3月31日まで

(休業日)

第23条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 創立記念日 10月17日

(4) 夏期休業日 7月26日から9月20日まで

(5) 冬期休業日 12月15日から翌年1月10日まで

2 学長は、必要に応じ当該学部教授会の議を経て、臨時に前項に定める休業日を変更し、又は別に休業日を定めることができる。

第7章 入学、休学、退学及び賞罰

(入学の時期)

第24条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第25条 本大学1年次に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) その他本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学志願の手続)

第26条 入学志願者は、指定の期間内に、入学検定料を添えて、所定の書類を提出しなければならない。

2 入学志願の手続きに関し、必要な事項は別に定める。

(入学者の選考)

第27条 入学志願者に対しては、学力、健康その他について選考の上、入学者を定める。入学者の選考に関し、必要な事項は別に定める。

(入学手続)

第28条 入学試験に合格した者は、所定の期日までに、本大学の定める入学手続きをしなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に、入学を許可する。

3 入学手続きに関し、必要な事項は別に定める。

(編入学及び転入学)

第29条 次の各号の一に該当する者が編入学又は転入学を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、入学を許可することがある。

(1) 大学（外国の大学を含む。）を卒業した者

(2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者

(3) 短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者

(4) 我が国において、外国の短期大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者（第25条に定める入学資格を有する者に限る。）

(5) 高等専門学校を卒業した者

(6) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（第25条に定める入学資格を有する者に限る。）

(7) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程に在学した者（第25条に定める入学資格を有する者に限る。）

2 他の大学（外国の大学を含む。）の在学生が、本大学への転入学を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、入学を許可することがある。

(再入学)

第30条 やむをえない事情で本大学を退学した者が再入学を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、入学を許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

(転学部又は転学科)

第31条 本大学の学生が、本大学の他学部への転学部又は同一学部内の他学科への転学科を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、これを許可することがある。

(休学)

第32条 やむを得ない理由により長期にわたって修学することができない者は、その理由を詳記した休学願を保証人連署の上、各学期の始めまでに願い出て休学の許可を得なければならない。

2 休学の期間は、原則として1学期または1学年を区分とし、当該年度限りとする。ただし、既に許可を得ている休学期間の延長を希望するときは引き続き許可するが、通算して3年を超えることはできない。

3 前2項にかかわらず、不慮の傷病等特別な事情により、連続して2ヶ月以上修学できなくなった場合、学期途中でであっても証明書類を添付して休学を願い出ることができる。

(願いによる退学)

第33条 病気その他やむをえない事情のため、学業を続ける見込みがないときは、願い出て退学することができる。

(除籍)

第34条 次の各号の一に該当する学生があるときは、学長は当該学部教授会に諮り、除籍することがある。

- (1) 所定の学費を納入しないとき。
- (2) 在学年数8年に及んでなお卒業できないとき。この場合の在学年数については第16条を準用する。

(授賞)

第35条 学生で、人物及び学業が優秀な者には授賞することがある。

(懲戒)

第36条 学生で、本大学の規則に違反し、又は学生の本分に反する行為があったときは、学長は当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。

- 2 懲戒は、譴責、停学及び退学とする。
- 3 懲戒に関し必要な規程は、別に定める。

第8章 試験及び卒業

(試験の種類)

第37条 試験を分けて、科目試験及び卒業試験とする。

(試験の方法)

第38条 科目試験は、所定の期間内に行う。ただし、平常の成績によって考査することがある。

(卒業試験)

第39条 卒業試験は、論文、設計又は実験報告等につき、その作成経過を加味して行う。

(受験資格)

第40条 学生は、本学則及びこれに基づいて定められる規程に従って履修した科目についてのみ受験することができる。

(成績の評価)

第41条 試験の成績は、原則として秀、優、良、可及び不可の5級に分け、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

(単位の授与)

第42条 科目試験に合格した者には、第18条に掲げる単位を与える。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第43条 本大学は、教育上有益と認めるときは、協議により他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で、当該学部教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第44条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることのできる単位数は、前条により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(卒業及び学位)

第45条 本大学に4年以上在学し、第15条に定める単位を修得し、かつ、卒業試験に合格した者には、当該学部教授会の議を経て、卒業証書を授与する。

2 本大学を卒業した者には、本大学学位規程の定めるところにより以下の学位を授与する。

学部 (学科)	学位
工学部	学士 (工学)
知識工学部	学士 (工学)
環境学部	学士 (環境学)
メディア情報学部 (社会メディア学科)	学士 (社会情報学)
メディア情報学部 (情報システム学科)	学士 (情報学)
都市生活学部	学士 (都市生活学)
人間科学部	学士 (児童学)

3 第1項の在学年数については、第16条を準用する。

第9章 入学検定料、入学金及び授業料

(授業料等)

第46条 入学検定料、入学金及び授業料の額は、別表3に定める。

2 授業料は、所定の期日までに納入しなければならない。

3 一旦納入した入学検定料、入学金及び授業料は返還しない。ただし、入学手続時の授業料については、所定の期日までに入学辞退の届け出があった場合は返還することがある。

4 休学中の授業料等は、別に定める東京都市大学授業料等納入規程によるものとする。

第10章 研究生、科目等履修生、外国人留学生、特別研究生及び特別聴講学生

(研究生)

第47条 本大学において研究を志望する者は、許可を得て、研究生として入学することができる。研究生は、本大学の指定する教授等の指導を受けるものとする。

(研究生の資格)

第48条 研究生は、本大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者に限る。

(研究生の在学期間)

第49条 研究生の在学期間は、半年又は1カ年とする。ただし、事情によっては期間の延長を認めることがある。

(研究生の授業料等)

第50条 研究生は、別表4に定める入学金及び授業料を納入しなければならない。

(研究生の証明書)

第51条 研究生で、研究について相当の成果を収めた者に対しては、研究証明書を授与することがある。

(科目等履修生)

第52条 本大学の授業科目中、特定の科目の履修を希望する者があるときは、科目等履修生として入学を許可することがある。

(科目等履修生の資格)

第53条 科目等履修生は、履修科目を学修し得る能力のある者に限る。

(科目等履修生の在学期間)

第54条 科目等履修生の在学期間は、1年以内とする。ただし、事情によっては、期間の延長を認めることがある。

(履修料)

第55条 科目等履修生は、別表5に定める入学検定料、入学金及び履修料を納入しなければならない。

(科目等履修生の証明書)

第56条 科目等履修生で、履修科目の試験に合格した者に対しては、第42条に定める規定を準用し、単位修得証明書を授与する。

(外国人留学生)

第57条 第25条に定める入学資格を有する外国人で、本大学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関して必要な事項については、別に定める。

(特別研究生)

第57条の2 本大学において、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議により、当該大学等の学生に特別研究生として本大学の指定する教授等の指導を受けさせることがある。

2 特別研究生に関して必要な事項については、別に定める。

(特別聴講学生)

第58条 本大学において、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議により、当該大学等の学生に特別聴講学生として本大学の授業科目を履修させることがある。

2 特別聴講学生に関して必要な事項については、別に定める。

(規定の準用)

第59条 研究生及び特別研究生については、本章に規定する場合のほか、第15条、第16条、第20条、第42条、第43条、第44条及び第45条を除き、一般学生の規定を準用する。

2 科目等履修生及び特別聴講学生については、本章に規定する場合のほか、第15条、第16条及び第45条を除き、一般学生の規定を準用する。

3 外国人留学生については、第57条に規定するもののほかは一般学生の規定を準用する。

付 則（平成28年3月17日）

この学則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成27年度以前に入学した者については、第46条第4項の変更を除き従前どおりとする（一部変更（第4条の2、第15条、第19条、第25条、第29条、第44条、第47条、第59条、第18条別表1、第20条第3項別表2）、追加（第57条の2、第4条の2別表6））。

別表 1 教育課程、授業科目の単位数及び授業時間数（学則第 18 条）

（省略：該当する学部学科の教育課程表頁を参照）

別表 2 教育職員免許状を取得するための教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目（学則第 20 条）

（省略：該当する学部学科の教職課程教育課程表頁を参照）

別表 3 入学検定料、入学金及び授業料（学則第 46 条）

科 目	学 部	金 額	備 考
入学検定料	全 学 部	35,000 円	大学入試センター試験利用の場合は, 18,000 円
入 学 金	全 学 部	270,000 円	
授 業 料	工 学 部 知 識 工 学 部	1,340,000 円	
	環 境 学 部 メディア情報学部	1,220,000 円	
	都 市 生 活 学 部 人 間 科 学 部	1,100,000 円	

別表 4 研究生の入学検定料、入学金及び授業料（学則第 50 条）

科 目	金 額
入学検定料	6,000 円
入 学 金	6,000 円
授 業 料	半期分 270,000 円

別表 5 科目等履修生の入学検定料、入学金及び履修料（学則第 55 条）

科 目	金 額
入学検定料	12,000 円
入 学 金	10,000 円
履 修 料	1 単位につき 12,000 円

別表6 人材の養成及び教育研究上の目的（学則第4条の2）

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
工学部		「理論と実践」という教育理念に基づき、現実に即した発想のもとに理論的裏付けを持った実践によって、社会の要請に対応できる技術的能力を備えた人材を養成することを目的とする。
	機械工学科	機械工学の専門知識の修得と実践的学習を通して、工業が自然や人間社会に及ぼす影響を理解しながら問題発見・問題解決をしてももの作りができる能力及び論理的な思考に基づいたコミュニケーション能力を向上させ、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。
	機械システム工学科	機械工学、電気工学、制御工学の基礎を幅広く学修し、機械システムを設計する実践的な経験を積むことにより、社会の多様な要請に応じた機械システムを構築できる技術者を養成することを目的とする。
	原子力安全工学科	原子力の技術継承という社会・産業界の要請を満たすために、原子核や原子力安全の正しい理論学修に加えて放射線を扱う実務を交えた学修によって、高度の原子力理論及び技術を手掛けることのできる専門性を有する技術者の養成を目的とする。
	医用工学科	工学的分野と医学的分野の両方の知識をバランスよく修得し、生体の機能と構造、及び、疾病病態とその治療に関する総合的な理解を深め、両分野を有機的に融合させることで生体情報機器や先端治療機器の研究開発ができる人材、さらには、医療機器の進歩に柔軟に対応できる人材の養成を目的とする。
	電気電子工学科	電気電子工学の基礎となる知識を十分に修得した上で、幅広く専門知識を身に付け、さらに学生実験や卒業研究を通して実践的な経験をつむことにより、進化する社会の中で技術者として生き抜いていく力を養い、現実に即した発想のもと電気電子分野の知識に基づく理論的裏付けを持った実践によって多彩かつ柔軟に応用できる技術者を養成することを目的とする。
	エネルギー化学科	化学・エネルギーに関連する物質、材料、デバイス及びシステムに関する理解を深めることで高度な専門知識・能力を修得し、化学的な視点に立って環境にやさしいクリーンなエネルギーの創成、変換、貯蔵及び利用に必要な高機能性物質や材料並びにデバイスやシステムの開発に貢献できる人材を養成することを目的とする。
	建築学科	科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。
	都市工学科	工学の基礎力及びシビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的問題解決能力をそなえた、社会の中核となる人材を育成すること、並びに人間—自然環境—社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて、都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できるエンジニアを養成することを目的とする。

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
知識工学部		21世紀の知識基盤社会において、高度な科学技術知識を有し、これらを総合的に活用できる人材を養成することを目的とする。
	情報科学科	情報科学に関する専門知識と応用能力を兼ね備え、技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち、世の中の要請に応えるべく、問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けているだけでなく、コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている人材を養成することを目的とする。
	情報通信工学科	情報通信分野において、通信システムを支えるネットワーク、通信機器を構成するエレクトロニクスに関する基礎技術の修得、及び演習・実験、卒業研究などの実践的学習に基づく応用技術の修得を通じて、社会に貢献できる技術者を養成することを目的とする。
	経営システム工学科	数理的分析力や情報処理能力を基盤として、複雑なシステムを分析し、その結果から解決案や新しいシステムをデザインし、それをマネジメントと新しいビジネス展開することを通じて、社会に貢献できるマネジメント能力をもった総合的技術者を養成することを目的とする。
	自然科学科	数学・物理学・化学・生物学・地球科学・天文学といった自然科学に関する幅広い知識の涵養により、総合的な見識と判断力を醸成し、自然科学の学術的発展に寄与する調査分析能力を身につけ、科学と社会の架け橋となって人類の持続可能な進歩や福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。
環境学部		地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、持続可能な自然環境や都市環境を創造し、経済システムを環境調和型に転換することによって、持続可能な社会の実現に寄与することができる人材の養成を目的とする。
	環境創生学科	持続可能な社会の基盤である生態環境と都市環境並びにそれらの相互関係性を理解するとともに、劣化した自然環境の保全・復元・創造や人間社会にとって快適で安全な都市空間創造についての理念と方法論を修得し、実社会において持続的な環境を創生する専門家として活躍する人材の養成を目的とする。
	環境マネジメント学科	直面する環境問題は、地球温暖化、廃棄物問題と循環型社会づくり、化学物質の環境リスク、大気と水の保全、生物多様性の減少など、人間の日常生活と事業活動が原因で発生している。このような環境問題に対処するために、環境経営と環境政策を基軸とする教育と研究を推進し、持続可能な社会に向けた意思決定を行うことができる人材を養成することを目的とする。
メディア情報学部		人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解し、より良い社会実現に向け、社会的仕組みや情報システムを調査・分析・実現、評価・改善できる人材を養成することを目的とする。
	社会メディア学科	グローバルな諸問題から身近なコミュニケーション問題までを、社会科学的視点から調査分析し、情報メディアを駆使した解決法を編み出し、社会に向けて説得的に提言できる人材、そのために必要な実践力・リサーチ力、デザイン力、コミュニケーション力-を備えた人材を養成することを目的とする。
	情報システム学科	人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として、多様なニーズに応える安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組むことで、優れたシステムを作り上げるとともに、その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の養成を目的とする。
都市生活学部	都市生活学科	魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ、その実現のため事業推進、管理運営を行っていく、企画・実行業務を担う実践力のある人材を養成することを目的とする。
人間科学部	児童学科	いのちを大切にし、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目的とする。

1. 東京都市大学 学位規程

制 定 昭和41年4月 1日

最新改正 平成28年2月15日

東京都市大学 学位規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東京都市大学（以下「本学」という。）において授与する学位の種類、論文・特定課題研究報告書審査の方法、最終試験及び学力の確認の方法、その他学位に関し必要な事項を定めるものである。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とし、その種類は次のとおりとする。

- (1) 学士（工学）
- (2) 学士（環境学）
- (3) 学士（社会情報学）
- (4) 学士（情報学）
- (5) 学士（都市生活学）
- (6) 学士（児童学）
- (7) 修士（工学）
- (8) 修士（理学）
- (9) 修士（環境情報学）
- (10) 修士（都市生活学）
- (11) 博士（工学）
- (12) 博士（理学）
- (13) 博士（環境情報学）

(学位授与の基準)

第3条 学士の学位は、本学所定の課程を修め、本学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、広い視野に立って、精深な学識を修め、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を有する者に授与する。

3 博士の学位は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する者に授与する。

(学位授与の要件)

第4条 学士の学位は、本学に4年以上在学し、東京都市大学学則で定める単位を修得し、かつ、卒業試験に合格し、当該学部教授会の議を経て卒業を認められた者に授与する。

2 修士の学位は、東京都市大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）の定めるところにより、大学院研究科の修士課程に所定の期間在学して、30単位以上を修得し、かつ必要な教育・研究指導を受けた上、本学大学院の行う修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

3 前項の規定において、各専攻で特定課題研究報告書の提出を認められた者にあつては、大学院研究科の修士課程に所定の期間在学して、40単位以上を修得し、かつ必要な教育・研究指導を受けた上、本学大学院の行う特定課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

4 博士の学位は、大学院学則の定めるところにより、大学院研究科の博士後期課程に所定の期間在学して、24単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、本学大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

5 博士の学位は、前項に規定するもののほか、本学に学位論文を提出して、その審査に合格し、学力試験により、大学院博士後期課程修了者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

6 第4項の規定にかかわらず、大学院学則の定めるところにより、大学院工学研究科共同原子力専攻博士後期課程にあつては、所定の期間在学して、必要な研究指導を受けた上、本学大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。

(学位請求の手続)

第5条 修士課程において、学位論文又は特定課題研究報告書を提出しようとする者は、在学期間中に学位請求書を指導教授を通じて学長に提出するものとする。

2 博士後期課程において、学位論文を提出しようとする者は、在学期間中に学位請求書を指導教授を通じて学長に提出するものとする。

3 前条第5項の規定により博士の学位を請求する者は、あらかじめ当該研究科委員会の承認を得た上で、学位請求書、論文の内容の要旨、履歴書及び別に定める論文審査料を添え、学位論文を学長に提出しなければならない。

4 本学大学院研究科の博士後期課程に3年以上在学して退学した者が、再入学しないで博士の学位を請求するときも、前項の規定による。

5 本学大学院博士後期課程に在学中又は退学後、論文を提出し、博士の学位を請求した者の論文審査及び最終試験が退学後1年以内にすべて終了した場合には、前項の規定にかかわらず、前条第4項の規定によることができる。

(学位論文・特定課題研究報告書)

第6条 学士の論文は正編1部、修士の論文又は特定課題研究報告書は正編1部及び写2部、博士の論文は正編1部及び写4部とし、自著であることを要する。ただし、参考論文を添付することができる。

2 審査のため必要があるときは、審査委員会は、論文又は特定課題研究報告書の訳文、模型又は標本等を提出させることができる。

(学位論文・特定課題研究報告書の審査、最終試験及び学力の確認)

第7条 修士及び博士の論文・特定課題研究報告書の審査、最終試験及び学力の確認は、大学院学則第23条に定める審査委員会がこれを行う。

2 最終試験は、論文又は特定課題研究報告書を中心として、これに関連のある科目及び外国語1種類について行う。

3 試験は、口頭又は筆答あるいはこの両者の方法によって行うことができる。

4 第4条第5項に基づく学力の確認は、試問の方法により行うものとし、試問は、口頭及び筆答により、専攻学術に関し、本学大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するために行い、外国語については1種類を課するものとする。

5 審査委員会は、前項の規定にかかわらず、学位を請求する者の経歴及び提出論文以外の業績を審査して、試問の全部又は一部を行う必要がないと認めたときは、当該研究科委員会の承認を経て、その経歴及び業績の審査をもって、試問の全部又は一部に代えることができる。

6 第5条第4項の規定により学位を請求する者が、退学後3年以内に論文を提出したときは、学力の確認には、試問を免除することができる。

(専攻内判定)

第7条の2 博士後期課程において、工学研究科の専攻主任は、審査委員会の審査結果に基づき、当該専攻の博士論文指導教員会議に諮って学位を授与するか否かを判定する。環境情報学研究科は、大学院教務委員長が審査委員会の審査結果に基づき、博士後期課程指導教員会議に諮って、学位を授与するか否かを判定する。

2 当該指導教員会議の成立は、構成員の4分の3以上の出席を要し、判定は、無記名投票によって行い出席者の3分の2以上の賛成をもって可とする。ただし、会議に出席することのできない構成員は、委任状又は文書をもって出席者とみなし、判定に加わることができる。

(審査期間)

第8条 修士の論文又は特定課題研究報告書は在学期間中に提出させ、その審査及び最終試験は在学期間中に終了するものとする。

2 博士の論文の審査、最終試験及び学力の確認は、論文を受理したのち、1年以内に終了しなければならない。ただし、特別の事由があるときは、当該研究科委員会の議を経て、その期間を1年以内に限り延長することができる。

(研究科委員会への報告)

第9条 審査委員会は、論文・特定課題研究報告書の審査、最終試験及び学力の確認を終了したときは、その結果の要旨に学位を授与できるか否かの意見を添え、当該研究科委員会に文書で報告しなければならない。

- 2 審査委員会は、論文・特定課題研究報告書の審査の結果、その内容が著しく不良であると認めたときは、最終試験及び学力の確認を行わないことができる。この場合には、審査委員会は前項の規定にかかわらず、最終試験及び学力の確認の結果の要旨を添付することを要しない。

(研究科委員会の議決)

第10条 当該研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、学位を授与すべきか否かを議決する。

- 2 前項の議決には、大学院研究科委員会運営規程第7条第2項の規定にかかわらず、委員総数の3分の2以上の出席を要する。ただし、出張又は休職中のため出席することができない委員は、委員の数に算入しない。
- 3 学位を授与し得るものとする議決には、出席委員の3分の2以上の賛成を要する。

(学位の授与)

第11条 学長は、前条の議決に基づき、学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位の名称の使用)

第12条 学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは、授与大学名を付記するものとする。

(学位論文要旨の公表)

第13条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3月以内に、当該論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表しなければならない。

(学位論文の公表)

第14条 本学において、博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、当該論文の全文を、「東京都市大学審査学位論文」と明記して公表しなければならない。ただし、既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供する。
- 3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学が協力し、インターネットの利用により行う。

(学位授与の取り消し)

第15条 学位を授与された者が次の各号の一に該当する場合は、学長は、当該学部教授会又は当該研究科委員会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表する。

- (1) 不正の方法によって学位を受けた事実が判明したとき。
- (2) 名誉を汚す行為があったとき。
- 2 当該学部教授会又は当該研究科委員会において、前項の議決を行うには、教授会運営規程及び研究科委員会運営規程の規定にかかわらず、委員総数の3分の2以上の出席を必要とし、かつ、出席委員の4分の3以上の賛成を要する。第10条第2項のただし書きの規定は、この場合に準用する。

(学位記の再交付)

第16条 学位記の再交付を受けようとするときは、その理由を記載した申請書に所定の手数料を添えて、学長に願い出なければならない。

(登録)

第17条 本学が博士の学位を授与したときは、学長は、授与した日から1月以内に文部科学大臣に報告し、学位簿に登録の手続きをとらなければならない。

(学位記の様式)

第18条 学位記の様式は、別表のとおりとする。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、各学部教授会、各研究科委員会及び大学協議会の議を経て、学長が行う。

[別表：省略]

付 則 (平成28年2月15日)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成27年度以前に入学した者については、従前どおりとする。

2. 東京都市大学 認定留学に関する規程

制 定 平成24年9月13日

東京都市大学 認定留学に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東京都市大学における認定留学制度に関して、必要な事項を定めるものとする。

(認定留学の定義)

第2条 この規程において「認定留学」とは、海外にある外国の大学において教育を受けることを教育上有益と認め、留学期間を在学期間に算入することができる制度をいう。

2 前項の「外国の大学」とは、学位授与権を有する外国の大学及び大学院、又は、本学の教授会若しくは研究科委員会（以下、「教授会等」という。）が認めた教育機関をいう。

(出願資格)

第3条 本学学部生及び大学院生とする。ただし、学部生は、本学に1年以上在学していなければならない。

(出願手続)

第4条 認定留学を希望する学生は、原則として出国の3ヶ月前までに、次の書類を所属する学部長又は研究科長（以下、「学部長等」という。）に提出しなければならない。

- (1) 認定留学願
- (2) 留学計画書
- (3) 推薦書（クラス担任、指導教員又は教務委員）
- (4) 同意書（保護者又は保証人）
- (5) 留学先大学の受入承諾書又はそれに相当する書類
- (6) 留学先大学の履修要覧、シラバス
- (7) 語学能力を証明する書類
- (8) その他学部長等が必要と認める書類

(認定留学の許可)

第5条 認定留学の許可は教授会等の議を経て、学長が行う。

(認定留学の期間等)

第6条 認定留学の期間は、半年間又は1年間とする。

- 2 認定留学の期間は、在学期間に算入することができる。
- 3 認定留学の始期は、原則として4月又は、9月とする。

(終了手続)

第7条 認定留学を終了し帰国した学生は、帰国の日から1ヶ月以内に、次の書類を所属する学部長等に提出しなければならない。

- (1) 留学終了届（パスポートの写しを添付）
- (2) 単位認定願
- (3) 留学先大学が発行した履修科目の成績証明書又はこれに準ずるもの
- (4) 留学先大学が発行した履修科目の時間数又は単位数を証明する書類
- (5) その他学部長等が必要と認める書類

(単位認定)

第8条 認定留学期間に修得した単位の認定は、学則第43条又は、大学院学則第16条第3項の規定に準ずるものとする。

(科目履修上の特別措置)

第9条 認定留学を許可された学生が通年授業科目を履修する場合、出国年度前期に履修していた科目を次年度後期に継続履修できるものとする。

2 前項に定める特別措置を希望する学生は、出国前に「継続履修願」を所属する学部長等に提出しておかなければならない。

3 所属する学科、専攻の研究指導を要する科目等については、科目担当教員の承諾を得て、学部長等の許可を受けた場合、認定留学中も当該科目の学修を行うことにより、履修したものとみなすことができる。

(認定留学中の授業料等)

第10条 認定留学期間における本学の授業料等は、全額納入しなければならない。

(認定留学許可の取消し)

第11条 次の各号の一に該当する場合、教授会等の議を経て、学長が認定留学を取り消すものとする。

- (1) 提出書類に虚偽の記載があった場合
- (2) 学生査証が得られなかった場合
- (3) 学生としての本分に反した場合
- (4) 修学の成果があがらないと認められる場合

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、国際委員会、教務委員会、各教授会、共通教育部会議及び各研究科委員会の議を経て、学長が行う。

付 則 (平成24年9月13日)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

3. 東京都市大学 学生の懲戒に関する規程

制 定 平成27年1月19日

東京都市大学 学生の懲戒に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東京都市大学学則及び東京都市大学大学院学則に規定する懲戒に関して、必要な事項を定めるものとする。

(適用等)

第2条 この規程は、本大学及び本大学院に在籍する学生に適用する。

2 学生には、研究生および科目等履修生等を含む。

(懲戒の種類)

第3条 懲戒の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 譴責 学生の行った非違行為を戒め、事後の反省を求めるため反省文を徴するとともに、将来にわたってそのようなことのないよう、口頭および文書により説諭すること。
- (2) 停学 無期または一定の期間、出校を認めず、学生の教育課程の履修および課外活動を禁止すること。
- (3) 退学 本学における修学の権利を剥奪し、学籍関係を一方的に終了させること。

(試験等において不正行為を行った者への懲戒)

第4条 大学内で実施される試験等における不正行為は、懲戒の対象となる。

2 懲戒の対象となる具体的な行為や処分内容は別に定め、あらかじめ学生に周知するものとする。

(大学内外において非違行為等を行った者への懲戒)

第5条 大学内外における非違行為等は、懲戒の対象となる。

2 懲戒の対象となる具体的な行為は別表1のとおりとし、処分内容は当該事案の内容に応じて決定する。

(学業不振等で成業の見込みのない者への懲戒)

第6条 学業不振で成業の見込みのない者は、懲戒の対象となる。

2 懲戒の対象となる具体的な状況は別表2のとおりとし、処分内容は当該事案の内容に応じて決定する。

(報告の手続)

第7条 本学教職員が第4条、第5条及び第6条に該当する行為を発見した場合は、学生支援センター又は当該事案に係る担当事務局（以下「担当事務局」と言う。）に報告しなければならない。

2 担当事務局は、必要に応じて、当該学生の所属する学科等主任、関係部署又は関係者に報告するものとする。

(懲戒行為の確認)

第8条 担当事務局は、当該学生及び当該事案に係る関係者立ち会いの下で、状況または事実関係の確認を行うものとする。

2 確認した内容は、必要に応じて調書を作成し、学長に報告するものとする。

(懲戒処分の検討)

第9条 学長は、懲戒処分を決定するに当たって、当該事案の内容に応じて、当該学生の所属する学科等会議、教務委員会、学生部委員会等（以下「委員会等」と言う。）から適切な委員会等を指定し、懲戒処分案を検討させるものとする。

2 学長から指定された委員会等は、第3条に定める懲戒に付随して、相応の処分案を作成し、学長に報告するものとする。

(懲戒処分の決定)

第10条 懲戒処分の決定は、学長から指定された委員会等がまとめた懲戒処分案について、当該学生の所属する学部教授会又は研究科委員会で審議した上で、大学協議会の議を経て、学長が行う。

2 奨学金等の受給あるいは受給資格を有している学生が懲戒処分を受けた場合、その権利・資格を取り消される場合があるものとする。

(懲戒処分の言い渡し)

第11条 学長は、懲戒処分の決定後、当該学生に対して速やかに懲戒処分の言い渡しを行うものとする。

2 懲戒処分の言い渡しは、学長の委任により学部長等が行う場合がある。

3 担当事務局は、懲戒処分の内容を当該学生の保証人に対して通知しなければならない。

(懲戒処分の学内公示)

第12条 担当事務局は、懲戒処分の言い渡し後、速やかに学内の所定の場所に懲戒処分内容を公示しなければならない。

2 前項の公示期間は、1週間以上とする。

(停学の解除)

第13条 懲戒処分を行うに当たって学長から指定された委員会等は、停学処分期間中の学生において停学を解除する相当の理由が生じたと認められたときは、学長に意見を上申することができるものとする。

2 学長は、前項の上申に基づき、第9条、第10条及び第11条を準用して、停学を解除することができる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、大学協議会の議を経て、学長が定める。

(規程の改廃)

第15条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

付 則 (平成27年1月19日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

東京都市大学 学生の懲戒に関する規程

別表1 大学内外における非違行為等とする具体的事例（第5条）

非違行為の内容	具体的事例
(1) 犯罪行為	殺人，強盗，強姦等の凶悪な犯罪行為または犯罪未遂行為 傷害行為 薬物犯罪行為 悪質な原因行為による交通事故 窃盗，万引き，詐欺，他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為 わいせつ行為（痴漢，覗き見，盗撮行為その他の迷惑行為を含む） ストーカー行為 その他刑法等に抵触する行為
(2) 学則またはそれに準じて定められた規程・規則等に対する違反行為	学則・各種規程に反する行為 大学が掲示した通達等に反する行為
(3) 大学の秩序を乱し，教育および研究活動に対する妨害行為	本学の教育研究または管理運営を著しく妨げる暴力行為 本学が管理する建造物への不法侵入またはその不正使用もしくは占拠 本学が管理する建造物または器物の破壊，汚損，不法改築等 本学が管理するシステムに重大な損害又は不利益を与える行為 本学構成員に対する暴力行為，威嚇，拘禁，拘束等 キャンパス・ハラスメントに該当する行為
(4) 大学の教育・研究施設において利用目的に反して行われた不正利用行為	正当な手続きを行わずに大学の教育・研究施設を不正に利用する行為 コンピュータまたはネットワークの不正に使用する行為
(5) 学生の本分を逸脱し，本学の名誉を傷つける行為	第三者を誹謗中傷する行為 第三者のプライバシーを侵害する行為 本学の社会的信用を失墜させる行為
(6) その他，公序良俗に反する行為	

別表2 学業不振等で成業の見込みがないとする具体的事例（第6条）

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
(2) 学業不振で成業の見込みがないと認められる者
(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

4. 東京都市大学 授業料等納入規程

制 定 平成 5 年 1 1 月 1 8 日

最新改正 平成 2 8 年 3 月 8 日

東京都市大学 授業料等納入規程

(趣旨)

第1条 東京都市大学学則第 46 条及び東京都市大学大学院学則第 43 条に基づく授業料等の納入に関しては、この規程の定めるところによる。

(授業料の納入額)

第2条 授業料の納入額は、学則の定めによるものとする。

2 編入学、転入学、再入学、転学部又は転学科による入学者の授業料の納入額は、入学、転学部又は転学科を許可された年次の在學生に適用される学則の定めによるものとする。

(納入期限及び分納)

第3条 授業料は、原則としてその年度分の全額を 4 月 3 0 日までに納入するものとする。

2 授業料は、前学期分及び後学期分の 2 回に分納することができる。

3 分納する場合の納入期限は、前学期分を 4 月 3 0 日までとし、後学期分を 1 0 月 2 0 日までとする。

4 納入期限が日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日又は土曜日に当たるときは、その前日までとする。

(新たに入学等を許可された者の納入)

第4条 新たに入学等を許可された者の授業料の納入は、前条の規定にかかわらず、入学手続き等の定めによるものとする。

(納入期限の延長)

第5条 経済的な事由あるいは災害の発生、その他やむを得ない事情により、授業料を納入期限までに納入できない者は、願い出により、納入期限の延長を許可する場合がある。

2 納入期限の延長が認められる期限は、前学期分を 7 月 3 1 日までとし、後学期分を 1 月 3 1 日までとする。

(督促)

第6条 この規程に定める納入期限までに授業料が納入されなかった場合は、督促を行う。

2 督促は、前学期は 5 月及び 7 月、後学期は 1 1 月及び 1 月に行う。

3 督促は、保証人への督促通知状によって行う。

(休学者の授業料)

第7条 休学者については、休学期間中の授業料を免除し、その期間の在籍料として授業料の 2 分の 1 相当額を納入するものとする。ただし、休学理由が傷病、経済的困窮、介護、その他の特別な事情の場合は、審査の上、在籍料を 1 か月当たり 1 万円とする場合がある。

(停学者の授業料)

第8条 停学者の停学期間中の授業料は、減免しないものとする。

(再入学の場合の制限)

第9条 退学者が再入学を希望した場合は、授業料を納入した期間を在学していた期間とみなす。

(未納者の処置)

第10条 授業料を納入期限までに納入しない者に対しては、次の各号に定める処置を行うものとする。

(1) 成績の無効処理

授業料を納入しない学期の成績は無効とする。

(2) 除籍

東京都市大学学則第 3 4 条又は東京都市大学大学院学則第 3 8 条に基づき、前学期分の未納者は 8 月 3 1 日、後学期分の未納者は 2 月 2 8 日をもって除籍とする。

(所管部署)

第 1 1 条 この規程の所管部署は、事務局総務部財務課とする。

(規程の改廃)

第 1 2 条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て学長の具申により理事長が行う。

付 則（平成 2 8 年 3 月 8 日）

この規程は、平成 2 8 年 4 月 1 日から施行する。

5. 東京都市大学 情報システム利用規則

制 定 平成26年1月20日

東京都市大学情報システム利用規則

(趣旨)

第1条 この規則は、東京都市大学情報基盤センター規程第11条に基づき、東京都市大学情報システム（以下「情報システム」という。）の利用に関する事項を定める。

(利用者の資格)

第2条 情報システムを利用できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 東京都市大学（以下「本学」という。）の学生及び教職員
- (2) 本学以外の学校法人五島育英会の教職員
- (3) その他情報基盤センター所長（以下「所長」という。）が許可した者

(申請)

第3条 利用者は、情報システムの各種サービスを受ける場合、情報基盤センターに申請し、承認を得ることとする。ただし、本学の学生及び教職員は、所定の手続きなしにサービスの一部を教育・研究及び大学運営の枠内で利用できるものとする。

2 利用可能なサービスは別に定める。

(利用の許可等)

第4条 前項の利用者の利用期間は、在学、在籍期間を原則とする。ただし、所長が大学の運用に必要と認めたときは、その期間を延長できる。

2 利用者は、アカウントなどの利用許可を得た情報を第三者に利用させてはならない。

(変更の届出)

第5条 利用者は、申請事項に変更があったときは、速やかにその旨を届け出るものとする。

(利用規範)

第6条 利用者は、東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシーの理念を理解し、遵守に努めるものとする。

(禁止事項)

第7条 本学における教育・研究及び大学運営以外の利用を禁ずる。

- 2 文書・画像・ソフトウェア・その他の著作物に対する知的財産権や肖像権等の第三者の権利を犯すことを禁ずる。
- 3 公序良俗に反する文書・画像・ソフトウェア・その他の情報を公開あるいは仲介することを禁ずる。
- 4 個人情報保護法、不正アクセス禁止法、及びその他の法律に違反又はそのおそれのある行為に加担することを禁ずる。
- 5 情報システムに危害を加える行為を禁ずる。
- 6 情報システムが接続する外部ネットワークの利用規定に違反する行為を禁ずる。
- 7 その他、本学が不適切と判断した情報を発信又は仲介することを禁ずる。

(違反行為の処置)

第8条 前条の項目に違反する利用については、情報基盤センター運営会議（以下「会議」という。）、リスク管理委員会、学生部委員会、又は当該設備等の管理者が調査し、差し止めることがある。

- 2 学生の本分を外れていると認められる行為に関しては、学則に照らして停学・退学等の処分を行うことがある。
- 3 不適切な利用に起因する損害等の責任は、当該利用者に帰するものとする。

(対外的な対処)

第9条 会議，前条に規定する各委員会，又は当該設備等の管理者は，外部からの苦情等に対して調査をした上で，上長の指示に基づき適正な対処を取ることとする。

(その他)

第10条 この規則に定めるもののほか，情報システムに関して必要な事項は，別に定める。

(規則の改廃)

第11条 この規則の改廃は，会議の議を経て所長が行う。

付 則（平成26年1月20日）

- 1 この規則は，平成26年4月1日から施行する。
- 2 この規則の制定により，東京都市大学情報基盤センター利用規則及び東京都市大学情報ネットワーク利用規則を廃止する。

6. 東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシー 基本方針

制 定 平成25年2月18日

最新改正 平成25年7月15日

東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシー 基本方針

(基本理念及び目的)

第1条 情報資産は、東京都市大学（以下「本学」という。）にとって重要な資産である。本学は教育・研究を理念としており、この理念を達成するため情報資産を保有し、収集、格納、活用という手段に依存している。情報資産が守られなければ、本学の教育・研究活動の停滞、本学に対する信頼の喪失などといった被害を受けたり、加害者となる可能性がある。したがって、教職員、学生、及びすべての関係者が不斷の努力をもって、本学の情報資産の機密性、完全性、可用性に配慮し、保全しなければならない。そのために、情報を取り扱う教職員、学生、及びすべての関係者がそれぞれの役割の中で、遵守すべき情報セキュリティ対策の包括的な基準として、「東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシー」（以下「ポリシー」という。）を策定し、それに準拠した実施手順等を定め運用することにより、必要な情報セキュリティを確保することとする。

(役割と位置づけ)

第2条 ポリシーとは、この基本方針及び別に定める情報セキュリティポリシー対策基準のことをいい、本学の情報及び情報システムに関する情報セキュリティ対策について、包括的、体系的に取りまとめたものであり、情報セキュリティ対策文書の最高位に位置する。また、ポリシーは、本学が保有する情報資産を正しく取り扱うこと、学長を筆頭にすべての構成員に、情報を正しく取り扱うための指針となる役割を持っている。

(見直しと更新)

第3条 本学の情報資産を守るためには、常に最新の情報を取得し、適切な物理的・人的・技術的セキュリティが実施されているか定期的に調査・監督を実施しなければならない。改善が必要と認められた場合は、速やかにポリシーの更新を行わなければならない。

(法令等遵守)

第4条 情報及び情報システムの取り扱いに関しては、法令及び規則等（以下「関連法令等」という。）においても規定されているため、情報セキュリティ対策を実施する際には、ポリシーのほかに関連法令等（個人情報保護法、不正アクセス禁止法等）を遵守しなければならない。

(適用対象範囲)

第5条 ポリシーは、「情報資産」を守ることを目的に作成されている。ポリシーにおいて対象とする「情報資産」は、次に掲げるものとする。

- (1) 対象となる情報は、電子化された情報すべてとする。
- (2) 対象となる情報システムには、情報を電子的に処理するためのハードウェア、ソフトウェア、ネットワークのほか、運用管理及び保守に必要な電子化された文書も含む。

(適用対象者)

第6条 ポリシーは、第5条に掲げる情報及び情報システムを取り扱うすべての構成員に適用する。ここでいう構成員は、教職員、非常勤講師、学部学生、大学院学生、研究生、科目等履修生、特別聴講学生等の大学構成員と委託業者、来学者等とする。

(評価)

第7条 この基本方針及び情報セキュリティ対策の評価、情報システムの変更、新たな脅威の発生等を踏まえ、ポリシー及びそれに基づく実施手順の点検・評価を定期的の実施して見直しを図ることとし、このために必要な措置を規程する。

（用語の定義）

第8条 ポリシーにおける用語の定義は、JISQ27001、JISQ27002 に準ずる。

（基本方針の改廃）

第9条 この基本方針の改廃は、情報基盤センター運営会議が発議し、大学協議会の議を経て、学長が行う。

付 則（平成25年7月15日）

この基本方針は、平成25年4月1日から適用する。

環境学部

環境学部 理念・目的等

現代の地球社会における最大かつ喫緊の課題は、多様な時間的・空間的スケールで生起する環境問題を解決し、自然と共存できる社会を創生することである。この課題を達成するためには、まず、大気圏、水圏、地圏、生物圏によって構成されるエコシステムを科学的に理解することは勿論、エコシステムに影響を与える高度経済社会の生産と消費と廃棄のあり方、つまり社会システムを理解することが必要である。さらに、それらの理解に基づいて、エコシステムと社会システムの関係を総合的に把握し改善する方法論を、個別的な領域、例えば、生態系の保全と創生、住環境と都市システム、環境教育と消費者教育、企業の環境経営、行政の環境政策、市民の環境運動において、具体的に練り上げていかなければならない。このような学際的かつ総合的な研究や実践を継続・発展させる環境リーダーを育てるために、また、環境問題を深く理解して持続可能社会の創造を担うことのできる人材を社会のあらゆる領域に供給するために、文理複合の環境学部を設置する。

東京都市大学では、すでに 1997 年に設置した環境情報学部において、環境と情報に関する文理複合の教育・研究を展開してきたが、本環境学部は教育研究の対象を環境分野に専門特化しつつ、その学際性・総合性をより効果的に発揮させることを意図する。そのために、「環境創生学科」と「環境マネジメント学科」の 2 学科を設置して、個別的な領域ごとの基礎的な教育研究を深化させるとともに、実践的な問題を扱う場面においては、両学科が密接に連携して学際的・総合的な教育研究を行うことが可能になるような組織体制を整える。「**環境創生学科**」は、自然環境の保全や修復・創生を扱う「生態環境分野」と都市における種々の問題を把握し、人間及び人間社会にとって快適な空間を創生する「都市環境分野」について、問題の解決のための知識と技術及び方法論並びに環境配慮の行動規範を身につけた、持続可能な社会における環境リーダーの輩出を目的として設置する。

「**環境マネジメント学科**」は、「環境経営」と「環境政策」を基軸とした教育と研究を推進し、複合領域である環境学を修め、総合的な観点から持続可能社会に向けた意思決定を行うことができる人材を輩出することを目的として設置する。

両学科共に、環境問題を科学的に理解し、持続可能な社会を創造することに貢献できる人材を、広く企業、行政、地域社会等に供給することを目的とする。なお、本学部の学際性・総合性を効果的に発展させるために、また各領域での効果的な教育研究を進める上でも、情報処理技術の活用は不可欠であり、環境情報の処理技術の修得にも力点を置いた教育も展開する。

環境学部：人材の養成及び教育研究上の目的

人材の養成及び 教育研究上の目的

地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、持続可能な自然環境や都市環境を創造し、経済システムを環境調和型に転換することによって、持続可能社会の実現に寄与することができる人材の養成を目的とする。(学則 第4条の2より)

環境を学び、人間力の向上を目指そう

環境学部長 吉崎 真司

平成25年4月1日、この横浜キャンパスに「環境学部」と「メディア情報学部」という二つの新しい学部が誕生しました。皆さんは、東京都市大学が育てる「環境の専門家(環境学士)」の第3期生として入学しました。私達教職員と一緒に、自らの手で自由で闊達な学部を創り上げましょう。

前身の環境情報学部環境情報学科は、平成9年(1997年)4月1日に環境情報学部の開設と同時に誕生しました。その頃の社会情勢はどうだったかという、開設2年前の1995年1月には阪神淡路大震災が発生し5,000人に及ぶ多くの犠牲者が出ました。また3月には地下鉄サリン事件が発生して13人の無関係の人々が亡くなり、6,300人もの人々が負傷しました。そして、開設年度の12月には、気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書、いわゆる地球温暖化防止京都会議(COP3)が開催されました。このように、環境情報学科ができた約18年前、21世紀のキーワードは「環境」と「情報」であり、この分野の素養を持った若い人材を育成して社会に送り出すという先達の強い思いがありました。

その後の社会における情報技術の急速な発展は世界をあっという間に近づけ、いつでもどこでもどんな情報でも手に入る状況が実現しつつあります。環境に関しても、地球温暖化対策としての低炭素社会の実現、リサイクル、リユースなど資源管理対策の実行と意識改革、都市のヒートアイランド抑制対策、そして最近では生物多様性国家戦略など、環境に関する施策や条約が次から次へと実行される状況になりました。

そして、開設から15年を迎えた2011年3月に東日本大震災が発生して、関東北部から東北地方に至る太平洋岸の海岸線と沿岸都市の多くが被災し、死者・行方不明者は20,000人を超えていると言われています。加えて原発事故が発生して、今後数十年にわたって自然や人間への影響が懸念されます。私たちは今どのように、人類が生存する地球環境、多くの人々が生活し活動する都市や地域環境を利用・保全・創出し、将来世代に引き継いでいったら良いのでしょうか。それを考え解決策を探るのが、私たちのミッションです。

私たちは、皆さんを迎えるために二つの学科を開設し、新しいカリキュラムを準備しました。いずれもが環境の専門家として身に付けて欲しい素養を学ぶことができる科目群となっていますので、卒業に必要な単位を取得するという動機のみではなく、上述したような環境問題を解決するための素養を身に付けた人材となり社会や人類の幸福に貢献するぞ、という気概を持って臨んで欲しいと思います。

環境創生学科の教育目標

自然生態系を保護・保全し、あるいは修復・再生するための知識と技術、環境負荷を減らしながらも快適な都市環境を実現するための知識と技術を身に付け、それらを実社会に応用できる人材を育成する。そのために、環境に関する情報の処理と共有化の技術、化学的な分析、計測やモニタリングの方法、気候や風土を取り入れて快適な地域・都市空間を創出する技術や方法論を修得する。

環境マネジメント学科の教育目標

人間の経済活動の環境負荷を評価・分析し、その結果に基づいて環境に配慮した製品や技術を企画・開発することで、持続可能な企業経営に貢献できる人材、持続可能社会についての知識とビジョンを持ち、環境調和型の企業や消費行動を促進するための政策立案を行うことができる人材を育成する。そのために、経営、会計、経済、法律などの社会科学分野だけではなく、材料、生産システム、環境影響評価など工学分野の知識や技術を修得する。

一方、大学生活は勉強するだけでは十分ではありません。健全な体、健全な心を身に着ける場もあります。サークルに入って体を鍛えるのも良し、先輩や後輩と接し、一生付き合うことになる友人を見つけることも大切です。図書館で本を読みあさる、新聞を読んで世の中の動きをキャッチする、アルバイトをやって社会の現実に触れるのも良いでしょう。日本を飛び出して異文化に接したり、外から日本を見るのも貴重な経験になると思います。色々なものに出会い、ぶつかり、悩み、その中で自分を見つめて、ぶれずに取り組むことができる何かを見つけて欲しいと思います。一度しかない人生なのですから、大切な時間を存分に使って、充実した大学生活を送って欲しいと願います。

- ・一回の授業、一冊の本、一つの記事、一つの講演、そして一度だけかもしれない人との出会いが、自分の人生を変える。
- ・その出会いを見逃さないようにするために、日頃からその感性を磨いておくことが肝要である。
- ・量よりも質が自分自身の飛躍の糧になる。
- ・自分の中にある良識、好奇心、理想に従って、自分が納得するまで突き詰めることに意味があり、これが人間的な魅力(人間力)を醸し出す。

環境学部：カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

環境学部

カリキュラムポリシー 教育課程の編成方針

1. 幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語科目、体育科目、および社会科学・人文科学・自然科学、情報処理、社会実習などに関わる科目等の教養科目を配置する。
2. 環境問題を理解し分析するにあたって必要な基礎的な知識や技能を、自然・人文科学・社会科学の視点で修得させることを目的として専門基礎科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目（学科基盤科目と学科専門科目）を設ける。
4. 学科基盤科目として、数理統計系科目、分析計測系科目、環境問題と関連する科目群、学科専門科目として、独自の専門性の高い科目群によって構成し、専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。
5. 3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修とし、学生が主体的に問題を発見し、その問題に適した理論的枠組みを作り、調査や分析を行い、問題の解決に関する論文を執筆して発表する、これら一連のプロセスを通して実践的な専門能力と総合的人間力を養う。

環境創生学科

カリキュラムポリシー 教育課程の編成方針

環境創生学科では、自然科学的視点を基本とする研究と教育を展開する。そのために、自然環境の保全や修復及び創生を扱う「生態環境分野」、および人間及び人間社会にとって快適な空間を創出する「都市環境分野」の二つの専門分野を設定し、以下の4点を重視した教育を推進する。

1. 幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語科目、体育科目、および社会科学・人文科学・自然科学、情報処理、社会実習などに関わる科目等の教養科目を配置する。
2. 実習や演習などのフィールド系科目を積極的に導入する。環境フィールド・計測演習、環境情報可視化技法、生態環境実習、測量学実習など、演習室・実習室や野外での観察・計測・分析を通して、自然環境や建造環境に関する問題を実践的に学修する。また、野外実習では、横浜キャンパスの環境に配慮した設備や保全林を有効活用する。
3. 持続可能型社会の構築に向け社会科学的方法も取り入れる。専門基礎科目において、社会科学系科目を自然科学系・工学系科目と同等程度（25科目中12科目）配置するほか、より応用的な学科専門科目や「事例研究」、「卒業研究」では、環境問題の解決に向けた地域社会や政策についても取り上げる。
4. 環境および環境に関する情報を計測・数量化・分析する教育を充実させる。環境数学入門、環境統計学、環境化学、環境分析演習、地理情報システム、環境モニタリング技術など、環境および環境に関する情報を計測・数量化・分析する教育を充実させ、自然科学的な視点と方法で環境問題にアプローチできる人材を育成する。

環境マネジメント学科

カリキュラムポリシー 教育課程の編成方針

環境マネジメント学科では、企業が環境に調和した製品や技術を開発して持続可能型経営に転換するための知識や技術を学ぶ「環境経営分野」、および持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について学ぶ「環境政策分野」の二つの専門分野を設定し、以下の4点を重視した教育を推進する。

1. 幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語科目、体育科目、および社会科学・人文科学・自然科学、情報処理、社会実習などに関わる科目等の教養科目を配置する。
2. 企業、市民団体、政府機関との協働によるプロジェクト教育を充実させる。応用的な学科専門科目において、企業関係者を招いての講演を授業に取り入れるほか、「事例研究」、「卒業研究」では教員が行っている企業、市民団体、政府機関との協働プロジェクトに学生を積極的に参加させる。このような教育により、経営や政策の現場を知ることができるだけでなく、コミュニケーション能力も身につけることができる。
3. 環境問題を理解するためには自然科学的・工学的知識も必要であり、専門基礎科目において、自然科学系・工学系科目を社会科学系科目と同等程度（29科目中14科目）配置するほか、より応用的な学科専門科目や「事例研究」、「卒業研究」でも、企業活動の環境影響の評価や環境政策の理解に必要な不可欠な、化学物質やその生態系・地球環境への影響、エネルギーや熱に関する物理化学的基礎などを学習する。
4. 環境マネジメントに関連する ISO 規格を教育に活用する。環境マネジメントの基本として、キャンパス全体で ISO14001 規格を遵守し、その継続的改善に取り組んでいるほか、同じ ISO14000 番台の他の規格、本年に JIS 化された ISO26000 規格（組織の社会的責任に関する規格）も授業に取り入れ、持続可能社会を実現するための実践的なマネジメント能力を持った人材を育成する。

ディプロマポリシー 学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（環境学）の学位を与える。

1. 地域から地球規模に至るまで、人類が直面する環境問題に対して、科学的な調査、分析及び評価ができ、解決方法を構想することができる能力を修得している。
2. 環境に対する高い倫理観をもって、社会の持続可能な発展に貢献することができる能力を身に付けている。
3. 環境に関連する幅広い教養と学識を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。

ディプロマポリシー 学位授与の方針

所定の期間在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（環境学）の学位を与える。

1. 都市、地域、そして地球環境に関する広範な知識と教養を持ち、それらを実社会に応用する能力を修得している。
2. 顕在化する環境問題を科学的に理解し、問題解決のための政策や手段を構想する能力を修得している。
3. 持続可能社会を構築するうえで求められる都市や地域環境を実現するために必要な、環境情報を処理して共有し、分析やモニタリングを行う知識と能力を修得している。
4. 自然の持つ多様性を人工環境に取り入れて、快適な環境を創出する知識と能力を修得している。

備考

1. 本学科では、大学基準協会の「大学基準」の教育課程・教育内容に基づき、国際化・情報化への対応、学術の動向や社会要請に留意し、体系的な科目編成を行っている。
2. 中央審議会答申の学習成果に関する指針では、①知識・理解として、基本的な知識の体系的な理解と、歴史・社会・自然との関連づけによる理解、②汎用的な技能として、コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、③態度・志向性として、自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力、④統合的な学習経験と創造的思考力を獲得することを目標とした教育課程とすることを指摘している。本学科では、これを参照してベースにしつつ、これら目標を達成し更なる工夫をしたカリキュラム構成としている。
3. 測量士補、自然再生士補の資格取得ができる科目編成を行っており、特に測量士補は、124単位中 58 単位を資格取得のため必修科目として配置している。

ディプロマポリシー 学位授与の方針

所定の期間在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（環境学）の学位を与える。

1. 持続可能社会に関する適切な知識とビジョンを持ち、それらを実社会に応用できる能力を修得している。
2. 環境に調和した製品や技術開発のための企画を立案する能力を修得している。
3. 環境調和型の企業活動や消費行動を促進する具体的な政策を立案する能力を修得している。
4. 企業、自治体、市民が持つ特徴や課題を認識し、国際的な視野のもとで環境問題の解決に向けて行動する実践力を身につけている。

備考

1. 本学科では、大学基準協会の「大学基準」の教育課程・教育内容に基づき、国際化・情報化への対応、学術の動向や社会要請に留意し、体系的な科目編成を行っている。
2. 中央審議会答申の学習成果に関する指針では、①知識・理解として、基本的な知識の体系的な理解と、歴史・社会・自然との関連づけによる理解、②汎用的な技能として、コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、③態度・志向性として、自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力、④統合的な学習経験と創造的思考力を獲得することを目標とした教育課程とすることを指摘している。本学科では、これを参照してベースにしつつ、これら目標を達成し更なる工夫をしたカリキュラム構成としている。

履 修 要 綱

「履修要綱」は、本学学則第5章「教育課程及び履修方法」および、第8章「試験及び卒業」に基づいて定められたものである。従って、学生は授業を受けるにあたっては、自己の責任において、特にこれを熟読しなければならない。

1. 単位について

①単位制度

各学部の「教育課程」は、大学設置基準によるところの「単位制度」に基づいて編成されており、学修の基本でもあるので、各自「単位制度」の本質を十分に理解する必要がある。

単位は履修した科目の学力が一定レベルに達したときに与えられるもので、そのレベルに達するためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり、「予習」、「復習」、「宿題」などの自学自習を必要とする。

各学部の授業は「講義」、「演習」、「実習および実技」等の方法で行われ、各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合せて45時間として、学則第18条「教育課程及び単位の計算方法」の標準に従って計算されるが、環境学部およびメディア情報学部では、講義については、1回（1時限）の授業に対して4時間の自学自習を行わせる方針で行うことを標準にしている。

なお、環境学部およびメディア情報学部を卒業する為には、学則第15条「履修単位及び年限」に基づき、4年以上在学して総計124単位以上を修得しなければならない。

②単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なる。週1時限の授業に対して与えられる単位数は次のとおりである。（学則第18条参照）

(1) 講義・演習

2時間の授業，4時間の自学自習，週1回半期15週では，

$$(2+4) \times 15 = 90 \text{時間} \quad 90 \div 45 = 2 \text{単位}$$

通年30週の場合は4単位

(2) 実験・実習・製図・実技

2時間の授業，1時間の自学自習，週1回半期15週では，

$$(2+1) \times 15 = 45 \text{時間} \quad 45 \div 45 = 1 \text{単位}$$

ただし、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数を増加してある。

また、学則第18条の2に基づき、各授業科目の授業は、10週または15週にわたる期間とするものの、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果がある場合、この期間を変更する場合がある。科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが、詳細は授業時間表で確認すること。

但し、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数を増加してある。

③単位の授与

各授業科目を履修した者に対して、試験（中間試験その他の評価を含む）により、その成果を判定した上で単位を与える。この場合の履修とは、単位制度に基づくものであって、所定の単位を修得するためには、必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論、定められた時間数の自学自習が行われていなければならない。

なお、履修したが合格点に達しないため単位を与えられなかった科目のうち、単位を修得しておかなければならない科目（必修科目等）は、次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければならない。

④標準履修法

学生は4年次において、その二分の一から三分の二の時間を「卒業研究」に費やすので、3年次末迄には少なくとも115～120程度の単位を修得することが望ましい。

その為の目安としては、1日に2科目以上を履修し、合格すれば標準の単位を修得することができる。

（修得単位の目安 1年次終了時40単位程度、2年次終了時80単位程度、3年次終了時120単位程度）

⑤CAP（キャップ）制

半期に履修できる単位数は、基本的には上限 24 単位までである。これは、履修計画を綿密に作成した上で計画的に履修をすること、及び履修科目の予習復習などを行い、1 回（1 時限）の講義演習科目に対して 4 時間の自学自習を実施するために設けられた制度である。従って、この考え方に基づいて、計画的履修と自学自習を心がけてもらいたい。

なお、環境学部での測量士補に関する必修科目（詳細は測量士補資格を参照）、メディア情報学部の教職に関する科目（詳細は教職課程を参照）、海外フィールド演習などの学外実習科目、集中講義、卒業要件非加算科目は対象外であり、CAP 制の上限に含まれない。

また、GPA2.8 以上の学生は、次期の履修について上限 28 単位まで履修可能である。一方で、不合格科目を再度履修する場合も、最大 4 単位の緩和を認めるが、緩和科目につき不合格になった場合は、次学期の緩和は認められない。その他健康などの特段の事情がある場合は、クラス担任やゼミ指導教員との相談の上、上限単位数の緩和を認める場合がある。

⑥TAP 参加学生

TAP 参加学生は、別途定める準備講座（卒業要件の修得単位には含まれない）に出席する。TAP 参加学生は、履修登録許可科目があり、この科目については 1 年次の履修が可能である。また、CAP 制については、TAP 参加学生は上限 28 単位（ただし対象学年は 1～3 年）である。具体的な適用学年や履修等の説明については、参加募集説明会にて説明する。

2. 授業科目について

①科目の区分 授業科目はその内容により、学部共通科目（基礎科目（外国語科目、体育科目、教養科目））、専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目、学科専門科目）及び教職課程科目に分ける。

それぞれに属する各授業科目については、各学部「教育課程表」に記載されているので、同表を参照すること。

なお、教育課程表の備考欄に「YC 開講」と標記されている科目が、横浜キャンパスで開講される科目であり、各学科の授業時間割表に開講曜日・時限が記載されている。科目により履修条件が付記されているものがあるので確認をすること。

②科目の種類 授業科目は「必修科目」、「選択必修科目」及び「選択科目」に分ける。それらの「授業科目」の性質は次の通りである。

- (1) **必修科目** …… 必ず履修しなければならない科目。
- (2) **選択必修科目** …… 指定された科目の中から選択して必ず履修しなければならない科目。
- (3) **選択科目** …… 自由に選択して履修できる科目。

なお、科目の選択は各自の履修上慎重な配慮を要するものなので、選択にあたっては必ず後述の 3. 履修についての「③履修における留意事項」を参照すること。

③科目の記号 授業科目の種類は次の記号で表わされる。

- (1) **必修科目** …… ○印
- (2) **選択必修科目** …… △印
- (3) **選択科目** …… 無印

3. 履修について

①卒業の要件

各学部を卒業する為には、4 年以上在学して、次の表に従ってそれぞれの区分の単位を修得する共に卒業試験に合格しなければならない。（学則第 15 条「履修単位及び年限」参照）

なお、この表は各自の履修の基準となるので、各学期の開始の度に必ず参照すること。

【環境学部】

区分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	6 単位
	教養科目	10 単位
小計		16 単位
専門基礎科目		34 単位
小計		34 単位
専門科目	学科基盤科目	60 単位
	学科専門科目	
小計		60 単位
自由選択科目	※	14 単位
合 計		124 単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して 14 単位以上修得しなければならない。

体育科目の単位は、自由選択に含める。

【メディア情報学部】

区分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	6単位
	教養科目	10単位
小計		16単位
専門基礎科目		20単位
小計		20単位
専門科目	学科基盤科目	74単位
	学科専門科目	
小計		74単位
自由選択科目 ※		14単位
合 計		124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

体育科目の単位は、自由選択に含める。

②履修科目

【学部共通科目】

＜基礎科目・外国語科目＞

- (1)「基礎科目・外国語科目」区分は、英語科目25科目（他キャンパスでの開講含む）、中国語（1）～（4）、韓国語（1）～（4）の8科目から構成され、1年次～2年次までに配当されている。
- (2)「基礎科目・外国語科目」として卒業要件6科目（6単位）が必修となっている。
入学後オリエンテーション期間内等で実施する基礎学力調査の結果により、習熟度別に編成したクラスを指定する場合や、履修を免除する場合がある。
- (3) 6単位を超えて修得した単位（必修科目以外の英語、中国語、韓国語）は、自由選択科目として14単位まで卒業要件に算入できる。

※必修科目以外の英語選択科目については、授業開始前に担当教員から各学部で開講する科目の紹介並びに申請手続等の説明があるので充分注意すること。

＜基礎科目・体育科目＞

「体育科目」区分は4科目から構成され、1、2年次に配当されている。

これらの科目を履修し、修得した場合は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

＜基礎科目・教養科目＞

- (1)「基礎科目・教養科目」区分は、横浜キャンパスでの開講24科目と、他キャンパスでの開講49科目から構成され、1年次～3年次までに配当されている。
- (2)「基礎科目・教養科目」として10単位が卒業要件となっている。
このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。

・環境創生学科	}	「情報と社会」、「情報リテラシー演習」、「情報通信技術入門」3科目（6単位）
・環境マネジメント学科		
・社会メディア学科		
・情報システム学科		
	}	「情報と社会」1科目（2単位）

- (3) 「日中共同沙漠緑化フィールド研修プログラム」・「ネパール環境フィールド研修プログラム」の単位認定について
 - (a)上記プログラムの参加（履修）方法や日程等の詳細については、掲示等にて周知する。
同プログラムに参加し、合格した場合は、「海外フィールド演習」（2単位）の単位として認定される。
各々のプログラムに参加し、成績が評価されても、一度履修して合格した「海外フィールド演習（2単位）」の評価は変更しない。
 - (b)工学部・知識工学部の「海外体験学習（1）」・「海外体験学習（2）」も同様に扱う。
 - (c)都市生活学部の「海外研修（1）」・「海外研修（2）」、人間科学部の「海外研修」も同様に扱う。

(4)「特別講義」「教養ゼミナール」「教養特別講義」(1)(2)の単位認定について

上記授業科目の履修方法については、本履修要綱および「教授要目(シラバス)」および「授業時間表」等を熟読し、確認すること。

同科目の履修登録を行い、合格した場合は、「特別講義(1)」「教養ゼミナール(1)」「教養特別講義(1)」もしくは「特別講義(2)」「教養ゼミナール(2)」「教養特別講義(2)」(2単位)の単位として認定される。

ただし、卒業要件に算入する単位数は、それぞれ4単位までとする。一度履修して合格した場合、当該科目の評価は変更しない。

(5)「基礎科目・教養科目」で10単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

[専門基礎科目]

環境学部

(1)「専門基礎科目」区分は環境創生学科25科目、環境マネジメント学科30科目から構成され、各学科それぞれ1年次～3年次までに配当されている。

(2)両学科とも、「専門基礎科目」区分における卒業要件は34単位である。

このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。

- ・環境創生学科 「環境マネジメントシステム」、「温暖化の科学」2科目(4単位)
- ・環境マネジメント学科 「環境マネジメントシステム」、「生態学概論」2科目(4単位)

(3)34単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

なお、他学科の専門科目を履修した場合の認定単位数等の詳細は後述の **13. 他学科、他学部、他大学等の履修について** を参照のこと。

メディア情報学部

(1)「専門基礎科目」区分は社会メディア学科16科目、情報システム学科18科目から構成され、各学科それぞれ1年次～3年次までに配当されている。

(2)両学科とも、「専門基礎科目」区分における卒業要件は20単位である。

このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。

- ・社会メディア学科 「環境マネジメントシステム」、「情報発信入門」、「社会調査」3科目(6単位)
- ・情報システム学科 「環境マネジメントシステム」1科目(2単位)

(3)20単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

なお、他学科の専門科目を履修した場合の認定単位数等の詳細は後述の **13. 他学科、他学部、他大学等の履修について** を参照のこと。

[専門科目・学科基盤科目]

環境学部

(1)「専門科目・学科基盤科目」区分は環境創生学科21科目、環境マネジメント学科16科目から構成され、各学科それぞれ1年次～3年次までに配当されている。

このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。

- ・環境創生学科 「環境フィールド・計測演習」、「環境情報リテラシー」、「生態学概論」、「環境数学入門」、「ランドスケープ論」5科目(10単位)
- ・環境マネジメント学科 「環境経営入門」、「環境政策入門」、「温暖化の科学」3科目(6単位)

メディア情報学部

(1)「専門科目・学科基盤科目」区分は社会メディア学科24科目、情報システム学科24科目から構成され、各学科それぞれ1年次～3年次までに配当されている。

このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目もしくは選択必修科目として必ず履修しなければならない。

- ・社会メディア学科 必修科目:「現代社会とメディア」1科目(2単位)
選択必修科目:△1グループ7科目より2科目(4単位)
△2グループ11科目より2科目(4単位)(詳細は教育課程表参照)

- ・情報システム学科 必修科目：「数学基礎」、「情報基礎学」、「プログラミング基礎1、2」
「微分積分学Ⅰ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」
「テクノロジーエクスプローラ」8科目（16単位）
- 選択必修科目：プログラミング演習1A、1Bより1科目（2単位）

[専門科目・学科専門科目]

環境学部

- (1)「専門科目・学科専門科目」区分は環境創生学科15科目（生態環境分野8科目、都市環境分野7科目）、環境マネジメント学科19科目（環境経営分野10科目、環境政策分野9科目）から構成され、各学科それぞれ1年次～3年次までに配当されている。
- (2)各学科とも「事例研究」（4単位）、「卒業研究」（6単位）をこの区分に位置付けており、必修科目として必ず履修しなければならない。

[専門科目／学科基盤科目・学科専門科目] 区分における**環境学部**の卒業要件は60単位である。

60単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として最大14単位まで卒業要件に算入できる。

メディア情報学部

- (1)「専門科目・学科専門科目」区分は社会メディア学科24科目（コミュニティデザイン分野12科目、人間コミュニケーション分野12科目）、情報システム学科24科目（システムデザイン分野11科目、ICTアセスメント分野13科目）から構成され、各学科それぞれ1年次～3年次までに配当されている。
このうち情報システム学科では、以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。
・「サーバシステム構築」、「サーバ管理演習」、「ICTアセスメント概論」3科目（6単位）
- (2)各学科とも「事例研究」（4単位）、「卒業研究」（6単位）をこの区分に位置付けており、必修科目として必ず履修しなければならない。

[専門科目／学科基盤科目・学科専門科目] 区分における**メディア情報学部**の卒業要件は74単位である。

74単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として最大14単位まで卒業要件に算入できる。

[自由選択]

自由選択として、上記各区分の卒業要件単位を超える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

（体育科目の単位は、自由選択に含める。）

なお、後述する他学科開講科目、他学部及び他大学等との単位互換により修得した単位をこの区分の単位として認定することができる。

（認定単位数等の詳細は後述の「他学科、他学部、他大学等の履修について」と「単位互換について」を参照のこと。）

③履修における留意事項

- (1)各学期の始めの履修手続きに当たっては、「教授要目（シラバス）」を熟読すると共に、その年度の「教育課程表」及び「授業時間表」等を充分研究した上で、各自一年間の履修方針を定めること。
- (2)当該年度に組まれている授業時間表に基づいて、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」の順に、履修方針に基づいて選択し、履修登録をしなければならない。
なお、科目の中には履修条件（○○○科目を履修しておくことが望ましい等）が示されている場合があるので、「学修要覧」の科目概要および「教授要目（シラバス）」を熟読すること。（含高学年配当科目）
- (3)自学自習に多くの時間を要する単位制度のもとでは、授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することは難しいので、科目選択に当たっては、授業担当教員やクラス担任教員等の助言を受けて、適正に選択することが必要である。
- (4)所属学年に組まれている授業科目は極力その学年で修得するよう努力しなければならない。次の年度で再履修しようとしても授業時間や試験時間が重複して履修できないことも多いためである。
また、学年進行に伴うカリキュラム変更等により、当該年度の開講をもって廃止となる場合や新規に開講する科目に振替える場合があるので、各自キャンパス内掲示板やマイポータル（HP）等で十分に確認、注意をすること。
- (5)他キャンパスでの開講科目を履修しようとする場合、キャンパス間のシャトルバスによる移動などの時間を考慮した計画を立てる必要があるので注意すること。

④履修登録

環境学部およびメディア情報学部では、インターネットを利用して、指定された日に各自で履修登録（Web による登録）を行う。（操作方法等については各学期に配布される「授業時間表」の履修登録作業手順（マニュアル）を熟読すること。）この手続を経ない科目は受講の上、試験に合格しても単位は与えられないので注意すること。その為、履修登録に際しては慎重を期し、「授業時間表」、「教育課程表」、「教授要目（シラバス）」等を参照するほか、特に、次の事項に留意しなければならない。

- (1) 履修登録は、学期（前期・後期）毎に受講する全科目を登録すること。
- (2) 科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが、履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期毎に行う必要があるので注意すること。
- (3) 科目の履修は授業時間表で指定されている各自の組（組の指定がない場合は全ての組対象）に基づいて行うこと。
- (4) 所属学年よりも上の学年に配当されている科目の履修は認められない。
- (5) 他学部の開講科目を履修する場合は「各出願票」（用紙はいずれも授業時間表冊子の末頁に添付）に所定の事項を記入の上、履修登録期間に横浜キャンパス教育支援センターに提出すること。
なお、単位互換協定大学の開講科目を履修する場合は、「特別聴講願」（用紙は横浜キャンパス教育支援センターにある）に記入すること。（手続き方法や指定科目、単位認定等の詳細については年度初め等のガイダンス時に周知するので、各自確認すること。）
- (6) 履修登録期間後の科目の変更・追加登録は原則として認められないので注意すること。
- (7) 2年次以降の履修登録の際には、さらに、次のことに注意すること。
 - (a) 履修する科目は初めての履修、再履修を問わず、すべて登録すること。
 - (b) 低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は、低学年の科目を優先して履修すること。
 - (c) 一度履修して合格した授業科目の評価は変更しないので、充分注意すること。
（一度合格し、成績のついた科目は再履修できない）。
- (8) 休学中の当該学期の履修登録科目については、自動的に削除されるので注意すること。

⑤TAP 参加学生の履修登録の例外

TAP 参加学生については、以下の科目の1年次前期における履修を認める。

- ・環境マネジメント学科の TAP 参加学生（5 科目）
「画像処理技法」、「ランドスケープ論」、「環境化学」、「環境緑地学」、「住環境システム」
- ・社会メディア学科の TAP 参加学生（2 科目）
「メディアと表現」、「メディア文化論」

⑥大学院先行履修制度

- (1) 本大学では、学部在学中に、大学院修士課程の授業科目を先行履修することが出来る（ただし在学年次、受講資格等制限がある）。
- (2) 本大学院に進学後、各研究科各専攻において、修得した単位を「10 単位」を超えない範囲で認定することができる。
申請手続等詳細は、横浜キャンパス教育支援センターで確認すること。

4. 授業時間について

各時限の授業時間は次のとおりである。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時 間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

5. 休講について

- (1) 学校行事や担当教員の都合などにより授業を休講とする場合がある。
その場合は事前に教育支援センターのプラズマディスプレイおよび横浜キャンパスホームページポータルサイト（Web 情報提供）にて連絡する。（単位互換科目等は、通常の掲示板にて周知する場合がある。）
- (2) 「休講」の連絡や、その他特段に指示がなく、授業開始時間から30分以上遅れても授業が行われない場合には「休講」の扱いとする。

6. ストライキ等により交通機関が運用を停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置について

(1)交通機関がストライキ等により運行を停止した場合

- ①横浜市営地下鉄または東京急行電鉄（田園都市線）がスト等により運行を停止する場合
次の段階によって授業措置が異なる。

(1)	午前6時までにスト等による運行停止が解除された場合。	⇒	平常どおりの授業を行う。
(2)	午前9時までにスト等による運行停止が解除された場合。	⇒	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う。
(3)	午前9時までにスト等による運行停止が解除されない場合。	⇒	全日休講とする。

- ②横浜市営地下鉄および東京急行電鉄（田園都市線）がスト等により運行を停止しない場合
JR東日本の電車その他が、スト等により運行を停止しても、授業は平常どおり行う。

(2)台風による暴風警報が発令された場合

東京地方（23区西部、23区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発令された場合、
次の段階によって授業措置が異なる。

(1)	午前6時までに暴風警報が解除された場合。	⇒	平常どおりの授業を行う。
(2)	午前9時までに暴風警報が解除された場合。	⇒	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う。
(3)	午前9時までに暴風警報が解除されない場合。	⇒	全日休講とする。

(3)その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講じる場合がある。

(4)上記の措置を行う場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自で確認すること。

7. 試験について

①試験の種類

試験は、「科目試験」、「再試験」、「卒業試験」とからなっている。

②試験の内容

《科目試験》

「科目試験」は定期試験として前期末および学年末に全学一斉に行い、これとは別に担当教員によっては、中間試験その他を行うことがある。また担当教員の意志によりレポート、論文をもって試験に替える場合がある。

受験に際しては次の事項に留意すること。

(1)試験科目、試験の日時および場所は予め掲示する。（その際に受験についての注意事項を併せて掲示する。）

(2)次の何れかに該当する者は試験を受けることはできない。たとえ受験しても無効とする。

- (a) 科目の履修申告をしていない者
- (b) 出席不良のため受験停止を命ぜられた者
- (c) 学生証を所持しない者
- (d) 試験開始後20分以上遅刻した者

(3)受験の際は学生証を必ず机の上に置かなければならない。

(4)試験開始後30分以内の退場は許可しない。

(5)病気・負傷、大学に向かう途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は、欠席届に診断書又は証明するものを添えて教育支援センターに提出しなければならない。

担当教員の判断により、追試験を行う場合がある。詳細は教育支援センターで確認すること。

《再試験》

(1)4年次に在籍し、かつ卒業研究着手者（卒業研究修得済者を含む。）を対象とする。

(2)各期末に卒業予定（見込み）の者。

(3)各期成績確定後、「不可」となった科目について、一定の条件の下、申請して再度受験し直すことが出来る。

（科目数等制限があるので、詳細は各自掲示板で確認すること。）

《卒業試験》

(1)卒業研究着手の条件（後述 **12. 卒業研究着手の条件について** 項を参照）を充たしていない者は卒業研究に着手するこ

とはできない。

- (2)卒業試験は、各指導教員に分属して指導を受けた論文、文献調査、実習報告等の卒業研究につき、その作成経過を加味して行う。

③試験の際に不正を行った者の取り扱い

本学部学生が、試験（単位互換により、本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合、「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い、「**当該学期に実施する全ての科目試験の評価を不可（0点）にする**」とともに、「**10日以上停学または退学**」とする。

- (1) 試験には、大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他、担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や、クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし、これらのすべてを「当該学期に実施する全ての科目試験」として取り扱う。
- (2) 停学の期間は在学年数に算入する。
- (3) 処分の内容は決定後公示する。
- (4) 停学の場合の執行開始は学内会議において処分の決定した翌日からとする。

（注） 1. 下記のような場合は不正行為と断定する。

- (a) 代人に受験させた場合。
- (b) 他人のために答案、メモ等を書いたり、他人に答案、メモ等を書いてもらったりしている場合。
- (c) 持ち込みを許可されていない教科書、参考書、ノート、メモ等を見たと認められる場合。
- (d) 他人の答案を見たと認められる場合。
- (e) 他人に自己の答案を見せたと認められる場合。
- (f) 言語、動作をもって互いに連絡している場合。
- (g) 教科書、参考書、ノート等を参照してよい場合に、これらを互いに貸借している場合。
- (h) その他、試験監督者および出題者が不正と判断する行為。

（例えばメモ、ノートを机上においている場合や所持している場合等）を行った場合。

（注） 2. 不正行為は試験場で指摘された場合に限らず、採点の際に発見された場合も同様の扱いを受ける。

（注） 3. 処分を受けるとはほぼ確実に1年以上の卒業延期となる。

④試験時間について

定期試験の試験時間は次のとおりである。

なお、**各時限60分**を原則としており、平常の授業時間（前述**5. 授業時間について**）と異なるので充分注意すること。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
時間	9:00～10:00	10:20～11:20	11:40～12:40	13:40～14:40	15:00～16:00	16:20～17:20

8. 成績について

①成績の発表

- (1) 科目試験の結果は8月下旬（クォーター開講を含む前期配当科目）と、3月下旬（クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目）の2回発表する。
- (2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとする。
- (3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は、3月に本学内に掲示する。

②成績の評価

学業成績の評価を、秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）の5段階に分け、秀、優、良、可を合格とする。

※採点不可能な場合、（授業に出席していない、定期試験を受験していない等、判断する材料がない場合等）は、「欠席」評価となる場合がある。

③成績順位（席次）の算出方法

成績順位（席次）の算出方法は以下のとおりである。

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）方式とし、以下の計算式で算出する。

$(4 \times \text{秀の単位数}) + (3 \times \text{優の単位数}) + (2 \times \text{良の単位数}) + (1 \times \text{可の単位数})$ の合計 = 評定値

履修登録した単位数の合計

- (1)対象となる科目は「卒業要件対象科目」とする。(教職課程や特別履修で卒業要件非加算科目は対象外)
- (2)評定値算出では不合格科目も対象とする。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のG Pのみ最新評価結果に変更して算出する。
- (4)前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母(履修単位数)に含めない。
- (5)評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。

9. 単位修得状況や成績に関する指導について

① 単位修得状況による指導

1年次前期終了時に修得単位が10単位未満の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行う。また、**1年次終了時に修得単位が20単位未満**の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。なお、いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含めない。また、途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

2年次の終了時に修得単位が40単位未満の者に対しては、自主退学勧告を含んだ強力な指導を行う。

(ただし、休学がある場合はその期間は除かれる。)

② GPAによる指導

各年次終了時に、GPAが0.6未満の者には、退学勧告を行う。

10. 3年次進級要件について

メディア情報学部は、下記の条件を満たしていなければ3年次に進級することができない。

環境学部の学生はこの限りではない。(ただし、3年次に進級は出来るが、70単位を修得していなければ、「事例研究」に着手することが出来ない。後述参照)

① 70単位以上修得していること。(必選問わず)

なお、単位の加算を認められたもの以外の特別履修科目と、教職課程の教職に関する科目の内、卒業要件非加算科目の単位は含めない。

② 2年以上(24ヶ月)在学(休学期間は在学年数に含めない。)していること。

11. 「事例研究」着手の条件について

3年次になると各学科各指導教員の研究室に所属して、「事例研究」に着手するが、下記の条件を満たしていなければ着手は認められない。(但し3年次編入学生を除く。)

従って卒業研究着手条件にも連動して卒業は延期される。又、「事例研究」に着手したが、単位未修得になった場合には、次年度改めて、「事例研究」再配属手続きを執行することが必要になるので充分注意すること。

① 70単位以上修得していること。(必選問わず)

なお、単位の加算を認められたもの以外の特別履修科目と、教職課程の教職に関する科目の内、卒業要件非加算科目の単位は含めない。

② 2年以上(24ヶ月)在学(休学期間は在学年数に含めない。)していること。

12. 卒業研究着手の条件について

4年次になると各学科各指導教員の研究室に所属して、論文・文献調査・演習等の「卒業研究」に着手するが、下記の条件を満たしていなければ卒業研究着手は認められない。従って卒業は延期される。

① 100単位以上を修得していること。

なお、単位の加算を認められたもの以外の特別履修科目と、教職課程の教職に関する科目の内、卒業要件非加算科目の単位は含めない。

② 「事例研究」および2年次までの必修科目を全て修得していること。

・環境創生学科 : 学部共通科目1年次7科目(10単位) 2年次2科目(2単位)、専門基礎科目1年次2科目(4単位)、学科基盤科目1年次4科目(8単位) 2年次1科目(2単位)、事例研究(4単位)

- ・環境マネジメント学科：学部共通科目1年次7科目（10単位）2年次2科目（2単位）、専門基礎科目1年次2科目（4単位）、学科基盤科目1年次3科目（6単位）、事例研究（4単位）
- ・社会メディア学科：学部共通科目1年次7科目（10単位）2年次2科目（2単位）、専門基礎科目1年次3科目（6単位）、学科基盤科目1年次1科目（2単位）、事例研究（4単位）
- ・情報システム学科：学部共通科目1年次5科目（6単位）2年次2科目（2単位）、専門基礎科目1年次1科目（2単位）、学科基盤科目1年次7科目（14単位）2年次1科目（2単位）、学科専門科目2年次1科目（2単位）、事例研究（4単位）

③ 3年以上（36ヶ月）在学（休学期間は在学年数に含めない）していること。

（但し外国人留学生および編入学生、転学部生については上記①の条件に加え、「事例研究」の単位を修得していることとする。）

注意：「卒業研究」は学年始めの4月から始まる。年度途中に着手条件を満たしても、着手は翌年度4月となる。

また、3年次終了時までに短期間でも休学期間があると、③の条件が満たせず、着手は翌年度4月まで延期されることになるので十分注意すること。

13. 他学科、他学部、他大学等の履修について

環境学部ならびにメディア情報学部では、一部の科目を除き、同学部内他学科開講科目の履修、および本学他学部開講科目の履修を認めている。また、現在、東京理工系4大学および横浜市内大学間で、相互履修（単位互換）を実施している。申請手続き等の詳細は、年度始めのガイダンス時に周知するが、履修可能な科目と認定単位数は以下のとおりである。

<環境学部>

同学部他学科の科目認定について

自学科の「専門基礎科目」・「専門科目」として設定されていない他学科の専門科目を履修した場合は、その単位を6単位まで、卒業要件となる「専門基礎科目」「専門科目」に算入することができる（算入区分は履修した科目の科目区分と同一）。

6単位を超えるものについては、「自由選択科目」に算入することができる。

他学科の「演習科目」は原則として履修することはできない。ただし、*他学科の研究室を配属希望できる条件を満たしており、かつ実際に他学科の研究室を希望した学生は、どの研究室に配属されるかに関わらず、演習担当の教員が許可したならば履修することができる。*条件等、詳細は別途説明を行う。

他学科の「事例研究」、「卒業研究」の履修には制限および条件を設ける。詳細は別途説明を行う。

本学他学部／理工系4大学*1／横浜市内大学*2 単位互換の科目認定について

他学部の「事例研究」「卒業研究」および『教職課程の開講科目』等は履修することはできない。

その他の科目(他大学の科目は、年度初めに指定された科目に限る)は、科目担当教員の許可を得て履修することができる。

修得した単位は「自由選択科目」として卒業要件に算入することができる。

本学部・学科設置科目と類似した科目の履修を認めるかどうかは個別に判断する。

*1「理工系4大学」

工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学

*2「横浜市内大学」

神奈川大学・関東学院大学・国学院大学・鶴見大学・桐蔭横浜大学・東洋英和女学院大学*・フェリス女学院大学*・明治学院大学・横浜国立大学・横浜商科大学・横浜市立大学
(*東洋英和女学院大学・フェリス女学院大学での履修は女子のみ)

<メディア情報学部>

同学部他学科の科目認定について

自学科の「専門基礎科目」・「専門科目」として設定されていない他学科の専門科目を履修した場合は、その単位を「自由選択科目」に算入することができる。

他学科の「演習科目」は原則として履修することはできない。

他学科の「事例研究」、「卒業研究」等は履修することはできない。

本学他学部／理工系 4 大学*1／横浜市内大学*2 単位互換の科目認定について

他学部の「事例研究」、「卒業研究」等は履修することはできない。

その他の科目(他大学の科目は、年度初めに指定された科目に限る)は、科目担当教員の許可を得て履修することができる。
修得した単位は「自由選択科目」として卒業要件に算入することができる

本学部・学科設置科目と類似した科目の履修を認めるかどうかは個別に判断する。

教職課程履修者に限り、メディア情報学部の学修要覧に記載されている『教職に関する科目』と同一名称の科目のみ、世田谷キャンパス開講の同科目を履修することができる。

*1「理工系 4 大学」 工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学

*2「横浜市内大学」

神奈川大学・関東学院大学・国学院大学・鶴見大学・桐蔭横浜大学・東洋英和女学院大学*・フェリス女学院大学*・
明治学院大学・横浜国立大学・横浜商科大学・横浜市立大学
(*東洋英和女学院大学・フェリス女学院大学での履修は女子のみ)

①履修の手続きについて

- (1) 上記の科目を履修する場合は、通常の履修登録（Web による登録）ではなく、以下の種別毎の専用用紙・申請書（a は「授業時間表」に添付）に必要事項を記入し、期限までに横浜キャンパス教育支援センターに提出し、申請すること。
- (2) 他学部の科目を申請する場合は、第 1 回目の授業において、科目担当教員の許可印を必要とする。
- (3) 履修にあたっては、横浜キャンパス教育支援センターに備え付けてある他学部等の「学修要覧」・「教授要目（シラバス）」・「授業時間表」等を参考にすること。

単位互換の種別	申請様式	申請時期	備考
a. 本学他学部 (本人の所属以外の学部) 開講科目	当該科目を開講している 学部用の特別履修申告書 (キャンパス毎に用紙が 異なるので注意すること)	各年度前期および後期始め	第 1 回目の授業で担当教員の 許可印を必要とする。
b. 横浜市内大学開講科目	各大学指定申請書	各年度前期始め	後期開講科目も前期に申請。
c. 東京理工系 4 大学開講科目	(横浜キャンパス教育支援 センターに申し出ること)	各年度前期および後期始め	

②履修の制限について

- (1) 自己より上級学年の配当科目は履修できない。
- (2) 履修順序の指定がある科目で、前提となる科目を履修していない場合は、当該科目を履修することはできない。
- (3) 履修希望者が多く、履修人数を制限する場合は、当該学部等の学生が優先される。
- (4) 上記に限らず、科目担当教員が許可しない場合は履修できない。

③履修科目の試験日程及び成績評価は、他学部、他大学等の日程及び基準による。

14. 修業年限および卒業延期について

①修業年限

学則第 16 条「在学年数及び在学年限」及び第 45 条「卒業及び単位」

本学を卒業するためには 4 年以上在学しなければならない。

4 年を超え在学し、なお卒業できない場合でも在学年数は 8 年を超えることはできない。

ただし、休学中の期間は在学期間に加えない。

②卒業延期

学則第 46 条「授業料等」

4 年を超え在学する場合は、4 月 30 日までに定められた所定の学費を納入しなければならない。

履修届出については前年度までの方法と同じである。

なお卒業延期者に対しては、科目試験については学期末毎に、卒業試験（卒業研究）については、過去に卒業研究を履修し不可となった者に限り 2 ヶ月毎に審査が行われて卒業に必要な条件が満足されれば、前者については学期末に、後者については 2 カ月毎の月末に卒業資格が認定される。

東京都市大学オーストラリアプログラム (TAP)

TOKYO CITY UNIVERSITY AUSTRALIA PROGRAM 【TAP】



1. TAPが目指す人材像

都市大の伝統である実践的な専門力を有した国際人がTAPの目指す人材像である。
「英語で学び、英語で考え、英語で議論する」を達成目標とする。

2. TAPの目標

TAPは、1年次の準備教育と2年次の5か月間の留学を合わせた2年間に亘る本学独自の国際人育成プログラムである。このプログラムを通じて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った、時代に柔軟に対応できる人材を育てる。留学先の西オーストラリア州は、アジア、ヨーロッパ、アフリカなどのさまざまな国の出身者が暮らす多様性に富んだ州であり、このような恵まれた環境の中で、学生は国際人としてグローバルに活躍するために語学力と異文化を理解する力を磨きながら、自主性や自立心を高める。

3. プログラム概要

1年次の準備教育として、語学準備講座と留学準備研修を提供する。2年次の5か月間は、西オーストラリア州パース近郊にあるエディスコワン大学（以下ECU）に留学し、英語と教養科目を中心に学ぶ。

(1) 参加対象学部学科・募集定員・派遣期間（平成28年度入学者）

工学部 全8学科	定員80名	サイクルB	2017年8月～12月
知識工学部 情報科学科+自然科学科	定員15名		
環境学部 環境創生学科	定員15名	サイクルA	2017年2月～6月
環境学部 環境マネジメント学科	定員10名	サイクルB	2017年8月～12月
メディア情報学部 社会メディア学科	定員15名	サイクルA	2017年2月～6月
メディア情報学部 情報システム学科	定員5名	サイクルB	2017年8月～12月
都市生活学部 都市生活学科	定員90名	サイクルA	2017年2月～6月
人間科学部 児童学科	定員2名		

(2) 派遣先

エディスコワン大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース近郊）

(3) 参加費用

- 90万円 ・準備教育、航空運賃、学生寮、教材費、査証取得費用などを含む。
・支払い時期については、募集説明会時に詳細を説明する。

4. プログラム内容

1. 準備教育 < TAP in Japan >

2年に亘る、日本での準備教育とオーストラリアでの体験を通しての国際人育成プログラムがTAPの魅力である。留学前の準備教育では、語学準備講座と留学準備研修の2つのプログラムが提供される。

1-1. 語学準備講座 < Preparation for English >

出発までに、TOEIC550点以上の取得を目指し、ネイティブスピーカーによるレッスンを週5日、オーストラリア留学に備えて合計100回のレッスンを受ける。レッスンは授業期間中の空き時間に行われ、その内容は「読む・書く・聞く・話す」の4技能の習得に加え、プレゼンテーションスキルなども磨く。

1-2. 留学準備研修 < Global Personnel Training in Japan >

国際人として成長するための準備として、異文化理解やコミュニケーション能力を高めるためのプログラムを提供する。研修会は、原則月1回開催予定である。その内容は、ゲストスピーカーによる講演会、危機管理セミナーなどに加え、異文化理解のためのグループワークなども行う。また、現地で日本文化を紹介するための準備も予定している。

2. オーストラリア留学 < Study Abroad at ECU >

1年次終了の2月から（サイクルA），または，2年次の8月から（サイクルB），約5か月間ECUに留学する。最初の9週間キャンパス内の語学学校で他国の留学生とともに英語のスキルを上げるために参加する。

その後の7週間は国際人として必要な教養を身につけるため以下の科目を学ぶ。

ECUにおける授業科目

			環境学部	メディア情報学部
			単位区分	単位区分
英語科目 English Language Education	Academic English (1)	3 単位	教養科目	教養科目
	Academic English (2)	3 単位	教養科目	教養科目
	Academic English (3)	3 単位	教養科目	教養科目
	Academic English (4)	3 単位	教養科目	教養科目
	Academic English (5)	1 単位	サイクル A： Reading & Writing (2) サイクル B： TOEIC Preparation	サイクル A： Reading & Writing (2) サイクル B： TOEIC Preparation
教養科目 General Education	Collaborative Design	2 単位	専門基礎科目	専門基礎科目
	Social, Cultural and Media Studies	2 単位	教養科目	専門基礎科目
	International Relations	2 単位	教養科目	教養科目
	サイクル A： Urban Observation	2 単位	専門科目	専門科目 学科基礎科目
	サイクル B： Introductory Applied Mathematics	2 単位	専門基礎科目	専門基礎科目

※TAP（オーストラリア）で履修した科目の成績を本学部の GPA に含める。

3. 現地での過ごし方

留学中はECUキャンパス内にある学生寮に滞在する。約5か月の長期滞在のメリットを生かし、現地学生や他国の留学生と交流を深めることができる。また、現地では、ECUの学生団体主催のイベントや寮主催のイベントなど参加したりして充実したアクティビティを体験することも可能である。さらに、TAP参加者対象のアクティブプログラム事業（以下LBA）を利用した自発的な活動により、多くの現地での交流の機会を得ることができる。

4. 帰国後の過ごし方

留学前及び留学後は、TOEICテストを受験することにより、自分がどれだけ成長したかを確認することができる。帰国後、3年生になると、海外インターンシッププログラム、協定大学への交換留学及び各学部学科主催の海外フィールドワーク研修などにチャレンジする機会がある。そのためにも、TAPでは、語学力の向上を目指して努力してほしい。

5. TAPの参加方法

1年次4月の入学オリエンテーション期間中に、TAP参加募集説明会を開催する。その説明内容をよく理解した上で参加を検討することとなる。参加を希望する場合は、4月初旬から中旬までの募集期間の間に、申し込みをする。TAPは定員232名の選抜制なので、その結果は、申し込み締め切り日の翌週に、窓口及びポータルサイトで発表する。参加が認められたら、所定の手続きを行い、準備講座に参加することとなる。

6. 奨学金制度

学校法人五島育英会「夢に翼を奨学金」より、TAPに対して次の奨学金制度がある。

(1) TAPアワード

参加人数の上位20%の学生に奨学金が給費される。この奨学金は、語学準備講座の成績、TAPに参加しECUで修得した成績、留学後のTOEICテストなど大学が指定した英語能力テストの成績及び出席状況などを基に総合的に審査した結果、成績上位20%の以内の人物優秀なものに対して奨学金を給費する（帰国後の給費となる）。

(2) LBAサポート

豪州留学中の学生（個人又はグループ）による自発的な事業（アクティブプログラム事業 Let's be Active in TAP（以下LBA））に対して、審査の結果採択された場合に奨学金を給費する。



勉学の指針

教育課程表

科目概要

学部共通科目

基礎科目

■外国語科目

(英語・第2外国語) ■

■体育科目■

■教養科目■

環境創生学科専門科目

環境創生学科で学ぶにあたって

■学科専門科目■

環境マネジメント学科専門科目

環境マネジメント学科で学ぶにあたって

■学科専門科目■

学部共通科目

環境学部・メディア情報学部の授業は、横浜キャンパスの両学部共通の『基礎科目』、および学科独自の科目である『専門基礎科目』『専門科目』に分類されている。以下に科目区分毎の特色と内容を示す。なお、カリキュラムは原則として入学時の年度のもので卒業まで適用されるため、詳細については、本学修要覧「教育課程表」並びに「履修要綱」等を必ず熟読し、卒業まで大切に保管すること。

基礎科目

『基礎科目』は全キャンパスの全学生にとっての共通科目である。この中の＜外国語＞科目では、十分な英語読解・作文・会話能力の習得が可能になるよう配置され、その他の外国語も選択できる。とくに英語については、全キャンパス共通のカリキュラムによって、東京都市大学を卒業するすべての学生に一定の英語力を担保する「東京都市大学スタンダード英語教育実践」にもとづいて展開されている。＜体育＞科目は集中講義を含む4科目の実習科目が配置されており、これも全キャンパスで同じカリキュラムを配置している。

＜教養＞科目は、人文学系、社会科学系、人間科学系、自然・情報科学系などから成り、幅広い教養を身につけることを目指している。また基本的な情報リテラシーに関わる科目や、海外、企業等、学外との連携の中で学ぶ実習科目を含んでおり、これからの社会に求められる適応力や総合力など、人間的な成長を支援する科目を配置している。

■外国語科目（英語・第2外国語）■

＜外国語科目＞は、1年前期から2年後期に開講される必修の英語科目（6科目6単位）と、選択の英語科目（19科目38単位）、および第2外国語科目として中国語、韓国語の2か国語（計8科目8単位）からなる。

必修の英語科目については、入学時に基礎学力調査を実施し、その成績をもとにクラス分けを行う。「必修科目」は、1年次開講の4科目4単位と、2年次開講の2科目2単位であり、各学期末試験期間に全学統一試験（東京都市大学スタンダード英語教育実践）を実施する。なお、語学はすべて演習科目なので出席不良は認められない。成績不良などで単位を修得できなかった英語の必修科目は原則として再履修者専用クラスを受講することになっている。

また、2年次後期開講科目「TOEIC Preparation」では、学期末に行われる「TOEIC」に準拠した試験で TOEIC400 点相当の基準点を超えることが単位認定の条件となる。また、学期中に TOEIC を受験し基準以上の点数を取得した学生は、取得した点数に応じた成績とともに単位が付与される。

「選択科目」には、19科目（別掲）38単位が準備されており、そのうち、2016年度は「アカデミック・イングリッシュ・セミナー」「英語文法トレーニング」「英語読解力養成」「Advanced TOEIC」「キャリア・イングリッシュ」「ニュースを英語で読む」「映画で学ぶ英語」「Cultural Comparison」、「Modern Society」の9科目18単位が横浜キャンパスで開講予定である。他の選択科目は、世田谷キャンパス（工・知識工学部）または等々力キャンパス（都市生活学部）での開講となる。また横浜キャンパスで開講する選択科目は年度によって変更する可能性があるため、履修を希望する際には、履修申告手続き等に十分注意すること。

また、横浜キャンパスでは「第2外国語科目」として、「中国語」(1)～(4)、「韓国語」(1)～(4)（それぞれ1単位）を設けている。「第2外国語科目」に興味があり、その他の外国語（ドイツ語やスペイン語など）を履修したい場合には、世田谷キャンパス（工学部、知識工学部）や、他大学との単位互換制度（横浜市内大学単位互換、東京理工系単位互換）などを利用して習得されたい。

なお、「外国語」は、1年次の必修の英語科目4科目4単位、2年次の2科目2単位の合計6単位が卒業要件（前述）であり、その他の「選択科目」と「第2外国語科目」は、自由選択科目として単位認定されることになるので、注意すること。

詳細については、各自入学年度の学修要覧「教育課程表」並びに「履修要綱」を熟読のこと。

■体育科目■

＜体育＞科目は、「基礎体育(1)」、「基礎体育(2)」、「応用体育(1)」「応用体育(2)」が開設されている。これらの科目を履修し、単位修得した場合は、自由選択科目として認定される。

■教養科目■

＜教養＞科目は、情報リテラシー、人文・社会・自然科学、学外連携型の学習など、幅広い教養と多様な実践的な学習のために、横浜キャンパスでの開講 24 科目と、他キャンパスでの開講 49 科目を配置している。履修にあたっては、特定の学系に科目履修が偏らないよう、バランスよく科目登録することを推奨する。卒業要件は 10 単位である。

情報リテラシーに関わる科目では、特にキャンパス内に先端的な高速ネットワークと情報機器を整備しており、演習の充実により、すべての学生がこれらの設備を自由にツールとして駆使できるようにすることを目標としている。

具体的には、1 年前期には全学生必修の「情報と社会」（2 単位）に加え、環境学部、およびメディア情報学部社会メディア学科については、キャンパスのネットワークを学ぶ「情報リテラシー演習」、および情報技術の基本を学ぶ「情報通信技術入門」を必修科目として配置している（情報システム学科ではいずれも選択科目）。また 1 年後期には選択科目として「情報編集入門」を配している。

人文・社会・自然科学にわたる科目としては、「心理学入門」「社会学入門」「現代の物理」「社会とジェンダー」、「科学技術と社会」など、幅広い教養と総合判断能力を養うために学ぶべき授業科目が配置されている。

海外におけるフィールドワークを含む「海外フィールド演習」は中国、オーストラリア、ネパールなどで実施されているが、その内容や時期などについては、適宜開催されるオリエンテーションへの参加や掲示に注意すること。

インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度」である。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、このインターンシップを積極的に推進しており、受け入れ企業についても年々増加している。本学でも所定の条件を満たした場合、インターンシップに対して、「インターンシップ(1)」「インターンシップ(2)」で単位を付与する。インターンシップを検討している学生は、注意事項や単位認定についてまとめた「インターンシップ GUIDE」を熟読して、必要な手続きを行った上で参加する必要がある。参加機会を得た学生は目的意識をしっかりと持って、有意義な就業体験となるよう取り組むことによって、通常の授業とはまた異なる貴重な経験を得られよう。

また、学生が自発的な意思により、個人が持っている能力あるいは労力をもって、災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動で得られた体験や知見を活動報告書にまとめたものに対して、「ボランティア(1)」「ボランティア(2)」の単位を認定する。ボランティア活動に参加を検討している学生は「ボランティア活動ガイド（単位認定手続要項）」を熟読し、必要な手続きを行った上で参加すること。

なお、「特別講義」は適宜開講される。

他キャンパスでの開講科目を履修しようとする場合、キャンパス間のシャトルバスによる移動などの時間を考慮した計画を立てる必要があるので注意すること。

環境学部 教育課程表の注意事項

- 「学部共通科目」は、両学科共通として教育課程表を掲載している。
- 「専門科目」は、学科毎に教育課程表を掲載している。
- 週時間数の「2」時間は、100分授業（1授業時間）のことである。
- 週時間数の（ ）書きのものは、クラスにより前期または後期に配当される。
- 時間割編成等の運用上、開講時期や担当教員を変更する場合がある。

区分		授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備考	
					1年		2年		3年		4年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	外国語科目	Study Skills	○	1	2								YC開講	
		Communication Skills (1)	○	1	2								YC開講	
		Reading and Writing (1)	○	1		2							YC開講	
		Communication Skills (2)	○	1		2							YC開講	
		Reading and Writing (2)	○	1			2						YC開講	
		TOEIC Preparation	○	1				2					YC開講	
		アカデミック・イングリッシュ・セミナー		2	2	(2)							YC開講	
		海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)							SC開講	
		英語文法トレーニング		2			2	(2)					YC開講	
		英語発音・聴解トレーニング		2	2	(2)							SC開講	
		英語読解力養成		2	2	(2)							YC開講	
		Advanced TOEIC		2	2	(2)							YC開講	
		キャリア・イングリッシュ		2	2	(2)							YC開講	
		サバイバル・イングリッシュ		2	2	(2)							SC開講	
		英語でライティング&プレゼンテーション		2	2	(2)							SC開講	
		ニュースを英語で読む		2	2	(2)							YC開講	
		スポーツで学ぶ英語		2	2	(2)							SC開講	
		映画で学ぶ英語		2	2	(2)							YC開講	
		文学で学ぶ英語		2	2	(2)							SC開講	
		音楽で学ぶ英語		2	2	(2)							SC開講	
		Cultural Comparison		2	2	(2)							YC開講	
		Modern Society		2	2	(2)							YC開講	
		科学技術英語		2	2	(2)							SC開講	
		外国語特別講義(1)		2	2	(2)							SC開講	
		外国語特別講義(2)		2	2	(2)							SC開講	
		中国語（1）		1	2								YC開講	
		中国語（2）		1		2							YC開講	
		中国語（3）		1			2						YC開講	
		中国語（4）		1				2					YC開講	
		韓国語（1）		1	2								YC開講	
	韓国語（2）		1		2							YC開講		
	韓国語（3）		1			2						YC開講		
	韓国語（4）		1				2					YC開講		
	体育科目	基礎体育（1）		1	2								YC開講	
		基礎体育（2）		1		2							YC開講	
		応用体育（1）		1			2						YC開講	
		応用体育（2）		1				*2					集中講義	
	教養科目	人文学系	哲学（1）	G		2	2							SC開講
			哲学（2）	G		2		2						SC開講
			倫理学（1）			2	2							SC開講
倫理学（2）					2		2						SC開講	
倫理学					2		2						YC開講	
文化人類学					2		2						SC開講	
視覚芸術史（1）			G		2	2							SC開講	
視覚芸術史（2）			G		2		2						SC開講	
デザイン概論（1）			G		2			2					SC開講	
デザイン概論（2）			G		2				2				SC開講	
文学			G		2	2							SC開講	
日本文学			G		2			2					TC開講	
西洋史（1）			G		2	2							SC開講	
西洋史（2）			G		2		2						SC開講	
民俗学			G		2		2						SC開講	
比較文化史			G		2	2	(2)						YC開講	
宗教学			G		2	2							SC開講	

*開講キャンパスは年度により変更になる場合があるので、各年度の授業時間表で確認すること。

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目
「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付している。

区分		授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備考
					1年		2年		3年		4年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	社会科学系	社会学（１）		2	2								SC・TC開講
		社会学（２）		2		2							SC・TC開講
		社会学入門		2	2								YC開講
		経済学（１）		2	2								SC・TC開講
		経済学（２）		2		2							SC・TC開講
		日本経済論	G	2					2				YC開講
		西洋経済史	G	2		2							SC開講
		政治学（１）		2	2								SC開講
		政治学（２）		2		2							SC開講
		日本の政治	G	2			2						YC開講
		行政史	G	2	2								SC開講
		国際関係論（１）	G	2	2								SC・TC開講
		国際関係論（２）	G	2		2							SC・TC開講
		法と市民（憲法を含む）		2		2							YC開講
		法学		2	2								SC開講
		民法		2		2							SC開講
		人文地理学		2	2								SC開講
		現代中国論	G	2		2							SC開講
	人間科学系	教育学（１）		2	2								SC開講
		教育学（２）		2		2							SC開講
		心理と生理		2	2								SC開講
		文化とパーソナリティ		2		2							SC開講
		学習と動機づけ		2	2								SC開講
		発達と教育		2		2							SC開講
		心理学概論		2	2								TC開講
		心理学入門		2	2								YC開講
		社会とジェンダー		2		2							YC開講
		国際化と異文化理解	G	2						2			TC開講
		日本文化の伝承	G	2		2							TC開講
		現代の疾病と食生活		2			2						TC開講
		演劇文化論	G	2					2				TC開講
		地域福祉論		2				2					TC開講
		スポーツ・健康論		2	2	(2)							YC開講
	自然・情報科学系	論理学（１）		2	2								SC開講
		論理学（２）		2		2							SC開講
		現代の物理		2			2						YC開講
		情報と社会	○	2	2								YC開講 情報システム学科のみ選択科目
		情報リテラシー演習	○	2	2								YC開講
		情報編集入門		2		2							YC開講
		情報通信技術入門	○	2	2								YC開講 情報システム学科のみ選択科目
		科学技術と社会	G	2				2					YC開講
		公衆衛生学		2						2			TC開講
		生活とメディア		2			2						TC開講
	その他	PBLによる産学協働演習		2	2								SC開講
		ボランティア（１）		1	2								YC開講
		ボランティア（２）		1		2							YC開講
教養ゼミナール（１）			2	2	(2)							YC開講	
教養ゼミナール（２）			2	2	(2)							SC開講	
教養特別講義（１）			2	2	(2)							SC・TC開講	
教養特別講義（２）			2	2	(2)							SC・TC開講	
キャリアデザイン基礎			2		2							YC開講	
海外フィールド演習		G	2		2							YC開講	
特別講義（１）			2	2								YC開講	
特別講義（２）			2	2								YC開講	
インターンシップ（１）			1		2							YC開講	
インターンシップ（２）			1			2						YC開講	

*開講キャンパスは年度により変更になる場合があるので、各年度の授業時間表で確認すること。

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目
「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付している。

科目概要 (2 年次以上配当科目のみ。1 年次配当科目は教授要目を参照のこと) (教育課程表掲載順に記載)

■ Reading & Writing(2)

各教員

Reading and Writing(2)

2年生前期

科目概要

様々なジャンルの英文を読み、それに関する意見を英語で書く練習をすることで、英語基礎力の補強、読解力・表現力の向上、論理的・批評的思考力の養成を図ります。全学共通のテキストを使用しますが、授業では同じ学習項目を共有しつつ、各教員がそれぞれの個性を生かした授業を行います。

履修心得

語彙、文法などの基礎力が不足している場合は、関連科目を履修したり、自学自習で補うことが求められます。

要望

自分の目標を設定して、その達成を目指して積極的に英語学習に取り組んでいきましょう。その中で英語を学ぶ楽しさをぜひ実感してほしいと思います。

■ TOEIC Preparation

各教員

TOEIC Preparation

2年生後期

科目概要

TOEIC 試験で高得点を獲得するための準備クラスとして、TOEIC 形式によるリーディング・リスニングを学ぶ。

履修心得

TOEIC 形式の問題に慣れておくことが重要である。

要望

TOEIC のスコアは本学学生の英語力を最終判定する基準となるだけでなく、就職の際にも企業が利用する英語力判定基準となっている。より良い点数をとるためには継続した努力が必要なため、早めに受験の準備することが望ましい。

■ 英語文法トレーニング

荒井 圭子

English Grammar Training

2年生前期

科目概要

英語の 4 技能の習得とその活用には語彙力と文法力が 2 本の柱となることを念頭に、基本となる文法事項が実際にどのように活用されまた活用していったらよいかをリーディング及びリスニング教材も用いて確認・学習してゆきます。実際に則した演習問題を通して実践的に文法を習得していくことを目指します。

Grammar and vocabulary are the two pillars of English that enable us to acquire four skills of the language (reading, writing, listening and speaking) and be competent to use them. This course will help students learn how basic English grammar works and how to use it in real-life situations through exercises including reading and listening practicing the grammar in context.

履修心得

特別な条件はありませんが、意欲をもって学習することが求められます。

要望

英文法トレーニングで、「英文法を知っている」から「英文法を使って英語が分かる、コミュニケーションができる」へ！

■ 英語文法トレーニング

篠原 有子

English Grammar Training

2年生前期

科目概要

このコースは英語の文法力の向上に特化したトレーニングコースである。英語の基礎力、特に文法知識を養うことを目的とする。

This course aims at improving students' English competence such as knowledge of grammar, brushing up on their basic skills of English.

履修心得

特別な条件はありませんが、意欲をもって学習することが求められます。

要望

演習を通して英文法の知識を高め、運用力のレベルアップを図ります。疑問は授業時に質問して解決するようにしてください。辞書を必ず持参すること。

■ 中国語(3)

黄 愛華

Chinese(3)

2年生前期

科目概要

基礎文法、基本表現の一部分

This course, based on the Chinese (1), (2), is designed to use the learned basic expression patterns to conduct dialogue on different situations. In addition to the language itself, the connected Chinese culture, customs will also be introduced in this course.

履修心得

教材についているCDをよく聞くこと

要望

少しレベルが高くなります。学習の成果も出る時期なので、頑張ってください。

■ 中国語(4)

黄 愛華

Chinese(4)

2年生後期

科目概要

国語の基礎文法、基本表現一通り終了。中国語検定準4級、4級問題に挑戦

This course, based on the Chinese (1), (2), (3), is designed to use the learned basic expression patterns to conduct dialogue on different situations. In addition to the language itself, the connected Chinese culture, customs will also be introduced in this course.

履修心得

学習したものを確実に自分のものになるよう心懸けましょう。

要望

レベルが高くなります。

中国語検定にぜひチャレンジしてください。

■ 韓国語(3)

李 ジョンソン

Korean(3)

2年生前期

科目概要

韓国語(1)、(2)で学んだ文法、文型、語彙などをもう一度確認しながら活用度の高い口語表現を用いて、「聞く、話す、書く、読む」練習をバランスよく学習していく。

履修心得

文字が読めて書けること。または、韓国語(1)か(2)を履修していること。

要望

授業に積極的に取り組むこと。

■ 韓国語(4)

李 ジョンソン

Korean(4)

2年生後期

科目概要

より自然な韓国語会話ができるように、これまで学習してきた文法、文型、会話などを体系的に整理し、対照言語学的視点から視

聴覚教材を使いつつ、日韓コミュニケーションスタイルの違いについても理解を深める。

履修心得

韓国語(1)か(2)を履修しているか、それ相当の韓国語能力を有すること。

要望

授業に積極的に参加すること。

■ 応用体育(1)

高瀬 武志

Advanced Physical Education(1)

2年生前期

科目概要

生涯スポーツとして適したバドミントン題材として、基本的な技術の習得とゲームに関するルールやマナーを学び、生涯にわたって楽しく快適にバドミントンが行える能力と態度を養うことを目的とします。

In this course, we would like to give you how to enjoy badminton in your life. We also would like to learn the basic skills, the rules, the manners while we are playing a lot of practical games. Have fun.

履修心得

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨んで下さい。

要望

毎年、履修希望者が多いため抽選を行います。従って、第一回目の遅刻者・欠席者は履修できません。

■ 応用体育(1)

久保 哲也

Advanced Physical Education(1)

2年生前期

科目概要

生涯スポーツとして適した硬式テニスを題材として、基本的な技術の習得とゲームの体験を通してスポーツ文化のもつパワーと魅力を学習する。自らの生涯スポーツの一つとして楽しめる能力を養うことを目的とする。

In this course, we would like to give you how to enjoy tennis in your life. We also would like to learn the basic skills, the rules, the manners while we are playing a lot of practical games. Have fun.

履修心得

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。

要望

毎年、履修希望者が多いため抽選を行っている。従って、第1回目の欠席者は履修できないことがあるので、希望者は遅刻をせずに必ず出席すること。

■ 応用体育(2)

久保 哲也

Advanced Physical Education(2)

2年生集中(後期)

科目概要

シーズン性に富んだスポーツを中心とした集中授業の中で、生涯にわたって親しむことができる種目を選択し、その技術の習得と共に自然との共生する態度を育成することを目的とする。また、工学部、知識工学部、都市生活学部、人間科学部と合同で行うので、学部を越えた交流も行なって欲しい。

The aim of this sport camp (ski& snow board) is to make the students acquire a skill and cultivate a good attitude in order to live close together with nature.

履修心得

3泊4日の集中授業であるため、全日程に出席することを条件とする。

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。

■ デザイン概論(1)

岡山 理香

Introduction to Design: Theory and History (1)

前期後半

科目概要

「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導けるよう本講義を行ないたい。そのため機能と形態の関わりを中心として、デザインという言葉あまり広くとりすぎないよう「もの」に即して考察していく。本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

履修心得

本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

要望

世の中にデザインされていないものは、あるのでしょうか?「口紅から機関車まで」(レイモンド・ローウィ)、人工物は全てデザインされていると言うこともできます。明日の世界を創造するために、デザインについて考えることはとても重要なことです。

■ デザイン概論(2)

岡山 理香

Introduction to Design: Theory and History (2)

後期後半

科目概要

本講義は「デザイン概論(1)」と関連し、もののデザインについて講義していく。特に、ここでは「日本再発見」というテーマで、日本のデザインに着目し、伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。デザインは、社会の動向と無関係ではないため、時事に即した問題についても随時とりあげる。

履修心得

本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

要望

日本のデザインは、世界から注目されています。ユニクロや無印が世界に出店しています。ヨーロッパでは、19世紀末に日本の美術・工芸・建築などに影響された「ジャポニスム」ブームがありました。ヨーロッパの人々を魅了した日本のデザインをよりよく知ってもらいたいと思います。よりよい世界の創造にデザインは大きな力を発揮します。

■ 日本文学

2年生前期

科目概要

文学は、自分が生きてきた背景や培ってきた価値観等に基づいて総合的に人間性を探究する営みである。人間には文学作品を読むことを通してしか学べないことがあり、読書習慣は生涯の心の支えになる。この科目では豊かな教養を身につけるために、科学とは異なる、文学独自の人間の捉え方を学ぶ。

世田谷を背景とする文学作品の読解を通して、地域の自然や環境、住民がどのように文学作品の中に描かれているのか探究しその価値を考える。また教科書掲載の一般によく知られた子どもの成長を描いた文学作品の読解を通して、子ども時代の感情と思考の経験を共感的に理解する。

履修心得

日常生活において読書に親しんでいること。他学科・他学年の学生とのグループワークができるコミュニケーション能力を有すること。

要望

世田谷ゆかりの文学者の作品等を通して、読書習慣を身につけて欲しい。文学散歩と文学館見学に積極的に参加し、地域と文学との関連性を体感して欲しい。

■ 日本経済論

大守 隆

Japanese Economy and Economics

3年生前期

科目概要

この科目は、日本経済について大学卒業者にふさわしい知識を身に付けるためのものである。日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと、財政、金融、地域、企業、雇用、エネルギー、環境などの分野別考察を行い、最後に全体をまとめる。

This subject enables students to acquire knowledge on Japanese economy at a level required for university graduates. The

current situation and challenges for Japanese economy will be discussed based on major relevant indicators. First, an overview on current situation and history will be presented to attract attention. After learning framework of economic policies, we look at Japanese economy from various viewpoints, covering fiscal, monetary, regional, business, employment, energy, environmental issues. Finally a wrap-up will be made.

履修心得

週に一度は新聞などのニュースを丁寧に読んで、日本経済で起きていることの自分にとっての含意を考えてみることにしよう。

■ 日本の政治

田中 善一郎

Modern Politics in Japan

2年生前期

科目概要

1945年の連合国の占領から今日までの日本の政治の歴史をいくつかの時代に区切り、それぞれの時代に見られた政治の特徴と政治運営の仕組みを解説する。

履修心得

特になが、毎日の新聞やテレビなどを通じて日本の政治のニュースに接することが望ましい。

要望

日本の政治の歴史や仕組みを理解することを通じて、これからも日本の政治を担うに足る人材に育ってほしい。

■ 国際化と異文化理解

3年生後期

科目概要

国際化が進む現代社会では、様々な文化背景の人々と関わり協力することが必須である。私たちの日常生活や子どもを取り巻く環境においても、異文化と多文化共生について理解を深める必要性は高まっている。日本の文化や保育について再認識し、異文化間で生じる問題と対処方法について理解を深めることを目指す。自分と異なる文化を持つ他の民族に関心を寄せ、尊重し理解すること、さらに幼児期の発達上の問題をふまえて実際に関わる方法を探る。

履修心得

グローバルな課題や文化の多様性についての関心。参加型の課題とグループワークに対する積極性。

要望

「自己について関心を深めること」「世界の様々な人たちの生き方に関心をもつこと」の両方を大切にしてください。この授業をきっかけに、世界と自分とのつながりについて考えてみたい方歓迎。

■ 現代の疾病と食生活

2年生前期

科目概要

医学の進歩や生活水準の向上に伴い感染症は減少している。しかし、人々の生命を脅かす疾病からの開放は困難であり、国民すべてが健康で長生きできるという保障は得られない。さらに、加齢に伴う慢性疾患は増加し、がん、脳血管疾患、心臓病および糖尿病などが死因順位のトップを占める。この原因となる好ましくない生活習慣（食習慣、運動、休養、喫煙、不規則な生活、痩身志向、ストレスなど）は若年期に始まり、一人暮らしなどの生活の変化がこれを助長する。この授業では、健康増進と疾病予防の観点から、食行動のみならず、様々な好ましい生活習慣が心と身体の健康にとってなぜ大切であるかという人間側からの理解を基に、健康上の問題が発生したときに好ましくない要因を回避する方策、生活行動の変容に結びつけるための基礎知識を学ぶ。

履修心得

健康に関連する科目を履修していることが望ましい。

要望

身体の健康にとって大切な食事や生活習慣を学んでほしいです。

■ 演劇文化論

3年生前期

科目概要

演劇という芸術をより深く豊かに鑑賞するための方法を知る。実際に劇場などで演劇鑑賞を通して、演劇芸術に触れる楽しさおもしろさを経験する。演劇についてDVD・ビデオ鑑賞を通して、さまざまな演劇について知る。これらのことを通して、演劇についての審美眼を養い、演劇の質について考える。特に、子どもを観客対象にした児童・青少年演劇鑑賞を通して、鑑賞教育の意義と目的について考える。

履修心得

特になし。

要望

演劇鑑賞を通して、笑ったり、泣いたり、共感したり、考えたりしながら、演劇という文化のおもしろさを経験してほしい。積極的に演劇鑑賞をしてほしい。

■ 地域福祉論

2年生後期

科目概要

この講義は、古くて新しい概念である地域福祉の思想と実践について学ぶ科目である。地域福祉は社会福祉における1分野であるというより、高齢者、障害者、児童のすべてに横断的に関わる福祉思想である。様々な領域に共通する新しい福祉サービスの在り方の体系とシステムを学ぶことは、地域主権・地方分権が叫ばれ、地域重視の傾向が加速化する今日において、地域コミュニティの形成および都市計画の立案にとっても欠くことのできない実践体系である。

履修心得

福祉問題の解決に興味・関心のある者

要望

地域福祉を学ぶことは一市民として社会で生活する上でも必要な教養である。また地域福祉を学ぶことで、様々な専門性分野を生かし統合し問題を解決し、社会的貢献ができる可能性がある。

■ 現代の物理

堀越 篤史

Contemporary Physics

2年生前期

科目概要

地球温暖化、原発問題、エネルギー問題など、現代社会はさまざまな問題に直面している。物理学は、こうした問題を考えるうえで基礎となる学問の一つである。本講義では、理系・文系を問わず、現代を生きる大学生が知っておくべき「物理学」を、さまざまな事柄を題材に解説する。

履修心得

高等学校で「物理」を履修している必要はない。

要望

本講義は、参考書として挙げた3冊をベースに組み立てられている。これらは読み物形式で書かれており、自習に最適であるため、予習・復習に役立てて欲しい。

■ 現代の物理

長田 剛

Contemporary Physics

2年生前期

科目概要

20世紀に大きな発展を遂げた現代の物理は、科学の多くの分野と関連し、環境や情報を含む技術の重要な基礎となっている。社会は科学と技術の発展を基に作られているので、誰でも物理学を学ぶことが望ましい。この講義では、大事で面白いテーマを、できるだけわかりやすく取り上げる。

Modern physics, which had dramatically developed in 20th century, is a grand basis for almost all other sciences including techniques of environment and information science. It is desirable for everybody to

learn modern physics since our society is constructed on the basis of development of science and techniques. This series of lectures consists of subjects that are important and interesting to people who live in today.

履修心得

特になし。

要望

受講生からの科学に関する疑問に答える形で授業を構成することも可能です。疑問、質問など遠慮なく長田まで知らせてください。

■ 科学技術と社会

大塚 善樹、川村 久美子

Science, Technology and Society

2年生後期

科目概要

現代の社会は、科学と技術の発展をもとに作られていて、科学と技術は社会に不可欠の要素である。しかし、一方で、科学技術は我々の意識の中で縁遠くなりつつあり、地域－地球環境問題のような負の影響も無視できない。この講義では、科学と技術の歴史をふまえ、それらと社会とのかかわりを具体的に考察する。

Modern society has been based on science and technology. Both are necessary for society, and for our daily life. However we have little chance to realize how science and technology related to our life, although they negatively influence through both local and global crisis for natural environment. In this lecture, we will consider the relationship between science/technology and society in detail, on the context of history, philosophy and science studies.

履修心得

特になし

■ 公衆衛生学

3年生後期

科目概要

共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的・社会的健康を保持・増進を図るため、母子保健、環境保健、産業保健・労働衛生、疾病予防、保健・福祉、健康教育、健康管理、衛生行政、医療制度および社会保障などの基本的概念を学ぶ。また、プライマリ・ヘルス・ケアおよびヘルスプロモーションの概念を学び、さらに、集団での各種疾病や中毒の予防、診断などについて、疫学、統計学などの技術を学び、科学的根拠に基づいたデータの評価方法を知り、応用として、健康教育・政策・管理が自ら立案できるよう学習する。具体的には、シラバスにそって、公衆衛生の観点に立って健康を意識し、視野を高めると同時に、自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育する。公衆衛生学の学習は、保育所や幼稚園など集団生活を営む機関において、特に就学前の成長・発達の著しい園児の健康の保持、増進を図る上で、極めて重要であるばかりでなく、そこで働く保育・教育者の健康の保持・増進においても、最も基本的で重要である。

履修心得

保健行政、予防医学、国際保健、健康学、福祉学、健康に関する興味

要望

この分野は社会情勢等で絶えず変化があるので最新の情報に常に意識すること。また、すべての保育者にとって公衆衛生マインドは必要である。

■ 生活とメディア

2年生前期

科目概要

講義では、日常的なメディアや、メディア利用状況をとりあげ、それらが私たちの生活にどのような影響を与えているかを論じる。具体的には、プリクラやケータイ小説、SNS といった、私たちの認識や思考に強く染み込んだメディアについて、認知科学や社会文化的観点から概説する。またあわせて、講義の後半では今日的な場のデザインや文化構築とメディアとの関係をとりあげる。

■ インターンシップ(2)

各教員

Internship(2)

2年生前期

科目概要

インターンシップとは、企業に行きつて定められた日数にわたって実務を体験することである。学生時代の勉強方法と実社会での仕事の進め方はかなり異なっているが、インターンシップによって、それらの違いを学生時代に体得できるといったメリットがある。また、就職を希望する企業が、どのような仕事をしているかを事前に知ることができる。

環境創生学科専門科目

人材の養成及び 教育研究上の目的

持続可能な社会の基盤である生態環境と都市環境ならびにそれらの相互関係性を理解するとともに、劣化した自然環境の保全・復元・創造や人間社会にとって快適で安全な都市空間創造についての理念と方法論を修得し、実社会において持続的な環境を創生する専門家として活躍する人材の養成を目的とする。

環境創生学科で学ぶにあたって

環境創生学科主任教授 田中 章

1. 環境創生学科

21 世紀の現在、我々人類は、生物多様性減少や気候変動などの地球生態系規模の環境問題から、地域や都市における野生生物や緑や水辺の減少、ヒートアイランド、大気汚染、水質汚濁などの地域あるいは都市生態系の諸環境問題に至るまでの多様なしかも増え続ける環境問題を抱えています。

環境創生学科は、これらの広範な環境問題に対して、自然科学を主に社会科学的アプローチも併せて、その解決のための知識と技術と方法論を身につけ、生態的に持続可能な社会の実現に向けて直接的あるいは間接的に貢献できる専門人材の育成を目指す学科です。

2. 教育目標

環境創生学科は、主に以下の知識や能力を修得することを教育目標とします。

- 自然環境、都市環境、地球環境に関する広範な教養と実社会で応用できる知識や技術を身につけること。
- 顕在化する環境問題を科学的に理解し、それらの問題解決のための方法論や政策を構想する能力を修得すること。
- 自然の持つ多様性を科学的に把握し評価する能力、それらを保護、保全、復元、創生する技術や方法論、生物多様性や風土を都市の人工環境に取り入れて快適で持続的な都市生態系を創生するための方法論やデザインを考える能力を修得すること。
- 持続可能な都市・地域環境を実現するために、環境情報の処理・共有技術、可視化技法、環境測定・分析・モニタリング技法を身につけること。
- グローバル化が進んでいるなか、国際社会の動向を的確に把握し、広い視野で科学的かつ独自の思考方法を身につけること。

3. 教育の特徴

環境創生学科の教育は、主に自然環境の保全や修復・創生を扱う「生態環境分野」と都市における種々の問題を把握し、人間及び人間社会にとって快適な都市空間を創生する「都市環境分野」から構成されており、フィールドを重視した徹底的な実践の専門教育が特徴です。一方、グローバル化に対応できる人材を育成するため、語学教育を重視し、海外研修プログラムや国際ワークショップなど多くの国際的な機会を通じて視野を広げるとともにグローバルなコミュニケーション能力の向上を図ります。さらに、パソコンレベルから専門的な GIS や CAD に至るまでの様々なコンピュータ技術、プレゼンテーション技術、ディスカッション技術など、実社会で求められる技術を教育します。

環境問題に立ち向かうためには、まず、大気、水、土地、野生生物、ヒトなどで構成される地域や都市の生態系およびそれらの各要素、各要素間の関係性などの基本的事項を科学的に理解することが必要です。これらの広範で複合的な内容を理解した上で、地域や都市の抱える環境問題の解決に直接的に関係する内容を学びます。例えば「生態環境分野」では原生自然や里山などの二次的自然さらには都市の水辺や緑地などの自然あるいは二次的生態系を把握し、評価した上で、保護・保全、修復・復元、創生するための知識と技術、「都市環境分野」では人間活動の環境負荷を減らしながらも快適な都市環境を実現するための知識と技術を学びます。

両分野ともに、地域や都市の様々な生態系要素の測定や観察などのフィールド技術やモニタリング技術、これらの

情報を分析、可視化、共有化する基礎的な技術に始まり、気候や自然や風土を利用する技術、壊れた生態系を復元あるいは創生する技術などの応用技術、また、これらの地域、都市、地球レベルの環境問題と人間社会や人間活動との関係性に関する意志決定や方法論、計画論などの政策レベルの知識や技術などを学びます。

3年次から卒業までの2年間は「生態環境分野」あるいは「都市環境分野」のいずれかの研究室に配属し、それぞれの研究室の専門的研究に取り組みます。3年次は事例研究（ゼミナール）を通して専門的な知識や技術を学びつつ、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を図ります。4年次（場合によっては3年次）からは、それぞれの研究室の専門分野の中から選ばれた具体的な研究テーマに沿って既往研究調査、現地調査、各種分析と考察、各種提案、実践的な活動などから構成される卒業研究に取り込み、最終的に卒業論文としてまとめ、卒業研究発表会にて発表し、大学に提出します。このような研究室での活動を通して、自主性、コミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決能力、チームワーク、リーダーシップ、創造的思考力、実行力などをより研鑽することになります。

4. 学修にあたって

環境創生学科の専門的な科目を学ぶ前に、「環境情報リテラシー」や「環境フィールド・計測演習」という環境創生学科の各研究室の専門領域を網羅的に紹介するオムニバス授業を筆頭に、数学や統計学、英語、情報系などの一般教養的分野を広く学び、「環境創生学」を学ぶ準備を十分にしておくことが重要です。

環境創生学科の専門科目は、専門的な学習の基礎を提供する「専門基礎科目」と専門的な内容を学ぶ「専門科目」に分かれています。「専門基礎科目」は、環境問題が理系と文系の両方の学際領域的なアプローチを必要とする課題であるため、幅広い分野の科目が用意されています。これらの科目では、できるだけ多くの科目を履修して自分の基礎的能力の幅を広げることが重要です。

「専門科目」は、「学科基盤科目」と「学科専門科目」から構成されています。「学科基盤科目」は環境創生学科の専門教育の基礎として重要です。「学科専門科目」は「生態環境分野」と「都市環境分野」に分かれており、3年次からの配属を希望する研究室の分野について集中的に修得すべき科目群です。

卒業後に自分の目指す人生や人間像を基に、自分の希望する研究室を見定め、その上でその研究室の専門分野に必要な科目を柱に戦略的に履修計画を立てることが望ましいでしょう。もっとも自分が興味をもった科目を履修したり、苦手意識のある科目に積極的に挑戦したりすることも良いでしょう。「卒業後の進路→研究室での研究→専門科目の履修計画」というように卒業後の人生設計から逆算して履修計画を立てることは極めて重要なことです。

5. 大学生活について

大学は長い人生の中で、その長い人生を楽しく充実した人生にするための準備としての学問や専門分野に専念する期間でもあり、青春ということでは人生の珠玉の時期でもあります。大学生活を充実したものにするために三つの提案をします。

一つ目は、大学生の本務は勉学である。縁あって環境創生学科の学生になったわけです。真剣に自分の将来の道を考え、それに見合う研究室を選び、その分野の勉学を最後までやり抜くこと。長い一生のうちたったの4年間です。卒業後、「あのときほど勉強したことはなかった」と言えるぐらい頑張ることが必要だと思います。「Never give up!」

二つ目は、環境分野にはバランス感覚とグローバルな見識が不可欠です。横浜キャンパスを出て、自分と同じような専門分野を目指している他大学の同じ世代の学生と交流することを積極的にやってほしいと思います。具体的には専門分野の学会に参加したり発表したり、専門分野の企業や行政でインターンシップしたりすれば機会があります。実社会において人と人の和ほど重要なことはありませんがまず己自身を知ることが重要です。「和して同ぜず」

最後は、親友をつくることです。大学時代以外でも親友はできますが、長い人生で自分の専門分野や就職先の業界などを理解してくれるのは同じ大学で同じ学問を学んだ学友だけです。そのため大学時代の親友は「一生の友」となることが多いのです。「類は友を呼ぶ」

以上、環境創生学科で学ぶにあたって、私が重要だと思う話をしてきました。失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦し、よく学びよく遊び、有意義で充実した大学生活を送ってください。

環境学部における科目区分の考え方

環境学部では複雑かつ広範囲に及ぶ環境問題に対処するために、高度な専門能力とともに学際的なアプローチも必要になる。この相反する目標を達成するために、基礎科目、専門科目の中間に、より学問領域の広い専門基礎科目を置き、三段階の教育課程を設定することを特色とする。

第一に、基礎科目では、東京都市大学で全学的に取り組んでいる共通教育科目としての外国語科目、体育科目、教養科目を設ける。この科目区分では、外国語によるコミュニケーション能力、最新の情報機器やソフトウェアを使いこなす能力を含む、グローバル化して科学技術が高度に進展している現代社会での生活や就業に必要なリテラシーを身につけさせる。

第二に、専門基礎科目では、環境問題を理解し分析するに当たって必要な基礎的な知識や技能を、自然科学、人文科学、社会科学の広範な視点で習得させる。したがって、専門基礎科目は、自然科学系色の強い環境創生学科に対しては、社会科学系の科目を、逆に社会科学系色の強い環境マネジメント学科に対しては、自然科学系の科目を割り当てている。このようにして、学科の境界を越えて環境学部に共通して必要となる専門的な基礎科目を提供することが本科目区分の狙いである。加えて、さらに環境との関連性を意識した情報系科目とキャリア科目もこの科目区分に含めている。

第三に、専門科目は、環境創生学科と環境マネジメント学科でそれぞれ独自の専門性の高い科目によって構成する。さらに、この科目区分を、それぞれ学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目に区分している。すなわち、環境創生学科の学科専門科目は生態環境分野と都市環境分野に区分し、環境マネジメント学科の学科専門科目は環境経営分野と環境政策分野に区分する。それとともに、それら専門分野に共通する専門科目として、学科基盤科目を設けている。これもまた、高度な専門性を習得させると同時に、学際的な視野の広さも維持させることを意図するものである。

教育課程表の注意事項

- 「専門基礎科目」「専門科目」は、学科毎に教育課程表を掲載している。
- 週時間数の「2」は、100 分授業（1 授業時間）のことである。
- 時間割編成等の運用上、開講時期や担当教員を変更する場合がある。

区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎科目	環境マネジメントシステム	○	2	2										
	温暖化の科学	○	2	2										
	統計学基礎		2	2										
	ミクロ経済学		2	2										
	数学入門		2	2										
	環境問題原論		2	2										
	都市環境入門		2	2										
	マネジメント入門		2		2									
	基礎プログラミング演習		2		2							※		
	環境倫理		2		2									
	マクロ経済学		2		2									
	持続可能な消費		2		2									
	情報セキュリティ		2			2								
	社会調査		2			2								
	画像処理技法		2	<2>		2						<TAP履修制限科目>:TAP参加者履修登録許可		
	環境法入門		2			2								
	環境教育		2			2								
	地理情報システム		2				2							
	食料問題と環境		2				2							
	環境アセスメント概論		2				2							
	キャリアデザイン		2				2							
	エネルギーと政策		2					2						
	NPOとソーシャルビジネス		2					2						
	公共政策論		2					2						
	意思決定論		2						2					
専門科目	学科基礎科目	環境フィールド・計測演習	○	2	2								※	
		環境情報リテラシー	○	2	2									
		生態学概論	○	2	2									
		環境地理		2	2									
		生物学(1)		2	2									
		環境数理学入門	○	2		2								
		生物学(2)		2		2							※	
		環境統計学		2		2								
		図化表現技法		2		2							※	
		ランドスケープ論	○	2	<2>		2						<TAP履修制限科目>:TAP参加者履修登録許可	
		環境化学		2	<2>		2						<TAP履修制限科目>:TAP参加者履修登録許可	
		測量学		2			2							
		環境都市計画学		2				2						
		生態環境実習		2				*2					2年集中実習※	
		測量学実習		2			2							
		環境都市関連法(1)		2				2						
		環境都市関連法(2)		2					2					
		環境モニタリング技術		2					2					
		都市気候論		2					2					
		環境情報可視化技法		2					2					
		熱環境論		2						2				
		(生態環境専門科目)	環境緑地学		2	<2>		2						<TAP履修制限科目>:TAP参加者履修登録許可
			環境分析演習		2				2					※
			自然環境調査法		2				2					
	生態系アセスメント			2				2						
	生態環境保全学			2				2						
	復元生態学			2					2					
	物質循環学			2						2				
	エコロジカル・プランニング			2						2				
	(都市環境専門科目)	都市・居住環境論		2		2								
		住環境システム		2	<2>		2						<TAP履修制限科目>:TAP参加者履修登録許可	
		都市インフラストラクチャー		2				2						
建築気候学			2				2							
交通環境			2					2						
環境都市再生論			2					2						
	住環境と人間行動		2					2						
	事例研究	○	4					3	3					
	卒業研究	○	6											

※演習のため、他学科履修不可

履修上の注意事項

1. 授業科目履修上の注意事項

□ 1・2年次の学修（履修）の考え方

主に必修科目の取得と、3年次以降の基礎分野となる専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目と学科専門科目）の修得を目指す。なお、必修科目は環境創生学科で36単位、環境マネジメント学科で32単位と異なっているので注意が必要である。

各学年40単位以上（各学期に最低20単位以上）は取得すること。2年次終了までに80単位以上取得することを目標とする。

□ 3・4年次の学修（履修）の考え方

専門基礎科目・専門科目を中心に履修を行い、専門性を高める。3年次終了時点で、卒業研究着手条件100単位以上を満たすように履修する。4年次では、卒業研究に着手し、卒業研究論文を作成する。卒業要件である124単位以上の取得を目指す。卒業要件の内容が学科により異なるので、学修要覧の条件が記載されている部分を必ず参照すること。

2. 事例研究着手について

2年以上在学して70単位以上修得しなければ、事例研究着手は認められないので、2年次終了時まで70単位以上、取得すること。

3. 卒業研究着手について

3年以上在学して、以下の条件を満たさなければ卒業研究着手は認められないので、この条件を満たすように履修すること。

- ① 100単位以上修得していること。
- ② 3年次までの必修科目を全て修得していること。

4. CAP（キャップ）制

CAP（キャップ）制については、履修要綱の当該部分を参照すること。

5. 履修モデルについて

環境創生学科は、卒業後の進路として国際環境協力分野をめざす学生の場合、および建設・不動産分野をめざす学生の場合について、また、環境マネジメント学科は、卒業後の進路として一般企業の環境部門をめざす学生の場合、および公務員をめざす学生の場合について、それぞれの履修モデルを表1～表4に示す。

6. その他特に留意すべき点

他学科、他学部、他大学の科目を履修する場合は学修要覧の当該部分を参照すること。

表1 (環境創生学科)：卒業後の進路として国際環境協力分野をめざす学生の例

科目区分 (卒業要件)	1 年		2 年		3 年		4 年		必修	自由
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
(1 基礎科目 6 単位)	Communication Skills 1○ Study Skills○	Communication Skills 2○ Reading and Writing 1○ 法と市民（憲法含む） 倫理学	Reading and Writing 2○	TOEIC Preparation○					6	0
	情報と社会○ 情報リテラシー演習○ 情報通信技術入門○								6	4
専門基礎科目 (34 単位)	環境マナジメントシステム○ 温暖化の科学○	環境倫理 基礎プログラム演習 持続可能な消費	環境教育 環境法入門 画像処理技法 数学入門	地理情報システム 環境アセスメント概論 キャリアデザイン	エネルギーと政策 公共政策論 NPO とソーシャルビジネス 情報セキュリティ	食料問題と環境			4	30
(6 専門科目 0 単位)	生態学概論○ 環境フィールド・計測演習○ 環境情報リテラシー○ 生物学(1)	環境数学入門○ 環境統計学 生物学(2)	ランドスケープ論○ 環境化学 測量学 測量学実習	生態環境実習 環境都市計画学	環境モニタリング技術 環境情報可視化技法 都市気候論				20	40
	学科専門科目		環境緑地学	環境分析演習 生態環境保全学 生態系アセスメント	復元生態学 住環境システム	物質循環学 エコロジカル・プランニング 自然環境調査法				
	事例研究 卒業研究				事例研究○		卒業研究○			
自由選択科目 (14 単位)	中国語 1 基礎体育(1)	中国語 2 基礎体育(2) キャリアデザイン基礎	Advanced TOEIC 日本の政治	海外・特別選拔セミナー 海外フィールド演習					0	14
合計 (124 単位)	22	22	22	22	18	12	0	6	36	88

○必修科目

表 2 (環境創生学科)：卒業後の進路として建設・不動産分野をめざす学生の例

科目区分 (卒業要件)		1 年		2 年		3 年		4 年		必修	自由
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
(1 基礎科目 6 単位)	外国語科目 (6 単位)	Communication Skills 1○ Study Skills○	Communication Skills 2○ Reading and Writing 1○ 法と市民 (憲法含む) 倫理学	Reading and Writing 2○	TOEIC Preparation○					6	0
	教養科目 (10 単位)	情報と社会○ 情報リテラシー演習○ 情報通信技術入門○								6	4
専門基礎科目 (34 単位)		環境マネジメントシステム○ 温暖化の科学○ 都市環境入門	環境倫理基礎プログラム演習	環境法入門 画像処理技法 ミクロ経済学 社会調査	地理情報システム 環境アセスメント概論 キャリアデザイン	エネルギーと政策 公共政策論 NPO とソーシャルビジネス 情報セキュリティ	意思決定論			4	30
(6 専門科目 10 単位)	学科基礎科目	生態学概論○ 環境フィールド・計測演習○ 環境情報リテラシー○	環境数理学入門○ 環境統計学 図化表現技法	ランドスケープ論○ 環境化学 測量学 測量学実習	環境都市関連法 (1) 環境都市計画学	環境都市関連法 (2) 環境情報可視化技法 都市気候論	熱環境論				
	学科専門科目		都市・居住環境論	住環境システム	環境分析演習 都市インフインフラストラクチャー 建築気候学	交通環境 環境都市再生論 住環境と人間行動	エコロジカル・プランニング			20	40
	事例研究 卒業研究						事例研究○	卒業研究○			
自由選択科目 (14 単位)		韓国語 1 基礎体育(1)	韓国語 2 基礎体育(2) キャリアデザイン基礎	現代の物理 日本の政治 応用体育(1)	科学技術と社会 応用体育(2)					0	14
合計 (124 単位)		22	22	22	22	20	10	0	6	36	88

○必修科目

環境創生学科おすすめの資格リスト

区分	資格名称	おすすめの履修科目	特記事項
科目履修によって取得できる資格	測量士補	図化表現技法、測量学、測量学実習他、必要な科目は学修要覧に掲載しているの必ず確認すること。	測量士補コースの登録を行ったうえで受講すること。測量学と測量学実習は連続したカリキュラムになっているので、両方を受講することが必要である。
	自然再生士補	復元生態学、ランドスケープ論、生態系アセスメント、生態学、生物学（2）、環境緑地学、自然環境調査法、生態環境実習他、必要な科目は学修要覧に掲載してあるので参照すること。	在学中に取得可能な資格なので、授業をしっかりと受講すること。必要な科目は学習要覧に掲載しているので、参考にしてもれなく受講すること。
科目履修をもとに受験して取得を目指す資格*	ビオトープ管理士	復元生態学、ランドスケープ論、生態系アセスメント、生態学、生物学（2）、環境情報フィードバック演習、環境緑地学、自然環境調査法、生態環境実習	自然環境保全あるいは生物多様性保全関係法規については自己学習が必要。また、小論文では自然環境保全に関わる個人の経験に基づく記述が求められるので、日頃から自然観察や自然環境保全活動を行うことが重要。
	生物分類技能検定（1～4級）	生物学（2）、生態学、環境調査、環境情報フィードバック演習、ランドスケープ論、復元生態学、環境緑地学	生物の学名、標準和名を覚えることが基本だが、生物の生態についても学ぶことが必要。
	環境緑化樹木識別検定	生物学（2）、環境情報フィードバック演習、ランドスケープ論、復元生態学、環境緑地学	樹木の生の標本で同定する能力を身につける。植物図鑑、植物検索図鑑を使いこなすこと。
	環境計量士	環境分析演習、環境化学、物質循環学、環境アセスメント概論	環境関係法規及び化学に関する基礎知識などは自己学習が必要
	公害防止管理者	環境分析演習、環境化学、物質循環学、環境アセスメント概論	環境関係法規及び化学に関する基礎知識などは自己学習が必要。
	技術士補（環境部門）	環境情報リテラシー、環境アセスメント概論、生態系アセスメント、ランドスケープ論、復元生態学、環境都市計画学、生態学、生物学（2）、図化表現技法など	授業では、環境部門の専門科目についてはほぼ全域を扱っている。専門科目以外の基礎科目（科学技術全般にわたる基礎知識）と適正科目（倫理・法規）については自習する必要がある。
	技術士補（建設部門）	都市環境入門、都市・居住環境論、環境都市計画学、都市インフラストラクチャー、環境アセスメント概論、生態系アセスメント、環境都市再生論、交通環境、画像処理技法など	授業では、建設部門の一部を扱っており、土質、コンクリート、鋼構造、河川、砂防などの学習が必要である。将来的に一部の試験免除などもあるので、測量士補コースを取ることをお勧めする。
	宅地建物取引士	環境都市関連法（1）、環境都市関連法（2）、環境都市計画学、都市・居住環境論など	授業では資格試験の基礎となる知識や考え方を学ぶので、それをベースに試験勉強が必要。また、宅地建物取引業法など自己学習が必要な分野もある。
	インテリアープランナー	住環境システム、都市・居住環境論、建築気候学、図化表現技法、都市気候論、住環境と人間行動、環境都市計画学、ランドスケープ論など	住まいや仕事場などの環境づくりには幅広い知識が必要なので、左欄に示した科目等の履修を、資格を目指すための入口として更に自己学習を行なうこと。
	インテリアーコオーディネーター	住環境システム、都市・居住環境論、建築気候学、図化表現技法、都市気候論、住環境と人間行動、環境都市計画学など	住まいや仕事場などの環境づくりには幅広い知識が必要なので、左欄に示した科目等の履修を、資格を目指すための入口として更に自己学習を行なうこと。
	G I S 学術士	情報リテラシー、画像処理技法、地理情報システム、測量学、測量学実習、図化表現技法、生態系アセスメントなど	測量士補を認定するための授業科目と重なっている科目が多いため、両資格を同時に取得することをお勧めする。

「科目履修をもとに受験して取得を目指す資格」とは、受験内容に基づきとして、さらに受験のための自習を行い受験する資格です。

科目概要 (2 年次以上配当科目のみ。1 年次配当科目は教授要目を参照のこと) (教育課程表掲載順に記載)

■ 情報セキュリティ

関 良明

Computer Security

2年生前期

科目概要

インターネットやITの普及に伴い、情報セキュリティが重要となっている。授業では、基礎技術として暗号関数、基盤技術として情報暗号、相手認証、電子署名などを講義する。また、応用技術としてファイアウォール、VPN、ICカードなどを講義する。最後に、NISTのFIPSについて言及する。

According to spread of internet and IT, information security becomes very important. A teacher lectures on threat to information, network security, encryption technology, and authentication technology.

履修心得

ネットワークに関する知識を学んでおくこと。

要望

技術の発展にともない、情報通信環境の安全性も変化し続けている。このことを踏まえて、ますます重要となる情報セキュリティの必要性や基礎知識を理解して、実践してほしい。

■ 社会調査

大塚 善樹

Social Research

2年生前期前半

科目概要

社会調査の意義と、その諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの違いや、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程について学習する。

The aim of this class is to understand the basis of investigation methods for social science, that varies from the qualitative approaches using interviews and observation method to the quantitative one using questionnaire surveys.

履修心得

統計学基礎の単位を取得していることが望ましい。

■ 画像処理技法

史 中超

Image Processing

2年生前期前半

科目概要

マルチメディアの重要なソースである画像情報について、一般の写真画像から人工衛星画像まで、その収集方法、コンピュータでの管理方法、情報抽出のための処理・解析方法などを体系的に学ぶ。

In this subject, the students will mainly learn about the principle of digital image, the image quality improvement methods including noise elimination, brightness/contrast adjustment etc., and the techniques related to feature extraction including edge detection, image segmentation, texture analysis, and so on.

履修心得

〈事前に履修が望ましい科目〉 コンピュータシステム、情報リテラシー演習

〈他の授業科目との関連〉 地理情報システム論、環境モニタリング技術

コンピュータ基礎知識、特にコンピュータや周辺機器の内部構造、動作原理などが分かれば授業の内容を理解しやすくなる。

要望

すべての回に出席することを前提として成績評価を行いますので、無断欠席しないように注意してください。

■ 環境法入門

古川 務

Introduction to Environmental Law

2年生前期前半

科目概要

この講義では、良好な環境の確保を図るための法制度の概要が示される。持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について学ぶための基本となる科目である。法制度の一般的理解を踏まえて、環境法体系の特徴、課題、望ましいあり方等につき議論できるようになることを目指している。テーマは幅広く、大気汚染、水質汚濁等の公害の防止にかかわる法制から、人間による破壊等から自然環境を保全する自然保護法制に至るまでを扱う。なお、必要に応じて、たとえば気候変動枠組条約・京都議定書、生物多様性条約等の国際環境法にも言及する。

This lecture is intended to teach the legal system to maintain natural environment in general, and provides the elements to learn about policy making to promote sustainable corporate practice and consumption behavior. I hope that the students taking this lecture become able to discuss about the characteristics, the issues, and the desirable role of the environmental laws system. This lecture addresses the theme of legal system relating to prevention of pollution such as the air pollution or the water pollution, and nature conservation legislation to protect natural environments from the destruction by the human being. In addition, I mention the international environment laws such as United Nations Framework Convention on Climate Change and the Kyoto Protocol, and Convention on Biological Diversity as necessary.

履修心得

新聞記事等のチェックを日頃より行い、環境問題に対する関心を維持しておくこと。

要望

どのようなルールがあるかについての理解が深まれば、環境問題への興味関心もこれまでとは異なったものになると思います。授業内容をしっかりと復習し、環境に関するルールの理解に努めてください

■ 環境教育

佐藤 輝

Environmental Education

2年生前期

科目概要

環境教育のさまざまな実践的な取り組みへの理解を通して、環境教育の意義、目的、背景、歴史、対象者、方法論などを具体的に学ぶ。地球温暖化や自然破壊、水質・大気汚染といった身のまわりの環境問題に着目して、受講生みずからが環境教育プログラムを企画できるノウハウを習得するために、海外の教育動向や国内の企業・行政の先進事例も参照する。Through the understanding of various practical actions of the environmental education, its significance, a purpose, a background, the history, target people, methodology for the environmental education will be concretely studied. To learn how to plan an environmental education program against several environmental problem around ourselves such as climate change, destruction of nature, the water and atmospheric pollution, every student refers the overseas education trend, and the advanced examples of private companies and administration sectors in Japan.

履修心得

環境教育への関心

■ 地理情報システム

史 中超

Geographic Information System

2年生後期後半

科目概要

高度の情報社会の進展に伴い、都市再生や防災、カーナビゲーションや携帯などをベースにしたあらゆるサービス分野で地理情報に対するニーズが急速に高まっている。本科目では、地理情報システム(GIS)の基礎から都市や地域の自然及び人間の経済社会活動に関わる様々な地理情報の収集・管理・検索技術、それからGISを生み出した基盤となっている科学的知識を体系的に学ぶ。

In this subject, the principle of GIS(Geographic Information System) and the major techniques in GIS related to capturing, storing, checking, integrating, manipulating, analyzing and displaying spatial data will be described in details. Furthermore, the students can learn about how to solve practical problems like urban redevelopment etc. with GIS from the exercises.

履修心得

地図に関する知識を勉強・復習しておけば授業の内容が理解しやすくなる。

〈事前に履修が望ましい科目〉 コンピュータシステム、情報リテラシー演習、画像処理技法

〈他の授業科目との関連〉 環境モニタリング技術、環境地理

要望

すべての回に出席することを前提として成績評価を行いますので、無断欠席しないように注意してください。

■ 食料問題と環境

大塚 善樹

Food and Environment

2年生後期前半

科目概要

私たちの食卓は環境と密接につながっています。多くの環境問題は食品汚染として発生してきましたが、大規模な工業的食料生産は環境破壊の原因でもあります。この授業では、現代社会のグローバル化、情報化、環境配慮などの変化のもとで、食料の生産と消費のありかたがどのように変化してきたかを考えることを通して、持続可能な社会のあり方にアプローチします。

In this class the impacts of production and consumption of food upon natural environment are discussed in the context of global, informational and ecological change of contemporary society.

履修心得

社会学入門、ミクロ経済学、環境社会学の単位を取得していることが望ましい。

■ 環境アセスメント概論

横田 樹広

Environmental Impact Assessment

2年生後期後半

科目概要

人間による開発行為が環境に及ぼす影響を理解し、我が国における環境影響評価制度および環境影響の予測・評価の技法について習得する。また、持続可能な開発にむけた環境アセスメントの課題と可能性について理解する。

Understanding the concept of environmental impacts and the systems/techniques of environmental impact assessment, the present issues and the possibilities of EIA/SEA systems for the sustainable development will be discussed with the practical studies.

履修心得

自身が関心を持つ具体的な開発事業やその環境影響、環境影響評価の状況等について広く情報収集するとともに、環境アセスメントの新たな課題・可能性について考えながら受講すること。

要望

まずは、環境影響評価の実際の手続きと技術についてきちんと習得することを目指してほしい。

そのうえで、持続可能な開発にむけて環境アセスメントで何ができるか、国際的視野でその可能性を議論できることを目指してほしい。

■ キャリアデザイン

池田 宗人

Career Design

2年生後期

科目概要

生涯にわたって自分の生き方を主体的に考え行動する力の基礎的部分を講義する。「生き方」の中では、職業ないし仕事に関わる側面を中心に説明する。

履修心得

キャリアに関する問題意識。

要望

本講義では、職業と仕事に関するキャリア(ワークキャリア)を対象の中心としますが、職業・仕事を含む「人生」(ライフキャリア)にも通じる内容です。自律的、主体的に生きるためのスキルと考え方を身につける機会です。そんな機会を有効に活用するためにも、積極的な授業への参加・取り組みを求めます。

■ エネルギーと政策

木村 啓二

Introduction to Energy Policy

3年生前期

科目概要

エネルギーは私たちの生活や経済活動と密接にかかわっています。と同時に、それは国内のみならず世界全体とかわり、かつ環境影響を与えています。そこで、本講義では私たちのエネルギー利用が環境に与える諸影響について理解するとともに、そうした課題解決に向けた取組と今後の課題について考えていきます。

Energy production and consumption is closely related to our lives and economic activities. On the other hand, that affects environment issues. This lecture provides you basic information on energy consumption and the environmental impacts from the energy usage. In addition, we consider the current situations for addressing these challenges.

履修心得

経済学やエネルギーに関する基礎知識があれば望ましいですが、特に必須ではありません。

■ NPO とソーシャルビジネス

服部 篤子

Nonprofits and Social Business

3年生前期

科目概要

本講は、「公共サービスの担い手は誰か」、「非営利セクターにとって利益とは何か」、「ソーシャルイノベーションとは何か」、といった基本的な問いに、皆さんが解を見出すことで、NPO やソーシャルビジネスの理論と実践を理解することを目的とします。

具体的には、まず、この分野が国内外で着目されてきた社会的背景と研究の潮流を概説します。そして、公共政策、組織運営、ビジネスや市場との関係など複数の視点から非営利セクターの役割と課題を明らかにします。

さらに、営利と非営利セクターを超えたフィールドとしてのソーシャルビジネスを分析し、社会課題解決の可能性や市民社会について考えていきます。

Who is public service providers? What is the profits for the nonprofits sector? What is the meaning of social innovation?

We consider these research questions above and try to understand the concept of social business.

In addition, we discuss the tide of social environment where the social business were emerging. Furthermore, we examine the role of social sector in terms of public policy, institutional management, and social impact on the market.

The purpose of the class is to think over the theory and practice of civil society beyond the boundaries between profits and business sector.

履修心得

特になし

要望

キャリアを考える上で、社会問題の解決に取り組む「社会起業家」など、NPO に携わる人々やリーダーの人間性に学ぶところは少なくありません。本講座を通じて、各自が緊要な社会の問題に目を向け、市民社会に対する意識を高めることを期待します。

■ 公共政策論

古川 務

Public Policy

3年生前期前半

科目概要

公共政策とは、政府および地方公共団体等が実施するさまざまな公共的な施策をいう。この講義では、本学部・学科の特徴を踏まえ、深く環境問題にかかわるいくつかの政策分野の事例を取り上げて、主として法的観点から概説する。この科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について発展的に学ぶための科目である。なお、公共政策のうち、環境政策に区分されるものについては、環境政策論で取り扱う。受講学生には、これらの事例を踏まえて、各公共政策分野の特徴、課題を理解すること、また、その望ましいあり方を考察することが求められる。

The public policy means various measures to promote public welfare that the government and local public body etc. carry out. It is sorted in the plural policy areas. In this lecture, based on the characteristic of this department, I comment on the measures in some policy areas relating to environmental problems primarily from the legal point of view. This lecture provides the base to learn about policy making to promote sustainable corporate practice and consumption behavior. However, I address the policy area called the environmental policy in the public policy in other lecture, Environmental Policy. The students taking this lecture are required to acquire the characteristics, the issues and to consider the desirable role concerning each policy areas based on the examination of these measures.

履修心得

公共政策分野に広く関心を有していること。また、日頃から新聞等で情報を収集しておくこと。

要望

担当者の専門の関係で、法的観点から公共政策を考えていきます。ただし、環境法の講義とはかなり視点を異にしていると思います。できるだけ出席して、この講義の全体像をつかんでください。

■ 意思決定論

阿部 雅之

Decision Making Method

3年生後期

科目概要

意思決定をデータ中心のアプローチとして捉え、ビジネスのみならず、日常生活においても重要な位置づけであることを習得する。学習直後から活用可能な事例を中心に学習する。

This lecture treats Decision Making Method by data-oriented approach. We also discuss Decision Making Method in our daily life.

履修心得

特に設定はしないが、統計関連科目されにできれば簿記会計関連科目の学習が望ましい。また、表計算ソフトエクセルの基本的操作ができればなおよい。

要望

学習したその日からすぐに活用できるテーマを教材としているので、日常の生活や行動を意思決定的観点から系統的に捉え、普段の生活の場でも実践してください。この授業を受けることで、それまで持っていた先入観や概念が大きく覆ります。若いうちにカルチャーショックを大いに受けてください。

■ ランドスケープ論

田中 章

Introduction of Landscape Architecture

2年生前期後半

科目概要

本授業は、我々人類の生存基盤である生態系、またその生態系の健全性を生物多様性の観点から評価することの重要性と具体的技術を学ぶことを目的としている。

生物多様性の消失原因である開発と生物多様性保全との関係に焦点を絞り、両者のバランスを図る社会制度である環境アセスメント制度の現状を概観した上で、生物多様性消失の現状、その対策として世界中で普及しつつある生物多様性オフセットやバンキング、野生生物生息地評価手法などについてそれらの国内外の動向を含めて学ぶ。

Purpose of this class is to understand balance between development and ecological conservation by learning advanced ecosystem assessment tool such as Habitat Evaluation Procedure in Environmental Impact Assessment.

履修心得

自然を守れと人は言う。しかし本当に何をどうすれば自然を守ることになるのか？具体的に理解し、その能力を身につけたい人は受けてください。

要望

これからの社会は、どんな分野、どんな仕事、どんな業界、どんな方向に就職するとしても、我々人類の生存基盤である生態系の保全というテーマが関係しない、ということはありません。興味のない人も最初から興味がある人も、改めてこれからの地球環境で生き抜いていくことを一緒に真剣に考えてみましょう。

将来、環境保全を目的とした仕事に就きたい人、環境とは直接関係がないけれども企業や産業界における環境配慮を推進したい人、(環境方面の就職に有利な)HEPの技術、ノウハウを身につけておきたい人、とにかく環境分野を勉強したい人、

■ 環境化学

咸 泳植、久米 一成

Environmental Chemistry

2年生前期

科目概要

教員は生態系における汚染物質濃度と量の時間・空間的な変化を解析することによって汚染源を突き止められる手法として「環境化学」に関する講義を行う。また、教員は環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである身近な環境の諸問題について化学的な見地から理解し、その対応策について議論する(キーワード:生態系、汚染物質、汚染源、時間・空間的な変化)。The lecturer gives a lecture on “Environmental Chemistry” as a useful tool to clarify pollution sources with the spatiotemporal change of pollutant concentration & load in ecosystems. In addition, the lecturer gives a lecture on the environmental problems through a

chemical point of view and their countermeasures, which are related with Faculty & Department Curriculum Policies (Keywords: ecosystem, pollutant, pollution sources, spatiotemporal change).

履修心得

環境学、生態学、化学的な素養が必要であるが、もっと大事なのは、これから修得するという意欲を持つことである。

要望

環境問題を解明するためには、複合的な学問を学ぶ必要がある。今回の講義は、環境化学に絞ったが、今後勉強を続けるならば広い視野で取り組むことを進める。

■ 測量学

大木 正喜、松浦 弦三郎

Surveying

2年生前期

科目概要

測量は、地表面あるいはその近傍の地点の相互関係及び位置を確立する科学技術であり、国土の開発、利用、保全等に重要な役割を担っている。この講義では、誤差論を含めた測量に必要な基礎知識を学ぶことから始め、測量作業の基本となる距離、角度、高さの測定方法と測量機器等の使用方法について説明する。

Surveying is a science and technology to establish a mutual relationship and the position of the point of the earth's surface or in the vicinity, are responsible for national land development, utilization, an important role in conservation, In this lecture, start by learning the basic knowledge required for the survey, including the error theory, distance of the underlying of the surveying work, angle, how to use, such as the height of the measurement method and the surveying equipment will be explained.

履修心得

基本的な数学(三角関数等)、物理の理解

要望

測量学を受講理解することで測ることの重要性が理解できる。

■ 環境都市計画学

室田 昌子

City Planning Theory

2年生後期後半

科目概要

都市計画について、環境共生からの視点を重視しつつ、手順や関連法令、実際の運用や事例を体系的に紹介する。土地・土地利用規制、計画・マスタープラン、都市開発、都市施設、景観などについて、環境配慮、自然共生、低炭素化などの環境共生的な観点を取り入れ、いかに共生すべきかを考えつつ都市の計画とまちづくりの基本を理解できるようにする。都市環境分野の専門科目であるが、国土全体の環境維持・改善を考えるうえで、自然環境も含めて必要な最低限の知識も提供する。

We learn city planning including eco-friendly and sustainable aspects. We learn land use and zoning system, planning and master plan, urban development, urban parks and roads planning and townscape with the emphasis on good harmony with nature, promotion of low carbon society. All attendees are required understanding of sustainable and eco-friendly city and communities.

履修心得

「都市・居住環境論」の履修を前提条件とする。この講義で修得した専門用語などを前提に授業を進める。

要望

授業で習ったことを念頭にしつつ様々な都市を是非見てください。地域から学び発見する力を身につけてください。

■ 生態環境実習

吉崎 真司、咸 泳植、北村 亘

Fieldwork on nature and natural environment

2年生集中(後期)

科目概要

自然の中で、動植物・生態系及び無機的環境に関する調査体験を通して、自然を理解し、劣化した自然を修復・再生する方法を学ぶ。

This fieldwork focuses to learn how to restore and rehabilitate the deteriorated nature through the field survey.

履修心得

山歩きができるように、日頃から体調管理に努めること。

要望

実習は、静岡県富士宮市富士山2合目付近の、静岡県山の村内の宿泊施設に3泊4日の予定で滞在しながら行う。実習費用が

係るので、説明会に必ず出席すること。また、実習では静岡大学農学部の教員2名が指導を行うほか、本学卒業生による特別講義も行う予定である。

■ 測量学実習

大木 正喜、松浦 弦三郎

Surveying Practice

2年生前期

科目概要

測量学は国土の開発、利用、保全等に重要な役割を担っており、正確さを確保することが最も重要である。本講義では測量学の講義に基づき、校内において測量機器の取り扱い、各種測量方法の基本手順について実施する。

Surveying the national land development, utilization, maintenance plays an important role, and it is most important to ensure accuracy. Based on the lecture of surveying in this lecture, the handling of the surveying equipment in the school, to perform the basic steps of various surveying methods.

Based on a lecture of surveying, to acquire the handling of the surveying apparatus, the basic procedure of each surveying method in campus.

履修心得

測量学を十分に理解し、実習目的を明確にしておくこと。

要望

講義で理解が困難な問題は、実習を通して理解しておくこと。

基礎となる三角関数は十分に理解しておくこと。

実習は、班毎に行うのでチームワークを大切にすること。

積極的に器械器具に触れ親しむこと。

■ 環境都市関連法(1)

竹田 智志

A related law of environment and urban (1)

2年生後期

科目概要

本講義では、私達の生活と密接に関わりを持つ民法の全体像をつかみ、民法の体系的な理解と法令用語の基礎知識を習得する。その上で、契約・財産法の基礎を学ぶ。様々な具体例を取り上げ、特に不動産の取得を巡る問題、金銭の貸し借りや担保、債権や契約などのテーマをピックアップし、具体的な事例を取り入れながら学習する。本講義は、不動産業や建設業界、ハウスメーカーなどの業界を目指す学生が、宅建などの不動産関係の資格を取得する上での基礎となる講義である。また、環境問題を理解し分析するにあたって必要な基礎的知識、技能、方法論を学ぶための講義でもある。

履修心得

星野英一著「民法のすすめ」岩波新書は講義前に読んでおくことを望みたい。

要望

定期試験では、持込みを一切認めません。厳しいようですが、制度そのものは民法全般のうちのほんの一部分を考査するものです。制度のイメージは講義時に解説するわけですが、実際の法規定は触れられる場合とそうでないときがあります。各自がそれぞれに抑えておいて戴きたいと願います。

■ 環境都市関連法(2)

竹田 智志

A related law of environment and urban (2)

3年生前期

科目概要

本講義は、「環境都市関連法(1)」をベースとし、不動産取引とマンション管理に関する法体系を学ぶものである。まず、不動産の特殊性について検討し、不動産賃貸借の仕組み、個別の法的論点について検討する。後半は現在の都市において一般的となりつつあるマンションに焦点をあて、区分所有、マンション管理など、マンション法の論点について考察する。全体としては民法と特別法の交錯するポイントを押さえ、不動産取引が複雑かつ不透明である点を明らかにし、不動産関係の資格試験等の把握を充分なものとすることを目指す。本講義は、環境問題を理解し分析するにあたって必要な基礎的知識、技能、方法論を学ぶためのものである。

履修心得

「環境都市関連法(1)」は履修済みであること。

要望

テキスト、六法、用語集が必要です。揃えて下さい。一応法律は、「民法」、「借地借家法」、「区分所有法(建物の区分所有等に関する法律)」を対象としています。テキストは制度全般につき概説。用語集は文字通り法律用語の解説。法は六法に記載されてい

ます。

■ 環境モニタリング技術

史 中超

Environmental Monitoring Technology

3年生前期前半

科目概要

リモートセンシング技術を中心とした環境モニタリングのための衛星画像の処理技術やスペクトル解析技術、イメージ分類技術、各種の応用モデル(土地利用・被覆変化モデルなど)を学ぶ。

This subject is focused on the study of environment monitoring based on remote sensing technology. The techniques related to satellite image processing, spectral information analysis, image classification will be mainly introduced.

履修心得

〈事前に履修が望ましい科目〉画像処理技法、地理情報システム論

〈他の授業科目との関連〉環境地理

画像処理技法と地理情報システム論を履修しておけば、衛星画像解析などの内容は理解しやすくなる。

要望

すべての回に出席することを前提として成績評価を行いますので、無断欠席しないように注意してください。

■ 都市気候論

鳴海 大典

Urban Climate

3年生前期

科目概要

都市では人工被覆化や排熱の増大に伴ってヒートアイランド現象が顕在化している。また、温室効果ガスの増大による地球温暖化の影響もあいまって、特に大都市での気候変化が大きな社会問題となっている。本講義で科目担当者は、都市化に伴う気候変化のメカニズムとこれにより生じる環境問題について解説するとともに、適切な環境計画を行うための技術や政策などの最新情報を提供する。

Urban heat island caused by the increase of the artificial covering and anthropogenic heat in cities have been become remarkable. Furthermore, by the effects of global warming, climate change in cities have become particularly big social problem. In this lecture, student will learn the mechanisms of climate changes associated with urbanization, impacts to the residents in cities and the latest technology and policy for carrying out the appropriate environmental planning.

履修心得

環境都市計画学や建築気候学などの関連講義を受講していること。

■ 環境情報可視化技法

三浦 直子

Visualization technique of environmental information

3年生前期

科目概要

森林や河川などの自然環境や人間の経済社会活動の結果である土地利用区分などの環境情報は、データ化しコンピュータによって可視化することができる。環境情報をデータベースとして整備し、それをいかに利用(分析・評価・参照)していくかは、環境管理計画や環境保全計画などを立てる上で重要な技術である。科目担当者は、環境情報、特に自然環境情報を取得・可視化して活用する技法について講義を行う。科目担当者は、活用事例を紹介し、地理情報システム(GIS)およびリモートセンシング技術を横断的に利用して課題にアプローチする方法を示し、環境情報を扱う上での包括的な知識が学べるように講義する。

It is important skill to manage environmental information databases and utilize (analyze, evaluate and refer) them for making a better environmental management plan and conservation strategy. In this class, I will lecture methods to gather and visualize natural environmental information presenting various case studies. Students can learn how to work on environmental information using Geographic Information Systems (GIS) and Remote Sensing technology.

履修心得

地理情報システム(GIS)およびリモートセンシングの基礎知識をもっていること。「地理情報システム論」および「環境モニタリング技術」の履修が望ましい。

要望

データやソフトウェアの使用方法だけではなく、課題解決のためにどのようなアプローチが必要かという視点まで持てるようになることが目標です。コンサルティング業界の最新情報も織り交ぜつつ講義を行いたいと思います。

■ 熱環境論

宿谷 昌則

Thermal Environment

3年生後期前半

科目概要

熱現象は、私たちヒトの身体(体内環境)から建築環境・都市環境・地域環境・地球環境に至るまで、ありとあらゆる階層で絶えず起きている。この科目では、できるだけ身近な例を通して熱現象を理解するとともに、環境デザインのよりどころとなる熱力学の基礎理論を講ずる。その上で、人工環境の最小単位である建築環境と自然(体内環境や地球環境)との関係を熱力学的・生物学的な視点から講ずる。

Thermodynamic phenomena take place everywhere from human body to built environmental spaces with various sizes. The same is true for regional environmental space and the global environmental space. In this lecture, we discuss various natural phenomena from the viewpoint of thermodynamics and heat transfer in order to grasp the scientific basis of environmental design.

履修心得

住環境システム、建築気候学、環境とデザイン、環境フィールド・計測演習、環境デザイン演習などを履修していること。

要望

自分なりのノートづくりを行なうこと。ノート作りがきちんとできると、理解も深まります。板書した内容ばかりでなく、よくわかったこと、よくわからないことなどを自分なりに整理する癖をつけてほしい。

■ 環境緑地学

飯島 健太郎

Restoration of green in environmentally deteriorated lands

2年生前期後半

科目概要

沙漠や沙漠化地域、里山や海岸、都市の屋上や壁面など、緑が希薄な地域や劣化した土地に緑を再生・修復するための理論と技術を学ぶ。本講義は、環境創生学科生態環境分野の「学科専門科目」であり、地球規模から地域規模の緑を主とする自然の保全や修復及び創生に関する内容を学修する。

Students will learn about the fundamental theory and technic on the restoration of green at the desert and desertification area, satoyama and coastal resion, roof top and wall of buildings in urban.

履修心得

生態学概論(1年前期・必修)、生物学(1)(1年前期・選択)、生物学(2)(1年後期・選択)を必ず受講すること。

要望

緑を修復・再生したり新たに創出するための最も基本となる内容であるので、しっかり学んで欲しい。

キャンパスの内外を問わず、目に入った緑について様々な疑問を持つことから始めよう。例えば、その緑はどんな種類の植物から出来ているのか、日本在来の種か外来の種か、何故そこに緑が必要なのか、その緑が果たしている役割は何だろうかなど、常に考える習慣を身に着けたい。

■ 環境分析演習

咸 泳植

Environmental Laboratory Exercises for Instrumental Analysis

2年生後期

科目概要

教員は環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである身近な環境に存在する様々な汚染物質に対して速やかに対処するため、大気・水・土壌の汚染物質に対する定量分析を行う手法について講義をする(キーワード:大気・水・土壌の汚染物質、定量分析)。To cope with various pollutants in our circumstances, the lecturer gives a lecture on how to perform the quantitative analyse of atmospheric, aquatic & edaphic pollutions, which are related with Faculty & Department Curriculum Policies (Keywords: atmospheric, aquatic & edaphic pollutions, quantitative analyse).

履修心得

グループで行う作業が多いので、途中で断念することなく最後まで遣り通すことが前提である。なおかつ、気が付いた人が積極的に指摘するなど皆で協力し合うことが前提条件である。

要望

14週間やりこなすつもりでなければグループのメンバーに迷惑をかけてしまうことになりかねないので、内容に対する強い好奇心をもって受講して欲しい。

■ 自然環境調査法

吉崎 真司

Research methodology of nature and natural environment

2年生後期前半

科目概要

野外調査において、また室内において実験を行う場合に必要となる科学的アプローチについて、基礎的な考え方や姿勢、地域の生物資源や自然環境特性の調査を行う場合の調査方法と解析方法を学ぶ。この講義は環境学部環境創生学科生態環境分野の専門科目であり、フィールド調査やサンプリングなどの野外活動における最も基本的かつ重要な事項を学ぶ。

履修心得

動植物の同定や分類の能力、生態学の基本的な知識や理論などが必要であるので、1年生科目である「生態学」や「生物学(1)(2)」、「環境フィールド・計測演習」など関連科目を受講していることを前提に授業を進める。

要望

常に野外調査が可能な服装の準備をして授業に臨むこと。野外調査の多くはグループ単位となるので、遅刻したり欠席することなく、連続して出席することを望む。

■ 生態系アセスメント

田中 章

Ecological Impact Assessment

2年生後期前半

科目概要

本授業は、我々人類の生存基盤である生態系、またその生態系の健全性を生物多様性の観点から評価することの重要性と具体的技術を学ぶことを目的としている。

生物多様性の消失原因である開発と生物多様性保全との関係に焦点を絞り、両者のバランスを図る社会制度である環境アセスメント制度の現状を概観した上で、生物多様性消失の現状、その対策として世界中で普及しつつある生物多様性オフセットやバンキング、野生生物生息地評価手法などについてそれらの国内外の動向を含めて学ぶ。

Purpose of this class is to understand balance between development and ecological conservation by learning advanced ecosystem assessment tool such as Habitat Evaluation Procedure in Environmental Impact Assessment.

履修心得

自然を守れと人は言う。しかし本当に何をどうすれば自然を守ることになるのか？具体的に理解し、その能力を身につけたい人は受けてください。

要望

これからの社会は、どんな分野、どんな仕事、どんな業界、どんな方向に就職するとしても、我々人類の生存基盤である生態系の保全というテーマが関係しない、ということはありません。興味のない人も最初から興味がある人も、改めてこれからの地球環境で生き抜いていくことを一緒に真剣に考えてみましょう。

将来、環境保全を目的とした仕事に就きたい人、環境とは直接関係がないけれども企業や産業界における環境配慮を推進したい人、(環境方面の就職に有利な)HEPの技術、ノウハウを身につけておきたい人、とにかく環境分野を勉強したい人、みんな受講すべきです。

■ 生態環境保全学

北村 亘

Conservation of environment

2年生後期後半

科目概要

生物多様性の減少と消失は近年の環境問題の中でも一際重大な地位を占めている。本講義では生物多様性の価値を認識するとともに、生物多様性が生じる機構について理解を深める。また、生物多様性を保全するための手法を実践的な事例を通して学び、保全活動の担い手となるような知識を得ることを目標とする。

Loss of biodiversity due to human activities has been one of the most important issues of environmental studies. In this class, values and mechanisms of biodiversity will be introduced, and methods for conserving biodiversity will be learnt from practical cases.

履修心得

生物学(1)(2)および生態学概論を履修していることが好ましい。

■ 復元生態学

田中 章

Restoration Ecology

3年生前期後半

科目概要

生態系の破壊、自然の消失、生物多様性の減少などは、気候変動と並ぶ深刻な地球環境問題である。その対策には、現存する自然を保護するだけでは足りず、既に自然が消失したところを人間の手で再び自然を再導入すること、即ち、生態系の復元が不可欠である。本科目は、失われた自然を復元するために必要なフィールドから政策までをバランスよく学ぶものである。

履修心得

植物の生育について、光合成や呼吸などのエネルギー循環や物質循環の基礎を学んでおくこと。キャンパス内の緑地における植物管理などのフィールド活動を通して、生き物を扱う難しさや楽しさを体験的に学ぶため、ある程度のフィールド活動できる服装で参加すること。

要望

まずは一本の植物を生物学的かつ生態学的に健全に育てる難しさや楽しみをフィールドで体験しよう！

■ 物質循環学

咸 泳植

Material Cycle

3年生後期

科目概要

教員は地球の主要元素と微量元素について講義する。地球生態系はその物質らが循環する訳で永続できると言っても過言ではない。また、教員は生態系における主要元素(水素、酸素、窒素、炭素、硫黄、カリウム、リン、アルミニウムなど)と微量元素(亜鉛、セレン、カドミウムなど)の循環について一層専門的な領域から環境汚染にアプローチし、環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである様々な環境汚染について講義する(キーワード:物質循環、環境汚染、主要元素、微量元素)。The lecturer gives a lecture on main elements and minor elements of the earth. It is no exaggeration to say that the ecosystem can be sustained with the element cycling. In addition, the lecturer gives a lecture on various environmental pollutions through an specialized field approach of behaviors and contaminations of major elements (hydrogen, oxygen, nitrogen, carbon, sulfur, phosphorus & etc.) and minor elements (zinc, selenium, cadmium & etc.) in ecosystems, which is related with Faculty & Department Curriculum Policies (Keywords: element cycling, environmental pollutions, main elements, minor elements).

履修心得

「環境化学」を履修済みであることが必要であるが、もっと大事なのは、これから修得するという意欲を持つことである。

要望

環境問題を解明するためには、複合的な学問を学ぶ必要がある。今回の講義は、物質循環学に絞ったが、今後勉強を続けるならば広い視野で取り組むことを進める。

■ エコロジカル・プランニング

横田 樹広

Ecological Planning

3年生後期後半

科目概要

サステナブルな都市の形成にむけて、緑地・生態系とそこでの人間活動・社会システムとの複合的な関係性を、横断的かつ複層的に読み解く技法を学ぶ。

また、その総体としてのランドスケープを基盤として、グリーン・インフラの形成を実現していくための地域環境の評価・計画方法を学ぶ。

Based on the introduction of the analytical concepts and methods to evaluate the multiplex relationships among urban ecosystems and social systems, the practical planning methodologies for the creation of the green infrastructure and for the strategic landscape management will be discussed in the lecture.

履修心得

基本的な地形図の読図力や Excel による表計算能力、GIS に関する知識を必要とする。

要望

Planning Works では、具体的なエリア・課題を設定し、ランドスケープの分析力と計画力を身に着けることを志向します。

各回の課題に意欲的に取り組み、講義との相互作用や受講者間でのコミュニケーションを通じて、自らの分析や評価を計画に活かしていくプロセスを体得してほしいと思います。

■ 住環境システム

宿谷 昌則

Built-Environmental System

2年生前期前半

科目概要

人間が生活する場としての最小単位である住居に着目して、光・熱・空気などの環境を構成する要素がどう振る舞うかについて講ずる。身近な自然の振る舞いを理解していくことで、良好な環境とは何か、それを維持するためのシステムとは何かを見出す方法論を講ずる。

Room space is the minimum unit of built-environmental space. In this lecture, we discuss how the built environmental space works from physical viewpoint in order to understand the roles of lighting, heating, cooling and ventilating systems for human comfort. The students are required to do a series of simple exercises to enhance their understanding in addition to listening to the lecture itself.

履修心得

都市環境や生態環境分野に関連する講義や演習を多く履修しておくこと。

要望

毎回の講義でノートをしっかり取ることを励行してほしい。黒板に書かれたことだけでなく、話の内容で腑に落ちたこと、よくわからなかったことなど、その都度よくメモを取り、住環境システムの講義すべてが終了したときには、住環境とは何かについての皆さん一人ひとりのノートができてるようにしてほしい。また、ほぼ毎回の講義で配られる資料はノートとともにまとめて、いつでも参照できるように整理すること。資料をまとめる能力を身に付けられるか否か、ノートを取ることがしっかりできるか否かは、将来の仕事能力を伸ばせるか否かに大いに係わっています。

■ 都市インフラストラクチャー

大西 暁生

Urban Infrastructures

2年生後期前半

科目概要

現代社会はその大半が都市を基盤として成立するが、その都市はまたインフラストラクチャー（社会資本）によって支えられている。インフラストラクチャーの機能、整備制度、事業分析に関して、事例を参考にしながら学ぶ。インフラストラクチャーを通して、公共財の役割とその受益と負担に関する考え方を理解することを目標としている。

The purpose of the course is to study the function of infrastructures in the urban system and how to plan and implement infrastructure development and maintenance projects. Approaches in public economics, accounting and finance as well as engineering are introduced.

履修心得

講義に出席すること。ノートを必ずとること。

要望

まずは出席して、考えながら、しっかりとノートをとること。

随時質問を投げかけるので常にその課題について考えること。

■ 建築気候学

リジャル

Architectural climatology

2年生後期前半

科目概要

私達は Think Locally and Act Globally の理念に基づいて、持続可能な建築・都市環境を作る必要がある。どうすれば、快適で環境負荷やエネルギー使用の少ない建築・都市環境が実現できるのか。解決への糸口は、気候風土に適合した伝統的建築・都市環境にヒントがあるのではないかと考えられる。教員は、世界各地の伝統的建築・都市環境と気候風土（気温、湿度、風速、日射など）の関係について講義する。具体的には乾暑地域、蒸暑地域、寒冷地域における建築・都市環境の特徴、暑さや寒さを克服するパッシブデザイン、地域独自の建築・都市環境を発展させる方法論などである。

We need to create the sustainable architecture and urban environment based on the concept of the “Think Locally and Act Globally”. How can we realize the architecture and urban environment which are comfortable and low impact to the environment? To solve these problems, there may be hints in the traditional buildings and cities which are well matched and adapted to the climates and cultures. To learn the environmental control methods, we will investigate/measure/analyze the traditional buildings and cities in the different parts of world. We will also propose a new traditional buildings and cities as a final assignment.

履修心得

講義の内容と関連する「住環境システム」を履修していることが望ましい。

要望

配布資料、参考書など用いて基礎をしっかりと勉強して欲しい。講義内容は必ずノートを取って欲しい。分からない場合、積極的に質問して欲しい。

■ 交通環境

大西 暁生

Urban Transport and The Environment

3年生前期前半

科目概要

我々の生活は、旅客や貨物といった様々な交通車両から提供される多様な交通サービスにより支えられている。一方、交通サービスの提供は、振動、騒音、大気汚染、エネルギーの大量消費、温室効果ガスの排出等といった環境問題を発生させる。これに対して、交通が多く集中する都市における対策とそれに沿った計画が重要となる。そこで、本講義では交通・都市・環境それぞれの定義と現状及び課題、そして各計画や制度について説明する。また、世界及び国内の都市計画と交通計画について講義する。さらに、交通モデルや都市分析モデルの基礎について学ぶ。最終的には、交通と環境問題を多角的に概観することができるようになるための知識と視点を習得する。

Transport provides services for supporting our convenient lifestyle. But it also causes environmental problems, for example noise, local air pollution and global warming. This class's purpose is to study and grasp issues and viewpoints on urban transport and the environment.

履修心得

講義に出席すること。ノートを必ずとること。

要望

まずは出席して、考えながら、しっかりとノートをとること。

随時質問を投げかけるので常にその課題について考えること。

また、交通、都市、環境等の現状、課題、対策、計画等に興味をもち、新聞やニュース等のこれらに関する情報に常に目を通すこと。

■ 環境都市再生論

室田 昌子

Urban Community Development Theory

3年生前期前半

科目概要

都市再生の実施のための実践的な能力向上のための知識とフィールドを提供し、実践してもらう。特定の実際の地域を取り上げて、その地域の計画づくり、政策的な位置づけや利用された都市再生手法やまちづくり手法などを紹介し、実際の適用や生かされ方を紹介する。その上で、現地調査に行き、自分たちで問題を見つけて整理をし、今後の都市再生やまちづくりに向けたプロジェクト提案をまとめて発表してもらう。今年度は、港北ニュータウンと関内地区をフィールドとする。都市環境分野の専門科目であり、一部、屋外調査を取り入れる。

We learn to propose community projects at some specific areas in practical manner, based on Urban and Residential Environment Theory and City Planning Theory. We experience field works and work shops at two areas including Kohoku New Town.

履修心得

「都市・居住環境論」と「環境都市計画学」を履修していることを必須条件とする。事前にこの2科目の履修を必ずしておいてください。

要望

グループワークを行うので欠席・遅刻は絶対にしないこと。

グループワークを行うために欠席は他の履修者の迷惑となる。既履修者からの強い要望もあるので、欠席は原則認めない。正統な理由がある場合は2コマ(2限続きの1回分)まで認める場合があるが、フィールド調査とプレゼンテーションの欠席は認められない。遅刻は欠席扱いとする。

■ 住環境と人間行動

リジャル

Built environment and occupant behaviour

3年生前期後半

科目概要

不快を生じるような変化が起こると、人は快適性を取り戻そうと行動する傾向がある。また、人は温熱環境を消極的に受容しているのではなく、常に環境と相互作用している。住環境では行動的適応(窓開閉、冷暖房使用)、生理的適応(発汗、震え)、心理的適応(状態の範囲の予測、感覚の範囲の受容)などを行って熱的快適性を得ている。適応機会が少なければ不快が生じる可能性

があり、近年は環境負荷低減を行うために適応に基づいた快適温度が提案されている。教員は、居住者の適応的環境調整行動、快適温度の地域差や季節差、適応モデルなどについて講義を行う。

If a change occurs that produces discomfort, people will tend to act to restore their comfort. People are not passive receptors of their thermal environment, but continually interact with it. In the built environment, people feel thermally comfortable using behavioural (window opening, heating and cooling usage), physiological (sweating, shivering) and psychological adaptation (expecting a range of conditions, accepting a range of sensations). Insufficient adaptive opportunity leads to discomfort. To reduce the environmental impact in recent years, the comfort temperature based on thermal adaptation is proposed. In this lecture, we will study about the adaptive thermal adjustment of people, regional and seasonal difference of comfort temperature and the adaptive model.

履修心得

講義の内容と関連する「建築気候学」、「住環境システム」を履修していることが望ましい。

要望

配布資料、参考書など用いて基礎をしっかり勉強して欲しい。講義内容は必ずノートを取って欲しい。分からない場合、積極的に質問して欲しい。

■ 事例研究 各教員

Case Studies Seminar

3 年通年

講義の目的

事例研究では、配属された学生が、主として研究テーマを発見することをねらいとして、文献調査、現場調査、実験等を個人またはグループで行う。こうしたアカデミック・トレーニングを通して、研究分野の知見を体得し、卒業研究の基礎を学ぶ。また、本事例研究においては、企業におけるインターンシップ、共同研究、受託研究、公开发表、イベント参加なども積極的に含め、その多様化を図ることになっている。本事例研究と卒業研究をセットにして配置し、必修とする。

This compulsory seminar will offer the basic academic training to the junior students, so that they will be able to learn more about the adviser's disciplines, and try to find their own study themes. Also the students must read related academic books in foreign languages under the guidance of the teacher.

■ 卒業研究 各教員

Senior Seminar

4 年通年

講義の目的

事例研究で学んだ基礎の上に立ち、卒業論文の課題設定、中間発表を経て、最終的に卒業論文を完成させる。そこに至るまでに、ゼミ方式および個別指導を併用することにより、実効のある指導を行う。また、本学部の性質上、研究成果は論文形式にとどまらず、コンピュータ・ソフトやビデオなどの電子加工物、模型なども認める。ただし、そのような場合であっても、研究テーマや意図、製作過程を記述した報告書ないし卒業研究概要の提出を求める。

This compulsory seminar to be held in the senior year will provide the students with the opportunity to write a graduation thesis under the auspice of the adviser. Without the completion of this thesis the students are not eligible to receive the BA degree.

<注意事項>

以下に記載した教員毎の概要は、平成 28 年度の実施に基づくものです。平成 30 年度「事例研究」配属の際は、定年退職教員や新規着任教員等により担当教員が変更となる場合があります。

●史 中絶

○事例研究

事例研究では、安全・安心・快適な生活環境・空間を目指し、GIS（地理情報システム）と RS（リモートセンシング）と GPS（全地球測位システム）、いわゆる 3S 技術を活用・融合したスマートシティづくりをはじめ、環境モニタリング、都市災害シミュレーション、文化財保護などに関する技術・解析手法を学びながら、問題発見・問題解決能力を高めることを目標とする。主な内容：

- ・ニュースや参考文献から今現在もっとも関心を集めている社会・生活・環境などに関わる問題を取り上げる。
- ・取り上げられた問題から、新規性や実用性などを意識しながら研究テーマを確定し、研究目的を固める。
- ・研究目的の実現に向けて、資料・データの収集や解決手法の開発などを行い、事例研究論文として成果をまとめる。

○卒業研究

事例研究で学んだ知識や研究の方法・成果などを活かしながら卒業研究テーマを決め（事例研究テーマと同じで可）、研究を行ったうえで、分かりやすい卒業研究論文を仕上げるのが目標である。以下は主な研究分野と卒論テーマの例：

- ①GIS 関連：GIS を用いた地域環境分析・地域安全マップ作成および応用
- ②リモートセンシング関連：Landsat5 号 TM データによる緑被率・温度分布の関係解析
- ③システム開発関連：画像マッチング技術を用いた位置検索システムの開発
- ④その他シミュレーション等関連：OpenGL による地下水の減少・汚染の可視化シミュレーション

●宿谷 昌則

○事例研究

人にとって最も身近な「建築環境」を対象として、環境を構成する要素（光や熱・空気・湿気など）がどのように振る舞うかを、観察・実測・実験などを体験することで理解する。理解を深めるために、経験したことを小冊子に纏め上げる。

In this seminar, the student belonging to our laboratory meet once every week or so and thereby make common studies that all of us can confirm our knowledge on fundamental theory of built environment, research method and so on. In the first half of the year, we do some small measurement and also some small calculation all together to get familiar with the work being done in our laboratory. In the second half, the students initiate the discussion on some specific problems that they want to tackle with and set up what they do, small measurement, small calculation, and so on. Finally, they make a brochure on what they will have done for the period of the second half of the year.

○卒業研究

より良い「建築環境」づくりとは何をどうすることかを明らかにすることを大きな目標として、前半は、研究室に所属する皆で研究テーマの発掘・絞り込みを行なう。後半は、具体的な観察・調査・実験・実測・数値解析などの作業を行ない、再び議論を重ねながら纏めの作業を行なっていく、他者に発表できる論文の形に仕上げていく。

The whole goal of the work to be done for undergraduate dissertation is on the built environment and its associated human well-being. The students first set up one specific theme in which respective student is most interested. Such a theme is determined through the repetition of discussion in our laboratory. The thorough work for one year should enable the students to accomplish some research which all of them are satisfied as graduates of university students.

●田中 章

○事例研究

本研究室では、自然を「ランドスケープ」という土地の広がりとは直結した視点から捉え、その開発、利用と保全、保護、復元、維持・管理、評価等に関するフィールドワークから政策提言までの極めて幅の広い研究を行っています。主な研究テーマは、自然復元、生物多様性オフセット、ミティゲーション・バンキング、環境アセスメント、生態系評価（HEP）、企業活動の生物多様性評価、ランドスケープ・デザイン、景観評価、エコロジカル・プランニング、流域環境計画、屋上・壁面緑化、人工ビオトープなどです。これらの研究を通して、都市や地方における自然を理解したり評価したりする能力、その現状を踏まえた上で理想的なしかし実現可能な計画策定能力、それを実行に移すための社会的仕組みを構築する能力などを養い、実社会で活躍する人材育成が目標です。

○卒業研究

本研究室では、自然を「ランドスケープ」という土地の広がりとは直結した視点から捉え、その開発、利用と保全、保護、復元、維持・管理、評価等に関するフィールドワークから政策提言までの極めて幅の広い研究を行っています。主な研究テーマは、自然復元、生物多様性オフセット、ミティゲーション・バンキング、環境アセスメント、生態系評価（HEP）、企業活動の生物多様性評価、ランドスケープ・デザイン、景観評価、エコロジカル・プランニング、流域環境計画、屋上・壁面緑化、人工ビオトープなどです。基本的に3年次に先輩学生と行ってきたプレ卒研究のテーマを続けることが望ましいのですが、事情により変更が必要な場合には指導教員との十分な議論を通して新テーマに取り組むこともあります。

●室田 昌子

○事例研究

都市計画をベースに、都市のまちづくり・コミュニティ再生を取り扱う。主な研究テーマとしては、郊外住宅地とコミュニティ再生（団地と農村交流、住宅地と緑化、空き家・空き地とコミュニティ）、商業地における来街者行動（回遊行動、滞留行動など）、エコ商店街形成と周辺住民意識、公園や緑のまちづくりとコミュニティ形成などであり、研究室プロジェクトを中心として実施する。事例研究としては、特定の地域の諸問題について空間、意識、行動などの実態を把握し、問題の整理や分析を行い、卒業研究に向けての問題意識やテーマを絞る。

フィールドは、港北ニュータウン、町田、日本橋をはじめ、テーマに応じた先進的モデル地域があげられます。

○卒業研究

事例研究での問題意識をもとにして研究の方法や枠組みを検討し、調査の実施、分析、結論の考察や提案を行う。独自性や新規性を明確にし、客観性やデータの正確性を追求し、その上で、問題の分析を行い問題に対する答えを導出する。空間フィールド調査、意識調査、行動調査などの調査手法を身につけること、問題の整理や分析能力を身につけること、論文としてまとめる力を養うこと、プレゼンテーション能力を向上させることが目標である。

主なテーマとしては、①郊外住宅地の住民意識、生活行動の把握、②公園や緑のまちづくりと効果計測、③商業地の回遊行動・滞留行動、④商業者と周辺住民の意識・行動の把握など。

アンケートやインタビュー調査、行動実態調査などによる住民行動や意識分析、地図やフィールドワークなどによる土地利用や景観実態分析を行う。

●吉崎 真司

○事例研究

緑地環境や自然環境モニタリング、森林環境教育等に関する現地調査と解析手法や試料分析の手法、緑地に関する文献、資料の輪読を通して、卒業研究の基礎となる専門的知識を学ぶ。

Students will learn about the fundamental methodology of field work and data analysis on soil and vegetation and green in the 1st semester. Students will also learn about literature review for pre-training of graduation thesis in 2nd semester.

○卒業研究

沙漠、海岸、都市などの緑の希薄な地域、里地・里山や沙漠化地域など植生が劣化した地域における緑地の創生と修復、モニタリングに関する実践的研究を行う。

事例研究を基礎として卒業研究のテーマを決め、研究計画書を作成する。研究は個別指導及び進捗状況報告会並びに中間発表会を行いながら進める。

●大西 暁生

○事例研究

都市環境に関する具体的なテーマに取り組みます。これまで習得してきた知識や技術を用いて設定したテーマについて深く考察し、オリジナルな事象を導き出す力を養います。そのためまず、都市環境に関する書籍や学術論文を輪読します。次に、環境問題を評価・分析していくための手法である地理情報システム（GIS）、リモートセンシング（RS）、数値シミュレーションの技術を体得します。最後に、事例研究として実際に研究を行います。

○卒業研究

環境共生型の社会を構築するためには、人間活動を制御しながら環境を計画的に利用・保全していく方法を考える必要があります。これによって、持続可能な発展が達成されます。卒業研究では、この持続可能な発展を目指した環境調和型社会経済システムの構築を支援するための研究を行います。すなわち、人間活動が生活環境や自然生態系に及ぼす時間的・空間的な影響を、数値シミュレーションなどを用いて評価・検討します。

●咸 泳植

○事例研究

卒業研究のための予備実験とした本事例研究では、指導教員は大気・土壌・水における物質循環についての実際にフィールド調査と分析化学およびデータ解析を通して環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである環境汚染の原因を解明することと環境保全について指導する。（キーワード：大気・土壌・水の物質循環、フィールド調査、分析化学、データ解析、汚染原因解明）。

In this Case Studies Seminar as cold run of Senior Seminar, the supervisor supervises the environment conservation and clarifying the cause of environmental pollutions throughout field investigation, analytical chemistry, data analyses in atmospheric, edaphic & aquatic element cyclings, which are related with Faculty & Department Curriculum Policies (Keywords: atmospheric, edaphic & aquatic element cyclings, field investigation, analytical chemistry, data analyses, clarifying the cause of environmental pollutions).

○卒業研究

本卒業研究では、指導教員は大気・土壌・水における物質循環についての実際にフィールド調査と分析化学およびデータ解析を通して環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである環境汚染の原因を解明することと環境保全について指導する。（キーワード：大気・土壌・水の物質循環、フィールド調査、分析化学、データ解析、汚染原因解明）。

In this Senior Seminar, the supervisor supervises the environment conservation and clarifying the cause of environmental pollutions throughout field investigation, analytical chemistry, data analyses in atmospheric, edaphic & aquatic element cyclings, which are related with Faculty & Department Curriculum Policies (Keywords: atmospheric, edaphic & aquatic element cyclings, field investigation, analytical chemistry, data analyses, clarifying the cause of environmental pollutions).

●横田 樹広

○事例研究

事例研究では、都市の生態系ネットワークや生態系サービスの調査・評価手法や、それに関連した緑地計画の実践的手法について、国内外の最新事例に関する文献調査を行う。

あわせて、グリーンインフラの創出やコンパクトシティにおける緑地再編といった現代的な緑地計画の課題や、気候変動・ヒートアイランド現象への適応といった環境課題について、身近なフィールドを調査し、研究課題の発掘を行う。

<事例研究の方法>

- ・都市の緑地創出やその計画・活用に関する最新動向を取り上げ、その技術・方法や形成されている環境について、文献調査や現地調査を行う。
- ・それらの調査を通じて、新規性と応用性の観点から重要となる研究課題を抽出し、研究テーマ・研究目的を固める。
- ・研究目的の実現に向けて、資料・データの収集や分析・評価、解決手法の提案などを行い、独自性のある事例研究論文として成果をまとめる。

○卒業研究

事例研究で学んだ知識や研究の方法・成果を活かしながら、独自性のある卒業研究テーマを決め（事例研究テーマと同じで可）、生態系フィールド調査・社会調査や環境情報の解析等の研究作業を行ったうえで、卒業研究論文を取りまとめることを目標とする。

<主な研究分野の例（具体的には個別にテーマを設定）>

- ・都市の生態系ネットワークの調査・計画
 - ・都市緑地の生態系サービスの評価
 - ・気候変動・ヒートアイランド現象下における緑地環境機能の評価
 - ・地域コミュニティとの協働による緑地の管理・活用方法に関する調査・分析
 - ・生態系と水循環・減災とを両立する流域の緑地管理手法の検討
- など

●リジャル

○事例研究

私達は持続可能な建築・都市環境を作る必要がある。どうすれば快適でエネルギー消費の少ない建築・都市空間を実現できるのか。環境と共生した住まいには、どのような方法で自然エネルギーを利用すれば良いのか。各地の気候風土に適応した建築物を建て、それにより環境負荷を減らすためには、どのような工夫が必要なのか。地球や都市の温暖化が問題となる中、私達自身がこの変化する環境にどのように適応し行動すれば快適感を達成することができるのか。これらの解決への糸口は、気候風土に適合した伝統的建築・都市環境や住まい方にヒントがあるのではないかと考えている。私達の研究室では以上の問題意識を持って、建築・都市環境、特に現場調査（実測・申告・観察など）に基づいた研究から実態を把握し、改善策を提案することを目指している。事例研究では住環境に関する研究を行い、住宅やオフィスの温熱環境、居住者の熱的快適感、環境調整行動などについて明らかにする。

In order to evaluate and improve the living environments, we are conducting the research on the thermal environment of the buildings and cities, adaptive thermal comfort and occupant behavior of people.

○卒業研究

自然環境と共生した建築・都市環境を目指し、温熱環境や快適性の観点から研究を行っている。下記は今まで行った主な研究を示す。今後もこれらの経験を活かして国内外で新たな研究を展開したいと考えている。

(1) 建築環境に関する研究（建物の温熱環境・自然エネルギー利用・パッシブデザイン、改善ストロブの快適性・エネルギー削減の検討、気候風土に適合したエコハウスの提案など）

(2) 熱的快適性に関する研究（居住者の快適温度・好まれる温度・適応モデルの検討、想像温度・湿度感・作業効率・睡眠の質の検討、小中高生への住環境教育に関する研究など）

(3) 環境調整行動に関する研究（窓開閉と通風・涼しさに関する研究、冷暖房利用とエネルギー消費に関する研究、着衣量と熱的快適性に関する研究など）

(4) 半戸外・屋外・都市環境に関する研究（グリーンカーテンの緩和効果の検討、街路・公園の温熱環境の評価と改善、大規模緑地のヒートアイランド緩和効果の検討など）

In order to evaluate and improve the living environments, we are conducting the research on the thermal environment of the buildings and cities, adaptive thermal comfort and occupant behavior of people.

●北村 亘

○事例研究

近年の生物多様性の減少は社会の大きな関心となり、将来への課題となっています。持続可能な社会には野生生物との共存が必須ですが、人間活動と野生生物の間に軋轢が生じる場合が身の回りに多く存在しています。しかし、人間側の工夫次第ではこの軋轢を改善できる機会が多くあると考えています。そこで、生物多様性の観点から、動物（特に鳥類）の保全に関わる研究を行い、社会へ「人と野生生物の共生」する手法を提案していくことを目的としています。また、同時に保全活動には対象種の基礎生態を知る必要があることから、同時に基礎的な研究を展開していくことも目的としています。事例研究ではゼミ活動を通して、生物多様性保全に関わる事例について実際の現場でのフィールドワークの経験を積んで、その研究内容をまとめていただきます。通常1～3名ほどのグループで取り組んでいただきます。

【具体的なテーマ例】

- ・ 風力発電が野鳥に与える影響の解明
- ・ 森ヶ崎水再生センター屋上におけるコアジサシの保全活動
- ・ ニューカレドニア固有鳥類カグーの繁殖行動とホルモンの関係
- ・ 巣箱や餌台を利用した身近な鳥と環境の関係の解明
- ・ 小中学生を対象とした市民科学プロジェクトの立案
- ・ サイエンスコミュニケーションとしてのサイエンスカフェの役割
- ・ 渡り鳥（ツバメ・コアジサシ）の渡り経路の解明

○卒業研究

卒業研究では、事例研究で学んだことを生かし、生物多様性保全に関する研究について各人が一つのテーマを持って卒業論文を作成してもらいます。得られた研究成果は最終的に、web、シンポジウム、学会発表、学術論文などとして社会に発信していく予定です。それぞれのテーマは学会発表や学術論文文化に耐えうる内容となっていると思いますので、積極的に学会参加や学術論文文化を目指していただきたいと思います。

【具体的なテーマ例】

- ・ 風力発電が野鳥に与える影響の解明
- ・ 福島第一原発事故後の放射能がツバメに与える影響
- ・ 森ヶ崎水再生センター屋上におけるコアジサシの保全活動
- ・ 巣箱や餌台を利用した身近な鳥と環境の関係の解明
- ・ 横浜キャンパス構内の動物相の把握
- ・ 温暖化が鳥類の分布に与える影響

環境マネジメント学科専門科目

人材の養成及び 教育研究上の目的

直面する環境問題は、地球温暖化、廃棄物問題と循環型社会づくり、化学物質の環境リスク、大気と水の保全、生物多様性の減少など、人間の日常生活と事業活動が原因で発生している。このような環境問題に対処するために、環境経営と環境政策を基軸とする教育と研究を推進し、持続可能な社会に向けた意思決定を行うことができる人材を養成することを目的とする。

環境マネジメント学科で学ぶにあたって

環境マネジメント学科主任教授 小野 直樹

1. 環境マネジメント学科

現代社会は、自然に由来する物質やエネルギーを財やサービスに変換し、その一部を自然へ放出することから成り立っている。現在このプロセスは、一方では、生活の利便性を高め、高度に組織化された政治や経済を実現してきたが、他方では、地域的そして地球規模の環境問題を引き起こすとともに、社会的格差や軋轢を生みだしている。このような社会は持続可能ではない。私たちは、社会が自然を利用して社会と自然の双方を改変するプロセスを、より持続可能なものに変えて行かなければならない。環境マネジメント学科は、現代社会の生産と消費および国家と社会の取り組みに注目し、環境配慮型の社会の実現を目指す学科である。

生産を行うのは企業であり、消費を担うのは市民である。環境マネジメント学科の環境経営分野は、企業の生産活動と市民の消費活動が自然環境にどのような影響を及ぼしているかを分析して評価し、その影響を極小化するための技術や経営を実現することを目指す。

環境政策分野は地球環境問題の実際の解決に必要な法律や政治や経済、社会等のあり方を研究し、人間活動による環境影響を低下させ、自然環境の保全を実現するための社会的制度を提案することを目指す。

同時に、環境マネジメント学科は、現代社会に即戦力として貢献することができる人を育てるための学科である。

2. 教育目標

以上の学科の理念に基づき、次のような能力を持った人を育てることが、環境マネジメント学科の教育目標である。

- ①環境保全に関わる包括的な知識・教養を持ち、実際の解決に必要な政策立案を行うことができる人
- ②持続可能社会に向けた分析・評価に基づき、環境に調和した製品や技術を企画・開発し、持続可能型企业経営・管理に貢献することができる人
- ③企業、自治体、消費者など社会および公的立場に立った協議のもとで環境を創造することができる人
- ④国内外の交流を通じて、国際的な視野のもとで環境問題の解決に貢献できる人

3. 教育の特徴

以上の教育目標を達成するに当たって、環境マネジメント学科の教育は次のような特徴をもっている。

- ①環境経営と環境政策の二つの分野があり、学科基盤科目に加えてそれぞれの分野専門科目を集中的に履

修することで、専門能力を高める。

②企業、消費者団体、自治体との協働による実践に基づくプロジェクト教育を推進し、環境コミュニケーション能力の向上を図る。

③経営学、経済学、法学、国際関係論などの社会科学分野を基調としつつ、環境経営を実践する上で不可欠な、化学物質、地球科学、廃棄物などに関する理工学的な知識や教養の習得をあわせて行う。

④3年生から研究室に所属し、2年間重点的にその専門分野についての研究を行うとともに、研究室の属する専門分野の科目を履修する。4年次では、卒業研究として、その分野の最前線の研究課題に取り組む。

⑤ISO14001の教育への応用により、環境マネジメントシステムのエキスパートを育成する。

⑥同じ環境学部の環境創生学科は、教育目標や科目に共通部分が多く、科目の履修や研究室への所属も、一定の条件下で可能である。環境創生学科の専門科目も、一定の単位数までは、環境マネジメント学科の専門科目の単位として認める。

⑦環境問題は、専門性とともに学際的なアプローチも重要であるので、他学部、他大学の科目についても、一定の単位数までは、自由選択科目の単位として認める。

4. 学修にあたって

外国語科目や教養科目、そして情報系科目等の基礎科目は、東京都市大学でのすべての学習の基礎となるものであり、しっかりと修得しておくことが肝要である。

環境マネジメント学科の専門科目は、専門的な学習の基礎を提供する専門基礎科目と学科の専門科目に分かれる。専門基礎科目は、環境問題が文系と理系を超えた学際領域的なアプローチを必要とする問題であるため、情報系や演習系を含む幅広い分野の科目が用意されている。専門基礎科目では、多様な科目を履修して自分の基礎能力の幅を広げることが重要である。

学科の専門科目は、さらに学科基盤科目と分野ごとの分野専門科目に分かれている。学科基盤科目は学科の専門教育の基盤となる重要な科目群であり、漏れなく修得することが望ましい。分野専門科目は、配属を希望する研究室が属するどちらかの専門分野（環境経営分野または環境政策分野）について、集中的に修得すべき科目群である。この専門分野は、生涯にわたって自分の専門能力を高めていく基礎となる分野として、研究室での専門的な研究とともに、東京都市大学での学修で最も重視すべきものである。

4年間の学修計画を立てるに当たっては、自分が希望する専門分野や研究室を見定め、その目標に向かって、基礎科目、専門基礎科目、専門科目と段階的に専門性を高めていく履修計画を立てることが重要である。

5. 大学生活について

東京都市大学はいい大学であると自信を持って言える。しかし、いい大学生活にするかどうかは君たちにかかっている。規則正しい生活を行い、大学が提供するメニューを君たちが適切に選択し自分のものにしていくことが最も重要である。また、クラブ活動の他、「環境マネジメントシステム活動」等の課外活動にも最大限に参加することを勧める。大学における様々な形での人との出会いが、人としての君たちを大きく育てることとなる。

大学生としての自覚と社会に貢献できる人材になるとの誇りと自信を持って、君たちが東京都市大学での4年間に有意義に過ごすことを心から期待している。

環境学部における科目区分の考え方

環境学部では複雑かつ広範囲に及ぶ環境問題に対処するために、高度な専門能力とともに学際的なアプローチも必要になる。この相反する目標を達成するために、基礎科目、専門科目の中間に、より学問領域の広い専門基礎科目を置き、三段階の教育課程を設定することを特色とする。

第一に、基礎科目では、東京都市大学で全学的に取り組んでいる共通教育科目としての外国語科目、体育科目、教養科目を設ける。この科目区分では、外国語によるコミュニケーション能力、最新の情報機器やソフトウェアを使いこなす能力を含む、グローバル化して科学技術が高度に進展している現代社会での生活や就業に必要なリテラシーを身につけさせる。

第二に、専門基礎科目では、環境問題を理解し分析するに当たって必要な基礎的な知識や技能を、自然科学、人文科学、社会科学の広範な視点で習得させる。したがって、専門基礎科目は、自然科学系色の強い環境創生学科に対しては、社会科学系の科目を、逆に社会科学系色の強い環境マネジメント学科に対しては、自然科学系の科目を割り当てている。このようにして、学科の境界を越えて環境学部に共通して必要となる専門的な基礎科目を提供することが本科目区分の狙いである。加えて、さらに環境との関連性を意識した情報系科目とキャリア科目もこの科目区分に含めている。

第三に、専門科目は、環境創生学科と環境マネジメント学科でそれぞれ独自の専門性の高い科目によって構成する。さらに、この科目区分を、それぞれ学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目に区分している。すなわち、環境創生学科の学科専門科目は生態環境分野と都市環境分野に区分し、環境マネジメント学科の学科専門科目は環境経営分野と環境政策分野に区分する。それとともに、それら専門分野に共通する専門科目として、学科基盤科目を設けている。これもまた、高度な専門性を習得させると同時に、学際的な視野の広さも維持させることを意図するものである。

教育課程表の注意事項

- 「専門基礎科目」「専門科目」は、学科毎に教育課程表を掲載している。
- 週時間数の「2」は、100分授業（1授業時間）のことである。
- 時間割編成等の運用上、開講時期や担当教員を変更する場合がある。

区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備考	
				1年		2年		3年		4年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	環境マネジメントシステム	○	2	2									
	生態学概論	○	2	2									
	統計学基礎		2	2									
	ミクロ経済学		2	2									
	数学入門		2	2									
	環境問題原論		2	2									
	生物学(1)		2	2									
	都市環境入門		2	2									
	マネジメント入門		2		2								
	基礎プログラミング演習		2		2						※		
	環境倫理		2		2								
	マクロ経済学		2		2								
	環境数理学入門		2		2								
	環境リスクマネジメント		2		2								
	情報セキュリティ		2			2							
	社会調査		2			2							
	画像処理技法		2			2							
	環境法入門		2			2							
	世界から考える環境問題		2			2							
	環境化学		2			2							
	キャリアデザイン		2				2						
	生態環境実習		2				*2					2年集中実習※	
	地理情報システム		2				2						
	環境アセスメント概論		2				2						
	環境都市関連法(1)		2				2						
	環境都市関連法(2)		2					2					
	公共政策論		2					2					
	NPOとソーシャルビジネス		2					2					
都市気候論		2					2						
意思決定論		2						2					
専門科目	学科 基盤科目	環境経営入門	○	2	2								
		環境政策入門	○	2	2								
		温暖化の科学	○	2	2								
		持続可能な消費		2		2							
		アカウンティングシステム		2		2							
		エコマテリアル		2		2							
		環境統計学		2		2							
		マネジメント数学		2			2						
		財務会計		2			2						
		環境コミュニケーション論		2			2						
		環境教育		2			2						
		食料問題と環境		2				2					
		日本外交論		2				2					
		国際法		2					2				
		エネルギーと政策		2					2				
		オペレーションズリサーチ		2					2				
		(学科 経営分科目)	ライフサイクルアセスメント		2			2					
			循環型生産システム		2				2				
	環境ロジスティクス			2				2					
	エコデザイン			2				2					
	環境会計			2				2					
	環境マーケティング			2					2				
	環境志向型経営分析			2					2				
	企業経営とサステナビリティ			2					2				
	環境監査			2					2				
	環境改善のライフスタイル			2						2			
	(学科 政策分科目)	公共経済学		2			2						
		環境社会学		2			2						
		開発協力と環境		2				2					
		環境法		2				2					
		環境経済学		2				2					
		国際政治経済論		2					2				
環境政策論			2						2				
グローバルガバナンス			2						2				
	国際経済と環境		2					2					
	事例研究	○	4					3	3				
	卒業研究	○	6										

※演習のため、他学科履修不可

履修上の注意事項

1. 授業科目履修上の注意事項

□ 1・2年次の学修（履修）の考え方

主に必修科目の取得と、3年次以降の基礎分野となる専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目と学科専門科目）の修得を目指す。なお、必修科目は環境創生学科で36単位、環境マネジメント学科で32単位と異なっているので注意が必要である。

各学年40単位以上（各学期に最低20単位以上）は取得すること。2年次終了までに80単位以上取得することを目標とする。

□ 3・4年次の学修（履修）の考え方

専門基礎科目・専門科目を中心に履修を行い、専門性を高める。3年次終了時点で、卒業研究着手条件100単位以上を満たすように履修する。4年次では、卒業研究に着手し、卒業研究論文を作成する。卒業要件である124単位以上の取得を目指す。卒業要件の内容が学科により異なるので、学修要覧の条件が記載されている部分を必ず参照すること。

2. 事例研究着手について

2年以上在学して70単位以上修得しなければ、事例研究着手は認められないので、2年次終了時までには70単位以上、取得すること。

3. 卒業研究着手について

3年以上在学して、以下の条件を満たさなければ卒業研究着手は認められないので、この条件を満たすように履修すること。

- ① 100単位以上修得していること。
- ② 3年次までの必修科目を全て修得していること。

4. CAP（キャップ）制

CAP（キャップ）制については、履修要綱の当該部分を参照すること。

5. 履修モデルについて

環境創生学科は、卒業後の進路として国際環境協力分野をめざす学生の場合、および建設・不動産分野をめざす学生の場合について、また、環境マネジメント学科は、卒業後の進路として一般企業の環境部門をめざす学生の場合、および公務員をめざす学生の場合について、それぞれの履修モデルを表1～表4に示す。

6. その他特に留意すべき点

他学科、他学部、他大学の科目を履修する場合は学修要覧の当該部分を参照すること。

表 1 (環境マネジメント学科)：卒業後の進路として一般企業の環境部門をめざす学生の例

科目区分 (卒業要件)	1 年		2 年		3 年		4 年		必修	自由
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
(1 基礎科目 6 単位)	外国語科目 (6 単位)	Communication Skills 1○ Study Skills○	Communication Skills 2○ Reading and Writing 1○ 法と市民 (憲法含む) 倫理学	Reading and Writing 2○ TOEIC Preparation○					6	0
	教養科目 (10 単位)	情報と社会○ 情報リテラシー演習○ 情報通信技術入門○							6	4
専門基礎科目 (34 単位)	環境マネジメントシステム○ 生態学概論○ 環境問題原論	マネジメント入門 基礎プログラミング演習 環境リスクマネジメント	環境法入門 画像処理技法 数学入門 社会調査 情報セキュリティ	環境都市関連法 (1) キャリアデザイン	公共政策論 環境都市関連法 (2) NPO とソーシャルビジネス	意思決定論			4	30
	学科基礎科目	温暖化の科学○ 環境経営入門○ 環境政策入門○	エコマテリアル 持続可能な消費 アカウンティングシステム 環境統計学	食料問題と環境 日本外交論	エネルギーと政策 オペレーション ズリサーチ					
(6 専門科目 0 単位)	学科専門科目		ライフサイクル アセスメント	環境会計 環境ロジスティクス エコデザイン	企業経営とサステナビリティ 環境志向型経営分析 環境監査 環境マーケティング	環境改善のライフスタイル 環境法 環境経済学			16	44
	事例研究卒業研究				事例研究○		卒業研究○			
自由選択科目 (14 単位)	中国語 1 基礎体育(1)	中国語 2 基礎体育(2) キャリアデザイン基礎	現代の物理 日本の政治	科学技術と社会 インターンシップ(1)		インターンシップ(2)			0	14
	合計 (124 単位)	22	24	23	18	13	0	6	32	92

○必修科目

表2 (環境マネジメント学科)：卒業後の進路として公務員をめざす学生の例

科目区分 (卒業要件)	1 年		2 年		3 年		4 年		必修 自由
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(1 基礎単科目) 6 単科目	外国語科目 (6 単位)	Communication Skills 1○ Study Skills○	Communication Skills 2○ Reading and Writing 1○ 法と市民 (憲法含む) 倫理学	Reading and Writing 2○ TOEIC Preparation○					6 0
	教養科目 (10 単位)	情報と社会○ 情報リテラシー演習○ 情報通信技術入門○							6 4
専門基礎科目 (34 単位)	環境マネジメントシステム○ 生態学概論○ ミクロ経済学	環境倫理 マクロ経済学 マネジメント入門	環境法入門 画像処理技法 数学入門 社会調査	地理情報システム 環境アセスメント概論 キャリアデザイン	公共政策論 NPO とソーシャルビジネス 情報セキュリティ	意思決定論			4 30
	学科基礎科目	温暖化の科学○ 環境経営入門○ 環境政策入門○	環境教育 財務会計	食料問題と環境 日本外交論	エネルギーと政策 国際法 オペレーションズリサーチ	環境改善のライフスタイル			
(6 専門単科目) 0 単科目	学科専門科目		公共経済学 環境社会学	開発協力と環境 環境法 環境経済学	国際政治経済論 企業経営とサステナビリティ 環境監査	環境政策論 グローバルガバナンス 国際経済と環境			16 44
	事例研究卒業研究				事例研究○		卒業研究○		
自由選択科目 (14 単位)	中国語 1 基礎体育(1)	中国語 2 基礎体育(2) キャリアデザイン基礎	社会学入門 日本の政治	特別講義(1) 特別講義(2)					0 14
合計 (124 単位)	22	22	21	21	18	14	0	6	32 92

○必修科目

環境マネジメント学科おすすめの資格リスト

区分	資格名称	おすすめの履修科目	特記事項
科目履修によって取得できる資格	社会調査士	—	学修要覧の「社会調査士」の頁を参照。
科目履修をもとに受験して取得を目指す資格	環境マネジメントシステム審査員	環境マネジメントシステム、環境監査、環境化学、特別講義(1)、特別講義(2)	実務経験を経て環境審査員フォローアップコースを修了することが必要。
	LCAエキスパート検定	ライフサイクルアセスメント、環境マネジメントシステム	—
	公害防止管理者	環境分析演習*、環境化学、物質循環学*、環境アセスメント概論	環境関係法規及び化学に関する基礎知識などは自己学習が必要。*他学科履修
	宅地建物取引士	環境都市関連法(1)、環境都市関連法(2)、環境都市計画学*、都市・居住環境論*など	宅地建物取引業法をはじめとした自己学習が必要。*他学科履修
	環境サイトアセッサー	環境マネジメントシステム、環境監査、環境化学、特別講義(1)、特別講義(2)	実務経験を経て環境サイトアセッサー技能認定講習を修了することが必要。
	環境管理士	環境マネジメントシステム、環境監査、環境法、企業経営とサステナビリティ、特別講義(1)、特別講義(2)	環境管理実務に関する自己学習が必要。

「科目履修をもとに受験して取得を目指す資格」とは、受講内容をベースとして、さらに受験のための自習を行い受験する資格です。

科目概要 (2 年次以上配当科目のみ。1 年次配当科目は教授要目を参照のこと) (教育課程表掲載順に記載)

■ 情報セキュリティ

関 良明

Computer Security

2年生前期

科目概要

インターネットやITの普及に伴い、情報セキュリティが重要となっている。授業では、基礎技術として暗号関数、基盤技術として情報暗号、相手認証、電子署名などを講義する。また、応用技術としてファイアウォール、VPN、ICカードなどを講義する。最後に、NISTのFIPSについて言及する。

According to spread of internet and IT, information security becomes very important. A teacher lectures on threat to information, network security, encryption technology, and authentication technology.

履修心得

ネットワークに関する知識を学んでおくこと。

要望

技術の発展にともない、情報通信環境の安全性も変化し続けている。このことを踏まえて、ますます重要となる情報セキュリティの必要性や基礎知識を理解して、実践してほしい。

■ 社会調査

大塚 善樹

Social Research

2年生前期前半

科目概要

社会調査の意義と、その諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの違いや、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程について学習する。

The aim of this class is to understand the basis of investigation methods for social science, that varies from the qualitative approaches using interviews and observation method to the quantitative one using questionnaire surveys.

履修心得

統計学基礎の単位を取得していることが望ましい。

■ 画像処理技法

史 中超

Image Processing

2年生前期前半

科目概要

マルチメディアの重要なソースである画像情報について、一般の写真画像から人工衛星画像まで、その収集方法、コンピュータでの管理方法、情報抽出のための処理・解析方法などを体系的に学ぶ。

In this subject, the students will mainly learn about the principle of digital image, the image quality improvement methods including noise elimination, brightness/contrast adjustment etc., and the techniques related to feature extraction including edge detection, image segmentation, texture analysis, and so on.

履修心得

〈事前に履修が望ましい科目〉 コンピュータシステム、情報リテラシー演習

〈他の授業科目との関連〉 地理情報システム論、環境モニタリング技術

コンピュータ基礎知識、特にコンピュータや周辺機器の内部構造、動作原理などが分かれば授業の内容を理解しやすくなる。

要望

すべての回に出席することを前提として成績評価を行いますので、無断欠席しないように注意してください。

■ 環境法入門

古川 務

Introduction to Environmental Law

2年生前期前半

科目概要

この講義では、良好な環境の確保を図るための法制度の概要が示される。持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について学ぶための基本となる科目である。法制度の一般的理解を踏まえて、環境法体系の特徴、課題、望ましいあり方等につき議論できるようになることを目指している。テーマは幅広く、大気汚染、水質汚濁等の公害の防止にかかわる法制から、人間による破壊等から自然環境を保全する自然保護法制に至るまでを扱う。なお、必要に応じて、たとえば気候変動枠組条約・京都議定書、生物多様性条約等の国際環境法にも言及する。

This lecture is intended to teach the legal system to maintain natural environment in general, and provides the elements to learn about policy making to promote sustainable corporate practice and consumption behavior. I hope that the students taking this lecture become able to discuss about the characteristics, the issues, and the desirable role of the environmental laws system. This lecture addresses the theme of legal system relating to prevention of pollution such as the air pollution or the water pollution, and nature conservation legislation to protect natural environments from the destruction by the human being. In addition, I mention the international environment laws such as United Nations Framework Convention on Climate Change and the Kyoto Protocol, and Convention on Biological Diversity as necessary.

履修心得

新聞記事等のチェックを日頃より行い、環境問題に対する関心を維持しておくこと。

要望

どのようなルールがあるかについての理解が深まれば、環境問題への興味関心もこれまでとは異なったものになると思います。授業内容をしっかりと復習し、環境に関するルールの理解に努めてください。

■ 世界から考える環境問題

枝廣 淳子

Environmental Issues from Global Perspectives

2年生前期前半

科目概要

環境の分野で活動していくためには、日本の中だけではなく、世界の状況や動き、新しい考え方や手法を採り入れていくことが必須である。同時に、日本独自の取り組みや知恵を世界に発信することで、世界の持続可能性の動きに資することができよう。本質的な問題解決のためには、言葉の壁を超えて世界の国々と学び合い、対話・議論し、新しい持続可能性文明を共創する必要がある。

これらの活動のためには、まずは英語を使って、情報収集・理解し、発信し、対話・議論できる力とスキルが必須である。本科目では、世界と共に環境問題を解決していくための英語力の育成を意識しながら、切迫した問題である地球温暖化と、今後の国際的な議論において重要であり環境分野を学ぶ学生は知っておくべき SDGs をテーマに、世界の先進的な取り組みを学び、自分なりに考える力をはぐくむ。

履修心得

Communication Skills, Reading & Writing などの授業を履修していることはもちろんですが、英語の教材を読んだり、聞いたりすることを通して、世界の環境問題について学ぶ授業ですので、最低限の英語力と、英語を通して環境を学びたい！という気持ちが必要で

■ 環境化学

咸 泳植、久米 一成

Environmental Chemistry

2年生前期

科目概要

教員は生態系における汚染物質濃度と量の時間・空間的な変化を解析することによって汚染源を突き止められる手法として「環境化学」に関する講義を行う。また、教員は環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである身近な環境の諸問題について化学的な見地から理解し、その対応策について議論する(キーワード:生態系、汚染物質、汚染源、時間・空間的な変化)。The lecturer gives a lecture on “Environmental Chemistry” as a useful tool to clarify pollution sources with the spatiotemporal change of pollutant concentration & load in ecosystems. In addition, the lecturer gives a lecture on the environmental problems through a chemical point of view and their countermeasures, which are related with Faculty & Department Curriculum Policies (Keywords: ecosystem, pollutant, pollution sources, spatiotemporal change).

履修心得

環境学、生態学、化学的な素養が必要であるが、もっと大事なのは、これから修得するという意欲を持つことである。

要望

環境問題を解明するためには、複合的な学問を学ぶ必要がある。今回の講義は、環境化学に絞ったが、今後勉強を続けるならば広い視野で取り組むことを進める。

■ キャリアデザイン

曲尾 実

Career Design

2年生後期

科目概要

キャリアデザインに必要な自己理解と社会・環境の理解を、DVDの視聴やグループワークなども実施しながら促進していく。また、社会人として求められるコミュニケーション力などの基本的なスキルについて、講義での解説とともに、グループワークなどの実施により実践的に習得の促進を図っていく。

履修心得

学問上の知識等は特になし。ただし、自らの人生(仕事人生)に対する大いなる関心と、真摯な受講態度が望まれる。

要望

成り行きでない(仕事)人生を送るための科目です。自己理解や仕事理解、自分の能力の確認などをしていきますが、キャリアに関することを考える場合には自分一人だけの分析ではなく、他の人との比較も大変重要になります。したがって、グループワークやディスカッションに積極的に参加することが必要です。

期末試験のみならず、出席率や課題への取り組み、グループワークなどへの貢献度、授業中の態度・行動も評価対象にします。

■ 生態環境実習

吉崎 真司、咸 泳植、北村 亘

Fieldwork on nature and natural environment

2年生集中(後期)

科目概要

自然の中で、動植物・生態系及び無機的環境に関する調査体験を通して、自然を理解し、劣化した自然を修復・再生する方法を学ぶ。

This fieldwork focuses to learn how to restore and rehabilitate the deteriorated nature through the field survey.

履修心得

山歩きができるように、日頃から体調管理に努めること。

要望

実習は、静岡県富士宮市富士山2合目付近の、静岡県山の村内の宿泊施設に3泊4日の予定で滞在しながら行う。実習費用が係るので、説明会に必ず出席すること。また、実習では静岡大学農学部の教員2名が指導を行うほか、本学卒業生による特別講義も行う予定である。

■ 地理情報システム

史 中超

Geographic Information System

2年生後期後半

科目概要

高度の情報社会の進展に伴い、都市再生や防災、カーナビゲーションや携帯などをベースにしたあらゆるサービス分野で地理情報に対するニーズが急速に高まっている。本科目では、地理情報システム(GIS)の基礎から都市や地域の自然及び人間の経済社会活動に関わる様々な地理情報の収集・管理・検索技術、それからGISを生み出した基盤となっている科学的知識を体系的に学ぶ。

In this subject, the principle of GIS(Geographic Information System) and the major techniques in GIS related to capturing, storing, checking, integrating, manipulating, analyzing and displaying spatial data will be described in details. Furthermore, the students can learn about how to solve practical problems like urban redevelopment etc. with GIS from the exercises.

履修心得

地図に関する知識を勉強・復習しておけば授業の内容が理解しやすくなる。

〈事前に履修が望ましい科目〉 コンピュータシステム、情報リテラシー演習、画像処理技法

〈他の授業科目との関連〉 環境モニタリング技術、環境地理

要望

すべての回に出席することを前提として成績評価を行いますので、無断欠席しないように注意してください。

■ 環境アセスメント概論

横田 樹広

Environmental Impact Assessment

2年生後期後半

科目概要

人間による開発行為が環境に及ぼす影響を理解し、我が国における環境影響評価制度および環境影響の予測・評価の技法について習得する。また、持続可能な開発にむけた環境アセスメントの課題と可能性について理解する。

Understanding the concept of environmental impacts and the systems/techniques of environmental impact assessment, the present issues and the possibilities of EIA/SEA systems for the sustainable development will be discussed with the practical studies.

履修心得

自身が関心を持つ具体的な開発事業やその環境影響、環境影響評価の状況等について広く情報収集するとともに、環境アセスメントの新たな課題・可能性について考えながら受講すること。

要望

まずは、環境影響評価の実際の手続きと技術についてきちんと習得することを目指してほしい。

そのうえで、持続可能な開発にむけて環境アセスメントで何ができるか、国際的視野でその可能性を議論できることを目指してほしい。

■ 環境都市関連法(1)

竹田 智志

A related law of environment and urban (1)

2年生後期

科目概要

本講義では、私達の生活と密接に関わりを持つ民法の全体像をつかみ、民法の体系的な理解と法令用語の基礎知識を習得する。その上で、契約・財産法の基礎を学ぶ。様々な具体例を取り上げ、特に不動産の取得を巡る問題、金銭の貸し借りや担保、債権や契約などのテーマをピックアップし、具体的な事例を取り入れながら学習する。本講義は、不動産業や建設業界、ハウスメーカーなどの業界を目指す学生が、宅建などの不動産関係の資格を取得する上での基礎となる講義である。また、環境問題を理解し分析するにあたって必要な基礎的知識、技能、方法論を学ぶための講義でもある。

履修心得

星野英一著「民法のすすめ」岩波新書は講義前に読んでおくことを望みたい。

要望

定期試験では、持込みを一切認めません。厳しいようですが、制度そのものは民法全般のうちのほんの一部分を考査するものです。制度のイメージは講義時に解説するわけですが、実際の法規定は触れられる場合とそうでないときがあります。各自がそれぞれに抑えておいて戴きたいと願います。

■ 環境都市関連法(2)

竹田 智志

A related law of environment and urban (2)

3年生前期

科目概要

本講義は、「環境都市関連法(1)」をベースとし、不動産取引とマンション管理に関する法体系を学ぶものである。まず、不動産の特殊性について検討し、不動産賃貸借の仕組み、個別の法的論点について検討する。後半は現在の都市において一般的となりつつあるマンションに焦点をあて、区分所有、マンション管理など、マンション法の論点について考察する。全体としては民法と特別法の交錯するポイントを押さえ、不動産取引が複雑かつ不透明である点を明らかにし、不動産関係の資格試験等の把握を充分なものとするを目指す。本講義は、環境問題を理解し分析するにあたって必要な基礎的知識、技能、方法論を学ぶためのものである。

履修心得

「環境都市関連法(1)」は履修済みであること。

要望

テキスト、六法、用語集が必要です。揃えて下さい。一応法律は、「民法」、「借地借家法」、「区分所有法(建物の区分所有等に関する法律)」を対象としています。テキストは制度全般につき概説。用語集は文字通り法律用語の解説。法は六法に記載されています。

■ 公共政策論

古川 務

Public Policy

3年生前期前半

科目概要

公共政策とは、政府および地方公共団体等が実施するさまざまな公共的な施策をいう。この講義では、本学部・学科の特徴を踏まえ、深く環境問題にかかわるいくつかの政策分野の事例を取り上げて、主として法的観点から概説する。この科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について発展的に学ぶための科目である。なお、公共政策のうち、環境政策に区分されるものについては、環境政策論で取り扱う。受講学生には、これらの事例を踏まえて、各公共政策分野の特徴、課題を理解すること、また、その望ましいあり方を考察することが求められる。

The public policy means various measures to promote public welfare that the government and local public body etc. carry out. It is sorted in the plural policy areas. In this lecture, based on the characteristic of this department, I comment on the measures in some policy areas relating to environmental problems primarily from the legal point of view. This lecture provides the base to learn about policy making to promote sustainable corporate practice and consumption behavior. However, I address the policy area called the environmental policy in the public policy in other lecture, Environmental Policy. The students taking this lecture are required to acquire the characteristics, the issues and to consider the desirable role concerning each policy areas based on the examination of these measures.

履修心得

公共政策分野に広く関心を有していること。また、日頃から新聞等で情報を収集しておくこと。

要望

担当者の専門の関係で、法的観点から公共政策を考えていきます。ただし、環境法の講義とはかなり視点を異にしていると思います。できるだけ出席して、この講義の全体像をつかんでください。

■ NPO とソーシャルビジネス

服部 篤子

Nonprofits and Social Business

3年生前期

科目概要

本講は、「公共サービスの担い手は誰か」、「非営利セクターにとって利益とは何か」、「ソーシャルイノベーションとは何か」、といった基本的な問いに、皆さんが解を見出すことで、NPO やソーシャルビジネスの理論と実践を理解することを目的とします。

具体的には、まず、この分野が国内外で着目されてきた社会的背景と研究の潮流を概説します。そして、公共政策、組織運営、ビジネスや市場との関係など複数の視点から非営利セクターの役割と課題を明らかにします。

さらに、営利と非営利セクターを超えたフィールドとしてのソーシャルビジネスを分析し、社会課題解決の可能性や市民社会について考えていきます。

Who is public service providers? What is the profits for the nonprofits sector? What is the meaning of social innovation?

We consider these research questions above and try to understand the concept of social business.

In addition, we discuss the tide of social environment where the social business were emerging. Furthermore, we examine the role of social sector in terms of public policy, institutional management, and social impact on the market.

The purpose of the class is to think over the theory and practice of civil society beyond the boundaries between profits and business sector.

履修心得

特になし

要望

キャリアを考える上で、社会問題の解決に取り組む「社会起業家」など、NPO に携わる人々やリーダーの人間性に学ぶところは少なくありません。本講座を通じて、各自が緊要な社会の問題に目を向け、市民社会に対する意識を高めることを期待します。

■ 都市気候論

鳴海 大典

Urban Climate

3年生前期

科目概要

都市では人工被覆化や排熱の増大に伴ってヒートアイランド現象が顕在化している。また、温室効果ガスの増大による地球温暖化の影響もあいまって、特に大都市での気候変化が大きな社会問題となっている。本講義で科目担当者は、都市化に伴う気候変化のメカニズムとこれにより生じる環境問題について解説するとともに、適切な環境計画を行うための技術や政策などの最新情報を提供する。

Urban heat island caused by the increase of the artificial covering and anthropogenic heat in cities have been become

remarkable. Furthermore, by the effects of global warming, climate change in cities have become particularly big social problem. In this lecture, student will learn the mechanisms of climate changes associated with urbanization, impacts to the residents in cities and the latest technology and policy for carrying out the appropriate environmental planning.

履修心得

環境都市計画学や建築気候学などの関連講義を受講していること。

■ 意思決定論

阿部 雅之

Decision Making Method

3年生後期

科目概要

意思決定をデータ中心のアプローチとして捉え、ビジネスのみならず、日常生活においても重要な位置づけであることを習得する。学習直後から活用可能な事例を中心に学習する。

This lecture treats Decision Making Method by data-oriented approach. We also discuss Decision Making Method in our daily life.

履修心得

特に設定はしないが、統計関連科目されにできれば簿記会計関連科目の学習が望ましい。また、表計算ソフトエクセルの基本的操作ができればなおよい。

要望

学習したその日からすぐに活用できるテーマを教材としているので、日常の生活や行動を意思決定的観点から系統的に捉え、普段の生活の場でも実践してください。この授業を受けることで、それまで持っていた先入観や概念が大きく覆ります。若いうちにカルチャーショックを大いに受けてください。

■ マネジメント数学

郭 偉宏

Mathematics for Management

2年生前期後半

科目概要

マネジメントの技術には、OR やコンピュータシミュレーション等、数学的なものの見方・考え方が要求されるものが多い。本講義では、これらの専門領域で必要となる数学的なものの見方・考え方を身につけることをねらいとし、特に、集合、ベクトル、行列、線形代数の基礎を理解することを目的とする。

The objectives of this lecture are to acquire the ability of fundamental mathematics, for example, set, vector, matrix, linear algebra, in order to apply it to each special investigation.

履修心得

前提とする知識及びキーワードとしては、集合、ベクトル、行列、線形代数である。事前に履修が望ましい科目としては、高校での数学 I、II、A、B、また数学入門を履修していることが望ましい。

要望

マネジメントへの応用を含め、行列、微分や積分の考え方や基礎的な計算方法について、演習を通じやさしく説明するので、履修してください。

■ 財務会計

田中 優希

Financial Accounting

2年生前期

科目概要

本講義では財務会計の基礎を学ぶ。財務会計は、企業の経営成績や財政状態を外部利害関係者に報告するツールである。

This course is designed to provide a basic understanding of financial accounting. Financial Accounting is a tool to report the results of operations and financial condition of the company to external stakeholders.

履修心得

予備知識を必要としない。ただし日常的に経済系のニュースに気を配ると、講義の理解が早まる。

要望

現代社会に必要なものは、英語、IT、そして会計です。会計を学ぶと世の中の仕事みをより深く理解できるようになります。身近な事例や企業の具体例を豊富に取り上げて講義するので、好奇心旺盛に学んでください。

■ 環境コミュニケーション論

枝廣 淳子

Environmental Communication

2年生前期後半

科目概要

環境問題の解決に向けて、問題の存在を伝えるだけではなく、必要な政策の受容度を上げ、行動変容を促すコミュニケーションが必要だが、こういった観点での環境コミュニケーションについては、国内はもちろん世界でも、研究・実践が始まったばかりである。この科目では、コミュニケーションの基本的な理論、マーケティング理論、心理学、共創のための対話などをベースに、行動変容につながる環境コミュニケーションの枠組みを学び、実践を行う。また、日本の非常に弱い点である「世界への発信とコミュニケーション」や、SNSなどの新たなメディアを通じての環境コミュニケーションの可能性についても考える。

履修心得

心理学入門、情報編集入門 などを履修していることが望ましい

■ 環境教育

佐藤 輝

Environmental Education

2年生前期

科目概要

環境教育のさまざまな実践的な取り組みへの理解を通して、環境教育の意義、目的、背景、歴史、対象者、方法論などを具体的に学ぶ。地球温暖化や自然破壊、水質・大気汚染といった身のまわりの環境問題に着目して、受講生みずからが環境教育プログラムを企画できるノウハウを習得するために、海外の教育動向や国内の企業・行政の先進事例も参照する。Through the understanding of various practical actions of the environmental education, its significance, a purpose, a background, the history, target people, methodology for the environmental education will be concretely studied. To learn how to plan an environmental education program against several environmental problem around ourselves such as climate change, destruction of nature, the water and atmospheric pollution, every student refers the overseas education trend, and the advanced examples of private companies and administration sectors in Japan.

履修心得

環境教育への関心

■ 食料問題と環境

大塚 善樹

Food and Environment

2年生後期前半

科目概要

私たちの食卓は環境と密接につながっています。多くの環境問題は食品汚染として発生してきましたが、大規模な工業的食料生産は環境破壊の原因でもあります。この授業では、現代社会のグローバル化、情報化、環境配慮などの変化のもとで、食料の生産と消費のありかたがどのように変化してきたかを考えることを通して、持続可能な社会のあり方にアプローチします。

In this class the impacts of production and consumption of food upon natural environment are discussed in the context of global, informational and ecological change of contemporary society.

履修心得

社会学入門、ミクロ経済学、環境社会学の単位を取得していることが望ましい。

■ 日本外交論

小野 直樹

Japan's Foreign Policy

2年生後期

科目概要

日本の外交に関する基本的知識と考え方、ならびに日本が直面している主要な課題について、国際社会の一員である日本がどのように対応しているのか、取り組むべき問題にはどのようなものがあるかを理解する

This course covers analytical framework of foreign policy conducts and major issues of Japan's foreign policy

履修心得

新聞、テレビ、インターネットなどを通じて、日本と国際社会に関係あるニュースを調べ、現在日本が直面している国際問題にはどのような問題があり、どう対応すべきかを自分自身で考えておくこと

■ 国際法

高井 晋

International Law

3年生前期

科目概要

国際法は、主権国家間の共通ルールとなるもので、主権国家間の利益の衝突をあらかじめ調整するとともに、国際社会の秩序を維持し国際協力を推進する重要な役割を果たしています。今日の国内社会における環境や情報の問題が国際社会と密接な関係にあるため、この国際法の講義は、環境科目および情報科目の基盤科目として位置づけられ、国際社会における諸国家間のダイナミックな活動を研究する上で必須の科目である。International law has been developed by sovereign states and played its important roles to settle international disputes in advance and to improve international cooperation. For activities on environment and information in a domestic society are closely related those in international society, this lecture is designated a basic and necessary lecture on environment and information studies.

履修心得

この授業では、国際社会、主権国家、国家承認、政府承認、排他的経済水域、越境環境汚染、宇宙空間、地球軌道、空域、国際武力紛争、安全保障、集団的自衛権、国連決議など、普段ほとんど使用しない用語が頻繁に使用されますので、受講に当たっては新聞、テレビなどマスメディアの報道に注意しておいてください。

要望

講義中あるいは講義後に多くの質問があることを期待しています。講義内容を復習することは期末試験の準備になるので、講義内容をまとめたレポートは、翌週の講義後に必ず提出するようにしてください。

■ エネルギーと政策

木村 啓二

Introduction to Energy Policy

3年生前期

科目概要

エネルギーは私たちの生活や経済活動と密接にかかわっています。と同時に、それは国内のみならず世界全体とかわり、かつ環境影響を与えています。そこで、本講義では私たちのエネルギー利用が環境に与える諸影響について理解するとともに、そうした課題解決に向けた取組と今後の課題について考えていきます。

Energy production and consumption is closely related to our lives and economic activities. On the other hand, that affects environment issues. This lecture provides you basic information on energy consumption and the environmental impacts from the energy usage. In addition, we consider the current situations for addressing these challenges.

履修心得

経済学やエネルギーに関する基礎知識があれば望ましいですが、特に必須ではありません。

■ オペレーションズリサーチ

増井 忠幸

Operations Research

3年生前期

科目概要

ORは、経営事象や社会事象を、数学モデルで表現し定量的に分析することによって、その構造や挙動を解析・把握し、意思決定のための定量的基礎を得るための方法である。この講義では、問題の捉え方やモデル表現方法について、身近な事象を例として取り上げ、モデル構築の方法と解析手法について講述する。また、典型的なORモデルについて解説し、その数学的な意味を理解するとともに、演習等によってその解法を修得し、これを環境問題やマネジメント問題の意思決定や設計に役立てる素養を身に付けることを狙いとする。

<科目概要(英文)>The objectives of this lecture are to understand the typical OR models and methods of analysis, and to acquire the modeling skills appropriate for many kinds of phenomenon such as business management and environmental problems for decision making.

<キーワード>モデル、最適化、経営科学、数理計画

履修心得

統計学の基礎知識、高校程度の数学的素養が必要。

数学入門、統計学基礎、環境数理学入門、環境統計学、マネジメント数学、環境ロジスティクス等を履修していることが望ましい。

要望

この講義は、問題を論理的にとらえ考える素養を身に着けることを狙いとしている。

講義中に講義・演習内容を完全に理解するようにし、各自復習して身に着けるようにしたい。

欠席すると次回の講義内容がわからなくなることが多いので、欠席しないように。やむを得ず欠席した場合には、次回の講義までに内容を習得しておくよう努めてください。

■ ライフサイクルアセスメント

伊坪 徳宏

Life Cycle Assessment

2年生前期後半

科目概要

環境調和型として開発される製品は真に環境影響を緩和するのに貢献するものであるのか適切に評価されなくてはならない。LCAは製品の環境側面に対する分析評価手法として既に多くの企業において採用されており、社会に定着しようとしている。ここではケーススタディ等を織り交ぜながらLCAの構成とその実施方法について習得することを目的とする。

<科目概要(英文)>Products developed for environment have to be evaluated based on the quantified results in order to convince the significance of products to many of stakeholders and promote them to the public. LCA has been recognized as a useful tool that enables us to quantify environmental impacts due to product life cycle. Most of advanced companies have already adopted this tool in order to support their decision making. This class is aimed for learning the procedure of LCA and how to apply this for the establishment of environmental management.

<キーワード>ISO14040、LCI(ライフサイクルインベントリ)、LCIA(ライフサイクル影響評価)、ライフサイクル解釈

履修心得

環境影響について評価するために必要な知識として、環境問題の概論、エコマテリアル、環境管理などを理解しておくことが望ましい。

要望

あらゆる人間活動は環境負荷を伴う。ライフサイクル的思考のもと環境影響を総量的に低減させていくことの重要性を認識するとともに、適切に評価するための必要な知識を習得してほしい。

■ 循環型生産システム

郭 偉宏

Circulatory Production System

2年生後期前半

科目概要

本講義では、循環型生産システムにおける基本的な管理技法(需要予測、在庫管理、生産計画、輸配送計画)と環境への配慮について学ぶ。

This lecture presents several fundamental thinking and techniques related to circulatory production system, For example, forecast, inventory control, production planning, VRP and SCM, especially relationship with environmental factors.

履修心得

数学入門、マネジメント数学、マネジメント入門、統計学や情報系(エクセル)に関連する科目の履修が望ましい。

要望

生産システムにおける4つの技術、さらに環境との関わりについて説明します。ぜひ履修して下さい。

■ 環境ロジスティクス

増井 忠幸

Environmental Logistic System

2年生後期

科目概要

ロジスティクスは、全産業及び社会生活の基盤として不可欠な要素であり、ますますその重要性が高まっているが、大量のエネルギー消費と環境負荷を伴う活動である。本講では、サプライチェーン全体にわたって、ものの流れの効率化を図り、かつ環境負荷を低減するロジスティクスシステムのあり方について講述する。特に、ロジスティクスにおける環境問題の体系的把握とその具体的な取り組み方法、および、社会的な環境負荷低減活動に資するためのロジスティクスにおける環境負荷の定量的把握とその可視化の方法論について解説・議論する。

<科目概要(英文)>In this lecture, we will discuss the logistics system should look like in the environmental and the advanced information age. In addition, we will learn how to measure and visualize the CO2 emissions in the logistics activities and how to design the effective and environmental supply chain.

<キーワード>調達-生産-流通-消費-回収-廃棄、サプライチェーン、経済効率、環境効率、情報システム、CO2

履修心得

マネジメント入門、環境問題原論、持続可能な消費などを履修していることが望ましい。

要望

ほとんどの企業活動や社会生活に関係する「物流・ロジスティクス」に関する講義です。

「物流」を通じて、効率化や環境負荷削減方法について基礎から解説します。

ロジスティクスや環境問題に関する基礎の習得に加えて、新聞・雑誌・テレビ放送などによって社会の動向にも注意しながら受講してください。欠席しないように。

■ エコデザイン

伊坪 徳宏

EcoDesign

2年生後期

科目概要

環境配慮設計、エコイノベーションの4段階、製品改善、再設計、機能革新、システム革新、サステナブルデザインについて学ぶ

To understand Environmentally Concious Design, Four developing stages of Product Improvement, Redesign, Function

Innovation and System Innovation, and Sustainable Design.

履修心得

ライフサイクルアセスメント(LCA)の基礎知識

要望

エコプロダクツを的確に評価できる見識を養ってほしい

■ 環境会計

田中 優希

Environmental Accounting

2年生後期

科目概要

環境会計の基本的な概念を網羅的に概説する。

環境経営と会計システム、環境管理会計、マテリアルフローコスト会計、ライフサイクルアセスメント、環境情報開示と環境報告書、財務会計と環境問題など。環境会計の入門に当たる講義であることから、各分野のより詳細な内容に興味のある学生は、本講義の後または同時に、当該分野の講義を取ることを推奨する。

This lecture outlines comprehensively basic concepts of environmental accounting.

To be more specific, accounting system and environmental management, environmental management accounting, material flow cost accounting, life cycle assessment, and environmental information disclosure, environmental issues and financial accounting, and so on.

Since this lecture is an introduction to environmental accounting, if you are interested in a more detailed contents of each topics, you may take lecture of that topic after or with this lecture.

履修心得

アカウンティングシステム、財務会計等、会計関連科目の履修を推奨する。

要望

環境会計に興味を持っている学生が、自分が本当に関心のある領域は何か、あるいはどの領域であれば自分の持ち味が活かせるのか、といった事を探ることのできる講義にしたいと考えています。適宜、財務会計や管理会計の基礎的な内容についても補足します。

■ 環境マーケティング

伊藤 裕一

Environmental Marketing

3年生前期

科目概要

資本主義社会において、クラシックなマーケティングは大量生産、大量消費を支え、急速な経済発展に貢献する一種のシステムとして創出された。また、個々の企業レベルの視点をとると、マーケティングは、その収益性と競争優位性の原動力として、企業の成長に貢献してきた。しかし、こうした過去のマーケティング戦略は、自然環境に対する楽観的な仮定に基づき、その活動がもたらす広範囲な環境へのインパクトについての配慮を欠いてきた。その結果、マーケティングを原動力とする企業活動は、環境、経済、社会-文化的な様々な問題を引き起こしてきた。マーケティングには、根本的なパラダイムの変換が必要である。本科目では、こうしたマーケティング・パラダイムを、クラシック・マーケティング、エコロジカル・マーケティング、グリーン・マーケティングの変遷の中で検討した後、将来に向かっての持続性を実現することが期待されるサステナブル・マーケティングについて検討を行う。最後に、マーケティングの主目的である消費そのものの妥当性にフォーカスしたソーシャルマーケティングの視点についても検討を行う。

In the capitalism society, classic marketing was created as a kind of system to contribute rapid economic growth by supporting mass production and consumption. Also, from the view point of individual corporations, marketing contributed to company's

growth as a driving force of profitability and competitive advantages. However, the past marketing strategy, based on the optimistic assumptions regarding natural resources, had been lacking considerations and concerns on its impacts on the environment on a large scale. As a result, corporate activities supported by marketing forces has been causing a wide variety of environmental, economical and socio-cultural problems. Marketing needs the drastic paradigm shift. In this lecture, after examining the transition of marketing paradigms starting from classic marketing

followed by ecological and green marketing, the sustainable marketing which is expected to be realizing sustainability toward the future will be examined. Finally, the social marketing focusing on the validity of consumption, the key objective of marketing, will be studied.

履修心得

環境マネジメントにおける関連する科目の知識

要望

- ・グループディスカッションへの積極的な参加
- ・グループディスカッションを通じて持続可能なマーケティングの具体的な方策、例えば、商品やサービスの提案を行って欲しい

■ 環境志向型経営分析

枝廣 淳子

Financial Analysis

3年生前期後半

科目概要

環境問題の原因の一つでもあり、解決策の担い手でもある企業の活動を、社会貢献ではなく、経営という視点から学び、分析・評価する手法を身につけることで、環境問題の解決策に資する力を身につける。

Businesses are one of the drivers of environmental problems as well as one of the key players to address such issues. Students will look at business activities not from philanthropic standpoint but from view of corporate management and acquire methods for analysis and evaluation of such business activities in order to contribute to solve environmental issues.

履修心得

持続可能な消費、環境マネジメントシステムなどを履修していることが望ましい

■ 企業経営とサステナビリティ

市川 芳明

Corporate sustainability management

3年生前期後半

科目概要

この科目は、企業が持続可能型経営に転換するための知識や技術を学ぶための科目である。21世紀の企業は環境のみならず、社会的責任を考慮した経営を行わなければならない。この講義では生物多様性や紛争国物などの先端的CSR課題と、環境やCSR課題に企業経営者がどのようにとりくむべきかについて取り扱う。講義中のDebateにおける訓練を経て、いま企業が欲しているグローバル人材育成の一助とする。

This class is aiming at making students to gain knowledge for transforming corporate business strategies to more sustainable-oriented and profitable ones. In the 21st century, every organization should conduct sustainable corporate management including not only environment but also social responsibility. In this lecture, advanced examples of CSR management and supply-chain management including conflict minerals and biodiversity are addressed. In particular the corporate business strategy to deal with these issues are focused. Through the debate on these issues, this lecture helps students improve their competence being global experts which is most appreciated by businesses these days.

履修心得

二回目以降、次回の課題についての簡単なレポートを提出。授業では活発に討論に加わり、自分の意見をしっかり述べる。レポートと討論では日本語あるいは英語を用いること。

要望

自らが経営者になったつもりで環境CSR経営を学ぶ

■ 環境監査

各教員

Environmental Management and Audit

3年生前期

科目概要

この講義は、企業が環境に調和した製品や技術を開発して持続可能型経営に転換するための知識や技術を学ぶために、最近

の環境問題の動向、環境マネジメントシステムの要求事項やCSR報告書に求められる事項の解説を通して、EMS監査の実務を習得することを目的とする。/The objective of the lecture is to learn the practice of EMS audit through a description of trends of recent environmental issues, environmental management system requirements and CSR report, in order to learn the knowledge and technology for converting to Sustainable Management to develop products and technologies that companies are in harmony with the environment.

履修心得

「環境マネジメントシステム」の履修、インターネットで企業情報を検索出来ること。グループ討議が出来ること。

要望

日本の大学で最初にISO14001の認証を取得した大学の構成員として、横浜キャンパスや日常生活を「環境監査」という視点で観ることを通して、あらたな気づきを得てください。

■ 環境改善のライフスタイル

枝廣 淳子

Sustainable Consumption & Changing Lifestyle

3年生後期前半

科目概要

人間社会や生態系のさまざまな要素が複雑につながりあい、互いに影響しあうひとつの「システム」である地球環境が危機に瀕しており、地球システムを持続可能なものにするためには、私たち人間が持続可能な社会を構築する必要があります。この授業では、「システム」としてのものの見方を身につけながら、地球システムに大きな影響を与えている「私たちひとり一人のライフスタイル」の観点から、持続可能な社会へのシフトに必要な枠組みや考え方、実践などを学び、持続可能なライフスタイルや価値観について考えます。

You will argue for renaissance of public local places and community life, a review of dubious benefits of the acceleration of time and shrinkage of space in the modern economy.

履修心得

持続可能な消費 を履修していることが望ましい

■ 公共経済学

岡田 啓

Public Economics

2年生前期後半

科目概要

景気対策、財政問題、社会保障（年金・健康保険）、環境問題など政府が対応する公共問題を日々メディアは取り上げている。これらの問題を我々はどのように考えたら良いのであろうか。本講義は、それらの問題の核心に迫るために必要となる公共経済学の基礎概念を解説する。なお、本科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案に際して必要となる事柄について学ぶための科目である。

The purpose of the course is to study role of government and public policies through microeconomics. Topics include public finance, public goods, social security and tax policies. You can study some insights from this lecture to evaluate public issues in the society.

履修心得

ミクロ経済学を履修していることが望ましい。

要望

講義と日常生活を切り離さないようにしてください。講義で出てきた考え方は日常生活に利用することが出来ます。

■ 環境社会学

大塚 善樹

Environmental Sociology

2年生前期前半

科目概要

環境問題は私たちの社会が引き起こした社会問題です。また環境問題は、人々に様々な対応を引き起こし、私たちの社会のあり方を変えてゆきます。この授業では、このようなダイナミックな社会の変化を読み解く力を身につけ、持続可能な社会のあり方について考えます。

This class focuses on dynamic interactions between natural environment and social systems, in which processes both environmental problems and societal relations emerge, transform and dissolve.

履修心得

社会学入門の単位を取得していることが望ましい。

■ 開発協力と環境

松下 和夫

Environmental Education and International Cooperation

2年生後期

科目概要

この科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について発展的に学ぶための科目である。とりわけ持続可能な開発の意味と意義について理解し、持続可能な開発のための国際協力と地球環境問題の現状、課題、今後の方向性に関する理解を深める。This course is intended to help policymaking to promote sustainable business practices and consumer behavior. It aims to understand the meaning and significance of sustainable development and acquire a better understanding of the current state of international cooperation for sustainable development as well as global environmental issues, challenges, and future directions.

履修心得

自ら積極的に地球環境問題や持続可能な開発に関する国際協力に関心を持つ、その内容を整理し分析できるように努めること。授業に際しては、議論への積極的な参加を奨励し、自らの意見の表明と他者との討論を通じて自らの意見を持つ人間形成への一助となることを期待する。

要望

自ら積極的に地球環境問題や持続可能な開発に関する国際協力に関心を持つ、その内容を整理し分析できるように努めること。授業に際しては、議論への積極的な参加を奨励し、自らの意見の表明と他者との討論を通じて自らの意見を持つ人間形成への一助となることを期待する。

■ 環境法

古川 務

Environment and Law

2年生後期後半

科目概要

この講義では、環境法入門を踏まえて、さらに詳しく良好な環境の確保を図るための法制度を説明する。持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について学ぶための基本となる科目である。法制度の理解を踏まえて、環境法体系の特徴、課題、望ましいあり方等につき詳細に議論できるようになることを目指している。テーマは、環境法入門同様に幅広く、大気汚染、水質汚濁等の公害の防止にかかわる法制から、人間による破壊等から自然環境を保全する自然保護法制に至るまでを扱う。なお、必要に応じて、たとえば気候変動枠組条約・京都議定書、生物多様性条約等の国際環境法にも言及する。

This lecture is intended to teach the legal system to maintain natural environment in more detail, based on the Introduction to Environmental Law, and provides the elements to learn about policy making to promote sustainable corporate practice and consumption behavior. I hope that students taking this lecture become able to discuss in detail about the characteristics, the issues, and the desirable role of the environmental laws system. This lecture addresses the theme of legal system relating to prevention of pollution such as the air pollution or the water pollution, and nature conservation legislation to protect natural environments from the destruction by the human being. In addition, I mention the international environment laws such as United Nations Framework Convention on Climate Change and the Kyoto Protocol, and Convention on Biological Diversity as necessary.

履修心得

新聞記事等のチェックを日頃より行い、環境問題に対する関心を維持しておくこと。

要望

どのようなルールがあるかについての理解が深まれば、環境問題への興味関心もこれまでとは異なったものになると思います。授業内容をしっかりと復習し、環境に関するルールの理解に努めてください。

■ 環境経済学

大守 隆

Economics of the Environment

2年生後期

科目概要

この科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための要因や政策について経済学の観点を重視しつつ学ぶための科目である。ミクロ経済学の中で環境問題と関連が強い分野を深彫りしつつ、環境問題のもつ性格を明らかにし、対応策を考察する。その後、経済成長や経済発展などとの関係も議論する。最後に、国際的な視点から環境問題の解決策を考察する。地球温暖化問題を重視するが、資源問題やリサイクルなどの問題も随時とりあげる。

This subject deals with factors and policies to promote sustainability in business activities and consumer behavior, with an emphasis on economics. Relevant areas of microeconomics will be reviewed with a view to identifying the nature of environmental issues and examining possible measures. After that, aspects related to economic development and growth will be discussed. Finally, international approach for environmental issues will be examined. Emphasis will be given to global warming but other

issues such as exhaustible resources and recycling will also be discussed as necessary.

履修心得

基礎的なミクロ経済学を履修していることが望ましいが、前提とはしない。

要望

環境経済学は身近な問題から世界規模の問題までを取り扱う。環境関連で卒論を書く上でも重要な武器になる。講義に集中することが最も効率的な学習になる。

■ 国際政治経済論

小野 直樹

International Political Economy

3年生前期

科目概要

地球環境問題の実際の解決に必要な不可欠な世界政治学の基本的考え方および現在取り組みが必要な世界政治の主要課題
This course covers major ideas of international relations and important topics of contemporary global politics

履修心得

日本外交論、国際法、異文化コミュニケーション等、関連する科目を履修しておくこと

■ 環境政策論

古川 務

Environmental Policy

3年生後期後半

科目概要

環境政策は、一般に公共政策の一分野とされる。環境政策以外の公共政策分野については、公共政策論で扱う。この講義では、人々が集住する都市とのかかわりの中で、いくつかの環境政策を取り上げて、主に法的観点から概説する。この科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案について発展的に学ぶための科目である。受講学生には、これらの題材を通して、環境政策の特徴、課題を理解すること、また、その望ましいあり方を考察することが求められる。

It is said that the environmental policy is included in the public policy. I address the public policy area other than the environmental policy in other lecture, Public Policy. In this lecture, I comment on some environmental policy in the relation with the city where many people live in, from the legal point of view. This lecture provides the base to learn about policy making to promote sustainable corporate practice and consumption behavior. The students taking this lecture are required to acquire the characteristics, the issues and to consider the desirable role concerning each environmental policy based on the examination of these themes.

履修心得

環境政策分野に広く関心を有していること。また、日頃から新聞等で情報を収集しておくこと。

要望

担当者の専門の関係で、法的観点から環境政策を考えていきます。ただし、環境法の講義とはかなり視点を異にしていると思います。できるだけ出席して、この講義の全体像をつかんでください。

■ グローバルガバナンス

小野 直樹

Global Governance

3年生後期

科目概要

冷戦終結後重要性を増している地球規模問題について、その概要と対応のあり方を考える

This course covers major analytical framework of global governance and issues on global governance

履修心得

新聞、テレビ、インターネットなどを通じて、地球環境問題や国際テロリズム、国際伝染病など地球規模での取り組みが必要な問題について、自分自身の問題として常に考えておくこと

■ 国際経済と環境

米田 篤裕

Environmental International Economics

3年生後期

科目概要

この科目は、環境問題を理解し分析するにあたって必要となる基礎的な知識、技能、方法論を学ぶための科目です。財やサービスの貿易・直接投資・技術移転などが進みグローバル化した社会が、持続的な成長を図る際の環境に関する課題について学びます。環境政策のみならず、グローバルな市場で活躍する企業が、国際金融市場や調達網等を利用して、環境課題に自発的に取り組む事例などを紹介し、経済成長のための論点を整理していきます。This course is the course to learn basic information, skill and methodology required for understanding and analyzing on environmental issues. Affected with development of trade, direct investment and technical transfer, the globalized society seeks solutions on environmental issues for sustainable development. This course will attempt to sort out points for further economic growth, by examining environmental policies and cases of global enterprises that approach voluntarily to environmental issues, using guidelines of suppliers' net, instruments of the financial market and so on.

履修心得

特にありません。

■ 事例研究 各教員

Case Studies Seminar

3 年通年

講義の目的

事例研究では、配属された学生が、主として研究テーマを発見することをねらいとして、文献調査、現場調査、実験等を個人またはグループで行う。こうしたアカデミック・トレーニングを通して、研究分野の知見を体得し、卒業研究の基礎を学ぶ。また、本事例研究においては、企業におけるインターンシップ、共同研究、受託研究、公开发表、イベント参加なども積極的に含め、その多様化を図ることになっている。本事例研究と卒業研究をセットにして配置し、必修とする。

This compulsory seminar will offer the basic academic training to the junior students, so that they will be able to learn more about the adviser's disciplines, and try to find their own study themes. Also the students must read related academic books in foreign languages under the guidance of the teacher.

■ 卒業研究 各教員

Senior Seminar

4 年通年

講義の目的

事例研究で学んだ基礎の上に立ち、卒業論文の課題設定、中間発表を経て、最終的に卒業論文を完成させる。そこに至るまでに、ゼミ方式および個別指導を併用することにより、実効のある指導を行う。また、本学部の性質上、研究成果は論文形式にとどまらず、コンピュータ・ソフトやビデオなどの電子加工物、模型なども認める。ただし、そのような場合であっても、研究テーマや意図、製作過程を記述した報告書ないし卒業研究概要の提出を求める。

This compulsory seminar to be held in the senior year will provide the students with the opportunity to write a graduation thesis under the auspice of the adviser. Without the completion of this thesis the students are not eligible to receive the BA degree.

<注意事項>

以下に記載した教員毎の概要は、平成 28 年度の実施に基づくものです。平成 30 年度「事例研究」配属の際は、定年退職教員や新規着任教員等により担当教員が変更となる場合があります。

●伊坪 徳宏

○事例研究

製品やサービスの環境影響を定量的に評価するための研究を行います。LCA を実施するためのインフラの構築（データベースの開発、環境影響評価手法）に向けた検討を強く意識します。また、家電製品、食品、自動車、建築などの事例研究についても広く実施します。得られた成果は広く公表し、社会に実装されることを想定した研究を行います。

○卒業研究

製品やサービスの環境影響を定量的に評価するための研究を行います。LCA を実施するためのインフラの構築（データベースの開発、環境影響評価手法）に向けた検討を強く意識します。また、家電製品、食品、自動車、建築などの事例研究についても広く実施します。得られた成果は広く公表し、社会に実装されることを想定した研究を行います。

●枝廣 淳子

○事例研究

【概要】

環境問題を解決していくための重要な視点の一つは、「企業と取り組みと社会との関わり」です。企業はどのような取り組みをしているのか、それをどのように社会に伝えようとしているのか、社会はどのようにそのメッセージを受け取っているのか、企業と社会がより相乗効果を生み出すような関係性を築き、ともに環境問題の解決に資するには、何が必要なのか、日本の企業や消費者の考え方や取り組みは、世界の他国に比べてどこが進んでおり、どこが足りないのか、などを抽象論ではなく、具体的に分析・追求していくことを通して、企業と社会にとって实际的に役立つ指針や提案を創り出します。

【得られるもの】

そういった研究を通して、研究に必要な姿勢や基礎的なスキルを身につけるとともに、企業をはじめとする社会の組織の担当者へのヒヤリングや意見交換などのやりとりを通して、実社会の理解を深め、象牙の塔ではなく、地に足のついた研究・提案力を培います。

【進め方】

「問題の理解と探求の準備→フィールドでの取材や見学、活動→学びの理論化」のサイクルを、全体でまたはグループワークで繰り返し、一人で研究できる力を身につけていきます。

【テーマ例】

企業のCSR活動、環境コミュニケーション、環境経営、社会貢献活動、地域社会との関わり、海外とのコミュニケーション、BOP、グローバルな枠組み、海外のNGOとのコラボレーションなど。

○卒業研究

各自の関心や問題意識に沿ってテーマを選び、環境コミュニケーションなどを通して社会に働きかけるための手法と理論を研究します。

●大塚 善樹

○事例研究

食料と農業に関わる社会的事象のなかで自ら問題を発見し、その問題に適切な調査方法を考案し、実際に調査を行って問題の解を考察してレポートにまとめる。この過程を体験することによって、社会的な問題意識を高め、問題発見能力を養う。また、調査の企画から報告書の作成に至る全過程を理解する。

研究方法に関する学習では、自然物が商品として社会的に構築されるプロセス（時間的な形成過程と社会的・空間的な変容・移動過程の双方を含む）に関する調査について学ぶが、学生が自分のテーマを設定する場合には、領域を指定せず、自ら問題を発見することを重視する。

○卒業研究

事例研究で発見した問題を、より深く考察して卒業論文にまとめる。そのためには、第一に、社会学を中心とする社会科学の理論を研究し、問を立てる際の理論的枠組みを明確にすることが必要である。これは、先行研究や理論の文献調査を徹底的に行い、批判的な視点でそれらを再解釈しなければならない。第二に、調査方法・分析方法の洗練も必要である。事例研究で見出された課題は、恐らく十分に答えられていないはずである。足りない部分を補うとともに、理論的枠組に沿った分析方法の選択を行わなければならない。これらの作業を通して、2年間の研究の集大成として卒業論文を執筆する。

●小野 直樹

○事例研究

卒業研究の準備段階と位置付けられるので、国際関係論の基本的分析手法を習得し、同時に地球環境問題など現在世界が直面している問題について理解する

○卒業研究

事例研究で身に付けた国際関係論の基本的考え方及び現在の世界情勢ならびに地球環境問題についての知識を前提として、履修者それぞれが自分でテーマを選択し、1年間をかけて卒業論文を作成する。

●郭 偉宏

○事例研究

現場の管理技術（5S、工程管理、日程計画、ラインバランシング）や企業的意思決定（需要予測、在庫管理、生産計画、配送計画）などに対し、数理的手法・工学的手法を用いて研究を行う。主な研究テーマは以下の通りである。

- (1) セル生産の理論解析と特性分析
- (2) メタアルゴリズムの研究
- (3) データマイニング技術およびその在庫管理への応用
- (4) 製品設計とアーキテクチャー理論
- (5) 循環型生産システムの設計と構築

事例研究は、「フィールド調査研究」と「理論研究」と分けられる。

「フィールド調査」は机上の調査（研究背景の調べ、従来研究資料の整理、レポートのまとめ方など）と、現地の調査（工場見学、データ収集、アンケートおよび聞き取り調査など）と分ける。

「理論研究」は専門書の輪読、必要な方法論（数理的な手法や計算技術、コンピュータの使用）がある。

3年生は研究したい分野にあわせて学習内容を選択し、個人あるいはグループに分けて、「フィールド調査」および「理論研究」を通して学習する。学習した内容を学生自身が発表する。これにより企業や社会における具体的な問題を発見できる能力を養い、さらに学生のプレゼンテーション能力を身につける。

○卒業研究

事例研究の経験を生かして、循環型生産システムの設計・管理・評価に関わる研究を行う。学生個人の興味や関心のある対象を優先的に考慮して卒業研究のテーマを選定する。企業の一部日常形態をモデル化し、具体的な問題点を発見してそれを何らかの手法で改善していく、このプロセスを通して問題発見と問題解決する能力を育成する。

過去の4年生、院生が行った研究テーマは以下の通りである。

- ・SDを用いた地熱エネルギーの動態予測
- ・都筑区内における人の移動の変化と環境影響の考察
- ・QFDによるバイクのエコデザイン
- ・分解作業におけるセルの最適位置

- ・ 商売人の「カン」と実際のデータについて
- ・ ボトルネックを解消するために TOC を用いた生産ラインの改善
- ・ 自己組織化マップを用いた巡回セールスマン問題の解法
- ・ 再製造(リユースやリサイクル)を含む製品の在庫
- ・ 生産ラインの工程と作業人数の改善
- ・ コンビニエンスストアにおける在庫問題の改善
- ・ ライン - セル転換における在庫シミュレーションに関する研究
- ・ 時代に伴うパンの移り変わり と製パンメーカーの戦略に関する研究
- ・ いろはすにおけるリバースロジステクスモデルの構築
- ・ 製品分解の鑑定評価について
- ・ 牛井屋の顧客獲得に関する研究
- ・ 配送計画問題への分枝限定法の適用
- ・ 都筑区民の移動形態についての考察
- ・ スーパーマーケットの青果物売り場における裸売りの取り組みについて
- ・ スマートフォンの市場品質に関する調査
- ・ 日本におけるブラウンフィールドの実態に関する研究
- ・ 代替規則のマイニングに関する研究

●佐藤 真久

○事例研究

【目的】

人的能力開発や教育に関連するさまざまな国際協力や活動を文献および具体的な事例をもとに理解を深めるとともに、そこで直面する問題点や障壁、展望等についても理解を深める。これらの作業を通じて、基礎的なものの捉え方や考え方を習得するとともに、今後の研究や環境教育実践を進める姿勢を身につけることを目的とする。

【キーワード】

環境倫理、コミュニケーション、国際協力、市民参加、集合的合意形成、対話、環境教育、人的能力開発、組織能力開発、持続可能な開発のための教育（ESD）、万人のための教育（EFA）、ミレニアム開発目標（MDGs）、アジア太平洋地域の教育協力（識字、基礎教育、ノン・フォーマル教育など）

【テーマ・内容】

卒業研究のため基礎的能力として、次の基礎的内容・方法の中から皆で適切と思われるものを選び勉強し、各自の卒業研究計画の作成にむけて準備をする。

- －環境教育・持続可能な開発のための教育（ESD）
- －環境倫理
- －国際環境教育協力、開発協力
- －環境・開発コミュニケーション
- －学生の社会参加

【方法】

- －テキストや論文等をみんなで選択し、週 1-2 回程度輪読する。
- －様々なステークホルダーの実践活動を視察し、ディスカッションをする。
- －レポート作成、プレゼン作成と発表
- －卒業研究の構想発表、卒業研究計画（案）の作成
- －インターンシップ、など

○卒業研究

【目的】

人的能力開発や教育に関連するさまざまな国際協力や活動を文献および具体的な事例をもとに理解を深めるとともに、そこで直面する問題点や障壁、展望等についても理解を深める。これらの作業を通じて、基礎的なものの捉え方や考え方を習得するとともに、今後の研究や環境教育実践を進める姿勢を身につけることを目的とする。

【キーワード】

環境倫理、コミュニケーション、国際協力、市民参加、集合的合意形成、対話、環境教育、人的能力開発、組織能力開発、持続可能な開発のための教育（ESD）、万人のための教育（EFA）、ミレニアム開発目標（MDGs）、アジア太平洋地域の教育協力（識字、基礎教育、ノン・フォーマル教育など）

【テーマ・内容】

- 次の内容から卒業研究計画書を作成し、卒業研究を遂行をする。
- －環境教育・持続可能な開発のための教育（ESD）
- －環境倫理

- －国際環境教育協力、開発協力
- －環境・開発コミュニケーション
- －学生の社会参加

【方法】

- －卒業研究計画書の完成
- －卒業研究の遂行
- －ゼミ合宿への参加
- －卒業研究の進捗発表・卒業研究論文の作成

●馬場 健司

○事例研究

トランスディシプリナリー(超学際的)なアプローチによる様々な環境・エネルギー政策の研究を行うための基礎的な力を身につけます。政策過程論、交渉学や合意形成論、態度・行動変容分析等の視点から、主として各都市や地域が直面する気候変動、エネルギー等を巡る諸問題に関連する内外の文献を広く輪読し、レポートをまとめ、発表しあって、議論します。同時に、卒業研究に必要な統計分析などの研究手法についても実践的に体得しておく必要があります。このような準備を経て、卒業研究に向けての問題意識やテーマを絞り、その問題をどのように捉えるのか、どのように解決するのか等についてまとめていきます。

○卒業研究

トランスディシプリナリー(超学際的)なアプローチによる様々な環境・エネルギー政策の研究を行います。事例研究で絞り込んだ問題意識やテーマにしたがって、例えば、気候変動影響の実感とリスクコミュニケーションの分析や、再生可能エネルギーの導入による地域社会でのコンフリクトの発生とその解決策、持続可能な地域社会づくりに向けた革新的な環境政策の立案過程等の具体的なテーマを設定し、そのテーマに応じた手法で研究を進めていきます。これには、文献調査や聞き取り調査を用いた事例研究や、公開統計データ、質問紙調査データを用いた統計分析まで幅広く含みます。4年間の集大成として真摯に取り組む姿勢を重視し、進捗状況の報告を定期的に求め、活発な議論を行いながら、各自の卒業研究を高めあうゼミ運営を行います。

●岡田 啓

○事例研究

事例研究の目的は次の4つです。

1. 基礎知識の定着・・・講義等で得ている知識を定着させます。これにより研究に知識を活用できるようになります。
2. 問題の発見技能の習得・・・環境政策分野には問題が山積しています。自ら問題を見つけだし、それにより、何を調べ・研究していくのかを明確化します。
3. ディスカッション技能の習得・・・課題を発見した後に、その結果について仲間と議論すると、これまで自分が行ったこと等を相手に伝えるように再整理しなければなりません。その過程や仲間との議論を通じて新たな知見・欠けていた視点などを見えるようになります。
4. 研究過程をまとめる技能の習得・・・議論等を行ってそのまま放置しておいたならば、後には何も残りません。文章として残しておく、振り返った時、他人に結果を伝えるときに便利です。また、卒業論文を書く際のトレーニングにもなります。

○卒業研究

卒業研究は、大学3年間で学んできた成果を発現させる試みの一つです。卒業研究においてできることは、実体験によると、それほど多くありません。しかしながら、卒業研究を行う過程、新規性と創造を生み出す試み、卒業研究をまとめて卒業論文を作成したという経験、そこから得られる様々なノウハウは、将来大いに役に立つはずで、そこで、これら卒業研究の過程を通じて自ら新しい知識を生み出す過程を経験することを第一の目的とします。そして、次のステップとして、学会発表をできる学術的成果を創り出すことを第二の目的とします。

●古川 務

○事例研究

環境法・政策について学びます。環境を守るためのルールがどうなっているのかをしっかりと把握し、そこから課題を抽出します。そして、その課題に対する解決策を提案します。テーマは、大気汚染防止、水質汚濁防止、生物多様性保全、廃棄物・リサイクル対策、化学物質規制、環境影響評価等、多岐にわたります。

当研究室では、大量の暗記というよりも、把握した事実を根拠として筋道を立てて結論に至る思考方法やその結論を含めて相手にわかりやすく伝える能力を身につけることを重視します。

前期は、環境法や環境政策に関連する教科書をもとに、基本的事項の確認、特定のテーマに関する議論などを行います。後期は、卒業論文作成に向けて論文構成等を分析するために、様々な分野の論文を読みます。また、これら通常のゼミ活動に加えて、前期・後期を通じて数回、ミニ論文を作成し、発表してもらいます。なお、これらの活動は昨年度実績に基づくもので、状況に応じて変更可能性があります。

○卒業研究

多くの場合、事例研究において興味を抱いたテーマに関連して卒業研究に入るものと思われます。その場合には、文献の収集、精読を通して、テーマのさらなる絞り込みに移行します。そうでない場合には、興味関心のある分野の再探索、テーマ再設定、文献収集、テーマの絞り込みといった作業を行っていきます。いずれの場合も、遅くとも4年生の前半までに終了しておくことが望まれます。なお、テーマの設定に関しては、基本的に所属学生の主体的な意思決定を尊重します。テーマが確定したら、そのテーマに関する文献収集、その精読、事例の収取等を行い、卒論を完成させていきます。定期的に、卒業論文の進捗状況の報告も求めます。

●フィッツギボンズ 雄亮

○事例研究

本ゼミでは、情報マネジメントの観点から、様々な環境問題について研究をしていきます。持続可能な社会の実現には、個々人が環境問題を解決するための「知識」を質の良い情報から創り出すことが非常に重要です。そのためには、まず情報ニーズを明確にし、情報を獲得・評価し、既存知識に取り込むこみ、解決策を見出すというプロセスを経なければなりません。人と情報との関連性や情報の「流れ」を分析することによって、一連の情報プロセスを視覚化し、環境問題に対する方策を考えていきます。また、ソーシャルメディアなどのテクノロジーがこのプロセスに与える影響も考えていきます。

事例研究では、担当教員から指定された学術論文を輪読したり、ゼミでのディスカッションやプレゼンテーションを通して、所属学生が自発的にテーマを発見し、掘り下げることで卒業研究の準備をしていきます。環境問題の多くは、ボーダーレスであることから、本ゼミでは英語文献を積極的に取り入れていきます。事例研究の目的は、卒業研究の準備です。3年次終了までに、研究テーマを絞り、研究計画書に必要な研究背景、先行研究調査、研究目的、研究の重要性、そして研究方法を明らかにしていきます。

○卒業研究

3年次の事例研究で明確にした研究の方向性に基づき、まず研究計画書を作成してもらいます。作成にあたって、事例研究の内容の細かい修正が必要な場合もあります。その後、作成した計画書に沿って卒業論文を完成させていきます。所属学生には、定期的に進捗状況の報告をしてもらいます。

資 格

社会調査士
測量士補
自然再生士補

社会調査士資格取得課程履修要綱（環境マネジメント学科のみ）

●社会調査士資格取得課程とは、(社)社会調査協会が授与する「社会調査士」の資格取得のための課程をいう。本学部の目指す、現実の社会的課題を発見し、取り組み、提案を行える人材を育成する、という目標のもとで不可欠な調査研究能力の育成という観点から 2009 年度から本学に設置された。環境学部では環境マネジメント学科でのみ、一部の科目について他学科科目の履修を行えば、引き続き資格取得が可能である。

●社会調査士とは

社会調査士とは、量的・質的な社会調査を適正に行う基礎知識を大学の課程の中で一通り履修した上で、実際に調査を、企画立案－実施－分析－報告書執筆まで、実践的に学習したことをもって認定する資格である。

現代の社会で、さまざまな社会問題の解決を図っていく上で、社会調査は不可欠の方法である。その意味で社会調査の重要性が高まっているのに対して、専門的人材の育成システムは従来未整備で、安易で信頼できない調査が蔓延する原因になってきた。このような現状を打開し、社会調査の質的な改善や水準向上を進める上での担い手を養成する、というのがこの資格の趣旨である。

国家資格のような公的な資格ではないが、日本社会学会、行動計量学会、教育社会学会という伝統ある 3 学会が、2003 年にこの「社会調査士資格認定機構」を設立し、2004 年から資格認定をおこなっている（2008 年 12 月に法人化して現名称になった）。

2011 年 2 月までに社会調査士 195 校・専門社会調査士（*社会調査士の上位資格で大学院修了者に対するもの）62 校が参加しており、とくに社会科学系の学部・学科では社会調査の実践的能力を持っていることを社会に示す目的で取得を目指す学生が多く、必須の資格になりつつある。

大学だけでなく、新聞社、テレビ局などの世論調査関係者やリサーチ会社、シンクタンクの関係者も参加しており、社会的認知度も高まっている（資格取得者は 2014 年度現在で、社会調査士 21,870 名・専門社会調査士 410 名、専門社会調査士（八条規定）2,142 名）。

●概要

1. 社会調査士資格取得課程とは、社会調査協会が授与する「社会調査士」の資格取得のための課程である。
2. 本学環境学部環境マネジメント学科において社会調査士の資格を取得するには、次の要件を満たさなければならない。

①学士の資格を有すること

②別表 1 の A～D 科目（各 2 単位）をすべて取得し、さらに E、F のあわせて 2 科目のうち、いずれか 1 科目（2 単位）以上を取得する。また、G 科目に該当する事例研究（認定研究室のみ：2016 年度は大塚研究室のみ）、あるいは社会調査実習のうちいずれか 1 科目以上を取得する（4 単位）。

●社会調査士資格取得課程 登録料

・資格取得を社会調査協会に申請する際に手数料 16,200 円を必要とする。ただし在学中に大学を通して社会調査士（キャンディデイト）を申請する場合は下記のように減額になる。なお、在学中に社会調査士（キャンディデイト）資格を取得済の場合は、5,400 円となる。

・在学中でも下記の条件を満たした場合、社会調査士（キャンディデイト）資格を取得できる（手数料 14,000 円）。

1)在籍期間が 2 年以上

2)社会調査士科目を 3 科目以上取得している

3)取得・今年度履修中の合計が 5 科目以上である（ただし、E/F 科目は選択制のため、1 科目と数える）

（なお、取得手数料は社会調査協会に支払うものであり、2015 年 12 月現在の額である。）

図表 ー 社会調査協会に認定された社会調査士資格を取得するための科目 (注1)

環境マネジメント学科用

(2)社会調査士資格に関する科目														○:必修 △:選択必修			
認定科目記号	授業科目	資格取得上の 必選の 別	単位数	週時間数								備 考					
				1年		2年		3年		4年							
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
A	社会調査	○	2			2											
B	社会調査設計※	○	2				2										
C	統計学基礎	○	2	2													
D	環境統計学	○	2		2												
E	データ分析法※	△	2							2				EとFの科目のうちいずれか1科目必修だが、 環境マネジメント学科の学生は、他学科履修 で「データ分析法」を履修すること。			
F																	
G	事例研究	△	4							4				いずれか1科目必修。 ただし事例研究については、実習担当教員 の担当する場合のみ(注2)。			
	社会調査実習※		2						4				「社会調査実習」は他学科に開放されてい ない科目であるが、下記注3の条件を満た せば、履修することが出来る。(卒業要件に含 まれません)				

※は他学科履修となる。

(注1) 科目認定は年度毎に行われるため、年度によって変更される可能性がある。随時、大学からのアナウンスに注意のこと。

(注2) 2016年度は大塚研究室のみ。

(注3) 「社会調査実習」履修の条件について

下記の条件を満たせば、環境マネジメント学科所属の学生であっても、「社会調査実習」を履修することが出来る。

① A～D科目をすべて修得済みであること。

② 前期履修登録期間に、前期授業時間表巻末の「特別履修申告書」にて申請を行う。

※ただし環境マネジメント学科の学生は、**社会調査実習」の単位は卒業要件に含まれません。**

環境学部環境創生学科測量士補コース履修要項

●測量士補コースとは、測量法に規定する「測量士補」の資格取得のためのコースをいいます。環境創生学科の学生にとって、地球測位システムや地形の成立ちを理解して土地の大きさを正確に測る、いわゆる測量に関わる知識は不可欠です。また、卒業後に環境計画や環境設計、不動産や宅地・建物取引などに従事する際、測量士の資格を有している必要があるという観点に立ち、平成 26 年度(2014 年度)入学生から設置したものです。

●測量士・測量士補とは

測量士とは、測量業者に配置が義務づけられている国家資格で、測量法に基づき、国土交通省国土地理院が所管しています。測量士は、測量業者の行う測量に関する計画作製に従事し、または実施します。測量士補は、測量士の作製した計画に従って測量に従事します。一般に、測量業者の行う基本測量または公共測量に従事するために必要な資格です。

●測量士補の資格要件は以下のようになっており、環境創生学科では 1. の要件を満たすことによって測量士補の有資格者を育成します。

1. 大学において、測量に関する科目を修め、当該大学を卒業した者。
2. 短期大学及び高等専門学校において、測量に関する科目を修め、当該短期大学等を卒業した者。
3. 国土交通大臣の登録を受けた測量に関する専門の養成施設において一年以上測量士補となるのに必要な専門の知識及び技能を修得した者。
4. 国土地理院の長が行う測量士補試験に合格した者。

●卒業時に測量士補となる資格を有するためには

1 年前期に測量士補コース登録を行い、4 年以上在学して、次の表に従ってそれぞれの区分の単位を修得すると共に卒業試験に合格しなければなりません。表は各自の履修の基準となるので、各学期の開始の度に必ず参照してください。

区 分		卒業要件	
		総計	内、測量士補資格取得のための必修
基礎科目	外国語科目	6 単位	6 単位
	教養科目	10 単位	6 単位
小計		16 単位	12 単位
専門基礎科目		34 単位	10 単位
小計		34 単位	10 単位
専門科目	学科基盤科目	60 単位	24 単位
	学科専門科目		12 単位
小計		60 単位	36 単位
自由選択科目※		14 単位	—
合計		124 単位	58 単位

●手続き

- ① 1 年前期に測量士補コース登録を行う。
- ② 卒業時に卒業証書と同時に「測量士補コース修了」の証書を受ける。
- ③ 必要書類を準備して国土地理院に登録を申請し、測量士補名簿に登録されて「測量士補」となる。
- ④ 1 年間の実務経験を経て、国土地理院に申請することにより測量士となることができるが、測量士補未登録のまま測量士の登録を希望した場合、実務経験の内容が公共測量に該当する場合には実務経験とはみなされないため、将来、測量士の登録を希望する場合は、卒業時に測量士補の登録を済ませておくことを勧める。なお、測量士補または測量士の有資格者は、土地家屋調査士の試験のうち土地及び家屋の調査及び測量についての平面測量および作図の筆記試験（午前試験）が免除されます。

●CAP 制との関係について

本学では、履修計画を綿密に作成した上で計画的に履修をすること、及び履修科目の予習復習などを行い、2 時間の講義演習科目に対して 4 時間の自学自習を実施するために CAP 制を導入しているが、測量士補取得に必要な科目のうち、次表の★印に示す 11 科目については CAP 制の上限科目の対象とはならないので、そのことを承知したうえで履修登録を行うこと。

環境学部環境創生学科測量士補コースの教育課程表

○印:必修科目

区分	授業科目	必選 の別	単位数	週時間表								備考	
				1年		2年		3年		4年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	環境マネジメントシステム	○	2	2									
	温暖化の科学	○	2	2									
	統計学基礎	○	2	2								★	
	ミクロ経済学		2	2									
	数学入門		2	2									
	環境問題原論		2	2									
	都市環境入門		2	2									
	マネジメント入門		2		2								
	基礎プログラミング演習		2		2								
	環境倫理		2		2								
	マクロ経済学		2		2								
	持続可能な消費		2		2								
	情報セキュリティ		2			2							
	社会調査		2			2							
	画像処理技法	○	2			2						★	
	環境法入門		2			2							
	環境教育		2			2							
	地理情報システム	○	2				2					★	
	食糧問題と環境		2				2						
	環境アセスメント概論		2				2						
	キャリアデザイン		2				2						
	エネルギーと政策		2					2					
	NPOとソーシャルビジネス		2					2					
	公共政策論		2					2					
	意思決定論		2						2				
専門科目	環境フィールド・計測演習	○	2	2									
	環境情報リテラシー	○	2	2									
	生態学概論	○	2	2									
	環境地理	○	2	2								★	
	生物学(1)		2	2									
	環境数理学入門	○	2		2								
	生物学(2)		2		2								
	環境統計学	○	2		2							★	
	図化表現技法		2		2								
	ランドスケープ論	○	2			2							
	環境化学		2			2							
	測量学	○	2			2						★	
	環境都市計画学	○	2				2					★	
	生態環境実習		2				2*					2年集中実習	
	測量学実習	○	2			2						★	
	環境都市関連法(1)		2				2						
	環境都市関連法(2)		2					2					
	環境モニタリング技術	○	2					2				★	
	都市気候論		2					2					
	環境情報可視化技法	○	2					2				★	
	熱環境論		2						2				
	(学 科 専 門 分 野)	環境緑地学		2			2						
		環境分析演習		2				2					
		自然環境調査法		2				2					
		生態系アセスメント		2				2					
		生態環境保全学		2				2					
		復元生態学		2					2				
		物質循環学		2						2			
		エコロジカル・プランニング	○	2						2			★
(都 市 専 門 分 野)		都市・居住環境論		2		2							
	住環境システム		2			2							
	都市インフラストラクチャー		2				2						
	建築気候学		2				2						
	交通環境		2					2					
	環境都市再生論		2					2					
	住環境と人間行動		2					2					
	事例研究	○	4					2	2				
	卒業研究	○	6							3	3		
合計			132(46)	24(14)	20(4)	20(6)	28(6)	24(6)	10(4)	3(3)	3(3)		

★は、CAP制の上限に含まれない科目

(環境創生学科の専門科目のうち、卒業要件上必修ではないが、測量士補資格取得の為に必修である科目)

自然再生士補 資格認定のための履修要項

●「自然再生士(Natural Restoration Promoter)」は、「人と自然が共生する持続可能な社会の構築と、その根源である生物多様性の保全を推進するため、自然再生に係る理念の啓発とその技術の普及を目的として創設した民間資格制度です。自然再生士になるためには、自然再生士試験に合格して自然再生士としての認定を受けなければなりません。自然再生士の受験資格は、満23歳以上で、大学卒3年以上、短期大学卒5年以上、高校卒7年以上の実務経験が必要となっていますが、自然再生士補では1年以上の実務経験により受験資格を得ることができます。

●「**自然再生士補**」とは、自然再生に必要な基礎的な知識を有する、自然再生の推進者で、「自然再生士」が実行する自然再生業務や活動を補佐できる能力が求められます。

●自然再生士補に登録し、認定を受けた場合に「自然再生士補」を名のることができます。本学では、環境学部環境創生学科に在籍している学生が、別表に示す学部・学科の分野別科目対応表に記載された科目の履修状況に応じて自然再生士補の認定を受けることができます。

●自然再生士補資格認定希望者は、自然再生士補資格養成機関に登録された大学等、学部、学科に在籍する者または卒業（補資格養成機関登録年以降であること）した者で、指定された実験・実習、講義分野の認定科目より規定の科目数、単位数を履修・修得していることを証明することが条件となります。

条件1	補資格養成機関である大学等の認定学部、学科に在籍する者または、これを卒業した者であること。
条件2	補資格養成機関が発行する履修科目名・取得単位数が明記された成績証明書の提出
条件3	自然再生士補資格認定申請書の提出と規定の審査・登録料 ^{※1} の納付 ※1 審査・登録料 8,000 円

●自然再生士補認定に必要な取得科目・単位数の条件は次のとおりとします。

コースの選択については、自然再生士補資格認定申請者が申請時に自然再生士補資格認定申請書へ記入します。

	実験・実習分野	講義分野	規定合計単位数
コース1	実験・実習分野より 3科目以上 6単位以上 の履修・修得	講義分野より 2科目以上 4単位以上 の履修・修得	実験・実習、講義分野より 5科目以上 10単位以上 の履修・修得があること。
コース3	実験・実習分野又は講義分野より 6科目 12単位以上 の履修・修得		実験・実習、講義分野に関係なく 6科目以上 12単位以上 の履修・修得があること。

*コース3の場合は、「実験・実習分野」及び「講義分野」のいずれか一方又は両方の合計で6科目以上12単位の履修・修得を認定条件とする。内訳は問わない。

問い合わせ先

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル

(一財)日本緑化センター 自然再生士事務局 TEL. 03-3585-3561/FAX. 03-3582-7714

Email : saisei@jpgreen.or.jp

問い合わせ受付時間：午前9時30分から午後5時30分まで

<http://www.jpgreen.or.jp/index.html>

環境学部 環境創生学科 分野別科目対応表

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・環境フィールド・計測演習	① 自然再生・自然環境概論	・環境化学 ・物質循環学 ・環境情報リテラシー
②植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	・生態環境実習	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	・環境地理 ・生態環境保全学 ・環境都市計画学 ・復元生態学
③地域環境資源調査に係る実習・演習	・環境情報可視化技法	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	・エコロジカル・ランニング ・ランドスケープ論
④自然環境保全活動に係る実習・演習	・海外フィールド演習	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・環境教育 ・環境モニタリング技術 ・地理情報システム
⑤生態学実習・演習		⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	・自然環境調査法 ・生物学(2)
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・情報リテラシー演習 ・NPOとソーシャルビジネス	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	・生態学概論 ・生物学(1)
		⑦環境リスクマネジメント学	・生態系アセスメント ・環境アセスメント概論
		⑧環境経済学	
		⑨環境社会学	・環境問題原論 ・環境倫理
		⑩地域環境学・地域生態論	
		⑪環境関連法規	・環境法入門

教授要目

環境学部共通科目（1年次の科目）

■外国語科目■

■体育科目■

■教養科目■

環境創生学科専門科目（1年次の科目）

■専門基礎科目■

■専門科目 学科基盤科目■

■専門科目 学科専門科目■

環境マネジメント学科専門科目（1年次の科目）

■専門基礎科目■

■専門科目 学科基盤科目■

■専門科目 学科専門科目■

（教育課程表掲載順に記載）

環境学部 学部共通科目

外国語科目

体育科目

教養科目

教授要目

Study Skills	
科目英名	Study Skills
担当者	各教員
単位数	1 単位
開講時期	1 年生前期

科目概要

英文法の基礎を学び、1 年生後期科目の Reading & Writing(1)、2 年生科目の Reading & Writing (2)、および TOEIC Preparation に必要な英語基礎力を養成することを目的とする。

達成目標

- (1) 英語の文法、構文の基礎を理解する。
- (2) 基本的な英文を正確に読み取ることができる。

成績評価

定常点 50%、試験 50%

予習復習時間

1 回の授業に対して 4 時間の予習復習が必要である。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

中・高で学んだ初歩的な英語知識を前提とする。

授業計画

- 第 1 回 イントロダクション／冠詞と名詞 (Unit 67, 68, 70)
第 2 回 現在進行形と単純現在形 (Unit 3, 4)
第 3 回 現在完了形と過去形 (Unit 8, 9)
第 4 回 未来 (Unit 18, 22, 24)
第 5 回 助動詞 (Unit 25, 26, 27, 28, 30, 31)
第 6 回 仮定法 (Unit 36, 37, 38)
第 7 回 受動態 (Unit 40, 41)
第 8 回 中間のまとめ、中間模擬試験
第 9 回 動名詞と不定詞 (Unit 51, 52, 53)
第 10 回 分詞構文 (Unit 66)
第 11 回 関係詞節 (Unit 90, 91, 92, 93, 95)
第 12 回 形容詞と副詞 (Unit 96, 98)／比較・最上級 (Unit 102, 104, 105)
第 13 回 接続詞 (Unit 110, 113)
第 14 回 まとめ

オフィスアワー

担当者に確認すること。

授業形態

講義・演習

授業の具体的な進め方

重要な文法項目を解説し、問題演習を通して知識の定着を図る。

授業に持参するもの

英和辞書

教科書

『マーフィーのケンブリッジ英文法 (中級編)』Raymond Murphy Cambridge University Press 2013 978-4-902290-23-3

学生へのメッセージ

英語基礎力の向上のためには地道な自学自習が欠かせません。十分に予習、復習をしたうえで授業に臨んでください。

その他・自由記述欄

本科目は到達目標を共有する統一カリキュラムによって行われる。具体的な授業の進め方等については担当教員の指示に従うこと。

Communication Skills(1)	
科目英名	Communication Skills (1)
担当者	各教員
単位数	1 単位
学年	1 年生前期

科目概要

In this course students will be immersed in English and will focus on improving their communication skills in listening and speaking.

達成目標

Students will be able to

1. listen and understand simple English conversation and announcements.
2. develop the ability to understand and the confidence to communicate effectively in English.

成績評価

Class participation and homework assignments: 50%

Final exam: 50%

予習復習時間

Ideally, students should do 4 hours of self study for every 100 minutes of class time.

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

Students should expose themselves to English as much as possible in their daily lives and have self-management skills.

授業計画

- 第 1 回 Course guidance
第 2 回 Unit 1: You're an Interesting Person!
(Names; Introductions)
第 3 回 Unit 1: You're an Interesting Person!
(Asking Addresses; Phone numbers)
第 4 回 Unit 3: TGIF(Thank God It's Friday)
(Determining weekend activity preferences)
第 5 回 Unit 3: TGIF(Thank God It's Friday)
(Talking about the weekend; Last weekend)
第 6 回 Unit 4: Wow! Everything's on Sale
(Shopping behavior; At a supermarket)
第 7 回 Unit 4: Wow! Everything's on Sale
(Comparing prices; Talking about shopping)
第 8 回 Mid-term Review / Unit 6 Intro
第 9 回 Unit 6: Got Any Travel Plans?
(Travel preferences; Comparison shopping for air tickets)
第 10 回 Unit 6: Got Any Travel Plans?
(Meeting people on a plane; Following directions in Chicago)
第 11 回 Unit 9: Hey, Look at Her!
(Attitudes about appearances)
第 12 回 Unit 9: Hey, Look at Her!
(Identifying and describing people)
第 13 回 Unit 11: Traveling Around Japan
(Expressing opinions about Japan; Identifying places in Japan)
第 14 回 Unit 11: Traveling Around Japan
(Buying train tickets; Japan travel questionnaire)

オフィスアワー

Will be announced in the first class meeting by each instructor

授業形態

Activity-based

授業の具体的な進め方

Detailed classroom policy will be explained by each instructor in the first class meeting.

授業に持参するもの

English-English dictionary or electronic dictionary

教科書

『New Airwaves (Second Edition)』Dale Fuller/ Clyde W. Grimm Macmillan Language House 2013 978-4-7773-6390-2

学生へのメッセージ

Don't be shy. Use English confidently in the classroom in paired work and small-group discussion.

その他・自由記述欄

この科目は都市大スタンダード科目のひとつで共通シラバスで運営される。具体的なクラスの手配は、各担当者が初回授業で説明する。

教授要目

Reading and Writing(1)

科目英名	Reading and Writing (1)
担当者	各教員
単位数	1 単位
開講時期	1 年生後期

科目概要

This course is designed to help students (1) become familiar with the major issues in global culture and (2) learn to integrate grammatical knowledge and reading strategy, so as (3) to be able to improve your reading and writing skills through the practice of vocabulary enrichment, reading comprehension exercises, written responses, discussions, and reflections.

To get reading ability, the students of this course will develop factors such as vocabulary, grammar, and background knowledge. They will increase motivation that influence one's ability to extract and construct meaning from the text.

To be a good writer, students will write to discover new things about our world as well as ourselves. For that matter, the process of writing is a way of coming to know. Writing can become a medium for self reflection, self expression, and communication, a means of coming to know for both the writer and reader.

The interplay of these skills and factors will lead the students to more deeper understanding of the world. Each class meeting will be fun and exciting to learn English.

達成目標

Once they have completed this course, students will be able to demonstrate the following skills:

- (1) Respond to, read and view texts
- (2) Identify the topic and purpose of a reading sample
- (3) Distinguish between main ideas and supporting details
- (4) Distinguish between stated and implied ideas; make inferences
- (5) Draw conclusions and predict outcomes
- (6) Recognize the structure and organization of paragraphs
- (7) Use various reading aids such as dictionaries and online resources
- (8) Enhance reading comprehension and build <better> vocabulary

成績評価

Daily Work & Quiz & Participation (Contribution to class)(50%) Final Exam (50%) Attendance is NOT included in grading: participation is different to attendance. It means being active and sharing learning experience with the other students.

予習復習時間

Back ground research and assigned reading are required.

Student will be storngly recommended to enhance volabulary.

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

Students will be expected to have a great deal of curiosity to English learning and global world.

Attendance is mandatory. Your participation in class discussions is important to the other students.

授業計画

- 第 1 回 Introduction to course:Unit 1Manga in Malasia #0 Background Research
第 2 回 Unit 1Manga in Malasia #1 Scan Reading and Check Vocabulary
第 3 回 Unit 1Manga in Malasia #2 Reading Comprehension and Discussion
第 4 回 Unit 2 Hostelng in New Zealand #1 Scan Reading and Check Vocabulary
第 5 回 Unit 2 Hostelng in New Zealand #2 Reading Comprehension and Discussion
第 6 回 Unit 3 Sweden #1 Scan Reading and Check Vocabulary
第 7 回 Unit 3 Sweden #2 Reading Comprehension and Discussion
第 8 回 Mid term Exam
Unit 4 The Past, Present and Futrure of Sakhalin #0 Background Research
第 9 回 Unit 4 The Past, Present and Futrure of Sakhalin #1 Scan Reading and Check Vocabulary
Unit 4 The Past, Present and Futrure of Sakhalin #2 Reading Comprehension and Discussion
第 1 0 回 Unit 4 The Past, Present and Futrure of Sakhalin #2 Reading Comprehension and Discussion
第 1 1 回 Unit 5 Gardens by the Bay(Singapore)#1 Scan Reading and Check Vocabulary
第 1 2 回 Unit 5 Gardens by the Bay(Singapore)#2 Reading Comprehension and Discussion
第 1 3 回 Unit 6 Jobless Generation(Italia)#1 Scan Reading and Check Vocabulary
第 1 4 回 Unit 6 Jobless Generation(Italia)#2 Reading Comprehension and Discussion

オフィスアワー

Will be told in class

授業形態

Lecture

授業の具体的な進め方

Preparation and self-studying for 4hours a week are strongly recommended.

The teacher of your class will explain the lesson plan.

教科書

『World Report』 Kuniko Yoshida and Anthony Allan Kinseido 2015 9784764740228

Communication Skills(2)

科目英名	Communication Skills (2)
担当者	各教員
単位数	1 単位
開講時期	1 年生後期

科目概要

In this course students will be immersed in English and will focus on improving their communication skills in listening and speaking.

達成目標

Students will be able to

1. listen and understand simple English conversation and announcements.
2. develop the ability to understand and the confidence to communicate effectively in English.

成績評価

Class participation and homework assignments: 50%

Final exam : 50%

予習復習時間

Ideally, students should do 4 hours of self study for every 100 minutes of class time.

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

Students should expose themselves to English as much as possible in their daily lives and have self-management skills.

授業計画

- 第 1 回 Course guidance
第 2 回 Unit 14: I Need a Job!
(Expressing opinions about work; Checking newspaper ads; Resume)
第 3 回 Unit 14: I Need a Job!
(Filling out an application form; How to handle job interview questions)
第 4 回 Unit 15: Dare to Dream
(Expressing opinions about the future; Talking about future plans)
第 5 回 Unit 15: Dare to Dream
(Back to the Future episode)
第 6 回 Unit 17: What's on Your Mind?
(Opinions about present-day concerns; Expressing opinions)
第 7 回 Unit 17: What's on Your Mind?
(Agreeing and disagreeing; Generational conflicts)
第 8 回 Mid-term Review / Unit 18 Intro
第 9 回 Unit 18: Home Is Where the Heart Is
(Exchanging hometown information)
第 1 0 回 Unit 18: Home Is Where the Heart Is
(Hometown descriptions)
第 1 1 回 Unit 19: Holidays to Remember
(Talking about various holidays)
第 1 2 回 Unit 19: Holidays to Remember
(Identifying holidays and festivals; Questionnaire about Japanese traditions)
第 1 3 回 Unit 20: Guess What Happened to Me!
(Sharing past experiences; Experiences on the train)
第 1 4 回 Unit 20: Guess What Happened to Me!
(Distinguishing good news from bad news; Expressing favorite conversation topics)

オフィスアワー

Will be announced in the first class meeting by each instructor

授業形態

Activity-based

授業の具体的な進め方

Detailed classroom policy will be explained by each instructor in the first class meeting.

授業に持参するもの

English-English dictionary or electronic dictionary

教科書

『New Airwaves (Second Edition)』 Dale Fuller/ Clyde W. Grimm Macmillan Language House 2013 978-4-7773-6390-2

学生へのメッセージ

Don't be shy. Use English confidently in the classroom in paired work and small-group discussion.

その他・自由記述欄

この科目は都市大スタンダード科目のひとつで共通シラバスで運営される。具体的なクラスの指針は、各担当者が初回授業で説明する。

教授要目

アカデミック・イングリッシュ・セミナー	
科目英名	Academic English Seminar
担当者	ミラー <johnmjr@outlook.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

The aim of the course will be to help students acquire public presentation skills that are needed in academic environment by practicing methods and techniques used in the forms of oral discourse. Students will also learn how to deliver a presentation with acceptable posture, eye contact, and voice inflection in English.

達成目標

The course will focus on how to structure a presentation with an introduction, body, and conclusion with proper transitions. Students will also be assessed on ability to develop and utilize a variety of visuals including graphs, diagrams, flow charts, and bullet charts.

成績評価

20% Preliminary Presentations (x4)

50% Final Presentation

30% Homework/Active Participation

予習復習時間

Completion of all preassigned- reading/review/homework in a timely fashion is mandatory.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

The instructor uses ENGLISH ONLY in the classroom. A fair level of reading and listening comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course.

授業計画

第 1 回 Course outline/General housekeeping

Introduction to public speaking

第 2 回 The Informative Speech

第 3 回 Preliminary Presentation: Performance 1

第 4 回 The Layout Speech

第 5 回 Preliminary Presentation: Performance 2

第 6 回 The Demonstration Speech

第 7 回 Preliminary Presentation: Performance 3

第 8 回 How to develop effective visuals

第 9 回 How to explain visuals

第 1 0 回 Preliminary Presentation: Performance 4

第 1 1 回 The Speech Introduction

第 1 2 回 The Speech Body

第 1 3 回 The Speech Conclusion

第 1 4 回 Final Presentation Performance

オフィスアワー

T. B. A.

授業形態

Please note that classes are 100 minutes in duration.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

Textbook, J <-> E dictionary and writing utensils

教科書

Speaking of Speech New Edition David Harrington & Charles LeBeau Macmillan 2009
978-4-7773-6271-4

参考書

学生へのメッセージ

Academic English Seminar is a challenging yet rewarding class. This class demands that you do your best, and nothing less than your best should be forthcoming. You will earn a Fail grade for unsatisfactory work, a C grade for average work, a B grade for work that stands out above the average, and an A grade for work that marks itself as truly exceptional. Students should make an effort to be on time for class. Habitual lateness to classes will negatively impact final grades in this course. The above course outline is subject to change without prior notification.

その他・自由記述欄

英語発音・聴解トレーニング	
科目英名	English Listening Comprehension
担当者	E・マディーナ <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

Students will improve their English proficiency while we work on all four skill areas with a focus on pronunciation.

達成目標

The aim of this course is to improve students' English level while learning to enjoy English as a second language.

成績評価

Students will be evaluated based on their class journal, participation and attendance.

予習復習時間

Homework will be required every week.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Not applicable.

授業計画

第 1 回 Pretty and handsome

第 2 回 chips and fish or fish and chips?

第 3 回 Treat and deal

第 4 回 Calm and quiet

第 5 回 watch and look

第 6 回 Popular and common

第 7 回 wide and big

第 8 回 sore and pain

第 9 回 dish and food

第 1 0 回 use and spend

第 1 1 回 think and hope

第 1 2 回 Such and so

第 1 3 回 He's very diligent

第 1 4 回 She's looking for her job review

オフィスアワー

12:30-1 p.m. Wednesdays

授業形態

student centered

授業の具体的な進め方

Students will be required to do a number of exercises, all designed to greatly improve their English

関連科目

None

授業に持参するもの

An electronic dictionary is recommended

教科書

Time to Communicate Bray Nan'Un-Do 2015 978-4-523-1779191-3

参考書

None.

学生へのメッセージ

You'll enjoy this class and will improve your English.

その他・自由記述欄

Do your best!

教授要目

英語発音・聴解トレーニング	
科目英名	English Listening Comprehension
担当者	三幣 友行 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要
様々な音声を聴くことによって英語を正しく聴き取る力をつけることを目指す
達成目標
英語と日本語の音声の違いを確認しながら、英語特有の発音や音声変化等を聞き取る力をつける
成績評価
平常点40%、小テスト点30%、期末テスト30%を総合的に評価する
予習復習時間
1回の授業（100分）につき4時間の予習を必要とする
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特になし
授業計画
第 1 回 授業に関する説明
第 2 回 Word Endings
第 3 回 Stress in Words
第 4 回 Rhythm in Sentences
第 5 回 Intonation in Discourse
第 6 回 Sound Change in Connected Speech
第 7 回 Consonant Introduction
第 8 回 中間のまとめ
第 9 回 Consonant Practices
第10回 Cluster Practice
第11回 Vowel Introduction
第12回 Vowel Practices
第13回 Omitted Syllables
第14回 これまでのまとめ
オフィスアワー
月曜日：16：50～17：50 その他相談に応じる
授業形態
演習
授業の具体的な進め方
前回の授業で行った内容の確認から始まり、英語の音声を聴き取りながら、正確に理解できているかを確認する
関連科目
授業に持参するもの
教科書、辞書
教科書
WELL SAID Intro LINDA GRANT THOMSON HEINLE 2007 ISBN 1-4130-1546-8
参考書
学生へのメッセージ
積極的に授業に参加する学生を歓迎します
その他・自由記述欄

英語読解力養成	
科目英名	English Reading Training
担当者	吉田 由美子 <ykyumi@icloud.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
長文を読むことに対する苦手意識をなくし、大意を把握できる力を身につけ、アカデミックリーディングのスキルにつながる読解力向上を目的とする。
達成目標
様々なトピックや形式の英文を多読していくことで、学習した文法の実用例を知り、概要を理解するだけでなく、微妙なニュアンスまで正確に読み取ることができる。
成績評価
授業中の提出物 30%、小テストや課題 30%、期末テスト 40%として総合的に評価する。
予習復習時間
1回の授業に対して4時間の自学自習が必要(学則第18条に基づく)。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
英語、日本語ともに、長文を読む習慣をつけておく。
授業計画
第 1 回 ガイダンス 長文読解のストラテジーについて
第 2 回 Lesson 1 Energy Drinks WPMを計る
第 3 回 Lesson 2 Method Acting [Previewng and Predicting 1] 予測して読む
第 4 回 Lesson 4 Endocrine Disruptors [Scanning 1] 詳細を把握する
第 5 回 Lesson 6 Bluetoorth [Identifying Topics] キーワードから共通のカテゴリーを探す
第 6 回 Lesson 8 Temperament [Identifying Pronouns] 代名詞の理解
第 7 回 Lesson 10 Biofeedback [Prefixes and Suffixes] 接頭辞と接尾辞
第 8 回 Lesson 12 Lobbying [Listing] 列挙
第 9 回 Lesson 14 The Bandwagon Effect [Cause and Effect] 原因・結果
第10回 Lesson 16 Taj Mahal [Spatial Order] 空間的順序
第11回 中間のまとめ・英字新聞を読む 1 見出しの読み方と特徴
第12回 Lesson 20 Food Taboos [Deductive reasoning] 演繹法
第13回 英字新聞を読む 2 長文を読み解くスキル
第14回 今までのまとめ
オフィスアワー
なし。メールで対応する。
授業形態
演習
授業の具体的な進め方
毎回一つの unit を終わらせていく。語彙の定着をしてから、テキストのタスクにしたがって進める。各 unit の語彙に関する問題を、必ず予習しておくこと。
関連科目
授業に持参するもの
辞書
教科書
Reading Expert 3 穴戸 真 成美堂 2014 978-4-7919-3082-1
参考書
学生へのメッセージ
学生へのメッセージ 長文読解には、英語力だけでなく幅広い知識が求められるので、日ごろからいろいろなことに興味を持ち、学習する意欲を持って授業に臨んでほしい。
その他・自由記述欄

教授要目

Advanced TOEIC	
科目英名	Advanced TOEIC
担当者	ミラー <johnmjr@outlook.com>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

This course aims to help students develop the necessary skills and sub-skills required to achieve a TOEIC score of 600 or above.

達成目標

The course will focus on developing students' reading, listening, and exam-taking skills and strategies. Students will also be taught important grammar structures and functions tested in the TOEIC Test. This will help familiarize students with the format and timing of the TOEIC Test.

成績評価

14% Homework/Active Participation

11% TOEIC Mini Test (x 11)

25% TOEIC Pretest

50% TOEIC Practice Post-Test

予習復習時間

Completion of all preassigned reading/review/homework activities is mandatory.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

The instructor uses ENGLISH ONLY in the classroom. A fair level of reading and listening comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course.

授業計画

第 1 回 General Housekeeping
Introduction to the New TOEIC Test
The Eight Parts of Speech
第 2 回 Daily Life
TOEIC Practice Pretest
第 3 回 Clothing
TOEIC Mini Test 1
第 4 回 Grocery Shopping
TOEIC Mini Test 2
第 5 回 Cooking
TOEIC Mini Test 3
第 6 回 Eating out
TOEIC Mini Test 4
第 7 回 Shopping for clothes
TOEIC Mini Test 5
第 8 回 Housing
TOEIC Mini Test 6
第 9 回 The Weather
TOEIC Mini Test 7
第 10 回 At the Movie Theater
TOEIC Mini Test 8
第 11 回 Sports
TOEIC Mini Test 9
第 12 回 Traffic and Commuting
TOEIC Mini Test 10
第 13 回 Automobiles
TOEIC Mini Test 11
第 14 回 TOEIC Practice Post-Test

オフィスアワー

T. B. A.

授業形態

Please note that classes will be 100 minutes in duration.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

Textbook, J <-> E dictionary and writing utensils.

教科書

TOEIC Test: Round the Clock Yoshiko Honda and Noriko Kano Nan'un-do 2011 978-4-523-17683-1

参考書

学生へのメッセージ

Advanced TOEIC is a challenging yet rewarding class. This class demands that you do your best, and nothing less than your best should be forthcoming. You will earn a Fail grade for unsatisfactory work, a C grade for average work, a B grade for work that stands out above the average, and an A grade for work that marks itself as truly exceptional. Students should make an effort to be on time for class. Habitual lateness to classes will negatively impact final grades in this course. The above course outline is subject to change without prior notification.

その他・自由記述欄

キャリア・イングリッシュ	
科目英名	English for Career Preparation
担当者	ミラー <johnmjr@outlook.com>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

This course offers a variety of business situations and environments to introduce students to Business English.

達成目標

Lessons will focus on systematically developing students' communicative abilities so as to build confidence in using English in the workplace and ultimately increase employment opportunities in the real world. To this end, students will regularly be encouraged to practice using English creatively in a variety of simulated business contexts.

成績評価

1) Mid-term Exam: 25%; Final Exam: 50%

2) Active Participation/Attendance: 15%

3) Teacher Points (will be allocated at the instructor's discretion and dependent on the student's overall demeanor and attitude towards classwork, and ability to follow instructions): 10%

予習復習時間

You are expected to read and think about all assigned material for each class. Your thoughts and insights are important to the class. Note: coming to class unprepared is the same as not coming at all.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

None.

授業計画

第 1 回 Course outline/schedule; General housekeeping; Course expectations and requirements
Introductions
Unit 1 Let me give you my card: Talking about your job; Giving contact information; Starting and ending conversations
第 2 回 Unit 2 I start work at 8:30: Conversation strategy: reflecting and reacting; Describing routines; Describing schedules
第 3 回 Unit 3 What does your company do?: Asking about company background; Conversation strategy: asking for repetition and spelling; Describing company business
第 4 回 Unit 4 How do you like your job?: Talking about likes and dislikes; Making suggestions; Conversation strategy: sounding polite
第 5 回 Unit 5 Can I take a message?: Answering the phone; Conversation strategy: controlling language; Taking a message; ending a call
第 6 回 Unit 6 Which ones should we order?: Describing and comparing products; Understanding advertisements; Conversation strategy: softening language
第 7 回 Mid-term Exam
第 8 回 Unit 7 Are you free on Tuesday?: Making a telephone call; Conversation strategy: checking information; Making an appointment
第 9 回 Unit 8 Where's the Marketing Department?: Prepositions of place; Giving a tour

第 10 回 Unit 9 How long does the process take?: Describing a process; sequencing, ordering a product, recruiting; Conversation strategy review: checking and confirming
第 11 回 Unit 10 Exports increased sharply: Talking about graphs; Giving a presentation; Answering questions
第 12 回 Unit 11 I'm leaving tomorrow: Talking about future plans; Degrees of certainty
第 13 回 Unit 12 Would you like to try some dim sum?: Ordering and accepting or refusing food; Giving and receiving compliments; Thanking and responding to thanks
第 14 回 Final Exam

オフィスアワー

Via e-mail only.

授業形態

Group and pair-work activities; classroom discussions -- participation is mandatory.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

Get Ready for International Business: English for the Workplace with Extra Practice for the TOEIC Exam Vaughan, Andrew & Zemach, D. E. Macmillan Education 2013 978-0-230-43325-0

参考書

学生へのメッセージ

The instructor uses ENGLISH ONLY in the classroom. A fair level of reading and listening comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course easily.

その他・自由記述欄

教授要目

サバイバル・イングリッシュ	
科目英名	Survival English
担当者	E・マディーソン <>
単位数	2単位
開講時期	1年前期後半

科目概要

This class will help prepare students for travel abroad when knowing English is necessary.

達成目標

The aim of this class is to improve students` English for travel abroad.

成績評価

Students will be graded on their attendance, class participation and final report.

予習復習時間

Students need to prepare for each class period and review will be at the end of each class period.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

There is no prerequisite for taking this class.

授業計画

- 第 1 回 My suitcase is overweight
- 第 2 回 I'm suffering from jet lag
- 第 3 回 Each host family is different
- 第 4 回 I'm experiencing culture shock
- 第 5 回 My dormitory is too noisy
- 第 6 回 How can I make friends?
- 第 7 回 What should I talk about?
- 第 8 回 I feel homesick
- 第 9 回 How do I order food?
- 第 10 回 I lost my passport
- 第 11 回 I need to go to hospital
- 第 12 回 I don't want to leave
- 第 13 回 Airport check-in
- 第 14 回 Review

オフィスアワー

Wednesday 1:00-1:30

授業形態

This is a student centered class with a lot of pair work and communication activities.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

Communicate Abroad Simon Cookson CENGAGE Learning 2016 ISBN978-4-86312-277-2

参考書

学生へのメッセージ

Do your best!

その他・自由記述欄

英語でライティング&プレゼンテーション	
科目英名	Academic Writing and Presentation
担当者	J・R・ブラウン <johnrb@live.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

In this course, students will practice writing presentations for homework and give those presentations in class followed by question-and-answer sessions.

達成目標

The aim of the course is to help students improve their writing, presentation and conversation skills in English.

成績評価

Students will be evaluated on the basis of their written work, presentations and participation in discussions in English.

予習復習時間

Two hours

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Students who intend to take this course should read books, magazines, newspapers and/or internet articles in English.

授業計画

- 第 1 回 Description of course
- 第 2 回 Interests
- 第 3 回 Ambitions
- 第 4 回 Dreams
- 第 5 回 Experiences
- 第 6 回 Work experience
- 第 7 回 Music
- 第 8 回 Art
- 第 9 回 Society
- 第 10 回 History
- 第 11 回 Travel - domestic
- 第 12 回 Travel - international
- 第 13 回 Culture
- 第 14 回 Careers

オフィスアワー

Monday 12:30-1:00

授業形態

Presentation and discussion in English

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

If you want to practice writing, giving presentations and discussing various topics in English, you may find this course useful.

その他・自由記述欄

教授要目

ニュースを英語で読む	
科目英名	Reading English-language Newspaper
担当者	石山 伊佐夫 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
英語で書かれた新聞・雑誌の記事をテキストにして、できるだけ辞書に頼らない英文速読の訓練を行います。また折にふれ、その日のニュースをもとにした簡単なディスカッションも行う予定です。
In this class you will practice reading rapidly the NEWS of the day in English, not consulting your dictionaries. And occasionally a short discussion based on the issues is scheduled.

達成目標
平易な英文記事の大意をすばやく掴み、時事問題や国際情勢についての多角的なものの見方・考え方を身につける。

成績評価
授業態度（30%）、ディスカッション（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（40%）を総合的に評価します。

予習復習時間
1 時限授業につき 4 時間の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
世界や日本の状況に敏感であること。その日の新聞、TV、ラジオニュースなどを必ずチェックする。（日本語で可）

- 授業計画**
- 第 1 回 ガイダンス
 - 第 2 回 時事英語って何？（特徴と構成。タイトル、表現など）
 - 第 3 回 海外から見た日本（技術・災害ロボット1）
 - 第 4 回 海外から見た日本（災害ロボット2）
 - 第 5 回 海外から見た日本（文化・クールジャパン1）
 - 第 6 回 海外から見た日本（クールジャパン2）
 - 第 7 回 海外から見た日本（スポーツ1・MLB日本人選手）
 - 第 8 回 海海外から見た日本（スポーツ2）
 - 第 9 回 前半のまとめ&ディスカッション
 - 第 10 回 世界を読む（米大統領選挙）
 - 第 11 回 世界を読む（EU の挫折・難民）
 - 第 12 回 世界を読む（中東の混乱・テロ襲撃）
 - 第 13 回 世界を読む（アジア・アセアンの未来）
 - 第 14 回 総括&ディスカッション
- オフィスアワー**
火曜日午後 5 時以降。事前に連絡をとれば確実です。

授業形態
生きた英語ニュースを教材にした講義形式。受講者数によっては、演習形式も取り入れる。

授業の具体的な進め方
interactive（双方向的）な授業になるので、受け身ではない積極的な参加の姿勢が重要です。

関連科目
授業に持参するもの

英和、英英辞書
教科書

15 Selected Units of English through the News Media Asahi Press
参考書

教室で指示する。
学生へのメッセージ

英語で読めれば、世界は 10 倍楽しくなる。
その他・自由記述欄

スポーツで学ぶ英語	
科目英名	Learning English through Sports
担当者	日高 正司 <授業で確認すること>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要
身近なスポーツに関する情報や知識のインプットを英文読解を通じて強化する。また内容について受講者と教員が英語による質疑応答をとおしてコミュニケーション能力を養う。
達成目標
スポーツに関する英文が読める能力を身につける。

スポーツを話題とした英語対話のための英語表現力や発話能力を向上させる。
成績評価
クラスの課題(30%)、授業参加(30%)、期末レポート(40%) の総合評価とする。

予習復習時間
1 回（100 分）の授業に対して 4 時間の自学自習を必要とする。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
テキストのスポーツトピックに関連する英文を収集して授業で報告するなど、予習に十分な時間は必要となる。

- 授業計画**
- 第 1 回 イントロダクション
 - 第 2 回 Warming Up
 - 第 3 回 Sports Nutrition
 - 第 4 回 Sevens Rugby
 - 第 5 回 Athletics
 - 第 6 回 Weight Training
 - 第 7 回 Women's Soccer
 - 第 8 回 Sports Supplemets
 - 第 9 回 Swimming
 - 第 10 回 Judo
 - 第 11 回 Sports Psychology
 - 第 12 回 Equestrian
 - 第 13 回 Gymnastics
 - 第 14 回 Sportsmanship 授業のまとめ

オフィスアワー
月曜日授業終了後

授業形態
演習

授業の具体的な進め方
毎回、受講者はテキストで取り上げらるスポーツ・トピックについて概要説明する。担当者は必要に応じて発表者のサポートをおこなう。続いて内容に関する質疑応答をおこなう。毎回、英文内容についてのサマリーを書いて提出する。

関連科目
アカデミック・イングリッシュ
授業に持参するもの

英語辞書
教科書

Sports and English Cotter Matthew 南雲堂 2015
参考書

授業で指示する
学生へのメッセージ

スポーツをトピックとした英文の読解やディスカッションを通じてコミュニケーションの能力を向上させることが目的であり、映像を使った授業ではないので注意すること。

その他・自由記述欄
意欲ある受講生を歓迎する。

教授要目

映画で学ぶ英語	
科目英名	Screen English
担当者	大森 尚子 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

映画を活用して英語を学んでいく授業。映画のセリフのディクテーション、会話作文、映画に関する記事のリーディングが主な内容。聞く・話す・読む・書くの4つの技能をバランスよく向上させていく。

This course is designed to improve four skills (listening/speaking/reading/writing) through the selected movies. Also, this course provides an opportunity to appreciate various kinds of human lives and deepen cross-cultural understanding.

達成目標

1. 「生きた英語」を通しコミュニケーション技能を高める。
2. 映画についての記事を読み多読力を高める。
3. 映画で描かれる様々な人生に接して異文化理解を深める。

成績評価

授業内演習の達成度・発言 (participation):40% 課題 (assignment):20% 期末試験 (the final exam):40%

予習復習時間

1 回 (100 分) の授業で4 時間の自学自習が必要。授業でとりあげた重要表現の復習は必須である。またこれに加えてそれぞれの映画全篇をみて内容を把握しておくことと、第14 回授業のあとに内容をまとめるための時間が必要。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

授業に対する積極的な姿勢が求められる。5 本の映画をとりあげるが、授業内では限られた場面しか視聴しないので各自全編を視ておくこと。

授業計画

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 Shattered Glass 『ニュースの天才』 ニュースを捏造したエリート記者を描いたノンフィクション

(1) Introduction

第 3 回 Shattered Glass

(2) Listening of the selected scenes

第 4 回 Shattered Glass

(3) Reading a review

第 5 回 An Inconvenient Truth 『不都合な真実』 元副大統領アルゴア氏による環境問題ドキュメンタリー (1) Introduction

第 6 回 An Inconvenient Truth 『不都合な真実』

(2) Reading a review

第 7 回 Juno 『ジュノ』 高校生の妊娠出産を扱った青春コメディ

(1) Introduction

第 8 回 Juno 『ジュノ』

(2) Listening of the selected scenes

第 9 回 Juno 『ジュノ』

(3) Reading a review

第10 回 Million Dollar Baby 『ミリオンダラーベイベー』 32 才からプロボクサーを目指すヒロイン

(1) Introduction (2) Listening of the selected scenes

第11 回 Million Dollar Baby 『ミリオンダラーベイベー』

(3) Reading a review

第12 回 Dear Wendy 『DEAR WENDY』 銃の腕を磨く「平和主義者」グループを結成した少年たちを描いたアメリカ銃社会へのメッセージ映画 (1) Introduction

第13 回 Dear Wendy 『DEAR WENDY』

(2) Reading a review

第14 回 提出してもらったレポートのコメント、総括

オフィスアワー

火曜日 (昼休み)

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

1. セリフの聞き取りやディクテーション
2. セリフを実際に会話練習 (ペアワーク)
3. 会話作文 (自分だったらどう発話するか)
4. 映画に関する記事を読む

関連科目

授業に持参するもの

テキスト 辞書

教科書

DRAMATIC CINEMA ENGLISH 一色真由美他 南雲堂 2010 9784523176404C0082

参考書

学生へのメッセージ

- ・映画の英語は意外に厄介。スピードも早く、スラングや言葉遊び、比喩も多い。一方、セリフに込められた感情は感動的だったり刺激的だったりと触発されることも多いはず。重層な英語に戸惑いつつも楽しむ姿勢が必要。
- ・試験などで履修制限を実施するので、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。

その他・自由記述欄

映画で学ぶ英語	
科目英名	Screen English
担当者	ミラー <johnmjr@outlook.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

The main goal of this course is to improve overall conversational skills for fluency, including speaking, reading, writing and confidence. This goal will be implemented in class by covering certain aspects of the movie-watching experience.

達成目標

A main requirement of the course is that students maintain a journal of their in-class movie watching experiences. Students are expected to record their impressions of various aspects of the film segments viewed as well be able to express those opinions to others when called upon to do so.

成績評価

50% Movie Journal

35% Final Movie Review

15% Active Participation

予習復習時間

Completion of all preassigned- reading/review/homework activities in a timely fashion is mandatory.

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

The instructor uses English only in the classroom. A fair level of reading (and listening) comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course with little difficulty.

授業計画

第 1 回 Course outline/objectives/expectations

Please note that in this initial classes you will be required to take a level test to determine English competency.

第 2 回 Talking about Movie Genres

第 3 回 Summarizing a Movie Section (Basic)

第 4 回 Talking about Your Reaction to a Movie (Basic)

第 5 回 Making a Prediction

第 6 回 Talking about Cultural Customs

第 7 回 Talking about Cultural Values

第 8 回 Talking about Characters (Basic) -- Appearance

第 9 回 Talking about Characters (Advanced) -- Personality

第10 回 Summarizing a Movie Section (Advanced)

第11 回 Talking about Your Reaction to a Movie (Advanced)

第12 回 Talking about Movie Messages and Ratings

第13 回 Writing a Movie Review

第14 回 Watching a Great Movie on Your Own

オフィスアワー

T. B. A.

授業形態

Please note that classes will be 100 minutes in duration.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

Textbook, J <-> E dictionary and writing utensils.

教科書

Movie Time! Eric Bray Nan'un-do 2012 978-4-523-17708-1

参考書

学生へのメッセージ

Screen English is a challenging yet rewarding class. This class demands that you do your best, and nothing less than your best should be forthcoming. You will earn a Fail grade for unsatisfactory work, a C grade for average work, a B grade for work that stands out above the average, and an A grade for work that marks itself as truly exceptional. Students should make an effort to be on time for class. Habitual lateness to classes will negatively impact final grades in this course. The above course outline is subject to change without prior notification.

その他・自由記述欄

教授要目

映画で学ぶ英語	
科目英名	Screen English
担当者	鈴木 夏実 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
名画を中心に、映像作品を活用して英語を学んでいく授業。主にディクテーションを通して、語彙力を養成し、リスニング力を高める。作品内で使用されている様々な人物背景や英語表現を通して、多様な文化を知る。アニメーションの中の英語表現の工夫を通して、文化と言語の関係を考察する。様々な時代に作成された映像の表現方法を観察し、その変遷を知る。
This course is designed to improve and consolidate vocabulary, grammar, speaking and listening skills of the language through various types of movies.

- 達成目標**
1. 映像の中の「生きた英語」を通し、語彙力、表現力を養成する。Vocabulary building through the authentic English through movies.
 2. 音声教材を活用し、スピーキング力を向上する。 Building listening & speaking skills through movies.
 3. 映像の中の異文化を考察し、その多様性を理解する。Inter-cultural awareness.
- 成績評価**
授業内演習・発言・質疑応答等 (Participation) : 30%、課題提出 (Assignment) : 30%、期末試験 (Final Exam) : 40%

予習復習時間
授業関連映像鑑賞、課題リサーチ、演習予習等で毎週 4 時間程度の準備学習を必要とする。
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
・映像に対する興味を持ち、新旧映画のある程度の知識を有すること。
・言語学習への「能動的かつ持続的な学習意欲」を持ち、それを実行する継続力があること。

Students will be expected to be an integral part of the learning process by taking an active role in all class discussions and activities. Participation will be ensured and encouraged through topical questions, lively discussions, and targeted feedback.
・試験等で履修制限を実施するので、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。
Attending the first lesson is required.

- 授業計画**
- 第 1 回 「映画で学ぶ英語」オリエンテーション
第 2 回 日本文化が映画に The Last Samurai: Introduction, Vocabulary
第 3 回 日本文化が映画に The Last Samurai: Summary, Dictation
第 4 回 様々な英語 Crocodile Dundee & My Fair Lady: Vocabulary, Summary
第 5 回 様々な英語 My Fair Lady: Song Dictation ◎復習テスト 1
第 6 回 異文化理解 Breakfast at TIFFANY : Vocabulary, Dictation
第 7 回 異文化理解 Guess Who' s Coming To Dinner: Introduction, Vocabulary
第 8 回 実話が映画に Patch Adams: Introduction, Vocabulary
第 9 回 実話が映画に Patch Adams: Summary, Dictation
第 1 0 回 実話が映画に We Bought a Zoo!: Summary, Dictation ◎復習テスト 2
第 1 1 回 アニメーション Finding Nemo & Spirited Away: Introduction, Vocabulary
第 1 2 回 アニメーション Spirited Away & Totoro: Summary, Dictation
第 1 3 回 ミュージカル The Sound of Music: Introduction, Vocabulary
第 1 4 回 ミュージカル The Sound of Music: Song Dictation ◎復習テスト 3

オフィスアワー
横浜キャンパス：火曜日・金曜日（昼休み）
授業形態
演習、討議、講義、鑑賞
授業の具体的な進め方

- 授業の進め方
1. 視聴覚教材を利用したリスニングやディクテーションの演習・解説。
 2. 異文化理解（他者理解）に関する解説や対話。
 3. ペアワーク、グループディスカッション、講義形式。

関連科目
授業に持参するもの
配布資料、ノート、筆記用具
教科書
参考書
学生へのメッセージ

演習という授業の性質上、平常の受講姿勢が極めて重要である。
提起されるあらゆる課題に対して、真摯かつ能動的に向き合っていく努力が必要とされる。
その他・自由記述欄

文学で学ぶ英語	
科目英名	Learning English through Literature
担当者	水戸 俊介 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
アメリカの短編小説に触れながら、作家の生きた時代と社会、作品の歴史的・文化的背景を学びます。授業で扱う作品は、アーウィン・ショーの「夏服を着た少女たち」（1939）です。男女のカップルが口喧嘩をしながらニューヨークのマンハッタンを歩くという、ただそれだけの、特別に何かが起こったりするような物語ではありません。しかしながら、この小説を通して、正確に英文を読む力を身につけるとともに、登場人物の男女の機微やマンハッタンの街並みを想像する力を養うこともできます。小説という虚構世界に没入することで、異世界に住まう作中人物たちに感情移入し、彼らの思考や感情、彼らを取り巻く社会や歴史を自分自身の問題として理解することができます。

- 達成目標**
1. 基本的な英文法の知識を身につけ、英文の文意を概ね説明できる。
 2. 英語の談話構造の観点から、英文を理解できる。
 3. 小説世界で起きる出来事を自分自身の問題として思考することができる。
- 成績評価**
まとめのテスト（60%）、訳の発表（40%）
予習復習時間
約 1 ページ分の日本語訳をする。1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要です。
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
前提とする知識は特にありません。文学に関心のある受講生を希望します。

- 授業計画**
- 第 1 回 オリエンテーション 授業の進め方を説明します。
第 2 回 “The Girls in Their Summer Dresses” 精読：“Fifth Avenue was shining …” ～
第 3 回 “Frances patted his arm …” ～
第 4 回 “Sure …” ～
第 5 回 “At least once a year …” ～
第 6 回 “They walked over …” ～
第 7 回 まとめテスト&小説に対する質疑応答
第 8 回 “He sighed and closed …” ～
第 9 回 “Everything is all right? …” ～
第 1 0 回 “Frances finished her drink …” ～
第 1 1 回 “She began to cry …” ～
第 1 2 回 “Michael waved to …” ～
第 1 3 回 まとめテスト&小説のテーマ
第 1 4 回 “The Girls in Their Summer Dresses” の感想と総評

オフィスアワー
木曜日 12:30-13:00 講師控え室
授業形態
演習および講義
授業の具体的な進め方
授業計画に基づいてテキストを読みます。

関連科目
授業に持参するもの
学習ノートと辞書
教科書
テキストは配布します。
参考書

夏服を着た女たち アーウィン・ショー 講談社 1984 978-4061832480
学生へのメッセージ
小説を読む楽しさを知り、英語力もつけていきましょう。
その他・自由記述欄

教授要目

音楽で学ぶ英語

科目英名	Learning English through Music
担当者	秋山 義典 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

洋楽を聴くひとが最近では減ってきたといわれていますが、この時間では講師の選んだ英語の新旧の名曲を聴いて歌のリズム、ビートを体験することを第1の目標にします。第二の目標は歌詞のなかの独特の語句を紹介して、実際の歌の中身を確認する。そのうえで表現上のキーワードに注目する。次にさまざまな感情表現に応用することをめざします。

達成目標

音楽にはきまったリズムとビートがあります。歌いだすと自然に身体が動き出します。コンサートやライブに行くとき身体がおどっていることに気が付くものです。それはどうしてでしょうか？音楽のリズムが人間の身体のリズムに重なり合うからなのです。普通に話す英語にも決まったリズムとビートがあるのです。身体が英語を話すような感覚が音楽と英語に共通する感じといえるでしょう。英語のリズムを音楽のビートで感じ取る体感を目指したいと思います。洋楽を聴くことで英語がより身近に感じられるになり、英語のリズムや発音について新しい理解を享受できるようになります。特に英語の音やリズムを習ったことのない人には有益であろう。

成績評価

授業への参加度 30% 試験 50% 授業中の提出物など 20%

予習復習時間

予習ではハンドアウトを精読して配布したレジュメのポイントをチェックして独力で歌い手の英語を理解した状態で講義に臨むこと。取り上げる課題を YouTube などで予習復習可能である。1 時限授業につき、4 時間の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

英語を身体で覚えることに興味のあるひとに向いている。音楽は yoga やダンスによく似ている。声やのどを使って英語を体感しよう。具体的には声に出して歌ってみることである。英語の詩の内容も注目すること。音楽に興味があるひと、洋楽アーティストに関心を持つひとには授業の中身も素直に自分のなかに入っていくと思う。

授業計画

- 第 1 回 「音楽で学ぶ英語」とは何か。イントロダクション
- 第 2 回 恋のはじまり：マドンナ『ライク・ア・ヴァージン』
若いときのマドンナの名曲
- 第 3 回 70 年代を代表する絶唱：ビリー・ジョエル『オネスティ』
アメリカ的なキーワード
- 第 4 回 離れたところはもう二度ともどせない：イーグルス『ホテル・カリフォルニア』
ティファニーのねじれ？メルセデスベンツの曲線？意外な内容を発見！
- 第 5 回 危険な台詞が連呼？：ボリス『エブリ・プレス・ユー・ディク』
元恋人にささげる息苦しいラブソング。内容聴いて、きみも恋愛劇のジェラシーのヒロイン、ヒーローに！
- 第 6 回 むかしの彼女がなつかしい？今のきみはどうなったのか？
エルビス・コストロ『アリソン』 むかしのきみは消えてほしいなんて。
- 第 7 回 アルコール中毒、離婚、学校中退：
トレイシー・チャップマン『ファスト・カー』あなたはスピードの出る車をもっているから。
- 第 8 回 失恋の痛み。あなたのいない人生なんて生きていけない！
マライア・キャリー『ウィズアウト・ユー』
- 第 9 回 男と女の遠い距離感：
ゴティエ『むかし、知り合いだったヒト』YouTube も興味深々
- 第 10 回 なつかしいビートルズの曲を彷彿させるボールの最新ヴァージョン：
ポール・マッカートニー『ニュー』
- 第 11 回 アメリカがベトナム戦争に入ったころ：
マーヴィン・ゲイ『ワッツ・ゴーインオン』
一度聴いたら、1 週間は脳裏を駆けめぐる名曲
- 第 12 回 ソウルの王様：
ジェイムズ・ブラウン『アイ・ガッチュー』砂糖とスパイスのようなリズム
- 第 13 回 イギリスの労働階級による曲と詩が意外な組み合わせ：
ブルース・フォーンズビー&ザ・レンジ『ザ・ウェイ・イティイズ』
人種問題を歌いながら「人生そんなものさ」とシニカルに歌い上げる渋い曲
- 第 14 回 「音楽で学ぶ英語」のレビューとリクエストの多い曲の復習

オフィスアワー

月曜日 16:45～

授業形態

ハンドアウトを使って、内容を一読、原曲を聴きながら、必要箇所の書き取りなど行い、単語のスペルと音を考察する。

授業の具体的な進め方

ハンドアウトを配布して、それをもとに原曲を聴きながら、重要な表現や英語の音の連鎖などに注意を向けるように講義形式で進めていく。ときに各自で原曲を聴きながら、声に出して歌ってみること。声に出して読むことがたいへん重要である。前半は、わかりやすいビートルズの名曲も取り上げて、入門編とする。後半は、最近のヒットポップスも紹介する予定

関連科目

『映画で学ぶ英語』、Communication Skills (1) (2)

授業に持参するもの

電子辞書、決められたハンドアウトを持参する

教科書

参考書

怖いくらい通じるカタカナ英語の法則 池谷裕二 講談社 9784062575744
ネイティブもその気なる 3 語の英会話 D・セイン 青春出版社 978-4413019606
改訂 CD 版英語耳 9784048688635

学生へのメッセージ

聞くだけでは分からない聞こえるだけでは十分わからない英語の世界観があるのです。歌の行間に秘められた意味、隠されたエピソードなども紹介し、アーティストたちの熱い思いに少しでも迫る試みに挑みながら、講師が自らかき集めた洋楽の現在形と過去の名曲を淡々と紹介します。

その他・自由記述欄

教授要目

Cultural Comparison	
科目英名	Cultural Comparison
担当者	鈴木 夏実 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本授業の中心課題は、異なる文化を持つ人々と、いかに相互主体的コミュニケーションを展開することができるかです。相互主体的なコミュニケーションとは、どちらか一方が主張し、他方は従うというコミュニケーション、あるいは互いに主張しあうだけで相手を受け入れようとしなないコミュニケーションではなく、お互いにイニシアティブを取り合って適切に自分を表現しあうコミュニケーションです。今、世界の人々には、自分の文化の境界線を越えてコミュニケーションをとる機会が急速に増えています。海外旅行、ホームステイ、留学、ビジネス、国際結婚などを体験するのは限られた人ではありません。だれにでも異文化間コミュニケーションの機会が訪れるのです。様々な文化を比較し、分析することで、潤滑な異文化間コミュニケーションの可能性を探ります。

The focus and primary goal of this course will be to cultivate a spirit of mutual understanding among cultures. Students will discuss various psychological, sociological, and cultural factors in order to assess the similarities and differences occurring in two or more different cultures and societies.

達成目標

本授業では、異文化間コミュニケーションの基本的なトピックと技能に習熟することによって、文化背景の異なる人々に対する開かれた態度を養い、彼らとのコミュニケーションに参加する意欲を喚起します。同時に、自らの文化を深く見つめることによって、自分の文化への洞察力を養います。

-Students will read and discuss a variety of cross-cultural research, as well as draw on personal experiences to explore the hidden cultural premises governing our lives.

-Students will increase their understanding of cross-cultural communication and international relationships, while broadening their international perspective.

成績評価

・授業参加度 (Participation) を 30%、課題 (Assignment) を 30%、定期試験 (Final Exam) を 40% で評価します。

予習復習時間

・リサーチ、課題作成など毎週 2 時間程度の自宅学習を必要とします。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

・話し合いに意欲的に参加して自分の考え・意見を構築し、積極的に発言することを要望します。
・英語資料や洋画を多用します。英語への興味や、英語力向上の意識をもって受講してください。

Students will be expected to be an integral part of the learning process by taking an active role in all class discussions and activities. Participation will be ensured and encouraged through topical questions, lively discussions, and targeted feedback.

授業計画

第 1 回 異文化コミュニケーションについて (Cross-cultural Communication)
オリエンテーション 異文化比較とは? (Introduction & Orientation)
第 2 回 文化とコミュニケーション (Culture & Communication)
カルチャーショック 1 (Culture Shock1)
第 3 回 カルチャーショック 2 (Culture Shock2)
集団主義と個人主義 (Collectivism vs Individualism)
第 4 回 集団主義と個人主義 (Collectivism vs Individualism)
第 5 回 ステレオタイプ (Cultural Stereotypes)
第 6 回 コミュニケーションスタイル: ノンバーバル・コミュニケーション (1)
(Communication Style: Non-Verbal Communication (1))
第 7 回 コミュニケーションスタイル: ノンバーバル・コミュニケーション (2)
(Communication Style: Non-Verbal Communication (2))
第 8 回 ハイ・コンテクストとロー・コンテクスト (Context: High vs. Low)
第 9 回 ターンテイキング (Taking Turns)
第 10 回 ことばと人格 (Language & Personality)
第 11 回 ほめる・ほめ言葉に込める (Self-Expression for Effective Communication)
第 12 回 感謝と謝罪 (Showing Appreciation & Making Apologies)
第 13 回 アサーティブ・コミュニケーション (1) (Assertive Communication (1))
アサーティブ・コミュニケーションの国からやってきた
第 14 回 アサーティブ・コミュニケーション (2) (Assertive Communication (2))
アサーティブ・コミュニケーションの達人になる

オフィスアワー

Tuesday & Friday: 12:15-13:15

授業形態

・授業は討議形式で行います。
・座席は教師が随時指定します。
・3 人 (又は 6 人) グループを、話し合いの単位とします。
Pair-work, group-work, & class discussion

授業の具体的な進め方

- ・視覚教材を多用します。
- ・シミュレーションを実施します。(クラス人数により、実施回数や内容の変更があります。)
- ・グループディスカッションを通して、自分の意見の確認や他者の違う視点の共有を繰り返します。
- ・聴く、発言する、書きとめる作業で意見をまとめるトレーニングをします。

関連科目

授業に持参するもの

- ・教科書は使用しませんが、毎回資料を配布します。紛失しないように授業用のバインダー、又はフォルダーを用意してください。
- ・参考書は随時紹介します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

- ・話し合いに意欲的に参加して自分の考えを築き、積極的に発言することを要望します。
- ・各テーマについて、自分の意見や疑問を持ち、それを書きまとめる習慣をつけましょう。
- その他・自由記述欄
- ・各テーマ終了時にコメントシートを提出。提出回数とコメント内容は成績の一部とします。
- ・定期試験は記述式。持ち込み禁止。

教授要目

Modern Society	
科目英名	Modern Society
担当者	吉田 国子 <yoshida@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
「今」話題になっている事柄について、異なる英語メディアを通じて情報を得て、理解し、批判的に読み込むための基礎的な技能と知識を獲得するために、大量の聴解と読解を行う
達成目標
英語ニュースの概要が適切な補助的手段を使いながらわかるようになること
成績評価
クラスへの貢献、小テスト（40%）、期末テスト（60%）
予習復習時間
一コマの授業に対して4時間の自習を必要とする
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
英語メディアに対する興味関心。授業外で英語に触れる機会を作れること
授業計画
第 1 回 ガイダンス 身近にある英語メディアの紹介
第 2 回 日本の今 日本の大学生（音声映像メディア）
第 3 回 日本の今 日本の大学生（活字メディア）
第 4 回 日本の今 若者の生き方（音声映像メディア）
第 5 回 日本の今 若者の生き方（活字メディア）
第 6 回 中間レビュー
第 7 回 世界の今 世界の大学生（音声映像メディア）
第 8 回 世界の今 世界の大学生（活字メディア）
第 9 回 世界の今 若者の生き方（音声映像メディア）
第 10 回 世界の今 若者の生き方（活字メディア）
第 11 回 中間レビュー
第 12 回 日本と世界 日本と世界の若者の関わり（音声映像メディア）
第 13 回 日本と世界 日本と世界の若者の関わり（活字メディア）
第 14 回 期末レビュー
オフィスアワー
木曜日昼休み
授業形態
演習
授業の具体的な進め方
履修生の積極性を高く評価し、できかぎり英語で授業を行う
関連科目
授業に持参するもの
教科書
参考書
学生へのメッセージ
英語メディアの中の情報は、背景知識がないと理解が難しいので、普段から日本語のニュース報道に関心を持って欲しい。履修希望者は初回授業に必ず出席のこと。
その他・自由記述欄

Modern Society	
科目英名	Modern Society
担当者	鈴木 夏実 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要
・この授業では、現代人が直面している様々な話題（健康、環境、テクノロジー、社会など）を、新聞、雑誌、TVニュース、インターネットニュースなどを通して学びます。 ・内容の要約や自分の意見を発表する等の活動を通じて、聞く、話す、読む、書く、の英語の4技能と語彙の総教を目指します。また、様々な社会問題をクリティカルに捉える視点を養います。 In this course students will be able to learn about current social issues through newspapers, magazines, TV news, and Internet news. Students will be engaged in activities such as summarizing and expressing own views to improve their four skills (listening, speaking, reading, and writing) and vocabulary. Training on critical thinking will also be offered.
達成目標
・世界で使われている英語情報を正確に迅速に入手し、活用できる力を養成する。 ・英文を理解し、それについての意見を平易な英語で表現できることを目指す。 Students will be able to read and listen to news in English effectively and to summarize main points of writing and speaking. In addition, students will be able to broaden their awareness by accessing a variety of opinions.
成績評価
・授業への出席 (Attendance) (15%) ・積極的参加度 (Participation) (25%): ①リーディングテスト2回実施 ②筆写課題提出2回 ・課題への取り組み (60%): 振り返りテストを2回実施します。
予習復習時間
・毎週 120 分以上: 各ユニットの映像鑑賞とリーディング練習、演習問題の予習 履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
・授業外でも、国内外の英語情報 (TV, Internet, newspaper, international events, etc.) に注意を向け、実際に英語情報を自分の生活に生かす体験をするように心がける事。 ・継続的学習は、言語習得の必須条件です。出席と積極的授業参加を重視します。 ・Reading & Listening スキルアップのための音読トレーニングをします。 ・初回授業で講義内容、受講心得などを説明します。 Students are required to follow the classroom rules in order to create an effective classroom environment. Don't miss the first day of the class, since the detail of course structure will be explained on that day.
授業計画
第 1 回 Orientation UNIQLO Aims High (introduction)
第 2 回 UNIQLO Aims High
第 3 回 Texting & Driving... It Can Wait
第 4 回 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals
第 5 回 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals *Reading Check 1
第 6 回 A Wave of Asian Immigrants
第 7 回 Facebook Envy (introduction) *Review Test1
第 8 回 Facebook Envy
第 9 回 Smart Networking Tips
第 10 回 Smart Networking Tips *Reading Check 2
第 11 回 Law Students Struggle to Find Work
第 12 回 Carbon Dioxide Making Oceans More Acidic
第 13 回 "Technovation" Aims to Get More Women in the Tech Workforce
第 14 回 "Technovation" Aims to Get More Women in the Tech Workforce *Review Test2
オフィスアワー
Tuesday & Friday 12:30-13:20
授業形態
Pair-work, group-work, & class discussion
授業の具体的な進め方
・テキスト付属 DVD と音声教材 CD を多用し、ディクテーション（書き取り）と音読トレーニングをします。 ・インターネットや新聞などを活用し、テーマについての検索、調査力をつけます。
関連科目
授業に持参するもの
教科書
CBS News Break 2 熊井信弘 SEIBIDO 2015/01 978-4-7919-3388-4
参考書
学生へのメッセージ
・今ホットな問題は何か、そのために必要な視点は何か、視野を広げ、英語力を磨きましょう。
その他・自由記述欄

教授要目

科学技術英語

科目英名 Sci-Tech English

担当者 三幣 友行 <tmykmns@yahoo.co.jp>

単位数 2 単位

開講時期 1 年前期前半

科目概要

科学技術に関する英文を読みながら、科学技術に関する論文や新聞を読むための語彙力、読解力の向上を目的とする。なお、本講義は少人数クラス（1 クラス 20 人以下）で行う。

達成目標

科学技術に関する専門的な内容の英文を読む力をつけながら、英語の総合的な読解力を向上させる。

成績評価

平常点 3 0 %、小テスト点 2 0 %、期末試験 5 0 %を総合的に評価する。

予習復習時間

1 回（1 0 0 分）の授業に対して 4 時間の自学自習が必要となる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第 1 回 授業に関する説明

第 2 回 Bare Bones

第 3 回 Mummy Mystery

第 4 回 Swim with Seahorses

第 5 回 Mission to Mars

第 6 回 Feed the World

第 7 回 Into the Rain Forest

第 8 回 中間のまとめ

第 9 回 Turn Up the Heat

第 1 0 回 Free Fall

第 1 1 回 The Hidden Lives of Leaves

第 1 2 回 Getting the Shot

第 1 3 回 Attack of the Germs

第 1 4 回 これまでのまとめ

オフィスアワー

月曜日：1 6：5 0～1 7：5 0 その他相談に応じる

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

最初に前回の学習範囲の小テストを行い、リーディング演習、解説を行う。

関連科目

英語科目全般

授業に持参するもの

教科書、辞書、筆記用具

教科書

Science Frontiers Keiko Hattori センゲージラーニング 2016

ISBN978-4-86312-289-5

参考書

学生へのメッセージ

科学技術に関する基本的な英語読解能力をつけたい受講者を歓迎します。また、少人数クラス（20 名以下）で授業を行うことで教育効果を高めることを目的として、初回授業時に選抜を行うことがあるため、必ず出席すること。

その他・自由記述欄

予習を前提として授業を進めるので、必ず予習はしてください。

教授要目

中国語(1)	
科目英名	Chinese(1)
担当者	黄 愛華 <t8a10m9y8@pony.ocn.ne.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

中国語の発音と最基本文法

Targeting learners of Chinese at a basic or low level, this lecture is designed to cover the grammar items included in current textbooks for beginning learners of Chinese in Japan. Textbooks for learners of Chinese at a basic and low level are used for class. This lecture aims to improve learners' communicative abilities through intensive training in listening, speaking and reading.

達成目標

中国語の発音を把握、簡単な自己紹介ができるようになること

成績評価

平常点(出席、小テスト) 50% 期末テスト 50%

予習復習時間

毎日10分教材についている音声を聞くこと 復習、宿題、練習問題、小テスト勉強などの時間が必要

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

教材についているCDをよく聞くこと

授業計画

第1回 中国語全体の話、発音記号(ピンイン)、単母音の学習

第2回 母音、アクセント

第3回 子音、発音の組み合わせ

第4回 発音のルール

第5回 発音の総合練習

第6回 中国語の基本語順、よく使う挨拶語

第7回 第一課 あいさつする

第8回 第一課ポイント、練習問題

第9回 中国映画鑑賞

第10回 第二課 名前を尋ねる

第11回 第二課ポイント、練習問題

第12回 第三課 食べたいものを尋ねる

第13回 第三課ポイント、練習問題

第14回 学習確認

オフィスアワー

応じます。事前連絡があれば尚良い

授業形態

教科書、配布資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

「中国語1」は発音と基本文法が中心になります。発音は教科書に従い先生の発音をリピート、記憶し、自分で発音もできるようにしていきます。第4課以後、教科書に従い、各課の単語、本文、ポイント、練習問題の順に学習していきます。各課にオリジナルプリントを使ってマスターしていきます。

関連科目

授業に持参するもの

カメラなど、板書を書き移しきれない時に活用してください。

教科書

できる・つたわるコミュニケーション中国語 岩井伸子 胡興智 白水社 2015年9月8-4-560-06935-6

参考書

学生へのメッセージ

中国語は今後の仕事に生活に役立つ言語であるので、ぜひ身につけてほしいと思います。

その他・自由記述欄

中国語ははじめて学ぶ言語です。間違っても当たり前、恥ずかしがらず、声出して一緒に頑張しましょう。

把握状況に応じて、進度調整を致します。

中国語(1)	
科目英名	Chinese(1)
担当者	孫 玲 <>
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

この講義は初級の教科書を用いながら、特に日常で頻繁に使用される文法事項を習得していくことを重視しています。基本となる文法事項に加え、中国語の聞き取りや会話、読解能力を同時に向上させ、より実用的な能力を身につけることを目的とします。

達成目標

リスニングと筆記をポイントとして、中国語検定準4級レベルに達することを目標とします。

成績評価

小テストの平常点や出席率と期末試験成績によって評価を行います。

予習復習時間

1時限分の授業に対して2時間の自学自習が必要です。

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

会話の朗読練習をするときは大きな声を出すこと。宿題だけではなく、授業で学んだ内容を都度、自主的に復習することを期待します。

授業計画

第1回 第1ユニット

発音① 簡体字、中国語の発音、ピンイン)、声調、単母音、複合母音

第2回 発音② 音節の構造、子音(有気音、無気音)

第3回 発音③ 鼻母音、アル化、声調の組み合わせ

第4回 声調の変化、挨拶言葉、第1ユニットのまとめ

第5回 第2ユニット

人称代名詞、動詞“是”を用いる文、“ma”を使った疑問文

第6回 本文「あいさつする」とトレーニング

第7回 疑問詞疑問文「何を、誰」、人の呼び方、構造助詞“的”の用法、

第8回 本文「名前を尋ねる」とトレーニング

第9回 動詞述語文、副詞“也”、省略疑問文、

第10回 本文「食べたいものを尋ねる」とトレーニング

第11回 形容詞述語文、曜日の言い方、尋ね方

第12回 本文「近況を尋ねる」とトレーニング、

第13回 自己紹介

第14回 第2ユニットのまとめ、総復習

オフィスアワー

月曜日(授業終了後に質問等を受け付けます)

授業形態

講義、演習、グループワーク

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

『できる・つたわる コミュニケーション中国語』 岩井伸子/胡 興智著 白水社

参考書

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

教授要目

中国語(2)	
科目英名	Chinese(2)
担当者	黄 愛華 <t8a10m9y8@pony.ocn.ne.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

基礎文法、基本表現の一部分を学習する。

Targeting learners of Chinese at a basic or low level, this lecture is designed to cover the grammar items included in current textbooks for beginning learners of Chinese in Japan. Textbooks for learners of Chinese at a basic and low level are used for class. This lecture aims to improve learners' communicative abilities through intensive training in listening, speaking and reading.

達成目標

学習した表現を活用し、自分の状況を書き、話せるようになること

成績評価

平常点（出席、小テスト）50％ 期末テスト50％

予習復習時間

毎日10分教材についている音声聞くこと 復習、宿題、練習問題、小テスト勉強などの時間が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

教科書についているCDをよく聞くこと。ニュースや新聞の中国に関する記事に関心持つて読むこと

授業計画

第 1 回 中国語1 復習

第 2 回 第四課 近況を尋ねる

ポイント

第 3 回 第四課練習問題

復習1 第一課～第四課

第 4 回 第五課 予定を尋ねる

ポイント

第 5 回 第五課練習問題

第六課 場所を尋ねる

第 6 回 第六課ポイントと練習問題

第 7 回 中国関連映像鑑賞

第 8 回 中国関連映像鑑賞

第 9 回 第七課 注文する

ポイント

第10回 第七課練習問題

第八課値段の交渉をする

第11回 第八課 ポイントと練習問題

第12回 復習2 第四課～第八課

第13回 総復習

第14回 学習確認

オフィスアワー

応じます。事前連絡があれば尚良い

授業形態

教科書、配布資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

各課の単語、本文、文法現象、ポイント、練習問題の順で進みます。単語や本文はよく声を出して読んで、練習問題はみなさんに発表していただく。

関連科目

授業に持参するもの

カメラなど、板書を書き移しきれない時に活用してください。

教科書

できる・つたわるコミュニケーション中国語 岩井伸子 胡興智 白水社 2015年9月78-4-560-06935-6

参考書

学生へのメッセージ

中国語は今後の仕事に生活に役立つ言語であるので、ぜひ身につけてほしいと思います。

その他・自由記述欄

私は皆様の中国語学習に力いっぱいお助けします。学生のみなさんも頑張っていたきたいと思います。

把握状況に応じて、進度調整を致します。

中国語(2)	
科目英名	Chinese(2)
担当者	孫 玲 <>
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

この講義は初級の教科書を用いながら、特に日常で頻繁に使用される文法事項を習得していくことを重視しています。基本となる文法事項に加え、中国語の聞き取りや会話、読解能力を同時に向上させ、より実用的な能力を身につけることを目的とします。

達成目標

リスニングと筆記をポイントとして、中国語検定4級レベルに達することを目標とします。

成績評価

小テストの平常点や出席率と期末試験成績によって評価を行います。

予習復習時間

1時限分の授業に対して2時間の自学自習が必要です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

会話の朗読練習をするときは大きな声を出すこと。宿題だけではなく、授業で学んだ内容を都度、自主的に復習することを期待します。

授業計画

第 1 回 第1ユニット

疑問詞“どこ”、時刻の言い方と数詞、前置詞“和”～と

第 2 回 本文「予定を尋ねる」とトレーニング

第 3 回 指示代名詞①、存在をあらわす“在”

第 4 回 本文「場所を尋ねる」とトレーニング

第 5 回 所有を表す“有”、と存在を表わす“有”、数量の言い方

第 6 回 本文「注文する」とトレーニング、

第 7 回 第1ユニットのまとめ

第 8 回 第2ユニット

指示代名詞②、いろいろな量詞

第 9 回 値段の言い方・尋ね方

第10回 本文「値段の交渉をする」とトレーニング

第11回 動作が発生したことを表わす“了”、連動文

第12回 本文「出来事を尋ねる」とトレーニング

第13回 学校の生活

第14回 第2ユニットのまとめ

オフィスアワー

月曜日（授業終了後に質問等を受け付けます）

授業形態

講義、演習、グループワーク

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

『できる・つたわる コミュニケーション中国語』 岩井伸子／胡 興智著 白水社

参考書

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

教授要目

韓国語(1)	
科目英名	Korean(1)
担当者	李 ジョンソン、水嶋
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要
韓国語初級クラス。文字や発音の基礎に続き、基本的な挨拶表現、基礎語彙、基礎文法を学ぶ。なお、韓国の文化、社会などに付いて理解を深めていく。
達成目標
韓国語の文字や語彙、文法の基礎を身につける。簡単な表現を学習し、実践でも使えるようにする。「聞く、話す、読む、書く」の言語4技能の総合的な学習を通じ、コミュニケーション能力を養成する。
成績評価
小テスト、授業態度及び授業への参加度、課題の完成度などにより総合的に評価する。
予習復習時間
毎回、予習、復習の内容を授業時に指示する。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
韓国語の学習が初めての人を対象とするが、少し学習経験があっても初級レベルであれば履修可能。
授業計画
第 1 回 韓国語、ハングルの概要
第 2 回 基本母音、基本母音を使った基礎単語
第 3 回 基本子音
第 4 回 基本子音と基本母音の組み合わせ練習
第 5 回 終声（パッチム）
第 6 回 合成母音
第 7 回 文字のまとめ
第 8 回 挨拶表現
第 9 回 第一課 簡単な自己紹介
第 10 回 第二課 ① 指示詞（これ、それ、あれ、どれ） ② 誰のですか。
第 11 回 第二課 ③ 誰ですか。 ④ 名前は何ですか。
第 12 回 第三課 存在詞 ① パソコンがありますか。 ② 彼女もいますか。
第 13 回 第三課 存在詞 ③ どこにありますか。/いますか。 ④ 東京駅の前にあります。/います。
第 14 回 総まとめ
オフィスアワー
李： 火曜 14時30分から17時、 木曜 10時20分から17時
水嶋 月曜 10時20分から17時
授業形態
講義及び演習
授業の具体的な進め方
・講義及び演習形式で授業を進めて行く。
・授業の始めに、前回の内容を復習し、新しい内容に進む。授業の最後にその日の内容をまとめる。
・韓国映画、ドラマなどを通じて文化、社会などに触れる時間を設ける。
関連科目
授業に持参するもの
教科書
教科書
よくわかる韓国語 STEP1 入佐信宏・文賢珠 白帝社 2002 4-89174-587-8
参考書
学生へのメッセージ
積極的に授業に取り組むこと。
その他・自由記述欄

韓国語(2)	
科目英名	Korean(2)
担当者	李 ジョンソン、水嶋
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要
韓国語(1)で学んだ基礎文法、基礎表現に基づいて、日常で使えるコミュニケーション能力を身につける。
達成目標
韓国語(1)で学習してきた表現、語彙を確立させ、日常会話や読解力に活かせるようにする。
成績評価
学習態度、授業への参加度、課題の完成度、小テストなどにより総合的に評価する。
予習復習時間
毎回、予習、復習する内容を授業時に指示する。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
ハングルが読めること。または、韓国語(1)を履修していること。
授業計画
第 1 回 韓国語(1)復習
第 2 回 第4課 用言の活用(1) ①何をしますか。 ②学校で勉強をします。
第 3 回 第4課 ③飲みません。 ④副詞（少し/たくさん）
⑤有効に使える副詞（よく/ほとんどなど）
第 4 回 第5課 用言の活用(2) ①東大門市場は安いですか。
第 5 回 第5課 ②難しくありません。 ③家族と食べます。
第 6 回 まとめて①
第 7 回 第6課 疑問視、数詞など ①趣味は何ですか。 ②誕生日はいつですか。
第 8 回 第6課 ③携帯はありますか。 ④何番ですか。
第 9 回 第7課 曜日、時間 ①何時ですか。 ②7時に起きます。 ③9時から3時までです。
第 10 回 第7課 ④いいえ、来ません。
第 11 回 まとめて②
第 12 回 第8課 状態・状況に関する表現 ①天気が良いです。 ②忙しくありません。
第 13 回 第8課 ③家は学校から遠いですか。 ④バスで30分かかります。
第 14 回 まとめて③
オフィスアワー
李：火曜 14時30分から17時、 木曜 10時20分から17時
水嶋： 月曜 10時20分から17時
授業形態
講義及び演習
授業の具体的な進め方
・講義により授業を進めていく。
・毎回授業のはじめに復習をし、新しい内容に進む。授業の最後にその日の内容をまとめる。
・韓国映画、ドラマ、音楽などを観て、聴く時間を設ける。
関連科目
授業に持参するもの
教科書
教科書
よくわかる韓国語 入佐信宏・文賢珠 白帝社 2002 4-89174-587-8
参考書
学生へのメッセージ
積極的に授業に取り組むこと。
その他・自由記述欄

教授要目

基礎体育(1)	
科目英名	Physical Education(1)
担当者	久保 哲也 <kubo@tcu.ac.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要
チームスポーツであるバスケットボールを題材として、集団の中で各々の役割を認識させることによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とする。スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらう。 The purpose of this course is to train for sustaining and increasing physical strength.
達成目標
①バスケットボールの基本技術を習得する。 ②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。 ③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。
成績評価
授業態度(授業に対する積極性や貢献度、参加状況、安全に対する配慮等)が 40%、技能((基本技術の習得、各自の目標達成度)が 30%、理論(ルール・マナーの理解、レポートによる評価等)を 30%とし、総合的に評価する。
予習復習時間
1回(1時限)の授業に対して4時間の自学自習が必要である。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)
日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。
授業計画
第 1回 オリエンテーション 第 2回 体力測定 第 3回 個人技能のレベルアップ ・シュート、ドリブル、リバウンド、パッシング等 第 4回 個人技能のレベルアップ ・得意な技術の補正 第 5回 個人技能のレベルアップ ・得意な技術を伸ばす 第 6回 チームのレベルアップ ・チーム分け ・オフェンスの基本プレー 第 7回 チームのレベルアップ ・オフェンスの基本プレー 第 8回 チームのレベルアップ ・3対3でのハーフコートバスケットボールゲーム 第 9回 チームのレベルアップ ・対人防御と対人防御に対する攻撃法 第10回 チームのレベルアップ ・地域防御と地域防御に対する攻撃法 第11回 チームのレベルアップ ・各々のチームに適した戦術を使っているプレー 第12回 チームのレベルアップ ・速攻攻撃法 第13回 ゲームを楽しむ ・ルールの確認 ・審判法 第14回 まとめ オフィスアワー (金)3限、4限
授業形態
実技
授業の具体的な進め方
バスケットボールを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えている。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解して欲しい。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行うので、上記の内容は多少前後する。
関連科目
基礎体育(2)、応用体育(1)、応用体育(2)、スポーツ・健康論
授業に持参するもの
体育館専用シューズを着用すること。 服装は一般的な運動着とする。 1回目の授業時に顔写真(縦4cm×横3cm)を持参すること。
教科書
参考書
学生へのメッセージ
チームを作るため、欠席や遅刻はしないようにすること。
その他・自由記述欄

基礎体育(1)	
科目英名	Physical Education(1)
担当者	波多野 圭吾 <khatano@tcu.ac.jp>
単位数	単位
開講時期	1年前期

科目概要
チームスポーツであるフットサルを題材に、その基本的な技術を習得するとともに、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。また、スポーツの楽しみ方を理解し、周囲とのコミュニケーションを深めながら、スポーツを通じて豊かで充実した人生を形成することの大切さを学ぶ。 The purpose of this course is to train for sustaining and increasing physical strength.
達成目標
(1)フットサルの基本的な技術を習得する (2)フットサルに主体的に取り組み、ゲームをする楽しさを味わう (3)生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う
成績評価
毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢)を40%、「思考・判断・表現」(課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか)を40%、「技術の習得」を20%として評価する。
予習復習時間
実技科目のため、週1時間の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)
実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。
授業計画
第 1回 オリエンテーション(本科目の目的など) 第 2回 体力測定 第 3回 キック技術の習得(インサイドキック、インステップキックなど) 第 4回 パス技術の習得1(対面パス、対列パスなど) 第 5回 パス技術の習得2(2対1のボールまわし、3対1のボールまわしなど) 第 6回 シュート技術の習得1(ドリブルシュート、ポストシュートなど) 第 7回 シュート技術の習得2(ビヴォ当て・ファー詰めなど) 第 8回 オフェンス技術の習得(2対1、3対2など) 第 9回 ディフェンス技術の習得(マンマーク、ゾーンディフェンスなど) 第10回 リーグ戦1(個人技能の発揮を意識して) 第11回 リーグ戦2(チームメイトとのコミュニケーションを意識して) 第12回 リーグ戦3(チームオフェンスを意識して) 第13回 リーグ戦4(チームディフェンスを意識して) 第14回 総括
オフィスアワー
月曜日、木曜日の昼休み
授業形態
実技
授業の具体的な進め方
フットサルの基本技術の習得を目指すとともに、ゲームに関するルールやマナーを学ぶ。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じて学生相互の理解や協調性の習得を目指す。履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記の計画は多少前後することや変更することもある。
関連科目
基礎体育(2)、応用体育(1)、応用体育(2)、スポーツ・健康論
授業に持参するもの
服装は一般的な運動着を着用し、フットサルに適した運動靴を着用すること。 初回の授業時に顔写真(縦4cm×横3cm)を持参すること。
教科書
なし
参考書
フットサルクリニック 市原啓昭 高橋書店 2004 978-4471140908
学生へのメッセージ
チームを作るため、欠席や遅刻はしないようにして下さい。
その他・自由記述欄
授業に必要な資料等は随時配布します。 実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

教授要目

基礎体育(1)

科目英名	Physical Education(1)
担当者	波多野 圭吾 <khatano@tcu.ac.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

チームスポーツであるバスケットボールを題材に、その基本的な技術を習得するとともに、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。また、スポーツの楽しみ方を理解し、周囲とのコミュニケーションを深めながら、スポーツを通じた豊かで充実した人生を形成することの大切さを学ぶ。

The purpose of this course is to train for sustaining and increasing physical strength.

達成目標

- (1) バスケットボールの基本的な技術を習得する
- (2) バスケットボールに主体的に取り組み、ゲームをする楽しさを味わう
- (3) 生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う

成績評価

毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢)を40%、「思考・判断・表現」(課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか)を40%、「技術の習得」を20%として評価する。

予習復習時間

実技科目のため、週1時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (本科目の目的など)
- 第2回 体力測定
- 第3回 バス技術の習得 (チェストパス、ショルダーパスなど)
- 第4回 ドリブル技術の習得 (スラロームドリブルなど)
- 第5回 シュート技術の習得1 (ジャンプシュート、レイアップシュートなど)
- 第6回 シュート技術の習得2 (ミートシュート、リバウンドシュートなど)
- 第7回 チームオフENSEの理解1 (ツーマン、スリーマン、クリスクロスなど)
- 第8回 チームオフENSEの理解2 (2対1、3対2、3対3など)
- 第9回 チームディフェンスの理解 (ゾーンディフェンスなど)
- 第10回 リーグ戦1 (個人技能の発揮を意識して)
- 第11回 リーグ戦2 (チームメイトとのコミュニケーションを意識して)
- 第12回 リーグ戦3 (チームオフENSEを意識して)
- 第13回 リーグ戦4 (チームディフェンスを意識して)
- 第14回 総括

オフィスアワー

月曜日、木曜日の昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

バスケットボールの基本技術の習得を目指すとともに、ゲームに関するルールやマナーを学ぶ。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じて学生相互の理解や協調性の習得を目指す。

履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記計画は多少前後することや変更することもある。

関連科目

基礎体育(2)、応用体育(1)、応用体育(2)、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

服装は一般的な運動着を着用し、体育館専用シューズを着用すること。

初回の授業時に顔写真(縦4cm×横3cm)を持参すること。

教科書

なし

参考書

バスケットボール練習メニュー200 小野秀二 池田書店 2009 978-4262163260

学生へのメッセージ

チームを作成するため、欠席や遅刻はしないようにしてください。

その他・自由記述欄

授業に必要な資料等は随時配布します。

実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

基礎体育(1)

科目英名	Physical Education(1)
担当者	狩野 豊 <kano@pc.uec.ac.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

チームスポーツであるフットサルを題材として、体力の維持向上を養うとともに、集団の中で各々の役割を認識することによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とします。また、スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらいます。

Futsal is team sports and is suitable to develop a physical fitness and communicative competence. The purpose of this class is support a physical fitness and to promote sense of cooperation/sociability by recognizing each role among group.

達成目標

- ①フットサルのルールと基本技術を習得する。
- ②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。
- ③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。

成績評価

出席状況、授業記録レポート、授業時の態度や積極性並びに技術能力を加味し、総合的に判断します。

予習復習時間

授業前日の体調管理に配慮して下さい。フットサルのルールについてはWeb教材などを用いて確認して下さい。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨んで下さい。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：種目選択と体力テストの説明
- 第2回 体力測定の実施
- 第3回 フットサルにおける基本的な動き
 - ・ルールを確認しながらのゲーム実践
- 第4回 個人技能のレベルアップ
 - ・ボールコントロール、シュート、ドリブル、トラップ等
- 第5回 個人技能のレベルアップ
 - ・得意な技術を伸ばす
- 第6回 “個人技能のレベルアップ”
 - ・1対1の攻防、2対1の攻防
- 第7回 チームのレベルアップ
 - ・チーム分け
 - ・パス(敵なし・動きながらのパス)
 - ・パス(敵あり・ボールキープ)
- 第8回 チームのレベルアップ
 - ・2対2の攻防、3対3の攻防
- 第9回 チームのレベルアップ
 - ・グループでのボール保持及びボール奪取(3対1、4対1)

第10回 チームのレベルアップ

- ・ゾーンディフェンス
- ・マンツーマンディフェンス

第11回 ゲームを楽しむ

- ・ルールの再確認
- ・審判法
- ・ゲーム形式の学習

第12回 ゲームを楽しむ

- ・チーム戦術1

第13回 ゲームを楽しむ

- ・チーム戦術2

第14回 ゲームを楽しむ

- ・チーム戦術3

- ・授業のまとめ

オフィスアワー

月曜日 昼休み時間

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

体力測定・フットサルを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えています。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解しましょう。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行いますので、上記の内容は多少前後します。

関連科目

基礎体育(2)、応用体育、生活と健康、アウトドラスポーツ

授業に持参するもの

体育館シューズ、フットサルシューズ、運動に適した服装

ガイダンス時に説明します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

授業が楽しく展開できるように、仲間との交流や授業参加において、積極的な態度で臨んでもらいたい。

教授要目

基礎体育(2)	
科目英名	Physical Education(2)
担当者	久保 哲也 <kubo@tcu.ac.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要
チームスポーツであるバレーボールを題材として、集団の中で各々の役割を認識させることによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とする。スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらいとする。 The aim of this course is to make the students recognize full sport life and give them an opportunity to build the pleasures of team sports.
達成目標
①バレーボールの基本技術を習得する。 ②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。 ③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。
成績評価
授業態度(授業に対する積極性や貢献度、参加状況、安全に対する配慮等)が 40%、技能((基本技術の習得、各自の目標達成度)が 30%、理論(ルール・マナーの理解、レポートによる評価等)を 30%とし、総合的に評価する。
予習復習時間
1回(1時限)の授業に対して4時間の自学自習が必要である。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)
日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。
授業計画
第 1回 オリエンテーション 第 2回 個人技能のレベルアップ ・オーバーハンドレシーブ、アンダーハンドレシーブ等 第 3回 個人技能のレベルアップ ・スパイク、バックアタック等 第 4回 個人技能のレベルアップ ・得意な技術の修正 ・得意な技術を伸ばす 第 5回 個人技能のレベルアップ ・サーブ、サーブレシーブ等 第 6回 チームのレベルアップ ・チーム分け ・サーブレシーブからの攻撃 第 7回 チームのレベルアップ ・セッターを決めての練習 第 8回 チームのレベルアップ ・三段攻撃 第 9回 チームのレベルアップ ・コンビネーション攻撃 第 10回 チームのレベルアップ ・ブロックとレシーブのコンビネーション 第 11回 チームのレベルアップ ・スパイクレシーブからの攻撃の組み立て 第 12回 ゲームを楽しむ ・ルールの確認 ・審判法 第 13回 ゲームを楽しむ ・リーグ戦 第 14回 まとめ
オフィスアワー
(金)3限、4限
授業形態
実技
授業の具体的な進め方
バレーボールを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えている。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解して欲しい。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行うので、上記の内容は多少前後する。
関連科目
基礎体育(1)、応用体育(1)、応用体育(2)、スポーツ・健康論
授業に持参するもの
体育館専用シューズを着用すること。 服装は一般的な運動着とする。
教科書
参考書
学生へのメッセージ
チームを作るため、欠席や遅刻はしないようにすること。 その他・自由記述欄

基礎体育(2)
科目英名
Physical Education(2)
担当者
波多野 圭吾 <khatano@tcu.ac.jp>
単位数
1単位
開講時期
1年後期

科目概要
チームスポーツであるフットサルを題材に、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。特に、学習した基本技術やグループ戦術をゲーム内で発揮できるよう、周囲と協力することを重視する。また、生涯スポーツへの契機となるよう、周囲とコミュニケーションをとりながら将来のスポーツライフの設計、実践ができる能力を育成する。 The aim of this course is to make the students recognize full sport life and give them an opportunity to build the pleasures of team sports.
達成目標
(1)フットサルの基本技術や戦術について理解し、それらをゲームの中で活かすことができる (2)ゲームをする楽しさを味わい、チームメイトと共有することができる (3)周囲とコミュニケーションをとりながら、生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う
成績評価
毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢)を40%、「思考・判断・表現」(課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか)を40%、「技術の習得」を20%として評価する。
予習復習時間
実技科目のため、週1時間の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)
実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。
授業計画
第 1回 オリエンテーション(本科目の目的など) 第 2回 キック技術の習得(インサイドキック、インステップキックなど) 第 3回 パス技術の習得(ダイレクトパス、ワンツープาสなど) 第 4回 ドリブル技術の習得(スラロームドリブルなど) 第 5回 シュート技術の習得(ドリブルシュート、ポストシュートなど) 第 6回 オフフェンス戦術の理解(パス&ゴー、オーバーラップなど) 第 7回 ディフェンス戦術の理解(チャレンジアンドカバー、ディレイなど) 第 8回 チームオフフェンスの理解(エイト、バラレラ、ジャゴナウなど) 第 9回 チームディフェンスの理解(ダイヤモンド、ボックスなど) 第 10回 リーク戦1(個人技能の発揮を意識して) 第 11回 リーク戦2(チームメイトとのコミュニケーションを意識して) 第 12回 リーク戦3(チームオフフェンスを意識して) 第 13回 リーク戦4(チームディフェンスを意識して) 第 14回 総括
オフィスアワー
月曜日、木曜日の昼休み
授業形態
実技
授業の具体的な進め方
フットサルの基本的な技術や戦術を習得することを目指し、それをゲーム内で発揮できるようにする。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じてフットサルのルールやマナーを学ぶとともに、学生相互の理解や協調性の習得を目指す。 履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記の計画は多少前後することや変更することもある。
関連科目
基礎体育(1)、応用体育(1)、応用体育(2)、スポーツ・健康論
授業に持参するもの
服装は一般的な運動着を着用し、フットサルに適した運動靴を着用すること。 初回の授業時に顔写真(縦4cm×横3cm)を持参すること。
教科書
なし
参考書
フットサルクリニック 市原啓昭 高橋書店 2004 978-4471140908
学生へのメッセージ
チームを作成するため、欠席や遅刻はしないようにしてください。 その他・自由記述欄
授業に必要な資料等は随時配布します。 実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

教授要目

基礎体育(2)

科目英名	Physical Education(2)
担当者	波多野 圭吾 <khatano@tcu.ac.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

チームスポーツであるバレーボールを題材に、その基本的な技術を習得するとともに、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。また、スポーツの楽しみ方を理解し、周囲とのコミュニケーションを深めながら、スポーツを通じて豊かで充実した人生を形成することの大切さを学ぶ。

The aim of this course is to make the students recognize full sport life and give them an opportunity to build the pleasures of team sports.

達成目標

- (1) バレーボールの基本的な技術を習得する
- (2) バレーボールに主体的に取り組み、ゲームをする楽しさを味わう
- (3) 生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う

成績評価

毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢)を40%、「思考・判断・表現」(課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか)を40%、「技術の習得」を20%として評価する。

予習復習時間

実技科目により、週1時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(本科目の目的など)
- 第2回 バス技術の習得1(オーバーハンドパス、アンダーハンドパスなど)
- 第3回 バス技術の習得2(打ち込みパス、三角パスなど)
- 第4回 サーブ技術の習得(フローターサーブ、サイドハンドサーブなど)
- 第5回 レシーブ技術の習得1(スパイクレシーブ、対人レシーブなど)
- 第6回 レシーブ技術の習得2(3人組対人レシーブなど)
- 第7回 スパイク技術の習得(助走、投げ上げキャッチ、直上トスなど)
- 第8回 チームオフENSEの理解(レシーブからのトスアップなど)
- 第9回 チームディフェンスの理解(4人でのサーブレシーブなど)
- 第10回 リーグ戦1(個人技能の発揮を意識して)
- 第11回 リーグ戦2(チームメイトとのコミュニケーションを意識して)
- 第12回 リーグ戦3(チームオフENSEを意識して)
- 第13回 リーグ戦4(チームディフェンスを意識して)
- 第14回 総括

オフィスアワー

月曜日、木曜日の昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

バレーボールの基本技術の習得を目指すとともに、ゲームに関するルールやマナーを学ぶ。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じて学生相互の理解や協調性の習得を目指す。履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記の計画は多少前後することや変更することもある。

関連科目

基礎体育(1)、応用体育(1)、応用体育(2)、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

服装は一般的な運動着を着用し、体育館専用シューズを着用すること。

初回の授業時に顔写真(縦4cm×横3cm)を持参すること。

教科書

なし

参考書

バレーボールの練習プログラム 福原祐三 大修館書店 1997 978-4469263701

学生へのメッセージ

チームを作成するため、欠席や遅刻はしないようにしてください。

その他・自由記述欄

授業に必要な資料等は随時配布します。

実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

基礎体育(2)

科目英名	Physical Education(2)
担当者	狩野 豊 <>
単位数	単位
開講時期	1年後期

科目概要

チームスポーツであるフットサルを題材として、体力の維持向上を養うとともに、集団の中で各々の役割を認識することによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とします。また、スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらいます。

Futsal is team sports and is suitable to develop a physical fitness and communicative competence. The purpose of this class is support a physical fitness and to promote sense of cooperation/sociability by recognizing each role among group.

達成目標

- ①フットサルの基本技術を習得する。
- ②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。
- ③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。

成績評価

出席状況、レポート、授業時の態度や積極性並びに技術能力を加味し、総合的に判断します。実技科目であるため、出席状況に重きを置きます。

予習復習時間

授業前日の体調管理に充分に配慮して下さい。

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨んで下さい。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション: 種目選択
- 第2回 体力測定
- 第3回 個人技能のレベルアップ
 - ・ボールコントロール、シュート、ドリブル、トラップ等
- 第4回 個人技能のレベルアップ
 - ・得意な技術を伸ばす
- 第5回 個人技能のレベルアップ
 - ・不得意な技術の修正
- 第6回 個人技能のレベルアップ
 - ・1対1の攻防、2対1の攻防
- 第7回 チームのレベルアップ
 - ・チーム分け
 - ・パス(敵なし・動きながらのパス)
 - ・パス(敵あり・ボールキープ)
- 第8回 チームのレベルアップ
 - ・2対2の攻防、3対3の攻防
- 第9回 チームのレベルアップ
 - ・グループでのボール保持及びボール奪取(3対1、4対1)
- 第10回 チームのレベルアップ
 - ・グループでのボール保持及びボール奪取(4対1、4対2)
- 第11回 チームのレベルアップ
 - ・ゾーンディフェンス
 - ・マンツーマンディフェンス
- 第12回 ゲームを楽しむ
 - ・ルールの確認
 - ・審判法
 - ・ゲーム形式の学習
- 第13回 ゲームを楽しむ
 - ・チーム戦術
 - ・ゲーム形式の学習
- 第14回 ゲームを楽しむ
 - ・リーグ戦によるゲーム

オフィスアワー

月曜日 昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

体力測定・フットサルを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えています。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解しましょう。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行いますので、上記の内容は多少前後します。

関連科目

基礎体育(1)、応用体育、生活と健康、アウトドアスポーツ

授業に持参するもの

授業時に必要な資料は随時プリントして配布します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

授業が楽しく展開できるように、仲間との交流や授業参加において、積極的な態度で臨んでもらいたい。前期に引き続き履修する学生は、個々の技能やチーム戦略のさらなる向上を目指して、高い目標を掲げてほしい。

その他・自由記述欄

教授要目

哲学(1)	
科目英名	Philosophy (1)
担当者	大野 晃徳 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要
「政治学」や「心理学」といった学問は、学問名自体が研究対象を大まかに指し示していますが、「哲学」はそうではありません（「哲学」の「哲」はけっして研究対象を示しているわけではない）。では、いったい哲学の「哲」は何を意味するのでしょうか。また哲学はそもそも何を研究する学問なのでしょうか。前期の哲学の講義では、この根本的な問いに対する答えを、西洋哲学の源流である古代ギリシャ思想に遡りつつ探り出してゆきます。

達成目標
哲学は本来、単なる知的な好奇心から生まれたものではないこと、また皆さんにとって無縁なものではなくむしろ身近なものだということを理解するのが目標となります。

成績評価
期末試験（60点満点。持込参照不可で行います）。小テスト（当日の講義の内容に関連したごく簡単な問題、ないしは諸君の考えを書いてもらう問題で、ノートを参考にしながら解答作成してもかまいません。一回あたり4点満点となり、原則として毎回実施します。また良い成績のものを10回分採用し、全部で40点満点となります）。

予習復習時間
予習は不要です。復習はノートの確認・整理で10分程度（課題等は出しません）。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

履修にあたって前提となる知識はありません。

授業計画
第 1 回 前期講義概要説明（哲学は何を論じる学問か）
第 2 回 「哲学」という言葉の由来
第 3 回 哲学の源流としての古代ギリシャ思想（ミレトス学派・ピュタゴラス）
第 4 回 『パイドロス』への着目
第 5 回 哲学誕生の背景としての古代ギリシャ思想（エレア学派・ヘラクレイトスなど）
第 6 回 哲学誕生の背景としての古代ギリシャ思想（デモクリトスなど）
第 7 回 ソフィストの登場と哲学の誕生
第 8 回 哲学のライバルとしての弁論術
第 9 回 真の意味での言論の技術
第10 回 書かれた言葉批判と哲学
第11 回 ソクラテスの弁明
第12 回 無知の知
第13 回 アリストテレスの哲学（存在としての存在に関する真理の探究）
第14 回 哲学の根本的特徴・まとめ

オフィスアワー
火曜日 12:20～13:10
火曜日 12:20～13:10 木曜日 12:20～13:20

授業形態
講義形式で行います
授業の具体的な進め方

教科書は使用せず、板書中心に行ってゆきます。

関連科目
倫理学
授業に持参するもの
教科書
参考書

パイドロス プラトン 岩波書店 1967 400336015X

学生へのメッセージ
たくさん話し、たくさん板書するので、授業中居眠りしている暇などないと思ってください。

その他・自由記述欄

哲学(2)	
科目英名	Philosophy (2)
担当者	大野 晃徳 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要
このシラバスを書いている「私」は「大野」ですが、だからといって「私」を「大野」と規定することはできません。そんなことをすれば、「(私」と自らを名指す人は何十億というため）世界は「大野」で溢れかえってしまうからです。では「私」とはどうとらえるべきなのでしょうか。後期の講義では、この問いに対する解答を、主にデカルトの思索を手掛かりにしながら探し求めてゆきます。

達成目標
「私」という存在の成り立ちや、事物の存在が思いのほか自明ではないこと、また確実な知識を広げてゆくには何が必要となるのかといった点について掘り下げて考え、理解することが目標となります。

成績評価
期末試験（60点満点。持込参照不可で行います）。小テスト（当日の講義の内容に関連したごく簡単な問題、ないしは諸君自身の考えを書いてもらう問題で、ノートを参照しながら解答を作成して構いません。一回あたり4点満点。原則として毎回実施したうえで、得点の高いものを10回分採用し、全部で40点満点となります）。

予習復習時間
予習は不要です。復習はノートの確認・整理で10分程度。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

履修にあたって前提となる知識はありません。

授業計画
第 1 回 後期講義概要説明（「私」という存在は謎めている）
第 2 回 デカルトについて
第 3 回 デカルト『省察』の内容検討（全てを疑うことを可能とする四つの根拠）
第 4 回 デカルト『省察』の内容検討（何のために全てを疑うのか）
第 5 回 デカルト『省察』の内容検討（方法的懐疑と懐疑論）
第 6 回 デカルト『省察』の内容検討（コギトの原理）
第 7 回 デカルト『省察』の内容検討（明証性の規則）
第 8 回 デカルト『省察』の内容検討（神の存在と誠実さの証明）
第 9 回 デカルト『省察』の内容検討（誤謬の原因）
第10 回 デカルト『省察』の内容検討（物質的事物の特徴）
第11 回 デカルト『省察』の内容検討（物質的事物の存在証明）
第12 回 デカルト的「私」とフロイト的「私」
第13 回 フロイト的観点からのデカルト批判
第14 回 鏡像段階に関するラカンの議論とそれを土台としたデカルト批判・まとめ

オフィスアワー
火曜 12:40～13:10 木曜 12:40～13:10
授業形態

講義形式で行います
授業の具体的な進め方

教科書は用いず、板書中心で行ってゆきます。

関連科目
倫理学、心理学
授業に持参するもの
教科書
参考書

世界の名著 27 巻 『デカルト』 中央公論新社 1978 4124006373

学生へのメッセージ
普段当たり前だと思ってることについて掘り下げて考える・・・というのは哲学の一つの特徴とも言えますが、この講義の中で皆さんにもそうした特徴を体感してもらえればと思います。

その他・自由記述欄

教授要目

倫理学(1)	
科目英名	Ethics (1)
担当者	山本 史華 <fyama(at)tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

倫理学は、哲学の一分野であり、人と人との間に生成する価値、規範、善悪などを考える学問である。

本講義では、倫理学の基礎となる、私と他者の問題、そして両者を架橋する言語の問題を中心に講義する。

達成目標

私の不思議、世界の不思議、言語の不思議を知ること。

他者の何を理解でき、何を理解できないかを考えること。

そして、この講義で述べられたことは本当に正しいのかを批判的に検討できるようになること。

成績評価

基本的にレポートの内容で評価する(レポート 100%)。

レポートの課題は二題から一題選択。一題は、下記の教科書の内容から取り上げる。

締め切りは厳守。締め切り後の提出は、原則認めない。

コピペ・無断引用のあるレポートは「不可」とする。

また、予告なしに数回出席をとる。

予習復習時間

教科書をよく読んで復習すること

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

特になし。

高校で「倫理」を履修していなくても大丈夫です。

授業計画

- 第 1 回 講義概要、履修する上での注意点やルール、単位取得についての説明
第 2 回 倫理学とはどういう学問か
第 3 回 私とは何か(1) デカルトのコギトから出発しよう
第 4 回 私とは何か(2) デカルト批判の検討
第 5 回 私とは何か(3) 寺山修司と谷川俊太郎の問題提起 存在と本質の違いについて
第 6 回 私とは何か(4) 私と世界の関係を考える
第 7 回 私とは何か(5) 唯一性と尊厳をめぐって
第 8 回 私とは何か(6) 他者なき世界
第 9 回 私とは何か(7) 独我論批判の検討
第 10 回 パーソンとは何か パーソン論をめぐって
第 11 回 言葉について(1) 意識から言語へ
第 12 回 言葉について(2) クオリア反転の思考実験
第 13 回 言葉について(3) 実体から関係へ
第 14 回 日本語はどのような言語なのか

オフィスアワー

月曜日 4 時限目

授業形態

教科書と配付資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

第 2 回から第 9 回までは教科書(『世界を読み解くリテラシー』)を使用する。

必ず教科書を用意すること。

第 10 回以降は適宜資料を配布する。

学生に質問を投げかけながら進めるので、積極的に参加すること。

授業計画の順序は入れ替えることがある。

関連科目

哲学(1)、哲学(2)、倫理学(2)

授業に持参するもの

教科書。配付資料。

教科書

世界を読み解くリテラシー 井上健・山本史華・中井洋史編 萌書房 2010

978-4-86065-054-4 「第 5 講」を使用

参考書

無私と人称 二人称生成の倫理へ 山本史華 東北大学出版会 2006 4861630231

学生へのメッセージ

学生とともに考え、対話する講義を目指します。

この趣旨に同意する学生を募集します。

その他・自由記述欄

倫理学(2)	
科目英名	Ethics (2)
担当者	山本 史華 <fyama(at)tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要

バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。

生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立する。

生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず、日常生活の中に置き直し、自らの問いとして考えてみよう。

達成目標

医学と医療の違いを理解し、生命医学倫理の諸問題に対して自分の意見をはっきりと述べられるようになること。

また、自分とは異なる見解に対しても正しく理解できるようになること。

成績評価

基本的にレポートの内容で評価する(レポート 100%)。

レポートの課題は二題から一題選択。

締め切りは厳守。締め切り後の提出は、原則認めない。

コピペ・無断引用があるレポートは「不可」とする。

また予告なしに数回出席をとる。

予習復習時間

教科書をよく読んで、復習すること。1 時限分の講義に対して 4 時間の自学自習が必要。

医学・医療のニュースに関心を持ち続け、講義内容と関連させて考えてみることに。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

「倫理学(1)」を履修していなくても問題ありません。

授業計画

- 第 1 回 講義概要、履修する上での注意点やルール、単位取得についての説明
第 2 回 日常のなかの生命倫理(講義の目的と方法論)
第 3 回 死ぬとはどういうことか(哲学・倫理学における死)
第 4 回 脳死に関するディベート
「脳死は人の死であるか否か」
第 5 回 死は果たして定義できるのか(三徴候死と脳死)
第 6 回 臓器、そして命はいったい誰のものなのかその(脳死臓器移植 その 1)
第 7 回 誰かの不幸を待ち望むことは正当化されるのか(脳死臓器移植 その 2)
第 8 回 なぜ死に急ぐのか(安楽死・尊厳死)
第 9 回 自分の遺伝子を残すことになぜこだわるのか(生殖補助医療技術・代理出産)
第 10 回 自己決定すれば、それでいいのか(インフォームド・コンセント、生命倫理四原則)
第 11 回 誰の幸せが問題なのか、不幸なのは誰か(出生前診断、優生思想)
第 12 回 人体実験はどこまで許されるのか(医学と医療の区別)
第 13 回 偶然性を飼いつづけることはできるのか(臨床研究の方法と限界)
第 14 回 希釈された危険性をどのように扱えばよいのか(低線量被曝)

オフィスアワー

火曜日 3 時限目

授業形態

教科書に基づく講義とディベート

授業の具体的な進め方

教科書を用意すること。

学生に質問を投げかけながら進める。積極的に参加すること。

各回の順序と内容は変更することがある。

ディベートでは、原則、出席者全員に発言してもらう。

関連科目

倫理学(1)、哲学(1)、哲学(2)

授業に持参するもの

教科書、配付資料

教科書

日常のなかの生命倫理(仮) 山本史華 梓出版社 2016 2016 年夏発売予定

参考書

学生へのメッセージ

現在、教科書を執筆中です。シラバスの授業計画はあくまでも予定とと考えてください。変更がある場合、初回の講義で正式な授業計画をお知らせします。

その他・自由記述欄

教授要目

倫理学	
科目英名	Ethics
担当者	矢島 壮平 <syajima@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

古来、哲学者たちは「善／悪とは何か?」、「いかに行為すべきか?」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、私たちが生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文脈においてこうした問題が問われるようになってきた。こうした時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、その下位領域としての環境倫理学と情報倫理学を扱う。

Philosophers have been considering ethical or moral questions like “What is good/bad?” or “How should we act?” from the ancient times. More or less, we cannot help but asking such questions in our daily lives. In recent years, however, such questions have been asked in highly branched and specialized contexts because of the development of science and technology. In response to this calling of time, an academic discipline called applied ethics has been emerging. In this course, its subfields of environmental and information ethics will be lectured.

達成目標

- (1) 倫理学の基礎知識を身につける。
- (2) 環境や情報分野において、どのような倫理的問題があるのかを理解する。
- (3) (2)で理解した問題について、自ら思考して解決策を模索できる。

成績評価

試験 (100%)

予習復習時間

復習に1時間

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

特になし。

授業計画

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 情報倫理学
- 第 3 回 コンピューターとインターネットの歴史
- 第 4 回 インターネットの倫理
- 第 5 回 プライバシー、監視と自由
- 第 6 回 著作権
- 第 7 回 情報公開と機密情報
- 第 8 回 環境倫理学
- 第 9 回 環境史
- 第10回 保全保存論争
- 第11回 自然保護と生物多様性
- 第12回 生態系と倫理学
- 第13回 動物解放論
- 第14回 まとめ

オフィスアワー

事前に連絡があれば授業後に対応します。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

前半は情報倫理学、後半は環境倫理学を扱います。授業はパワーポイントや配布資料をもとに進めます。

関連科目

授業に持参するもの

配布資料

教科書

使用しません。配布資料を用います。

参考書

必要に応じて授業中適宜指示します。

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

文化人類学	
科目英名	Cultural Anthropology
担当者	鈴木 洋平 <bunwak@nifty.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年集中 (後期)

科目概要

文化人類学は文化を「ものさし」としながら、人類が持つ共通点と差異を見出そうとしてきました。本授業では人類学者の視点の取り方を、誤解や思い込みをも含んだ形で映像、文章などを通して追体験していくことで、人類学という学問の歩みとともに踏み固めるとともに、現代人類学の模索にまで踏み込んでみたいと思います。

達成目標

- (1) 文化人類学が議論を重ねてきた各種理論に触れる
- (2) 文化についての様々な視点の取り方を体験する
- (3) 文化の中にある存在としての自己を見出す

成績評価

四日間の授業内課題 (60%) と、最終日の最終試験 (40%) で評価。
そのほか、任意の追加レポート (20~30%程度) を用意しています。

予習復習時間

一日十分程度、自分の専門以外のニュースや時事に注目する時間を取るのが予習。
授業で習った観点から、予習で見た題材を別の観点から見ようと十分程度試みるのが復習。
継続的に行うことで、授業効果が高まるとともに、世界への視線が養えます。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

特にありませんが、自分と異なる意見を聞く度量を持つことで、授業をより楽しめるかと思えます。

授業計画

- 第 1 回 導入1: 「文化」「人類」学とは?
- 第 2 回 「文化人類学」の辞書的定義と今: 視線は社会の中? 外?
- 第 3 回 進化主義: 人類学の初期衝動①文明も文化も「進化」するのか?
- 第 4 回 伝播主義: 人類学の初期衝動②文化はどこから来た?
- 第 5 回 導入2: 「なんでも見てやろう」の時代へ
- 第 6 回 機能主義: 「ワケのわからないもの」にこそ「ワケ」がある
- 第 7 回 構造機能主義: 社会は親族からできている
- 第 8 回 新進化主義: その「進化」に基準はあるか?
- 第 9 回 導入3: 人類学華やかかなりし? 頃
- 第10回 構造主義: 「冷たい社会」の熱い血潮
- 第11回 「巨人」クロード・レヴィ=ストロース: 関係の網の目が見えますか?
- 第12回 導入4: 反省と混乱の中で
- 第13回 文化を書く: 文化を書く権利は、誰にある?
- 第14回 まとめと、そのあとで: 人間としてのあなたが、文化の中で生き続けるということ

オフィスアワー

授業後には時間を空けておきますので、つかまえて質問してください。他の時間は連絡あれば対応します。

授業形態

講義と、講義内容に合わせた実習を行います。

授業の具体的な進め方

授業は講義時間と、講義内容に合わせた実習の時間に分かれます。
実習は参加者数名ごとに班に分かれて討論しつつ、回答を作成していきます。
(班区分、具体的内容説明などは授業時に行います)

関連科目

民俗学

より「日本の中の自分」に注目しています。文化人類学との視点の違いを楽しむのも意義があると思います。

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

もしも、これを読んでいるあなたが人類ならば、おおむね人類学に触れてみることに損はないかと思えます
(もしも人類でないならば、それはそれで人類理解のために意義があることでしょう)。
演習重視の講義ですので、お互いに不幸な関係にならないために、積極的に楽しんでみてください。

その他・自由記述欄

教授要目

視覚芸術史(1)	
科目英名	History of Visual Arts (1)
担当者	岡山 理香 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要
絵画と彫刻が美術の全てではない。建築やデザインも美術の範疇に含まれる。厳密に美術の範囲を規定することにそれほど意味はない。しかし「芸術とは何か」という問いには、真摯に向き合わなければならない。本講義はこうした姿勢を培うことを目的とする。
達成目標
産業革命以降から 20 世紀初頭のヨーロッパにおける視覚芸術の変遷を理解する。 また、それらの日本への影響、日本からの影響を理解する。 多様な価値観の存在を知り、思考の柔軟性を培う。
成績評価
毎時間のレポート（50%）と学期末テスト（50%）による総合評価
予習復習時間
講義中にとったメモをきちんとノートにまとめること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
必ずノートを作成すること。期間中、一度は美術館へ行くこと。
授業計画
第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 アーツ・アンド・クラフツ・ムーヴメント（1）：ウィリアム・モリス
第 3 回 "（2）：アーサー・マクマード
第 4 回 ラファエル前派
第 5 回 アール・ヌーヴォーのクラフト（1）：エミール・ガレ
第 6 回 "（2）：ナンシー派
第 7 回 アール・ヌーヴォーのグラフィック（1）：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
第 8 回 " のグラフィック（2）：アルフォンス・ミュシャ
第 9 回 アール・ヌーヴォーの建築（1）：エクトル・ギマル
第 10 回 アール・ヌーヴォーの建築（2）：アントニ・ガウディ
第 11 回 アール・ヌーヴォーの建築（3）：チャールズ・レニー・マッキントッシュ
第 12 回 ウィーン世紀末（1）：ウィーン分離派
第 13 回 "（2）：オットー・ワグナー
第 14 回 "（3）：アドルフ・ロース
オフィスアワー
水曜日 14：00～17：00
授業形態
講義形式
授業の具体的な進め方
プロジェクターで映した画像（絵画、彫刻、建築、工業製品など）について、解説を行なう。受講者は、口述筆記を行なうこと。
関連科目
デザイン概論（1）（2） 視覚文化ゼミナール
授業に持参するもの
教科書
参考書
世界を読み解くリテラシー 萌書房 2010 9784860650544
美術の理論 武蔵野美術大学 2002
現代芸術論 2002 4901631136
西洋美術史 美術出版社 1990 9784568400649
学生へのメッセージ
建築や自動車、車両といったプロダクト・デザインを学ぶ上で、重要な内容を持っています。
ぜひ、美術館へも足を運んでみて下さい。展示されている作品はもちろん、美術館の建築自体も興味深いものがたくさんあります。
その他・自由記述欄

視覚芸術史(2)	
科目英名	History of Visual Arts (2)
担当者	岡山 理香 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要
17 世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義」がはじまり、それによって 18 世紀の産業革命が起こり、芸術の分野がそれを自覚するのは 19 世紀の半ばといわれている。新しい絵画は印象主義より始まる。本講義では、印象主義以降の絵画、建築、デザインを扱う。
達成目標
印象主義以降の絵画の歴史の変遷を理解する。それらと建築、デザインの関係を理解する。もっとも重要なことは、近代主義とは何かを考える知識、回路、方法論を身につける。
成績評価
毎時間のレポート（50%）とテスト（50%）による総合評価
予習復習時間
講義中にとったメモをきちんとまとめること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
必ずノートを作成すること。期間中、一度は美術館へ行くこと。
授業計画
第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 新古典主義の絵画、彫刻
第 3 回 ロマン主義の絵画、彫刻
第 4 回 印象主義へ：エドワード・マネ
第 5 回 印象主義の絵画（1）：クロード・モネ
第 6 回 印象主義の絵画（2）：オーギュスト・ルノワール
第 7 回 印象主義の彫刻：オーギュスト・ロダン
第 8 回 後期印象主義の絵画：ゴッホ、ゴーギャン
第 9 回 新印象主義の絵画
第 10 回 イタリア未来派
第 11 回 構成主義と新造形主義
第 12 回 アール・デコのクラフト：ルネ・ラリック
第 13 回 アール・デコのグラフィック：カッサンドル
第 14 回 アール・デコの建築
オフィスアワー
水曜日 14：00～17：00
授業形態
講義形式
授業の具体的な進め方
プロジェクターで映した画像について、解説する。受講者は、口述筆記を行なうこと。
関連科目
デザイン概論（1）（2） 視覚文化ゼミナール
授業に持参するもの
教科書
参考書
世界を読み解くリテラシー 萌書房 2010 9784860650544
美術の理論 武蔵野美術大学 2002
現代芸術論 2002 4901631136
西洋美術史 美術出版社 1990 9784568400649
学生へのメッセージ
絵画や彫刻を学問の対象とすることで、さまざまな価値観や方法論が存在することを知ってほしいと思います。
ぜひ、美術館へ足を運んでみて下さい。展示作品はもちろん、美術館の建築自体も興味深いものがたくさんあります。
その他・自由記述欄

教授要目

文学	
科目英名	Literature
担当者	秋山 義典 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本授業では英国と米国の代表的な文学作品を紹介しながら、その根底にある物語のあり方を検討する。古代の神話や民話の主人公にも共通するよく利用される物語の枠組みに着目する。ルネッサンス時代の演劇作品から 19 世紀、20 世紀初頭へと歴史の流れの中で人間は何を考え、いかに行動して世界を変えたのか。映像と資料を使いながら、現代に生きる私たちの視点から考察を行う。

達成目標

1. 世界の古典的な文学作品を取り上げて、物語の着眼点を紹介する。登場人物、時代背景、人間の掟の在り方、時代の人間関係、パラダイムなどに注目する。一見すると複雑な物語世界であるが、複雑な筋を整理して理解する。

2. ひとりひとりで異なる見方がある一方、共通する視点も重要である。授業の中でその文学の「発見力」を養成する。

成績評価

授業への貢献+毎回のリスポンス 30% 課題レポート 70%

予習復習時間

岩波文庫などで作品に直接あたり、読んでみる。ネットなどで調べてあらすじを読むこと。1 時限授業につき、4 時間の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

1. 授業を欠席すると物語の重要な点が分からなくなり、講義の理解に支障が生まれてくるので、毎回の出席が求められる。

2. 人間の存在には合理的な面と不合理な面があり、そういう矛盾のなかで世界や社会が作られている点を受け入れることができること。

授業計画

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 ウィリアム・シェイクスピア『ハムレット』前半 ハムレットはなぜ悩むのか。シェイクスピア劇の謎を解く

第 3 回 ウィリアム・シェイクスピア『ハムレット』後半

第 4 回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』前半 ヒースクリフの復讐とその達成感指数

第 5 回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』後半

第 6 回 ジェーン・オースチン『分別と多感』前半 女性の人生には結婚が唯一の方法なのか。

第 7 回 ジェーン・オースチン『分別と多感』後半

第 8 回 プラム・ストーカー『ドラキュラ』前半 19 世紀後半の最新テクノロジーと東欧の信仰世界

第 9 回 プラム・ストーカー『ドラキュラ』後半

第 10 回 ジョン・アーヴィング『サイダー・ハウス・ルール』前半 大人になることのむずかしさ

第 11 回 ジョン・アーヴィング『サイダー・ハウス・ルール』後半

第 12 回 カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』前半 自分たちは何のために生まれたのか、理解しようとするその苦しさについて

第 13 回 カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』後半

第 14 回 「文学」の総合レビュー

オフィスアワー

月曜日 16 時 45 分ー17 時 15 分

授業形態

講義形式とハンドアウト記入提出

授業の具体的な進め方

ハンドアウトを使って一つの作品を 2 回に分けて解説する。

各作品のストーリー展開を注意深く着目することが求められる。提出物を必ず出すこと。参加者の感想をもとに個人の考え方を紹介する。そのことで自己と他者の受け取り方の相違を感じ取ることで、文学の深い世界を体験する。映像資料を活用しながら、ストーリー展開を重視し、登場人物の固有名詞などを整理する。

関連科目

「映画で学ぶ英語」「音楽で学ぶ英語」

授業に持参するもの

毎回利用するハンドアウト

教科書

参考書

教養のための想像力 N. フライ 太陽社 978-4884680077

学生へのメッセージ

言語文化とは自分のイメージを作り、それを自己流に解釈し、内容をつかみ、比較したり、細部に注目することが大切である。

その他・自由記述欄

各作品は全体像をつかむために映像やネット動画などを利用することもある。ハンドアウトの提出を利用する。ハンドアウトの提出が重要である。欠席するとストーリーの進行(誰が犯人で、登場人物の名前など)に付いて行かれない恐れもあるので注意。

西洋史(1)	
科目英名	European History (1)
担当者	新保 良明 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

古代ローマから中世末期に至るまでの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に、各時代の社会状況を横軸に据えながら、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしなが、その背後に隠された時代状況を読み解く。

達成目標

古代ローマから中世末期に至るまでのヨーロッパ前近代社会の変化を多面的に学ぶ。

成績評価

試験の内容で評価する (試験 100%)

予習復習時間

1 回(100 分)の授業に対して、復習に重きを置いた 4 時間の自学自習が必要 (学則第 18 条に基づく)

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

各時代を大観する講義を展開するつもりであるが、高校世界史の授業内容を反復するわけではない。従って、可能ならば高校世界史の教科書を確認しつつ、履修する方が有益と思われる。

授業計画

第 1 回 オリエンテーション：小説『フランケンシュタイン』が伝える都市構造

第 2 回 古代ローマの皇帝権力と即位方法、死後裁判

第 3 回 巨大帝国の「小さな政府」と都市の自治

第 4 回 キリスト教の成立と迫害原因

第 5 回 ゲルマン民族大移動とローマ帝国没落原因論、イスラーム勢力の侵入と第 2 次民族移動

第 6 回 グリム童話『長靴を履いた猫』から読み解くヨーロッパ封建社会の仕組み

第 7 回 キリスト教化のための妥協と方策、キリスト教の女性観 (イヴとマリア)

第 8 回 11 世紀以降のヨーロッパの変化：領域的拡大と中世都市の成長

第 9 回 グリム童話『ハーメルンの笛吹き男』から読み解く中世都市のギルドと自治

第 10 回 農業システムの改良と「肉食」の思想

第 11 回 映画『薔薇の名前』から読み解く教会と修道院 一祈りと「時間」ー

第 12 回 「大学」の誕生と教養科目

第 13 回 封建制の危機と教会大分裂

第 14 回 ヨーロッパの動物裁判

オフィスアワー

木曜日の昼休み

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

必要に応じて資料を配付しながら、講義形式を採る

関連科目

できれば「西洋史(2)」も合わせて受講してもらとう、理解が深まると思われる。

授業に持参するもの

特になし

教科書

なし

参考書

大学で学ぶ西洋史 [古代・中世] 服部良久など ミネルヴァ書房 2006 年 4-623-04592-7

学生へのメッセージ

高校時代に学んだ「世界史 A」または「世界史 B」の教科書的な内容をベースにしなが、関連する事象を積極的に取り上げる。従って、講義では、高校世界史の枠組みを最低限、再確認した上で、『グリム童話』などを題材にしなが、世界史の教科書にはなかった角度から、西洋史を改めて読み解いていきたい。これにより、歴史の醍醐味や面白さに触れてくれれば、うれしく思う。

その他・自由記述欄

教授要目

西洋史(2)	
科目英名	European History (2)
担当者	新保 良明 <
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要
ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャーなど日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係も読み解く。
達成目標
ルネサンス以降の近世・近代ヨーロッパ社会の変化を多面的に学ぶ。
成績評価
試験の内容で評価する（試験100％）
予習復習時間
1回（100分）の授業に対して、復習に重きを置いた4時間の自学自習が必要（学則第18条に基づく）
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
各時代を大観する講義を展開するつもりであるが、高校世界史の授業内容を反復するわけではない。従って、可能ならば、高校世界史の教科書を復習しつつ、履修の方が有益と思われる。
授業計画
第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 ルネサンスと社会変容 一衣・食・マナー
第 3 回 宗教改革と対抗宗教改革、シェークスピア『ヴェニスの商人』から読み解くユダヤ人問題
第 4 回 「大航海時代」の幕開けとイギリス東インド会社、オランダ東インド会社
第 5 回 ジェントルマンと大都会ロンドンの誕生
第 6 回 主権国家体制の成立と戦争・戦術の変化 一絶対王政への道
第 7 回 二重革命の時代①：フランス革命と国民国家への道
第 8 回 二重革命の時代②：イギリスの産業革命、農業革命、交通革命
第 9 回 イギリスの生活革命①：「聖月曜日」問題とレジャーの誕生
第10回 イギリスの生活革命②：コーヒーと茶と砂糖 一ノンアルコール飲料の流行
第11回 近代ヨーロッパにおける「病気」意識と衛生観念の発生
第12回 19世紀におけるミドルクラスの台頭と女性観の変化
第13回 19世紀末の第二次産業革命と帝国主義、ナショナリズム 一ロンドンのミュージック・ホールと労働者
第14回 ワイマール憲法とヒトラー政権
オフィスアワー
木曜日の昼休み
授業形態
講義形式
授業の具体的な進め方
必要に応じて資料を配付しながら、講義形式を採る
関連科目
できれば、「西洋史（1）」も受講してもらいたい。一貫性が保たれるので。
授業に持参するもの
特になし
教科書
なし
参考書
大学で学ぶ西洋史〔近現代〕 小山哲など ミネルヴァ書房 2011年 9784623059386
学生へのメッセージ
高校時代に学んだ「世界史A」または「世界史B」の教科書的な内容をベースにしながら、関連する事象を積極的に取り上げる。従って、講義では、高校世界史の枠組みを最低限、再確認した上で、コーヒー・紅茶・砂糖などの嗜好品やスポーツ、旅行などといった現在につながる事象のルーツを問いながら、幅広い授業を組み立てたい。
その他・自由記述欄

民俗学	
科目英名	Folklore Studies
担当者	鈴木 洋平 <bunwak@nifty.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要
「一日・一年・一生」の民俗学
日本民俗学は日本という地域を主な対象に、人々の生活を大きなスパンで眺めてきました。その中で、特に大事にしてきたのが日常、つまり「当たり前の生活」でした。本科目では、人々の生活感覚に繋がる二つの異なる時間幅である「一日」「一年」を軸に、民俗学が注目してきた人々の「当たり前の生活」を紹介します。かつての生活と学生の皆さん自身の現在を、もう一つの時間軸である「一生」に繋げることを目的に理解を深めていきます。
達成目標
（1）日本の民俗の多様さを、各種の事例から把握する （2）日本民俗学が注目してきた問題を、歴史的背景を含め理解する （3）学生が自分自身の日常を客観視する （4）日本民俗学が対象としてきた社会と、学生自身が生きる現在を比較する
成績評価
各回授業時に出席する課題・演習を40%、期末試験を60%として評価します。
予習復習時間
民俗学においては、自己を理解する視線の醸成が非常に重要となります。予習と復習を兼ねる作業として、日々数分かけて自分の生活を客観視した記録を日記として付けるのが有効です。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特別なことはありませんが、予習復習と同様に、自分自身の生活に注目して記録する習慣を持っていると、より授業を楽しめるかと思います。
授業計画
第 1 回 はじめに 人生の中の民俗、民俗の中の人生
第 2 回 一日（1）朝 出会いの時間
第 3 回 一日（2）昼 労働と昼寝の時間
第 4 回 一日（3）夜① 集まる時間
第 5 回 一日（3）夜② 交わる時間
第 6 回 一日 まとめ 生活の中の変化
第 7 回 一日を終えて 民俗学から、柳田国男が見ようとしたもの
第 8 回 一年（1）春 終わり、始まり、望む季節
第 9 回 一年（2）夏 育ち、病む季節
第10回 一年（3）秋 ともに喜び、祭る季節
第11回 一年（4）冬 迎え、出ていく季節
第12回 一年 まとめ 繰り返す一年、繰り返せない一年
第13回 一日・一年から一生へ 世代を重ね、紡いでいくもの
第14回 一日・一年・一生 変わり続ける安定と、変わらない変化の中で
オフィスアワー
授業後などに連絡をもらえれば随時対応します。
授業形態
配付資料を中心とした講義と、各回の実習
授業の具体的な進め方
ガイダンス除く各回授業は、おおむねこのような構成になっています。
①各回導入 ②各回テーマに関する映像の鑑賞 ③一日・一年・一生に関わる各回テーマ（朝昼夜、春夏秋冬）の解説 ④各回テーマに関する映像を再見、内容解説 ⑤参加者個々人と各回テーマに関する小課題
関連科目
文化人類学
授業に持参するもの
教科書
参考書
学生へのメッセージ
民俗学は過去を土台に、未来へ向けて飛び上がるための学問だと考えます。皆さんがより高く飛ぶために、過去を踏み固める機会になれば幸いです。
その他・自由記述欄

教授要目

比較文化史	
科目英名	Comparative Cultural History
担当者	S・クレイネス <kraines@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

Large cities in Japan today look much like large cities in the US and Europe. There is no question that modern day Japan has been greatly influenced by the history and culture of the west. And in many regards, the resultant similarities are apparent. However, in the experience of this lecturer, at a fundamental level no two cultures are more different than Japan and the US. Based on that personal experience, this class will examine several aspects whereby the cultural history of Japan and the US differ and consider possible implications for the role of Japan in the future development of global society.

達成目標

1. An understanding of the fundamental similarities and differences between Japan and other globalized nations, beginning with the US
2. An understanding of how the particular cultural history of a nation affects that nation's response to current issues such as globalization and sustainability
3. An active curiosity in how Japan will interact with and possibly play a leading role in future global society

成績評価

participation in class discussions/presentations and a final short report to be written in English

予習復習時間

4時間

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Curiosity about the relationship of Japan with the rest of the world.

A desire to improve one's English communication ability.

A basic level of English communications skills is recommended.

授業計画

- 第 1 回 History and culture — historical and other factors that affect the culture of a nation
- 第 2 回 A factual comparison of similarities and differences between Japan and the other nations of the world
- 第 3 回 Self-introduction — why is this American studying engineering and information technologies in Japan?
- 第 4 回 Self-introduction continued — objective facts and personal observations regarding similarities and differences between Japan and the US
- 第 5 回 Student group presentations: what country is most similar to Japan and what country is most different? Why?
- 第 6 回 Student group presentations continued
- 第 7 回 Looking to the future — where is the culture and history of Japan and the other nations of the world heading? Are we on a sustainable path?
- Introduction to scenarios, forecasting and backcasting
- 第 8 回 What is globalization? Inevitable result of technological development and population growth, or intentional design of the US?
- 第 9 回 Ways in which the culture and history of different countries have affected (or not affected) the evolution of modern-day global society
- 第 10 回 Review of alternative scenarios for modern-day society — alternate realities (e.g. in literature and pop culture)
- 第 11 回 Student group presentations: what is your ideal future society?
- 第 12 回 Student group presentations continued
- 第 13 回 Topic review
- 第 14 回 Open discussion on the role of Japan and Japanese culture in the future of global society

オフィスアワー

木曜日の 14 時～15 時

授業形態

Lectures using slides and handouts

Class discussions and student group presentations

Topic reviews will be given at the end of each lecture in Japanese

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

Please join us — it will be fun! After all, what else do you have to do on a Friday evening?

その他・自由記述欄

宗教学	
科目英名	Religious Studies
担当者	長島 大輔 <dnagashi@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期前半

科目概要

宗教における儀礼、祈り、祭儀、巡礼、神話などの機能を学びつつ、三大一神教を中心に世界の主要な宗教の教義、思想、実践について学ぶ。また、宗教に関する国際問題について学び、現代社会における宗教の位置づけについて考える。

達成目標

- ①三大一神教を中心に世界の主要な宗教・宗派の基礎知識を身に付ける。また、宗教における儀礼、祈り、祭儀、巡礼、神話などの機能を理解する。
- ②今日の宗教を取り巻く様々な国際問題について知り、自身の考えを述べる事が出来るようになる。

成績評価

第 14 回講義で行われる筆記試験 75%、授業参加点・感想カード等 25%

予習復習時間

毎回、次週の講義資料を配布するので、次の講義までに目を通しておくこと (30 分程度)。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

宗教について、あるいは宗教に関する国際問題について、少しでも関心があること。世界史の基礎的知識があれば尚良い。

授業計画

- 第 1 回 なぜ、どうやって宗教を学ぶのか（講義の目的及び全体の構成について）
- 第 2 回 ユダヤ教・キリスト教・イスラーム①
- 第 3 回 三大一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の発生とその歴史的展開、教義、思想について（①～③）
- ・この回では、特にユダヤ教について学ぶ。
- 第 3 回 ユダヤ教・キリスト教・イスラーム②
- ・この回では特に、キリスト教について学ぶ。
- 第 4 回 ユダヤ教・キリスト教・イスラーム③
- ・この回では特に、イスラームについて学ぶ。
- 第 5 回 ユダヤ教・キリスト教・イスラーム④
- ・三大一神教の比較とまとめ（教義、儀礼、祭儀、巡礼などの比較）
- 第 6 回 アジアの諸宗教①
- ・ヒンドゥー教の教義と実践
- 第 7 回 アジアの諸宗教②
- ・仏教の教義と実践
- 第 8 回 無神論、前半のまとめ
- ・「無神論」、「理神論」、「不可知論」について
- 第 9 回 原理主義①
- ・興りと歴史的展開
- 第 10 回 原理主義②
- ・現代の原理主義（「イスラム原理主義」とは何か）
- 第 11 回 宗教と政治①
- ・宗教とナショナリズム
- 第 12 回 宗教と政治②
- ・宗教と戦争、暴力、テロリズム
- 第 13 回 宗教と政治③、後半のまとめ
- ・「宗教・宗派間対話」は可能か
- 第 14 回 試験、全体のまとめ

オフィスアワー

前期前半（授業開講期間）の火曜日と金曜日の 12:30～13:30（以下のメールアドレスでアポを取ればより確実です）

授業形態

配布資料とパワーポイントに基づく講義形式

授業の具体的な進め方

事前に配布する資料をあらかじめ読んでくることを前提に授業を進める。また必要に応じてパワーポイント、映像資料を使用する。また、受講者に適宜発言を求めたり、講義の内容を踏まえて感想カードを作成してもらったりする。

関連科目

授業に持参するもの

事前に配布された資料

教科書

参考書

岩波イスラーム辞典 岩波書店 2002 年 978-4000802017

岩波キリスト教辞典 岩波書店 2002 年 978-4000802024

現代宗教事典 2005 年 978-4335160370

宗教学入門 脇本平也 講談社学術文庫 1997 年 978-4061592940

地図で読む世界史 柴宜弘 実務教育出版 2015 年 978-4788911482

学生へのメッセージ

新聞やニュースなどで取り上げられる宗教に関わる問題に、是非関心を向けてみて下さい。講義で身につけた知識や考えが、これらの時事問題の理解にも多いに役立つと思います。また、どんな質問（論争！）も大歓迎です。遠慮せずに積極的に講師に疑問をぶつけて下さい。

その他・自由記述欄

教授要目

社会学(1)

科目英名	Sociology(1)
担当者	木村豊
単位数	2単位
開講時期	1年生前期後半

科目概要

社会の中で生きる私たちにとって、「社会」は聞き慣れた言葉であるが、それが何であるかを説明するのは難しい。社会学は、そのような掘みどころのない「社会」について記述・分析しようと試みる学問であり、そのためそれは、私たちがもっている社会への眼差しである「常識」について問い直すものとなる。そこで本授業では、まず「社会」を捉えるための基本概念について解説し、それから現代社会をめぐる多様なトピックを取り上げながら社会学的な検討を行っていく。

達成目標

①これまで社会学者がいかに「社会」を論じてきたのかについて学ぶことを通して、社会学の基礎的な考え方を身につける。②そのような社会学の手法を用いて、自らが生きる「社会」について社会学的に思考することを実践する。

成績評価

成績は、期末試験 60%、リアクションペーパー20%、授業出席・態度 20%で評価する。

予習復習時間

1回の授業に対して4時間の自学自習を必要とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 社会学的思考の方法：「社会」を見る眼
- 第 3 回 社会集団と社会的行為：相互行為と役割の形成
- 第 4 回 親密圏と公共圏：公共空間とプライバシー問題
- 第 5 回 イエと家族の社会学：近代家族の変容と無縁社会
- 第 6 回 子供と教育の社会学：子供の社会化と教育格差
- 第 7 回 性別と役割の社会学：ジェンダーとセクシャリティ
- 第 8 回 格差と階層の社会学：社会的排除と貧困問題
- 第 9 回 産業と労働の社会学：資本主義経済と労働の規範
- 第 10 回 文化と余暇の社会学：文化の享受と余暇の過ごし方
- 第 11 回 犯罪と逸脱の社会学：監視社会とリスクの管理
- 第 12 回 福祉とケアの社会学：専門職の専門性と当事者主権
- 第 13 回 生活と時間の社会学：クロックタイムと生活リズム
- 第 14 回 まとめ

オフィスアワー

授業時間の前後で対応する。

授業形態

講義形式で授業を進める。

授業の具体的な進め方

基本的には授業中に配布するプリントに沿って講義を進めるが、同時に授業の中で出席者に対して講義内容に関する積極的な発言を求め、その発言内容をもとに議論を展開することがある。また、毎回授業の中でリアクションペーパーを記入してもらうが、次の授業内でその記述内容を取り上げ、議論を展開することがある。

参考書

『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 有斐閣 2007 9784641053700
『社会学になにができるか』奥村隆（編） 八千代出版 1997 9784842910338
『ソシオロジカル・イマジネーション—問いかけとしての社会学』鈴木智之・澤井敦（編著） 八千代出版 1997 9784842910376

学生へのメッセージ

私たちが生きる「社会」の諸問題について関心を持って授業に参加してほしい。また、授業の中で出席者に対して発言を求めることがあるので、日頃からできるだけ新聞やニュースを見る習慣をつけ、近年の社会的な出来事について自分の意見を述べられるようにしてほしい。

その他・自由記述欄

出席者の関心や理解の状況に合わせて、授業の進度・内容について若干変更することができる。

社会学(2)

科目英名	Sociology(2)
担当者	木村豊
単位数	2単位
開講時期	1年生後期後半

科目概要

社会の中で生きる私たちにとって、「社会」は聞き慣れた言葉であるが、それが何であるかを説明するのは難しい。社会学は、そのような掘みどころのない「社会」について記述・分析しようと試みる学問であり、そのためそれは、私たちがもっている社会への眼差しである「常識」について問い直すものとなる。そこで本授業では、まず「社会」を捉えるための基本概念について解説し、それから現代社会をめぐる多様なトピックを取り上げながら社会学的な検討を行っていく。

達成目標

①これまで社会学者がいかに「社会」を論じてきたのかについて学ぶことを通して、社会学の基礎的な考え方を身につける。②そのような社会学の手法を用いて、自らが生きる「社会」について社会学的に思考することを実践する。

成績評価

成績は、期末試験 60%、リアクションペーパー20%、授業出席・態度 20%で評価する。

予習復習時間

1回の授業に対して4時間の自学自習を必要とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 社会学的調査の手法：量的調査と質的調査の立場
- 第 3 回 社会構造と社会変動：近代社会とポスト近代社会
- 第 4 回 近代化と個人化：個人の発達と人びとの「つながり」
- 第 5 回 都市と住民の社会学：コミュニティとネットワーク
- 第 6 回 地域と人口の社会学：過疎問題と地域おこし活動
- 第 7 回 空間と場所の社会学：場所の消費と空間の移動
- 第 8 回 記号と消費の社会学：マクドナルド化とブランド力
- 第 9 回 知識と情報の社会学：メディアとコミュニケーション
- 第 10 回 環境と技術の社会学：科学技術の進展と環境保全
- 第 11 回 国家と民族の社会学：グローバル化とエスニシティ
- 第 12 回 歴史と記憶の社会学：集合的記憶と歴史の創られ方
- 第 13 回 人生と自己の社会学：ライフコースと自己の物語
- 第 14 回 まとめ

オフィスアワー

授業時間の前後で対応する。

授業形態

講義形式で授業を進める。

授業の具体的な進め方

基本的には授業中に配布するプリントに沿って講義を進めるが、同時に授業の中で出席者に対して講義内容に関する積極的な発言を求め、その発言内容をもとに議論を展開することがある。また、毎回授業の中でリアクションペーパーを記入してもらうが、次の授業内でその記述内容を取り上げ、議論を展開することがある。

参考書

『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 有斐閣 2007 9784641053700
『社会学になにができるか』奥村隆（編） 八千代出版 1997 9784842910338
『ソシオロジカル・イマジネーション—問いかけとしての社会学』鈴木智之・澤井敦（編著） 八千代出版 1997 9784842910376

学生へのメッセージ

私たちが生きる「社会」の諸問題について関心を持って授業に参加してほしい。また、授業の中で出席者に対して発言を求めることがあるので、日頃からできるだけ新聞やニュースを見る習慣をつけ、近年の社会的な出来事について自分の意見を述べられるようにしてほしい。

その他・自由記述欄

出席者の関心や理解の状況に合わせて、授業の進度・内容について若干変更することができる。

教授要目

社会学入門	
科目英名	Introduction to Sociology
担当者	塚田 修一 < >
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのか。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。
この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。
特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

What is Sociology? What can Sociology show? This class focuses the fundamental thinking sand views of Sociology, giving many different topics.

達成目標
・社会学という学問のものの見方・考え方、そして研究対象としているものを理解してもらう。
・社会現象や社会問題に対してそれが何故、どのようにして成立しているのかを積極的に考えられる思考を養ってもらう。
成績評価
成績は、授業時のリアクションペーパーを 30%、学期末試験を 70% として評価する。 (ただし、受講生の様子を勘案して評価方法を変更することもある)
予習復習時間
1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要 (学則第 18 条に基づく)。
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
特になし。ただし、様々な文化や考え方を「知的に面白がれる感覚」を少しでも持っていることが望ましい。
授業計画

- 第 1 回 社会学への招待 社会とは何か、社会学とは何か
第 2 回 社会学の古典 M. Weber, E. Durkheim, G. Gimmel
第 3 回 時間① 円環時間と直線時間ーアイドルの「脱退」と「卒業」から考えるー
第 4 回 時間② 集合的記憶とノスタルジアー「ALWAYS 三丁目の夕日」と「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶモーレツ！ 大人帝国の逆襲」ー
第 5 回 空間① <渋谷>の形成と衰退ー広告が創る都市空間ー
第 6 回 空間② <郊外>の歴史と現在ー東急の郊外と西武の郊外ー
第 7 回 コミュニケーション① 「よいコミュニケーション」とは何か？
第 8 回 コミュニケーション② お笑い番組のコミュニケーションーボケとツッコミの変容ー
第 9 回 メディア① 「メディアはメッセージである」ーマクルーハンを読み直すー
第 10 回 メディア② インターネットと SNS
第 11 回 現代社会の社会学① 「自分探し」社会についてー「本当の自分」とは何だろうか？ー
第 12 回 現代社会の社会学② 現代文化のカルチュラル・スタディーズー特撮番組を素材に考えるー
第 13 回 「社会学」の総括
第 14 回 期末試験
オフィスアワー

授業の前後で対応する。
授業形態
担当者の講義のほか、具体的な文化テキストの視聴も織り交ぜつつ、授業を進めていく。また随時、受講者への発問も行う。
授業の具体的な進め方
・受講者には単に社会学の知識を習得してもらうのではなく、様々な思いや考えをめぐらせてもらう講義を行う。毎回講義内容の要となる点に関する質問や疑問を受講者に投げかけ、社会問題や事例、文化テキストを多く参照しながらそれらの説明をしていく。
・毎回講義内容に関する思いや考えについてリアクションペーパーを書いてもらい、次の講義のなかでそれらに添えていく。

関連科目
授業に持参するもの
特になし
教科書
参考書

社会学 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 有斐閣 2007 9784641053700
文化の社会学 佐藤健二・吉見俊哉編 有斐閣 2007 9784641122420
社会学の歴史 I 2014 9784641220393
失われざる十年の記憶 鈴木智之・西田善行編 青弓社 2012 9784787233424

学生へのメッセージ
知的方面への食欲さを持って、授業に参加してもらいたい。 また授業で紹介する文献にも積極的に目を通してほしい。 「単位の取りやすさ」のみを期待する者の受講は歓迎しない。
その他・自由記述欄

経済学(1)	
科目英名	Economics(1)
担当者	伊藤潤平
単位数	2 単位
開講時期	1 年生前期後半

科目概要
経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのミクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。
達成目標
ミクロ経済学の考え方に触れてもらい、経済学で用いる基本的なツールの使い方を覚えてもらいます。ニュースや新聞等で実際に起こっている経済事象に触れた際に、本科目で学習したことを役立てて欲しいと思います。経済用語を理解することと、授業の中盤以降は需要・供給曲線を用いた講義が中心になるので、需要と供給のメカニズムをしっかり把握してください。
成績評価
課題 20%、期末試験 80% 課題は不定期に 2〜3 回程度提出してもらう予定です。
予習復習時間
新聞、ニュース、経済誌等で実際に起こっている経済事象に関心をもってください。復習は配布したレジュメを見直して理解を深めてください。
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
特にありませんが、興味をもって受講してくれることを望みます。

授業計画
第 1 回 講義ガイダンス (授業概要、経済学とは)
第 2 回 経済学の視点、フロー循環図
第 3 回 生産可能性フロンティア、政策アドバイザーとしての経済学者
第 4 回 交易と生産可能性、特化
第 5 回 絶対優位、比較優位
第 6 回 市場と競争、需要曲線
第 7 回 需要曲線のシフト、供給曲線
第 8 回 均衡
第 9 回 弾力性
第 10 回 価格規制
第 11 回 税金
第 12 回 消費者、生産者、市場の効率性
第 13 回 外部性
第 14 回 税と効率・公平
オフィスアワー
特に設けません。質問等はメールにて問い合わせてください。

授業形態
講義形式
授業の具体的な進め方
パワーポイントによるスライドを使用して講義を行います。授業中に練習問題を解いてもらう時間をできるだけ作り、理解を深めてもらいます。練習問題を解いてもらった後は解説を行います。その際は黒板を使用することがあります。
関連科目
後期に担当する経済学 (2) では、マクロ経済学を学習していきます。
授業に持参するもの
筆記用具。レジュメを配るのでテキストは指定しませんが、マンキュー『入門経済学』をベースにレジュメを作成するので、適宜参考にしてください。

参考書
『入門経済学 (第 2 版)』N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2014 978-4492314432 『入門経済学 (第 4 版)』ジョセフ・E・スティグリッツ / カール・E・ウォルシュ 東洋経済新報社 2012 978-4492314197
学生へのメッセージ
馴染みのない学問領域である学生が多いと思いますが、興味のある方は積極的に参加してください。

教授要目

経済学(2)	
科目英名	Economics(2)
担当者	伊藤潤平
単位数	2 単位
開講時期	1 年生後期後半

科目概要

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのマクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

達成目標

マクロ経済学の考え方に触れてもらい、経済学で用いる基本的なツールの使い方を知ってもらいます。ニュースや新聞等で実際に起こっている経済事象に触れた際に、本科目で学習したことを役立てて欲しいと思います。経済指標や専門用語が多く出てくるのでしっかりと理解し、マクロ経済の仕組みを把握してください。

成績評価

課題 20%、期末試験 80%

課題は不定期に 2〜3 回程度提出してもらう予定です。

予習復習時間

新聞、ニュース、経済誌等で実際に起こっている経済事象に関心をもってください。復習は配布したレジュメを見直して理解を深めてください。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特にありませんが、興味をもって受講してくれることを望みます。

授業計画

- 第 1 回 講義ガイダンス（授業概要、経済学とは）
- 第 2 回 国内総生産
- 第 3 回 実質 GDP と名目 GDP
- 第 4 回 生計費の測定
- 第 5 回 生産性
- 第 6 回 成長
- 第 7 回 失業
- 第 8 回 金融システム
- 第 9 回 貯蓄、投資
- 第 10 回 貨幣システム
- 第 11 回 総需要と総供給
- 第 12 回 総需要曲線
- 第 13 回 総供給曲線
- 第 14 回 開放マクロ経済学

オフィスアワー

特に設けません。質問等はメールにて問い合わせてください。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

パワーポイントによるスライドを使用して講義を行います。授業中に練習問題を解いてもらう時間をできるだけ作り、理解を深めてもらいます。練習問題を解いてもらった後は解説を行います。その際は黒板を使用することがあります。

関連科目

前期に担当する経済学（1）では、ミクロ経済学を学習していきます。

授業に持参するもの

筆記用具。レジュメを配るのでテキストは指定しませんが、マンキュー『入門経済学』をベースにレジュメを作成するので、適宜参考にしてください。

参考書

- 『入門経済学（第 2 版）』N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2014 978-4492314432
- 『入門経済学（第 4 版）』ジョセフ・E・スティグリッツ / カール・E・ウォルシュ 東洋経済新報社 2012 978-4492314197

学生へのメッセージ

馴染みのない学問領域である学生が多いと思いますが、興味のある方は積極的に参加してください。

西洋経済史	
科目英名	Economic History
担当者	新保 良明 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

「大航海時代」を出発点にして、ヨーロッパとアメリカ大陸、アジアの経済的関係を概観した上で、産業革命の実態と社会的影響力、産業構造の転換、消費型社会の誕生、スタンダード・テクノロジーの登場、世界恐慌とニューディール政策などを講義する。

達成目標

「大航海時代」から「世界恐慌」までの世界経済の歴史的特徴を、欧米諸国を軸に大観する。

成績評価

試験の内容で評価する（試験 100%）

予習復習時間

1 回（100 分）の授業に対して、復習に重きを置いた 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし。ただし、世界史の基礎知識があった方が理解は深まると思われる。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 「大航海時代」とポルトガルのアジア進出
- 第 3 回 「コロンブスの交換」と世界商品
- 第 4 回 魚とヨーロッパ経済 ニニシンとタラから見たオランダの隆盛
- 第 5 回 オランダ東インド会社と東南アジア支配
- 第 6 回 イギリス東インド会社の設立とアジア進出
- 第 7 回 イギリスの産業革命、資本主義の構造、農業革命、「聖月曜日」問題
- 第 8 回 コーヒー、茶、砂糖を巡る世界交易の成立 ー世界システム論ー
- 第 9 回 デパートの誕生と消費型社会の誕生
- 第 10 回 スタンダード・テクノロジーの誕生
- 第 11 回 第二次産業革命とその影響
- 第 12 回 近代世界で鉄道が担った役割 ーアメリカ大陸横断鉄道とシベリア鉄道ー
- 第 13 回 世界恐慌とニューディール政策
- 第 14 回 まとめと試験

オフィスアワー

木曜日の昼休み

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

講義形式

関連科目

西洋史（2）

授業に持参するもの

特になし

教科書

なし

参考書

西洋経済史 奥西孝至など 有斐閣 2010 年 9784641124042

学生へのメッセージ

近世・近代の西洋史の経済的事象に着目して、「大航海時代」の到来から、アメリカ発の「世界恐慌」とそれへの対処法までを概観する。

その他・自由記述欄

教授要目

政治学(1)	
科目英名	Political Science (1)
担当者	森 達也 <tmori@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
政治とは、私たち自身が当事者であるさまざまな問題を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はそうした問題を理性的に考え、解決や判断を行うための道具箱であると同時に、政治それ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず、政治学の方法および基礎概念を簡潔に解説する。次に、現代政治学の基本問題のいくつかを取り上げ、その歴史的な経緯と現状を検討してゆく。
達成目標
政治学の基本的な考え方を理解する。自身の関心ある問題や身近にある問題を理解し、皆と議論するための知識と能力を養う。
成績評価
期末試験 70%
授業内課題 30%
予習復習時間
予習：教科書の次回講義内容に関する部分を講読する。 復習：講義後に疑問点などを整理して次回講義のコメントシートに反映させる。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
必須ではないが、高校の「政治・経済」を復習、または自己学習をしておくことが望ましい。
授業計画
第 1 回 講義概要説明とアンケート
第 2 回 政治と政治学
第 3 回 現代政治学の展開
第 4 回 さまざまな政治体制とその比較
第 5 回 政治制度（1）議会と内閣
第 6 回 政治制度（2）選挙と政党政治
第 7 回 政治過程（1）利益団体
第 8 回 政治過程（2）世論とマスメディア
第 9 回 政策決定論
第 10 回 政策実施論
第 11 回 映像から政治を考える
第 12 回 福祉国家の歴史と現状
第 13 回 比較福祉国家論
第 14 回 福祉国家の正当性
オフィスアワー
授業終了時
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
講義形式を基本とする。 必要に応じて時事問題を解説し、コメントシートまたはメールを用いた討論を行う。詳細は開講時に説明する。
関連科目
経済学、憲法、倫理学、国際関係論など
授業に持参するもの
教科書、配布プリント
教科書
現代政治学（第4版） 加茂利男ほか 有斐閣アルマ 2012 978-4-641-12455-4
参考書
学生へのメッセージ
政治の仕組みを知り、その上で日々の社会の出来事について考える一つの機会として活用してください。
その他・自由記述欄

政治学(2)	
科目英名	Political Science (2)
担当者	森 達也 <tmori@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要
哲学者たちは古来より政治という営みの本質について、またその在るべき姿について考察してきた。政治とは結局のところ権力者同志の闘争のことであるのか、それとも市民の自由な善き生が開花する場なのか。政府はどのような目的のもとで設立され、その権力行使の限界はどのように画定されるべきか。政治学の目的は、政治という人間の営為を分析・理解する一方で、政治の実実を変革する可能性を示すことにある。本講義は政治学の基本的諸問題を、それらの問題を提起した古典的文献の講読を通じて検討してゆく。時事的問題についても適宜取り上げ、コメントシートを用いて受講者と討論する。
達成目標
テキストを熟読し、各思想家が提示した問題を適切に把握する能力を養う。政治学の基本概念を用いて自己の意見を表明し、他者と議論できるようにする。
成績評価
期末試験 70%
授業内課題 30%
予習復習時間
予習：教科書の次回講義内容に関する部分を講読する。 復習：疑問点などを整理し、次回講義のコメントシートに反映させる。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
「政治学（1）」の講義内容を理解しておくことが望ましいが、必須ではない。
授業計画
第 1 回 講義概要説明とアンケート
第 2 回 ヴェーバー『職業としての政治』
第 3 回 プラトン『国家』
第 4 回 アリストテレス『アテナイ人の国制』／『政治学』
第 5 回 マキアヴェリ『君主論』／『ディスコルシ』
第 6 回 映像から政治を考える
第 7 回 ホッブズ『リヴァイアサン』
第 8 回 ロック『統治二論』／『寛容書簡』
第 9 回 モンテスキュー『法のスプリット』
第 10 回 ルソー『社会契約論』
第 11 回 アダム・スミス『国富論』
第 12 回 マルクス『共産党宣言』ほか
第 13 回 ハイエク『隷属への道』
第 14 回 ロールズ『正義論』
オフィスアワー
授業終了後
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
講義形式を基本とする。 必要に応じて時事問題を解説し、可能であればメールを用いた討論を行う。詳細は開講時に説明する。
関連科目
倫理学、憲法、社会学など
授業に持参するもの
教科書、配布プリント
教科書
政治学の名著 30 佐々木毅 筑摩書房 2007 978-4-480-06355-7
参考書
はじめて学ぶ政治学 岡崎晴輝ほか ミネルヴァ書房 2008 9784623050543
学生へのメッセージ
現代社会の諸問題を批判的に考える姿勢を身につけるための一つの機会として本講義を活用してください。
その他・自由記述欄

教授要目

行政史

科目英名	History of the Bureaucracy
担当者	井上 勇一 <inouye@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要

大日本帝国憲法から日本国憲法に変わることによって、内閣、議会、外交、防衛の各制度が、どのような理由からどのように変わったかについて講義する。

達成目標

大日本帝国憲法下および日本国憲法下における政治制度の違いから、日本が太平洋戦争にいたった制度的な原因について考える。

太平洋戦争原因論は、戦後 70 年を経ようとしている今日においても、依然として大きな研究課題であり、昨今の日韓関係や日中関係における「歴史認識」の問題にも、少なからず深い関係がある。

履修者には、本講義を、こうした現代の外交問題を考える際の足がかりにしてもらいたい。

成績評価

学期末試験により評価する。(試験結果が思わしくない履修者には追試を行うなど、履修者全員の合格を目指す。)

予習復習時間

学則第 18 条により、4 時間の自学自習 (近代日本をテーマにした一般図書の購読なども含む) が必要

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

下記参考書などを利用しつつ、日本近代史の流れ、あるいは関連する基礎的な知識について確認しておくことが望ましい。

授業計画

- 第 1 回 開講にあたって：国際化とは何か。日本人の国際意識、日本の行政制度における国際化について考えよう。
- 第 2 回 序論 (近代国家)：中世と近代はどこがちがう？ 近代の始まりはいつ？ 近代国家日本の誕生の原動力には、国際的なインパクトがあった？
- 第 3 回 内閣制度 I (内閣と天皇)：昭和天皇はご聖断によって終戦を決められたのに、日米開戦に反対できなかったのはなぜ？
- 第 4 回 内閣制度 II (内閣と国会)：大日本帝国憲法下でも、日本国憲法下でも、首相を任命するのは天皇。現在は、首相を指名するのは国会。では、大日本帝国憲法下で首相を指名したのは、誰？
- 第 5 回 内閣制度 III (総理と閣僚)：首相が閣僚に対する罷免権をもつのは当たり前？ しかし、大日本帝国憲法下では、首相は閣僚を罷免できたのか？
- 第 6 回 内閣制度 IV (行政機構と官僚制)：英米等各国には内務省が設置されているのに、日本では、戦後、内務省を廃止した。その理由は？
- 第 7 回 内閣制度 V (中央政府と都道府県)：日本では、どうして中央は地方より優位なのか？ 明治 4 年の廃藩置県において、沖縄県はどのような取り扱いを受けたか？
- 第 8 回 議会制度 I (貴族院と参議院)：戦前には、日本にも貴族制度があり、帝国議会には、上院として、貴族院があった！
- 第 9 回 議会制度 II (衆議院)：大日本帝国憲法下 (帝国議会) と日本国憲法下 (国会) の衆議院は、どこが違う？
- 第 10 回 外政機構 I (外交官の役割と在外公館の機能 I)：明治時代、外交官のことを外交官といったが、外交官の役割と在外公館の機能は？
- 第 11 回 外政機構 II (外務省組織と外港の一元化)：外務本省組織の局は、地域局と機能局に大別されるが、)：「二重外交の禁止」とか「外交は水際まで」といわれるが、「外交一元化」とはどういう意味？
- 第 12 回 防衛制度 I (統帥権の独立)：大日本帝国憲法下で、内閣が軍部の独走を止められなかったのはなぜ？
- 第 13 回 防衛制度 II (シビリアン・コントロール)：文民統制とはどういう意味か？ 戦後の自衛隊の発足と発展の中でシビリアン・コントロールはどのように護られてきたか。
- 第 14 回 まとめ (試験)

オフィスアワー

受講者からの申し込みがあれば、個々に対応するので、下記メールアドレスに連絡されたい。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

教科書は特に使用せず、パワー・ポイントにしたがって講義を進める。
また講義の中では、必要に応じて、参考図書ないし一般図書等を紹介する。
なお、使用したパワー・ポイントは、講義終了後、Web Class を通じて配付する。

関連科目

日本国憲法 (日本国憲法についての知識があることを前提に講義を行う。日本国憲法について興味のある者は、日本国憲法もあわせて履修することをお勧めする。)

また国際関係論 (井上担当) をあわせて履修すれば、明治維新から現在にいたる近代日本政治外交史を俯瞰することができる。

授業に持参するもの

教科書

参考書

日本政治史－外交と権力 北岡伸一 有斐閣 2011 9784641049932

学生へのメッセージ

近代日本政治外交史を、中学・高校までの日本史のような時系列的に講義するのではなく、政治制度の観点から現在とは異なる戦前の政治制度を切り口に、実際に起こった事件、事例を取り上げて解説する。

特に、政治制度面から見た太平洋戦争の原因については、高校で日本史を選択していない学生にも理解できるように解説する。

高校時代に「日本史」を履修しなかった学生には、日本近代史について学習する最後の機会になるので、この機会に日本人として知っておくべき最低限の知識を学んでほしい。

その他・自由記述欄

昨今、中国、韓国からの日本政府、日本国民の歴史観、認識に対する批判が強まっているが、歴史学者の間でも、両国との間では共通の認識が得られていないような状況にある。他方、我々一人一人も日本の歴史、特に近代史に関する事実関係を知っておくことは重要である。

このような問題意識をもって、講義に出席することを期待したい。

教授要目

国際関係論(1)	
科目英名	International Relations(1)
担当者	中山裕美
単位数	2 単位
開講時期	1 年生前期後半

科目概要

国家は政治や経済、安全保障などさまざまな領域において外国との間で互いに利害関係を調整し、複雑な国際関係を築いている。本講義では国際関係の歴史を振り返りながら、国家が果たす役割について理解し、国家を介して我々が国際社会といかに関わっているのかについて考察する。

また本講義では新聞記事やニュースで取り上げられた事件をとりあげながら、その背後にある国際関係をめぐる様々な問題についても解説する予定である。

達成目標

今日の我々の生活は、経済活動やエネルギーや資源、食糧などの様々なモノを介して、外国と密接なつながりを有している。本講義を介して、受講者が国際社会の一員としての国際的素養を習得し、国際問題に対する多角的視座が養われることを目的とする。

成績評価

期末試験(90%)＋平常点(10%)

予習復習時間

日常的にニュースを視聴したり新聞を購読したりして、さまざまな時事問題に対する見識を深めること。

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

世界で起こっている様々な出来事に対する探究心を持って講義に臨むこと。政治経済に関われない幅広い興味関心を持っているとなお良い。

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス：日本と国際社会をつなぐ
- 第 2 回 国家とは何か
- 第 3 回 国際関係の誕生
- 第 4 回 冷戦期の国際関係
- 第 5 回 冷戦後の国際関係
- 第 6 回 戦争はなぜ起こるのか
- 第 7 回 平和とは何か
- 第 8 回 国連平和維持活動と人道的介入
- 第 9 回 日本と国際関係(1)：PKO 協力法
- 第 10 回 核兵器をめぐる国際関係
- 第 11 回 テロとの戦いと国際社会
- 第 12 回 世界金融と国際関係
- 第 13 回 貿易の自由化
- 第 14 回 日本と国際関係(2)：TPP 参加交渉

オフィスアワー

毎回講義終了後、教室にて質問を受け付ける。

授業形態

配布資料に従って、パワーポイントを使いながら、講義を行う。

授業の具体的な進め方

- (1) 毎回の講義の冒頭で今週の国際関係ニュースと題し、講義内容に関連した時事問題を紹介・解説する。
- (2) 国際関係論に関連する諸概念を具体的な事件に当てはめながら説明する。
- (3) 内容の理解度促進とリフレッシュを兼ねて映像を視聴する予定である。
- (4) 内容に応じて学生が自分自身の考えを表明する機会を設ける(授業アンケートや質疑応答を通じて)。

国際関係論(2)	
科目英名	International Relations(2)
担当者	中山裕美
単位数	2 単位
開講時期	1 年生後期後半

科目概要

グローバリゼーションの進展は新たにトランスナショナルなアクターの登場を招き、従来の国家中心主義的な世界観を動揺させている。また、ヒトやモノが流動的に行き交う今日において、一国内の事象は国内にとどまらず世界的に拡散する可能性を秘めており、その解決のために国家の枠を越えた取り組みの必要性が提起されている。本講義では国家だけでなく、国際機関や民間団体、さらには個人がどのように地球規模の課題に向き合っているのかについて学んでいく。また本講義では新聞記事やニュースで取り上げられた事件をとりあげながら、その背後にある国際関係をめぐる様々な問題についても解説する予定である。

達成目標

今日の我々の生活は、経済活動やエネルギーや資源、食糧などの様々なモノを介して、外国と密接なつながりを有している。本講義を介して、受講者が国際社会が直面する諸課題に対する関心を深め、国際社会の一員として果たすべき役割について自ら考える機会を提供する。

成績評価

期末試験(90%)＋平常点(10%)

予習復習時間

日常的にニュースを視聴したり新聞を購読したりして、さまざまな時事問題に対する見識を深めること。

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

世界で起こっている様々な出来事に対する探究心を持って講義に臨むこと。政治経済に関われない幅広い興味関心を持っているとなお良い。

授業計画

- 第 1 回 グローバル化する諸問題
- 第 2 回 グローバリゼーションとはなにか
- 第 3 回 グローバリゼーションを理解するための国際関係理論
- 第 4 回 多様化するアクター
- 第 5 回 民主化デモはなぜ世界中でおきるのか
- 第 6 回 内戦は世界とどう関わっているか
- 第 7 回 グローバルな現象に翻弄される人々：難民について考える
- 第 8 回 グローバルな現象に翻弄される人々：移民について考える
- 第 9 回 グローバル化の中の途上国経済
- 第 10 回 途上国の貧困と向き合う
- 第 11 回 多国籍企業の役割
- 第 12 回 地域統合とグローバリゼーション
- 第 13 回 地球環境問題とグローバルガバナンス
- 第 14 回 グローバル社会に生きる

オフィスアワー

毎回講義終了後、教室にて質問を受け付ける。

授業形態

配布資料に従って、パワーポイントを使いながら、講義を行う。

授業の具体的な進め方

- (1) 毎回の講義の冒頭で今週の国際関係ニュースと題し、講義内容に関連した時事問題を紹介・解説する。
- (2) 国際関係論に関連する諸概念を具体的な事件に当てはめながら説明する。
- (3) 内容の理解度促進とリフレッシュを兼ねて映像を視聴する予定である。
- (4) 内容に応じて学生が自分自身の考えを表明する機会を設ける(授業アンケートや質疑応答を通じて)。

教授要目

法と市民(憲法を含む)	
科目英名	Law, Constitution and Citizen
担当者	大沼 友紀恵 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

法治国家という現代社会の中で、われわれは権利・義務の主体として生活している。そして、この法治国家を形づくる各種法体系の頂点に位置する法律が憲法である。本講義では、日本国憲法の内容や特色の解説を中心としながら、われわれの市民生活と法の関係のあり方について概説する。

What is "Civil Right" – In this course, we are going to study the notion, sources and common senses of law and constitution.

達成目標

日本の統治機構のシステムと人権保障がどのような内容かという点について、一般的な常識を身に付けることを目標とする。

成績評価

期末試験を 100%として評価する。

予習復習時間

1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

日頃からメディア等での裁判報道に関心を持ってもらいたい。

授業計画

- 第 1 回 法の目的・正義とは何か
- 第 2 回 憲法の特徴・憲法の歴史
- 第 3 回 国民主権 - 国民主権の意味・天皇制 -
- 第 4 回 平和主義・戦争の放棄・戦力の不保持と自衛権 -
- 第 5 回 立法機関・権力分立の意味・国会の権能 -
- 第 6 回 行政機関・議院内閣制・内閣の組織・内閣の権能・内閣の責任 -
- 第 7 回 司法機関と地方自治 - 司法権の独立・地方自治の意義 -
- 第 8 回 財政・課税権・予算・決算・予備費 -
- 第 9 回 人権の基本原理解 - 人権の特徴・人権の享有主体 -
- 第 10 回 包括的基本権・新しい人権・平等権
- 第 11 回 精神的自由権 - 内心の自由・表現の自由 -
- 第 12 回 経済的自由権 - 職業選択の自由・居住移転の自由・財産権の保障 -
- 第 13 回 身体的自由権・受益権・参政権
- 第 14 回 社会権 - 生存権・教育権・勤労権・労働基本権・環境権 -

オフィスアワー

授業開始時に指示する

授業形態

重要なポイントを書き出しながらの講義形式で行う。

授業の具体的な進め方

毎回、テーマに沿って重要なポイントを書き出しながら解説を行うスタイルで進めていく。

関連科目

授業に持参するもの

ノート・筆記用具

教科書

参考書

学生へのメッセージ

筆記事項が多いので、いろいろと工夫をして臨んでほしい。

その他・自由記述欄

法学	
科目英名	Jurisprudence
担当者	大沼 友紀恵 <onumay@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

本講義では、法学についての基礎的なことがら概観したうえで、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず、民法の歴史および構造を概観したうえで、個別のルール（総則、物権、債権総論、契約）について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

達成目標

- (1) 民法典の歴史および構造について理解する
- (2) 民法のルールについての基礎的な理解をする
- (3) 具体的な事例を法的な観点から説明できるようにする

成績評価

学期末試験（100%）によって評価する。

予習復習時間

1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特に指定しない

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 法の分類
- 第 3 回 法源（1）制定法、意思表示
- 第 4 回 法源（2）慣習、判例、条理
- 第 5 回 民法と民法典
- 第 6 回 権利と義務
- 第 7 回 契約・法律行為
- 第 8 回 権利能力・意思能力
- 第 9 回 行為能力
- 第 10 回 代理
- 第 11 回 時効
- 第 12 回 事例検討
- 第 13 回 まとめ
- 第 14 回 試験および解説

オフィスアワー

木曜 13:40～14:20 必須ではありませんが、事前にメールで予約してもらえれば確実です。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

基本的に講義形式で行うが、出席者に発言を求める場合もある。出席者は、きちんとノートをとること、積極的に授業に参加することが期待される。随時、小テストを実施する。これは、早期に理解の不十分な点を把握し、復習に役立ててもらうことを目的とするので、結果は成績評価の対象としない。

関連科目

民法

授業に持参するもの

教科書および小型の「六法」

教科書

民法入門（第 6 版） 野村豊弘 有斐閣 2014 年

参考書

新版 注釈民法（1）～（17） 谷口知平ほか 有斐閣 4641017441

ウォーミングアップ法学 石山文彦編 ナカニシヤ出版 9784779504525

民法 I 第 4 版 9784130323512

学生へのメッセージ

理解の不十分な点は、そのままにせず、速やかに復習すること。

その他・自由記述欄

状況により、順番・内容を変更する場合がある。

教授要目

民法	
科目英名	Civil Law
担当者	大沼 友紀恵 <onumay@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要
本講義では、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。具体的には、債権総論、物権、親族、相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。
達成目標
(1) 民法のルールについての基礎的な理解をする (2) 具体的な事例を法的な観点から説明できるようにする
成績評価
学期末試験（100％）によって評価する。
予習復習時間
1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
法学の単位を取得済みであるか、同等の知識があることが望ましいが、必須ではない。
授業計画
第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 民法概論 第 3 回 契約の成立 第 4 回 契約の効果 第 5 回 契約の履行 第 6 回 契約の不履行 第 7 回 所有権 第 8 回 不法行為 第 9 回 家族 第 10 回 親子・扶養 第 11 回 相続、遺言 第 12 回 事例検討 第 13 回 まとめ 第 14 回 試験および解説
オフィスアワー
木曜 13：40～14：20 必須ではありませんが、事前にメールで予約してもらえれば確実です。
授業形態
講義形式
授業の具体的な進め方
基本的に講義方式で行うが、出席者に発言を求める場合もある。出席者は、きちんとノートをとること、積極的に授業に参加することが期待される。随時、小テストを実施する。これは、早期に理解の不十分な点を把握し、復習に役立ててもらうことを目的とするので、結果は成績評価の対象としない。
関連科目
法学
授業に持参するもの
教科書および小型の「六法」
教科書
民事法入門（第 6 版補訂版 野村豊弘 有斐閣 2014 年
参考書
新版 注釈民法（13）～（28） 谷口知平ほか 有斐閣 9784641017474 民法Ⅳ 補訂版 内田 貴 東京大学出版会 9784130323109 民法Ⅲ 第 3 版 9784130323338
学生へのメッセージ
理解の不十分な点は、そのままにせず、速やかに復習すること。
その他・自由記述欄
状況により、順番・内容を変更する場合がある。

人文地理学	
科目英名	Human Geography
担当者	新井 智一 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要
高校までの地理は、主に自然的・社会的事象の分布（「…に～がある」ということ）を説明する教科であるのに対し、大学の（人文）地理学は、なぜそうした分布が見られるのかということを、理論的、ときには科学的に説明する学問です。この授業は、そうした「分布の科学」について学んだのち、地理学から見た東京大都市圏の課題について考えます。
達成目標
人文地理学という学問分野を概観、理解することと同時に、さまざまな分布図や統計表を難なく読解できる能力を身につけること。
成績評価
期末試験の成績（80％）と、授業中の実習への取り組み（20％）。また、授業中の発言について加点します。
予習復習時間
予習は必要ありませんが、1 時限分の授業に対して 1 時間の復習時間が必要です。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
ありません。高校で地理を履修していなくても結構です。
授業計画
第 1 回 人文地理学の歴史 大航海時代の「探検」から第二次大戦中の「地政学」まで 第 2 回 人文地理学の伝統的な研究（1）－地域区分（1） 日本の「バカ」「アホ」方言の分布と伝播 第 3 回 人文地理学の伝統的な研究（2）－地域区分（2） 天ぷらにはしょうゆかソースか？食生活の東西差 第 4 回 人文地理学の伝統的な研究（3）－景観・土地利用研究 東京近郊の都市で農地はどのような場所に残るのか？ 第 5 回 人文地理学の理論（1）－チューネン・モデル（農業立地論） 都市周辺の地理的条件が同じとき、個々の場所で最適な農業のありかたを数理的に説明 第 6 回 人文地理学の理論（2）－中心地理論 地理的条件が同じとき、都市は規模にかかわらず規則的に立地することを数理的に説明 第 7 回 人文地理学の理論（3）－空間的拡散とモンテカルロ・シミュレーション 一見ランダムな病気やロコモの拡散に規則性があることを、実験を通じて理解 第 8 回 人文地理学の理論（4）－時間地理学 時間の経過と人間の空間的行動とを 1 枚の地図で表す方法と、実社会での活用 第 9 回 メンタル・マップ ー頭の中の地図 認知地図（頭の中の地図と現実とのズレ）と選好地図（地域に対して持つイメージの地図） 第 10 回 不平等の地理学 国際間の不平等、都市内での不平等を地図で明らかにする方法 第 11 回 東京大都市圏の地理学 関東大震災以降における東京の中心部と郊外の発展過程と現在の課題 第 12 回 都市の内部構造 江戸や米国の都市にみられる「すみわけ」について 第 13 回 外国人、高齢化と都市 日本におけるさまざまな国籍の人々の分布、都市の「フードデザート」（食の砂漠）問題 第 14 回 試験および解説
オフィスアワー
授業終了後に質問を受け付けます。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
関連科目
授業に持参するもの
教科書
なし
参考書
最近の地理学 坂本英夫・浜谷正人 大明堂 1985 4470400386 立地と空間的行動 杉浦芳夫 古今書院 1989 4772212310
学生へのメッセージ
その他・自由記述欄

教授要目

現代中国論

科目英名	Contemporary Chinese Society
担当者	竹茂 敦 <必要に応じて指示する。>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要

中国の名目国内総生産（GDP）は 2010 年に日本を追い抜いて世界第 2 位となった。2020 年代には米国を抜いて第 1 位になるとの予測もあり、「21 世紀は中国の時代」「世界の工場」といった中国経済の将来性が期待・注目を集めている。しかしその一方で、ここ数年の経済成長は（日米欧諸国と比べれば依然として高成長ではあるものの）鈍化傾向にあり、汚職・腐敗問題や環境問題、少数民族問題といった先行きへの不安要素が取り沙汰されることも増えている。また、近年の日中関係は靖国神社問題や尖閣諸島問題などをめぐって摩擦が絶えず、1970 年代初めの関係正常化以来で「最悪の状態」との評さえる。本講義では、このような中国内外の現状や諸問題について、様々な視点から検討してゆく。

達成目標

現代中国を理解するための基礎的な知識の習得。

成績評価

期末テストによって評価する（試験 100％）。

予習復習時間

1 回（1 0 0 分）の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

とくになし。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 中華人民共和国の成立と社会主義建設の模索
- 第 3 回 文化大革命による混乱と毛沢東の死
- 第 4 回 鄧小平の復活と改革・開放政策の展開
- 第 5 回 「六・四」天安門事件と国際的孤立
- 第 6 回 高度経済成長と格差の拡大・価値観の多様化
- 第 7 回 戦後の米中・日中関係
- 第 8 回 国際的な存在感の高まりと対外関係の緊張
- 第 9 回 軍事制度と軍事力
- 第 10 回 環境問題
- 第 11 回 民族問題（華僑・華人を含む）
- 第 12 回 蒋介石時代の台湾
- 第 13 回 台湾の民主化と中台関係の変質
- 第 14 回 まとめ

オフィスアワー

講義終了後、昼休み

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

- ◆レジュメ・映像などを用いて講義形式で進める。
- ◆毎回冒頭 20～30 分ほどで、時事や中華料理、中国文物といった、現代中国を理解する手掛かりとなる事柄をトピック的に取り上げて解説する。
- ◆教科書はとくに定めない。授業内で必要に応じてレジュメを配布するとともに、参考図書に適宜紹介する。

関連科目

とくになし。

授業に持参するもの

必要に応じて指示する。

教科書

＊教科書はとくに定めない（授業内で必要に応じてレジュメを配布する）。

参考書

＊参考図書は授業内で適宜紹介する。

学生へのメッセージ

近年の中国については、程度の差こそあれ、マイナスのイメージ・感情を抱いている学生諸君も少なくないと思うが、本講義の受講にあたってはそれらはひとまず脇において、「中国を冷静かつ多角的に理解しようとする姿勢」を意識してほしい。また、新聞・テレビで中国に関するニュースに触れ、『三国志』や陳舜臣氏の著作といった中国に関する小説・エッセイを読み、中華料理を賞味し、博物館で古今の中国文物を鑑賞するなど、教室外でも「中国に対する積極的な興味・関心」を抱いてもらいたい。

その他・自由記述欄

教育学 (1)

科目英名	Education (1)
担当者	角田 多加雄 <sumida.takao@nifty.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

人間は次世代の育成をつねに考え、そのために努力してきた。それゆえ教育についての社会的な関心は大変強いのだが、教育それ自体について深く考える機会は多くない。この授業では、現代の教育問題を偏見や固定観念にとらわれず議論するための、教育に関する事実や概念の正確な認識の習得を目指す。講義の前半では、おもに歴史上の思想家たちによる教育論を検討していく。続いて海外の教育状況を考察し、後半ではこうした論を単なる知識の習得におおわせず、現代の教育問題にどのように適用できるかを議論していく。

達成目標

教育について考え、自分の意見をつくっていく上で必要な事実や概念の習得

- ・教育について考え議論するための基本的概念の習得
- ・古典や外国語文献を含む資料の読み方と利用方法について学ぶ
- ・偏りのない海外の教育状況の理解
- ・「伝える」「教える」などの教育上の基本概念について検討する
- ・大学で学ぶということの意味について自分なりの考えをもつ

成績評価

期末レポートによる評価。求められた課題に対応した内容になっていて、参考文献を適切に選択・参照し、さらに自分自身の見解が明確に表現されていることが評価の上で重視される。レポート作成過程での質問や相談は歓迎する。

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

教育についてだけでなく、国際情勢も含めた社会の問題について広く関心を持ち、自分の意見や疑問を表現できるようにしておくことが望ましい。

授業計画

- 第 1 回 大学で学ぶとはどのようなことか リテラシーとコミュニケーションという問題
- 第 2 回 教育の思想史 (1) 古代ギリシアの教育思想 プラトンとイソクラテス
- 第 3 回 教育の思想史 (2) 古代中国の教育思想 儒教と老荘思想
- 第 4 回 教育の思想史 (3) 近代の教育思想 近代とは ルソーとマルクス
- 第 5 回 教育の思想史 (4) 日本の近代 福沢諭吉の教育論
- 第 6 回 教育の国際比較 (1) 学力をめぐる国際比較
- 第 7 回 教育の国際比較 (2) 不平等と教育予算
- 第 8 回 教育の国際比較 (3) 宗教・民族・国家と教育
- 第 9 回 グローバリズムと教育 (1) 新自由主義の登場
- 第 10 回 グローバリズムと教育 (2) ナショナリズムの歴史
- 第 11 回 グローバリズムと教育 (3) 言語の政治学と教育
- 第 12 回 教育と経済 学力・競争・エリート教育
- 第 13 回 メディアと教育 いじめと暴力をどうするか
- 第 14 回 教育の未来に向けて 教育の議論を深めるために

オフィスアワー

授業終了後。電子メールでも随時質問を受け付ける。

授業形態

講義が中心となるが、随時討論を行う。質問はいつでも歓迎する。

授業の具体的な進め方

毎回の講義テーマにそって論理的に関連付けられた 3 つから 4 つの論点を提示し、それについて講義を行ない、理解の確認も含めて随時討論を行う。

関連科目

教育学 (2)

授業に持参するもの

講義内容や質問事項、発言のために自分の意見をまとめるためのノート

教科書

毎回資料プリントを配布する。

参考書

ギリシア人の教育 廣川洋一 岩波新書 1990 年 4004301106

国家 プラトン 岩波文庫 1979 年 4003360176

エミール 1962 年 9784000071291

孔子 金谷治 講談社学術文庫 1990 年 4061589350

福沢諭吉教育論集 山住正己編 岩波文庫 1991 年

学生へのメッセージ

教育についての問いは、社会についての多くの問いと同様に答えが一つではありません。自分と異なる意見にも興味を持ち、そこから学ぶという寛容な姿勢がとりわけグローバル化した社会では重要になります。授業では積極的に意見を出すようにしてください。講義内容への感想だけでなく、反論も大いに歓迎します。

その他・自由記述欄

教授要目

教育学(2)

科目英名	Education (2)
担当者	角田 多加雄 <sumida.takao@nifty.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

近現代日本の教育について歴史的に考察していく。その出発点として、いわゆる前近代の教育状況の検討からはじめ、基本的には時代順に現代教育の諸問題まで扱う予定である。考察の対象は教育についての歴史的事実と思想だけでなく、教育と深く関わる言語や芸術、社会論なども含める。近現代史に関しては今でも見解の分かれる論点が多数ある。それゆえ講義では近現代の教育に関する具体的な知識だけでなく、現代の私たちが考え判断するための素材を提供すべく、可能な限り偏りなく多くの議論を紹介していく。

達成目標

教育について考え、自分の意見をつくっていく上で必要となる基礎知識とその活用力の習得を目指す。

- ・日本の近現代教育に関する基本的知識の習得
- ・古典作品や史料の読み方と利用の方法を学ぶ
- ・現代の教育について考え議論し、自分の意見をつくるための基本的概念の習得
- ・大学で学ぶということの意味について自分なりの考えをもつ

成績評価

期末レポートによる評価。求められた課題に対応した内容になっていて、参考文献を適切に選択・参照し、さらに自分自身の見解が明確に表現されていることが評価の上で重視される。レポート作成過程での質問や相談は歓迎する。

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

授業で扱う時代や思想について、高校の教科書や歴史について書かれた新書などでおおまかに把握しておくこと。深く調べていくための参考文献は毎回紹介します。

授業計画

- 第 1 回 教育の歴史を学ぶ意味 歴史区分の問題
- 第 2 回 前近代の教育思想 儒学・国学・洋学
- 第 3 回 幕末期の状況と教育 翻訳と近代日本語
- 第 4 回 近代日本の教育の成立 教育制度と教育習慣の起源
- 第 5 回 啓蒙思想家の思想と教育 西洋思想の導入
- 第 6 回 教育勅語体制の成立と展開
- 第 7 回 戦争と教育 (1) 教科書と学校教育
- 第 8 回 戦争と教育 (2) 植民地教育・市民生活
- 第 9 回 敗戦と占領下の教育 アメリカの影響
- 第 10 回 戦後経済成長期の教育 学力と試験
- 第 11 回 戦後教育改革の全体構造
- 第 12 回 グローバル化のなかの日本 (1) 新自由主義と教育
- 第 13 回 グローバル化のなかの日本 (2) ナショナリズムと教育
- 第 14 回 教育の未来に向けて 歴史から何を学ぶか

オフィスアワー

授業終了後。電子メールでも随時質問を受け付ける。

授業形態

講義が中心となるが、随時討論を行う。質問はいつでも歓迎する。

授業の具体的な進め方

毎回の講義テーマにそって論理的に関連付けられた 3 つから 4 つの論点を提示し、それについて講義を行ない、理解の確認も含めて随時討論を行う。

関連科目

教育学 (1)

授業に持参するもの

講義内容や質問事項、発言のために自分の意見をまとめるためのノート

教科書

毎回資料プリントを配布する。

参考書

日本教育小史 一近・現代一 山住正己 岩波新書 1987 年 9784842914893

日本の教育 堀尾輝久 東京大学出版会 1994 年 4130530550

学生へのメッセージ

教育についての問いは、社会についての多くの問いと同様に答えが一つではありません。自分と異なる意見にも興味を持ち、そこからも学ぶという寛容な姿勢がとりわけグローバル化した社会では重要になります。授業では積極的に意見を出すようにしてください。講義内容への感想だけでなく、反論も大いに歓迎します。

その他・自由記述欄

心理と生理

科目英名	Psychology and Physiology
担当者	渡辺 昭彦 <awatana@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

人間は社会的存在であるとともに自然的存在でもある。本講では、大脳生理学および認知心理学的知見に基づく自然的存在としての人間の心と行動に関する基礎概念の解説と学習を行う。心理学の基礎となるヒトの生物学的共通要素を探る。

達成目標

1. 自然科学的、社会科学的方法論の理解。そのためのシステマティックな思考法と視点の育成。
2. 人間の生理、簡単な解剖学などから演繹される心理的機構の理解。
3. 科学的思考法とその情報の収集と表現の仕方の最低限の理解。

成績評価

レポート (20%)、期末のまとめ (60%)、授業中の小テスト (20%) より総合的に評定する。

予習復習時間

講義のより深い理解のためには、その日の内容を教科書、ノートを参考に最低 1 時間程度は振り返り復習する必要がある。同時に次の予習に同程度の時間を割くべきである。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

高等学校生物学程度の基礎的な生物学に対する知識と生命に対する燃えるような好奇心。イントロダクション時に小テストを行い、結果次第で履修を認めない場合もあるので、第 1 回のイントロダクションは出席すること。

授業計画

- 第 1 回 生物としてのヒトについてのイントロダクション：聴講の心得と 14 回にわたる講義内容のアウトラインを解説する。
- 第 2 回 こころと行動の科学としての心理学への招待およびヒトの生理学入門。心理学の歴史と発展の沿革と心理過程の理解のためになぜ生理学が必要なのか、問題を提起する。
- 第 3 回 心理学の素養としての生理学 1：脳と神経系。各種人体標準値の解説と神経生理学の基礎を解説する。
- 第 4 回 心理学の素養としての生理学 2：大脳皮質の機能局在の解説を行う。
- 第 5 回 心理学の素養としての生理学 3：大脳内部と情動。情動行動の発生機序並びに、自律神経の役割と機能を解説する。
- 第 6 回 脳のイメージング：画像解析の世界。各種脳画像診断の方法と意義などを解説し、心理学的意義を述べる。
- 第 7 回 間奏曲：ヒトと動物のこころ (VTR 鑑賞とレポート)
- 第 8 回 入力情報処理 1：感覚と知覚 嗅覚、触覚、味覚。
- 第 9 回 入力情報処理 2：感覚と知覚 聴覚と視覚①
- 第 10 回 入力情報処理 3：感覚と知覚 視覚②
- 第 11 回 記憶および睡眠のメカニズムと意味を解説する。
- 第 12 回 ホメオスタシスとストレス：ストレス・コーピング。
- 第 13 回 時間とリズムの生理学。生物学、心理学におけるリズムの意味と解釈を解説する。

第 14 回 まとめ。講座履修の目的が達成されたか、学期の振り返りとともに再認識してもらう。

オフィスアワー

月曜日 13:30-16:00

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

教科書の内容は当然予習されてきているものと見なし、行間の表現されていない部分を板書、スライド、視覚教材などを用いて提示、解説する。

関連科目

文化とパーソナリティ、学習と動機づけ

授業に持参するもの

教科書、ノート。

後方で見えにくい人は双眼鏡、オペラグラスなど。

教科書

現代の心理学 伊藤・千田・渡辺 金子書房 2003/4 978-47608231

参考書

脳の事典 坂井、久光 成美堂出版 2012 978-4-415-30999-6

学生へのメッセージ

生物に対する興味、生命に対する畏怖、人間に対する尊敬を忘れずに。

単位取得のみを目的とする学生は履修しないこと。

その他・自由記述欄

出席をなおざりにする学生は、単位を取得できないことが多いのである。また、騒がしいと認定された学生は、供覧実験の被験者となってもらい場合がある。この場合、拒否権はなく、各種ハラスメントも免責となるので注意されたい。

教授要目

文化とパーソナリティ	
科目英名	Culture and Personality
担当者	渡辺 昭彦 <awatana@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

人間は自然的存であると同時に社会的存在である。社会の構成要素である個人について、その個人を個人たらしめているパーソナリティについて、理論、とらえ方（心理テスト）、変容、対人技法（カウンセリング）などを学ぶ。その上で人々の集団を俯瞰して文化的考察を行う。

達成目標

対人理解、自己洞察を含めた人間理解の方法論と思考法を体得して欲しい。さらに行動の変容を見極め、その対処法をも学んで欲しい。前半は個としての自己認識を、後半は社会の中での自己認識の確立を目指す。

目標はグローバルな自己の存在と立ち位置を理解できるようになることである。

成績評価

レポート（20%）、まとめとしての期末試験（60%）、授業中の小テスト（20%）より総合的に評定する。

予習復習時間

概念的なことは教科書、ノート、参考書以外の情報ソースを活用してしっかり把握すること。そのために特に学習時間は設けず、日常生活においてアンテナを張り巡らして知識の吸収に努めること。心理査定などはその都度再度の実習を心がけて、応用範囲を考えること。予習と復習に4時間程度はかけること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

自分、他人を問わず、人間に対する興味を持ち、理解を深め、尊敬をもって他人と関わることを望む人の履修を期待する。

イントロダクション時に小テストを行い履修に不適と判断される人は履修できない場合もある。第1回のイントロダクションは出席すること。

授業計画

第 1 回 イントロダクション:あなたをあなたらしくしているものとは？ 人は生物学的基盤は共通である。個としての相違点を探る事を目的として開講する。

第 2 回 パーソナリティ 1：定義と理論分類（類型論と特性論）。それぞれの理論の特徴を述べる。

第 3 回 パーソナリティ 2：フロイトの理論と力動論。類型論と特性論で語りきれない論理を考察し、演繹された力動論に関して学ぶ。

第 4 回 心理査定 1：総論。理論分類されたパーソナリティを以下に把握するか、その方法論のアウトラインを解説する。

第 5 回 心理査定 2：各論 1（質問紙法）。パーソナリティの把握のための手法の1つである質問紙法を解説する。

第 6 回 心理査定 3：各論 2（投影法）。パーソナリティの把握のための手法の1つである投影法を解説する。

第 7 回 心理査定 4：各論 2（投影法）実習。各論 2 で述べきれなかった投影法を紹介し、若干の実習を試みる。

第 8 回 間奏曲：生と死の心理学（VTR 鑑賞とレポート）。課題ビデオを鑑賞し、生と死についての考察を課す。

第 9 回 臨床心理学と病理 1：（行動の変容）。パーソナリティの変容の変容の病理に関して、病態概念、治療の一助となるカウンセリング技法などを解説する。

第 10 回 臨床心理学と病理 2：（自己測定）。複数の人がいる場合のコミュニケーションの意味、測定などを行う（実習を含む）。

第 11 回 個人から社会へ

第 12 回 文化論 1：世界の中の日本、日本と世界の比較文化的測定を体験に基づき実施、考察する。

第 13 回 文化論 2：人の本性（自己は堅固か？）。いくつかの実験例を参照して、パーソナリティの堅固さを論証、考察する。

第 14 回 まとめ：学期を通しての目標と到達度を確認し、今後の生活に活かせるように指導する。

オフィスアワー

月曜日 12：30－16：00

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

教科書で述べていないことを中心に板書、スライド、プリントを配っての実習などで学習を進める。

教科書内容の事前学習は当然ながら必要条件である。

関連科目

生理と心理、倫理学

授業に持参するもの

教科書、ノート。

デジカメ、オベラグラス？

教科書

現代の心理学 伊藤・千田・渡辺 金子書房 2003/4 978-47608231

参考書

<わたし>はどこにあるのか M.S. ガザニガ 紀伊屋書店 2014 978-4-314-01121-1
ウィーン大学生フロイト 金関猛 中央公論新社 2015 978-4-12-004690-2

学生へのメッセージ

ヒトはどこからきてどこへゆくのか。キミはなにものなのか。ここをとらえることはできるのか。ここはかわるのか、かえられるのか。つよいかわいかわい。

その他・自由記述欄

真面目な受講者の学習の妨げになるような行為（私語、騒乱、立ち歩き、過度の飲食）をする者は退出を命じることがあります。この場合、いかなるハラスメントも免責となります。

教授要目

学習と動機づけ	
科目英名	Learning and Motivation
担当者	千田 茂博 <ssenda(at)tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期前半

科目概要
心理学の基本領域のひとつである学習と動機づけを中心として自己および他者の行動、またその変容について理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。
達成目標
心理学を学ぶことで受講者各自が少しでも自己理解を深めることをめざしている。
成績評価
授業中の課題 (10 点)、期末試験 (90 点)
予習復習時間
1 時限分の講義に対して 4 時間の自学自習が必要
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
特に自分自身の動機づけ、意欲について振り返りながら授業を受講してほしい
授業計画
第 1 回 学習と動機づけ
第 2 回 行動主義と認知論
第 3 回 スキナーのオペラント条件づけ理論
第 4 回 強化とは何か
第 5 回 認知論的学習理論
第 6 回 欲求テスト
第 7 回 伝統的欲求理論
第 8 回 マズローの欲求階層説
第 9 回 内発的動機づけ
第 10 回 学習性無力感
第 11 回 自己認知説
第 12 回 指し手・コマ理論
第 13 回 アドラーの勇気づけ理論
第 14 回 試験および解説
オフィスアワー
木曜日、金曜日ともに 12:30 から 16:00 まで、学生なんでも相談室にいます。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
講義を中心として、時に実習的な課題を行う
関連科目
発達と教育、教育心理学
授業に持参するもの
その都度指定する
教科書
現代の心理学 伊藤隆一、千田茂博、渡辺昭彦著 金子書房 2003 年 9784760823116
世界を読み解くリテラシー 井上健、山本史華、中井洋史編 萌書房 2010 年 9784860650544
参考書
授業中に随時紹介
学生へのメッセージ
その他・自由記述欄

発達と教育	
科目英名	Development and Education
担当者	千田 茂博 <ssenda(at)tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年後期前半

科目概要
人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として、遺伝、環境、自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。
達成目標
受講者自身が自らの発達プロセスを振り返ることにより、自己理解を少しでも深められることをめざす。
成績評価
授業中の課題 (10 点)、期末試験 (90 点)
予習復習時間
1 時限分の講義に対して 4 時間の自学自習が必要
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
単に知識としてではなく、自らの発達を振り返りながら授業を受講してほしい
授業計画
第 1 回 発達と教育とは
第 2 回 知能とは何か
第 3 回 知能テストと創造性
第 4 回 ビアジェの認知発達理論
第 5 回 地球脱出
第 6 回 道徳判断の発達
第 7 回 フロイト、エリクソンの発達理論
第 8 回 自我と社会性の発達 児童期まで
第 9 回 自我と社会性の発達 青年期
第 10 回 自我と社会性の発達 成人期以降
第 11 回 価値観、信念の形成過程
第 12 回 認知療法と論理情動療法
第 13 回 来談者中心療法
第 14 回 試験および解説
オフィスアワー
木曜日、金曜日ともに 12:30 から 16:00 まで、学生なんでも相談室にいます。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
講義を中心として、時に実習的な課題を行う
関連科目
学習と動機づけ、教育心理学
授業に持参するもの
その都度指定する
教科書
現代の心理学 伊藤隆一、千田茂博、渡辺昭彦 金子書房 2003 年 9784760823116
参考書
授業中に随時紹介
学生へのメッセージ
その他・自由記述欄

教授要目

心理学概論	
科目英名	Basic Psychology
担当者	森山徹
単位数	2単位
開講時期	1年生前期

科目概要
「心理学」がひとつの科学としてどのように発展してきたのかを、最新の知見を通して学んでいきます。いろいろな分野・領域の心理学に触れ、心の不思議さやその仕組みを理解し、自己や他者への洞察を進めていきます。また、生涯にわたる自己変革と豊かな人間関係を築いていけるような学習者としての資質向上をはかることを目指します。

達成目標
①心理学の多様な分野に触れ、「心」についての理解を深める。 ②科学的なものの見方・考え方を理解し、日常的な学習において習慣化できるようにする。 ③「心」と向き合う真摯な姿勢をもてるようにする。

成績評価
①出席状況（全受講者対象、2／3以上の出席必須） ②講義内で取り組む課題及びレポートの提出 以上2点を評価対象とし、①の基準を満たした者に対して②の提出状況と内容についての評定を行い総合的に評価する。なお、遅刻・早退、講義中の受講態度についても評価対象とし、適宜減点換算する。

予習復習時間
1回2時間の授業に対して4時間程度の自学自習が必要 履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

心理学についての基礎的な知識は必要ありません。ただし、人の「心」や自分自身の「心」と真剣に向かい合いたい、「心」の不思議さについて探求したいという気持ちをもって受講してください。

授業計画
第1回 講義ガイダンス／「心理学概論」にいて・心理学とはどのような学問か
第2回 「私」の成り立ち①乳幼児心理学・発達心理学 「赤ちゃん学」からわかってきた私たちの心の起源
第3回 「私」の成り立ち②教育心理学 子どもの心の発達
第4回 「認識」という心のメカニズム①思考・言語・記憶
第5回 「認識」という心のメカニズム②認知心理学
第6回 「認識」という心のメカニズム③比較心理学の世界
第7回 「私」という個性①人格心理学・性格心理学 自我と自己、自己理解と自己肯定感
第8回 「私」という個性②知能とは何か 学習と知能
第9回 「心」の揺れと治療①臨床心理学
第10回 「心」の揺れと治療②障害は個性か
第11回 人とのつながり①社会心理学 コミュニケーションの心理学
第12回 人とのつながり②心理学の社会的応用
第13回 未来の「心」の形 人工知能・ロボット・アンドロイド
第14回 「心」とは何か

オフィスアワー
事前に連絡があれば時間を調整し対応します。

授業形態
授業は講義形式ですが、必要に応じて適宜受講者同士のディスカッションや演習形式での学習を行います。

関連科目
心理と生理、心理学入門
授業に持参するもの
筆記用具
参考書
『幼稚園教育要領』
学生へのメッセージ

受講者同士の対話や自身との対話を通して多様な「心」の特性にアプローチしていきます。講義は毎回ナイーブでデリケートな内容を多く取り扱います。授業の形式や性格上、受講には人数制限を設けます。初回講義時に、小テストを実施して受講者を決定しますので、受講希望者は、必ず初回の授業に出席するようにしてください。
--

その他・自由記述欄
テキストは使用しません。 毎回、講師が資料を用意します。

心理学入門	
科目英名	Introduction to Psychology
担当者	川村 久美子 <kawamura@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要
ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは、知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの、したがって人間が自身で作り出すものとみなす見方、もうひとつは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの、人間と環境が相互的に構成するものとみなす見方である。前者は私たちに馴染みが深く、現代心理学の主流派の見方で、そこから認知科学なども派生してきた。他方、後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ、近代に特徴的な心身二元論を超越しており、今後、革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか、アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。

We will study Ecological Psychology and examine the psychological aspect of today's environmental crisis. Mind here can be defined not as a dimension evolved inside oneself but as an aspect of interaction among humans, society, technology, and nature.

達成目標
1. 「知性とは何か」について考える。 2. 人間と環境との関係性、相補性について考える。 3. 近代産業社会の人間に対する要請を検討し、心理学が提示してきた人間モデルとの関係について考える。

成績評価
実験レポート(中間) 20%、試験(学年末) 70%、小テスト 10% (授業中に理解度についてのテストを行う)

予習復習時間
毎回2時間の授業に対して、4時間の自学自習が必要である。授業時に配布する資料をもとに必ず復習し、次の授業に備えること。 履修する上で必要な条件（前提とする知識など） 授業時間外にグループでの実験を行う。

授業計画
第1回 ガイダンス 近代社会の形成と心理学の登場 中世：集団が単位の世界／近代：個が単位の世界／個人主義の醸成と心理学の登場 第2回 錯覚実験に対する対立する説明： 二つ折り紙の実験／錯覚：感覚が当てにならないのか、動かない前提だからか 第3回 「心理学の教科書」が採用する前提とは 感覚器官を解剖学的に語る／中枢へと向かう情報／二次元の網膜像という出発点／あてにならない感覚情報を意味づける認知の働き 第4回 前提の起源：デカルトの二元論 機械論的世界観と要素還元主義／機械論の身体の前提／知性の二段階説 第5回 知性の二段階説をサポートしない実験結果 欧米の研究者とバンツ族の奥行知覚／暗室で育てた子猫の知覚実験／先天盲の開眼時の体験／絶えず動揺している眼球／ 第6回 「動くこと」を前提としない場合の人間知性のモデル 行動主義／認知科学と表象主義／情報理論 第7回 フレーム問題が示す人間知性とAIの違い ロボット実験／閉じられた環境でないで発揮されないAIの推論能力／なぜ人間だけはフレーム問題に悩まないのか／知性の二段階説の限界 第8回 アフォーダンス理論 能動的に動く自分と世界との関係を見ている／視野による自己の特定／参照点となる自己情報／聴覚・触覚・味覚における自己情報／主体と客体は注意の両極 第9回 逆さめがねの実験とスマート・パーセプション 距離は見える／いかに衝突を避けているか／鳥の移動／飛行機の操縦／行為と知覚の循環 第10回 協調構造としての行為 知性の二段階説による行為の説明／古典的運動制御理論／産業化とテイラー主義／膨大な自由度／協調構造による説明／自己組織化理論との関係／設計図なくとも構造が出現 第11回 ダイナミカル・システムズ・アプローチ 「同期する指」の実験／馬の足並み実験／パーキンソン病治療への応用 第12回 アフォーダンスと「行動の種」の選択 行為の可能性の知覚／フレーム問題に悩まない／環境と動物の相互作用が知性をつくる／新たな進化の考え方：行動の種／相近進化 第13回 協調構造としての身体がアフォーダンス情報に出会う スウィング・ルームの実験／マイクロスリップ実験／シロアリの巣作り 第14回 アフォーダンスとスマートなデザイン ヒューマンインターフェースの現場／失敗するデザイン・成功するデザイン
オフィスアワー
火曜、水曜昼休み
授業形態
講義形式だが授業時間外に実験を行う。
関連科目
認知科学
学生へのメッセージ
必ず出席し、実験にも積極的に参加すること。
その他・自由記述欄
教科書は特になし。参考書は授業時に提示する。

教授要目

社会とジェンダー

科目英名	Gender in Society
担当者	西山 千恵子 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

ジェンダーとは社会的に作られた性別、性差という意味である。「男は仕事、女は家事」といった性別役割分担など、この社会で観察される多くの「性差」の大部分は従来、自然なことだと考えられてきた。それに対し、ジェンダーという概念は、これらの性差は自然でも、必然でもなく、社会的に構築されたものだと思える視点を与える。本授業では、私たちを取り巻く社会の課題をジェンダーの視点で考察し、人々の生活と日本の政治・法律・社会制度と国際社会との関連などを理解する。

達成目標

- 1) 現代社会の課題をジェンダーの視点を持って理解する。
- 2) ジェンダーの視点から法律、社会、政治と暮らしとの関係を学び、国際社会での日本の男女の位置づけを知り、生きる力を養う。
- 3) 性による差別を学ぶことで、社会にはさまざまな差別が存在することを理解し、平等・公正・正義に満ちた社会を形成する構成員になるための知性や自覚を養う。

成績評価

試験 90% 平常点 (授業時のミニッツ・ペーパー) 10%

予習復習時間

授業後、配布したプリントを確認しノートを整理し、疑問点、質問点があればまとめておくこと。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

「大学で学ぶ」姿勢を持って、授業への積極的な参加を期待する。授業中の私語、携帯電話の操作等、不適切な行為は禁ずる。

授業計画

- 第 1 回 「社会とジェンダー」を学ぶ目的
一 格差社会・国際化・情報化・少子高齢などの課題と社会
- 第 2 回 国連の男女平等に向けての活動
- 第 3 回 日本の男女平等政策
- 第 4 回 女性差別撤廃条約とは何か
- 第 5 回 ジェンダーと男性問題―「男性差別」はあるのか？
- 第 6 回 性の多様性とは何か
- 第 7 回 セクシュアル・マイノリティの人権
- 第 8 回 ジェンダーの発達心理学
- 第 9 回 暴力とジェンダー 1. デート DV
- 第 10 回 暴力とジェンダー 2. 配偶者間暴力
- 第 11 回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康・権利)
- 第 12 回 メディアとジェンダー
- 第 13 回 戦争とジェンダー
- 第 14 回 まとめ―ジェンダーの平等に向けて

オフィスアワー

授業後に質問等に対応する。または講義時に配布するミニッツ・ペーパーに質問を記入すること。

授業形態

講義、ワークショップ

授業の具体的な進め方

講義はパワーポイントや DVD を利用し、講義内容の理解を深められるように工夫する。ディスカッションの時間や参加型のワークショップも取り入れ、発言を求めることがある。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

ジェンダーで学ぶ政治社会学入門 大海篤子 世織書房 2010 978-4902163513

参考書

学生へのメッセージ

積極的な講義への参加を期待する。

日本社会に潜むジェンダーによる差別に気づき、平和・公正・平等な社会の一員になることをめざしてほしい。

その他・自由記述欄

参考書は教科書に示されており、適宜授業の中でも紹介する。ミニッツ・ペーパーを適宜配布する。次回以降、匿名で読み上げ、質問に回答したり、講義の補助材料とすることがある。

授業のキーワード：現代社会、グローバル化、ジェンダー、男女共同参画、格差社会、少子高齢社会

日本文化の伝承

科目英名	Transmission of Japanese Culture
担当者	榎本宗白
単位数	2 単位
開講時期	1 年生後期

科目概要

日本文化の一つである茶道は書道・華道・香道や能・狂言といった芸能など様々な伝統文化が活かされている。

この講義ではその茶道が現代でどのような役割を果たしているのか、茶道の歴史をさかのぼり茶道の真意・点前の意義・懐石の意味やマナー、茶室などの数寄屋建築といった衣食住の重要性を学びます。

現代を生きる知恵を学びましょう。

達成目標

日本文化にたずさわって、茶道に触れてみる

成績評価

講義での課題 (50%) と試験 (50%) により評価する

予習復習時間

特になし

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

特になし

授業計画

- 第 1 回 茶道と稽古について
- 第 2 回 茶の歴史
- 第 3 回 お茶の種類と工程
- 第 4 回 露地について
- 第 5 回 露地 ～外露地～
- 第 6 回 露地 ～内露地～
- 第 7 回 茶室とは
- 第 8 回 茶室の名称
- 第 9 回 床の間について
- 第 10 回 懐石について
- 第 11 回 茶事の形式
- 第 12 回 茶事の流れ
- 第 13 回 五節句について
- 第 14 回 総括

オフィスアワー

事務局に連絡ください

授業形態

授業内で指示

授業の具体的な進め方

難しく思われがちな茶道を紐解きながら理解を深めてもらい、現代にも通用する心のあり方などを説明します。

また、茶室においては禅語や和歌などの軸を掛けて説明し、茶室に座り床の間を拝見してもらいます。

教科書

特になし

参考書

特になし

学生へのメッセージ

茶道は日本人が誇るべき文化です。

その文化を学びながら身近に感じてみましょう。

教授要目

スポーツ・健康論	
科目英名	The theory of Health, Physical Fitness and Sports
担当者	久保 哲也 <kubo@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
本講義では、健康、体力をテーマに身体運動の意義や必要性に関する理解を深めるとともに、健康、体力の維持増進と日常生活との関連の重要性について考察する。 The purpose of this lecture is to study the importance of different lifestyles and health.
達成目標
①健康の基盤としての体力作りの理解。 ②生涯にわたって健康で過ごせるような知識の習得。 ③スポーツの楽しみ方を見出し、スポーツライフを設計し、実践する能力を養う。
成績評価
期末試験を 80%、レポート（2 回）を 20% とし、総合的に判断する。
予習復習時間
1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）。これに加え、7 回目終了後と 14 回目終了後に各 2 時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
遅刻をしないこと。
授業計画
第 1 回 ガイダンスー本講義のアウトライン、評価方法、受講上の注意に関する説明ー
第 2 回 健康の基盤としての体力作り（その 1）ーエアロビクス（有酸素運動）ー
第 3 回 健康の基盤としての体力作り（その 2）ーアネロビクス（無酸素運動）ー
第 4 回 健康の基盤としての体力作り（その 3）ーウエイトコントロールー
第 5 回 健康の基盤としての体力作り（その 4）ースポーツ傷害、救急法ー
第 6 回 健康の基盤としての体力作り（その 5）ー熱中症とその予防ー
第 7 回 生活と健康（その 1）ー飲酒ー
第 8 回 生活と健康（その 2）ータバコの害ー
第 9 回 生活と健康（その 3）ーエイズと STDー
第 10 回 生活と健康（その 4）ー薬物乱用と健康ー
第 11 回 生活と健康（その 5）ー環境汚染と健康ー
第 12 回 メディアにみるスポーツ（その 1）ーCM 編ー
第 13 回 メディアにみるスポーツ（その 2）ー剣道編ー
第 14 回 まとめ
オフィスアワー
（金）3 限、4 限
授業形態
配布資料に基づく講義
授業の具体的な進め方
パワーポイントや DVD による映像をもとに順序立てて解説していく。
関連科目
基礎体育（1）、基礎体育（2）、応用体育（1）、応用体育（2）
授業に持参するもの
教科書
参考書
学生へのメッセージ
自分自身の将来にわたる健康に関わる内容なので、しっかりと身につけて欲しい。
その他・自由記述欄

論理学(1)	
科目英名	Logic (1)
担当者	谷川 卓 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「タブローの方法」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものについての理解を深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。
達成目標
タブローの方法によって、一階述語論理の範囲で推論の妥当性を判定できるようになること。
成績評価
平常点（30%）、試験（70%）
予習復習時間
1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。この講義で利用する教科書には、練習問題それぞれについて解答が書かれている。そこで教科書の練習問題については、各自で授業時間外に取り組んでもらうことを求める。（それら練習問題を解けるかどうか、単位を取得できるかどうかのひとつの目安になると思う。）また、追加の自習用練習問題を用意する。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
とくにない。ただし、授業内容を復習し、教科書の練習問題にそのつど取り組んでいく姿勢が必要。
授業計画
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 命題論理の記号言語
第 3 回 真理関数
第 4 回 真理値分析
第 5 回 トートロジー・矛盾・論理的等値
第 6 回 命題論理のタブロー（1） トートロジーかどうかを判定する
第 7 回 命題論理のタブロー（2） 推論が妥当かどうかを判定する
第 8 回 述語論理の記号言語
第 9 回 量化と多重量化
第 10 回 解釈と真理値
第 11 回 妥当性と充足可能性
第 12 回 述語論理のタブロー（1） 妥当式かどうかを判定する
第 13 回 述語論理のタブロー（2） 推論が妥当かどうかを判定する
第 14 回 まとめと試験
オフィスアワー
昼休みに非常勤講師室まで。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
関連科目
論理学（2）
授業に持参するもの
教科書とノート
教科書
論理学入門 丹治信春 ちくま学芸文庫 2014 978-4480095183
参考書
学生へのメッセージ
論理学では練習問題を解いてはじめてちゃんと理解できるような事柄がたくさんある。そのため、受講学生には講義への積極的な参加を求める。「ただ単に出席して聞き流す」といった参加の仕方では単位取得は難しいと思うので、そのつもりでいてほしい。（すべての講義に出席していても、期末試験の出来具合によって単位認定不可になることは、当然ありえる）。
その他・自由記述欄

教授要目

論理学(2)	
科目英名	Logic (2)
担当者	谷川 卓 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要
論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「自然演繹」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものについて考えを深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。
達成目標
自然演繹と呼ばれる方法を学び、論理というものについての理解を深めること。
成績評価
平常点（40%）、試験（60%）
受講学生には授業のなかで練習問題に取り組んでもらうことになる。平常点には、そうした問題演習への取り組みを含めた授業への参加態度が反映される。
予習復習時間
1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
前提というわけではないが、「論理学（1）」を履修しておくことを推奨する。（この講義では、論理学（1）で扱ったことを別の観点から見ることになる。）
授業計画
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 推論のいろいろ：この授業で扱う推論について
第 3 回 否定について
第 4 回 「かつ」と「または」（1） 推論規則の解説
第 5 回 「かつ」と「または」（2） 練習問題
第 6 回 「ならば」（1） 推論規則の解説
第 7 回 「ならば」（2） 練習問題
第 8 回 命題論理（1） 例題解説
第 9 回 命題論理（2） 練習問題
第 10 回 「すべて」と「存在する」（1） 量化について
第 11 回 「すべて」と「存在する」（2） 推論規則の解説と練習問題
第 12 回 述語論理（1） 例題解説
第 13 回 述語論理（2） 練習問題
第 14 回 まとめと試験
オフィスアワー
昼休みに非常勤講師室まで。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
基本的には講義形式。ただし練習問題を適宜提示するので、それを利用して部分的に演習形式を取り入れた授業を行う予定である。
関連科目
論理学（1）
授業に持参するもの
ノート
教科書
参考書
入門！論理学 野矢茂樹 中公新書 2006 978-4121018625
記号論理入門 金子洋之 産業図書 1994 978-4782802014
論理学をつくる 2000 978-4815803902
記号論理入門〔新装版〕 前原昭二 日本評論社 2005 978-4535601444
学生へのメッセージ
論理学では、練習問題を解いてはじめてちゃんと理解できるような事柄がたくさんある。そのため、受講学生には講義への積極的な参加を求める。「ただ単に出席して聞き流す」といった参加の仕方では、単位取得は難しいと思うので、そのつもりでいてほしい（すべての講義に出席していても、期末試験の出来具合によって単位認定不可になることは、当然ありえる）。
その他・自由記述欄

情報と社会	
科目英名	Information and Society
担当者	中村 雅子、李 洪千 <（李）hongchun@tcu.ac.jp （中村）masako@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
今日の情報環境、コミュニケーション状況を中心に、情報と社会に関わる幅広い視野を持つために、基礎的な知識を学びつつ、そこに至る歴史的な変化や、将来に向けた可能性、問題点などを多角的に論じるオムニバス授業である。前半は主に情報社会に生きるために必要なメディアの歴史や特性の理解、活用方法などを中心に、また後半は主に社会学・社会心理学的な観点から、情報テクノロジーと社会的活動、行動様式、コミュニティの変化などについて論じる。
The aim of this class is to understand our contemporary information ecologies, its history and future from various viewpoints. We need to grasp both social and technological aspects of the 'information society'. Perspectives from various viewpoints such as change of morals, values and lifestyles will be introduced.
達成目標
1) 情報と現代社会の関係について、現状を理解し、説明できるようになる。 2) 今日の情報社会の一員として遵守すべき倫理と、メディアの活用方法を身につける。 3) 現代の情報環境の特色を理解し、メディアの特性や影響力、コミュニケーションやコミュニティの変化について理解し、説明できるようになる。
成績評価
第 1 部：各回の小テスト(30%)および最終レポート（20%）により評価する。 第 2 部：授業への出席を前提とした上で、各回の授業内レポート、および最終レポートにより評価する。
予習復習時間
1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要である。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
とくになし
授業計画
第 1 回 第 1 部授業のガイダンス：情報と社会についての基礎
第 2 回 情報社会と倫理
第 3 回 情報社会とマナー：ネチケット
第 4 回 情報社会とトラブルⅠ
第 5 回 情報社会とトラブルⅡ
第 6 回 情報社会と SNS
第 7 回 情報社会と情報活用
第 8 回 第 2 部のガイダンス、認知科学・社会科学からのアプローチ
第 9 回 社会とメディアの相互構成
第 10 回 新しいメディアによるコミュニケーションの変化
第 11 回 メディアによる説得と動員
第 12 回 メディアによる認知的な影響
第 13 回 情報共有とユーザ参加
第 14 回 オルタナティブメディアとリテラシー
オフィスアワー
（李）火曜日の 15:10-16:50。その他、研究室在室時は随時対応します。アポイントを取りたい場合は hongchun@tcu.ac.jp に連絡して下さい。 （中村）研究室在室時は随時対応します。在室日時を知りたい場合やアポイントを取りたい場合は masako@tcu.ac.jp に連絡して下さい。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
（李）講義を基本にするが、数回的小テストも予定。パソコン、スマートフォンなどの使用は控えてもらいたい。 （中村）基本的には講義形式だが、受講生同士のコミュニケーションの時間を取る予定。
関連科目
情報通信技術入門、情報リテラシー演習
授業に持参するもの
教科書
指定しない
参考書
授業時に紹介
学生へのメッセージ
情報社会に生きる市民として、また本学学生としての基本的なマナーと知識、そして自分自身を守る知恵を身につけることを期待しています。
その他・自由記述欄

教授要目

情報リテラシー演習	
科目英名	Information Literacy
担当者	宮地、馬場、フィッツギボンズ、奥平、春日、杉浦、高橋、萩原 <各クラスの Web ページにクラスごとの教員およびアシスタントの e-mail 連絡先を掲載する。(大学内での e-mail 送受信方法は本演習の授業内で扱う。)>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
各種メディアを活用するための基本的な技術と作法を学ぶ。学内ネットワークやインターネットを通じた情報の収集・編集・発信・交換の方法を学ぶ。演習では、学内の情報機器の使い方、電子メールの使い方、ソフトウェアを用いた文書作成、発信、プレゼンテーションの方法、Web 文書の作成方法を扱う。また、電子メールや Web ページなどで、情報を発信したり、活用する際に気をつけなければいけない決まりや必要な構成、作法も扱う。This course is intended for students to acquire basic knowledge and skills for information transmission including e-mail, web design, and elementary web programming, as well as network and computer system of our campus.

達成目標
情報ネットワーク利用スキルの獲得
基本的なオフィスアプリケーションソフトウェアの使用方法を身につける
Web ページ作成の基礎を身につける
グループによるプレゼンテーションの企画、発表能力を身につける
成績評価
毎週の課題提出物に基づいて評価する。(各回への出席を前提とする)

予習復習時間
各回の講義・実習内容は Web 上で提供されるので必ず事前に目を通し、事前に調べておくこと。また、授業で充分理解できなかったことは、当日に復習して演習室で確かめるなどした上で質問点を整理し、アシスタントや教員に相談して解決すること。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
なし

授業計画
第 1 回 パソコン・ネットワークの基礎：キャンパスネットワークの基本構成、ログイン・ログアウト、パスワード、Web アクセス、日本語入力、メールシステム構成
第 2 回 メール基礎：メールソフトの使用法
第 3 回 コンピュータを使いこなす：パソコン・ファイルとフォルダの管理、ネットワークドライブ、ファイル送付、ワードプロセッサを使った文書の作成
第 4 回 図書館の利用：大学図書館の利用、オンライン蔵書目録、電子ジャーナルの活用
第 5 回 数字を処理する：表計算ソフトによる関数計算、グラフ作成
第 6 回 メール正しい利用法：メール機能への習熟、メールマナーとウイルス対策、メーリングリスト、Web メール
第 7 回 ホームページによる情報発信 I：ホームページの仕組み、HTML 入門
第 8 回 ホームページによる情報発信 II：HTML によるホームページ制作
第 9 回 ホームページによる情報発信 III：作成ソフトの利用法、ホームページ制作
第 10 回 プログラミング言語 JavaScript の魅力と概要：Hello World
第 11 回 JavaScript の基本的な使い方：動きのあるホームページの作成
第 12 回 JavaScript による対話型のホームページの作成
第 13 回 プレゼンテーション資料を作る：作成ソフトの利用法、テキストの入力と配置、図形・画像の取り込みとデザイン
第 14 回 魅せるプレゼンテーション：グループワークとしてのプレゼンテーション企画発表

オフィスアワー
別途各教員より指示する

授業形態
演習
授業の具体的な進め方
演習形式で行い、毎週提出課題を課す。第 13 回はグループワークを行い、第 14 回はグループ発表を行う。

関連科目
「情報編集入門」(両学部)、「情報と社会」(両学部)、「メディアと知的財産権」(メディア情報学部)
授業に持参するもの
教科書
『なし』
参考書
『授業資料を Web ページで受講者に公開する。』
学生へのメッセージ
パソコンを道具として使いこなして情報収集・発信にとりくもう。
その他・自由記述欄
遅刻せず必ず出席するとともに、自主的に課題に取り組むこと。

情報編集入門	
科目英名	Multimedia Workshop
担当者	清水、馬場、フィッツギボンズ、山崎(瑞)、春日 <kasuga@tcu.ac.jp(春日), shimizu@tcu.ac.jp(清水), mizuki@tcu.ac.jp(山崎) >
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要
今日、デジタルカメラやパソコンの各種編集ソフトが普及し、またパソコンの処理速度が上がり、メモリ、ハードディスクの容量も増えたため、映像や音声の編集も以前に比べてはるかに容易にできるようになりました。しかし、人の感性に訴えることで相手にメッセージを伝え、共感を得るには、単にそのようなツールが使えただけでなく、それらのツールを使って自分の伝えたい情報を相手に受け入れられるように効果的に組み立てていくスキルが必要となります。
この授業では、そのような問題意識のもと、特に写真やムービー等のイメージを中心とした情報編集の方法について演習形式で学んでいきます。はじめに、広告やテレビのイメージ表現を分析的に読み取るリテラシーを身に付けます。次に、それを踏まえて特定のテーマについて写真やムービーを使って表現する情報編集技法を習得します。最後に、それらのスキルを応用し、自らの定めるテーマについてグループで協働しながら一つのマルチメディア作品を企画し、制作します。

The aim of this course is to invite the first students to the multimedia workshop so that they will be able to obtain such skills as video-camera shooting, non-linear editing, sound editing, and the various ways of presenting their works effectively.

達成目標
*身の回りの映像表現を分析的に読み解くリテラシーを身につけます。
*自らが定めるテーマに関し映像で表現する知識とスキルを獲得します。

成績評価
個人点(60%)・チーム点(40%)別に評点し合計して成績をつけます。

(1) 個人点の評価基準：演習課題の提出状況と内容、チームのワークへの貢献度、出席状況

(2) チーム点の評価基準：プロジェクト作品の内容、目的の明確さ、テクニックの習熟度、著作権・倫理的側面への配慮、プレゼンテーションの的確さ

予習復習時間
1 回の授業につき 4 時間の自学自習が必要です。本授業の場合、企画、撮影、編集など、授業時間外の作業を多く必要とします。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
グループ単位の作業が多い授業です。遅刻や欠席など、自分の役割を果たせないようなことがないよう、注意してください。

授業計画
第 1 回 フォトイメージで“らしさ”を表す
第 2 回 イメージのレトリックを読む
第 3 回 イメージの繋がりで物語る
第 4 回 ビデオ制作に備える
第 5 回 カメラの動きで意味を構成する
第 6 回 ムービー素材を吟味し、選択する
第 7 回 ムービー素材を組み立て、整える
第 8 回 ムービー作品発表会
第 9 回 グループ制作を企画・構成する
第 10 回 企画内容を魅力的に伝える
第 11 回 取材し、素材を集める
第 12 回 作品を作り込む
第 13 回 作品を仕上げ、見せ方を工夫する
第 14 回 グループ作品発表会

オフィスアワー
火曜昼休み(清水)・金曜 3 時限(山崎)・授業後 1 時間(咸)・木曜 4 時限(北村)・木曜昼休み(枝廣)

授業形態
演習(主にグループワーク)
授業の具体的な進め方
画像と映像の分析的な読み方に関する知識を得た後、短いムービー作品を各自制作します。後半はグループでテーマを定め、映像作品を協働制作します。

関連科目
授業に持参するもの
教科書
参考書
学生へのメッセージ
後半のグループでの映像作品制作はもちろんのこと、授業前半もグループ単位での作業が多い授業です。遅刻や欠席は自分だけでなく、グループメンバーに迷惑をかけることになるため厳禁です。
その他・自由記述欄

教授要目

情報通信技術入門	
科目英名	Introduction to Information and Communications Technology
担当者	諏訪 敬祐 <suwa@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本講義では、デジタル情報の表現、コンピュータの仕組みについて理解し、インターネット、携帯電話システム及びセキュリティの基礎を学習する。

This lecture provides the basic understanding of the computer system, the Internet and mobile communication system for a freshman.

達成目標

デジタル情報の表現方法、コンピュータの基礎知識の修得とインターネット、通信システムとサービスの基本を理解する。

成績評価

課題レポート（40 点）及び期末試験（60 点）の合計点により評価する。

予習復習時間

各回の講義資料は授業ホームページに掲載されるので、事前に眼をとおして予習すること。質問があるときは授業時間及びオフィスアワーで確認して疑問点を解消すること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

情報通信技術に関する興味や関心が必要である。

授業計画

- 第 1 回 情報通信概要
- 第 2 回 情報の表現(1)
- 第 3 回 情報の表現(2)
- 第 4 回 コンピュータの構成
- 第 5 回 コンピュータの仕組み
- 第 6 回 デジタル情報機器
- 第 7 回 コンピュータネットワーク
- 第 8 回 インターネット
- 第 9 回 インターネットサービス
- 第 10 回 情報通信システム
- 第 11 回 情報通信サービス（有線系）
- 第 12 回 情報通信サービス（無線系）
- 第 13 回 情報セキュリティ
- 第 14 回 まとめ

オフィスアワー

金曜日 17:00 以降（事前に suwa@tcu.ac.jp へ連絡すること。）

授業形態

講義とビデオ映像で授業を行う。

授業の具体的な進め方

講義資料は授業のホームページに掲載する。印刷して授業に臨むこと。講義はプロジェクトを用いた講義形式である。ビデオ映像を視聴することにより情報通信技術への関心や理解を深める。

関連科目

情報リテラシー演習

授業に持参するもの

講義資料、閲覧用パソコン

教科書

はじめての情報通信技術と情報セキュリティ 諏訪敬祐、関良明 丸善出版 2015 年 978-4-621-08909-5

参考書

なし

学生へのメッセージ

授業には毎回出席すること。課題レポートの提出と試験は必須です。

その他・自由記述欄

PBL による産学協働演習	
科目英名	Industry-University Collaborative Practice on Project Based Learning
担当者	野中 謙一郎. 小林 志好 <knonaka@tcu.ac.jp, ykoba@tcu.ac.jp>
単位数	単位
開講時期	1 年前期

科目概要

企業からの課題に対して、専門分野の異なる学生がグループワークを重ね、アイデアをプレゼンテーションし、それを企業が講評するという PBL (Problem based learning) である。

達成目標

グループワークによる実社会の課題への取り組みや発表・討論において、アイデア提案や議論、目標設定や計画の遂行を経験する。これらを通じて、社会人として必要な力を理解し、今後の学修に必要な主体性を体得する。

成績評価

毎回の振り返りレポート(30%)、課題に対する提案内容(30%)、中間発表およびプレゼンテーション(40%)を対象にして、授業を通じて身につけた“社会で活躍できる力”を評価する。

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

学部や前提知識を問わず履修できる。履修希望者が多い場合は、科目の性質上、履修者数の制限を行うことがある。全ての回に出席してチームで活動を行うことが求められる。

授業計画

- 第 1 回 マインドセット・ルール説明
- 第 2 回 課題とは？ディスカッションの練習
- 第 3 回 企業からの課題提示
- 第 4 回 グループ活動（議論・情報収集）
- 第 5 回 中間発表（企業への一次提案）
- 第 6 回 グループ活動（議論・情報収集）
- 第 7 回 企業への最終提案と講評
- 第 8 回 前半の振り返り、思考を整理し深めるためのスキル紹介、チーム編成
- 第 9 回 企業からの課題提示
- 第 10 回 グループ活動（議論・情報収集）
- 第 11 回 中間発表（企業への一次提案）
- 第 12 回 グループ活動（議論・情報収集）
- 第 13 回 企業への最終提案と講評
- 第 14 回 全体の振り返り、今後の目標

オフィスアワー

平日の 12:30-13:20

授業形態

グループワークによる討議とプレゼンテーションを中心とした演習

授業の具体的な進め方

企業から出題された実践的な課題について、チームで情報収集と議論を行い、解決策を発表・提案する。それに対して企業がコメントする。受講生は振り返りを通じて、社会で必要な考え方や力を理解する。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

受講生の皆さんは、企業が実際に直面している課題に取り組むことになります。同じチームの仲間と協力しながら検討を重ね、自分達の力で企業に対して提案を試みながら、成長を実感することを期待します。なお、初回授業時に選抜を行うので、必ず出席すること。

その他・自由記述欄

教授要目

ボランティア (1)

科目英名	Volunteer (1)
担当者	各教員
単位数	1 単位
開講時期	1 年生前期

科目概要

学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行なわれる無償の活動を経験するものである。得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し、単位認定を行なう。持続可能で豊かな社会は、人々の経済的活動としての仕事や個人的な生活だけでなく、地域での公共的な活動を自発的に担うことによってはじめて実現される。そのような自発的な社会貢献活動を体験し、広範な世代や職業の人々との触れあいや共同作業を通して、その後の大学での修学の充実と社会のなかで自ら果たすべき役割について自覚することを目的とする。

達成目標

- ・自発的な社会貢献活動を体験し、その意義について理解を深める
- ・広範な世代や職業の人々との触れあいや共同作業を通して、視野を広げ、以後の学生生活や卒業後のキャリア形成への理解を深める

成績評価

1 週間（実質 5 日間）を目安とするボランティア活動を行い、「ボランティア活動ガイド」に定める活動日誌、活動報告書などの提出書類をもとに評価する（100%）

予習復習時間

参加するボランティア活動の意義・内容を事前、およびボランティア活動の期間を通じて学習し理解する十分な時間を要する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「ボランティア活動ガイド」に記載されている内容に従うことが前提である。また、必要な手続き、書類提出が完了していること。事前に指導教員またはクラス担任に十分に相談すること。

授業計画

- 第 1 回 事前学習としてボランティア活動の内容を十分理解するとともに、活動団体・機関に連絡の上、詳細な説明を受ける。ボランティア活動開始前までに活動申請書・計画書の提出が必要である。
- 第 2 回 ボランティア活動に従事する。活動中は「ボランティア活動日誌」を作成する。



第 1 3 回

- 第 1 4 回 活動終了後に、「ボランティア活動報告書」「ボランティア活動レポート」を作成し、必要書類とともに学生支援センターに提出するとともに、担当教員の面談を受ける。

オフィスアワー

クラス担任または研究指導教員に相談すること。

授業形態

講義、発表、学外実習

授業の具体的な進め方

研修先での実習

関連科目

授業に持参するもの

なし（研修期間については企業側の指示による）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

研修先の担当者に指導をしていただくため、社会人として常識ある発言および行動をすること。

その他

ボランティア (2)

科目英名	Volunteer (2)
担当者	各教員
単位数	1 単位
開講時期	1 年生後期

科目概要

学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行なわれる無償の活動を経験するものである。得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し、単位認定を行なう。本科目は、すでにボランティア活動（1）を修得した学生がさらに学習をすすめるために設置する。

達成目標

- ・自発的な社会貢献活動を体験し、その意義について理解を深める
 - ・広範な世代や職業の人々との触れあいや共同作業を通して、視野を広げ、以後の学生生活や卒業後のキャリア形成への理解を深める
- ボランティア活動（1）とあわせて、上記 2 点についての理解をさらに深める。

成績評価

1 週間（実質 5 日間）を目安とするボランティア活動を行い、「ボランティア活動ガイド」に定める活動日誌、活動報告書などの提出書類をもとに評価する（100%）

予習復習時間

参加するボランティア活動の意義・内容を事前、およびボランティア活動の期間を通じて学習し理解する十分な時間を要する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「ボランティア活動ガイド」に記載されている内容に従うことが前提である。また、必要な手続き、書類提出が完了していること。事前に指導教員またはクラス担任に十分に相談すること。

授業計画

- 第 1 回 事前学習としてボランティア活動の内容を十分理解するとともに、活動団体・機関に連絡の上、詳細な説明を受ける。ボランティア活動開始前までに活動申請書・計画書の提出が必要である。

- 第 2 回 ボランティア活動に従事する。活動中は「ボランティア活動日誌」を作成する。



第 1 3 回

- 第 1 4 回 活動終了後に、「ボランティア活動報告書」「ボランティア活動レポート」を作成し、必要書類とともに学生支援センターに提出するとともに、担当教員の面談を受ける。

オフィスアワー

クラス担任または研究指導教員に相談すること。

授業形態

講義、発表、学外実習

授業の具体的な進め方

研修先での実習

関連科目

授業に持参するもの

なし（研修期間については企業側の指示による）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

研修先の担当者に指導をしていただくため、社会人として常識ある発言および行動をすること。

その他

教授要目

教養ゼミナール(1) (英語 CM に見る現代社会)

科目英名	Cultural Seminar
担当者	吉田 国子 <yoshida@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

全学年対象のゼミナールで、テーマは「英語 CM に見る現代社会」。履修者を最大 20 名とする。

達成目標

英語 CM の内容を把握し、その根底にある価値観を理解する。それに基づいてグループでの議論を経て、与えられたテーマについて発信する技能を獲得することを目標とする。

成績評価

発表 (60%)、課題 (20%)、平常 (20%) の総合評価。

予習復習時間

100 分の授業に対し、4 時間の予習復習を要す。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

社会への興味関心。

授業計画

- 第 1 回 Course guidance: Where can you watch English commercial films?
第 2 回 English commercial film 1: Watch and comprehend an American commercial film
第 3 回 English commercial film 1: Analyze and discuss the American commercial film
第 4 回 English commercial film 1: Make and publish your own version of the commercial film
第 5 回 English commercial film 2: Watch and comprehend a British commercial film
第 6 回 English commercial film 2 Analyze and discuss the British commercial film
第 7 回 English commercial film 2 Make and publish your own version of commercial film
第 8 回 English commercial film 3: Watch and comprehend an Australian commercial film
第 9 回 English commercial film 3: Analyze and discuss the Australian commercial film
第 10 回 English commercial film 3: Make and publish your own version of the commercial film
第 11 回 English commercial film 4: Watch and comprehend a South African commercial film
第 12 回 English commercial film 4: Analyze and discuss a South African commercial film
第 13 回 English commercial film 4: Make and publish your own version of the commercial film
第 14 回 Final presentation: Make and publish your commercial film of Tokyo City University

オフィスアワー

火曜日 昼休み

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

グループでの議論や発表を中心としたゼミナール形式。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

積極的に活動する姿勢を高く評価する。

その他・自由記述欄

履修希望者が 20 名を超えた場合は選抜を行うので、初回授業に必ず出席のこと。

Movies in English ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	E・マディーン <emadeen@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

Students will improve their English through watching, discussing and writing about movies in English.

達成目標

The aim of the class is to instill enjoyment of watching movies in English and improve students' English.

成績評価

Students will be evaluated based on the quality of their movie journals, participation and attendance.

予習復習時間

Writing in their movie journal every week.

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

Not applicable.

授業計画

- 第 1 回 Talking about movies you've seen
第 2 回 Talking about movie genres
第 3 回 Summarizing a movie section
第 4 回 Talking about your reaction to a movie
第 5 回 Making a prediction
第 6 回 Talking about culture
第 7 回 Talking about characters
第 8 回 Summarizing a movie section
第 9 回 Talking about plot?
第 10 回 What exactly is plot?
第 11 回 Talking about movie messages and ratings
第 12 回 Acting out a scene
第 13 回 Writing a movie review
第 14 回 Watching a great movie on your own and note taking Review

オフィスアワー

12:30-1 p.m. Wednesdays

授業形態

Student centered class

授業の具体的な進め方

Students will watch and discuss movies in English in class and write about them in their movie journals.

関連科目

None

授業に持参するもの

electronic dictionary

教科書

Movie Time Bray Nan'un-do 2012 978-4-523-17708-1

参考書

None.

学生へのメッセージ

You'll not only improve your English but also enjoy movies in English!

その他・自由記述欄

Do your best!

教授要目

トータル・テニスゼミナール	
科目英名	Cultural Seminar
担当者	岩嶋 孝夫 <tiwashi@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
テニスは、生涯スポーツとして老若男女問わず親しまれているスポーツである。この授業ではテニスをプレーしたことがある学生、もしくは現在もプレーしている学生を対象にして、テニスの歴史やスポーツとしての特性、詳細なルールについて講義する。さらにビデオ撮影、メンタルテスト、体力テスト、ゲーム分析を通じて、技術的・精神的・体力的及び戦術的な側面から「自分のテニスを知る」ために、文字どおりテニスを「Total」に解説していく。
達成目標
テニスに関する専門的知識を習得するだけでなく、自分のテニスの現状を知ることにより、自分自身でテニスの改善目標を設定できる能力を身につける。
成績評価
授業への積極性 30%、課題への取り組み方 20%、レポート 50%とする。
予習復習時間
テニスの練習だけでなく、テニストーナメントへの出場や試合観戦を積極的に行うこと。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
テニスのレベルは問わないが、テニスのゲームができること、さらにテニスに対する興味および向上心を持っていることを前提とする。
授業計画
第 1 回 授業内容に関するガイダンス
第 2 回 テニスの歴史と特性
第 3 回 ビデオ撮影（フォームチェック）のプラン作り
第 4 回 ビデオ撮影
第 5 回 前時に撮影したビデオ再生によるグループ内討論と自己分析
第 6 回 前時をふまえたグループ練習（フィードバック）
第 7 回 テニスのルール解説
第 8 回 テニスのための体力トレーニング
第 9 回 体力測定（フィールドテスト）とメンタルチェック
第 10 回 テニスのゲーム分析方法
第 11 回 ゲーム分析の実践（シングルス：レベル差があるプレーヤーとの対戦）
第 12 回 ゲーム分析の実践（シングルス：レベルの近い相手との対戦）
第 13 回 ゲーム分析の実践（ダブルス）
第 14 回 授業のまとめ、レポート課題に関する説明
オフィスアワー
月曜日 15:00～16:30
授業形態
講義及び実技
授業の具体的な進め方
適宜資料を配布しながら、講義室での講義またはテニスコートでの実技を行う。
関連科目
基礎体育（1）（2）、応用体育
授業に持参するもの
その都度指示する。
教科書
参考書
新版テニス指導教本 日本テニス協会 大修館 2005 4-469-26580-2
学生へのメッセージ
グループ内での積極的なコミュニケーションを期待する。
その他・自由記述欄

視覚文化ゼミナール	
科目英名	Cultural Seminar
担当者	岡山 理香 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
文化は、あらゆる感覚をもって生み出され、あらゆる感覚をもって享受される。本ゼミナールは、特に視覚によって確認される文化を研究対象とする。それは、絵画、彫刻、建築、工芸、映像等広範囲に及ぶが、一貫して「モダニティー（近代性）」の追求を試みることにによって、現在の多岐にわたる視覚文化の状況を見極めることを目的とする。
達成目標
本ゼミナールは、理論を学ぶとともにその実践としての作品制作を目標とする。本年は、グループ作品として茶道場である茶室の実寸大模型を制作する。
成績評価
個人作品とグループ作品の「総合評価」
予習復習時間
予習 1 時間 復習 1 時間
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
視覚芸術史（美術）（1）（2）を履修済みのこと。
授業計画
第 1 回 視覚文化とは何か：参考資料を用いての演習
第 2 回 " : 茶室について
第 3 回 " : 茶の湯について
第 4 回 視覚文化の現況を捉える：記録手段（ビデオカメラ等）を用いてのフィールドワーク、美術館見学等を行なう。
第 5 回 武蔵庵にて茶会の体験
第 6 回 茶室の見学（五島美術館、目黒区庁舎内茶室）
第 7 回 テーマの設定：前講をふまえ、ゼミナール参加者は個々にテーマを設定し、最終講義のプレゼンテーションにむけての活動を行なう。（個人作品の制作）
第 8 回 "
第 9 回 個人作品講評会
第 10 回 テーマの設定：前講をふまえ、ゼミナール参加者は、グループごとにテーマを設定し、最終講義のプレゼンテーションにむけての活動を行なう。（グループワーク）
第 11 回 茶室の製作 1（図面作成）
第 12 回 茶室の製作 2（材料の準備）
第 13 回 茶室の製作 3（組み立て）
第 14 回 製作した茶室でのお茶会を催す
オフィスアワー
水曜日 14:00～17:00
授業形態
ゼミナール
授業の具体的な進め方
本ゼミナールは、講義、討論、演習によって構成される。演習には模型制作も含まれる。また、なかなか入る機会のない茶室を実際に見学し、理解を深める。茶の湯の実践も行う。
関連科目
視覚芸術史（1）（2） デザイン概論（1）（2）
授業に持参するもの
教科書
参考書
茶室の歴史 中村昌生 淡交社 1998 4473016145
茶の本 岡倉天心 岩波文庫 1929 4003311515
伝統建築と日本人の知恵 2007 9784794215819
学生へのメッセージ
日本の伝統文化を今日に息づかせるための一つの方策として、昨年度に続き、本年も茶室の実寸大模型を作ります。今日に作られる茶室は、まさに現代建築であることを認識しておいて下さい。
その他・自由記述欄

自国の文化をより深く知ることは、世界の様々な文化を理解する助けともなります。そうして、お互いの文化を尊重することで、また何か素晴らしいことやものが生まれるでしょう。

教授要目

ポスト 3.11 を考えるゼミナール	
科目英名	Cultural Seminar
担当者	山本 史華 <各担当教員に尋ねること。代表の山本はfyama(at)tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本ゼミを履修する前に、5 年前の 3 月 11 日のことをもう一度思い出してみよう。その時、自分はどこにいて、何をしていただろうか。数々の衝撃的な映像を目の当たりにして、どのような感慨を抱いただろうか。あれから 5 年が経過した。この 5 年間で、自分や日本はどれだけ変わっただろうか。

ポスト 3.11 の社会が、ブレ 3.11 と同じような社会であり続けるならば、またいつか同じ被害が繰り返されるだけだ。我々は、3.11 から何かを学ばなければならない。それは何なのかを考えるために、ブレ 3.11 とポスト 3.11 を比較する視点を持とう。そして、何を変え、何を維持すべきなのか、を学際的な視野に立ちながら、ともに追究していこう。履修後、希望の持てるゼミにしたい。

達成目標

災害の歴史とポスト 3.11 の現状について知り、これからどうすべきかについて自分なりの見解をまとめられるようになること。

成績評価

レポートもしくは最終回での発表内容をもとにして、出席も考慮に入れながら、総合的に評価する。

予習復習時間

ブレ 3.11 とポスト 3.11 を比較する視点を持ちながら、時事問題に対して、自分の意見や疑問点をまとめてくること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

履修希望者は必ず初回に出席すること。

授業計画

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 岡山理香

「私たちは、震災の記憶をどのように伝えていくのか？―被災地での体験とともに―」

第 3 回 岡田住子

「突き動かすもの 原子力分野の片隅から見えるもの」

第 4 回 千田茂博

「こころのケアとソーシャル・サポート」

第 5 回 杉本裕代

「『我慢』の精神とポスト 3.11」

第 6 回 岡田啓

「エネルギー政策と震災」

第 7 回 特別公開講演 秋鹿研一

「再生可能エネルギーと水素社会」

第 8 回 映画「100,000 年後の安全」上映と討論

第 9 回 フリーディスカッション

第 10 回 皆川勝

「シビルエンジニアが市民のための技術者であるために」

第 11 回 新保良明

「79 年「8.24」ボンベイ消滅―復興されなかった都市―」

第 12 回 寺澤由紀子

「ゴジラ映画における記憶の表象」

第 13 回 山本史華

「低線量被曝と高レベル放射性廃棄物の倫理」

第 14 回 学生の発表

オフィスアワー

各担当教員に尋ねること。

授業形態

ゼミ形式。

授業の具体的な進め方

各担当教員が、自らの専門領域と関連させながら問題を提起し、学生とともに考えながら進んでいく、双方向ゼミ。参加者は、毎回最低一度は発言するように心がけること。参加者全員がもっと自由に討論できるようにするため、フリーディスカッションの回も設けている。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

教科書

リレー講義 ポスト 3.11 を考える 山本史華・杉本裕代ほか 萌書房 2015 978-4-86065-092-6

参考書

学生へのメッセージ

我々は、3.11 を教訓にして、変わることができただろうか。3.11 を転機にできるか否かは、いまにかかっている。「転機を生きている」という自覚、あるいは「転機をつくる」という意欲をもって、ゼミに臨んで欲しい。単なる単位欲しさの学生、やる気のない学生の履修は断る。

その他・自由記述欄

本ゼミは、共通教育部が主催している。

有志で、本学王禅寺キャンパスの原子力研究所を見学しに行く予定である。

スポーツゲーム分析ゼミナール	
科目英名	Cultural Seminar
担当者	岩嶋 孝夫 <tiwashi@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

スポーツ競技において、自チームを勝利に導くために相手チームのゲーム分析（スカウティング）をすることはもはや一般的になってきた。また、自分自身（自チーム）のゲーム分析をすることによっても、次の試合に向けた改善目標を設定することができる。この授業では、スポーツ競技において行われているゲーム分析について具体的に解説した上で、受講者に受講者自身が行っている、もしくは興味を持っているスポーツ種目に関する分析テーマを決定させる。分析テーマについてデータ収集から分析、考察を行わせ、中間発表を経た上でプレゼンテーション及び小論文としてまとめさせる。

達成目標

個々に興味のあるスポーツ競技のゲーム分析結果を報告する過程において、データ収集・分析の能力およびプレゼンテーション能力を高め、同時に受講者が取り上げたスポーツ競技についての理解を深めることを目標とする。

成績評価

授業に対する積極性：30%、プレゼンテーション（中間発表含む）：40%、小論文：30%とする。

予習復習時間

面談や発表及び小論文作成に向けて、データ収集や分析、考察、さらにプレゼンテーション準備の時間が必要である。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

受講者自身のテーマ決定およびデータ収集となるので、特定の対人的または集团的スポーツ競技に強い興味・関心を持っていること。

授業計画

第 1 回 授業内容に関するガイダンス

第 2 回 ゲーム分析とは何か

第 3 回 ゲーム分析の方法（データ収集、データ整理、統計処理）

第 4 回 データの分析及び考察

第 5 回 中間発表に向けた準備（レジュメの作成、発表方法）

第 6 回 中間発表とディスカッション 1 回目

第 7 回 中間発表とディスカッション 2 回目（前回未発表者）

第 8 回 中間発表とディスカッションをふまえた見直し作業

第 9 回 プレゼンテーションに向けた準備

第 10 回 プレゼンテーションとディスカッション 1 回目

第 11 回 プレゼンテーションとディスカッション 2 回目

第 12 回 プレゼンテーションとディスカッション 3 回目

第 13 回 小論文の作成方法

第 14 回 授業のまとめ、受講者による意見交換

オフィスアワー

月曜日 15:00 から 16:30

授業形態

講義および演習形式

授業の具体的な進め方

必要に応じて、受講者が決めたテーマやその内容について個人面談を実施する。

関連科目

基礎体育（1）（2）、応用体育

授業に持参するもの

適宜指示する。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

この授業では受講者自身でテーマや調査内容を決定していくので、より積極的な態度で授業に臨んでほしい。また、他の受講者が取り上げたスポーツ競技に対しても興味を持とうとする気持ちが必要である。

その他・自由記述欄

参考書については、受講者各自のテーマに応じて紹介する。

教授要目

ラグビーゼミナール(1)	
科目英名	Cultural Seminar
担当者	渡辺 一郎 <
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
ラグビーフットボールの成立過程を、英国の歴史や文化と関連づけて学ぶとともに、ラグビーを通じたスポーツ文化論ならびにトレーニング論の研究を行い、自らの運動実践における態度の育成やスポーツの理解を学ぶ。
達成目標
英国の歴史の理解 フットボール成立の時代、社会背景の理解 英国文化の理解 ラグビーの持つ競技特性とジェントルマンシップの関連についての理解
成績評価
授業態度（積極的に授業に取り組んでいるか等）（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション能力（30%）
予習復習時間
前週で配布される資料をしっかりと読んで関連事項に関して調べておくこと
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
ラグビーを専門的に追及するため、ある程度のラグビーについての知識が必要であるためラグビー経験者が望ましい。
授業計画
第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 ラグビーの構造
第 3 回 民族的ゲームとパブリックスクールにおけるフットボール
第 4 回 フットボールからサッカー、ラグビーへ
第 5 回 アマチュアリズムの成立過程
第 6 回 ルールの成立
第 7 回 オフサイドルールについて
第 8 回 英、米、日本のスポーツ文化の相違
第 9 回 キャプテンシー
第 1 0 回 ラグビーとプロフェッショナルリズム
第 1 1 回 戦うためのキーフクター
第 1 2 回 ラグビーとウェイト・トレーニング
第 1 3 回 ゲーム分析法(1) セットプレー
第 1 4 回 ゲーム分析法(2) ジェネラルプレー
オフィスアワー
火曜日 9:00～12:15
授業形態
資料を配布、また最後の授業には各自発表をする。
授業の具体的な進め方
関連科目
スポーツ・健康論
授業に持参するもの
特になし
教科書
参考書
学生へのメッセージ
ラグビーはコンタクトを含んだボールゲームである。この特殊性が相手に対する思いやり、フェアプレー、スポーツマンシップ等の考え方が生まれた要因でもある。相手との関係が希薄になっている現代社会では、ラグビーを学ぶことにより相手を思いやる心やコミュニケーション能力の育成に是非とも必要である。
その他・自由記述欄

生涯スポーツ(ゴルフ)ゼミナール	
科目英名	Cultural Seminar
担当者	山田 盛朗 <yamadamo@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
生涯続けることのできるスポーツであるゴルフをテーマとして、様々な観点からゴルフを学び、実践する。週に 1 度のゴルフの実技や講義に加え、得た技術を実際のコースに出て実践する授業となっている。
達成目標
実践で活用できるようなルール・マナーを覚えること。 コースで楽しんでラウンドできる技術を身につけること。 ゴルフコースでプレーをし、各自の目標スコアを切ること。
成績評価
学内授業・学外授業での出席を前提とし、授業に対する意欲、技術の向上度、実践におけるルール・マナーなどがしっかりとできているかを総合的に判断する。
予習復習時間
学んだ技術をしっかりと復習し 9 月の学外授業に臨むこと。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
初心者でも構いません。
授業計画
第 1 回 授業の進め方
第 2 回 スイングの実践と基礎
第 3 回 スイングの理論と実践
第 4 回 技術の習得と展開
アイアンショットの練習
第 5 回 個々のフォーム分析
第 6 回 アイアンショットの練習
第 7 回 様々なクラブについての説明
第 8 回 アプローチショットの練習
第 9 回 ドライバーショットの練習
第 1 0 回 パターの練習
第 1 1 回 ルール、マナーについて
第 1 2 回 実戦練習（仮想コースにて）
第 1 3 回 実戦練習（ショートコースにて）
第 1 4 回 実戦練習（本コースにて）
オフィスアワー
金曜日の昼休み（1 2 時 3 0 分～1 3 時 2 0 分）
授業形態
講義並びに実技、実習
授業の具体的な進め方
実技中心の授業となる。
学内授業では、世田谷キャンパスの体育館、1 0 号館屋上などを使用し、ゴルフの基礎技術、基礎知識を習得する。
9 月はじめに行う学外授業は、2 泊 3 日で群馬県のサンコー 7 2 ゴルフコースを予定している。
関連科目
授業に持参するもの
実技時はグローブの着用が望ましい。
コースをラウンドする時には、各自ゴルフシューズを準備すること。（クラブは貸し出します）
教科書
参考書
学生へのメッセージ
ゴルフをやりたい！新しいことにチャレンジしたい！ゴルフがうまくなりたい！そんな学生の参加を期待しています。一緒に楽しくゴルフをやきましょう！！！！
その他・自由記述欄

教授要目

新しい自分を探る心理学ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	千田 茂博 <ssenda(at)tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

心理学・特に臨床心理学の知識を学びながら、履修者自身に関する理解を深めていくことを目的としている。そのために、グループでの話し合いを通して、心理学の知識と自分の体験とを重ね合わせながら、より深く心の内面に迫りたい

達成目標

受講者各自が自己理解を深めていくことで、自己課題を明確化して取り組んでいくことをめざす

成績評価

授業中の課題（30点）、最終レポート（70点）

予習復習時間

1回の講義に対して4時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

このゼミの性質上、10名程度が適当と思われる。選抜方法は初回のゼミの時間に説明するので、必ず出席すること。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 各自の問題意識の共有
- 第 3 回 ジョハリの窓
- 第 4 回 体験学習
- 第 5 回 心理テスト（1）PI の体験
- 第 6 回 参考文献についてのディスカッション（1）
- 第 7 回 参考文献についてのディスカッション（2）
- 第 8 回 心理テスト（2）エゴグラムの体験
- 第 9 回 自己理解のためのディスカッション（1）
- 第 10 回 自己理解のためのディスカッション（2）
- 第 11 回 自己理解のためのディスカッション（3）
- 第 12 回 各自の自己課題の検討（1）
- 第 13 回 各自の自己課題の検討（2）
- 第 14 回 各自の自己課題の検討（3）

オフィスアワー

木曜日、金曜日ともに、12：30から16：00まで学生なんでも相談室にいます。

授業形態

ゼミ形式

授業の具体的な進め方

グループディスカッションを中心とする授業

関連科目

発達と教育

授業に持参するもの

その都度指定する。

教科書

なし

参考書

授業中に随時紹介

学生へのメッセージ

自分の内面を表現する場面があるので、心の準備をしておくこと。

その他・自由記述欄

マイノリティの歴史と記憶ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	寺澤 由紀子 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

多民族国家でありながら、白人中心の社会であるアメリカの中で、常に周縁に置かれ、抑圧や迫害の対象となってきた少数民族。しかしそのような白人中心主義的イデオロギーの中、彼らは、自らのアイデンティティを確立し、その権利を主張するために様々な闘いを展開してきた。この授業では、特にネイティブアメリカン、日系アメリカ人、ブラックアメリカンに焦点を充て、彼らの歩んできた歴史的、社会的背景を探ると共に、それぞれの抱える記憶が、音楽、映画、メモリアルなどの文化的産物にどのように表象されているかを考察する。

達成目標

- ・アメリカに生きる3つのエスニックグループの歴史を辿り、彼らの歴史がどのように記憶されているのかを文化表象から考察する。
- ・彼らの歴史を学ぶことによって、その他のマイノリティ（日本でのエスニックマイノリティや、人種以外でのマイノリティも含む）への興味と理解を深める。
- ・国家の主流ナラティヴの中でマイノリティとして生きることとはどういうことかを理解し、メインストリームとのかかわりの中で生じる様々な問題に、自分がどのように関与していけるかを考える。
- ・アメリカの歴史、社会、文化について知識を深めると共に、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につける。

成績評価

平常点（授業への参加度、課題、ミニプレゼンテーション）50%

レポート：50%

予習復習時間

課題を行う時間の他、授業で扱う内容に関する知識を自ら深めるための予習、復習時間を確保すること

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

積極的に学ぼうとする姿勢が求められる

授業計画

- 第 1 回 アメリカとマイノリティ
- 第 2 回 ネイティブアメリカン（1）：その歴史
- 第 3 回 ネイティブアメリカン（2）：ディズニーとネイティブアメリカン
- 第 4 回 ネイティブアメリカン（3）：西部劇における表象
- 第 5 回 ネイティブアメリカン（4）：居留地と核
- 第 6 回 日系アメリカ人（1）：その歴史
- 第 7 回 日系アメリカ人（2）：忠誠審査の重み
- 第 8 回 日系アメリカ人（3）：映画における表象
- 第 9 回 日系アメリカ人（4）：メモリアルの訴えるもの
- 第 10 回 ブラックアメリカン（1）：その歴史
- 第 11 回 ブラックアメリカン（2）：公民権運動
- 第 12 回 ブラックアメリカン（3）：ロス暴動を考える
- 第 13 回 ブラックアメリカン（4）：サウスセントラルの若者たち
- 第 14 回 まとめ

オフィスアワー

火曜：15：15－16：15

授業形態

講義、討論

授業の具体的な進め方

各トピックの初回授業では、それぞれのマイノリティグループに関連した音楽を取り上げ、そこに描かれている内容を考えながら、歴史を追う。その際、あらかじめ決めておいた担当者（初回の授業で決定）はその曲及びミュージシャンについて簡単なリサーチをし、授業で発表を行う。他の受講者も、歌詞の意味を確認しておくこと。それ以降の授業では、映画やメモリアルなどの文化的産物の中に、各マイノリティグループの記憶がどのように表象されているかを探っていくが、受講者は、指示された課題（映画の鑑賞など）をあらかじめすませて授業に臨むこと

関連科目

授業に持参するもの

初回授業で指示する

教科書

参考書

学生へのメッセージ

アメリカはおそらく日本人にとって非常に身近な外国の1つだと思いますが、そこに住むエスニックマイノリティについての知識と理解を深めることで、改めてアメリカという国を見つめなおしてみましょう。

その他・自由記述欄

- * 全授業数の2/3以上の出席が成績評価の前提条件となる
- * 20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とみなす
- * やむを得ず欠席する場合は、責任を持ってその回の授業内容を確認し、次週までの課題もやっておくこと

教授要目

科学ニュースを読むゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	堀越 篤史 <horikosi@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

地球環境問題、新エネルギー・新素材開発、IT、先端医療といった科学技術に関する話題からノーベル賞に代表される純学問的課題まで、巷には多くの科学ニュースが溢れている。それらの内容を把握し他人に分かりやすく伝える力は、現代を生きる理系人にとって必須である。

本ゼミナールは、毎回数名のレポーターが最近の科学ニュースの中から好きな話題を選び、調べ、発表する形で進められる。発表と参加者全員による質疑応答を通じて、個々の話題への理解を深めるとともに現代における科学ニュースの読み方・伝え方を身に付ける。

達成目標

- 1) ニュースの要点を理解できる
- 2) ニュースの要点を分かりやすく伝えることができる
- 3) レポーターの発表に対して適切な質問ができる

成績評価

発表 (50%)、レポート (20%)、議論への参加度 (30%) により評価する。

予習復習時間

2 時間

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

所属学科の専門分野にこだわらず、自然科学全般に広く興味・関心があること。

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
第 2 回 ノーベル賞解説
第 3 回 発表：雷雲から電気エネルギー収集 (以下、過去の例)
第 4 回 発表：系外惑星を可視光で撮影することに成功
第 5 回 発表：「スパイダーマン」スーツ実現の鍵
第 6 回 発表：CO2 地中貯留の実証実験スタート
第 7 回 発表：衣服が透けて見える人体スキャナー
第 8 回 発表：細胞内で動作するバイオコンピュータ
第 9 回 発表：「はやぶさ」また快挙 微粒子は小惑星「イトカワ」の物質と確認
第 10 回 発表：もんじゅ、落下装置の回収中断 機器に異常
第 11 回 発表：パンから水素ができちゃう
第 12 回 発表：ロボットスーツ「HAL」で都内をかつ歩
第 13 回 発表：手のひらサイズの X 線発生装置 京大教授らが開発
第 14 回 発表：「ダチョウ抗体」新型インフルエンザ対策で注目

オフィスアワー

火曜 17:00-18:00

授業形態

レポーターによる話題提供を中心としたゼミナール形式

授業の具体的な進め方

ニュースの選択はレポーターの自由である。テレビ、新聞、雑誌、インターネット等あらゆるメディアから科学関連の記事を選び、図書館や書店等で適当な参考文献を見つけてフォローし、30 分程度の発表を行う。発表終了後、レポーターはニュースの内容と質疑応答をレポートにまとめ、提出する。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

あくまでニュースを読むゼミであるので、卒業研究のゼミで学術論文を読む場合ほどの厳密さはいらない。各回のレポーターは何をどこまで、どのように伝えるべきかを良く考えて準備・発表し、またそれを聞く参加者は、できるだけ素朴な質問をするよう心がけて欲しい。

その他・自由記述欄

教授要目

教養特別講義（コミュニティと地域(まち・むら)づくり）	
科目英名	Special Lecture of the Liberal Arts
担当者	瀬沼頼子
単位数	2 単位
開講時期	1 年生後期

科目概要

日々の暮らしに関わる「コミュニティ」と「地域づくり」について、あらためて考えていく。ひとびとが共に支え合い安心してらせる、豊かで持続可能なコミュニティとは何か、それを実現させるためにはどのような地域づくりが必要なのか、理論と実践事例をもとに学んでいく。現代日本の社会状況から対象をまちに限定せず、農村地域も視野においた内容とする。

達成目標

学生自身が一市民として地域に目を向け、自らできることは何かを考え、行動できる力(主体的市民としての力)を養うことを目標におく。

成績評価

試験成績、課題レポート成績をベースに出席状況も勘案して評価する。

予習復習時間

90分

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特に条件はありませんが、まちづくりに関心があることが望ましい。

授業計画

- 第 1 回 授業の進め方と留意点と学びの目標について
ー授業の取り組み方、参考図書の紹介、成績評価等、半期間本授業を履修するにあたり必要となる基本的事項について説明する。
- 第 2 回 コミュニティとは何か
ー社会学における一般的なコミュニティの捉え方を紹介し、今日のコミュニティ論を捉える。さらに学生自身にとってコミュニティとはどのような存在なのか考える。
- 第 3 回 地域（まち・むら）を捉える
ー地域とは何か、地域を捉えるさまざまな視点を通じてあらためて地域を考えてみる。
- 第 4 回 「グローカル・コミュニティ」視点とくらし
ー持続可能なコミュニティ形成実現に向けての視点である「グローカル・コミュニティ」と私たちのくらしとのつながりについて学ぶ。
- 第 5 回 災害とコミュニティ
ー東日本大震災をはじめ大規模自然災害が発生するたびにコミュニティのあり方が問われてきた。そこで、災害とコミュニティについて考える。
- 第 6 回 地域づくりとひとづくり
ー「まちづくりはひとづくり」と言われるように地域の担い手となるひとの育成が大切なことを学ぶ。
- 第 7 回 まちづくり・むらづくりとは何か
ーあらためてまち・むらづくりについて考える時間とする。それぞれの居住地域について考える時間とする。
- 第 8 回 まちづくりの目的と実践に向けて基本を学ぶ
ーまちづくりはどのように行われていくのか、その手法と主体的市民としてまちづくりへの関わり方について学ぶ。
- 第 9 回 限界集落とコミュニティ形成・むらづくり
ー近年課題となっている限界集落をはじめとする農山村地域の現状を把握し、少子高齢化時代の農山村地域のコミュニティ形成・むらづくりについて考える。
- 第 10 回 都市と農村の共生と地域づくり
ー都市と農村はこれまで対比的に捉えることが多かったが、これからは双方からの繋がり方が大切であり、「共生」視点から都市と農村を捉えてみる。
- 第 11 回 まちづくり事例から学ぶ
ーパワーポイントや配布資料を使い、まちづくり実践事例から学んでいく。
- 第 12 回 むらづくり事例から学ぶ
ーパワーポイントや配布資料を使い、むらづくり実践事例から学んでいく。
- 第 13 回 地域の宝さがしと地域づくり
ー個性・魅力ある地域づくりにおいては、「地域の宝」の発掘やその磨きが大切である。特に地域活性化を実現させていくためには他の地域の模倣でないことが求められ、どのように実践していくかを学ぶ。
- 第 14 回 地域環境保全と持続可能なコミュニティ形成
ー地球環境時代を視野においたコミュニティ形成について考え、授業のまとめを行う。

オフィスアワー

授業終了後 30 分程度

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

講義内容等を示したレジュメを毎回配布する。

授業に持参するもの

筆記用具・ノート、事前に調べてくるようにと指示があった場合にはその内容の資料など。

教科書

『実践事例にみる ひと・まちづくり』瀬沼 頼子・齋藤 ゆか編著 ミネルヴァ書房 2013 年 978-4-623-06405-2

参考書

『シャッター通り再生計画』足立基浩 ミネルヴァ書房 2011 年 978-4-623-05717-7
『観光振興と魅力あるまちづくり』佐々木一成 学芸出版社 2009 年 978-4-7615-2423-4
『コミュニティデザイン』山崎亮 学芸出版社 2011 年 978-4-7615-1286-6
『地域再生の条件』本間義人 岩波新書 2007 年 978-4-00-431059-4
『地域防災とまちづくり』瀧本浩一 イマジン出版 2008 年 978-4-87299-479-7

学生へのメッセージ

皆さんがすんでいる地域のことについて、まずは感心を持ってほしい。学生時代にはいろいろな地域に旅行に出かける機会があると思いますが、その際には単なる観光旅行にとどまらずに、それぞれの地域がどのように「地域づくり」に取組んでいるのか、という視点からも興味を持ち見聞してきてほしい。

その他・自由記述欄

三茶 PJ（世田谷区三軒茶屋で学生が商店会とのコラボで実施しているプロジェクト活動）に現在関わっています。三軒茶屋やまちづくりに関心のある学生の方はまちづくり実践の場である三茶 PJ にぜひ参加してください。

教授要目

キャリアデザイン基礎	
科目英名	Introduction to Career Design
担当者	大重 史朗 <esoshige@yahoo.co.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要
学生が自分のキャリアデザインを行なう上での基礎的な知識と能力を身につける。また、大学での学生生活とプロの社会人との関係や違いを考え、理解することで、各自が目標をもって、高い学習効果が得られるよう工夫をする。

By taking this course, students will acquire basic knowledge and abilities for designing their own careers. And I will motivate them to have objectives and to attain higher studying effects by understanding the relationship and differences between college life and professionals.

達成目標
学生生活（高校と大学の違い）および学生と社会人生活の違いを理解し、4年次に行なう就職活動を念頭に置きながら、大学生として最低限必要で、かつ、社会に出るためにも大切な情報収集のほか、仲間の意見にも耳を傾けながら、論理的に自分の考えをまとめ、人前でわかりやすく発表することなどの基礎力を養う。

成績評価
①出席（50点）；第一に出席を重視します。 ②授業への参加度；（50点）随時、グループワークや教場レポート、プレゼンを実施する際に積極的に参加することを求めます。①、②ともに重視します。

予習復習時間
授業1コマ（100分）に対し、4時間の予習・復習時間をかけてください。ただし、あくまでも授業での作業に集中して取り組むことが大前提です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
毎日、新聞を読む習慣をつけてください。どこをどう読めばよいかは授業で説明します。また、授業には、議論する仲間の立場を尊重し、守秘義務を守る「安全・安心の場」であることを念頭に参加してください。

授業計画
第1回 キャリアデザインの「基礎」とは何か。「学生」と「社会人」の違い 第2回 新聞は社会との接点 新聞をどう読むか、その作られ方と利用の仕方 第3回 新聞記事で論述力・説得力をつける（1） 第4回 新聞記事で論述力・説得力をつける（2） 第5回 新聞記事で論述力・説得力をつける（3） 第6回 仲間の意見に耳を傾ける力をつける（1） 第7回 仲間の意見に耳を傾ける力をつける（2） 第8回 授業や就職に活かす情報収集術 第9回 社会の動きにアンテナを張るスキルを学ぶ（1） 第10回 社会の動きにアンテナを張るスキルを学ぶ（2） 第11回 社会の動きにアンテナを張るスキルを学ぶ（3） 第12回 仲間の前で話す技術を身に着ける（1） 第13回 仲間の前で話す技術を身に着ける（2） 第14回 仲間の前で話す技術を身に着ける（3）&後期の振り返り

オフィスアワー
授業時間前後の休み時間に相談などに応じます
授業形態

講義とグループワーク、レポート作成、プレゼンテーション等を取り入れます。
授業の具体的な進め方
講義や文章作成の作業、グループによるディスカッションなどを交えて行う。必要に応じて教場レポートの執筆も行う。 毎回の授業中の作業に集中することを第一とし、定期テストは行わない。 （上記14回の内容はあくまで予定であり、状況に応じて変更もありうるので注意してください）

関連科目
キャリアデザイン、その他1年次に配当される教科すべての知識や考え方が関連します。
授業に持参するもの
筆記用具。回によっては、事前の教員の指示により、当日の新聞朝刊などを持参してもらうことがあります。
教科書

（主にプリントを配布する）
参考書
（授業中に紹介します）
学生へのメッセージ

受講する学生同士、お互いの立場を尊重し、授業に積極的に参加することを心掛けてください。
その他・自由記述欄

キャリアデザイン基礎	
科目英名	Introduction to Career Design
担当者	吉野 賢治 <kyoshino@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要
学生が自身のキャリアデザインを行う上での基礎的な知識、能力を身に付ける。また、大学での学習と社会や仕事とのつながりを理解することにより、各自が目標を持って、より高い学習効果が得られるような動機付けを行う。

By taking this course, students will acquire basic knowledge and abilities for designing their own careers. And we will motivate them to have objectives and to attain higher studying effects by understanding the relationship between studying at a university and professions.

達成目標
1. 社会で求められる能力、企業・業界・職種の知識、自分自身について理解する。 2. コミュニケーションとは何かを理解し、グループワークを通じて実践する力を身につける。 3. プレゼンテーションとは何かを理解し、課題の発表を通じて実践する力を身につける。 4. 自らのキャリアについて、目標を持ち、その実現のために学生生活をどのように過ごすかを明確にする。

成績評価
1. 毎回の講義内で出題する課題、グループワークの成果、講義およびグループワークへの取り組み姿勢（45%） （課題提出数が一定数を満たさない場合は、評価対象としない） 2. レポート（45%） 3. プレゼンテーション（10%）

予習復習時間
1回の授業につき4時間の自学自習が必要（自学自習時間は 学則第18条に基づく）
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

講義およびグループワークへの積極参加および規律性
授業計画

第1回 オリエンテーション キャリア、キャリアデザインとは 第2回 社会を知る（1） 社会で求められる能力、働くこととは 第3回 社会を知る（2） 情報収集とキャリアデザインへの活用 第4回 コミュニケーション力をつける（1） コミュニケーションの基礎 第5回 コミュニケーション力をつける（2） アサーションとは 第6回 仕事を知る（1） 会社、業界、職種とは 第7回 仕事を知る（2） 資格とは、大学での学びと将来の関連、卒業生の進路 第8回 自分を知る（1） 自分を振り返る 第9回 自分を知る（2） 他者評価 第10回 行動計画を立てる 行動計画の立て方と計画作成 第11回 プレゼンテーション力をつける（1） プレゼンテーションの基礎 第12回 プレゼンテーション力をつける（2） キャリアデザイン課題発表 第13回 大学生活とキャリアデザイン（1） 学内リソースを知る 第14回 大学生活とキャリアデザイン（2） 先輩講話、これまでのまとめ

オフィスアワー
木曜日 14:30-15:00 メールにて事前にアポイントを取ってください。また、授業終了後に質問を受け付けます。
授業形態

パワーポイントや配付資料に基づく講義と、グループワークによる演習。
授業の具体的な進め方
パワーポイントや配布資料による解説。それをもとに、学生間でグループを作ってディスカッションを行うことで、具体的な理解を深める。

関連科目
キャリアデザイン
授業に持参するもの
ノート、筆記用具、配布プリント
教科書

なし
参考書
大学生のためのデザインニング・キャリア 渡辺三枝子 他 ナカニシヤ出版 2011 978-4779505980 大学生のためのキャリアガイドブック 寿山泰二 他 北大路書房 2009 978-4762826719
学生へのメッセージ

・変化の激しい世の中では、自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたらよいか、講義を通して考えていきましょう。 ・毎回のグループワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、コミュニケーション力や対人関係能力も磨かれます。ぜひ積極的に、講義に参加してください。 ・講義において、取り組み姿勢やマナーを重視し評価に加えます。「授業を受けるマナー7箇条」は必ず遵守するようにしてください。
その他・自由記述欄

教授要目

海外フィールド演習	
科目英名	Oversea Field Work
担当者	吉崎真司、威泳植、リジャル H. B.、岡田啓 < shin@tcu.ac.jp (吉崎)、yhamu@tcu.ac.jp (威)、 rijal@tcu.ac.jp (リジャル)、okada@tcu.ac.jp (岡田) >
単位数	2 単位
開講時期	1 年生以上

科目概要

海外フィールド演習では、急速に変化する中国の砂漠化やネパールの建築・都市環境問題について実際に見る・感じることを通じて学習をする。また、両国の様々な環境の実態把握・改善を行うために、実測を実施する。

This field work is intended to see and experience the desertification of China and urban and architecture environments of Nepal. To evaluate and improve the various environmental problems, students measure the situation of the environment in those fields by using measure the situation of the environment in those fields by using measurement instruments or questionnaire survey to residents.

達成目標

- (1) 中国やネパールなどの海外における環境問題を現地にまで足を運んで体験し、実践的な活動を行う。
- (2) 様々な環境を実測すると同時に、人々の環境に対する主観を調査し、環境問題の現況を複眼的に捉える。
- (3) 研修での活動、収集したデータ、研修の感想等を冊子にまとめる。

成績評価

成績の評価方法は、各フィールド演習の説明会で説明します。基本的には、実習への参加態度 (50%) とレポート・冊子や発表会 (50%) で評価します。

予習復習時間

研修の事前勉強会や事後勉強会のための資料収集やまとめを予習・復習の時間とする。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

英語や中国語など、現地の人々とのコミュニケーションを図るための事前勉強、訪問国の歴史や現在の体制などの下調べを自主的に行っておくことが必要である。

授業計画

- 第 1 回 事前学習 (1)
- 第 2 回 事前学習 (2)
- 第 3 回 事前学習 (3)
- 第 4 回 現地観察 (1)
- 第 5 回 現地観察 (2)
- 第 6 回 現地講義 (1)
- 第 7 回 現地講義 (2)
- 第 8 回 現地調査・測定 (1)
- 第 9 回 現地調査・測定 (2)
- 第 10 回 現地調査・測定 (3)
- 第 11 回 現地調査・測定 (4)
- 第 12 回 現地調査・測定 (5)
- 第 13 回 事後学習 (1)
- 第 14 回 事後学習 (2)

オフィスアワー

原則として指定しないが、事前にメールなどで連絡をとったうえで受け付ける。

授業形態

講義、グループワーク、現地調査、現地測定

授業の具体的な進め方

事前学習と事後学習は講義や演習、グループワーク方式で行う。現地では、講義のほか実地調査や計測、現地視察などを行う。

関連科目

環境緑地学、環境情報リテラシー、環境化学、建築気候学、住環境と人間行動、環境教育、環境フィールド・計測演習他

授業に持参するもの

研修説明会や事前学習の際に示します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

この海外フィールド演習には中国やネパールに関心のある学生が参加します。持続可能な社会を実現するために、中国やネパールから学ぶべき良い点が多くあります。反対に、中国やネパールにも改善すべき点が多々あります。現地の自然環境や社会環境、都市の環境問題や砂漠化などの地球環境問題を肌で感じてほしいと思います。

また、グループで行う作業が多いので、途中で断念することなく最後までやり通して欲しいと思います。

その他

日本とは状況が異なる海外での活動では、様々な面で危険が伴う。自分勝手な行動を慎むこと、指導教員の指示に従って行動してほしい。

教授要目

インターンシップ(1)	
科目英名	Internship(1)
担当者	各教員
単位数	1 単位
開講時期	1 年～4 年

科目概要

インターンシップとは、企業に行って定められた日数にわたって実務を体験することである。学生時代の勉強方法と実社会での仕事の進め方はかなり異なっているが、インターンシップによって、それらの違いを学生時代に体得できるといったメリットがある。また、就職を希望する企業が、どのような仕事をしているかを事前に知ることができる。

達成目標

- (1) 企業における実際の業務を体験することにより、実社会における仕事の概要を理解し、大学生活における講義、実験・演習、卒業研究で何を習得すべきかの認識を深める。
- (2) 企業における実際の業務を体験することにより、自己の適性を認識し、卒業後の進路選択に役立つ知識を身につけ、経験を積む。

成績評価

履修者本人からの報告書(50%)、研修先から提出された所見(50%)

予習復習時間

実際の研修時間の他、準備や報告書の作成を行う。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

研修先における業務内容を予め十分に調査し、実習で関連する専門科目の復習を行い、事前知識を習得しておくこと。実習先は事前に教務委員の了承を得ること。
学内の手続きに関しては、学生支援センターは窓口開設時間帯におよび学科教務委員にアポを取ってから相談すること。

授業計画

第 1 回 1. 研修を行う企業の決定

第 2 回 企業先や研修中のマナー、留意点などの事前指導

第 3 回 企業での研修。1 週間をめぐとする企業での研修（実質 5 日間）を行う。研修の内容、日数、および時間などの具体的な詳細は研修先の企業との協定による。

第 1 3 回

第 1 4 回 成果報告会、総評、まとめ

オフィスアワー

随時対応する。

授業形態

企業における研修

授業の具体的な進め方

研修先での実習

関連科目

授業に持参するもの

なし（研修期間については企業側の指示による）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

企業での研修では、社員に指導をしていただくため、社会人として常識ある発言および行動をすること。

その他

環境学部
環境創生学科
専門基礎科目

教授要目

環境マネジメントシステム	
科目英名	Environmental Management System
担当者	水上 浩 <minakami@jaco.co.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

この講義は、地球環境問題への理解を深めるために、生産活動と環境負荷の相関関係や、環境管理の重要性の基礎的な知識を習得することを目的とする。/The objective of the lecture is to learn correlation between production activities and the environmental impact, and the basic knowledge of the importance of environmental management, for a better understanding of global environmental issues.

達成目標

地球環境の保全と継続的改善のため、'96年に国際的環境規格であるISO14001マネジメントシステム（経営的管理手法）が発効した。本講義は、学生諸子が循環型社会システムへの移行を含め、経営的管理手法とともに、国際的環境動向、環境法規制、環境パフォーマンス評価、ライフサイクル・アセスメント等の環境技術について理解するとともに、本学のISO14001の環境マネジメントシステム（ISO認証）について、ISOの規格改訂（2015版）の内容を踏まえて、自らの言葉で説明できるようになることを達成目標とする。

成績評価

レポート・試験（60%）、発表（40%）を中心に評価する。

予習復習時間

1回の授業に対して、2時間以上の自学自習が必要となる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

環境、特に地球温暖化に関する情報は絶えず変化している。新聞やインターネットなどを通じて最新情報に触れるように留意すること。

授業計画

- 第 1 回 地球の限界：EMSと地球環境問題
- 第 2 回 EMSとは何か：ISO14001シリーズ発行の経緯
- 第 3 回 大学とEMS：東京都市大学横浜キャンパスとISO14001
- 第 4 回 ISO14001のしくみ
- 第 5 回 環境側面：日常生活が環境に及ぼす影響
- 第 6 回 EMSと要求事項：環境と法
- 第 7 回 環境マネジメントシステム：環境方針
- 第 8 回 環境マネジメントシステム：環境重要項目と必要な取り組みの決定
- 第 9 回 環境マネジメントシステム：環境改善目標の設定
- 第10回 東京都市大学横浜キャンパスのEMS運営上の課題（グループ課題）の報告
- 第11回 EMSと環境監査
- 第12回 見直し（試験）
- 第13回 学生用環境マニュアルの作成①（方針と改善活動項目）
- 第14回 学生用環境マニュアルの作成②（まとめ）

オフィスアワー

授業時間終了後に質問を受け付ける。

授業形態

講義および教室外での調査活動

授業の具体的な進め方

講義および例題の演習および発表。演習は教室外での調査活動を含む

関連科目

「環境監査」（3年生 学科専門科目（選択））

授業に持参するもの

配布資料。必要に応じて発表や演習に使用するパソコン。

教科書

講義中配布資料

必要に応じて指示

参考書

『JIS規格（14001）』 日本規格協会

学生へのメッセージ

本学はISO14001の認証を日本の大学で最初に取得した大学であり、学生諸君はその構成員として位置づけられている。横浜キャンパスにおいて、環境改善のために学生が果たすべき役割について学び、環境改善活動を実践すること。

その他・自由記述欄

教授要目

温暖化の科学	
科目英名	Scientific Basis of Global Warming
担当者	S・クレイネス <kraines@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要
この科目は、温暖化を理解し研究するにあたって必要な基礎的知識、技能、方法論を学ぶための科目である。 地球温暖化の科学的基礎、考えられている影響と危険度、そして可能な軽減策と適応策について講義する。 This course will help students to learn the fundamental knowledge, techniques, and methodologies needed for understanding and studying global warming. The lecturer will present the scientific basis of global warming, the potential influences and dangers, and the possible mitigation and adaptation measures.
達成目標
学生が、地球温暖化の科学的基礎、悪影響のリスクのエビデンス、そして現在考えられている軽減策と適応策について説明できるようになる。 Students should gain an understanding of and the ability to explain the scientific basis of global warming, the evidence for risks from global warming, and the nature of mitigation and adaptation measures that are being considered.
成績評価
毎回の講義で行われる小テストと討論の参加を 30%、期末試験を 70%として評価する
予習復習時間
1 回（1 時限）の授業に対して、4 時間の自学自習時間が必要となる
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
温暖化問題に広く関心を有していること。また、日頃から新聞等で関連情報を収集しておくこと
授業計画
第 1 回 史上初の「限界がある地球」の時代 変化の加速と本当の「新世界」 科学とは何か：科学の手法の特徴、科学には不確実性がある For the first time in human history – the age of a “limited Earth” Accelerating change and a real “New World” What is science? characteristics of scientific methods and uncertainty in science
第 2 回 メディアなどにおける地球温暖化論争 地球温暖化の反論によく使用される 4 つのポイント 地球温暖化は科学的な事実 The debate on global warming in the popular media, etc. Four points often used by global warming critics Global warming is a scientific fact
第 3 回 惑星のエネルギー収支 地球の表面温度が温室効果によって決められている：フィードバック機構 火星と金星は地球とどのように違いがある The energy balance of a planet The surface temperature of the Earth is determined by the greenhouse effect: feedback mechanisms How do Mars and Venus differ from the Earth?
第 4 回 1, 2, 3 のレビュー、討論、ショートテスト Review, Discussion and Short Test of days 1, 2 and 3
第 5 回 温室効果と温室効果気体の化学 グローバル・ウォーミングポテンシャル（GWP） 惑星のエネルギー収支を影響するほかの要因：エアゾールや火山など The greenhouse effect and the chemistry of Greenhouse Gases Global warming potentials（GWP） Other factors that affect the energy balance of a planet: aerosols, volcanoes, etc.
第 6 回 太陽のエネルギーが気象現象の原因 様々の気象現象の機構と惑星のエネルギー収支の関係 気象モデルと気候シミュレーション The Sun powers all weather phenomena The relationship between mechanisms of different weather phenomena and the energy balance of a planet Weather models and Climate Simulations
第 7 回 過去の気候を把握する手法/氷床やサンゴ礁のコア分析 過去の CO2 と温度の観測から何がわかる 地球の時間：地質時代の長さ Methods for understanding past climate: ice cores and coral reefs What can we know from measurements of past CO2 and temperature? Earth time: the length of geological time
第 8 回 5, 6, 7 のレビュー、討論、ショートテスト Review, Discussion and Short Test of days 5, 6 and 7

第 9 回 温室効果気体の自然界と人間界における主な発生源 人間活動由来の温室効果気体の効果の評価の難しさ 科学におけるモデルの役割と信頼性 The main sources of greenhouse gases in the natural world and the human world The difficulty of evaluating the effect of greenhouse gases produced by human activities The role and reliability of models in science
第 10 回 地球のバイオスフィアにおける熱量の上昇による影響評価 地球温暖化による直接に起こる効果と間接に起こる効果 「Global Warming」対「Global Weirding」 Evaluating the effect of an increase in heat content of the Earth Direct effects and indirect effects of global warming “Global Warming” versus “Global Weirding”
第 11 回 急激な気候変化とティッピング・ポイント 氷床の水、シベリアの凍原に隔離されているメタン 適切な CO2 ターゲットの設定と温室効果ガス削減シナリオ Rapid climate change and tipping points Water in the ice caps and methane sequestered in the Siberian Tundra Setting an appropriate CO2 target and scenarios for reducing greenhouse gases
第 12 回 9, 10, 11 のレビュー、討論、ショートテスト Review, Discussion and Short Test of days 9, 10 and 11
第 13 回 人間活動由来の CO2 による温暖化はなぜ深刻か？ 今すでに変化が起きているか？ 私たちは何ができるか？ Why is global warming from CO2 produced by human activities? Are the changes already happening now? What can we do?
第 14 回 地球温暖化対策 緩和策： ○ジオエンジニアリング ○地球温暖化対策の経済的影響がすべて悪いわけではない ○グリーン経済で温暖化問題を解決する 適応策： ○避けられない気候変動とこれまでに経験したことのない惑星に暮らす Countermeasures for global warming Mitigation: ○Geoengineering ○Not all countermeasures to global warming have negative economic effects ○Solving the global warming problem through a green economy Adaptation: ○Unavoidable climate change and living on a planet that we have never experienced before
オフィスアワー
木曜日 13:00-14:00
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
配布資料を基に解説、スライドも併用
関連科目
環境問題原論
授業に持参するもの
特になし
教科書
参考書
Storms of my Grandchildren（地球温暖化との闘い すべての未来の子どもたちのために） James Hansen（枝廣淳子-監修） 日経 BP 社 2012/11/22 4822249379 Eaarth: Making a Life on a Tough New Planet Bill McKibben St. Martin’s Griffin 2011/3/15 0312541198 大転換——新しいエネルギー経済のかたち 2015/07/04 4000610600
学生へのメッセージ
Climate change from global warming is not only a huge phenomenon affecting all life on the Earth, it is also a phenomenon that we have never experienced before. How we address the uncertainties today, not only those that are known but also those that are unknown, will have a crucial effect on the sustainability of human civilization on the Earth that all of you will inherit. 温暖化による気候変動は、地球の全ての生き物に影響する巨大な現象だけではなく、これまでに経験したことのない現象である。本日、これに伴う不確実性（すでに知られているものだけではなく、まだ知られていないもの）は、諸君が相続する地球における人間文化の持続性に重大な影響があることを理解してほしい。
その他・自由記述欄

教授要目

統計学基礎

科目英名	Descriptive Statistics
担当者	岡田 啓 <okada@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要

現代社会において、データを用いて現状を把握することは科学的、建設的議論を始めるための第一歩です。そのデータを縮約する方法は、統計学の基礎である記述統計としてまとめられています。この記述統計は、様々な社会問題、環境問題を検討するための必須のスキルです。そこで本講義では、主にデータの集約的な記述や2変数間の関係を分析する方法を勉強します。この科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案を行う際に必須となる基本的な数量情報の整理の仕方について学ぶための基礎的科目である

This course is intended to introduce students to the basic concepts of data, data collection, statistic, and data analysis. Main topics of this course contain an overview of graphical and numerical descriptive statistics as well as to prepare for applied statistics. This course also tell students how to report graphical and numerical statistic and data analysis.

達成目標

- ①与えられたグラフや表を適切に読み取ることができる
②得られたデータを整理、図示し、要約を行うことができる
以上のことを通して、官庁統計や調査報告書、論文などを適切に読み解き、自ら簡単な調査報告を作成できる技術の獲得を目指す。

成績評価

課題提出 (30%)、学期末試験 (70%) で評価します。小テストを講義中に行い評価に使う場合もあります。また課題を提出していない、または学期末テストの受験をしていない履修生への単位を付与しませんので注意してください。

予習復習時間

4 時間/週の自学自習

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

数式などへの拒否反応を意識的に少しだけ中和できること

授業計画

- 第 1 回 統計学とは何か: 統計学の意義、歴史を解説するとともに、本講義の達成目標について述べる。
第 2 回 データの種類、図表の作成: データ (尺度) の種類、及び、それらを適切に表現する方法を学ぶ。
第 3 回 グラフの読み方: グラフの読み方、注意点を解説する 5. グラフの作り方: グラフや表の作成方法を学ぶ
第 4 回 グラフの作り方: グラフや表の作成方法を学ぶ
第 5 回 度数分布表とヒストグラム: 度数分布表とヒストグラムの見方、および作成方法を学ぶ
第 6 回 代表値: 平均値、中央値、最頻値などのさまざまな代表値とそれらの性質を学び、データの集約について理解する
第 7 回 散布度: 標準偏差、分散、四分位偏差などのさまざまな散布度とそれらの性質について理解し、その算出方法を習得する
第 8 回 データを用いた主張の方法: 主張と根拠の関係をトゥールモンモデルを使って明確にする。そしてデータを根拠とした主張の方法を習得する。
第 9 回 散布図と相関係数: 2 変数間の関係を調べるために、散布図とピアソンの積率相関係数を用いることを学ぶ
第 10 回 相関と因果: みかけの相関などを説明し、相関関係と因果関係は異なることについて学習する。
第 11 回 クロス集計と順位相関係数: カテゴリカルなデータにおける 2 変数間の関係を調べるため、クロス集計の読み方や作成方法、及び、順位相関係数の算出方法を学ぶ
第 12 回 回帰直線 1: 2 変数の直線的関係を記述する回帰直線の求め方、及びデータに対する回帰直線の当てはまりのよさを評価する決定係数について学ぶ
第 13 回 回帰直線 2: 2 変数の直線的関係を記述する回帰直線の求め方、及びデータに対する回帰直線の当てはまりのよさを評価する決定係数について学ぶ
第 14 回 まとめ: これまで学習したことをまとめることで、記述統計の手法について思い出すと同時に、俯瞰することで理解を深める。

オフィスアワー

火曜日 12:40 ~ 14:40 (お昼休みから 3 時間目)

授業形態

講義形式。演習を実施する場合もある。

授業の具体的な進め方

板書を中心とした講義です。ノートを持参し、書き取ってください。重要事項は強調します。また適宜演習を挟みます。

関連科目

環境統計学、環境数理学入門、各種フィールド演習、事例研究、卒業研究

授業に持参するもの

神、筆記用具とルータが計算できる電卓 (スマートフォンの計算機機能でも OK)

教科書

参考書

読む統計学 使う統計学 [第 2 版] 広田すみれ 慶應義塾大学出版会 2013
978-4766420364
初等統計学 ボール G. ホーエル 培風館 1981 978-4563008390
ブレストップ統計学 I 記述統計学 2012 978-4335000843

学生へのメッセージ

情報化社会のなかで、データを読み解き、表現するスキルはますます重要となってきた。課題に積極的に取り組み、より高いスキルを身につけてほしい。

その他・自由記述欄

教授要目

ミクロ経済学	
科目英名	Microeconomics
担当者	岡田 啓 <okada@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

現代社会でよりよく生きようとするとき、限られた資源・資金の下で、様々な意思決定を行う事に迫られる。このような、社会を構成する個々の意思決定や企業の意思決定、それらの相互作用については「ミクロ経済学」で分析されている。本講義は、ミクロ経済学で発展した基礎概念を解説する。なお、本科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案に際して必要となる基本的事柄について学ぶための科目である。Modern economics is being built on the macro and the microeconomics. The purpose of this lecture is in the learning of the basic theories in the later and in the training of the empirical consideration.

達成目標

この講義ではミクロ経済学の基礎的な考え方（制約、トレード・オフ、機会費用、インセンティブ、比較優位、取引、競争、価格、需要と供給）の修得を目的とします。そして、需要・供給曲線を使って、簡単な分析ができるようになることを目標としている。

成績評価

期末試験とレポートで評価を行います。期末試験(70%)、レポート(30%)で評価します。レポート提出または期末試験を行わなかった場合、自動的に評価を不可にしますので注意してください。

予習復習時間

4 時間/週の自学自習

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

知的好奇心があることが前提となります。そして簡単なグラフを読むことができることを前提としています。

授業計画

- 第 1 回 トレードオフ[1] 制約とトレードオフの定義
- 第 2 回 トレードオフ[2] 決定木とトレードオフ
- 第 3 回 機会費用[1] 機会費用の定義とトレードオフとの関係
- 第 4 回 機会費用[2] 機会費用の発展的考え、埋没費用
- 第 5 回 主体の行動原理 効用の最大化と資源の最小化
- 第 6 回 比較優位[1] 比較優位の定義と意義
- 第 7 回 比較優位[2] 生産可能フロンティアと比較優位
- 第 8 回 交換 比較優位と取引の関係性
- 第 9 回 需要曲線と供給曲線（1） 個人の需要曲線、市場の需要曲線
- 第 1 0 回 需要曲線と供給曲線（2） 個別の供給曲線、市場の供給曲線
- 第 1 1 回 需要曲線と供給曲線（3）均衡点と価格・数量の決定
- 第 1 2 回 需要曲線・供給曲線を用いた経済分析[1] 需要曲線のシフトとその要因
- 第 1 3 回 需要曲線・供給曲線を用いた経済分析[2] 供給曲線のシフトとその要因
- 第 1 4 回 需要曲線・供給曲線を用いた経済分析[3] 3 段階アプローチ

オフィスアワー

火曜日 12:40 ~ 14:40（お昼休みから 3 時限目）

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

板書を中心とした講義です。ノートを持参し、書き取ってください。重要事項は強調します。演習を適宜挟みます。

関連科目

公共経済学、環境経済学、意思決定論、公共政策論

授業に持参するもの

指定教科書。ノートもしくはルーズリーフ。

教科書

マンキュー入門経済学〔第 2 版〕 グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2014 4492314431

参考書

マンガ+講義でよくわかる 経済学超入門 木暮太一 東洋経済新報社 2010 978-4492314036

出社が楽しい経済学 吉本 佳生 日本放送出版協会 2009 978-4140813287

この世で一番おもしろいミクロ経済学 2011 978-4478013243

学生へのメッセージ

講義と自分の経験、日常生活を切り離さないようにしてください。ミクロ経済学は皆さんの普段の生活の中で行っていることを理論づけています。この講義で勉強したことは日常生活で応用可能です。率先して応用してみてください。

その他・自由記述欄

数学入門

科目英名	Introduction to Mathematics
担当者	郭 偉宏 <kakuikou@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要

数学の知識が必要な専門科目の履修への支障をなくすため、高校時代に数学が苦手だった学生と、数学から離れていた学生を対象として、高校の数学を復習する。数値の変化とグラフの関係、方程式と関数の関係を学び、様々な関数の知識を身につけた後で、微分・積分へと展開する。

This lecture is designed for students who have given up mathematics in the high school. I hope students will understand basic mathematics.

達成目標

- ・数学（2・B）の基本概念の理解
- ・基礎問題の解法の理解
- ・各項目間の関連性の理解

成績評価

授業への出席を前提として、試験を 80%（中間テスト、定期試験）、演習を 20%として評価する。

予習復習時間

1 回(100 分)の授業に対して 4 時間の自学自習が必要(学則第 18 条に基づく)

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

高校の数 1・A を基礎とするが、なくともよい。

授業計画

- 第 1 回 数と代数（1）
- 第 2 回 数と代数（2）
- 第 3 回 方程式とグラフ（1）
- 第 4 回 方程式とグラフ（1）
- 第 5 回 関数（1）
- 第 6 回 関数（2）
- 第 7 回 関数（3）
- 第 8 回 三角と円（1）
- 第 9 回 三角と円（2）
- 第 1 0 回 三角の拡張
- 第 1 1 回 数列
- 第 1 2 回 2 項式と帰納法
- 第 1 3 回 微分と積分（1）
- 第 1 4 回 微分と積分（2）

オフィスアワー

講義の前後に質疑を答える時間を設ける。また何時でも研究室に訪ねて質問することも歓迎

授業形態

講義と演習

授業の具体的な進め方

講義形式で解説し、必要に応じて演習を行なう。

関連科目

授業に持参するもの

筆記用具、ノート

教科書

参考書

学生へのメッセージ

授業で扱った内容は、次の授業までにすべて理解しておくこと。自分で考えてわからない場合は必ず質問すること。

その他・自由記述欄

教授要目

環境問題原論

科目英名	Introduction to Environmental Problems
担当者	馬場 健司 <otsuka@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

この科目は、環境問題を理解するにあたって必要な基礎知識や方法論を、より広い観点から学ぶ科目である。自然科学的には、現代を人新世 (Anthropocene) と捉えることで、人間による地球システムの改変が常態となってきたことが環境問題の本質にあると理解できる。社会科学的には、そのような改変が社会の構造や変動に依存して起きてきたことが説明できる。この授業では、自然と社会の環境史から始めて、地域公害問題から地球環境問題への変遷をたどり、自然科学と社会科学の視点の違いを超えて環境問題を統合的に捉える視点を学ぶ。

This class provides a wider viewpoint beyond the differences between natural and social sciences to understand environmental problems. From a perspective of natural science, on one hand, environmental problems could essentially be seen as the outcomes of the Anthropocene, a newly proposed epoch of geological timescale, which suggests the significance of the anthropogenic changes against the Earth system. On the other hand, a perspective of social science could explain the role of social structure and dynamics in such anthropogenic changes. By integrating the two perspectives, the environmental history that consists of interactions between nature and societies will be reviewed so as to understand the transformation of the concepts from local pollution to global environmental problem.

達成目標

環境問題を自然科学と社会科学の視点の違いを超えて、より広い視点から理解することができるようになること。

成績評価

毎回の講義で行われる小テストを 30%、期末試験を 70% として評価する。

予習復習時間

1 回 (1 時限) の授業に対して、4 時間の自学自習時間が必要となる。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

なし。

授業計画

- 第 1 回 授業ガイダンスー環境問題とは何か?
- 第 2 回 地球システムと人新世 (Anthropocene) ー人間と社会が問題であること
- 第 3 回 文明と環境問題の歴史ー多くの文明は環境破壊によって滅びた?
- 第 4 回 日本列島の環境史ー社会と自然の関係を環境史の視点から
- 第 5 回 環境と近代世界システムー資本主義と日常生活の変化
- 第 6 回 日本の近代化と鉱山型公害問題ー足尾銅山からイタイイタイ病まで
- 第 7 回 高度経済成長期の公害問題①ー水俣病・新潟水俣病
- 第 8 回 高度経済成長期の公害問題②ー四日市公害・新幹線公害
- 第 9 回 公害から環境問題へー日本の公害と欧米の環境問題は何が違うか?
- 第 10 回 都市・生活型環境問題ー家庭排水、農業、アメニティ、景観
- 第 11 回 巨大事故災害と環境リスクの顕在化ーセベソ、チェルノブイリ、ボパール
- 第 12 回 地球環境問題の出現ー冷戦の終結と国際政治の空白
- 第 13 回 福島第一原発事故ー科学技術のリスクと不定性
- 第 14 回 人新世における地球システムと世界システム

オフィスアワー

原則として、いつでも対応します。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

文明崩壊 上・下 ジャレド・ダイヤモンド 草思社 2012 978-4794219398 ISBN は上巻

シリーズ 日本列島の三万五千年一人と自然の環境史 (全 6 巻) 湯本貴和編 文一総合出版 2011 978-4829911952 ISBN は第 1 巻

日常性の構造 1・2 物質文明・経済・資本主義ー15-18 世紀 1985 978-4622020516 ISBN は第 1 巻

公害原論 宇井純 亜紀書房 2006 978-4750506180

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

都市環境入門

科目英名	Introduction to Urban Environment
担当者	大西 暁生 <onishi@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

現代の都市環境問題についての理解を深め、その対策を考えるため、一般的な環境行政の流れ、環境基準・環境影響評価制度、環境基本法等の法律や規制等の管理手法を講述する。具体的には、わが国の都市発展の歴史、自然条件、さらに、居住、生産活動、交通、水・エネルギー供給、廃棄物処理、災害危険性等と環境の諸問題について、現状と将来動向として対策を学ぶ。学生が様々な都市問題・環境問題に対しての学問的かつ現実的な興味を呼び起こすことを目的としている。The purpose of this course is to study and understand the outline of urban environment. For the purpose, the historical developments, present overall aspects, and future direction of Japanese cities are discussed from the viewpoint of comprehensive urban planning and urban management.

達成目標

- ・現代の都市環境問題の実態について理解する。
- ・都市活動とそれからもたらされる環境問題の基礎に関して理解する。
- ・環境に関する施策や制度について理解し、その諸問題について理解する。
- ・都市の計画によって人間活動の環境への影響を制御する手法について理解する。

成績評価

期末試験 (100%)

予習復習時間

1 回 (1 時限) の授業に対して、4 時間の自学自習時間が必要となる。

授業中に紹介する参考書や資料を用いて自習すること。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

講義に出席すること。ノートを必ずとること。

授業計画

- 第 1 回 都市環境／環境問題とは
- 第 2 回 これまでの都市環境／環境問題
- 第 3 回 都市と環境
- 第 4 回 日本と世界の都市
- 第 5 回 環境管理と制御手法
- 第 6 回 環境影響評価制度
- 第 7 回 都市の計画
- 第 8 回 土地利用
- 第 9 回 交通
- 第 10 回 緑地、公園、景観
- 第 11 回 都市インフラストラクチャー
- 第 12 回 都市環境問題の事例
- 第 13 回 都市システムと都市環境改善のための政策手段
- 第 14 回 都市環境の改善に向けて

オフィスアワー

事前にメールにて連絡してアポイントメントをとること。

授業形態

パワーポイントによる講義 (重要な箇所はノートを必ずとること)

授業の具体的な進め方

関連科目

環境創生学科・都市環境分野の 1 年生で履修できる科目については関連する。

授業に持参するもの

ノートと筆記用具

教科書

参考書

学生へのメッセージ

まずは出席して、考えながら、しっかりとノートをとること。

随時質問を投げかけるので常にその課題について考えること。

また、都市環境に興味をもち、新聞やニュース等のこれに関する情報に常に目を通して、現在の環境問題の発生原因とその対策について考えを持つようにしておくこと。

その他・自由記述欄

簡単な質問は授業後、それ以外はオフィスアワーに受け付ける。

教授要目

マネジメント入門	
科目英名	Introduction to Management
担当者	郭 偉宏 <kakuikou@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本講義では、組織における企画・組織・指導・監督といったマネジメント機能を理解し、意思決定、コミュニケーション、戦略およびHRMに関する管理科学を学ぶ。

This lecture is an introduction to principles and of management.As such, it will provide you with an overview of the many functions managers must perform. We will discover that management consists of four primary functions: planning; organizing, leading and controlling. Topics include decision making, communication, strategic management and human resource management.

達成目標

- ①マネジメントの概念を理解する
- ②マネジャーの技能を理解する
- ③マネジメントとマネジャーの関係を理解する

成績評価

出席とレポート

期末レポート（グループワーク）

評価方法：出席とレポート（70%）、期末レポート（30%）

予習復習時間

1 回（100）分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

- 第 1 回 マネジメントとは
- 第 2 回 グローバル環境におけるマネジメント
- 第 3 回 多様性とマネジメント
- 第 4 回 社会倫理と責任
- 第 5 回 変化と改革
- 第 6 回 企画（1）：意思決定と企画の基礎
- 第 7 回 企画（2）：戦略管理、計画技術
- 第 8 回 組織（1）：組織の設計
- 第 9 回 組織（2）：人力資源管理とチーム管理
- 第 1 0 回 指導（1）：個人行為とコミュニケーション
- 第 1 1 回 指導（2）：リーダーとモチベーション
- 第 1 2 回 監督（1）：監督の基礎
- 第 1 3 回 監督（2）：組織実績の監督
- 第 1 4 回 これからのマネジメント

オフィスアワー

講義の前後に質疑を答える時間を設ける。また何時でも研究室を訪ねて質問することも歓迎

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式で解説するとともに、演習も行う。チーム課題もある。

関連科目

授業に持参するもの

筆記用具、ノート

教科書

Management Robbins & Coulter Prentice Hall 2012 978-0-13-216384-2

参考書

ハーバード流 マネジメント入門 D. クイン・ミルズ ファーストプレス 2012 978-4-903241-22-7 2400 円
マネジメント ドラッガー ダイアモンド社 978-4478410233 2000 円
もし高校野球の女子マネージャーがドラッガーの「マネジメント」を読んだら 978-4478012031

学生へのメッセージ

企業やマネジメント、就職活動への基礎となるので、ぜひ履修してください。

その他・自由記述欄

基礎プログラミング演習	
科目英名	Fundamental Programming
担当者	高橋 裕子 <yskt@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本科目ではC言語の最基礎を講義し、プログラム演習を通じてコンピューター言語の構造・論理の理解を促す。コンピュータ言語に触れた経験のない学生を対象として、簡単なアルゴリズムの構築やそのC言語によるコーディングを通じ、基礎からプログラミング考え方を学ぶことで、コンピュータ言語に慣れ親しみ、より高度な情報技術活用スキルの土台を構築する。最終的には、C言語を用いて基礎的な課題を解くことができるスキルを個々が身につける事を目標とする。

This course introduces the basic subject of computer programming using the C language. The course covers the basic introduction to fundamental programming concepts. Topics include syntax of C language, flow control, arrays, and character data.

達成目標

C言語の基本的な文法を理解すること。

プログラミングに必要なツールを使いこなせること。

データ型や配列、条件分岐、繰り返しなどプログラミング言語の基本要素を理解し、簡単なプログラムが作成できること。

成績評価

レポート、理解度確認の試験(授業内)および期末試験をそれぞれ 1:1 の割合で評価に用いる。

予習復習時間

1 時限分の授業に対し 4 時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

初歩的なコンピュータ操作（ログインやファイル管理など）ができること。また、大学のネットワーク環境を利用した演習授業であるため、ログインや電子メールの送受信など是可以できるようにしておくこと。

授業計画

- 第 1 回 コンピュータ言語、およびC言語の概要
- 第 2 回 C言語の基本書式
- 第 3 回 変数の宣言と処理
- 第 4 回 入出力と変数の演算
- 第 5 回 条件分岐処理(1)
- 第 6 回 条件分岐処理(2)
- 第 7 回 繰り返し処理(1)
- 第 8 回 繰り返し処理(2)
- 第 9 回 配列
- 第 1 0 回 繰り返し処理と配列を用いたプログラミング
- 第 1 1 回 C言語のデータ型と文字型
- 第 1 2 回 配列と簡単な文字列処理(1)
- 第 1 3 回 文字列処理(2)
- 第 1 4 回 総合的課題

オフィスアワー

講義時間中に十分な自由演習の時間を取るので、担当教員への相談・質問は自由演習の時間にすること。授業終了後も随時メールで対応可能(yskt@tcu.ac.jp)。

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

演習形式で行い、原則として毎週課題を課す。

関連科目

「情報通信技術入門」

授業に持参するもの

無し

教科書

明快入門C 林晴比古 ソフトバンククリエイティブ 2013 978-4797373264

参考書

学生へのメッセージ

プログラムは機械が実行できるように命令を整理して伝えるもので、様々な場面で必要とされるスキルです。プログラム特有の様々な文法を身につけ、問題を整理し記述する必要があり、難しく数居が高いと感じる学生も多いと思いますが、プログラムを少しずつ修正しながら、徐々に慣れていきましょう。一朝一夕には身につけませんが、毎回の演習の積み重ねが大事です。

その他・自由記述欄

プログラム作成のスピードアップの為、タイピングのスキルアップにも努めて欲しい。

教授要目

環境倫理	
科目英名	Environmental Ethics
担当者	佐藤 真久 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

【科目概要（日本語）】

環境倫理思想がどのような社会的背景・文化・社会の中でつくりだされ、どのように影響を及ぼしてきたかを、事例を活用しながら考察を深める。

【科目概要（英語）】

By referring some cases of environmental actions and movement, it is expected to consider the values and ethics which are inherent of the social context. It is also discussed the linkages among such values and ethics.

【キーワード】

環境問題の特性と所在、自然生存権と自然保護、生物多様性保護の倫理、バイオ・リージョナリズム（生命地域主義）、ディープ・エコロジー、環境正義、エコ・フェミニズム、消費者の自由と責任、ソーシャル・エコロジー、環境倫理思想と宗教観・芸術、政治と環境思想、環境倫理思想の関連性とその流れ、日常生活と環境倫理思想

達成目標

様々な視点に基づく環境倫理観の理解相互の環境倫理観の関係性の理解

成績評価

成績評価：各講義のコメントシートの記入（50%）、レポート課題（20%）、期末試験（30%）

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

現代社会の倫理的問題への関心

授業計画

- 第 1 回 環境問題の特性と所在
- 第 2 回 自然生存権と自然保護
- 第 3 回 生物多様性保護の倫理
- 第 4 回 バイオ・リージョナリズム（生命地域主義）
- 第 5 回 ディープ・エコロジー
- 第 6 回 環境倫理思想と宗教観・芸術
- 第 7 回 環境正義
- 第 8 回 エコ・フェミニズム
- 第 9 回 ソーシャル・エコロジー
- 第 1 0 回 消費者の自由と責任
- 第 1 1 回 政治と環境思想
- 第 1 2 回 環境倫理思想の関連性とその流れ（1）
- 第 1 3 回 環境倫理思想の関連性とその流れ（2）
- 第 1 4 回 まとめ～日常生活と環境倫理思想

オフィスアワー

特になし

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

ESD 入門 佐藤真久 筑波書房 2012 978-4811904115

参考書

環境倫理学のすすめ 加藤尚武 丸善ライブラリー 978-4-621-05032-3
自然に対する人間の責任 J. パスモア 岩波現代選書 978-4-00-004708-1
自然保護を問い直す 978-4480056689
環境思想の系譜Ⅰ～Ⅲ 小原秀雄監修 東海大学出版 978-4-486-01342-6
環境的公正を求めて 戸田清 新曜社 978-4-7885-0496-7

学生へのメッセージ

環境倫理は科学や技術的知見だけでなく、地域の歴史や文化の知見、社会構造についての知見も非常に重要であり、その関連性にも関心をもつこと。また、自分自身の問題としてもよく考えること。

その他・自由記述欄

マクロ経済学	
科目英名	Macroeconomics
担当者	森 朋也 <moritomo@tamacc.chuo-u.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

基礎的なマクロ経済学を学習する。基礎的なマクロ経済分析を用いて、現実の経済現象、経済政策の効果を学習する。

達成目標

本講義の達成目標は、(1) マクロ経済学における基本的な概念と用語、理論を概説できること、(2) 経済政策の効果や様々な経済現象について説明できるようになることである。最終的に、履修者が、日々、新聞やニュースで得られる経済的事実（情報・知識）をマクロ経済学の理論から理解できるようになることを目標としている。

成績評価

定期テストが 7 割、小テスト（3 回を予定）が 3 割で評価する。

予習復習時間

一回の講義に対して、最低でも予習を一時間半、復習を一時間半行うことが望ましい。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

基礎的なミクロ経済学を履修済みである、また数学の知識を持っていることが望ましいが前提とはしない。

授業計画

- 第 1 回 イントロダクション：マクロ経済学とは
- 第 2 回 国民経済計算：生産と国民所得の決定
- 第 3 回 財市場①：有効需要の原理、45 度線分析
- 第 4 回 財市場②：消費関数と投資関数
- 第 5 回 資産市場①：貨幣と債券、貨幣供給、金融政策
- 第 6 回 資産市場②：流動性選好説、貨幣需要関数と利子率の決定
- 第 7 回 IS-LM 分析①：IS 曲線と LM 曲線、均衡国民所得と均衡利子率の同時決定
- 第 8 回 IS-LM 分析②：財金融政策の効果
- 第 9 回 労働市場の AD-AS モデル①：労働市場の需給
- 第 1 0 回 労働市場と AD-AS モデル②：AD-AS モデル分析
- 第 1 1 回 労働市場と AD-AS モデル③：フィリップス曲線、自然失業率仮説、合理的期待仮説
- 第 1 2 回 成長理論：ハロッド＝ドーマーモデル、ソロー＝スワンモデル、内生的成長モデル
- 第 1 3 回 景気循環論：ヒックス＝サミュエルソンモデル、リアルビジネスサイクル仮説など
- 第 1 4 回 マクロ経済学と日本経済

オフィスアワー

特に設けません。質問等はメールにて問い合わせてください。

授業形態

講義は、パワーポイントと配布資料を用いて進める。

授業の具体的な進め方

パワーポイントを用いて講義を進める。適宜、理解を深めるために問題演習を行う。また、過去に起きた問題や最近の時事問題を取り上げて、その回のテーマと関連付けて説明する。

関連科目

ミクロ経済学、日本経済論

授業に持参するもの

筆記用具

教科書

参考書

『マクロ経済学（第 4 版）』 ジョセフ・E・スティグリッツ / カール・E・ウォルシュ 東洋経済新報社 2014 978-4492314463
『マンキュー経済学Ⅱ（マクロ編）（第 3 版）』 N・グREGORY・マンキュー 東洋経済新報社 2014 978-4492314456
『マクロ経済学（第 3 版）』 2009 978-4000266543
『マクロ経済学』 斉藤誠・岩本康志他 有斐閣 2010 978-4641053724
『コンパクト マクロ経済学（第 2 版）』 飯田泰之・中里透 新世社 2015 978-4883841257

学生へのメッセージ

経済問題や経済政策に関する議論は一見難しいイメージがあるかもしれませんが、基礎的なマクロ経済学の知識だけでも理解できることが多くあります。本講義が学習した内容が皆さんの考える物差しになれば幸いです。

その他・自由記述欄

教授要目

持続可能な消費

科目英名	Sustainable Consumption
担当者	中原 秀樹 <nakahara@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

21 世紀は環境問題の解決なくして人類の存続はあり得ない。持続不可能な消費がもたらした地球環境問題を理解し、その解決のために消費者はどのように寄与できるかを知る。You will study the sustainable lifestyle and equity in the 21th century. You look at ways to promote sustainable consumption through the concept of sufficiency and changing value.

達成目標

資源消費も環境破壊も限りなく増大し、もはやコントロール不能な状態である。生産効率や物質主義的な消費システムを思い切って大幅に転換して資源集約度を下げ、消費主義的価値観を根本的に変えない限り、解決は望めない。講義では破壊的なプロセスと消費的な価値観を根本的に変えるための現実的な取り組みを提案する。

成績評価

出席評価 10%、レポート評価 10%、試験評価 80%。

予習復習時間

テキストから事前にキーワードの抽出を行って講義に臨むこと。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

新聞をよく読んで最新動向を理解しておくこと。

授業計画

- 第 1 回 環境問題とは何か
- 第 2 回 地球の開発への新しい取り組み：環境容量という考え方
- 第 3 回 地球の共有資産
- 第 4 回 フロンティア経済からフルワールド経済へ
- 第 5 回 暴走する工業主義と踏み越えられた 3 つの限界
- 第 6 回 アメリカンドリームと地球の共有資産の管理
- 第 7 回 南と北は一つの世界を作れるか
- 第 8 回 環境容量分配の基本原則
- 第 9 回 環境容量分配の評価と環境容量計算
- 第 10 回 エコイノベーションと生産効率革命
- 第 11 回 消費社会の見直し
- 第 12 回 消費と生活の質
- 第 13 回 市場経済の文脈における持続可能な消費と生産の促進
- 第 14 回 地球規模の枠組み作りへ

オフィスアワー

講義に関する研究室訪問は必ずメールでアポイントメントを取ってください。

授業形態

講義とプレゼン中心に行います。

授業の具体的な進め方

テキストに沿って環境キーワードに関するフリーディスカッションを中心に発表を行い、コメントをしていきます。また時事問題についても逐次紹介します。

関連科目

環境マネジメントシステム、環境倫理、環境マネジメント入門、エコマテリアル、環境教育、ライフサイクルアセスメント、環境改善のライフスタイル

授業に持参するもの

テキスト

教科書

地球共有の論理 マイケル・カーレー 日科技連 1999 4-8171-9054-X

参考書

学生へのメッセージ

スマホと電気冷蔵庫の年間消費電力量はどちらが多いかわかる人は受講しないでください。

その他・自由記述欄

特になし。

環境学部
環境創生学科

専門科目

学科基盤科目
学科専門科目

教授要目

環境フィールド・計測演習	
科目英名	Workshop on the methods for collecting and expressing the environmental information
担当者	咸 泳植、宿谷 昌則、北村 亘、室田 昌子、大西 暁生、吉崎 真司、リジャル、史 中超、田中 章
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

私たち人間を取り巻く大小様々な環境空間は、物理的・生物的要素が複合的に関わりあって構成されている。この演習では、環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである環境を科学する方法を学ぶことを目的として、諸感覚を使ったフィールドワークと簡易な器具を利用した計測を体験する。演習は、下記の授業計画に示す内容について 9 人の担当教員によるオムニバス方式で行なう。

We humans are surrounded by environmental space in which physical and biological elements interact in a complex manner. This workshop aims at having the students understand how the environmental space is built up and works. There are nine short programs from observing plants in nearby preserved forest, to measuring water quality, light, heat and electricity, to designing nearby urban environmental space.

達成目標

身近な環境の成り立ちを、計測の経験や、表現の演習を通して理解でき、環境保全のための知識と意識を持つことができるようになる。また、自ら問題を発見する能力と問題の原因究明と解決する能力を身につけることができるようになる。

成績評価

9 つのテーマの全てに出席することを前提とし、テーマによって多少異なるが、それぞれに課される提出物を漏れなく提出したものに對して評価（50%～100%）、発表の評価点（50%～100%）

予習復習時間

授業 1 回（200 分）に対して 2 時間の自習を要する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

この演習を担当する 9 人（宿谷・田中・吉崎・室田・リジャル・咸・史・大西・北村）がそれぞれ担当している他の科目が、この演習に関係するので、それらをできるだけ多く履修すること。

授業計画

第 1 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 2 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 3 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 4 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 5 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 6 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 7 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 8 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 9 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 10 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 11 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 12 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 13 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

第 14 回 五感と身近な環境情報（宿谷）、都市河川の水環境（咸）、まちづくりルールの探索（室田）、森の見方・木の見方（吉崎）、エコロジカル・デザイン（田中）、日常生活の快適温度（リジャル）、都市の地形と水害（史）、都市の土地利用（大西）、身の回りの生き物の観察（北村）

オフィスアワー

金曜日の昼休み

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

関連科目

引き続き各担当教員の科目を受講すると良い。

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

この演習で行なう毎回の測定や作業をしっかりと行なうことが、環境を読み取る力を養うこととなりますので、欠席することなく、毎回積極的に臨むこと。

その他・自由記述欄

教授要目

環境情報リテラシー	
科目英名	Environmental and Information Literacy
担当者	大西 暁生、北村 亘、史 中超、咸 泳植、リジャル、吉崎 真司、宿谷 昌則、田中 章、室田 昌子、横田 樹広 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

環境創生学科を構成する 2 つの分野、生態環境分野、都市環境分野を学ぶ科目である。それぞれの専任教員が、それぞれの分野の内容と合わせて、その背景や目的、事例研究や卒業研究の概要、関連するキャリアデベロップメントを紹介する。本科目は 1 年後期以降の専門科目を体系的に理解するのに資し、3 年次からの研究室選択、卒業後の進路の検討とも密接に関係し、環境創生学科での学び方を示すものである。

達成目標

環境創生学科を構成する「生態環境」と「都市環境」の学問領域、専門領域を学ぶと同時に、各分野間の関係性や各講義間のつながりを体系的に理解するきっかけを得る。

成績評価

各回のレポート評価 (50%)、グループ・プレゼンテーション (50%)

予習復習時間

1 回の授業に対して、2 時間の予習と 2 時間の復習が必要。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

オムニバス授業ということもあり、前回出席を求める。

授業計画

- 第 1 回 イントロダクション、学外見学ガイダンス
- 第 2 回 生態環境分野 (咸)
- 第 3 回 生物多様性と保全生物学 (北村)
- 第 4 回 緑地環境解析 (吉崎)
- 第 5 回 都市生態計画 (横田)
- 第 6 回 都市の熱環境 (大西)
- 第 7 回 気候風土に適合した建築環境と適応的快適性 (リジャル)
- 第 8 回 ヒトの身体と環境ー建築環境学と人間生物学 (宿谷)
- 第 9 回 地理環境情報の収集・管理・解析基礎 (GIS 基礎) (史)
- 第 10 回 都市・居住環境とサステナブル・コミュニティ計画 (室田)
- 第 11 回 ランドスケープ・エコシステムズ (生態学と造園学の融合) (田中)
- 第 12 回 チーム別グリーンマトリックス踏査
- 第 13 回 グループ・プレゼンテーション
- 第 14 回 グループ・プレゼンテーション

オフィスアワー

水曜日 昼休み

授業形態

講義、グループワーク、グループ発表

授業の具体的な進め方

環境創生学科の教員によるオムニバスの科目ですが、原則、生態環境分野と都市環境分野を半々で講義します。この原則の範囲内で担当する教員と内容、担当回は変更されることがあります。その場合には事前に受講者全員に連絡がいきます。

関連科目

基本的にすべての環境創生学科の科目。

授業に持参するもの

野帳などの野外での筆記用具。デジカメ。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

環境創生学科を構成する、生態環境分野と都市環境分野とこの二つを融合する分野 (環境創生分野) をフィールドワークを通して学びます。3 年次の研究室配属にとって、特に重要な科目です。

その他・自由記述欄

生態学概論	
科目英名	Ecology
担当者	北村 亘 <kitamura@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要

地球生命圏の単位である生態系の構造と機能について学び、システムとしての生態系の特性を明らかにする。生態系を構成する種、個体群、生物群集の構造とその動態についても学ぶ。種については、生物間相互作用と共進化を通じて形成された生物多様性について学ぶ。生物群集については、その構造、生物生産、遷移、維持について学ぶ。また、小さな個体群が直面する問題、人間活動の拡大が個体群、生物群集、生態系に与える影響について検証し、その保全の基本的な考え方を学ぶ。

This lecture focuses on the structure and function of ecosystem. Dynamics of species, population, biological community within the ecosystem will be clarified. The current status of species, population, biological community on the earth will be clarified, and conservation measures of these levels of the ecosystem will be discussed.

達成目標

- (1) 生態系の構造と機能を理解する。
- (2) 生態系のシステムとしての特徴を理解する。
- (3) 種、個体群、生物群集の構造、成長、維持などのダイナミクスについて理解する。
- (4) 種、個体群、生物群集レベルの現状と問題点を把握する。
- (5) 多様なレベルの生物多様性の管理・復元嚮に対する基本的考え方と方策を理解する。

成績評価

レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) を総合して評価する。

予習復習時間

1 回 (100 分) の授業に対して 4 時間の自学自習が必要 (学則第 18 条に基づく)

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

特に指定しない。

授業計画

- 第 1 回 生態学とは？
- 第 2 回 生態学を支える進化生物学の基礎
- 第 3 回 行動生態学 1：採餌行動、移動・分散
- 第 4 回 行動生態学 2：ゲーム理論、性選択、血縁選択
- 第 5 回 個体群生態学 1：個体群増殖、環境収容力
- 第 6 回 個体群生態学 2：複数個体群の関係、メタ個体群
- 第 7 回 個体群生態学 3：生活史戦略
- 第 8 回 群集生態学 1：種間相互作用、種の共存
- 第 9 回 群集生態学 2：生物多様性、食物連鎖、食物網
- 第 10 回 生態系生態学 1：物質循環、エネルギー循環
- 第 11 回 生態系生態学 2：バイオーム、遷移
- 第 12 回 景観生態学 1：GIS、系外流入・流出、空間の異質性
- 第 13 回 保全生態学 1：絶滅、レッドリスト、生態系サービス
- 第 14 回 保全生態学 2：生物多様性を守るためにすべきこと

オフィスアワー

原則的に木曜の昼休みとしますが、事前に連絡があればいつでも対応いたします。

授業形態

パワーポイントや配布資料を基にした講義

授業の具体的な進め方

生態学は生物学の中で個体以上のレベルを扱う幅広い学問です。近年の環境問題の中心ともなっている生物多様性に関する知識を得るためには、その基礎となる生態学を知っておく必要があります。生態学概論では小さなレベル (個体レベル) から初めて徐々に大きなレベルに移り (最終的に景観レベル) ながら、生態学の全容を解説いたします。

関連科目

生物学 (1)、(2)

授業に持参するもの

ノートと筆記用具、やる気

教科書

参考書

生態学入門 (第 2 版) 日本生態学会 東京化学同人 2012 4807907832

エッセンシャル・キャンベル生物学 エリック・J・サイモン、ジェーン・B・リース、ジェーン・L・ディッキー 丸善出版 2011 4621083996

学生へのメッセージ

月曜の朝 1 限がつらいのは教員も同じですので、一緒に頑張りましょう。

その他・自由記述欄

教授要目

環境地理	
科目英名	Spatial Logic of Human Environment
担当者	涌井 史郎 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
人間社会は生態系がもたらす様々な恩恵により支えられている。一見自然の力を人間の文明が凌駕したかのように思えても、人間社会は自然の摂理の内側に存在している。故に人間社会と自然の社会システム（生態系）が不適合を起こさず、人間社会の活動量が地球の生命圏の環境容量とその再生力を削がぬ範囲内に収まることが、持続的未来を担保する最低の条件となる。
本講座はそうした人間社会と自然生態系の関係を地理学という観点から、多様な条件下の生態系の特質への理解と、その保全。人為的ダメージが生じた場合の修復の方法、造園学的視点からの再生創造へのアプローチなどについて、基礎的知識が得られるよう講じるものである。

- 達成目標**
- ① 生態系の地理学的特質の理解。
 - ② 地球と地域環境に負荷を生んでいる人為的環境圧や災害等へのレジリエンス性回復の必要
 - 性への理解(生態系の保全と修復)。
 - ③ 地理学としての自然地・農林地・都市的地域の環境評価手法への理解。
 - ④ 生態系を再生創造する為の社会資本グリーンインフラ計画論の基礎と造園技術を活用した技術的方策への理解。
 - ⑤ 都市における自然再生技術としてのランドスケープ・プランニングとデザイン手法への基礎的
- 理解。.

成績評価
出席率を30%、期末試験結果を70%として評価する。
予習復習時間
2時間
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
身近に起きている社会問題への関心と、とりわけ地球や地域が抱える環境問題の基礎知識。

- 授業計画**
- 第 1 回 環境地理学とは何か。
 - 第 2 回 地球で今何が起きているのか。地球環境問題の俯瞰。
 - 第 3 回 日本列島の生態学的特色。
 - 第 4 回 農のランドスケープ
 - 第 5 回 都市のランドスケープ
 - 第 6 回 GIS の手法を用いた環境地理学の空間把握の手法
 - 第 7 回 保全生態学的視点から見た環境修復手法の概要
 - 第 8 回 生態系保全が果たすグリーンインフラとしてのレジリエンス性を高める技術（伝統的自然資本応用の知恵）
 - 第 9 回 エコロジカルネットワークとは何か。結ばれる地域と都市
 - 第 10 回 都市における自然共生と物質とエネルギーの再生循環型モデル「江戸」に学ぶ
 - 第 11 回 都市のグリーンインフラ。公園緑地の体系と活用そしてマネジメント。
 - 第 12 回 都市の新たなランドスケープデザインの事例。
 - 第 13 回 我が国の国土計画上の課題と展望
 - 第 14 回 総括講義
- オフィスアワー**
講義日の17時から18時。

授業形態
受講学生の印象に残るよう可能な限りパワーポイントを用い、併せてその講義に対応したレジュメを作成配布して、理解を深める形態を採る。

授業の具体的な進め方
受講学生の講座目的に対する関心を理解の入り口とするために、先ずビジュアルな印象をパワーポイントの画像資料から得させて、併せて、レジュメに沿った講義を聞くことにより、理解が深まるような講義形態を採る。

関連科目
授業に持参するもの
教科書
参考書

いなしの知恵 涌井雅之（史郎） KK ベストセラーズ 2014
奇跡と希望の松 涌井雅之（史郎） 三省堂書店 2012

学生へのメッセージ
その他・自由記述欄

生物学(1)	
科目英名	Biology(1)
担当者	石川 晶生 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
地球上の生き物はさまざまな環境の中で生きてきた。植物でも動物でもからだを構成する物質は基本的に同じであり、今日の生物が共通の祖先から生じたことを連想させてくれる。そこでこの授業では、生命の起源から人類までの進化と生物の多様性、遺伝子の構造と働き、免疫現象についての講義を行う。

All creatures on the earth have lived in various environments. Substance with which plants and animals make up their bodies is basically the same. It reminds us that all living organisms came from a common ancestor.
In this class, I give a lecture on the origin of organisms, biological evolution of humans and the structure and diversity of gene, the immune phenomena protecting individual organisms.

- 達成目標**
- ・自然界の生物は進化の流れの中でどのように生きてきたのかを理解する。
 - ・ヒトを含めた生物と環境との関係やその成り立ちを認識する。
 - ・生命の設計図である遺伝子の構造と形質発現の仕組みが理解できる。
 - ・からだをまわる免疫現象の理解を深める。
 - ・生命現象の知識や応用技術が生活の中でどのように関わっているのか確認する。

成績評価
定期試験（70%）、提出物・小テスト等（30%）
予習復習時間
1 回の授業に対し 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
日頃からキャンパスや身のまわりの自然に親しみを持つこと。

- 授業計画**
- 第 1 回 はじめに、シラバスの説明、生物（学）について、この授業の進め方と注意事項
 - 第 2 回 身近な自然と植物① 生物界、生物の分類、生物の種、学名、和名
 - 第 3 回 キャンパスの自然観察 植物ウォッチング、身近な植物の形態
 - 第 4 回 身近な自然と植物② 日本の桜、さくら学、野生種・園芸品種
 - 第 5 回 身近な自然と植物③：スケッチ：植物のかたち・器官（葉、花など）
 - 第 6 回 生命の起源、生命の単位、細胞、生物の特性
 - 第 7 回 生物の進化と適応、生存と絶滅、地質時代と生物
 - 第 8 回 進化のビッグバン、さまざまな生物
 - 第 9 回 霊長類の特徴とヒトの進化、ヒト化
 - 第 10 回 生命現象、エネルギーの獲得、ATP、光合成
 - 第 11 回 遺伝現象、遺伝子、DNA の構造、たんぱく質合成、形質の発現
 - 第 12 回 ヒトの遺伝、生殖と発生、生物のからだ
 - 第 13 回 免疫現象、抗原と抗体、拒絶反応、アレルギー
 - 第 14 回 ヒトと自然、生活と植物、生物資源、生物の多様性、最近の話題、まとめ

オフィスアワー
授業の前後、講師控室、授業終了後に対応
授業形態
講義を中心としてテキストも使用するが、必要に応じて資料を配布する
授業の具体的な進め方
座学が主となるがフィールドワークや観察、ディスカッションもある

関連科目
生態学概論、生物学(2)
授業に持参するもの
必要に応じて指示する

教科書
生命と自然 許田倉園監修 玉川大学出版部 2016 9784472042454C3045 （2400 円＋税）
参考書
生命科学入門 丸山工作ほか 東京教学社 2010 97848082401103045 （2300 円＋税）
学生へのメッセージ

ノートをとること。自然観察ではキャンパスを歩くので説明を聞き、フィールドノートに記録して下さい。日頃から身近な生き物や自然を意識して観察しておくこと。授業ではテキスト以外の内容もあります。

その他・自由記述欄
特に復習を行い、ノートを整理して下さい。

教授要目

環境数理学入門	
科目英名	Introduction to Mathematical Method in Environmental Physics
担当者	宿谷 昌則 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要

いわゆる環境問題やエネルギー問題は、関係する自然現象や社会事象を定量的に表現することで初めて理解が深まる。この科目では、私たちの身近にある様々な現象を対象として、その背後に隠れている数理的な性質を如何に抽出し表現するかを講ずる。数理的技法は、実際の計算を行なうことで初めて身につくので、講義に並行して演習を行なう。

In order to understand so-called energy and environmental issues, it is of critical importance for those involving environmental studies to have rational skills for analysis. In this lecture, focusing on some rather simple examples, the students develop a variety of mathematical methods for modeling physical phenomena to be found in our immediate environment. The students will be asked to do a series of exercises for establishing a firm understanding of the skills.

達成目標

身近な環境で起きている自然現象を数理的に扱う方法の基礎を身につける。

成績評価

レポート（４０％）とテスト（６０％）を総合して評価する。

予習復習時間

予習（２時間）、復習（２時間）を行なうこと。自分なりのノート作りをすること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし。

授業計画

第 1 回 数理モデルはなぜ必要か（カタチを見ること、カタを読むこと）

第 2 回 定量化とは何か（直接比較と間接比較、個別単位から普遍単位へ）

第 3 回 量の性質をつかむ（外延量と内包量、移動量と状態量、連続量と分離量）

第 4 回 概数を求める（大きな自然と数量、小さな自然と数量、社会事象と数量）

第 5 回 細かく分けて考える（微分とは何だろうか）

第 6 回 総合して考える（積分とは何だろうか）

第 7 回 勢いを定量化する（運動量とエネルギー）

第 8 回 演習（１）

第 9 回 減衰を定量化する（質量の保存、ネイピア数、雨粒の落下）

第 1 0 回 減衰を定量化する（エネルギーの保存、日射の透過・吸収、気圧降下）

第 1 1 回 減衰を定量化する（エネルギーの保存、日射の透過・吸収、気圧降下）

第 1 2 回 自然のリズムを定量化する（波と回転・循環、三角関数とは何か）

第 1 3 回 拡がり散りを定量化する（エントロピー、熱と仕事、絶対温度）

第 1 4 回 演習（２）

オフィスアワー

金曜日の昼休み

授業形態

講義が 7 0％、講義内容の理解を深めるための演習 3 0％。

授業の具体的な進め方

公式を覚えるのではなく、公式を導き出せるような力をつけることを目指すので、できるだけゆっくりしたペースで授業をすすめる。

関連科目

住環境システム・建築気候学・熱環境論ほか、環境学部に関わるあらゆる科目

授業に持参するもの

ノートと筆記用具・定規・コンパス・電卓

教科書

参考書

学生へのメッセージ

講義は黒板を使って、数理的な考え方を、具体的な事例を使って、「考えながら」進めていく。各自がノートをしっかりと取り、講義の全体、そして演習が終わったときに 各自なりの充実したノートが出来上がるようにしてほしい。ノート作りの名人になるよう努力してください。また、配布資料はよく整理して、授業が終わった後でも全体を読み通すことができるようにきちんとファイルにしてまとめてください。

その他・自由記述欄

授業中に行なう演習を必ず各自で行なうこと。演習とは、自らの手を動かし、頭を働かせて行なうこと。各自のノートに自分で説明文を書き、数式を書き、数式の変形や整理を行ない、理解を深めるようにしてください。その途中で、よくわからないことが現れたら、（恐れずに、愚問と思えても）質問してください。間違えて、その後になってわかることは、最初からわかったつもりになるのより、はるかによいことです。

生物学 (2)	
科目英名	Biology (2)
担当者	北村, 内山<kitamura@tcu.ac.jp（北村） plus9.uchiyama@gmail.com（内山）>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

地球上には、現在まで約 180 万種の生物が記載・命名されており、さらに未知の種が 1000 万種～2 億種存在すると見積もられている。生物分類学は、地球上に生息する生物を様々な特徴によって分類し、生物多様性を体系的に理解する学問である。また、分子生物学的手法の発展により、様々な生物の系統進化に関する知見が蓄積されており、生物の進化を理解するうえでも生物分類学は重要な役割を果たしている。

There are 1.8 million species have been named, and there are another 100 million to 2 billion unknown species, all over the Earth. Taxonomy is the branch of biology which classifies the organism by their character, and enables systematic understanding of biodiversity. In addition, recent advance in molecular biology brought the insight of phylogenic evolution, and taxonomy is playing important role to understand the evolution of life.

達成目標

（１）われわれの生活を支える基盤である生態系を構成する生物の多様性と重要性について理解しながら、生物分類学の基礎を学ぶ。

（２）今後の研究活動の基礎的能力として、生物の同定、スケッチ標本作成等の技術を習得する。

（３）生物分類技能試験などの資格取得に役立つ知識を得る。

成績評価

小テスト・課題（40%）と期末試験（60%）

予習復習時間

1 回（100 分）の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

生き物への興味・関心

授業計画

第 1 回 生き物への興味・関心

第 2 回 種とは何か？～生物学的種概念と種分化のメカニズム

第 3 回 植物の分類Ⅰ

第 4 回 植物の分類Ⅱ

第 5 回 植物の分類演習Ⅰ

第 6 回 植物の分類演習Ⅱ

第 7 回 植物の分類演習Ⅲ

第 8 回 植物の分類演習Ⅳ

第 9 回 植物の分類の応用事例

第 1 0 回 動物の分類Ⅰ 動物の大分類（海綿動物、刺胞動物、前口動物）

第 1 1 回 動物の分類Ⅱ 動物の大分類（後口動物）、系統と DNA

第 1 2 回 動物の分類演習Ⅰ 大学構内での鳥類センサス

第 1 3 回 動物の分類演習Ⅱ 動物園実習

第 1 4 回 動物の分類の応用事例：環境アセスメントと動物分類

オフィスアワー

原則的に木曜の昼休みとしますが、事前に連絡があればいつでも対応いたします（北村）。事前に連絡をいただければ対応いたします（内山）。

授業形態

講義および野外演習

授業の具体的な進め方

パワーポイントや配布資料に基づく講義で得た知識をもとに、実際に大学構内の緑地をフィールドとした野外演習で生物の観察や採集などを行う。

関連科目

生物学（1）、生態学概論

授業に持参するもの

倍率 10 倍程度のルーペ、双眼鏡、デジタルカメラ（あれば）。その他に必要なものは適宜指示する。演習の際は野外で活動しやすい服装、雨具（小雨でも野外に出ます）。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

分類学は生物学の基礎となる分野です。是非、この機に分類の基礎を身につけてください。（北村）

生物の分類ができるようになると環境を見る視点も変わります。まずは身近なところから観察を始めましょう。（内山）

その他・自由記述欄

教授要目

環境統計学	
科目英名	Environmental Statistics
担当者	岡田 穰 <okadam@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要
標本抽出されたデータから全体を推測するための方法、データを用いた仮説を統計学的に検証するための基本概念や方法を解説する。また、事例研究・卒業研究で統計学を使用するための基礎知識（特に統計的仮説検定の概念とスキル）を身につけてもらうことも目的としている。本講義の最終目的は、事例研究や卒業研究での社会調査分析において、統計的推論・仮説検証を行えるようになってもらうことである。

達成目標
(1) 収集したデータの情報特性の正確な把握 (2) 統計学を用いての分析と、その結果を用いた論理展開能力の習得 (3) 「事例研究」や「卒業研究」の分析方法の理解
成績評価
課題（50%）と試験（50%）とします。課題と試験においては単に計算問題を解いてもらうだけでなく、その結果に基づいた論述・考察までを問題とし、評価の基準とします。
予習復習時間
1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。予習としてはシラバスに記載されたタイトルを基としたキーワードについての事前学習、復習としては授業内で学習したプリントの内容整理や演習問題の解説を参考にしながらの再演習など。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
本講義は「統計学基礎」を発展させた講義です。「統計学基礎」を事前に履修しておくことが望ましい。
授業計画
第 1 回 導入；授業の進め方などについてガイダンスを行う。 第 2 回 復習；統計学基礎での学習内容（標準偏差、相関係数等）の復習 第 3 回 確率変数と確率分布①；確率分布から正規分布 第 4 回 確率変数と確率分布②；標準化と標準正規分布表の活用 第 5 回 推測統計学の概要と理論，統計記号の整理 第 6 回 信頼区間の推定①；正規分布による区間推定 第 7 回 信頼区間の推定②；t 分布による区間推定 第 8 回 まとめ①；確率変数と確率分布，信頼区間の推定の問題演習 第 9 回 仮説検定①；仮説検定の概要と理論，帰無仮説 第 1 0 回 仮説検定②；母平均と標本平均との差の検定 第 1 1 回 仮説検定③；2 群の平均の差の検定（対応あり） 第 1 2 回 仮説検定④；2 群の平均の差の検定（対応なし） 第 1 3 回 仮説検定⑤；その他の検定の紹介（カイ 2 乗検定，分散分析） 第 1 4 回 まとめ②；講義内容全体を対象とした問題演習
オフィスアワー
金曜日 4 時間目。ただしメールによる事前のアポイントが必要です。
授業形態
講義と演習
授業の具体的な進め方
配布資料による授業進行を基本とし、講義と演習とを繰り返して進行していく。演習での提出物は課題として扱い、成績評価の対象とします。
関連科目
統計学基礎，環境数学入門
授業に持参するもの
以前の授業で配布した資料，√計算ができる電卓あるいは同様の電卓機能を有する機器，参考図書等
教科書
参考書
読む統計学 使う統計学 広田すみれ 慶応義塾大学出版 2005 ISBN978-4-7664-2036-4 入門統計学 ―検定から多変量解析・実験計画法まで 栗原伸一 オーム社 2011 ISBN978-4-274-06855-3 すぐわかる統計用語 1997 ISBN4-489-00522-9
学生へのメッセージ
統計学は計算によって数値を表わすまでの学問ではなく、その数値を用いて論理展開・検証をする学問です。よって統計によって導き出された結果数値をどう解釈し、活用するのが大事です。
その他・自由記述欄

図化表現技法	
科目英名	Technique for Drawing Expression
担当者	田中 章 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要
ランドスケープ、建築、土木、自然復元等のプロジェクト概念および設計を実現するのに必要な、二次元における空間表現技術を習得する。前半では始めに、平面図、立・断面図という図面の基本を学び、次に空間表現に必要な立体表現画法と着色などの演出技術を学ぶ。後半では、例えば、キャンパス内ポケットガーデン「すわる庭」を計画することを通して、前半で学んだ各種技法を駆使し、提案書を作成する。前半の表現技術習得と、後半の提案設計により、総合的な空間表現技術を獲得する。

Learn about the general idea of projects in Landscape, Architecture, Civil Engineering, and Restoration of nature. Obtain technique for 2-D spatial expression which is necessary to materialize your design plan. At the 1st half of the course, you will learn basic technique of drawing flat plan and elevation plan, as well as directing technique such as 3-D drawing and coloring which are necessary for spatial expression. At the 2nd half, you will make full use of what you learned during 1st half, and create a proposal document for “a sit-able garden” ; a pocket garden in the campus. Through this course, you will acquire comprehensive technique of spatial expression.

達成目標
3 次元空間を 2 次元の平面に表現する技術を学ぶ。

達成目標
3 次元空間を 2 次元の平面に表現する技術を学ぶ。
具体的には、各種プロジェクト提案に必要な以下の技術を習得し、成果品を制作する
●基本図面の図化技法／平面図、立・断面図
●立体図の表現技法
●図面の演出技法／着色、コピー
●計画地の調査とコンセプト策定／提案書
●図面とプレゼンシートの制作技法／提案書

成績評価
各回課題 30%、出席・授業態度 30%、最終プロジェクト作品 40%
予習復習時間
予習 1 時間、復習 3 時間
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特に指定しない
授業計画
第 1 回 ガイダンス、製図道具、製図版の紹介 第 2 回 2 次元の図面作成演習 第 3 回 3 次元の図面（展開図）作成演習 第 4 回 縮尺について 平面図、断面図、立面図①作成演習 第 5 回 平面図、断面図、立面図②作成演習 第 6 回 平面図、断面図、立面図③作成演習 第 7 回 パース作成演習・フォトレタッチング紹介 第 8 回 課題プロジェクトの紹介、フィールド踏査、対象地の確定 第 9 回 対象地の測量、現況平面図の作成 第 1 0 回 計画およびデザインのコセプト策定 第 1 1 回 図面類および表現要素の作成① 第 1 2 回 図面類および表現要素の作成② 第 1 3 回 提案書の制作 第 1 4 回 提案書発表と講評会
オフィスアワー
水曜日昼休み
授業形態
講義、実技演習、グループディスカッション、提案書制作、作品の発表・講評会
授業の具体的な進め方
図面類の実物例とパワーポイントや配布物などによる解説によって、技法を理解し、演習によって具体的に図面作成技法を習得する。個々に獲得した技法を活用して、提案書を作成する。
関連科目
ランドスケープ論、復元生態学
授業に持参するもの
製図道具一式（三角スケール、製図用大型三角定規、シャープペン 0.5mm と 1.0mm、消しゴム、字消し版、トレーシングペーパー、野帳、テンプレート、A3 クリヤーファイルなど）
教科書
参考書
学生へのメッセージ

図面やスケッチを初めて描くという人にも、無理なく取り組めるプログラムです。期末試験は無く、最終プロジェクト制作をその替わりとします。
その他・自由記述欄
将来、ランドスケープデザイン、環境デザイン、造園設計、園芸、エクステリア・デザイン、都市緑化、都市計画などの分野へと進む人には必須の科目です

教授要目

都市・居住環境論	
科目英名	Urban and Residential Environment Theory
担当者	室田 昌子 <murota@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

今後のより良い都市・居住環境を達成するために、人間が目指してきた都市の理想像や都市づくりの歴史を紹介し、居住環境評価の指標と評価方法、デザイン・計画とそのための人間の行動や意識の把握、建築行為の規制、居住環境の拡大化と都市化・立地論を紹介する。

都市環境分野の専門科目であり、人や社会の視点から見たサステナビリティ向上をめざし、都市・居住空間における環境・社会共生を目指すための基礎となる科目である。理論、制度や仕組み、把握方法や各事例を適宜取り入れ、環境配慮型居住環境整備・再生の方向性と計画のあり方を探っていく。

At first, we learn city ideal models human being had pursued and the history of city planning. Secondly, we learn evaluation methods, design and planning, architectural regulations, and methods of community involvement. And then, we learn planning and evaluation methods of many types of the areas, such as large apartment blocks, damaged areas, commercial areas, and historical areas, and we think how to build sustainable, environmental friendly, and harmonious communities.

達成目標

都市空間について、特に住宅地や居住空間に重点を置き、その整備や再生について、歴史、評価方法・調査方法、計画デザイン手法、指標や視点、規制誘導・ルールなどの制度を理論と事例から学び、基礎知識と基礎的思考、手法を習得する。
居住空間・都市空間における人間社会の持続性と魅力創出、環境との共生を考える基礎を習得する。

成績評価

期末テスト、レポート、宿題で7：2：1で成績評価を行う。

予習復習時間

1回(1限)の授業に対して4時間の予習復習が必要である。特に復習を重視して欲しい。実際の事例などは、ネットで確認したり、是非自ら現地に訪れて欲しい。

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

1年生の授業科目であり、特に事前に履修をしなくてはいけない科目は無し。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション：授業の流れと位置づけ、住みやすい居住環境とは？
- 第 2 回 居住環境の歴史：安全性の確保（水害と都市・居住、火災と都市・居住）、健康性の向上（都市の衛生状態、疫病と都市インフラの発展）などから歴史を学ぶ
- 第 3 回 居住環境の歴史：快適性の向上と都市（古代の都市と快適性、江戸の町と快適性）、利便性の発展、環境共生/環境配慮の空間デザインの発展、コミュニティの促進のための空間デザインなどから歴史を学ぶ
- 第 4 回 居住地のデザイン：住宅形式と空間構成、ライフサイクル・ライフステージからみた居住空間・居住地デザインを学ぶ
- 第 5 回 居住地のデザイン：近隣住区論の考え方、生活行動からみた居住地デザイン、居住空間の多様化と志向性変化からみた居住地のデザインを学ぶ
- 第 6 回 生活圏と施設配置：生活圏と生活行動、生活行動と生活施設、生活圏・生活行動からみた施設配置計画を学ぶ
- 第 7 回 居住環境評価：居住環境評価の指標・基準（耐震基準、居住面積水準、環境基準、ユニバーサルデザインなど）の基礎を学ぶ
- 第 8 回 居住環境評価：評価方法/評価手法、安全性・健康性・利便性・快適性に基づく評価の方法と事例を学ぶ
- 第 9 回 建築行為の規制誘導：敷地条件、土地の用途・利用の密度と建築行為における規制誘導制度を学ぶ
- 第 10 回 建築行為の規制誘導：建物の高さ・建物の形態や位置に関する規制誘導制度、地区計画の基礎を学ぶ
- 第 11 回 都市化・都市構造：都市構造とモデル、バージェス、ホイトの理論と、統計による都市構造の把握、首都圏の都市構造の決定要因と把握方法を学ぶ
- 第 12 回 都市化・都市構造：地価、地価による都市構造、立地論（チューネン、ウェーバー、クリスタラー）、土地利用決定論を学ぶ
- 第 13 回 都市と住宅地の発展：アメリカの郊外化、ラドバーン、日本の郊外化、団地開発、ニュータウンへの発展の道筋を学ぶ
- 第 14 回 都市と住宅地の発展：エッジシティと都市・居住環境、環境共生型都市・居住環境、低炭素型都市・居住環境、サステナブルコミュニティと居住環境を学ぶ

全体のまとめ

オフィスアワー

授業終了後同日の午後5時まで随時受け付ける。それ以後は事前に連絡するか入室を確認のうえ訪問。

すること (murota@tcu.ac.jp)

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

パワーポイントなどを活用した講義を行う。内容の確認、及び実際に体験するための宿題を出す。パワーポイントを活用した講義形式を中心とする。必要な資料は ycResources にアップするので、授業前までにダウンロードして授業に臨むこと。

関連科目

都市環境分野のミクロ環境に関する入門であり、「都市環境入門」と合わせて都市環境の入門となる。これを基礎として「環境都市計画学」、「環境都市再生論」へと発展する。

授業に持参するもの

筆記用具

教科書

参考書

都市計画とまちづくりがわかる本 伊藤雅春ほか 彰国社 2011 9784395009022
初めて学ぶ都市計画 饗庭伸ほか 市ヶ谷出版社 2008 9784870710047
ドイツの地域再生戦略 コミュニティマネージメント 2010 4761524855
住民主体の都市計画 室田昌子ほか 学芸出版社 2009 9784761531720

学生へのメッセージ

授業で紹介した内容は是非、本で確認したり実際の実例など調べてみてください。できるだけ様々な街に出かけてください。

その他・自由記述欄

授業で紹介した内容は是非、本で確認したり実際の実例など調べてみてください。できるだけ様々な街に出かけてください。

環境学部
環境創生学科

専門科目

TAP 対応科目

教授要目

画像処理技法	
科目英名	Image Processing
担当者	史 中超 <shize@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	2 年前期前半

科目概要
マルチメディアの重要なソースである画像情報について、一般の写真画像から人工衛星画像まで、その収集方法、コンピュータでの管理方法、情報抽出のための処理・解析方法などを体系的に学ぶ。
In this subject, the students will mainly learn about the principle of digital image, the image quality improvement methods including noise elimination, brightness/contrast adjustment etc., and the techniques related to feature extraction including edge detection, image segmentation, texture analysis, and so on.
達成目標
デジタル画像の原理の理解、画質改善の手法の理解、空間フィルタリングの原理の理解、画像変換技術と画像圧縮技術の理解、画像処理応用技術の取得
成績評価
レポート (30%) と課題 (30%) と試験 (40%) による評価
予習復習時間
2 時間の授業に対して、4 時間の自学習が必要 時間の自学習が必要
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
<事前に履修が望ましい科目> コンピュータシステム、情報リテラシー演習
<他の授業科目との関連>地理情報システム論、環境モニタリング技術
コンピュータ基礎知識、特にコンピュータや周辺機器の内部構造、動作原理などが分かれば授業の内容を理解しやすくなる。
授業計画
第 1 回 イントロダクション：実世界の表現と記録方法・画像・画像処理・本授業の内容
第 2 回 デジタル画像の原理：カラー画像原理・バンド／チャンネル・画像のサイズ
第 3 回 演習：デジタル画像の取り込みと表示 (演習課題 1)
演習項目：画像処理ソフトの起動終了・画像の取り込み・解像度／バンド／サイズの確認
第 4 回 画像の画質改善：濃度変換の概念・シングルバンドの統計指標・ヒストグラム
第 5 回 演習：画像の画質改善 (演習課題 2)
演習項目：イメージの統計特徴・ヒストグラム・コントラスト処理・濃淡処理
第 6 回 空間フィルタ 1 (基礎編)：イメージデータの空間特徴・フィルタとは・空間フィルタの種類
第 7 回 演習：空間フィルタ (基礎編) (演習課題 3)
演習項目：フィルタへの理解・フィルタのカスタマイズ方法
第 8 回 空間フィルタ 2 (応用編)：典型的なフィルタ・フィルタ・フィルタリング処理
第 9 回 演習：空間フィルタ (応用編) (演習課題 4)
演習項目：空間フィルタの利用・画像平滑化・特徴抽出
第 10 回 画像変換技術：階調変換・幾何変換・画像圧縮技術
第 11 回 演習：階調変換 (演習課題 5)
演習項目：二値化、色の変換
第 12 回 応用技術
環境モニタリングへの応用
第 13 回 演習：実践：森林伐採の面積の概算 (演習課題 6)
演習項目：Google Earth による森林伐採現場の発見、伐採された森林面積の概算方法
第 14 回 まとめ
オフィスアワー
月曜日 (昼休み～3 限)、水曜日 (2 限～昼休み)
授業形態
講義・演習
授業の具体的な進め方
講義と演習を交互で行う
関連科目
情報リテラシー、環境情報リテラシー
授業に持参するもの
教科書、ノート
教科書
図解でわかるはじめてのデジタル画像処理 山田 宏尚 技術評論社 2008
参考書
デジタル画像処理入門 酒井 幸市 CQ 出版社 2006 4789818349
学生へのメッセージ
すべての回に出席することを前提として成績評価を行いますので、無断欠席しないように注意してください。
その他・自由記述欄

ランドスケープ論	
科目英名	Introduction of Landscape Architecture
担当者	田中 章 <>
単位数	2 単位
開講時期	2 年前期後半

科目概要
本授業は、我々人類の生存基盤である生態系、またその生態系の健全性を生物多様性の観点から評価することの重要性と具体的技術を学ぶことを目的としている。
生物多様性の消失原因である開発と生物多様性保全との関係に焦点を絞り、両者のバランスを図る社会制度である環境アセスメント制度の現状を概観した上で、生物多様性消失の現状、その対策として世界中で普及しつつある生物多様性オフセットやバンキング、野生生物生息地評価手法などについてそれらの国内外の動向を含めて学ぶ。
Purpose of this class is to understand balance between development and ecological conservation by learning advanced ecosystem assessment tool such as Habitat Evaluation Procedure in Environmental Impact Assessment.
達成目標
●すべての人間活動、例えば開発、土地利用、企業活動などを生物多様性保全の観点からみることの必要性を理解する。
●地球生態系破壊の症状である生物多様性の消失と、その主原因である経済開発を理解する。
●日本の生物多様性消失の現状を理解する。
●環境アセスメント制度と野生生物生息地 (ハビタット) を定量評価する手法、HEP (Habitat Evaluation Procedure) を学ぶ。
成績評価
期末試験 (50%)、その他の授業参加度合い、出席、課題提出など (50%)、
予習復習時間
予習 2 時間、復習 2 時間。
履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)
自然を守れと人は言う。しかし本当に何をどうすれば自然を守ることになるのか? 具体的に理解し、その能力を身につけたい人は受けてください。
授業計画
第 1 回 オリエンテーション
課題説明：”中庭ビオトープの生物多様性を高めるためのプラン”-HEP の HSI モデルを利用して”
第 2 回 環境アセスメントの基本的メカニズムと生態系アセスメントの課題
第 3 回 講義：環境アセスメントとミティゲーション (その 1)：開発と環境アセスメントの関係、ミティゲーションの種類と優先順位
第 4 回 講義：環境アセスメントとミティゲーション (その 2)：代償ミティゲーション (生物多様性オフセット) の事例
第 5 回 グループワーク：中庭ビオトープに集まる野生生物の生存必須条件を HSI モデルを通して学ぼう
第 6 回 講義：環境アセスメントとミティゲーション (その 3)：生物多様性バンキングと里山バンキング
第 7 回 中間発表会：”中庭ビオトープに誘致する生物の HSI モデル”
第 8 回 HEP の基本的メカニズム
第 9 回 HEP の応用事例
第 10 回 HEP で用いる指数・HEP チームの重要性
第 11 回 グループワーク：身近な希少野生生物種について生息地適正指数 (HSI) モデルを作ってみる
第 12 回 HEP における SI モデル、HSI モデル
HEP アカウンティングによる複数案評価
第 13 回 最終発表会：”中庭ビオトープの生物多様性を高めるためのプラン”-HEP の HSI モデルを利用して”
第 14 回 講演：生態系アセスメントや HEP に関係する仕事、就職、資格・試験
オフィスアワー
火曜日の昼休み時間
授業形態
講義、グループディスカッション、グループワーク、試験
授業の具体的な進め方
講義形式だけではなく、グループワークやディスカッション、場合によっては野外でのフィールドワークを含む。図化表現技法で学んだ製図技術を用いてキャンパスの生物多様性を高めるための改善計画を策定する。
関連科目
図化表現技法、ランドスケープ論、環境アセスメント概論、復元生態学、生物学 1、生物学 2
授業に持参するもの
教科書の「HEP 入門」を 1 回目の授業から持参すること。
学生へのメッセージ
これからの社会は、どんな分野、どんな仕事、どんな業界、どんな方向に就職するとしても、我々人類の生存基盤である生態系の保全というテーマが関係しない、ということはありません。興味のない人も最初から興味がある人も、改めてこれからの地球環境で生き抜いていくことを一緒に真剣に考えてみましょう。
将来、環境保全を目的とした仕事に就きたい人、環境とは直接関係がないけれども企業や産業界における環境配慮を推進したい人、(環境方面の就職に有利な) HEP の技術、ノウハウを身につけておきたい人、とにかく環境分野を勉強したい人、みんな受講すべきです。
その他・自由記述欄
ランドスケープ論と生態系アセスメントの授業は両方併せて受講することが望ましい。

教授要目

環境化学	
科目英名	Environmental Chemistry
担当者	威 泳植 <yhamu@tcu.ac.jp (威)、kkume@tcu.ac.jp (久米)>
単位数	2 単位
開講時期	2 年前期

科目概要

教員は生態系における汚染物質濃度と量の時間・空間的な変化を解析することによって汚染源を突き止められる手法として「環境化学」に関する講義を行う。また、教員は環境学部と環境創生学科のカリキュラムポリシーである身近な環境の諸問題について化学的な見地から理解し、その対応策について議論する（キーワード：生態系、汚染物質、汚染源、時間・空間的な変化）。The lecturer gives a lecture on “Environmental Chemistry” as a useful tool to clarify pollution sources with the spatiotemporal change of pollutant concentration & load in ecosystems. In addition, the lecturer gives a lecture on the environmental problems through a chemical point of view and their countermeasures, which are related with Faculty & Department Curriculum Policies (Keywords: ecosystem, pollutant, pollution sources, spatiotemporal change).

達成目標

- 1) 地球上の環境破壊を防止するために、その起因究明が出来るようにする。
- 2) 環境破壊現象を化学領域から見直し、その防止対策を追求出来るようにする。

成績評価

小テストまたは課題（40%）、学期末試験（60%）として評価する。

予習復習時間

授業1回（100分）に対して4時間の自習を要する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

環境学、生態学、化学的な素養が必要であるが、もっと大事なのは、これから修得するという意欲を持つことである。

授業計画

- 第1回 地球上の環境問題について
- 第2回 環境問題に関する解釈法について
- 第3回 地球における物質循環について
- 第4回 化石燃料の燃焼と大気について
- 第5回 大気汚染について
- 第6回 室内環境について
- 第7回 地球温室効果および温暖化現象のメカニズムについて
- 第8回 酸性雨について
- 第9回 酸性雨が生態系に及ぼす影響評価について
- 第10回 オゾン層の破壊メカニズムについて。
- 第11回 再生可能自然クリーンエネルギーについて
- 第12回 水質分析について
- 第13回 河川と環境問題について
- 第14回 水質汚染について

オフィスアワー

（威）月曜日 15:10-16:10、（久米）授業終了後に質問を受け付ける、又は随時電子メール等で質問を受け付ける（久米）

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

自作プリントを配付し、授業を開始。プリントは図表が多いので、図表の余白ないしはノートをとることを進める。理解度を深めるために「課題」を出し、レポートを提出してもらうこともある。

関連科目

環境分析演習、生態環境実習、海外フィールド演習（中国）、物質循環学：以上の科目は環境化学を履修後受講すると良い。

授業に持参するもの

筆記用具、電卓

教科書

参考書

環境化学（化学新シリーズ） 小倉紀雄・一国雅巳 裳華房 2001 4785332093
地球の化学と環境 多賀光彦・那須淑子 三共出版 1998 4782703872
市民環境科学への招待—水環境を守るために 2003 4785350504
土の化学（季刊化学総説） 日本化学会 学会出版センター 2001 4762225711
自然的攪乱・人為的インパクトと河川生態系 小倉紀雄・山本晃一 技報堂出版 2005 4765534081

学生へのメッセージ

環境問題を解明するためには、複合的な学問を学ぶ必要がある。今回の講義は、環境化学に絞ったが、今後勉強を続けるならば広い視野で取り組むことを進める。

その他・自由記述欄

教授要目

環境緑地学

科目英名	Restoration of green in environmentally deteriorated lands
担当者	飯島 健太郎
単位数	2 単位
開講時期	2 年前期後半

科目概要

沙漠や砂漠化地域、里山や海岸、都市の屋上や壁面など、緑が希薄な地域や劣化した土地に緑を再生・修復するための理論と技術を学ぶ。本講義は、環境創生学科生態環境分野の「学科専門科目」であり、地球規模から地域規模の緑を主とする自然の保全や修復及び創生に関する内容を学修する。

Students will learn about the fundamental theory and technic on the restoration of green at the desert and desertification area, satoyama and coastal resion, roof top and wall of buildings in urban.

達成目標

- (1) 地球上で起きている緑の劣化状況とその要因を理解する。
- (2) 緑を修復・再生・創出するための基礎として、水と植物、土と植物、気候と植生の関係性を理解する。
- (3) 緑地の機能と効果を理解し、機能を最大限発揮させるための緑地創生の技術・考え方を修得する。

成績評価

現地調査レポート1回(30点)、ビデオ鑑賞レポート2回(10点×2回)、筆記試験1回(50点)で評価する。

予習復習時間

ポータルサイト「ycResources」に掲載する授業スライドを講義前後に2時間づつ、合計4時間の自学自習を行うこと。

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

生態学概論(1年前期・必修)、生物学(1)(1年前期・選択)、生物学(2)(1年後期・選択)を必ず受講すること。

授業計画

- 第 1 回 イントロダクション:地球上の緑は温度と乾湿度という二つの主な要因によって成立しているが、人間活動の大小によっても様々な緑が成立している。第1回目は、地球上にどのような緑が存在しているかを紹介する。
- 第 2 回 自然界における水と水循環:植物の生理活動にとって水の存在は不可欠である。その水が地球上でどのように分布し、どのような形態で存在しているのかを解説する。
- 第 3 回 自然界における水循環と植物の生育:森林を中心とする水循環を森林水文学の視点から捉え、森林による降雨の遮断能力や森林の貯水量、森林からの流出量などを解説する。
- 第 4 回 土壌生成作用と土の性質:植物が生育するうえでの基盤となる土壌が自然界でどのように生成されるのかを解説し、生成された土壌がどのような性質を有するのかを解説する。
- 第 5 回 土壌環境と植物の生育:生成された土壌の物理性や化学性が植物の生育にどのように影響するのかを解説する。
- 第 6 回 植生の遷移と物質循環:色々な植物の集合を「植生」と呼ぶが、これは時間とともに変化(遷移)し、やがて安定した姿にたどり着くが、そのプロセスはその場所の立地条件によって異なる。植生の種類と遷移のプロセスを立地や物質循環の視点から理解する。
- 第 7 回 日本列島及び地球上の緑地の種類と分布:地球上に成立する緑地は様々な姿をしている。それらは、個体⇒個体群⇒群落・群集⇒植生タイプ⇒群系レベルへとスケールも変化する。講義を通して、それらの種類や分布状況を理解する。
- 第 8 回 緑地の種類と分布を規定する気候的・土地的要因:緑地を構成する植物種は、その場所ができた歴史(地史)によって特徴がある。そしてそれらの種によって構成される緑地は気候的、土地的要因によって異なるが、講義ではそれらの要因を理解する。
- 第 9 回 緑地の機能と効果:緑地の存在は周辺環境に様々な影響を及ぼす。良い効果もあれば悪い効果もある。本回では、緑地が持つ様々な機能と効果について概説する。
- 第10回 緑地による微気象(風環境)のコントロール:緑地のうち、特に森林は風環境をコントロールする能力を持つ。森林の構造や配置によって風の流れをどのようにコントロールし、我々人間生活に役立てていくのかを考える。
- 第11回 緑地による微気象(光・温度・湿度)のコントロール:森林を主とする緑が、光、温度、湿度の視点から周辺環境ににどのような影響を及ぼしているのか、またその影響の程度をコントロールするにはどうしたら良いのかを考える。
- 第12回 劣化した土地の緑による修復技術ー砂漠・海岸ー:砂漠や海岸など、主には砂性裸地を生育基盤とする場所において、緑を修復・再生する技術を紹介する。
- 第13回 緑地創生の技術ー環境緑化・都市の緑化ー:生育基盤としての自然土壌がないような都市の屋上や壁面において、人工土壌を用いながらどのように緑を創っていくのかについて、最近の技術を紹介する。
- 第14回 まとめ:講義を通して地球規模から地域規模に至る緑地の種類や分布、成立要因を理解することによって、我々にとって快適なまた必要な緑の在り様を考える。

オフィスアワー

講義直後の同日午後5時までは随時受け付ける。それ以外の時間は、事前に連絡するか入室を確認の上、訪問すること。

授業形態

室内での講義(座学)を主とする。

授業の具体的な進め方

講義は主にパワーポイントを使用して行う。
横浜キャンパスポータルサイト「ycResources」に授業のパワーポイントを掲載するので、指定の教科書に加えて事前事後の予習と復習を必ず行うこと。

関連科目

生態学概論、生物学(1)、生物学(2)の3科目は、植物に関する基礎的知識(植物の生理・生態学や分類学等)を修得しておくために重要である。環境化学(2年前期)は特に植物の生育基盤である土壌の物理・化学性を理解するために受講しておいたほうが良い。環境フィールド・計測演習(1年前期)は、野外における森や緑の状況を体感しておくために必要で、これらの学修のうえにたつて、緑をどのように修復・再生するのかを理解することができる。

授業に持参するもの

筆記用具、ノート

教科書

最新環境緑化工学 森本幸裕他 朝倉書店 2013 9784254440263

参考書

気象と地球の環境科学 二宮洪三 オーム社 2012 9784274212321

学生へのメッセージ

緑を修復・再生したり新たに創出するための最も基本となる内容であるので、しっかりと学んで欲しい。
キャンパスの内外を問わず、目に入った緑について様々な疑問を持つことから始めよう。
例えば、その緑はどんな種類の植物から出来ているのか、日本在来の種か外来の種か、何故そこに緑が必要なのか、その緑が果たしている役割は何だろうかなど、常に考える習慣を身に着けたい。
その他・自由記述欄
この授業の内容を定着させるために、ビोटープ管理士や自然再生士(補)の資格取得を目指すのも良い。

教授要目

住環境システム	
科目英名	Built-Environmental System
担当者	宿谷 昌則 <>
単位数	2 単位
開講時期	2 年前期前半

科目概要

人間が生活する場としての最小単位である住居に着目して、光・熱・空気などの環境を構成する要素がどう振る舞うかについて講ずる。身近な自然の振る舞いを理解していくことで、良好な環境とは何か、それを維持するためのシステムとは何かを見出す方法論を講ずる。

Room space is the minimum unit of built-environmental space. In this lecture, we discuss how the built environmental space works from physical viewpoint in order to understand the roles of lighting, heating, cooling and ventilating systems for human comfort. The students are required to do a series of simple exercises to enhance their understanding in addition to listening to the lecture itself.

達成目標

人にとって最も身近な環境空間である住環境の成り立ちの基本について、自然科学的な視点からの理解ができるようにすることを目標とする。

成績評価

宿題を3つ課すので、その提出物を評価する（40%）。期末試験を行なう（60%）。

予習復習時間

予習（2時間）、復習（2時間）を行なうこと。自分なりのノート作りをすること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

都市環境や生態環境分野に関連する講義や演習を多く履修しておくこと。

授業計画

- 第 1 回 もっとも身近な環境空間—建築環境
- 第 2 回 3つの環境と3つの情報—環境と情報の階層構造—
- 第 3 回 建築環境システムの型（パッシブとアクティブ）
- 第 4 回 ヒトのからだ（レポート1：建築環境と感覚情報）
- 第 5 回 宇宙と住居（太陽位置、目の働き、体内時計）
- 第 6 回 照明の話（光・目・色・明るさ・窓・ガラス）
- 第 7 回 熱の振る舞い（伝導・対流・放射・蒸発）
- 第 8 回 熱の振る舞いと住まいの形（レポート2：模型実験）
- 第 9 回 建築環境システムの数値モデル化（貯金箱の話）
- 第10回 建築環境システムの数値モデル化（牛乳パックの水位変化）
- 第11回 建築環境システムの数値モデル化（室温変動）（レポート3：計算演習）
- 第12回 換気の話（呼吸・通風・煙突効果・ファン）
- 第13回 湿り空気とヒートポンプ
- 第14回 地球環境システムと建築環境システム

オフィスアワー

金曜日の昼休み

授業形態

講義を80%、講義内容に関連する演習を20%。

授業の具体的な進め方

2回ほどの講義は、パワーポイントを使って行なうが、他はすべて黒板に絵や文章を書きながら行なう。

関連科目

建築気候学、熱環境論、環境数理学入門

授業に持参するもの

筆記用具、ノート、電卓

教科書

参考書

学生へのメッセージ

毎回の講義でノートをしっかり取ることを励行してほしい。黒板に書かれたことだけでなく、話の内容で腑に落ちたこと、よくわからなかったことなど、その都度よくメモを取り、住環境システムの講義すべてが終了したときには、住環境とは何かについての皆さん一人ひとりなりのノートができてるようにしてほしい。また、ほぼ毎回の講義で配られる資料はノートとともにまとめて、いつでも参照できるように整理すること。資料をまとめる能力を身に付けられるか否か、ノートを取ることがしっかりできるか否かは、将来の仕事能力を伸ばせるか否かに大いに係わっています。

その他・自由記述欄

環境学部
環境マネジメント学科
専門基礎科目

教授要目

環境マネジメントシステム	
科目英名	Environmental Management System
担当者	水上 浩 <minakami@jaco.co.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
この講義は、地球環境問題への理解を深めるために、生産活動と環境負荷の相関関係や、環境管理の重要性の基礎的な知識を習得することを目的とする。/The objective of the lecture is to learn correlation between production activities and the environmental impact, and the basic knowledge of the importance of environmental management, for a better understanding of global environmental issues.
達成目標
地球環境の保全と継続的改善のため、'96年に国際的環境規格であるISO14001マネジメントシステム（経営的管理手法）が発効した。本講義は、学生諸子が循環型社会システムへの移行を含め、経営的管理手法とともに、国際的環境動向、環境法規制、環境パフォーマンス評価、ライフサイクル・アセスメント等の環境技術について理解するとともに、本学のISO14001の環境マネジメントシステム（ISO認証）について、ISOの規格改訂（2015版）の内容を踏まえて、自らの言葉で説明できるようになることを達成目標とする。
成績評価
レポート・試験（60％）、発表（40％）を中心に評価する。
予習復習時間
1回の授業に対して、2時間以上の自学自習が必要となる。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
環境、特に地球温暖化に関する情報は絶えず変化している。新聞やインターネットなどを通じて最新情報に触れるように留意すること。
授業計画
第 1 回 地球の限界：EMSと地球環境問題
第 2 回 EMSとは何か：ISO14001シリーズ発行の経緯
第 3 回 大学とEMS：東京都市大学横浜キャンパスとISO14001
第 4 回 ISO14001のしくみ
第 5 回 環境側面：日常生活が環境に及ぼす影響
第 6 回 EMSと要求事項：環境と法
第 7 回 環境マネジメントシステム：環境方針
第 8 回 環境マネジメントシステム：環境重要項目と必要な取り組みの決定
第 9 回 環境マネジメントシステム：環境改善目標の設定
第10回 東京都市大学横浜キャンパスのEMS運営上の課題（グループ課題）の報告
第11回 EMSと環境監査
第12回 見直し（試験）
第13回 学生用環境マニュアルの作成①（方針と改善活動項目）
第14回 学生用環境マニュアルの作成②（まとめ）
オフィスアワー
授業時間終了後に質問を受け付ける。
授業形態
講義および教室外での調査活動
授業の具体的な進め方
講義および例題の演習および発表。演習は教室外での調査活動を含む
関連科目
「環境監査」（3年生 学科専門科目（選択））
授業に持参するもの
配布資料。必要に応じて発表や演習に使用するパソコン。
教科書
講義中配布資料
必要に応じて指示
参考書
『JIS規格（14001）』 日本規格協会
学生へのメッセージ
本学はISO14001の認証を日本の大学で最初に取得した大学であり、学生諸君はその構成員として位置づけられている。横浜キャンパスにおいて、環境改善のために学生が果たすべき役割について学び、環境改善活動を実践すること。
その他・自由記述欄

生態学概論	
科目英名	Ecology
担当者	北村 亘 <kitamura@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要
地球生命圏の単位である生態系の構造と機能について学び、システムとしての生態系の特性を明らかにする。生態系を構成する種、個体群、生物群集の構造とその動態についても学ぶ。種については、生物間相互作用と共進化を通じて形成された生物多様性について学ぶ。生物群集については、その構造、生物生産、遷移、維持について学ぶ。また、小さな個体群が直面する問題、人間活動の拡大が個体群、生物群集、生態系に与える影響について検証し、その保全の基本的な考え方を学ぶ。
This lecture focuses on the structure and function of ecosystem. Dynamics of species, population, biological community within the ecosystem will be clarified. The current status of species, population, biological community on the earth will be clarified, and cnservervation measures of theses levels of the ecosystem will be discussed.
達成目標
(1) 生態系の構造と機能を理解する。 (2) 生態系のシステムとしての特徴を理解する。 (3) 種、個体群、生物群集の構造、成長、維持などのダイナミクスについて理解する。 (4) 種、個体群、生物群集レベルの現状と問題点を把握する。 (5) 多様なレベルの生物多様性の管理・復元嚮に対する基本的考え方と方策を理解する。
成績評価
レポート課題（40%）と期末試験（60%）を総合して評価する。
予習復習時間
1回（100分）の授業に対して4時間の自学自習が必要（学則第18条に基づく）
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特に指定しない。
授業計画
第 1 回 生態学とは？
第 2 回 生態学を支える進化生物学の基礎
第 3 回 行動生態学1：採餌行動、移動・分散
第 4 回 行動生態学2：ゲーム理論、性選択、血縁選択
第 5 回 個体群生態学1：個体群増殖、環境収容力
第 6 回 個体群生態学2：複数個体群の関係、メタ個体群
第 7 回 個体群生態学3：生活史戦略
第 8 回 群集生態学1：種間相互作用、種の共存
第 9 回 群集生態学2：生物多様性、食物連鎖、食物網
第10回 生態系生態学1：物質循環、エネルギー循環
第11回 生態系生態学2：バイオーム、遷移
第12回 景観生態学1：GIS、系外流入・流出、空間の異質性
第13回 保全生態学1：絶滅、レッドリスト、生態系サービス
第14回 保全生態学2：生物多様性を守るためにすべきこと
オフィスアワー
原則的に木曜の昼休みとしますが、事前に連絡があればいつでも対応いたします。
授業形態
パワーポイントや配布資料を基にした講義
授業の具体的な進め方
生態学は生物学の中で個体以上のレベルを扱う幅広い学問です。近年の環境問題の中心ともなっている生物多様性に関する知識を得るためには、その基礎となる生態学を知っておく必要があります。生態学概論では小さなレベル（個体レベル）から初めて徐々に大きなレベルに移り（最終的に景観レベル）ながら、生態学の全容を解説いたします。
関連科目
生物学（1）、（2）
授業に持参するもの
ノートと筆記用具、やる気
教科書
参考書
生態学入門（第2版） 日本生態学会 東京化学同人 2012 4807907832 エッセンシャル・キャンベル生物学 エリック・J・サイモン、ジェーン・B・リース、ジェーン・L・ディッキー 丸善出版 2011 4621083996
学生へのメッセージ
月曜の朝1限がつらいのは教員も同じですので、一緒に頑張りましょう。
その他・自由記述欄

教授要目

統計学基礎

科目英名	Descriptive Statistics
担当者	岡田 啓 <okada@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要

現代社会において、データを用いて現状を把握することは科学的、建設的議論を始めるための第一歩です。そのデータを縮約する方法は、統計学の基礎である記述統計としてまとめられています。この記述統計は、様々な社会問題、環境問題を検討するための必須のスキルです。そこで本講義では、主にデータの集約的な記述や2変数間の関係を分析する方法を勉強します。この科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案を行う際に必須となる基本的な数量情報の整理の仕方について学ぶための基礎的科目である

This course is intended to introduce students to the basic concepts of data, data collection, statistic, and data analysis. Main topics of this course contain an overview of graphical and numerical descriptive statistics as well as to prepare for applied statistics. This course also tell students how to report graphical and numerical statistic and data analysis.

達成目標

①与えられたグラフや表を適切に読み取ることができる

②得られたデータを整理、図示し、要約を行うことができる

以上のことを通して、官庁統計や調査報告書、論文などを適切に読み解き、自ら簡単な調査報告を作成できる技術の獲得を目指す。

成績評価

課題提出 (30%)、学期末試験 (70%) で評価します。小テストを講義中に行い評価に使う場合もあります。また課題を提出していない、または学期末テストの受験をしていない履修生への単位を付与しませんので注意してください。

予習復習時間

4 時間/週の自学自習

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

数式などへの拒否反応を意識的に少しだけ中和できること

授業計画

- 第 1 回 統計学とは何か: 統計学の意義、歴史を解説するとともに、本講義の達成目標について述べる。
- 第 2 回 データの種類、図表の作成: データ (尺度) の種類、及び、それらを適切に表現する方法を学ぶ。
- 第 3 回 グラフの読み方: グラフの読み方、注意点を解説する 5. グラフの作り方: グラフや表の作成方法を学ぶ
- 第 4 回 グラフの作り方: グラフや表の作成方法を学ぶ
- 第 5 回 度数分布表とヒストグラム: 度数分布表とヒストグラムの見方、および作成方法を学ぶ
- 第 6 回 代表値: 平均値、中央値、最頻値などのさまざまな代表値とそれらの性質を学び、データの集約について理解する
- 第 7 回 散布度: 標準偏差、分散、四分位偏差などのさまざまな散布度とそれらの性質について理解し、その算出方法を習得する
- 第 8 回 データを用いた主張の方法: 主張と根拠の関係をトゥールモンモデルを使って明確にする。そしてデータを根拠とした主張の方法を習得する。
- 第 9 回 散布図と相関係数: 2 変数間の関係を調べるために、散布図とピアソンの積率相関係数を用いることを学ぶ
- 第 10 回 相関と因果: みかけの相関などを説明し、相関関係と因果関係は異なることについて学習する。
- 第 11 回 クロス集計と順位相関係数: カテゴリカルなデータにおける 2 変数間の関係を調べるため、クロス集計の読み方や作成方法、及び、順位相関係数の算出方法を学ぶ
- 第 12 回 回帰直線 1: 2 変数の直線的関係を記述する回帰直線の求め方、及びデータに対する回帰直線の当てはまりのよさを評価する決定係数について学ぶ
- 第 13 回 回帰直線 2: 2 変数の直線的関係を記述する回帰直線の求め方、及びデータに対する回帰直線の当てはまりのよさを評価する決定係数について学ぶ
- 第 14 回 まとめ: これまで学習したことをまとめることで、記述統計の手法について思い出すと同時に、俯瞰することで理解を深める。

オフィスアワー

火曜日 12:40 ~ 14:40 (お昼休みから 3 時限目)

授業形態

講義形式。演習を実施する場合もある。

授業の具体的な進め方

板書を中心とした講義です。ノートを持参し、書き取ってください。重要事項は強調します。また適宜演習を挟みます。

関連科目

環境統計学、環境数理学入門、各種フィールド演習、事例研究、卒業研究

授業に持参するもの

神、筆記用具とルーターが計算できる電卓 (スマートフォンの計算機機能でも OK)

教科書

参考書

読む統計学 使う統計学 [第 2 版] 広田すみれ 慶應義塾大学出版会 2013
978-4766420364

初等統計学 ボール G. ホーエル 培風館 1981 978-4563008390

ブレストップ統計学 I 記述統計学 2012 978-4335000843

学生へのメッセージ

情報化社会のなかで、データを読み解き、表現するスキルはますます重要となっていてくる。課題に積極的に取り組み、より高いスキルを身につけてほしい。

その他・自由記述欄

教授要目

ミクロ経済学	
科目英名	Microeconomics
担当者	岡田 啓 <okada@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要
現代社会でよりよく生きようとするとき、限られた資源・資金の下で、様々な意思決定を行う事に迫られる。このような、社会を構成する個々の意思決定や企業の意思決定、それらの相互作用については「ミクロ経済学」で分析されている。本講義は、ミクロ経済学で発展した基礎概念を解説する。なお、本科目は、持続可能な企業活動や消費行動を促進するための政策立案に際して必要となる基本的事柄について学ぶための科目である。Modern economics is being built on the macro and the microeconomics. The purpose of this lecture is in the learning of the basic theories in the later and in the training of the empirical consideration.

達成目標
この講義ではミクロ経済学の基礎的な考え方（制約、トレード・オフ、機会費用、インセンティブ、比較優位、取引、競争、価格、需要と供給）の修得を目的とします。そして、需要・供給曲線を使って、簡単な分析ができるようになることを目標としている。
成績評価
期末試験とレポートで評価を行います。期末試験(70%)、レポート(30%)で評価します。レポート提出または期末試験を行わなかった場合、自動的に評価を不可にしますので注意してください。

予習復習時間
4 時間/週の自学自習
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
知的好奇心があることが前提となります。そして簡単なグラフを読むことができることを前提としています。

授業計画
第 1 回 トレードオフ[1] 制約とトレードオフの定義
第 2 回 トレードオフ[2] 決定木とトレードオフ
第 3 回 機会費用[1] 機会費用の定義とトレードオフとの関係
第 4 回 機会費用[2] 機会費用の発展的考え、埋没費用
第 5 回 主体の行動原理 効用の最大化と資源の最小化
第 6 回 比較優位[1] 比較優位の定義と意義
第 7 回 比較優位[2] 生産可能フロンティアと比較優位
第 8 回 交換 比較優位と取引の関係性
第 9 回 需要曲線と供給曲線（1） 個人の需要曲線、市場の需要曲線
第 1 0 回 需要曲線と供給曲線（2） 個別の供給曲線、市場の供給曲線
第 1 1 回 需要曲線と供給曲線（3）均衡点と価格・数量の決定
第 1 2 回 需要曲線・供給曲線を用いた経済分析[1] 需要曲線のシフトとその要因
第 1 3 回 需要曲線・供給曲線を用いた経済分析[2] 供給曲線のシフトとその要因
第 1 4 回 需要曲線・供給曲線を用いた経済分析[3] 3 段階アプローチ

オフィスアワー
火曜日 1 2 : 4 0 ~ 1 4 : 4 0（お昼休みから 3 時限目）
授業形態
講義形式
授業の具体的な進め方
板書を中心とした講義です。ノートを持参し、書き取ってください。重要事項は強調します。演習を適宜挟みます。

関連科目
公共経済学、環境経済学、意思決定論、公共政策論
授業に持参するもの
指定教科書。ノートもしくはルーズリーフ。

教科書
マンキュー入門経済学〔第 2 版〕 グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2014 4492314431
参考書
マンガ+講義でよくわかる 経済学超入門 木暮太一 東洋経済新報社 2010 978-4492314036
出社が楽しい経済学 吉本 佳生 日本放送出版協会 2009 978-4140813287
この世で一番おもしろいミクロ経済学 2011 978-4478013243

学生へのメッセージ
講義と自分の経験、日常生活を切り離さないようにしてください。ミクロ経済学は皆さんの普段の生活の中で行っていることを理論づけています。この講義で勉強したことは日常生活で応用可能です。率先して応用してみてください。
その他・自由記述欄

数学入門	
科目英名	Introduction to Mathematics
担当者	郭 偉宏 <kakuikou@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要
数学の知識が必要な専門科目の履修への支障をなくすため、高校時代に数学が苦手だった学生と、数学から離れていた学生を対象として、高校の数学を復習する。数値の変化とグラフの関係、方程式と関数の関係を学び、様々な関数の知識を身につけた後で、微分・積分へと展開する。
This lecture is designed for students who have given up mathematics in the high school. I hope students will understand basic mathematics.

達成目標
・数学（2・B）の基本概念の理解
・基礎問題の解法の理解
・各項目間の関連性の理解
成績評価
授業への出席を前提として、試験を 80%（中間テスト、定期試験）、演習を 20%として評価する。
予習復習時間
1 回(100 分)の授業に対して 4 時間の自学自習が必要(学則第 18 条に基づく)
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
高校の数 1・A を基礎とするが、なくともよい。

授業計画
第 1 回 数と代数（1）
第 2 回 数と代数（2）
第 3 回 方程式とグラフ（1）
第 4 回 方程式とグラフ（1）
第 5 回 関数（1）
第 6 回 関数（2）
第 7 回 関数（3）
第 8 回 三角と円（1）
第 9 回 三角と円（2）
第 1 0 回 三角の拡張
第 1 1 回 数列
第 1 2 回 2 項式と帰納法
第 1 3 回 微分と積分（1）
第 1 4 回 微分と積分（2）

オフィスアワー
講義の前後に質疑を答える時間を設ける。また何時でも研究室を訪ねて質問することも歓迎
授業形態
講義と演習
授業の具体的な進め方
講義形式で解説し、必要に応じて演習を行なう。
関連科目
授業に持参するもの
筆記用具、ノート
教科書
参考書
学生へのメッセージ
授業で扱った内容は、次の授業までにすべて理解しておくこと。自分で考えてわからない場合は必ず質問すること。
その他・自由記述欄

教授要目

環境問題原論	
科目英名	Introduction to Environmental Problems
担当者	馬場 健司 <otsuka@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

この科目は、環境問題を理解するにあたって必要な基礎知識や方法論を、より広い観点から学ぶ科目である。自然科学的には、現代を人新世（Anthropocene）と捉えることで、人間による地球システムの改変が常態となってきたことが環境問題の本質にあると理解できる。社会科学的には、そのような改変が社会の構造や変動に依存して起きてきたことが説明できる。この授業では、自然と社会の環境史から始めて、地域公害問題から地球環境問題への変遷をたどり、自然科学と社会科学の視点の違いを超えて環境問題を統合的に捉える視点を学ぶ。

This class provides a wider viewpoint beyond the differences between natural and social sciences to understand environmental problems. From a perspective of natural science, on one hand, environmental problems could essentially be seen as the outcomes of the Anthropocene, a newly proposed epoch of geological timescale, which suggests the significance of the anthropogenic changes against the Earth system. On the other hand, a perspective of social science could explain the role of social structure and dynamics in such anthropogenic changes. By integrating the two perspectives, the environmental history that consists of interactions between nature and societies will be reviewed so as to understand the transformation of the concepts from local pollution to global environmental problem.

達成目標

環境問題を自然科学と社会科学の視点の違いを超えて、より広い視点から理解することができるようになること。

成績評価

毎回の講義で行われる小テストを 30%、期末試験を 70%として評価する。

予習復習時間

1 回（1 時限）の授業に対して、4 時間の自学自習時間が必要となる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

なし。

- 授業計画
- 第 1 回 授業ガイダンスー環境問題とは何か？
 - 第 2 回 地球システムと人新世（Anthropocene）ー人間と社会が問題であること
 - 第 3 回 文明と環境問題の歴史ー多くの文明は環境破壊によって滅びた？
 - 第 4 回 日本列島の環境史ー社会と自然の関係を環境史の視点から
 - 第 5 回 環境と近代世界システムー資本主義と日常生活の変化
 - 第 6 回 日本の近代化と鉱山型公害問題ー足尾銅山からイタイタイ病まで
 - 第 7 回 高度経済成長期の公害問題①ー水俣病・新潟水俣病
 - 第 8 回 高度経済成長期の公害問題②ー四日市公害・新幹線公害
 - 第 9 回 公害から環境問題へー日本の公害と欧米の環境問題は何が違うか？
 - 第 1 0 回 都市・生活型環境問題ー家庭排水、農業、アメニティ、景観
 - 第 1 1 回 巨大事故災害と環境リスクの顕在化ーセベソ、チェルノブイリ、ボパール
 - 第 1 2 回 地球環境問題の出現ー冷戦の終結と国際政治の空白
 - 第 1 3 回 福島第一原発事故ー科学技術のリスクと不定性
 - 第 1 4 回 人新世における地球システムと世界システム

オフィスアワー

原則として、いつでも対応します。

- 授業形態
- 講義
- 授業の具体的な進め方
- 関連科目
- 授業に持参するもの
- 教科書
- 参考書

文明崩壊 上・下 ジャレド・ダイヤモンド 草思社 2012 978-4794219398 ISBN は上巻

シリーズ 日本列島の三万五千年一人と自然の環境史（全 6 巻） 湯本貴和編 文一総合出版 2011 978-4829911952 ISBN は第 1 巻

日常性の構造 1・2 物質文明・経済・資本主義ー15-18 世紀 1985 978-4622020516 ISBN は第 1 巻

公害原論 宇井純 亜紀書房 2006 978-4750506180

- 学生へのメッセージ
- その他・自由記述欄

生物学(1)	
科目英名	Biology(1)
担当者	石川 晶生 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

地球上の生き物はさまざまな環境の中で生きてきた。植物でも動物でもからだを構成する物質は基本的に同じであり、今日の生物が共通の祖先から生じたことを連想させてくれる。そこでこの授業では、生命の起源から人類までの進化と生物の多様性、遺伝子の構造と働き、免疫現象についての講義を行う。

All creatures on the earth have lived in various environments. Substance with which plants and animals make up their bodies is basically the same. It reminds us that all living organisms came from a common ancestor.

In this class, I give a lecture on the origin of organisms, biological evolution of humans and the structure and diversity of gene, the immune phenomena protecting individual organisms.

- 達成目標
- ・自然界の生物は進化の流れの中でどのように生きてきたのかを理解する。
 - ・ヒトを含めた生物と環境との関係やその成り立ちを認識する。
 - ・生命の設計図である遺伝子の構造と形質発現の仕組みが理解できる。
 - ・からだをまもる免疫現象の理解を深める。
 - ・生命現象の知識や応用技術が生活の中でどのように関わっているのか確認する。

成績評価

定期試験（70%）、提出物・小テスト等（30%）

予習復習時間

1 回の授業に対し 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

日頃からキャンパスや身のまわりの自然に親しみを持つこと。

- 授業計画
- 第 1 回 はじめに、シラバスの説明、生物（学）について、この授業の進め方と注意事項
 - 第 2 回 身近な自然と植物① 生物界、生物の分類、生物の種、学名、和名
 - 第 3 回 キャンパスの自然観察 植物ウォッチング、身近な植物の形態
 - 第 4 回 身近な自然と植物② 日本の桜、さくら学、野生種・園芸品種
 - 第 5 回 身近な自然と植物③：スケッチ：植物のかたち・器官（葉、花など）
 - 第 6 回 生命の起源、生命の単位、細胞、生物の特性
 - 第 7 回 生物の進化と適応、生存と絶滅、地質時代と生物
 - 第 8 回 進化のビッグバン、さまざまな生物
 - 第 9 回 霊長類の特徴とヒトの進化、ヒト化
 - 第 1 0 回 生命現象、エネルギーの獲得、ATP、光合成
 - 第 1 1 回 遺伝現象、遺伝子、DNA の構造、たんぱく質合成、形質の発現
 - 第 1 2 回 ヒトの遺伝、生殖と発生、生物のからだ
 - 第 1 3 回 免疫現象、抗原と抗体、拒絶反応、アレルギー
 - 第 1 4 回 ヒトと自然、生活と植物、生物資源、生物の多様性、最近の話題、まとめ

- オフィスアワー
- 授業の前後、講師控室、授業終了後に対応
- 授業形態
- 講義を中心としてテキストも使用するが、必要に応じて資料を配布する
- 授業の具体的な進め方
- 座学が主となるがフィールドワークや観察、ディスカッションもある

- 関連科目
- 生態学概論、生物学(2)
- 授業に持参するもの
- 必要に応じて指示する
- 教科書

生命と自然 許田倉園監修 玉川大学出版部 2016 9784472042454C3045 （2400 円＋税）

参考書

生命科学入門 丸山工作ほか 東京教学社 2010 97848082401103045 （2300 円＋税）

学生へのメッセージ

ノートをとること。自然観察ではキャンパスを歩くので説明を聞き、フィールドノートに記録して下さい。日頃から身近な生き物や自然を意識して観察しておくこと。授業ではテキスト以外の内容もあります。

その他・自由記述欄

特に復習を行い、ノートを整理して下さい。

教授要目

都市環境入門

科目英名	Introduction to Urban Environment
担当者	大西 暁生 <onishi@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

現代の都市環境問題についての理解を深め、その対策を考えるため、一般的な環境行政の流れ、環境基準、環境影響評価制度、環境基本法等の法律や規制等の管理手法を講述する。具体的には、わが国の都市発展の歴史、自然条件、さらに、居住、生産活動、交通、水・エネルギー供給、廃棄物処理、災害危険性等と環境の諸問題について、現状と将来動向として対策を学ぶ。学生が様々な都市問題・環境問題に対しての学問的かつ現実的な興味を呼び起こすことを目的としている。The purpose of this course is to study and understand the outline of urban environment. For the purpose, the historical developments, present overall aspects, and future direction of Japanese cities are discussed from the viewpoint of comprehensive urban planning and urban management.

達成目標

- ・現代の都市環境問題の実施について理解する。
- ・都市活動とそれからもたらされる環境問題の基礎に関して理解する。
- ・環境に関する施策や制度について理解し、その諸問題について理解する。
- ・都市の計画によって人間活動の環境への影響を制御する手法について理解する。

成績評価

期末試験（100％）

予習復習時間

1 回（1 時限）の授業に対して、4 時間の自学自習時間が必要となる。

授業中に紹介する参考書や資料を用いて自習すること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

講義に出席すること。ノートを必ずとること。

授業計画

- 第 1 回 都市環境／環境問題とは
- 第 2 回 これまでの都市環境／環境問題
- 第 3 回 都市と環境
- 第 4 回 日本と世界の都市
- 第 5 回 環境管理と制御手法
- 第 6 回 環境影響評価制度
- 第 7 回 都市の計画
- 第 8 回 土地利用
- 第 9 回 交通
- 第 1 0 回 緑地、公園、景観
- 第 1 1 回 都市インフラストラクチャー
- 第 1 2 回 都市環境問題の事例
- 第 1 3 回 都市システムと都市環境改善のための政策手段
- 第 1 4 回 都市環境の改善に向けて

オフィスアワー

事前にメールにて連絡してアポイントメントをとること。

授業形態

パワーポイントによる講義（重要な箇所はノートを必ずとること）

授業の具体的な進め方

関連科目

環境創生学科・都市環境分野の 1 年生で履修できる科目については関連する。

授業に持参するもの

ノートと筆記用具

教科書

参考書

学生へのメッセージ

まずは出席して、考えながら、しっかりとノートをとること。

随時質問を投げかけるので常にその課題について考えること。

また、都市環境に興味をもち、新聞やニュース等のこれに関する情報に常に目を通して、現在の環境問題の発生原因とその対策について考えを持つようにしておくこと。

その他・自由記述欄

簡単な質問は授業後、それ以外はオフィスアワーに受け付ける。

マネジメント入門

科目英名	Introduction to Management
担当者	郭 偉宏 <kakuikou@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本講義では、組織における企画・組織・指導・監督といったマネジメント機能を理解し、意思決定、コミュニケーション、戦略およびHRMに関する管理科学を学ぶ。

This lecture is an introduction to principles of management. As such, it will provide you with an overview of the many functions managers must perform. We will discover that management consists of four primary functions: planning; organizing, leading and controlling. Topics include decision making, communication, strategic management and human resource management.

達成目標

- ①マネジメントの概念を理解する
- ②マネジャーの技能を理解する
- ③マネジメントとマネジャーの関係を理解する

成績評価

出席とレポート

期末レポート（グループワーク）

評価方法：出席とレポート（70%）、期末レポート（30%）

予習復習時間

1 回（100 分）の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

- 第 1 回 マネジメントとは
- 第 2 回 グローバル環境におけるマネジメント
- 第 3 回 多様性とマネジメント
- 第 4 回 社会倫理と責任
- 第 5 回 変化と改革
- 第 6 回 企画（1）：意思決定と企画の基礎
- 第 7 回 企画（2）：戦略管理、計画技術
- 第 8 回 組織（1）：組織の設計
- 第 9 回 組織（2）：人力资源管理とチーム管理
- 第 1 0 回 指導（1）：個人行為とコミュニケーション
- 第 1 1 回 指導（2）：リーダーとモチベーション
- 第 1 2 回 監督（1）：監督の基礎
- 第 1 3 回 監督（2）：組織実績の監督
- 第 1 4 回 これからのマネジメント

オフィスアワー

講義の前後に質問を答える時間を設ける。また何時でも研究室に訪ねて質問することも歓迎

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式で解説するとともに、演習も行う。チーム課題もある。

関連科目

授業に持参するもの

筆記用具、ノート

教科書

Management Robbins & Coulter Prentice Hall 2012 978-0-13-216384-2

参考書

ハーバード流マネジメント入門 D. クイン・ミルズ ファーストプレス 2012 978-4-903241-22-7 2400 円

マネジメント ドラッガー ダイアモンド社 978-4478410233 2000 円

もし高校野球の女子マネージャーがドラッガーの「マネジメント」を読んだら 978-4478012031

学生へのメッセージ

企業やマネジメント、就職活動への基礎となるので、ぜひ履修してください。

その他・自由記述欄

教授要目

基礎プログラミング演習

科目英名	Fundamental Programming
担当者	高橋 裕子 <yskt@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本科目ではC言語の最基礎を講義し、プログラム演習を通じてコンピュータ言語の構造・論理の理解を促す。コンピュータ言語に触れた経験のない学生を対象として、簡単なアルゴリズムの構築やそのC言語によるコーディングを通じ、基礎からプログラミング考え方を学ぶことで、コンピュータ言語に慣れ親しみ、より高度な情報技術活用スキルの土台を構築する。最終的には、C言語を用いて基礎的な課題を解くことができるスキルを個々が身につける事を目標とする。

This course introduces the basic subject of computer programming using the C language. The course covers the basic introduction to fundamental programming concepts. Topics include syntax of C language, flow control, arrays, and character data.

達成目標

C言語の基本的な文法を理解すること。
プログラミングに必要なツールを使いこなせること。
データ型や配列、条件分岐、繰り返しなどプログラミング言語の基本要素を理解し、簡単なプログラムが作成できること。

成績評価

レポート、理解度確認の試験(授業内)および期末試験をそれぞれ1:1の割合で評価に用いる。

予習復習時間

1 時限分の授業に対し 4 時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

初歩的なコンピュータ操作 (ログインやファイル管理など) ができること。また、大学のネットワーク環境を利用した演習授業であるため、ログインや電子メールの送受信などはできるようにしておくこと。

授業計画

- 第 1 回 コンピュータ言語、およびC言語の概要
- 第 2 回 C言語の基本書式
- 第 3 回 変数の宣言と処理
- 第 4 回 入出力と変数の演算
- 第 5 回 条件分岐処理(1)
- 第 6 回 条件分岐処理(2)
- 第 7 回 繰り返し処理(1)
- 第 8 回 繰り返し処理(2)
- 第 9 回 配列
- 第 1 0 回 繰り返し処理と配列を用いたプログラミング
- 第 1 1 回 C言語のデータ型と文字型
- 第 1 2 回 配列と簡単な文字列処理(1)
- 第 1 3 回 文字列処理(2)
- 第 1 4 回 総合的課題

オフィスアワー

講義時間中に十分な自由演習の時間を取るので、担当教員への相談・質問は自由演習の時間にすること。授業終了後も随時メールで対応可能(yskt@tcu.ac.jp)。

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

演習形式で行い、原則として毎週課題を課す。

関連科目

「情報通信技術入門」

授業に持参するもの

無し

教科書

明快入門C 林晴比古 ソフトバンククリエイティブ 2013 978-4797373264

参考書

学生へのメッセージ

プログラムは機械が実行できるように命令を整理して伝えるもので、様々な場面で必要とされるスキルです。プログラム特有の様々な文法を身につけ、問題を整理し記述する必要があり、難しく数居が高いと感じる学生も多いと思いますが、プログラムを少しずつ修正しながら、徐々に慣れていきましょう。一朝一夕には身につけませんが、毎回の演習の積み重ねが大事です。

その他・自由記述欄

プログラム作成のスピードアップの為、タイピングのスキルアップにも努めて欲しい。

環境倫理

科目英名	Environmental Ethics
担当者	佐藤 真久 <>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

【科目概要 (日本語)】

環境倫理思想がどのような社会的背景・文化・社会の中でつくりだされ、どのように影響を及ぼしてきたかを、事例を活用しながら考察を深める。

【科目概要 (英語)】

By referring some cases of environmental actions and movement, it is expected to consider the values and ethics which are inherent of the social context. It is also discussed the linkages among such values and ethics.

キーワード

環境問題の特性と所在、自然生存権と自然保護、生物多様性保護の倫理、バイオ・リージョナリズム (生命地域主義)、ディープ・エコロジー、環境正義、エコ・フェミニズム、消費者の自由と責任、ソーシャル・エコロジー、環境倫理思想と宗教観・芸術、政治と環境思想、環境倫理思想の関連性とその流れ、日常生活と環境倫理思想

達成目標

様々な視点に基づく環境倫理観の理解相互の環境倫理観の関係性の理解

成績評価

成績評価: 各講義のコメントシートの記入 (50%)、レポート課題 (20%)、期末試験 (30%)

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件 (前提とする知識など)

現代社会の倫理的問題への関心

授業計画

- 第 1 回 環境問題の特性と所在
- 第 2 回 自然生存権と自然保護
- 第 3 回 生物多様性保護の倫理
- 第 4 回 バイオ・リージョナリズム (生命地域主義)
- 第 5 回 ディープ・エコロジー
- 第 6 回 環境倫理思想と宗教観・芸術
- 第 7 回 環境正義
- 第 8 回 エコ・フェミニズム
- 第 9 回 ソーシャル・エコロジー
- 第 1 0 回 消費者の自由と責任
- 第 1 1 回 政治と環境思想
- 第 1 2 回 環境倫理思想の関連性とその流れ (1)
- 第 1 3 回 環境倫理思想の関連性とその流れ (2)
- 第 1 4 回 まとめ～日常生活と環境倫理思想

オフィスアワー

特になし

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

ESD 入門 佐藤真久 筑波書房 2012 978-4811904115

参考書

環境倫理学のすすめ 加藤尚武 丸善ライブラリー 978-4-621-05032-3
自然に対する人間の責任 J. パスモア 岩波現代選書 978-4-00-004708-1
自然保護を問い直す 978-4480056689
環境思想の系譜Ⅰ～Ⅲ 小原秀雄監修 東海大学出版 978-4-486-01342-6
環境的公正を求めて 戸田清 新曜社 978-4-7885-0496-7

学生へのメッセージ

環境倫理は科学や技術的知見だけでなく、地域の歴史や文化の知見、社会構造についての知見も非常に重要であり、その関連性にも関心をもつこと。また、自分自身の問題としてもよく考えること。

その他・自由記述欄

教授要目

マクロ経済学	
科目英名	Macroeconomics
担当者	森 朋也 <moritomo@tamacc.chuo-u.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要
基礎的なマクロ経済学を学習する。基礎的なマクロ経済分析を用いて、現実の経済現象、経済政策の効果を学習する。
達成目標
本講義の達成目標は、(1) マクロ経済学における基本的な概念と用語、理論を概説できること、(2) 経済政策の効果や様々な経済現象について説明できるようになることである。最終的に、履修者が、日々、新聞やニュースで得られる経済的事実(情報・知識)をマクロ経済学の理論から理解できるようになることを目標としている。
成績評価
定期テストが7割、小テスト(3回を予定)が3割で評価する。
予習復習時間
一回の講義に対して、最低でも予習を一時間半、復習を一時間半行うことが望ましい。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)
基礎的なミクロ経済学を履修済みである、また数学の知識を持っていることが望ましいが前提とはしない。
授業計画
第 1 回 イントロダクション：マクロ経済学とは
第 2 回 国民経済計算：生産と国民所得の決定
第 3 回 財市場①：有効需要の原理、45 度線分析
第 4 回 財市場②：消費関数と投資関数
第 5 回 資産市場①：貨幣と債券、貨幣供給、金融政策
第 6 回 資産市場②：流動性選好説、貨幣需要関数と利子率の決定
第 7 回 IS-LM 分析①：IS 曲線と LM 曲線、均衡国民所得と均衡利子率の同時決定
第 8 回 IS-LM 分析②：財金融政策の効果
第 9 回 労働市場の AD-AS モデル①：労働市場の需給
第 1 0 回 労働市場と AD-AS モデル②：AD-AS モデル分析
第 1 1 回 労働市場と AD-AS モデル③：フィリップス曲線、自然失業率仮説、合理的期待仮説
第 1 2 回 成長理論：ハロッド＝ドーマーモデル、ソロー＝スワンモデル、内生的成長モデル
第 1 3 回 景気循環論：ヒックス＝サミュエルソンモデル、リアルビジネスサイクル仮説など
第 1 4 回 マクロ経済学と日本経済
オフィスアワー
特に設けません。質問等はメールにて問い合わせてください。
授業形態
講義は、パワーポイントと配布資料を用いて進める。
授業の具体的な進め方
パワーポイントを用いて講義を進める。適宜、理解を深めるために問題演習を行う。また、過去に起きた問題や最近の時事問題を取り上げて、その回のテーマと関連付けて説明する。
関連科目
ミクロ経済学、日本経済論
授業に持参するもの
筆記用具
教科書
参考書
『マクロ経済学(第4版)』 ジョセフ・E・スティグリッツ / カール・E・ウォルシュ 東洋経済新報社 2014 978-4492314463
『マンキュー経済学Ⅱ(マクロ編)(第3版)』 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2014 978-4492314456
『マクロ経済学(第3版)』 2009 978-4000266543
『マクロ経済学』 斉藤誠・岩本康志他 有斐閣 2010 978-4641053724
『コンパクト マクロ経済学(第2版)』 飯田泰之・中里透 新世社 2015 978-4883841257
学生へのメッセージ
経済問題や経済政策に関する議論は一見難しいイメージがあるかもしれませんが、基礎的なマクロ経済学の知識だけでも理解できることが多くあります。本講義が学習した内容が皆さんの考える物差しになれば幸いです。
その他・自由記述欄

環境数理学入門	
科目英名	Introduction to Mathematical Method in Environmental Physics
担当者	宿谷 昌則 <
単位数	2単位
開講時期	1年後期前半

科目概要
いわゆる環境問題やエネルギー問題は、関係する自然現象や社会事象を定量的に表現することで初めて理解が深まる。この科目では、私たちの身近にある様々な現象を対象として、その背後に隠れている数理的な性質を如何に抽出し表現するかを講ずる。数理的技法は、実際の計算を行なうことで初めて身につくので、講義に並行して演習を行なう。
In order to understand so-called energy and environmental issues, it is of critical importance for those involving environmental studies to have rational skills for analysis. In this lecture, focusing on some rather simple examples, the students develop a variety of mathematical methods for modeling physical phenomena to be found in our immediate environment. The students will be asked to do a series of exercises for establishing a firm understanding of the skills.
達成目標
身近な環境で起きている自然現象を数理的に扱う方法の基礎を身につける。
成績評価
レポート(40%)とテスト(60%)を総合して評価する。
予習復習時間
予習(2時間)、復習(2時間)を行なうこと。自分なりのノート作りをすること。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)
特になし。
授業計画
第 1 回 数理モデルはなぜ必要か(カタチを見ること、カタチを読むこと)
第 2 回 定量化とは何か(直接比較と間接比較、個別単位から普遍単位へ)
第 3 回 量の性質をつかむ(外延量と内包量、移動量と状態量、連続量と分離量)
第 4 回 概数を求める(大きな自然と数量、小さな自然と数量、社会事象と数量)
第 5 回 細かく分けて考える(微分とは何だろうか)
第 6 回 総合して考える(積分とは何だろうか)
第 7 回 勢いを定量化する(運動量とエネルギー)
第 8 回 演習(1)
第 9 回 減衰を定量化する(質量の保存、ネイピア数、雨粒の落下)
第 1 0 回 減衰を定量化する(エネルギーの保存、日射の透過・吸収、気圧降下)
第 1 1 回 減衰を定量化する(エネルギーの保存、日射の透過・吸収、気圧降下)
第 1 2 回 自然のリズムを定量化する(波と回転・循環、三角関数とは何か)
第 1 3 回 拡がり散りを定量化する(エントロピー、熱と仕事、絶対温度)
第 1 4 回 演習(2)
オフィスアワー
金曜日の昼休み
授業形態
講義が70%、講義内容の理解を深めるための演習30%。
授業の具体的な進め方
公式を覚えるのではなく、公式を導き出せるような力をつけることを目指すので、できるだけゆっくりしたペースで授業をすすめる。
関連科目
住環境システム・建築気候学・熱環境論ほか、環境学部に関わるあらゆる科目
授業に持参するもの
ノートと筆記用具・定規・コンパス・電卓
教科書
参考書
学生へのメッセージ
講義は黒板を使って、数理的な考え方を、具体的な事例を使って、「考えながら」進めていく。各自がノートをしっかりと取り、講義の全体、そして演習が終わったときに 各自なりの充実したノートが出来上がるようにしてほしい。ノート作りの名人になるよう努力してください。また、配布資料はよく整理して、授業が終わった後でも全体を読み通すことができるようにきちんとファイルにしてまとめてください。
その他・自由記述欄
授業中に行なう演習を必ず各自で行なうこと。演習とは、自らの手を動かし、頭を働かせて行なうこと。各自のノートに自分で説明文を書き、数式を書き、数式の変形や整理を行ない、理解を深めるようにしてください。その途中で、よくわからないことが現れたら、(恐れずに、愚問と思えても)質問してください。間違えて、その後になってわかることは、最初からわかったつもりになるのより、はるかによいことです。

環境リスクマネジメント	
科目英名	Environmental Risk Management
担当者	青山 貞一 <aoyama@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

大気汚染（PM2.5、アスベストを含む）、水質汚濁、廃棄物、有害化学物質、放射性物質、地球温暖化物質など、私たちを取り巻く生活環境に存在する環境リスクのアセスメント（リスクの調査、分析、評価など）、マネジメント（リスクの管理、対策、法規制など）、コミュニケーション（情報公開、情報交流、合意形成など）について、具体的な事例を通じて学びます。

In this class, students can learn environmental risk management system of air pollution, water pollution, toxic chemical substance and radioactive substance in the human environment by learning case studies of risk assessment (analysis and evaluation), risk management (countermeasures) and risk communication (information disclosure)

達成目標

本授業を通じ、私たちの生活空間さらに人間を取り巻く環境(human environment)に存在する各種の環境リスク、その原因としてのハザードの存在、リスクの種類、毒性、有害性、危険性などを知り、市民としてそれらリスクに科学的、政策的さらに法的にどう対応すればよいのかについて、基礎的な知識を習得することにより、日常生活及び就職先組織としての企業、行政、NPO などにおいて就職後、実務に生かせることを目標とします。

成績評価

本授業の成績評価は、①授業への出席点、②レポート（原則2回）及び③期末試験を総合して評価する。配分は①出席点と②レポートあわせて50点、③期末試験結果を50点、合計100点満点とする。なお、出席点、レポート提出、期末試験に関連し不正行為が発見された場合は、当該箇所の点数をゼロとするものとする。

予習復習時間

一回の授業に月4時間の予習を行うこと。なお、授業で用いるパワーポイントを紙媒体で配布するので復習が可能である。また青山が設置しているホームページ（独立系メディア <http://eritokyo.jp/independent/today-column-education.htm>）の教育、地域、地球、ゴミ、有害物質、原発などのスレッド及び動画サイトを授業の前後に見ることにし、授業への興味、関心を高めることが出来る。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

環境リスクに関わる学習は、座学、講義だけでなく、実際に環境リスクに関連した問題また実際にあった事故、事件などに足を運ぶことが大切です。青山はそれを環境問題を解決する上での「現場主義」と呼んでいます。青山の授業は、すべて自分が実際に調査、研究、経験したこと、したことを中心に行います。

授業計画

第 1 回 授業全体の構成、概要などのオリエンテーション及び「環境リスクとは」、その原因となる「ハザードとは」、「予防原則とは」、さらに欧米日本における環境リスク論の起源と経過などを概説する。

第 2 回 生活空間、地域環境さらに地球環境に至るまで私たちを取り巻く環境に存在するリスクの種類としての大気汚染、水質汚濁、廃棄物、有害化学物質、放射性物質、地球温暖化物質などとそれらの環境リスクをもたらす原因としてのハザードの概要。環境リスクとハザードとの相互関係、さらにそれらに関連する法規制、政策的対応の歴史と現状について

第 3 回 ①環境リスクのアセスメント(Environmental Risk Impact Assessment, Environmental Assessment of Environmental Risks)、すなわち環境リスクの種類、リスクの程度、広がりなどをいかにして調査、予測、評価するかについて学習する。

第 4 回 ②環境リスクのマネジメント(Environmental Risk Management)、すなわちいかにして環境リスクを回避、削除、緩和、規制するかについて、科学的、政策的、法規制的、倫理面からどうすればよいかについて学ぶ。

第 5 回 ③環境リスクを巡るコミュニケーション(Environmental Risk Communication)、すなわち環境リスクをもたらす可能性が行為を行う事業者、行政機関と地域住民、生活者との間で情報提供、コミュニケーションなど総じて市民参加を行うべきかについて、具体例のもとと講義する。

第 6 回 事例研究1：自動車排ガス（PM2.5、SPM、黒鉛などの粒子状物質、素素酸化物など）にともなうリスク、発がん性、QPODなどの呼吸器疾患などの発生リスクとその経歴。川崎大気汚染公害裁判、東京大気汚染公害裁判など裁判を通じ環境リスク、ハザード、その対策について学ぶ。

第 7 回 事例研究2：東京都における廃棄物の焼却に伴うリスク、ダイオキシン類、重金属類などがもたらすリスク（急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性）と法的、政策的対応。東京都、横浜市の廃棄物焼却工場、焼却灰などの最終処分場実態調査をもとに報告し議論する。

第 8 回 事例研究3：所沢ダイオキシン事件。1999年に埼玉県所沢市で起きた産業廃棄物焼却炉からの排ガスによる農作物ダイオキシン汚染事件を具体的事例として環境リスクのアセスメント、マネジメント、コミュニケーションのあり方について学ぶ。

第 9 回 事例研究4：北イタリア・セベソにおける農薬工場爆破による工場周辺の地域社会への健康リスクの実態、同事故へのその後のイタリア、EU諸国の対応について現地調査をもとに、欧州諸国における環境リスクマネジメントのあり方を学ぶ。

第10回 事例研究5：福島第一原発事故に伴う周辺地域、福島県、関東諸地域への放射性物質の移流、拡散、沈降に伴う環境リスクのアセスメント、除染事業、がれき広域処理、高レベル放射性物質貯蔵などを含むリスクマネジメント、さらに国、電気事業者らと地域住民との間での情報交流、損害賠償などの合意形成に関わる問題を都合7回に及ぶ現地視察、測定分析調査、リスクシミュレーション、裁判は連嶺などをもとに学ぶ。

第11回 事例研究6：アスベスト（石綿）の環境リスク、健康リスクを名以外におけるアスベストの生産、輸入、加工、使用、廃棄に至る過程に示すとともに、一定量を呼吸により肺筋に吸入した場合の健康リスクについて学術研究をもとに詳細に紹介する。学術研究では、一定量以上のアスベストを吸入した場合には、ほぼ7年後に中皮腫というがんの一種となることが判明している。日本ではすでに輸入、加工、使用は行われていないが、アジア諸国など発展途上国では以前として使用されている現実とそれへの対応についても学ぶ。

第12回 事例研究7：地球温暖化による気候変動、生物生育環境の変動、マラリアなど熱帯病の増加など、地球環境リスクについて、過去から現在さらに今後2世紀後半に至る予測を含め紹介し、ではどうしたら地球規模の環境リスクを回避することができるのか、世界各国のリスクマネジメントについて政策シミュレーションをもとに学ぶ。

第13回 事例研究8：人類がもたらす最大の最大の環境破壊、環境リスクは「戦争」であろう。ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争など具体的な戦争事例を通じてその実態を紹介する。とりわけ青山等が行った湾岸戦争による膨大な中東の油井炎上による環境リスクのアセスメント、リスクを回避、緩和するための具体的マネジメントから学ぶ。

第14回 事例研究9：喫煙の環境及び健康リスク。日本人、とりわけ成人男性は先進諸国で歴史的に最も喫煙率が高く以前として先進諸国でワーストワンとなっている。樹上喫煙を含む喫煙がもたらす環境リスク、健康リスクの実態、喫煙によるガンの部位別ステージ別リスク、禁煙のあり方、喫煙関連訴訟などについて詳細なデータをもとに講義する。また都市大青山研究室における喫煙リスクを巡る各種調査、研究についても事例紹介する。

オフィスアワー

授業終了後における質問への対応は可能。また授業外における質問は青山のメールアドレスに質問メールを送ることにし対応。

授業形態

授業は座学、パワーポイントを使用した講義が中心となるが青山がマスメディアと調査報道に関わった具体的事例の動画を多用する。

授業の具体的な進め方

授業は、開始前に当日の講義で使用するパワーポイント（原則としてA3版用紙に36枚分印字）を配布する。講義ではそれ以外に写真、動画等を含め一回の講義につき100枚前後のパワーポイントを使用して行う。授業中に、任意の学生に対し青山が簡単な質問を投げかけ、その場で答えてもらう。終了後、当日の授業に関する質疑に対応する。

関連科目

環境マネジメント関連授業、環境法など

授業に持参するもの

筆記用具、簡単な数値計算を行うための電卓（携帯で仕える電卓でもよい。ただし、期末試験での使用は不可）

教科書

）

参考書

新・台所からの地球環境 青山貞一他、環境総合研究所研究員 ぎょうせい 1998年5月 9784324054000

ダイオキシン汚染 青山貞一 法研 1998年2月 9784879542182 (4879542180)

もっと知りたい環境ホルモンとダイオキシン問題解決へのシステムづくり 1999年2月 9784324057391[4324057397]

RISK ASSESSMENT OF DIOXINS IN CIGARETTE SMOKE Teiichi Aoyama 1,2, Komichi Ikeda1, Atsushi Takatoriland Terry Obal 23th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs Date: August 25-29, 2003 Venu: Boston, USA (2003.8

学生へのメッセージ

環境リスクに関わる学習は、座学、講義だけでなく、実際に環境リスクに関連した問題また実際にあった事故、事件などに足を運ぶことが大切です。青山はそれを環境問題を解決する上での「現場主義」と呼んでいます。青山の授業は、すべて自分が実際に調査、研究、経験したこと、したことを中心に行います。

その他・自由記述欄

参考書はすでに絶版になっていますが、青山が図書館長だったとき横浜キャンパスに2冊づつ寄贈している。図書館の検索システムで検索すること。その他、青山が設置しているホームページにて広義の意味での環境リスクに関わる論文、論考、ニュース、動画を配信している。URLは<http://eritokyo.jp/independent/aoyama-column1.htm>

環境学部
環境マネジメント学科

専門科目

学科基盤科目
学科専門科目

教授要目

環境経営入門	
科目英名	Environmental Management
担当者	中原 秀樹 <nakahara@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要
21世紀は環境問題の解決なくして人類の存続はありえない。地球環境問題を理解し、その解決のために環境経営はどのように寄与できるかを知る。
達成目標
資源消費も環境破壊も限りなく増大し、もはやコントロール不能な状態である。効率や消費システムを思い切って大幅に転換して資源集約度を下げ、消費主義的価値観を根本的に変えない限り、解決は望めない。講義では破壊的なプロセスと消費的な価値観を根本的に変えるための現実的な取組を提案する
成績評価
出席評価 20%、レポート評価 20%、試験評価 70%
予習復習時間
教科書の指示箇所を事前に予習すること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
毎日、新聞をよく読むこと
授業計画
第1回 はじめに
第2回 I. 10の環境問題 (①気候変動、②エネルギー)
第3回 I. 10の環境問題 (③水、④生物多様性と土地利用)
第4回 I. 10の環境問題 (⑤化学物質と重金属、⑥大気汚染)
第5回 I. 10の環境問題 (⑦廃棄物処理、⑧オゾン層の破壊)
第6回 I. 10の環境問題 (⑨海洋と漁業、⑩森林破壊)
第7回 I. 10の環境問題 (その他の環境問題)
第8回 II. 環境問題と企業 (①環境問題を軽視すると、②企業戦略と環境)
第9回 II. 環境問題と企業 (③環境問題に絡む要素とは、④環境の波はあらゆる企業に打ち寄せる)
第10回 II. 環境問題と企業 (⑤環境優良企業の特徴、⑥企業の社会的責任としての環境)
第11回 III. 環境への取り組みの促進要因 (①世界各国における環境規制の強化)
第12回 III. 環境への取り組みの促進要因 (②圧力をかけ始めた自然環境)
第13回 III. 環境への取り組みの促進要因 (③環境意識の高い利害関係者の増加)
第14回 IV. 環境問題を巡る利害関係者
オフィスアワー
希望者は講義後教員控室に来てください。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
講義とプレゼンテーション
関連科目
環境マネジメントシステム、持続可能な消費、環境経済学、エコマテリアル、ライフサイクルアセスメント、エコデザイン。
授業に持参するもの
教科書
教科書
ブルーアース・カレッジ 東京都市大学環境学部 東急エージェンシー 2015年 978-4-88497-123-6
参考書
学生へのメッセージ
講義中の携帯電話、PCの使用、また着帽は認めない。そして飲食禁止が守れる学生のみ受講してよい。
その他・自由記述欄
特になし

環境政策入門	
科目英名	Introduction to Environmental Policy
担当者	大塚 善樹、小野 直樹、岡田 啓、佐藤 真久、古川 務
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要
社会科学の方法論、すなわち人間と人間集団の行為や価値を主要な研究対象とする科学的方法によって、環境問題にアプローチする基礎を学ぶ。具体的には、経済学、法学、政治学、社会学、および教育学の理論と方法を用いて、地域社会から国際関係に及ぶ多層的な環境と社会の関係をどのように明らかにできるのか、またその結果としてどのような環境政策への展望が開けるのかを示し、以後の環境政策関連分野の学習への動機づけと基礎づくりを行う。
This class introduces the basis of social studies for environmental issues. It includes approaches from the perspectives of economics, law, political science, sociology and pedagogy to clarify interactions between environment and society at various levels, ranging from regional to global issues. Based on that, it also covers policy aspects and enhances incentives for further study.
達成目標
環境問題を人間社会の問題として捉えることに興味を持ち、その基礎的な考え方を習得すること。
環境問題の解決の方法を社会科学の方法論を用いて考えることに興味を持ち、その基礎的な知識を習得すること。
成績評価
成績は5名の教員が授業で行う小レポートの合計で評価します。期末試験は実施しません。
予習復習時間
授業の各回で、ネットワークドライブにある資料を用いた2時間の予習、および授業で指示する参考文献と課題に関する2時間の復習を義務付けます。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特になし。
授業計画
第1回 授業ガイダンスおよび社会科学の方法論：マックス・ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』に基づき、実践的な社会政策に関する科学では、価値中立であることの困難さと道徳的実践性の重要さへの認識が必要であること、自然科学的な法則発見型のアプローチ以外に事実の多様性を捉える認識枠組みが必要であること、以上について解説する。（大塚）
第2回 環境問題の社会学：環境問題を社会運動論の観点から取り上げ、政策形成のプロセスを社会的な構築として捉える見方を学習する。環境問題をめぐる地域住民や市民団体・NPOがつくる公共的なコミュニケーションが環境政策において果たす役割を理解する。（大塚）
第3回 経済学から見た環境、環境問題、経済的手段：経済学は環境、環境問題をどのように見ているのか。そして環境問題に対してどのような解決方法を提示しているのか解説する。（岡田）
第4回 環境の測り方：環境には市場価格が存在しないため、政策の効果を測ることが難しい。価格が存在しない環境を経済学ではどのようなアイディアで「測る」のか解説する（岡田）
第5回 エネルギー・経済・環境問題：エネルギーと経済、エネルギーと環境問題がどのように歴史的に展開してきたのか解説する。（岡田）
第6回 地球環境問題とは？：地球環境問題と一口に言っても、実際には様々な問題があるが、どのような問題が関わっているのかを理解する。（小野）
第7回 地球環境問題と世界政治の関わり：地球環境問題を解決するうえでなぜ世界政治が重要なのかを理解する。（小野）
第8回 世界政治学とは？：地球環境問題を政策課題として対応するために必要な世界政治学とは何かを理解する。（小野）
第9回 環境政策における法の役割：環境政策における法の位置づけを確認した上で、政策実施における法の機能を説明する。（古川）
第10回 公害防止の環境政策：人の健康の保護等を目的とする公害防止分野の環境法令を概説し、その環境政策への寄与度を確認する。（古川）
第11回 自然保護の環境政策：優れた自然環境の保全等を目的とする自然保護分野の環境法令を概説し、その環境政策への寄与度を確認する。（古川）
第12回 環境政策における教育の役割：国内外における環境政策において位置づけられてきた環境教育の役割と機能について概説する。（佐藤）
第13回 公害教育と関連政策：公害問題の深刻化がもたらした健康被害と反対運動の事例を取り扱うとともに、そこで実践されてきた公害教育の取組とその政策への影響について理解を深める。（佐藤）
第14回 自然保護教育と関連政策：自然破壊の深刻化がもたらした自然保護活動の事例を取り扱うとともに、そこで実践されてきた自然保護教育の取組とその政策への影響について理解を深める。（佐藤）
オフィスアワー
質問や相談は大塚が窓口になり、アポイントなしでも随時対応します。
授業形態
本授業は環境政策分野の教員によるオムニバス形式の授業であり、授業計画の（ ）に記載した教員がそれぞれ担当する。
授業の具体的な進め方
関連科目
授業に持参するもの
教科書
参考書
学生へのメッセージ
その他・自由記述欄

教授要目

温暖化の科学	
科目英名	Scientific Basis of Global Warming
担当者	S・クレイネス <kraines@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要
この科目は、温暖化を理解し研究するにあたって必要な基礎的知識、技能、方法論を学ぶための科目である。 地球温暖化の科学的基礎、考えられている影響と危険度、そして可能な軽減策と適応策について講義する。 This course will help students to learn the fundamental knowledge, techniques, and methodologies needed for understanding and studying global warming. The lecturer will present the scientific basis of global warming, the potential influences and dangers, and the possible mitigation and adaptation measures.
達成目標
学生が、地球温暖化の科学的基礎、悪影響のリスクのエビデンス、そして現在考えられている軽減策と適応策について説明できるようにする。 Students should gain an understanding of and the ability to explain the scientific basis of global warming, the evidence for risks from global warming, and the nature of mitigation and adap
成績評価
毎回の講義で行われる小テストと討論の参加を 30%、期末試験を 70%として評価する
予習復習時間
1 回（1 時限）の授業に対して、4 時間の自学自習時間が必要となる
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
温暖化問題に広く関心を有していること。また、日頃から新聞等で関連情報を収集しておくこと
授業計画
第 1 回 史上初の「限界がある地球」の時代 変化の加速と本当の「新世界」 科学とは何か：科学の手法の特徴、科学には不確実性がある For the first time in human history – the age of a “limited Earth” Accelerating change and a real “New World” What is science? characteristics of scientific methods and uncertainty in science
第 2 回 メディアなどにおける地球温暖化論争 地球温暖化の反論によく使用される 4 つのポイント 地球温暖化は科学的な事実 The debate on global warming in the popular media, etc. Four points often used by global warming critics Global warming is a scientific fact
第 3 回 惑星のエネルギー収支 地球の表面温度が温室効果によって決められている：フィードバック機構 火星と金星は地球とどのように違いがある The energy balance of a planet The surface temperature of the Earth is determined by the greenhouse effect: feedback mechanisms How do Mars and Venus differ from the Earth?
第 4 回 1, 2, 3 のレビュー、討論、ショートテスト Review, Discussion and Short Test of days 1, 2 and 3
第 5 回 温室効果と温室効果気体の化学 グローバル・ウォーミングポテンシャル (GWP) 惑星のエネルギー収支に影響するほかの要因：エアゾールや火山など The greenhouse effect and the chemistry of Greenhouse Gases Global warming potentials (GWP) Other factors that affect the energy balance of a planet: aerosols, volcanoes, etc.
第 6 回 太陽のエネルギーが気象現象の原因 様々な気象現象の機構と惑星のエネルギー収支の関係 気象モデルと気候シミュレーション The Sun powers all weather phenomena The relationship between mechanisms of different weather phenomena and the energy balance of a planet Weather models and Climate Simulations
第 7 回 過去の気候を把握する手法/氷床やサンゴ礁のコア分析 過去の CO ₂ と温度の観測から何がわかる 地球の時間：地質時代の長さ Methods for understanding past climate: ice cores and coral reefs What can we know from measurements of past CO ₂ and temperature? Earth time: the length of geological time
第 8 回 5, 6, 7 のレビュー、討論、ショートテスト Review, Discussion and Short Test of days 5, 6 and 7

第 9 回 温室効果気体の自然界と人間界における主な発生源 人間活動由来の温室効果気体の効果の評価の難しさ 科学におけるモデルの役割と信頼性 The main sources of greenhouse gases in the natural world and the human world The difficulty of evaluating the effect of greenhouse gases produced by human activities The role and rel
第 10 回 地球のバイオスフィアにおける熱量の上昇による影響評価 地球温暖化による直接に起こる効果と間接に起こる効果 「Global Warming」対「Global Weirding」 Evaluating the effect of an increase in heat content of the Earth Direct effects and indirect effects of global warming “Global Warming” versus “Global Weirding”
第 11 回 急激な気候変化とティッピング・ポイント 氷床の水、シベリアの凍原に隔離されているメタン 適切な CO ₂ ターゲットの設定と温室効果ガス削減シナリオ Rapid climate change and tipping points Water in the ice caps and methane sequestered in the Siberian Tundra Setting an appropriate CO ₂ target and scenarios for reducing greenh
第 12 回 9, 10, 11 のレビュー、討論、ショートテスト Review, Discussion and Short Test of days 9, 10 and 11
第 13 回 人間活動由来の CO ₂ による温暖化はなぜ深刻か？ 今すでに変化が起きているか？ 私たちは何ができるか？ Why is global warming from CO ₂ produced by human activities? Are the changes already happening now? What can we do?
第 14 回 地球温暖化対策 緩和策： ○ジオエンジニアリング ○地球温暖化対策の経済的影響がすべて悪いわけではない ○グリーン経済で温暖化問題を解決する 適応策： ○避けられない気候変動とこれまでに経験したことのない惑星に暮らす Countermeasures for global warming Mitigation: ○Geoengineering ○Not all countermeasures to global warm
オフィスアワー
木曜日 13:00-14:00
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
配布資料を基に解説、スライドも併用
関連科目
環境問題原論
授業に持参するもの
特になし
教科書
参考書
Storms of my Grandchildren (地球温暖化との闘い すべての未来の子どもたちのために) James Hansen (枝廣淳子-監修) 日経 BP 社 2012/11/22 4822249379 Eaarth: Making a Life on a Tough New Planet Bill McKibben St. Martin's Griffin 2011/3/15 0312541198 大転換——新しいエネルギー経済のかたち 2015/07/04 4000610600
学生へのメッセージ
Climate change from global warming is not only a huge phenomenon affecting all life on the Earth, it is also a phenomenon that we have never experienced before. How we address the uncertainties today, not only those that are known but also those that are
その他・自由記述欄

教授要目

持続可能な消費	
科目英名	Sustainable Consumption
担当者	中原 秀樹 <nakahara@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年後期後半

科目概要

21世紀は環境問題の解決なくして人類の存続はあり得ない。持続不可能な消費がもたらした地球環境問題を理解し、その解決のために消費者はどのように寄与できるかを知る。You will study the sustainable lifestyle and equity in the 21th century. You look at ways to promote sustainable consumption through the concept of sufficiency and changing value.

達成目標

資源消費も環境破壊も限りなく増大し、もはやコントロール不能な状態である。生産効率や物質主義的な消費システムを思い切って大幅に転換して資源集約度を下げ、消費主義的価値観を根本的に変えない限り、解決は望めない。講義では破壊的なプロセスと消費的な価値観を根本的に変えるための現実的な取り組みを提案する。

成績評価

出席評価 10%、レポート評価 10%、試験評価 80%。

予習復習時間

テキストから事前にキーワードの抽出を行って講義に臨むこと。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

新聞をよく読んで最新動向を理解しておくこと。

授業計画

- 第 1 回 環境問題とは何か
- 第 2 回 地球の開発への新しい取り組み：環境容量という考え方
- 第 3 回 地球の共有資産
- 第 4 回 フロンティア経済からフルワールド経済へ
- 第 5 回 暴走する工業主義と踏み越えられた 3 つの限界
- 第 6 回 アメリカンドリームと地球の共有資産の管理
- 第 7 回 南と北は一つの世界を作れるか
- 第 8 回 環境容量分配の基本原則
- 第 9 回 環境容量分配の評価と環境容量計算
- 第 10 回 エコイノベーションと生産効率革命
- 第 11 回 消費社会の見直し
- 第 12 回 消費と生活の質
- 第 13 回 市場経済の文脈における持続可能な消費と生産の促進
- 第 14 回 地球規模の枠組み作りへ

オフィスアワー

講義に関する研究室訪問は必ずメールでアポイントメントを取ってください。

授業形態

講義とプレゼン中心に行います。

授業の具体的な進め方

テキストに沿って環境キーワードに関するフリーディスカッションを中心に発表を行い、コメントをしていきます。また時事問題についても逐次紹介します。

関連科目

環境マネジメントシステム、環境倫理、環境マネジメント入門、エコマテリアル、環境教育、ライフサイクルアセスメント、環境改善のライフスタイル

授業に持参するもの

テキスト

教科書

地球共有の論理 マイケル・カーレー 日科技連 1999 4-8171-9054-X

参考書

学生へのメッセージ

スマホと電気冷蔵庫の年間消費電力量はどちらが多いかわかる人は受講しないでください。

その他・自由記述欄

特になし。

アカウンティングシステム	
科目英名	Accounting System
担当者	田中 優希 <y.tanaka@hosei.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。

簿記は会計学の基礎であると同時に、企業経営の理解にもつながるため、多くの学生の履修を期待する。

The theme of this lecture is a double-entry bookkeeping.

This lecture is also the basis of accounting. At the same time, learning of bookkeeping also leads to an understanding of corporate behavior.

達成目標

本講義は日商簿記検定 3 級相当の内容を扱うが、回数が限られているため、特に以下の 2 点の理解を達成目標とする。

- ・複式簿記の基本原理の習得
- ・主要な財務諸表の理解

なお、日商簿記検定 3 級への挑戦を考えている学生は、講義の早い段階で相談してほしい。

成績評価

講義中の演習や小テスト、コメント等で 20%の評価を行い、残りの 80%は期末試験にもとづいて行う。

予習復習時間

予習 1 時間 講義前日に、前回までの講義資料を見直す。

復習 3 時間 講義当日に、講義の内容を復習し、演習問題や追加問題を解く。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

予備知識を必要としない。ただし日ごろから経済系のニュースに気を配ると、講義の理解が早まる。

授業計画

- 第 1 回 簿記の意義と財務諸表
- 第 2 回 仕訳と転記
- 第 3 回 商品売買
- 第 4 回 現金預金
- 第 5 回 当座貸越・小口現金
- 第 6 回 手形取引
- 第 7 回 債権と債務のまとめ
- 第 8 回 資本金、税金
- 第 9 回 有価証券
- 第 10 回 固定資産
- 第 11 回 決算（1）決算手続きの一巡、貸借対照表、損益計算書、損益振替、資本金振替
- 第 12 回 決算（2）試算表作成、元帳の締め切り、決算整理仕訳
- 第 13 回 決算（3）決算整理仕訳の続き、6 桁精算表、8 桁精算表
- 第 14 回 問題演習

オフィスアワー

講義時間前後に対応し、メールでは随時実問を受け付ける。事前にメールで連絡をもらえれば、授業時間外も可能。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

配布資料に基づき、各回の新単元を学習した後、演習問題を解いて理解を深めてもらう。ただし、講義内では演習時間が足りない予想されるため、復習のために問題集を解くことを推奨する。

関連科目

財務会計、環境志向型経営分析、環境会計

授業に持参するもの

電卓 赤ペン 教科書 問題集

教科書

簿記の教科書 日商 3 級 商業簿記 滝澤ななみ TAC 出版 2013 4813264832

簿記の問題集 日商 3 級 商業簿記 滝澤ななみ TAC 出版 2013 4813264840

参考書

学生へのメッセージ

週に 1 度の講義だけでは、簿記はなかなか身につけません。各自の復習が重要です。慣れしてくると、パズルのようにスラスラと解くことが出来ると思います。初めは大変かもしれませんが、継続して学習してください。

その他・自由記述欄

初学者にもわかりやすいよう、適度なスピードで講義を実施します。講義の冒頭には前回の復習を実施し、頻繁に練習問題を実施します。

教授要目

エコマテリアル	
科目英名	Eco-Materials
担当者	伊坪 徳宏 <itsubo-n@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

世界の資源消費量、資源寿命について紹介し、環境影響を最小化するための材料(エコマテリアル)の開発の現状とその評価方法について説明する。生産のための技術領域のほか、自然科学や社会科学における環境問題の基礎について理解できる能力を養う。

<科目概要(英文)>Materials are fundamentals of all of products and services. Using environmental conscious materials are critical in order to improve environmental performance of products. There are many of approaches to reduce environmental impacts of materials like recycling, dematerialization, saving energy and replacing hazardous substances. Considering these diversity of the approach, many of eco materials have already come into wide use. This course provides the significance of environmental conscious materials including the relationship between materials and environmental problems.

<キーワード>資源生産性、環境効率、エコマテリアル、ライフサイクルシンキング

達成目標

生活のあらゆる場面で使用される材料を環境志向型に転換していくことが、真の持続可能社会や循環型社会を構築する要件となる。本講義では、材料の断断的な内容のみでなく、エコマテリアルのメカニズムとその利用方法について普及上の課題を含めて深く理解することを目標とする。

成績評価

授業態度、レポートを重視する。

予習復習時間

授業後、4 時間を目安とした復習を行う

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

材料工学、工業材料に関する基礎知識を前提としつつ、環境影響評価、環境管理なども履修すると効果的である。

授業計画

第 1 回 オリエンテーション: 資源の希少性について説明するとともに、エコマテリアルのコンセプトについて述べる。

第 2 回 オゾン層破壊を回避する材料(代替フロン、炭化水素冷媒など)

第 3 回 地球温暖化の緩和に寄与する材料(半導体、熱電素子、ペルチェ素子など)

第 4 回 地球温暖化の緩和に寄与する材料(ハイブリッドシステム、二次電池、バイオ燃料)

第 5 回 エネルギー消費の削減に寄与する材料(太陽光発電、バイオマス発電)

第 6 回 エネルギー消費の削減に寄与する材料(LED、液晶パネル、メタンハイドレート)

第 7 回 酸性化・大気汚染を軽減する材料(三元触媒、燃料電池)

第 8 回 酸性化・大気汚染を軽減する材料(水素吸蔵合金、電気自動車)

第 9 回 生物資源の消費を抑える材料(再生紙、非木材紙、消色インク)

第 1 0 回 廃棄物の発生を抑制する材料(エコセメント、生分解性プラスチック、BDF)

第 1 1 回 重金属の使用を回避する材料(ニッケル水素電池、リチウムイオン電池、鉛フリーはんだなど)

第 1 2 回 有機化合物の影響を抑制する材料(光触媒、VOC 吸着建材など)

第 1 3 回 ダイオキシンの発生を抑える材料(活性炭、非ハロゲン系難燃樹脂)

第 1 4 回 水の環境問題と造水技術

オフィスアワー

いつでも可。事前に連絡を頂けると有難いです。

授業形態

配布資料を用いて授業を行う。

授業の具体的な進め方

配布資料を用いて授業を進めます。課題を複数回にわたり提示します。環境問題とその解決に向けてどのような環境配慮材料が開発され、社会に供給されるかについて知るとともに、普及に向けた課題とその解決方法について考察します。

関連科目

ライフサイクルアセスメント

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

物質・材料は現代文明の礎である。最適な技術と評価結果に基づくエコマテリアルが持続可能社会の実現のための必要要素であることを認識してほしい。

その他・自由記述欄

環境統計学	
科目英名	Environmental Statistics
担当者	岡田 穰 <okadam@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

標本抽出されたデータから全体を推測するための方法、データを用いた仮説を統計学的に検証するための基本概念や方法を解説する。また、事例研究・卒業研究で統計学を使用するための基礎知識(特に統計的仮説検定の概念とスキル)を身につけてもらうことも目的としている。本講義の最終目的は、事例研究や卒業研究での社会調査分析において、統計的推論・仮説検証を行えるようになってもらうことである。

達成目標

(1) 収集したデータの情報特性の正確な把握
(2) 統計学を用いての分析と、その結果を用いた論理展開能力の習得
(3) 「事例研究」や「卒業研究」の分析方法の理解

成績評価

課題(50%)と試験(50%)とします。課題と試験においては単に計算問題を解いてもらうだけでなく、その結果に基づいた論述・考察までを問題とし、評価の基準とします。

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。予習としてはシラバスに記載されたタイトルを基としたキーワードについての事前学習、復習としては授業内で学習したプリントの内容整理や演習問題の解説を参考にしながらの再演習など。

履修する上で必要な条件(前提とする知識など)

本講義は「統計学基礎」を発展させた講義です。「統計学基礎」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業計画

第 1 回 導入; 授業の進め方などについてガイダンスを行う。

第 2 回 復習; 統計学基礎での学習内容(標準偏差、相関係数等)の復習

第 3 回 確率変数と確率分布①; 確率分布から正規分布

第 4 回 確率変数と確率分布②; 標準化と標準正規分布表の活用

第 5 回 推測統計学の概要と理論, 統計記号の整理

第 6 回 信頼区間の推定①; 正規分布による区間推定

第 7 回 信頼区間の推定②; t 分布による区間推定

第 8 回 まとめ①; 確率変数と確率分布, 信頼区間の推定の問題演習

第 9 回 仮説検定①; 仮説検定の概要と理論, 帰無仮説

第 1 0 回 仮説検定②; 母平均と標本平均との差の検定

第 1 1 回 仮説検定③; 2 群の平均の差の検定(対応あり)

第 1 2 回 仮説検定④; 2 群の平均の差の検定(対応なし)

第 1 3 回 仮説検定⑤; その他の検定の紹介(カイ 2 乗検定, 分散分析)

第 1 4 回 まとめ②; 講義内容全体を対象とした問題演習

オフィスアワー

金曜日 4 時間目。ただしメールによる事前のアポイントが必要です。

授業形態

講義と演習

授業の具体的な進め方

配布資料による授業進行を基本とし、講義と演習とを繰り返して進行していく。演習での提出物は課題として扱い、成績評価の対象とします。

関連科目

統計学基礎, 環境数学入門

授業に持参するもの

以前の授業で配布した資料, $\sqrt{\quad}$ 計算ができる電卓あるいは同様の電卓機能を有する機器, 参考図書等

教科書

参考書

読む統計学 使う統計学 広田すみれ 慶応義塾大学出版 2005
ISBN978-4-7664-2036-4
入門統計学 ―検定から多変量解析・実験計画法まで 栗原伸一 オーム社 2011
ISBN978-4-274-06855-3
すぐわかる統計用語 1997 ISBN4-489-00522-9

学生へのメッセージ

統計学は計算によって数値を表わすまでの学問ではなく、その数値を用いて論理展開・検証をする学問です。よって統計によって導き出された結果数値をどう解釈し、活用するのかが大事です。

その他・自由記述欄

教育・研究施設
学生生活関連
大学院環境情報学研究科
その他

図書館・情報基盤センター
学生生活関連
大学院環境情報学研究科
環境方針
教職員名簿
校舎配置図

図 書 館

皆さんの学生生活に欠かせない施設である図書館は、世田谷・横浜・等々力の3キャンパスにあり、学部・学科を問わず共通に利用できます。学習・研究を進める上で必要となる各学部の専門図書や雑誌を始め、新書・教養文庫、視聴覚資料など多様な資料があります。また、ネットワーク上で利用できる電子ブック・電子ジャーナル・データベースなどで情報収集することもできます。さらに、パソコンやグループ学習室・AVブースなどの施設・設備もありますので、大いに利用して下さい。

その他、皆さんが参加できる各種講習会や選書ツアーなど、3キャンパス合同の企画も多数開催しています。

1. 図書館の利用

入退館、図書の貸出・延長、貸出用ノートパソコン・施設の利用などには学生証が必要です。忘れずに携帯して下さい。

※学生証を忘れた場合は、カウンターに申し出て下さい。

2. 開館時間と休館日

○開館時間

【通常】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～20:00
土	9:00～17:00	9:00～17:00	9:00～17:00

【試験期】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	8:30～22:00	8:30～22:00	8:30～22:00
土	8:30～20:00	8:30～17:00	8:30～17:00

※休講時は開館時間を短縮します。

○休館日

日曜日・国民の祝日・偶数月末日・創立記念日・入学試験日

※振替授業や休講等による開館スケジュールの変更は、ホームページ、掲示板等で案内します。

3. 図書館資料の利用

図書館資料には、図書・雑誌・視聴覚資料（DVD・音楽CDなど）・電子資料（電子ブック・電子ジャーナル・データベース）などがあります。

○資料の探し方

図書館所蔵資料は図書館ホームページの「学内蔵書検索（OPAC）」から検索できます。

資料の配置場所はフロアマップを参考にして下さい。配置場所が「閉架」・「貴重」など不明な場合は、カウンターのスタッフにお問い合わせ下さい。

○館内閲覧資料

以下の資料は、図書館内で利用して下さい。

- ・禁帯出ラベル・館内ラベル貼付資料
- ・雑誌、紀要、新聞など
- ・視聴覚資料（音楽CDを除く）

○シラバス記載「参考書」

教授要目＜シラバス＞に「参考書」として記載されている図書を授業科目担当教員から推薦された図書として備えています。Webシラバスは、図書館ホームページのOPACとリンクしており、配置場所や貸出状態が分かるようになっています。

○図書の貸出

図書の貸出条件は以下の通りです。

借りたい図書と学生証を持って、自動貸出機またはカウンターで手続きをして下さい。

利用者	冊数	期間	延長回数
学生・教職員	15冊	15日	3回

※冊数には音楽CDおよび他キャンパスの図書を含みます。

※長期休暇期間中（夏，冬，春）は貸出期間を延長します。

○延長

貸出中の図書は、返却期限日を延長（更新）することができます。

- ・図書館ホームページの「利用状況照会」から手続きをするか、図書を持参して自動貸出機またはカウンターで手続きをして下さい。携帯電話のモバイルサイトからも手続きができます。
- ・以下の場合は延長できません。
 - ①返却期限日を過ぎた図書がある場合
 - ②貸出停止期間中の場合
 - ③貸出中の図書に他の利用者の予約が入っている場合
 - ④更新回数の上限（3回）を超えた場合

○返却

- ・借った図書は、返却期限日までに返却して下さい。世田谷・横浜・等々力どのキャンパスでも返却できます。
- ・返却期限日を過ぎると、遅れた日数分貸出停止となります。
- ・閉館時は返却ポストを利用して下さい。
- ・図書を紛失・汚損・破損した場合は直ちにカウンターにお知らせ下さい。（原則弁償となります。）

○予約（取り寄せ）

利用したい図書が「貸出中」の場合は予約をすることができます。また、他キャンパスの図書は取り寄せることができます。

- ・図書館ホームページの学内蔵書検索（OPAC）で図書を検索し、予約をして下さい。
- ・予約した図書が貸出できる状態になると、TCUメールアドレス宛てに連絡します。
- ・以下の場合は予約できません。
 - ①返却期限日を過ぎた図書がある場合
 - ②貸出停止期間中の場合

4. 図書館サービスの利用

○レファレンスサービス

図書館スタッフが学習・研究に必要な資料の提供や情報検索のサポートを行います。カウンターにて気軽に相談して下さい。

○情報検索サービス

図書館ホームページから、資料の所蔵情報、電子ジャーナル、データベースの検索ができます。

○図書購入リクエスト

図書館に所蔵していない資料は、図書館ホームページの「図書購入リクエスト」から申込みをすることができます。購入の可否は図書館ホームページの「利用状況照会」から確認できます。

○他大学所蔵資料の利用（図書の取寄せ、文献複写依頼など）

他大学で所蔵している図書、雑誌の記事・論文などは、図書館を通して取り寄せることができます。

また、直接訪問して利用することもできます。利用を希望する場合は、カウンターへお問い合わせ下さい。

○メールによるお知らせ

図書館からの連絡（予約図書、希望図書、未返却図書の督促など）を、TCUメールアドレス宛てにお知らせします。

5. 施設の利用

世田谷キャンパス図書館

○ラーニング・コモンズ／ B 1 階

少人数やグループのディスカッションなどに利用できる学習空間です。

○メディア学習室（40席）／ B 1 階

グループ用の学習室です。遠隔講義をはじめ、ネットワークやプロジェクターが利用できます。

○プレゼンテーション室1（16席）・プレゼンテーション室2（12席）／ B 1 階

グループ用の学習室です。ネットワークやプロジェクターが利用できます。

○TOSHOKAN Gallery／ 1 階

1 階のフロアを展示スペースとして、課外活動や研究活動の紹介・発表などに利用できます。

○個人閲覧室（各5室）／ 2・3 階

個人用の学習室です。パソコンをネットワークに接続できます。ドア付き（3階／要予約）・ドアなし（2階）の2タイプあります。

横浜キャンパス図書館

○AVブース（19席・3人用ブース…3台、1人用ブース…10台）／ 1 階

館内の視聴覚資料（DVD・Blu-ray・CDなど）が利用できます。

○グループスタディールーム（24席）／ 1 階

グループ用の学習スペースです。分割して2グループで使用可能。パソコン・大型ディスプレイを使用して、プレゼンテーションの練習などもできます。

等々力キャンパス図書館

○グループスタディールーム3室（12席・8席・6席）／ 1 階

グループ用の学習室です。ゼミ、その他数人のグループで図書館資料を活用しながら、自由に学習・研究活動が行えます。

○アクティブラーニングフィールド／ 2 階

スピードラーニング（CD）やSkyeを利用した英会話レッスン（英会話サプリ）用パソコンに加え、TOEIC対策・多読資料なども配置したグローバルイングリッシュルームと、コミュニケーション能力やプレゼン能力を培うためのプレゼンテーションエリアがあります。

○視聴覚コーナー／ 1 階

図書館所蔵の視聴覚資料（DVD・ビデオなど）が利用できます。

6. 設備機器の利用

世田谷キャンパス図書館

○各種パソコン

さまざまな用途に対応できるパソコンを備えています。利用にはTCUアカウントが必要です（検索用パソコンを除く）。

■検索用パソコン／ B 1 階～4 階 検索コーナー

所蔵資料の検索（OPAC）やインターネット検索など、資料・情報検索用に利用できます。

■常設デスクトップパソコン／ B 1 階

Windows, Macの2種のパソコンがあります。

■貸出用ノートパソコン / B 1 階

専用のPCロッカーに収納されています。学生証で貸出・返却を行い、館内で自由に利用できます。

○視聴覚資料用液晶テレビ / B 1 階

館内の視聴覚資料(DVD, ビデオなど)が利用できます。

○プリントシステム(複写(出力)コーナー) / B 1 階～3 階

図書館内設置のパソコンおよび持ち込みパソコンからプリントを出力できます。

○コピー機(複写(出力)コーナー) / B 1 階～3 階

図書館資料に限り、著作権法31条の範囲内で複写できます。複写に関する責任は、利用者にあります。

横浜キャンパス図書館

○パソコン(4台) / 1 階

レポート・論文作成に利用できます。利用にはTCUアカウントが必要です。

○プリンター(1台) / 1 階 図書館内設置のパソコンからプリントを出力できます。

○スキャナー(2台) / 1 階

禁帯出の資料データを取り込み、画像データとして利用できます。

○コピー機(複写コーナー) / 1・2 階

図書館所蔵資料複写用のコイン式コピー機です。白黒/カラーが選べます。

著作権法31条の範囲内でご利用下さい。

等々力キャンパス図書館

○各種パソコン

■検索用パソコン/B 1～2 階

所蔵資料の検索(OPAC)専用のパソコンです。

■常設デスクトップパソコン/1・2 階

PCコーナー、グループスタディールーム、アクティブラーニングフィールドに設置しています。

■貸出用ノートパソコン/1 階カウンター

館内専用の貸出パソコンです。カウンターにて貸出しています。

○プリンター

■ポイントシステム対応プリンター/1 階PCコーナー

1人当たり年度ごとに5000ポイントまでプリンター印刷が可能な「印刷ポイントシステム」に対応したプリンターを設置しています。

■プリントシステム(複写コーナー) / 1 階

館内設置のパソコンおよび持ち込みパソコンからプリントを出力することができる有料プリンターです。USBメモリからプリントを出力することも可能です。

○コピー機(複写コーナー) / 1 階

図書館所蔵資料複写用のコイン(現金)式コピー機です。複写は、著作権法第31条の範囲内での利用となります。(著作権法第31条については、コピー機前の掲示板に掲載しています)

7. 図書館を快適に利用するために

- ・利用者の迷惑にならないよう静粛を保つ。
- ・資料や機器類を大切に扱う。
- ・貸出資料や学生証を他人に貸与しない。
- ・携帯電話はマナーモードにし、通話はしない。
- ・貴重品は常時携帯し、各自の責任で管理する。
- ・飲食はしない。(閲覧席に限り密封容器の飲料のみ可)
- ・喫煙は館外の喫煙スペースで。

—————図書館ホームページでも利用案内を掲載していますのでご覧下さい。

(<http://library.tcu.ac.jp/>)

情報基盤センター

I T (Information Technology) 時代と言われる現代、情報および情報を処理するコンピューターの基礎概念を学ぶことは、全ての学生にとり必要不可欠になっています。このことは、将来情報処理あるいはコンピューターの専門家を志すか否かにかかわらず言えることです。そのため、情報基盤センターは、各学部の共通科目や学科の専門科目に演習室を提供しています。

以上のように当センターは、本学の情報教育の中核を担うとともに、情報の受発信基地として有効に利用されています。

1. 情報基盤センターの利用

世田谷、横浜、等々力の各キャンパスに情報システムを利用できる施設・教室があります。どのキャンパスでも TCU アカウント*で情報システムを共通に利用できます。授業のないオープン利用時にはパソコンなどの機器を自由に利用することができ、レポート作成や文献検索などに役立てられます。

*演習室(PC 教室)のパソコンや TCU メールなど、学内の各種システムを利用するためのユーザー名とパスワード

2. 開館時間と休館日

○開館時間

【授業日】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	8 : 45 ~ 19 : 00	8 : 45 ~ 22 : 00	8 : 00 ~ 20 : 00
土	8 : 45 ~ 15 : 00	8 : 45 ~ 17 : 00	

【授業日以外】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	9 : 00 ~ 17 : 00	9 : 00 ~ 17 : 00	8 : 00 ~ 20 : 00
土	9 : 00 ~ 13 : 00	9 : 00 ~ 12 : 00	

※世田谷キャンパスでは、閉館後は図書館地階の常設パソコン・貸出用ノートパソコン（図書館の利用時間に準じる）をご利用下さい。

※等々力キャンパスでは、IC カードで入室を管理しているので、原則、キャンパス内の他の施設と同じ時間帯に利用できます。ただし、パソコンやプリンターに関する連絡・問い合わせは、事務取扱時間内に行ってください。

また、図書館内のコンピューター教室は、図書館の開館時間に準じて利用できますが、試験期間でも20 : 00 までの利用となります。

※世田谷および等々力キャンパスは月1回（原則第1水曜日）保守のため、13 : 30以降は閉館になります。

※開館時間は行事や休業期間などにより変更する場合があります。詳細は各施設の Web ページや掲示をご覧ください。

○休館日

日曜日・国民の祝日・創立記念日・入学試験日

※休館日は振替授業などにより変更する場合があります。詳細は各施設の Web ページや掲示をご覧ください。

3. 施設の利用

世田谷キャンパス

○施設紹介

■オープン利用スペース（15号館：演習室D）

開館時間中は常時利用できます。

パソコン利用授業の予習や復習，レポートの作成や印刷などに利用できます。

■授業利用スペース（15号館：演習室A～C，1号館：12L，12M，12N，12P教室）

演習室A～Cにはデスクトップパソコン，12L～12P教室にはノートブックパソコンを設置しています。

授業利用がない時間帯は，15号館の演習室をオープン利用スペースとして利用できます。

■研究利用スペース（15号館：研究用端末室）

卒業研究着手者や大学院生を対象に，研究用スペースとしています。一般パソコンに加え，画像編集に特化した専用機やポスターセッション用などの大判資料の印刷が行える印刷機などを設置しています。

○設置機器紹介

■パソコン 一般用（528台），画像編集用（4台）

■プリンター カラー・レーザー（5台），モノクロ・レーザー（3台），インクジェット（2台），大判（2台）

■スキャナー 一般用（3台），ネットワーク対応（5台）

■画像編集用機器 Blu-ray，CD，DVD，VHSレコーダー，デジタルカメラ，ビデオカメラ

横浜キャンパス

○施設紹介

■グループ学習スペース（2号館：メディアホール）

開館時間中は常時利用できます。

パソコン利用授業の予習や復習，レポートの作成や印刷などに利用できます。

■授業利用スペース（2号館1階，2階，3号館4階の演習室）

演習室にはデスクトップパソコン，グループワークルームにはノートブックパソコンを設置しています。授業利用がない時間帯は，オープン利用スペースとして利用できます。

■研究利用スペース（2号館2階：映像編集室）

研究室所属学部生や大学院生を対象に，研究用スペースとして利用できます。

○設置機器紹介

■パソコン 一般用（422台）

■プリンター カラー・レーザー（1台），モノクロ・レーザー（全演習室に設置），大判（2台）

■スキャナー 中演習室，メディアホールのみ設置

等々力キャンパス

○施設紹介

■授業利用スペース（1号館：122教室，2号館：211教室，212教室，3号館：301教室）

デスクトップパソコンを設置しています。

授業利用がない時間帯は，パソコン利用授業の予習や復習，レポートの作成・印刷などに利用できます。

○設置機器紹介

■パソコン 一般用（140台）

■プリンター カラー・レーザー（4台），モノクロ・レーザー（4台），大判（3台）

■スキャナー ネットワーク対応（4台）

4. サービスの利用

全キャンパス

○情報ネットワーク、情報システム

3キャンパスは1 G b p s の高速回線で相互に接続されており、各キャンパスにある情報システムを利用できます。
また、持ち込みパソコンで情報ネットワークを利用するための情報コンセントや無線LANも整備しています。

○T C Uアカウント

情報基盤センターから全ユーザーに発行するアカウント（ユーザー名とパスワード）です。このアカウントで以下のシステムを利用できます。

T C Uメール、ポータルシステム、Windows システム、U N I Xサーバー、授業支援システム、V P N、W e b 履修システム他

○T C Uメール

W e b メール機能を持ち、受信拒否、自動振り分け、メール転送などの設定が可能なメールシステムです。

○授業支援システム

教材の配布、レポート提出、アンケート集計、小テストなどがW e b 上で行えるシステムです。

○V P N

暗号化された通信で仮想的に情報ネットワークに接続し、安全に学内専用の情報システムを利用できます。

世田谷キャンパス

○Windows システム

1 号館や1 5 号館、図書館地階では、Windows パソコンやファイルサーバー、プリンターなどの周辺機器を利用できます。

○仮想デスクトップシステム

演習室と同じデスクトップ環境にリモートアクセスが行えるサービスです。学内の研究室や自宅（VPN 接続が必要）から、演習室と同じデスクトップ環境が利用できます。

横浜キャンパス

○Windows システム

2 号館1 階、2 階、3 号館4 階の演習室において、Windows パソコンやファイルサーバー、プリンターなどの周辺機器を利用できます。

等々力キャンパス

○Windows システム

各コンピューター教室で、Windows パソコンやファイルサーバー、プリンターなどの周辺機器を利用できます。

○英語学習システム

1 2 2 教室において、効率的に語学を習得するためのソフトウェアとタブレットを利用できます。（タブレットは授業時のみ）。

5. システム利用上の注意

サーバーやパソコン（演習室、PC 教室等）の利用に際しては、以下の事項に留意して下さい。

【パスワードの管理】

パスワードの変更方法の Web ページ (<http://www.itc.tcu.ac.jp/changepass>) から各キャンパスのパスワード変更ページにログイン後パスワードを変更し、各自責任を持って管理をして下さい。

また、毎年パスワード変更期間を設けますので、期間中に必ずパスワードを変更して下さい。これを怠るとパスワードが無効になり、システムが利用できなくなります。パスワードが無効になったり忘れた場合は、パスワードの再設定（有料）を行って下さい。

【印刷制限】

無駄な印刷を防ぐため、演習室（PC 教室）でのプリンター出力には制限があります。

一定の範囲内（毎年、年度の初めに年間の利用量が設定されます）まで無料で印刷できますが、それを超えると有料（自己負担）になります。

※詳細については、情報基盤センターの窓口までお問い合わせ下さい。

6. 禁止事項・利用マナー

本学の情報システムは、高度な機器やソフトウェアを多く取扱っています。皆さんが快適に利用できるよう、ルールを守って利用して下さい。

【禁止事項】（必ず守ってください）

- ・教育・研究以外の目的で施設・設備を利用しないこと（公序良俗に反する動画像の閲覧、SNS、ゲーム、教育・研究以外の目的での印刷など）。
- ・不正な持込ソフトウェアを使用しないこと。
- ・許可されているところ(設置端末の空き USB ポートや持込パソコン用に机上コンセントが配されている場所など)以外に持込機器を接続しないこと。
- ・設置機器の電源コンセントやケーブルの抜き差しをしないこと。
- ・飲食をしないこと。また、外から見える状態で飲食物を持ち込まないこと。
- ・傘の持ち込みが禁止されている場所に傘を持ち込まないこと。
- ・充電を目的とした機器の接続は行わないこと。

【マナー】（最低限のマナーとして以下のことを守ってください）

- ・使用したもの（マニュアルなど）は必ず元の場所に戻すこと。
- ・サインインしたままで席を離れたり、席取りのために荷物を置いたりしないこと。
- ・自分で印刷した以外のプリンター用紙を持ち出さないこと。
- ・大量の印刷や試し印刷は控えること。

—————情報基盤センターの Web ページに利用案内を掲載していますので、ご覧下さい。

学生生活関連

1. 学生生活の関連情報

学生生活に関連した情報は、「CAMPUS LIFE」や「学生手帳」にも掲載されていますので、是非有効に併用して下さい。

また、学生生活・教務・就職・進学・施設設備などに関する質問等があれば電話や電子メールではなく、各キャンパスの事務局の窓口にて直接問い合わせて下さい。

事務取扱時間

■授業期間

月曜日～金曜日	9:00～17:00
土曜日	9:00～13:00 (11:30～12:30 を除く)

■授業期間外

月曜日～金曜日	9:00～17:00 (11:30～12:30 を除く) (夏期休業中は16:00 まで)
土曜日	9:00～12:00

日曜日、祝日および大学で定めた休日は休業とします。

併せて、学生の夏(冬)期休業中で、事務取扱いを行わない期間がありますので、学生手帳やホームページ、ポータルサイト、掲示板を参照して下さい。

2. クラス担任

本学では、クラス担任教員を定め、クラス全般およびクラスの一人一人の指導に当たっています。クラス担任教員とは学生諸君の学習や学生生活のあらゆる面における助言・指導に当たる教員です。問題に遭遇した場合はもとより、普段から気軽にアドバイスを受けて下さい。

クラスは学部・学科ごとに編成され、授業グループと連動する場合があります。また、学部・学科によっては、3年次に進級した時のクラス担任は「事例研究」等の指導教員が担当し、4年次は「卒業研究」の指導教員が担当します。

3. 学生生活なんでも相談室

本学に入学してきた学生諸君が明るく、充実した学生生活を送ることを、誰もが望んでいます。しかし、時として問題にぶつかったり、悩みが生じたりすることもあります。そんな時のために、本学では「学生生活なんでも相談室」を設置して、学生諸君の相談に応じています。

困ったことや悩みが生じた時には、相談室を訪ねてみて下さい。相談室に相談員（カウンセラー）がいれば、その場で相談することができます。また、相談員が不在の時や相談中の場合には、相談室前にある申し込みカードに記入してカード入れにいれるか、医務室および担当課に予約の申し込みをして下さい。また、電話での申し込みや相談も可能です。申し込み用紙はホームページ（下記参照）からダウンロードも可能です。

URL: http://www.tcu.ac.jp/interchange_campuslife/campuslife/support/consultation/ings/consultation01.pdf

ホーム > 国際交流・キャンパスライフ > キャンパスライフ > 生活支援 > 生活相談・ハラスメント相談

相談内容は、心理相談、生活相談をはじめ個人の身辺の問題、友人関係等どんな内容でもかまいません。相談の内容については、秘密が守られ、相談者とカウンセラーの間だけの事柄として扱われます。また、相談にあたっては強制的な指示が与えられることはありませんので、安心して相談して下さい。

■相談受付時間

相談室前の掲示板を確認して下さい。

■相談内容

心理相談、生活相談をはじめ個人の身辺の問題、友人関係等どんな内容でもかまいませんので気軽に相談して下さい。

■相談方法

相談希望者は直接相談室を訪ねて下さい。なお、相談員が不在の場合は、申し込みカードや電話で申込みをして下さい。

4. ハラスメントについて

ハラスメント (Harassment) とは、嫌がらせを意味します。そのうち大学で起こりうるものとしては、セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) やアカデミック・ハラスメント (アカハラ) 等が主に挙げられます。

セクハラとは、相対的に強い立場にある人が、弱い立場にある人に対して、その人格を無視して、性的な性質の言動を行なうことによって屈辱感や不快感を与えたり、その人の対応によっては学習や研究上の不利益を与えたり、そのような言動によってその人の教育環境や研究環境を損なわせる等の人権侵害行為をいいます。

アカハラとは、勉学・教育・研究に関する場面において、教員等の権威的地位を有する者が、その立場を利用し、弱い立場にある者に対して行われる不適切な言動や差別的待遇等による勉学・教育・研究への妨害行為や人権侵害行為をいいます。

■ハラスメントを未然に防ぐために (本学の対応策)

- ①ハラスメント防止および対策のため、本学にはハラスメント対策室が設置されています。ハラスメント対策室はハラスメント対策委員会、ハラスメント調査委員会、そして相談窓口であるハラスメント相談室で構成されています。
- ②ハラスメントの発生を未然に防ぐためにハラスメント対策委員会は、必要な啓発活動や指導をあらゆる機会を通じて学生及び教職員に対して行ないます。

■もし被害を受けてしまったら

- ①何時、どこで、誰から、何をされたのか、また何を言われたのか、記録 (メモ) を取っておいて下さい。これは後でハラスメント相談室へ訴えを起こす場合に役立ちます。
- ②証人を作っておいて下さい。あなたが被害を受けた時、その場を目撃していた人がいたら、その人に今あなたが何をされたのか、また何を言われたのかについて確認をしておくことが大切です。
- ③相手に対して、「自分は望んでいない。不快である」ことを落ち着いて、きちんとした言葉遣いで、その場ではっきり伝えることが大切です。行為や言動を行なっている人は、あなたの気持ちに気付いていない場合があるからです。たいてい相手は目上の人で言いにくいでしょうが、自分がこれ以上不愉快にならないあるいは人権侵害を受けないためにも重要なことです。
- ④相談室員に相談したり証言等をして、不利益を被ることがないようにいたします。躊躇せず相談等をして下さい。
- ⑤相談員に相談する時、自分ひとりでは不安な場合は親しい友人などを通して話をしたり、あるいは一緒に行ってもらいましょう。

■ハラスメント相談室

ハラスメント相談室員は、ポータルサイト、学生手帳で確認して下さい。

■DOL支援プロジェクト

学生生活上の行動やこころの問題は、主に学生相談室が対処します。「文字や文章を読むことが苦手」「文字や文章をうまく書けない」「簡単な計算ができない」「言われたことを正しく理解することができない」「計算通りやったり修正するのが難しい」など、勉学・研究に関する問題は、学習に困難を抱える学生を支援する『DOL支援プロジェクト』が対処します。詳しい内容や相談方法は、DOLのホームページ (<http://www.tcu.ac.jp/dol/>) を参照してください。

5. 保険制度

学生の保険制度として、在学生全員が加入する学生教育研究災害傷害保険 (学研災)、教育実習、インターンシップに関する学研災付帯賠償責任保険 (付帯賠償)、各自または団体が任意で加入する保険として学研災付帯学生生活総合保険 (付帯学総) とスポーツ安全保険があります。

その他、個人的な登山、合宿あるいは小旅行等に利用できる各種の保険もあります。
以下の保険に関する詳細は学生支援センターまでお問い合わせ下さい。

■学生教育研究災害傷害保険 (学研災)

この保険制度は、全国規模の相互共済制度として発足し、大学生を対象とした保険で、公益財団法人日本国際教育支援協会が契約者となり損害保険会社との間に一括契約される傷害保険です。特に工学部では実験、実習中の負傷の可能性は皆無とは言えません。このような正課の授業中や課外活動中、通学途中の不慮の事故から生じる経済的負担をできるだけ少なくし、明るい学生生活が送れるように在学生全員が一括加入しています。

この保険が適用される事故等に遭遇した場合は速やかに (事故日から30日以内) 学生支援センターの窓口に出

て下さい。

○保険料

全学部 3,300 円（4 年間） 修士課程 1,750 円（2 年間） 博士後期課程 2,600 円（3 年間）

※保険料は大学が負担しており、また加入手続は不要です。保険の適用期間は入学から卒業するまでの期間となります。

○支払われる保険金の種類と額

a. 死亡保険金（事故の日から 180 日以内に死亡した時）

「正課中」「学校行事中」の場合 2,000 万円

「課外活動中」「通学中」等の場合 1,000 万円

b. 後遺障害保険金（事故の日から 180 日以内に後遺障害が生じた時）

「正課中」「学校行事中」の場合 程度に応じて 120～3,000 万円

「課外活動中」「通学中」等の場合 程度に応じて 60～1,500 万円

c. 医療保険金（医師の治療を受けたとき）

■学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）

この保険は学生が任意に加入する保険です。日本国内外において正課、学校行事（教育実習中、インターンシップ中等）及びその往復中で他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりすることによる賠償責任に対して保険金が支払われます。

■学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）

この保険は学生が任意に加入する学生総合保険です。最近の学生生活は非常に多様化し、また高度に複雑化してきており、このため学生が大学の内外を問わず学生自身が被る病気や不慮の事故、傷害など学生生活を 24 時間総合的にカバーするための補償制度です。

■スポーツ安全保険

大学の課外活動において、学内外ともに適用される保険としてスポーツ安全保険制度があります。これはスポーツ活動（文化活動・奉仕活動・軽スポーツ等を含む）を行う団体がその活動中に被った不慮の事故等を補償する制度で、保険料はその活動の程度により異なります。特にスポーツ団体に所属している学生は、この保険への加入が強く望まれます。

■旅行・合宿・登山などに適用される保険

スポーツ安全保険は、そのクラブ団体の活動内容により各種の加入条件があり、全員が加入できない場合がありますが、この保険は少人数、短期間など手軽に利用できる制度です。各保険会社で取り扱っていますが、学生支援センターでも紹介します。

6. 学籍の異動等と届出手続き

異動等に関する手続は、所定の手続きを行って下さい。

■退学

やむを得ない事情により本学を退学する場合は、事前にクラス担任／指導教員に相談し、承認を得た上で、各キャンパスの学生支援センターの窓口で「退学願」を受け取って下さい。承認がない場合には「退学願」はお渡しできません。なお、受け取った「退学願」に本人・保証人が記入・捺印し、クラス担任／指導教員及び主任教授の捺印をもらってから学生支援センターへ提出して下さい。

■休学

やむを得ない理由により 2 ヶ月以上修学することができない場合は、願い出て休学することができます。休学期間中、学費の代わりに在籍料を納めていただきます。在籍料は原則、授業料の半額相当となります。

休学期間は全期（1 年間）または半期（6 ヶ月間）となります。全期（1 年間）及び前学期に休学する場合は前学期の履修登録最終日まで、後学期に休学する場合は後学期の履修登録最終日までに「休学願」を提出しなければなりません。なお、休学理由が傷病、経済的困窮、介護等特別な事情がある場合は学期途中からの休学を認める場合があります。

学期途中から休学が認められた場合、休学期間は「休学願」が提出された月の翌月 1 日からとなります。休学理由が

解消しない場合、引き続き休学を申請することができますが、期間が年度をまたがる場合は改めて休学を願い出て許可を得る必要があります。休学期間は通算して3年を超えることはできません。

また、休学期間は卒業に必要な在学年数4年間、並びに最長在学年数の8年間には算入されません。

但し、休学中の当該学期の「履修登録科目」については、休学申請が受理された時点で、自動的に全て削除されます。通年科目（卒業研究、事例研究・原書講読等）も削除されますので注意して下さい。

休学する場合は、事前にクラス担任／指導教員に相談し、承認を得た上で、各キャンパスの学生支援センターの窓口で「休学願」を受け取って下さい。承認がない場合には「休学願」はお渡しできません。なお、受け取った「休学願」に本人・保証人が記入・捺印し、クラス担任／指導教員及び主任教授の捺印をもらってから学生支援センターへ提出して下さい。

休学期間が満了となる前には、意思確認を行います。復学を希望する場合は「復学願」を、休学の継続を希望する場合には「休学願」を、退学を希望する場合は「退学願」を提出して許可を受けて下さい。

■その他

病気やケガなどにより1週間以上欠席する場合はクラス担任／指導教員に相談の上で、「長期欠席届」の提出が必要です。また、住所変更や身上（改姓など）変更、保証人が変更になる場合なども、各キャンパスの学生支援センターにて所定の手続きを行って下さい。

7. 3キャンパス間のシャトルバス

本学には、世田谷・横浜・等々力の3つのキャンパスがあり、これらを結ぶ交通手段として無料のシャトルバスがあります。各キャンパスで行われる授業の相互履修、図書館やメディアセンターの利用、クラブ活動等で利用して下さい。夏期・冬期休業中および授業の無い日は運休します。運行ダイヤは、ホームページ・ポータルサイトで確認してください。

なお、世田谷キャンパスと横浜キャンパス間の移動所要時間は約30分、世田谷と等々力キャンパス間は約15分となっています。利用前に各キャンパス学生支援センターで「バス利用券」を受け取ってください。



8. キャンパス内でのマナーについて

■自動車通学の禁止・オートバイ通学の自粛

本学では、学生の通学時の安全確保、学内秩序の維持、駐車場の確保が困難なこと及び大学周辺は全て法令による駐車禁止区域に指定されていることから、自動車による通学は全面禁止としています。自動車での通学及び、このことによる迷惑駐車が発見された場合には、学生部長より厳重注意の上、反省文及び保証人連名の誓約書を提出してもらいます。なお、本人及び保証人で、対応等が発生した場合には謝罪してもらいます。さらに違反を繰り返した場合には、懲戒規程に則り停学・退学等を含めた処罰を行います（オートバイによる迷惑駐車についても、状況に応じてこれに準じます）。

また、オートバイによる通学は自粛としています（等々力キャンパスはオートバイによる通学は禁止です）。安全面からの配慮はもちろん、排気音による騒音等に関する苦情は、地域との共生をめざす本学としては、大変苦慮しているところです。やむを得ずオートバイに乗ってきた場合は、すみやかにエンジンを切り、指定された場所に駐輪する、エンジンを吹かさないなど配慮して下さい。

■オートバイ・自転車撤去・処分について

オートバイ・自転車は、指定された駐輪場に置くことになっていますが、指定駐輪場以外での駐輪は通行の妨げとなり危険です。こうした違反駐輪車両については、理由に関わらず監視員により強制的に移動・撤去する場合があります。なお、長期に渡って放置されたオートバイ・自転車については、所有権を完全に放棄したとみなし、大学で廃棄処分します。対象となった車両は学外に搬出され処分しますので、返却等には一切応じません。また、事後大学として一切責任は負いません。

■クリーンキャンパス運動と喫煙マナーについて

本学では、学生団体や研究室の学生諸君及び教職員により、「クリーンキャンパス運動」と銘打ち、学内外における清掃活動を行っております。ここ数年で改善されてきた面も見られるものの、タバコの吸い殻や空き缶等のポイ捨て、ゴミの放置はまだまだ見受けられ、マナーやモラルの向上が実現されているとは言い切れない状況にあります。特に喫煙については、喫煙者のマナーに対する苦情が絶えません。このため、現在各キャンパスとも指定場所以外の喫煙は禁止としていますが、社会的な動向も考慮し、全面的な禁煙も視野にいれて検討を進めています。タバコを吸う人も吸わない人も快適に過ごせるキャンパスを実現するために一人ひとりの心がけが求められています。

9. 各種証明書の交付申請

申請後の期間は事務局休業日を除きます。システムの障害等により即時発行できない場合もあります。

区 分		証 明 書 種 類	文書料	交付期日
在 学 生	和文証明書（無料）	通学証明書	無 料	当日
		学生旅客運賃割引証（学割）	無 料	当日
	和文証明書	在学証明書	200 円	当日
		成績証明書	200 円	当日
		卒業見込証明書〔学部〕 / 修了見込証明書〔大学院〕	200 円	当日
		健康診断証明書	200 円	当日
		指定保育士養成施設卒業見込証明書（TC）	200 円	当日
		教育職員免許状（幼稚園教諭）取得見込証明書（TC）	200 円	当日
	英文証明書	在学証明書	500 円	当日
		成績証明書	500 円	当日
		卒業見込証明書〔学部〕 / 修了見込証明書〔大学院〕	500 円	当日
	学生証再発行 仮学生証手続き	学生証再発行手続き	3,000 円	別途手続き案内
		仮学生証（受験のための証明書）手続き	200 円	別途手続き案内
	手続き書類	情報基盤センターパスワード再設定手続き	200 円	別途手続き案内
		情報基盤センタープリンター利用上限変更手続き	100 円	別途手続き案内
		情報基盤センター講習会 受講手続き	1,000 円	別途手続き案内
		教職課程登録手続き（SC・YC）	10,000 円	別途手続き案内
		TOEIC IP 試験受験手続き	3,100 円	別途手続き案内
	その他の 和文証明書 英文証明書 申請	単位修得証明書（特定科目の抜粋） 申請	200 円	1 週間
		就職用 学校推薦書（紹介状） 申請	200 円	SC・TC: 3 日 / YC: 翌日
		教育職員免許状（中学校・高等学校教諭）取得見込証明書（SC・YC） 申請	200 円	1 週間
		社会調査士（取得見込）証明書（YC） 申請	200 円	1 週間
		社会福祉主事任用資格（取得見込）証明書（TC） 申請	200 円	1 週間
		学費等証明申請書（和文） 申請	200 円	1 週間
		学費等証明申請書（英文） 申請	500 円	1 週間
		その他の和文証明書 申請	200 円	別途案内
		その他の英文証明書 申請	500 円	別途案内
卒 業 生 ・ 修 了 生	和文証明書 申請	卒業・学位取得証明書〔学部卒業〕 申請	500 円	当日 ※
		修了・学位取得証明書〔大学院修了〕 申請		
		成績証明書 申請	500 円	当日 ※
		単位修得証明書（特定科目の抜粋） 申請	500 円	1 週間
		学力に関する証明書 申請	500 円	1 週間
	英文証明書 申請	卒業・学位取得証明書〔学部卒業〕 申請	500 円	当日 ※
		修了・学位取得証明書〔大学院修了〕 申請		
	その他の 和文証明書 英文証明書 申請	成績証明書 申請	500 円	SC: 1 週間 / YC・TC: 当日
		その他の和文証明書 申請	500 円	別途案内
		その他の英文証明書 申請	500 円	別途案内

※出身キャンパス（卒業生）以外で申請した場合は、発行に 3 日程度かかります。

大学院環境情報学研究科

本大学には、学部卒業後、より高度な専門知識を修得するために、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻・都市生活学専攻（修士課程・博士後期課程）を設置している。

また、学力・人物ともに優秀で、勉学意欲の旺盛な学生の大学院進学を奨めるため、学部3年終了時の成績を中心に、学業成績上位者（学部の成績が学科全体の1/3以内であること。）を条件に、推薦制度（修士課程のみ）による入学を認めている。

学内からの進学者については入学金を免除しており、推薦入学者のうち、特に成績優秀な学生については、学費を免除する奨学制度を設けている。

大学院環境情報学研究科の概要

1. 大学院の区分

博士課程を修士課程と後期課程とに区別し、在学期間は、

[修士課程 2年]

[博士後期課程 3年] となっている。

2. 大学院環境情報学研究科設置の目的

環境情報学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与する。

3. 各課程の目的

<修士課程>

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うことを目的とする。

<博士後期課程>

環境と情報の問題にかかわる現象や統合的な観点に立って調べる方法を新たに開発・構築したり、「持続可能で豊かな社会」の実現に資する統合的な問題解決の実践方法を導き出したりすることのできる人材で、環境情報学の研究者・教育者あるいはリーダーになり得る人材を育成することを目的とする。

4. 定員等

研究科名	専攻名	課程	修士課程		博士後期課程	
		定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
環境情報学研究科	環境情報学専攻		20名	40名	2名	6名
	都市生活学専攻		6名	12名		
	計		26名	52名	2名	6名

本学大学院には環境情報学研究科のほか、工学研究科（修士課程・博士後期課程10専攻）も設置している。

（修士課程入学定員261名、収容定員522名・博士後期課程入学定員36名、収容定員108名）

5. 指導教授（研究指導教員及び研究指導補助教員）

専攻の各領域を担当する教授または准教授を指導教授（研究指導教員または研究指導補助教員）といい、その研究指導教員および研究指導補助教員は学生の本学における研究指導および学位论文の作成の指導にあたる。

6. 修業年限

修士課程：2年

なお、本研究科の修士課程にあつては、4年を超えて在学することはできない。

(※休学期間を除く)

博士後期課程：3年

なお、本研究科の、博士後期課程にあつては、8年を超えて在学することはできない。

(※休学期間を除く)

7. 学位

修士（環境情報学）

大学院学則の定めるところにより、2年以上在学して30単位以上を修得し、かつ必要な教育・研究指導を受けた上、本学大学院の行う修士論文の審査及び最終試験に合格した者に**修士（環境情報学）**の学位が与えられる。

ただし、都市生活学専攻を修了した者には、修士（都市生活学）の学位を授与する場合がある。

博士（環境情報学）

修士の学位を有し、大学院学則の定めるところにより、原則として3年以上在学して、必要な教育・研究指導を受けた上、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に**博士（環境情報学）**の学位が与えられる。

8. 入学試験

本学では、以下のとおり年3回の入学試験を実施している。（ただし、ここでは平成28年度実施予定の入試を記載。実施内容については学事等に鑑み変更する場合がある。）

試験区分	実施時期	選考方法
A日程 推薦入試 (修士課程のみ実施) A日程 一般入試 (博士後期課程のみ実施) <後学期入学>	5月中旬(予定)	・志望理由書・研究計画書の提出。 ・面接考査等
B日程 一般入試	9月初旬(予定)	・志望理由書・研究計画書の提出。 ・領域毎の専門試験
C日程 一般入試	2月中旬(予定)	・面接考査等

※選考方法は入試大綱に基づき、変更される場合がある。<4月下旬決定予定>

◆ [A日程：推薦入試]

○修士課程のみ実施

本学からの進学希望者で、所定の基準を満たす者には推薦入学の道が開かれている。

次の条件を満たす者が被推薦者の資格を有する。

(1)本学卒業見込者であること。

(2)学部3年終了時における学業成績上位者（学科全体の1／3以内であること。）

(3)本学大学院環境情報学研究科への進学を第1志望とする者。

領域毎に面接考査を行う。

「志望理由書・研究計画書」の内容（英語能力の確認を含む）を中心に面接を行う。

（1人約20分～30分程度）

◆ [A日程：一般入試]

○博士後期課程のみ実施<後学期入学>

領域毎の専門試験と面接考査を行う。専門試験は、論述式で90分。

また、「志望履修書・研究計画書」「専門試験」の内容（英語能力の確認含む）を中心に面接を行う。

（1人約20分～30分程度）

◆ [B 日程・C 日程：一般入試]

○修士課程

領域毎の専門試験と面接審査を行う。専門試験は、論述式で90～120分程度。

また、「志望理由書・研究計画書」、「専門試験」の内容（英語能力の確認を含む）を中心に面接を行う。
（1人約20分～30分程度）

※ 出願条件に TOEIC のスコア（過去2年間有効）提出が義務付けられているので、事前に受験しておくこと。）

○博士後期課程

領域毎の専門試験と面接審査を行う。専門試験は、論述式で90分。

また、「志望理由書・研究計画書」、「専門試験」の内容（英語能力の確認を含む）を中心に面接を行う。
（1人約20分～30分程度）

なお、A 日程推薦入試（修士課程のみ）・A 日程一般入試（博士後期課程のみ）＜後学期入学＞・B 日程・C 日程一般入試とも、出願にあたり、希望する指導教授（研究指導教員及び研究指導補助教員）の承諾を必要とする。

9. 入学金の免除

本学では、東京都市大学大学院研究科奨学規程により、学内進学者全員に対して入学金（平成 27 年度の場合 270,000 円）を免除している。

10. 専攻領域

○修士課程

専攻名	領域名
環境情報学専攻	環境マネジメント コミュニケーション環境 情報システム 地域・都市環境
都市生活学専攻	都市生活

○博士後期課程

専攻名	領域名
環境情報学専攻	環境 情報

環 境 方 針

1998 年 8 月 14 日(制定)

2001 年 8 月 9 日(改訂)

2005 年 8 月 9 日(改訂)

2009 年 7 月 23 日(改訂)

2013 年 4 月 1 日(改訂)

A. 基本理念

東京都市大学横浜キャンパス（環境学部・メディア情報学部・大学院環境情報学研究科）は、地球環境保全が人類全体の最重要課題の一つであることを認識し、キャンパス内のすべての活動が環境と調和するよう十分な配慮を払い、広く地球的視野に立って、環境負荷を軽減し、横浜キャンパス内のすべての教職員・学生および常駐する関連会社の職員が協力して、環境の保全と改善に努め、21 世紀の社会の持続可能な発展に貢献する。

B. 基本方針

1. 地球環境・地域環境保全のための教育と活動を積極的に展開し、社会への貢献を図る。自ら研究と教育を進めることはもとより、地域・行政のプログラムに積極的に参画し、教職員・学生が自主的かつ積極的にこれらに参加することを支援し、研究・教育の成果を公表することにより、持続可能な社会への貢献を図る。
2. 横浜キャンパス内のあらゆる活動にかかわる環境側面を常に認識し、環境に対する影響を評価し、環境汚染を予防し、省資源・省エネルギー・廃棄物削減に積極的に取り組むことにより環境負荷の一層の軽減に努め、環境改善を推進する。
3. 横浜キャンパス内のすべての活動にかかわる環境関連法規、規制、協定等を順守し、さらに地球温暖化防止やオゾン層の保護などその他の要求事項を考慮して自主基準を設け、管理する。
4. この環境方針を達成するため環境目的・目標を設定し、横浜キャンパス内のすべての教職員・学生および常駐する関連会社の職員が一致して、これらの目的・目標の達成を図る。
5. 環境監査を実施して、環境マネジメントシステムをレビューし、継続的改善を図る。

この環境方針は、文書化し、横浜キャンパス内のすべての教職員・学生および常駐する関連会社の職員に周知するとともに、一般の人にも文書並びにインターネット（<http://www.yc.tcu.ac.jp>）を用いて開示する。

東京都市大学
環境学部長
メディア情報学部長
大学院環境情報学研究科長

教職員名簿

○は専任者 △は兼任者 □印は兼務者

■ 学長・副学長・学部長 ■

学長・学部長			
学 長	工学博士	三木 千壽	
副学長(総括担当)	工学博士	湯本 雅恵	
副学長(研究担当)	工学博士	丸泉 琢也	
副学長(キャンパス連携担当)・環境学部長	博士(農学)	吉崎 真司	
メディア情報学部長	博士(人間・環境学)	中村 雅子	

■ 環境学部 ■

環境創生学科			
○	教 授	博士(農学)	吉崎 真司
○	教 授	博士(農学)	田中 章
△	教 授	博士(農学)	飯島 健太郎
○	教 授	博士(工学)	史 中超
○	教 授	工学博士	宿谷 昌則
○	教 授	博士(工学)	室田 昌子
	客員教授	博士(環境科学)	久米 一成
	客員教授	博士(工学)	山崎 慶太
○	准教授	博士(工学)	大西 暁生
○	准教授	博士(工学)	成 泳植
○	准教授	博士(農学)	横田 樹広
○	准教授	博士(工学)	リジヤル ホム・ハド・カル
○	講 師	博士(農学)	北村 亘
	講 師	M. B. A	池田 宗人
	講 師	農学修士	石川 晶生
	講 師	修士(農学)	内山 翼
	講 師	工学修士	大木 正喜
	講 師	修士(社会デザイン学)	大重 史朗
	講 師	博士(法学)	竹田 智志
	講 師	博士(工学)	鳴海 大典
	講 師	工学士	松浦 弦三郎
	講 師	Ph. D	三浦 直子

環境マネジメント学科			
○	教 授	Ph. D.	小野 直樹
○	教 授	博士(工学)	伊坪 徳宏
△	教 授	社会学修士・M. B. A	伊藤 裕一
○	教 授	修士(教育心理学)	枝廣 淳子
○	教 授	博士(社会学)	大塚 善樹
○	教 授	工学博士	郭 偉宏
○	教 授	Ph. D.	佐藤 真久
○	教 授	博士(社会工学)	馬場 健司
	客員教授	工学博士	市川 芳明
○	准教授	博士(経済学)	岡田 啓
○	准教授	修士(法学)	古川 務
	客員准教授	博士(工学)	吳 志樵
○	講 師	Ph. D.	フィッツギボンズ 雄亮
	講 師	工学士	青山 貞一
	講 師	博士(D. Phil)	大守 隆
	講 師	博士(農学)	岡田 穰
	講 師	博士(農学)	佐藤 輝
	講 師	法学修士	高井 晋
	講 師	博士(商学)	田中 優希
	講 師	経営学士	中原 秀樹
	講 師	博士(農学)	萩原 豪
	講 師	修士(経営学)	曲尾 実
	講 師	工学博士	増井 忠幸
	講 師	政治経済学修士	松下 和夫
	講 師	博士(工学)	水上 浩
	講 師	博士(経済学)	森 朋也
	講 師	博士(経済学)	米田 篤裕

教職員名簿

○は専任者 △は兼任者 □印は兼務者

■ メディア情報学部 ■

社会メディア学科			
○	教授	博士(人間・環境学)	中村 雅子
○	教授	博士(心理学)	川村 久美子
○	教授	博士(公共経営)	小俣 一平
○	教授	博士(学術)	小池 星多
○	教授	博士(学術)	清水 由美子
○	教授	博士(社会学)	広田 すみれ
○	准教授	博士(学術)	岡部 大介
○	准教授	博士(心理学)	矢吹 理恵
○	准教授	博士(文学)	山崎 瑞紀
○	准教授	博士(政策・メディア)	李 洪千
○	講師	博士(学際情報学)	関 博紀
	講師	博士(政策・メディア)	秋山 優
	講師	工学博士	奥平 雅士
	講師	技術経営学修士	岸田 伸幸
	講師	修士(法学)	佐藤 豊
	講師	社会学修士	島村 賢一
	講師	博士(政策・メディア)	白土 由佳
	講師	博士(政策・メディア)	杉浦 学
	講師	博士(学術)	田川 史朗
	講師	博士(文学)	玉利 祐樹
	講師	博士(法学)	張 睿暎
	講師	修士(社会学)	橋本 理恵子
	講師	修士(国際公共政策)	服部 篤子
	講師	博士(政治学)	渕元 初姫
	講師	博士(学術)	本多 美樹
	講師	博士(心理学)	本多・ハワード 素子
	講師	修士(商学)	宮武 宏輔
	講師	博士(学術)	山本 竜大

情報システム学科			
○	教授	博士(工学)	八木 伸行
○	教授	博士(工学)	岩野 公司
○	教授	博士(工学)	梅原 英一
○	教授	博士(情報理工学)	大谷 紀子
○	教授	工学博士	諏訪 敬祐
○	教授	博士(情報科学)	関 良明
○	教授	工学博士	藤井 哲郎
○	教授	博士(工学)	宮地 英生
○	教授	工学博士	横井 利彰
○	准教授	博士(工学)	小倉 信彦
	講師	博士(芸術工学)	岡本 学
	講師	博士(理学)	香川 智修
	講師	博士(工学)	春日 秀雄

情報システム学科			
	講師	博士(工学)	君山 博之
	講師	博士(工学)	木村 誠聡
	講師	博士(工学)	後藤 正幸
	講師	博士(工学)	杉浦 昌
	講師	工学修士	鈴木 幸市
	講師	理学博士	鈴木 理
	講師	博士(政策・メディア)	鷹野 孝典
	講師	博士(工学)	高橋 裕子
	講師	博士(経済学)	田中 秀実
	講師	博士(理学)	堀口 正之
	講師	理学博士	安田 正實
	講師	技術経営学修士(専門職)	吉野 賢治

■ 環境学部/メディア情報学部 ■

学部・学科間共通科目担当			
△	准教授	博士(理学)	堀越 篤史
	講師	工学修士	阿部 雅之
	講師	博士(心理学)	池田 行伸
	講師	工学博士	今井 章久
	講師	修士(教育学)	岩本 俊一
	講師	博士(工学)	大内 孝子
	講師	博士(体育科学)	狩野 豊
	講師	博士(国際関係学)	木村 啓二
	講師	博士(工学)	工藤 信之
	講師	文学修士(心理学)	今野 紀子
	講師	工学博士	高砂子 昌久
	講師	修士(体育学)	高瀬 武志
	講師	博士(政治学)	田中 善一郎
	講師	修士(社会学)	塚田 修一
	講師	工学士	角田 光男
	講師	文学修士	夏秋 英房
	講師	家政学修士	西山 千恵子
	講師	理学士	野島 一郎
	講師	修士(体育科学)	波多野 圭吾
	講師	修士(文学)	矢島 壮平

■ 共通教育部 ■

共通教育部長

共通教育部長	博士(文学)	新保 良明
--------	--------	-------

人文・社会科学系

○	教 授	博士(教育学)	教職	岩崎 敬道
○	教 授	文学修士	教職	井上 健
○	教 授	博士(文学)	人社	新保 良明
△	教 授	博士(医学)	人社	早坂 信哉
○	教 授	体育学士	体育	渡辺 一郎
○	准教授	体育学修士	体育	岩嶋 孝夫
○	准教授	博士(法学)	人社	大沼 友紀恵
○	准教授	芸術学修士	人社	岡山 理香
△	准教授	文学修士	人社	木内 英実
△	准教授	修士(人間科学)	人社	倉田 新
△	准教授	教育学修士・M. F. A.	人社	小林 由利子
○	准教授	教育学修士	人社	千田 茂博
○	准教授	博士(医学)	体育	椿原 徹也
○	准教授	博士(文学)	人社	山本 史華
○	講 師	文学修士	人社	渡辺 昭彦
○	講 師	修士(教育学)	教職	渡邊 大輔
	講 師	理学士	教職	赤荻 進一
	講 師	体育学士	体育	浅野 鉦世
	講 師	修士(法学)	人社	天野 聖悦
	講 師	博士(理学)	人社	新井 智一
	講 師	修士(経済学)	人社	伊藤 潤平
	講 師	教育学修士	教職	稲葉 敏雄
	講 師	法学博士	人社	井上 勇一
	講 師	教育学修士	体育	江口 淳一
	講 師	博士(スポーツ科学)	体育	枝 伸彦
	講 師		人社	榎本 宗白
	講 師	博士(医学)	体育	太田 誠耕
	講 師	文学修士	人社	大野 晃徳
	講 師	博士(教育学)	教職	尾高 進
	講 師	博士(農学)	教職	上地 由朗
	講 師	修士(体育学)	体育	亀井 良和
	講 師	博士(社会学)	人社	木村 豊
	講 師	体育学士	体育	栗原 祐二
	講 師	医学博士	体育	小玉 正志
	講 師	博士(教育学)	教職	柴沼 俊輔

人文・社会科学系

	講 師	修士(学術)	人社	鈴木 洋平
	講 師	経営学士	人社	須藤 智亜紀
	講 師	教育学修士	人社	角田 多加雄
	講 師	博士(学術)	人社	瀬沼 頼子
	講 師	修士(政治学)	人社	竹茂 敦
	講 師	博士(学術)	人社	谷川 卓
	講 師	博士(仏教学)	人社	徳野 崇行
	講 師	修士(人文学)	人社	長島 大輔
	講 師	工学士	教職	中田 悟
	講 師	博士(法学)	人社	中山 裕美
	講 師	理学士	教職	橋本 明彦
	講 師	工学士	教職	廣瀬 幸男
	講 師	修士(文学)	教職	水野 直樹
	講 師	博士(政治学)	人社	森 達也
	講 師	文学士	人社	森山 徹
	講 師		体育	八木橋 綱三
	講 師	修士(体育学)	体育	山口 良博
	講 師	学術修士・M. S. W	人社	山中 美子
○	教育講師	教育学士	教職	鈴木 邦夫
○	助 教	修士(体育学)	体育	山田 盛朗
○	助 手	学士(体育学)	体育	龍田 あゆみ

自然科学系

○	教 授	博士(工学)	情報	山口 勝己
○	教 授	理学博士	物理	岩松 雅夫
○	教 授	博士(理学)	物理	長田 剛
○	教 授	工学博士	数学	金川 秀也
	客員教授	理学博士	物理	岡部 豊
	客員教授	工学博士	数学	北垣 郁雄
	客員教授	工学博士	数学	知沢 清之
	客員教授	工学博士	数学	野原 勉
○	准教授	理学博士	数学	井上 浩一
○	准教授	博士(理学)	物理	須藤 誠一
○	准教授	博士(理学)	数学	古田 公司
○	講 師	博士(理学)	物理	中村 正人
○	講 師	博士(理学)	情報	安井 浩之

教職員名簿

○は専任者 △は兼任者 □印は兼務者

自然科学系				
	講 師	博士(理学)	数学	天野 政紀
	講 師	工学士	情報	荒木 一
	講 師	工学博士	数学	有本 彰雄
	講 師	博士(農学)	化学	池田 佑美
	講 師	博士(学術)	数学	市川 博
	講 師	理学博士	化学	犬塚 則久
	講 師	理学修士	数学	植田 美佳
	講 師	博士(理学)	数学	江崎 翔太
	講 師	博士(学術)	物理	大木 武夫
	講 師	博士(理学)	化学	大槻 涼
	講 師	文化財博士	化学	大原 啓子
	講 師	博士(工学)	化学	大町 忠敏
	講 師	博士(理学)	化学	岡本 真由美
	講 師	理学博士	物理	奥田 隆
	講 師	教育学修士	物理	小澤 幸光
	講 師	博士(工学)	物理	小野寺 理文
	講 師	博士(工学)	化学	加藤 潔
	講 師	博士(工学)	物理	金子 核
	講 師	Ph. D.	数学	亀子 正喜
	講 師	博士(工学)	化学	北川 匡伸
	講 師	理学士	化学	工藤 純
	講 師	博士(理学)	化学	国府田 良樹
	講 師	博士(学術)	化学	小林 淳
	講 師	博士(工学)	物理	小林 洋平
	講 師	理学博士	物理	齋藤 幸夫
	講 師	博士(学術)	数学	笹尾 哲
	講 師	理学博士	数学	志賀 啓成
	講 師	博士(理学)	数学	澁谷 幹夫
	講 師	理学博士	数学	申 正善
	講 師	理工学修士	化学	新宅 広二
	講 師	博士(理学)	物理	高瀬 昇
	講 師	博士(理学)	物理	田中 美枝子
	講 師	修士(理学)	物理	手束 文子
	講 師	理学博士	物理	留野 泉
	講 師	修士(工学)	情報	鳥海 健
	講 師	理学博士	物理	中澤 直仁
	講 師	博士(理学)	化学	中村 和彦
	講 師	博士(理学)	物理	西 正和

自然科学系				
	講 師	博士(理学)	物理	西川 浩之
	講 師	博士(理学)	数学	羽賀 淳一
	講 師	Doctor of Science	物理	ヒ°アテンコ アレクサンダー
	講 師	理学博士	数学	藤田 岳彦
	講 師	博士(工学)	化学	堀田 芳生
	講 師	Ph. D.	数学	松岡 拓男
	講 師	博士(学術)	化学	間中 友美
	講 師	博士(学術)	化学	満田 深雪
	講 師	博士(理学)	物理	三原 国子
	講 師	博士(理学)	数学	三宅 啓道
	講 師	Ph. D.	化学	宮崎 正峰
	講 師	博士(薬学)	化学	村上 志緒
	講 師	博士(理学)	物理	本山 美穂
	講 師	博士(学術)	化学	森下 直紀
	講 師	博士(理学)	数学	森田 和子
	講 師	博士(環境学)	化学	谷口 無我
	講 師	博士(工学)	化学	安井 万奈
	講 師	博士(農学)	化学	箭田 佐衣子
	講 師	博士(理学)	物理	矢吹 文昭
	講 師	理学博士	物理	山田 興一
	講 師	理学博士	物理	山本 和久
	講 師	工学博士	数学	湯浅 図南雄
	講 師	博士(理学)	数学	陸名 雄一
	講 師	博士(物理学)	物理	渡邊 夏輝
○	教育講師	修士(理学)	数学	矢作 由美
○	教育講師	理学博士	物理	右近 修治
○	技士補	理学士	物理	菅谷 幹治

外国語共通教育センター

○	教 授	文学修士	土肥 一夫
○	教 授	文学修士	秋山 義典
○	教 授	文学修士	日高 正司
○	教 授	M. A.	吉田 国子
○	准教授	文学修士	エリック・マティーン
○	准教授	博士(工学)	スティーヴン クレイネ
○	准教授	博士(文学)	寺澤 由紀子
○	准教授	M. A.	三幣 友行
○	講 師	修士(文学)	杉本 裕代
○	講 師	修士(中世英文学)	和田 忍

教職員名簿

○は専任者 △は兼任者 □印は兼務者

外国語共通教育センター			
	講 師	修士(文学)	秋間 聖代
	講 師	修士(英文学)	浅川 友幸
	講 師	英語教育学修士	荒井 圭子
	講 師	修士(学術)	李 延善
	講 師	修士(文学)	池上 俊彦
	講 師	文学士	石山 伊佐夫
	講 師	国際関係論修士	石渡 忠大
	講 師	M. A.	磯野 睦子
	講 師	修士(教育学)	出野 由紀子
	講 師	文学修士	伊藤 千里
	講 師	修士(文学)	今滝 暢子
	講 師	博士(文学)	大塩 真夕美
	講 師	文学修士	大森 尚子
	講 師	修士(教育学)	岡島 慶
	講 師	修士(異文化コミュニケーション学)	鴨下 恵子
	講 師	修士(言語学)	川端 均
	講 師	修士(英語英文学)・M. A.	倉持 和歌子
	講 師	修士(商学)	黄 愛華
	講 師	修士(文学)	ゴスウヰア・リュトミラ
	講 師	修士(文学)	薦田 嘉人
	講 師	文学修士	権平 桂子
	講 師	修士(英文学)	佐藤 芳明
	講 師	M. A.	沢村 静
	講 師	修士(異文化コミュニケーション学)	篠原 有子
	講 師	修士(文学)	清水 紀子
	講 師	M. B. A	ジョン・W・G・ミラー
	講 師	文学修士	ジョン・ロバート・ブラウン
	講 師	修士(文学)	白須 洋子
	講 師	文学修士	白雪 花
	講 師	M. A.	鈴木 夏実
	講 師	修士(英米文学)	関根 路代
	講 師	修士(異文化コミュニケーション学)	瀬端 睦
	講 師	スペイン語修士	センザノ ロサ クリスティーナ
	講 師		孫 玲
	講 師	修士(教育学)	竹内 裕見子
	講 師	修士(文学)	田中 美和
	講 師	文学修士	田村 江里子
	講 師	文学修士	富塚 真理子
	講 師	応用言語学修士	長岡 真理子
	講 師	文学士	中川 友
	講 師	Ph. D(English)	中地 幸
	講 師	博士(言語学)	長渡 陽一
	講 師	修士(文学)	中村 仁

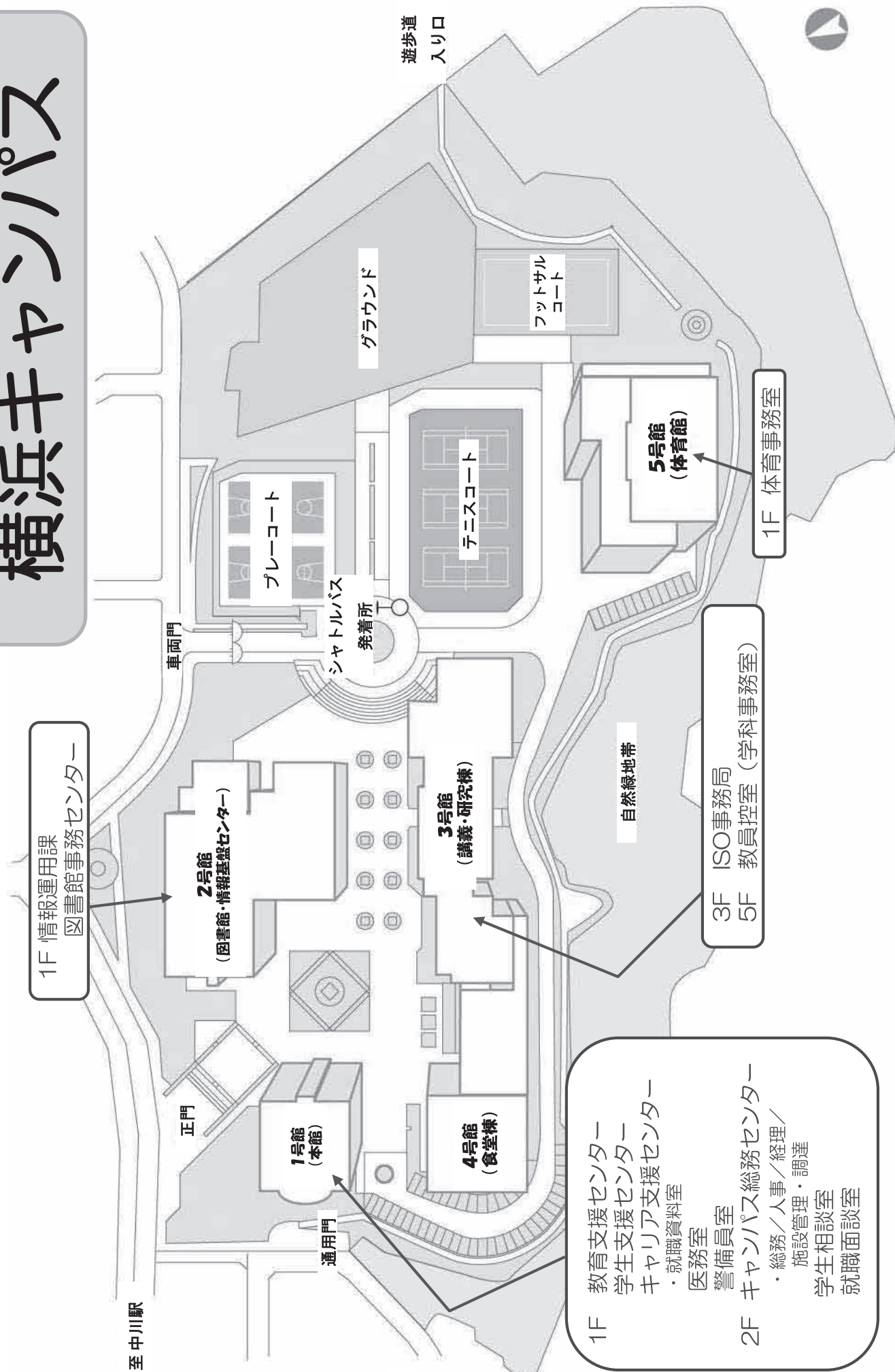
外国語共通教育センター			
	講 師	修士(異文化コミュニケーション学)	中村 優子
	講 師	M. S. Ed.	平野 玲子
	講 師	文学修士	吹野 佐枝子
	講 師	学士(政治学)	ブルース・ミラー
	講 師	M. A.	松本 淳子
	講 師	M. S. Ed.	松本 優美
	講 師	修士(文学)	真鍋 守
	講 師	文学修士	丸山 令子
	講 師	教育学修士	水嶋 裕子
	講 師	修士(文学)	水戸 俊介
	講 師	修士(言語学)	モハンマド・ファトヒー
	講 師	博士(文学)	森井 美保
	講 師	文学修士	森田 里津子
	講 師	修士(教育学)	矢崎 敏子
	講 師	MBA	矢部 直己
	講 師	博士(文学)	山口 和洋
	講 師	教育学修士	横山 康明
	講 師	修士(言語文化)	吉田 由美子
	講 師	Ph. D	李 正美
	講 師	歴史学士	リチャード・サットン
	講 師		ロマン・グレコ
○	教育講師	修士(異文化コミュニケーション学)	稲垣 亜希子
○	教育講師	修士(文学)	植野 貴志子
○	助 手	文学士	小久保 育子
○	助 手	修士(文学)	中川 梓

■ 国際センター ■

国際センター			
○	教 授	博士(工学)	本間 宏二
○	講 師	経済学修士	木下 俊夫

東京都市大学 特別教授	
	廣瀬 禎彦
	山崎 芳男
	涌井 史郎
	川合 知二
	鳥居 邦夫
	小堀 洋美
	佐々木 進
	尾嶋 正治
	室山 哲也
	渡辺 広之

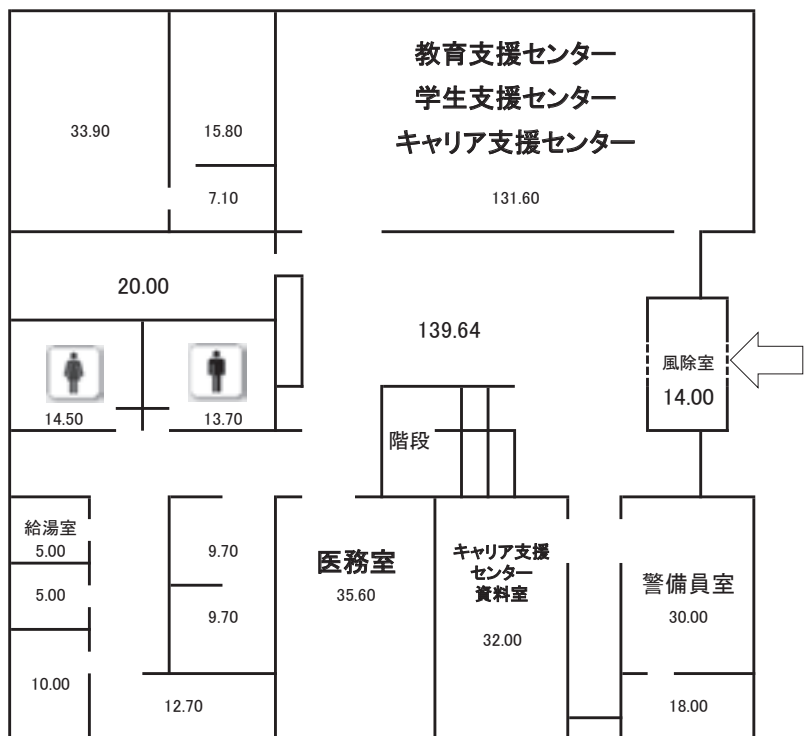
横浜キャンパス



■ 1号館(本館)

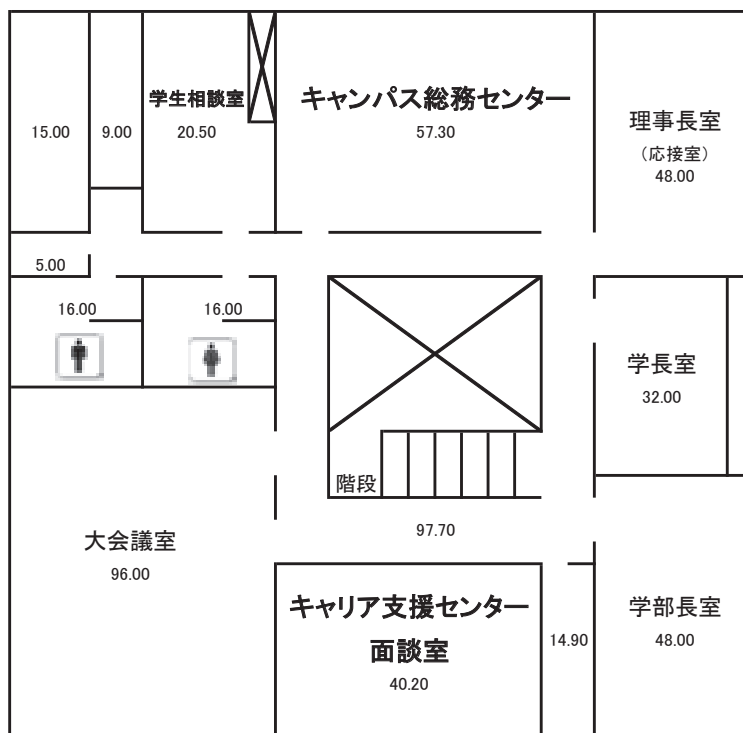
《1号館1階》

426.34



《1号館2階》

515.60



《2号館1階》

1F

メディアホール 378.00

情報処理中演習室 21A 162.00

教材開発室 110.00

エントランスホール 81.30

風除室 13.50

階段 9.0

階段 9.0

図書館情報基盤センター 80.00

図書館 30.6

ネットワーク管理室 30.6

2104 38.00

2105 38.00

2106 38.00

2107 37.00

2108 38.00

2109 44.00

EV

EV

グループスタディールーム 33.00

13.00 15.60

2.5 2.5

4.00

33.60

71.00

98.00

22.70

階段

図書館
レファレンスコーナー・AVコーナー
新聞・雑誌・参考図書 488.00

The floor plan shows various rooms and their areas:

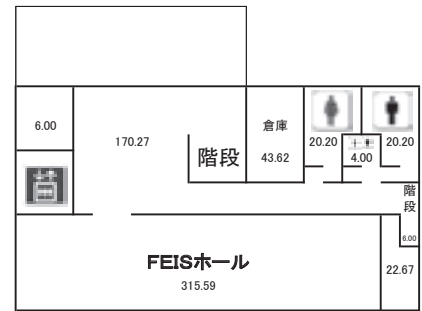
- LL教室(1)**: 22D (108.00)
- 情報処理演習室(1)**: 22C (108.00)
- 情報処理演習室(2)**: 22B (108.00)
- 映像メディアルーム**: 108.00
- プレゼンテーション・ラホ***: 22A (159.5)
- 情報処理大演習室**: 217.4
- LL教室(2)**: 22E (108.00)
- 多目的室**: 84.00
- 映像編集室**: 32.00
- HUB室**: 7.5
- CIS談話室**: 79.8
- 倉庫**: 15.6
- センター長室**: 39.1
- 閲覧室・書架**: 580.00

Other labels include: 階段 (Stairs), EV (Elevator), and 9.

■3号館(講義・研究棟)

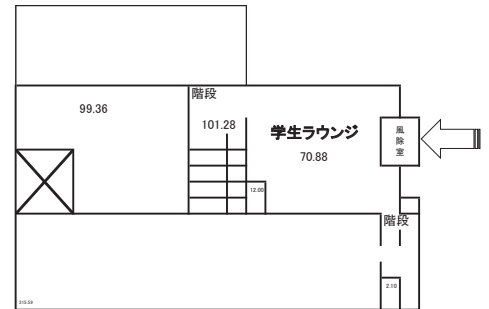
《3号館地下2階》

608.55

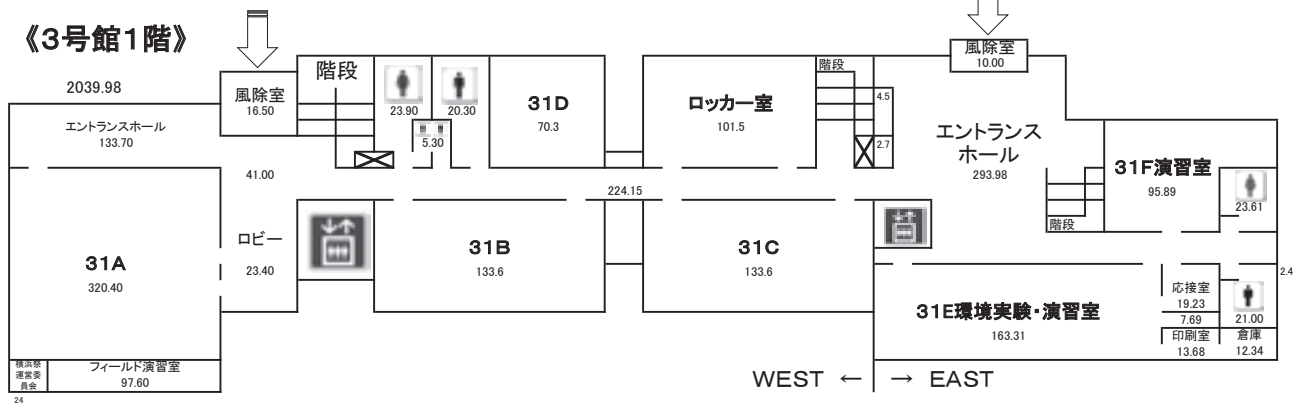


《3号館地下2階》

601.21

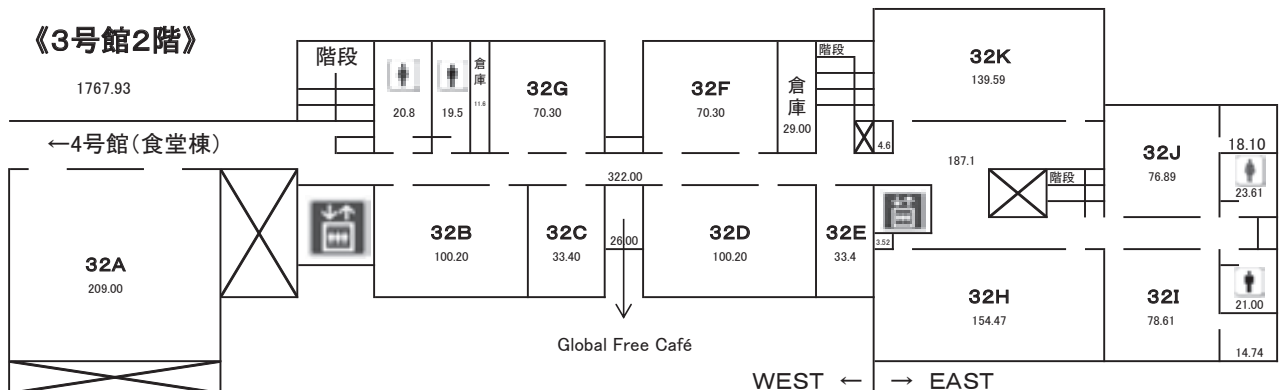


《3号館1階》



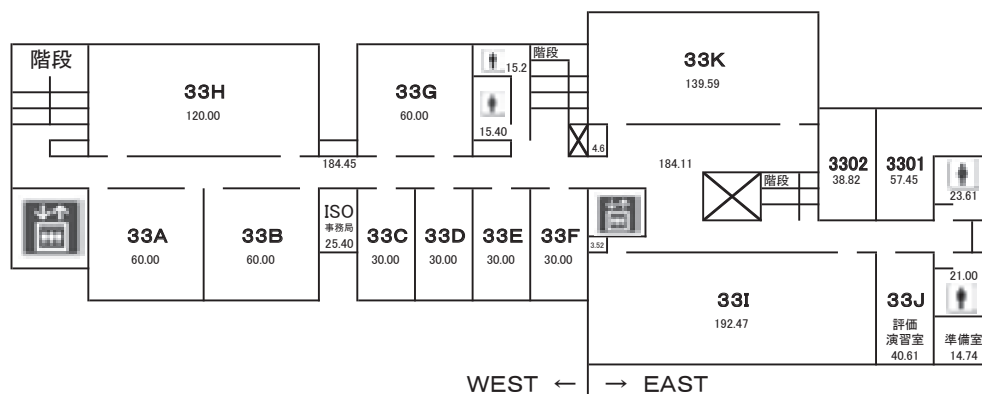
《3号館2階》

1767.93



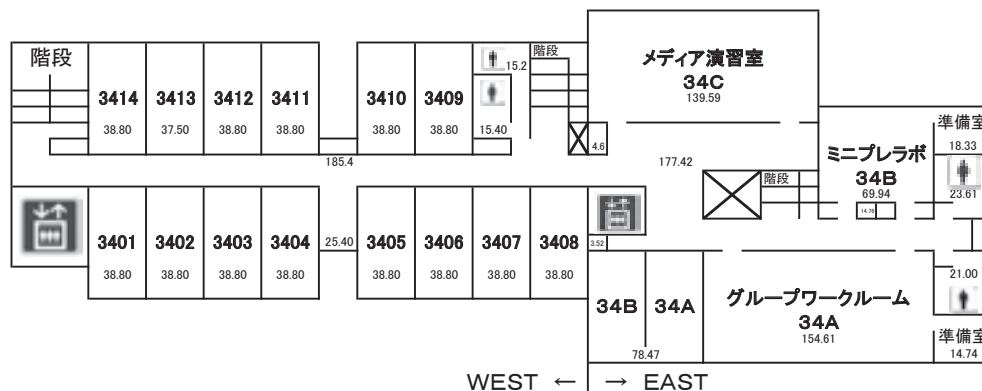
《3号館3階》

1380.97



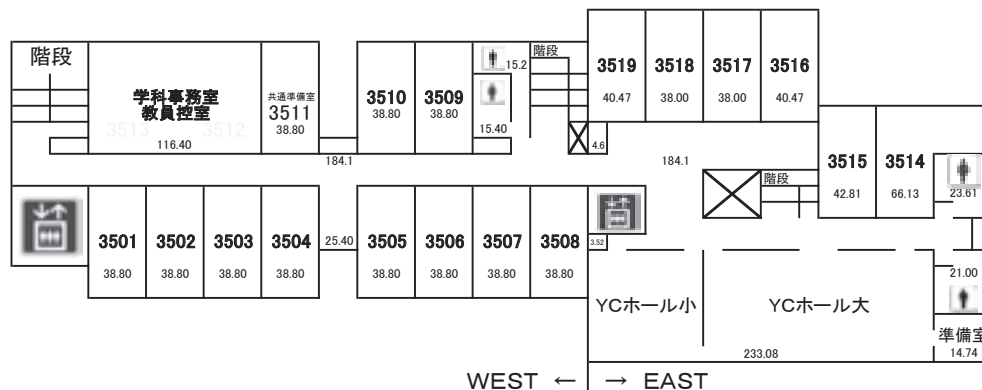
《3号館4階》

1503.89



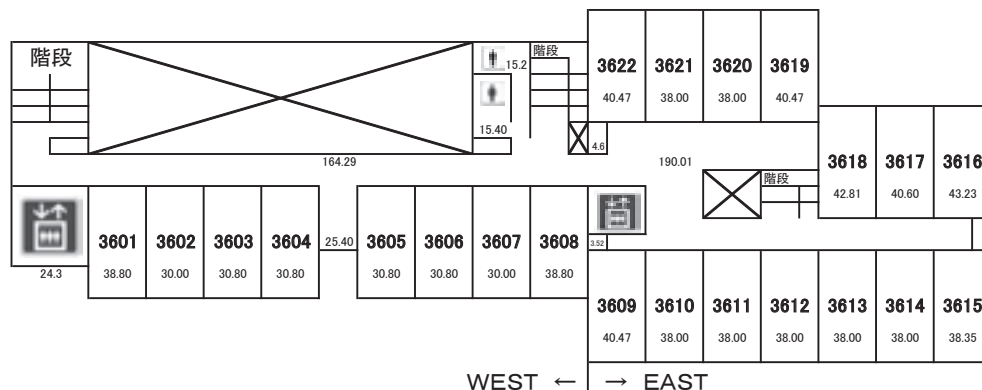
《3号館5階》

1533.83



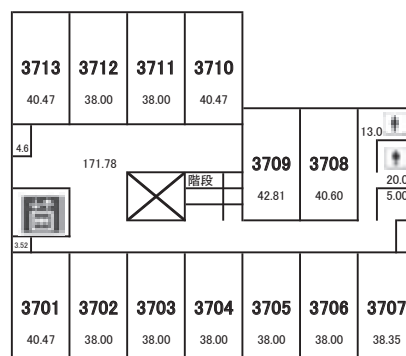
《3号館6階》

1255.92



《3号館7階》

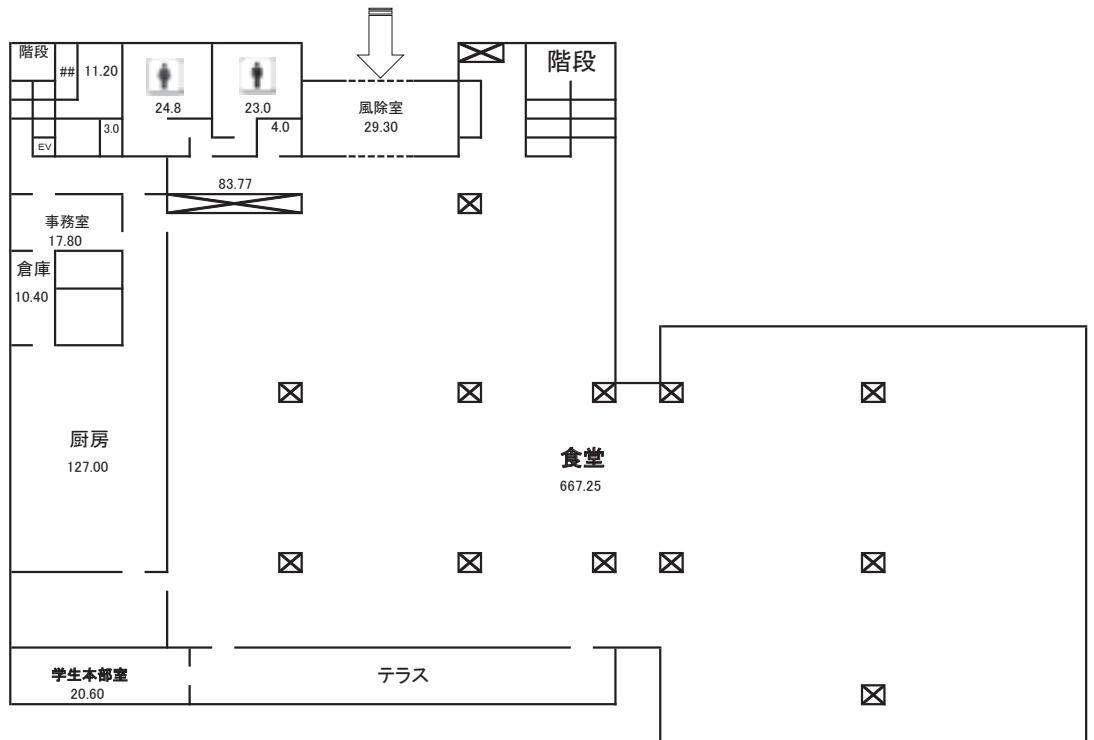
727.07



■4号館(食堂棟)

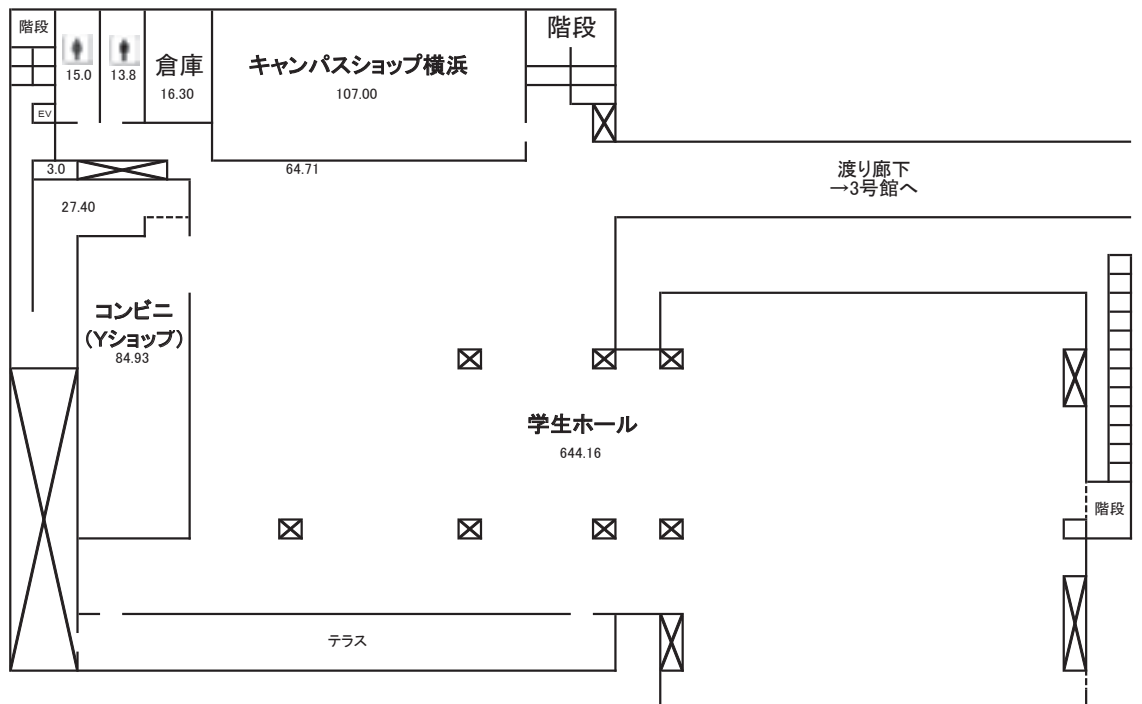
《4号館1階》

1028.22



《4号館2階》

976.30

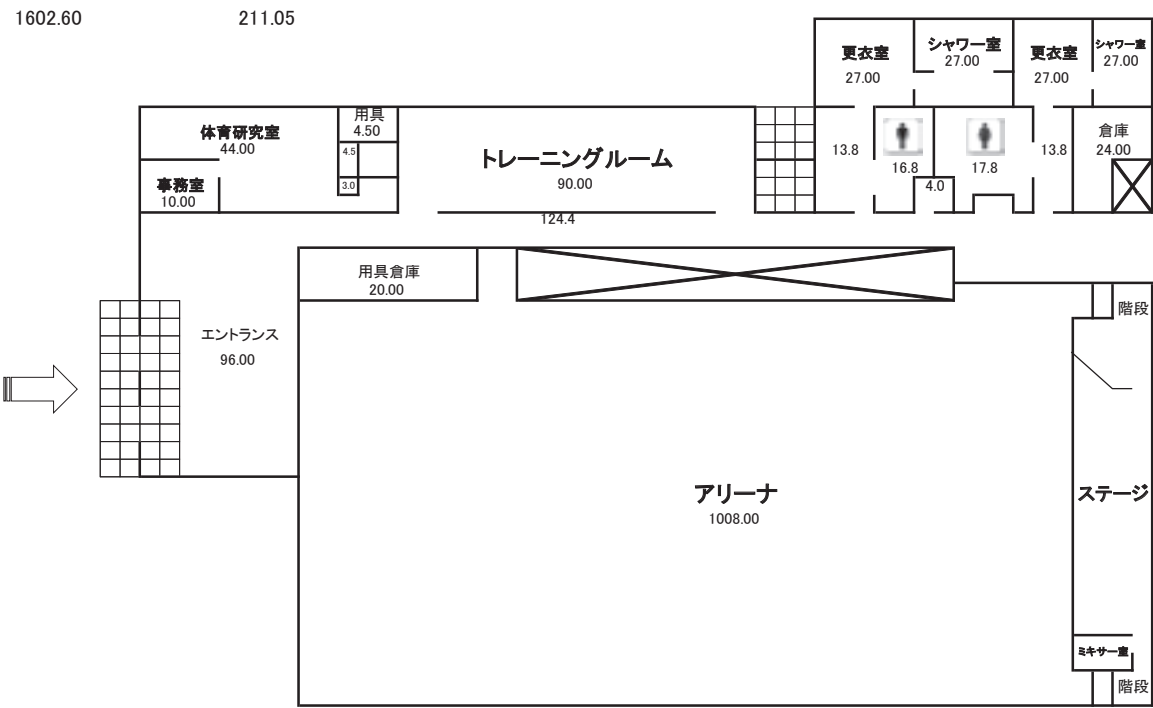


■ 5号館(体育館)・部室棟

《5号館・部室棟1階》

1602.60

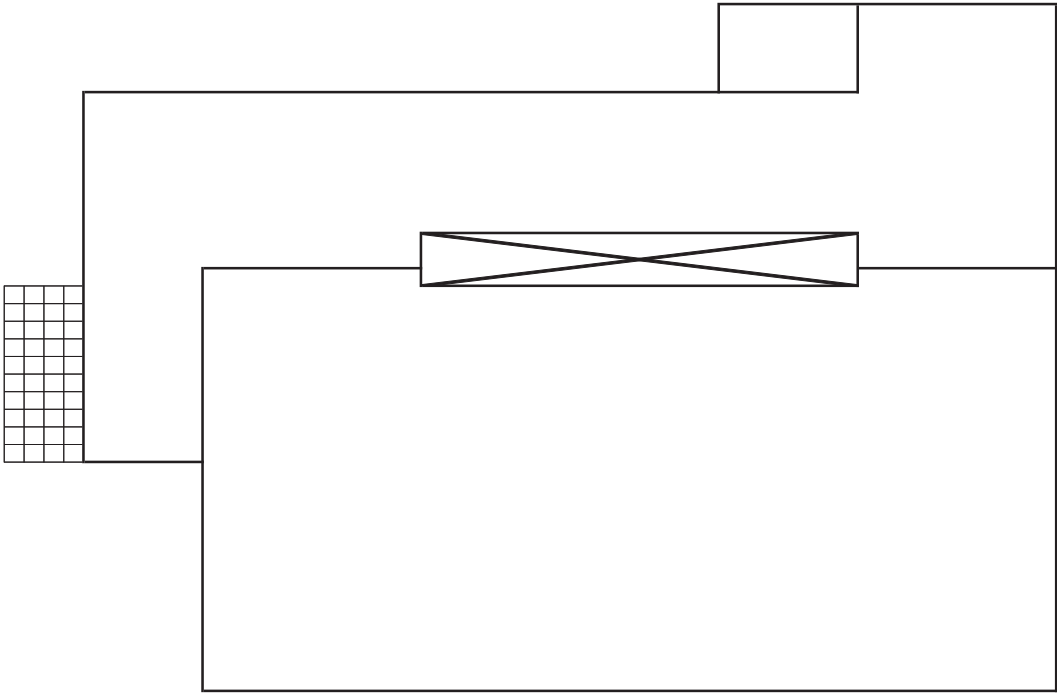
211.05



階段
10.0
10.0
学生集会室1
34.90
部室1
17.35
部室2
17.35
部室3
17.35
部室4
17.35
部室5
17.35
部室6
17.35
部室7
17.35
部室8
17.35
部室9
17.35
階段

《部室棟2階》

156.15



階段
学生集会室2
54.90
部室10
17.35
部室11
17.35
部室12
17.35
部室13
17.35
部室14
17.35
部室15
17.35
部室16
17.35
部室17
17.35
部室18
17.35
階段

(発行)

神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1

東京都市大学

教育支援センター（横浜キャンパス）

電話 045-910-0104（代）

(印刷)

東京都千代田区三崎町 3-10-17

株式会社 東甲メゾン

電話 03-3234-7881（代）

